

第 1 期越谷市こども計画策定に係る基礎調査 結果報告書

令和 6 年 7 月

越 谷 市

目 次

I はじめに	1
1. 調査の目的	3
2. 実施概要	3
3. 回収結果	4
4. 報告書を見る際の留意点	4
5. 等価世帯収入について	5
II 就学前児童調査の結果	7
1. お子さんご家族の状況についてうかがいます	9
2. お子さんの保護者の就労状況についてうかがいます	13
3. 幼稚園や保育所などの利用状況についてうかがいます	22
4. 地域の子育て支援事業の利用状況についてうかがいます	42
5. 土日・休日や長期休暇中の「定期的」な幼稚園や保育園などの利用希望についてうかがいます	50
6. お子さんが病気のときなどの対応についてうかがいます	53
7. 一時預かり等の利用についてうかがいます	57
8. 宛て名のお子さんが5歳以上である方に、小学校入学後の放課後の過ごし方についてうかがいます	65
9. 育児休業などについてうかがいます	67
10. 子育て全般についてうかがいます	76
III 小学生調査の結果	93
1. お子さんご家族の状況について	95
2. お子さんの保護者の就労状況について	98
3. 学童保育室の利用について	105
4. 放課後子ども教室の利用について	112
5. 児童館の利用について	115
6. お子さんが病気のときなどの対応について	126
7. お子さんの生活について	129
8. 子育て全般について	142
IV こどもの生活実態調査の結果	159
1. ご家庭やご両親のことについてお聞きします	161
2. 子育てや教育についてお聞きします	173
3. 現在の暮らしについてお聞きします	186
4. 支援制度や相談先などについてお聞きします	208
5. お子さんの健康状況についてお聞きします	221
V 関係機関・団体調査	239
1. 調査の概要	241
2. 調査対象及び調査方法・調査期間	241
3. 調査項目	241
A ヒアリング調査	242
1. こどもの貧困対策について	242

2. 外国籍のこどもへの対応について.....	247
3. 普段接するこどもを代弁しての意見.....	248
B アンケート調査.....	249
1. 回答団体の属性.....	249
2. こどもの貧困対策について.....	249
3. 外国籍のこどもへの対策について.....	257
4. 普段接するこどもを代弁しての意見.....	261
VI 小学生・中学生調査.....	263
1. 調査回答者の基本情報の確認.....	265
2. 家・学校以外の居場所の確認.....	268
VII こども・若者の意識と生活に関する調査.....	275
1. あなた自身のことについて.....	277
2. あなたの日頃の意識や人とのかかわりについてお聞きします.....	288
3. あなたの日頃の生活や社会とのかかわりについてお聞きします.....	352
4. 働くことや結婚についてお聞きします.....	368
VIII 自由回答.....	377
1. 自由回答の分類結果.....	379
2. 自由回答における意見の一覧（抜粋）.....	384
IX 大学生調査.....	421
1. ワークショップ開催の概要.....	423
2. 結果の概要.....	425
X 資料編（使用した調査票）.....	431

I はじめに

1. 調査の目的

本調査は、子育て当事者やこども・若者本人から、教育・保育事業の利用状況・利用意向やこども・若者の生活実態、子育て施策全般にかかる意見や要望等の情報を幅広く収集することで、こども基本法に基づく「市町村こども計画」を策定するに当たっての基礎資料を得ることを目的に実施しました。

なお、新たに策定する「こども計画」は、「第1期越谷市こども計画」として、第3期越谷市子ども・子育て支援事業計画を包含する計画として策定します。

2. 実施概要

調査名	子育て支援ニーズ調査		こどもの生活実態調査
	就学前児童調査	小学生調査	
1 調査対象者	市内在住の就学前の児童（0歳～5歳）の保護者	市内在住の小学生（小1～小6）の保護者	市内在住の小学5年生・中学2年生の保護者
2 調査対象者数	2,500 件	2,500 件	3,000 件
3 調査方法	郵送配布・郵送回収		
4 調査実施期間	令和6年1月5日～2月5日まで ※回答締切日以降の2月末日までの回収分も集計に含めた。		

調査名	小学生・中学生調査	こども・若者の意識と生活に関する調査
1 調査対象者	越谷市内の小中学校に通う小学5年生～中学2年生の児童・生徒	市内在住の義務教育修了者から39歳までのこども・若者
2 調査対象者数	11,510 件	5,000 件
3 調査方法	インターネットでの配布・回収 ※小・中学校で配付されているタブレットを活用	郵送配布、郵送・インターネット回収を併用
4 調査実施期間	令和6年1月29日～2月15日まで	令和6年1月5日～2月5日まで ※回答締切日以降の2月末日までの回収分も集計に含めた。

3. 回収結果

調査名	発送数	回収数	回収率
就学前児童調査	2,500 件	1,238 件	49.5%
小学生調査	2,500 件	1,319 件	52.8%
こどもの生活実態調査	3,000 件	1,704 件	56.8%
小学5年生	1,500 件	797 件	53.1%
中学2年生	1,500 件	887 件	59.1%
小学生・中学生調査	11,510 件	7,179 件	62.4%
こども・若者の意識と生活に関する調査	5,000 件	1,401 件	28.0%

4. 報告書を見る際の留意点

- 回答結果の割合（％）は回答者数（母数）に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答となる問の場合、回答比率の合計は100.0%を超える場合があります。
- グラフ中の「n」とは、当該設問の回答者数（母数）を表しています。
- 調査票の選択肢について、一部簡略化している場合があります。
- クロス集計や家庭類型別の集計表では、無回答を除外しているため、合計と一致しない場合があります。
- 回答者数（母数）が少数の場合、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合があります。

5. 等価世帯収入について

「こどもの生活実態調査」においては、国調査^{※1}の算出方法^{※2}に基づき「中央値の 1/2 未満（収入が低い水準の世帯）」、「中央値の 1/2 以上中央値未満（収入が中低位の水準の世帯）」、「中央値以上（収入が高い水準の世帯）」の3区分に分類を行いました。

その結果、越谷市の等価世帯収入の中央値は 375 万円と国の中央値 317.54 万円を上回り、「収入が低い水準の世帯」に該当する割合は、全体で 10.3%、学年別では小学 5 年生では 9.4%、中学 2 年生では 10.9%となっています。

※1 「令和 3 年 子供の生活状況調査の分析」における等価世帯収入の算出方法に基づき計算を行った。国調査における等価世帯収入の中央値は 317.54 万円、等価世帯収入の中央値の2分の1は 158.77 万円となっている。

※2 算出方法は、問 18(世帯全体のおおその年間収入)の回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とする。(例えば、「50 万円未満」であれば 25 万円、「50～100 万円未満」であれば 75 万円とする。なお、「1000 万円以上」は 1050 万円とする。)上記の値を、問4(家族全員の人数)で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除する。上記の方法で算出した値(等価世帯収入)の中央値を求め、さらに、その 1/2 未満であるか否かで上記の分類を行った。

等価世帯収入の中央値	等価世帯収入の中央値の 1/2
375 万円	187.5 万円

等価世帯収入	世帯数	有効%	累積%
11.18	1	0.1%	0.1%
12.50	1	0.1%	0.1%
14.43	4	0.2%	0.4%
33.54	2	0.1%	0.5%
37.50	2	0.1%	0.6%
43.30	7	0.4%	1.1%
51.03	1	0.1%	1.1%
53.03	1	0.1%	1.2%
55.90	3	0.2%	1.4%
62.50	3	0.2%	1.6%
71.44	3	0.2%	1.7%
72.17	2	0.1%	1.9%
78.26	1	0.1%	1.9%
79.55	1	0.1%	2.0%
87.50	8	0.5%	2.5%
88.39	2	0.1%	2.6%
91.86	2	0.1%	2.7%
101.04	13	0.8%	3.6%
112.27	2	0.1%	3.7%
112.50	11	0.7%	4.4%
122.84	1	0.1%	4.4%
122.98	4	0.2%	4.7%
123.74	7	0.4%	5.1%
129.90	13	0.8%	5.9%
132.68	5	0.3%	6.2%
137.50	10	0.6%	6.9%
141.74	2	0.1%	7.0%
145.34	10	0.6%	7.6%
150.26	1	0.1%	7.7%
153.09	5	0.3%	8.0%
158.77	7	0.4%	8.4%
159.10	3	0.2%	8.6%
160.63	2	0.1%	8.7%
162.50	20	1.2%	10.0%
167.71	9	0.6%	10.6%
167.94	2	0.1%	10.7%
173.51	3	0.2%	10.9%
179.53	1	0.1%	10.9%

等価世帯収入	世帯数	有効%	累積%
187.50	25	1.6%	12.5%
187.64	9	0.6%	13.1%
190.07	14	0.9%	13.9%
193.92	5	0.3%	14.2%
207.88	5	0.3%	14.6%
212.43	21	1.3%	15.9%
212.50	30	1.9%	17.7%
216.51	4	0.2%	18.0%
224.54	10	0.6%	18.6%
229.81	4	0.2%	18.9%
237.50	38	2.4%	21.2%
245.37	17	1.1%	22.3%
245.68	4	0.2%	22.5%
245.97	33	2.1%	24.6%
265.17	3	0.2%	24.8%
265.36	10	0.6%	25.4%
274.24	16	1.0%	26.4%
275.00	85	5.3%	31.7%
283.47	6	0.4%	32.1%
290.69	53	3.3%	35.4%
300.52	1	0.1%	35.5%
306.19	13	0.8%	36.3%
317.54	30	1.9%	38.2%
321.27	3	0.2%	38.4%
325.00	96	6.0%	44.3%
335.41	50	3.1%	47.5%
335.88	2	0.1%	47.6%
347.01	13	0.8%	48.4%
350.00	1	0.1%	48.5%
359.07	2	0.1%	48.6%
371.23	3	0.2%	48.8%

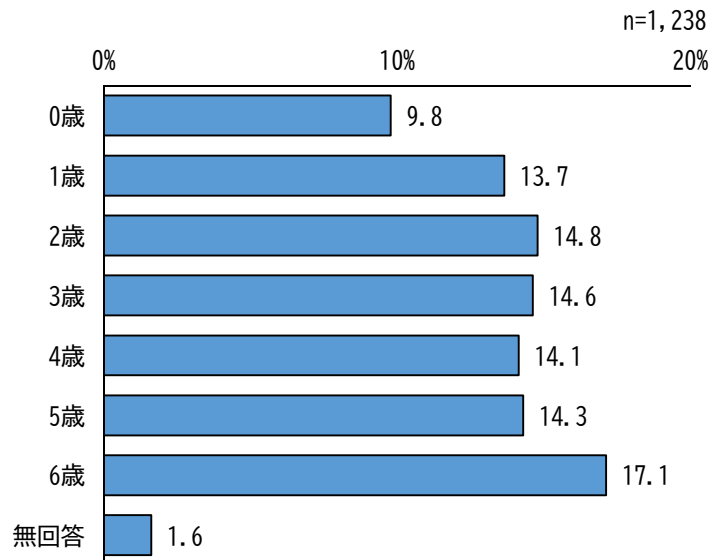
等価世帯収入	世帯数	有効%	累積%
375.00	100	6.2%	55.0%
375.28	19	1.2%	56.2%
380.13	46	2.9%	59.1%
387.84	3	0.2%	59.3%
388.91	1	0.1%	59.3%
396.86	4	0.2%	59.6%
424.85	47	2.9%	62.5%
425.00	99	6.2%	68.7%
428.66	27	1.7%	70.4%
433.01	26	1.6%	72.0%
459.62	3	0.2%	72.2%
469.57	79	4.9%	77.1%
475.00	89	5.6%	82.7%
490.75	23	1.4%	84.1%
525.00	183	11.4%	95.6%
530.33	2	0.1%	95.7%
548.48	24	1.5%	97.2%
601.04	1	0.1%	97.3%
606.22	43	2.7%	99.9%
671.75	1	0.1%	100.0%
	1601	100.0%	

Ⅱ 就学前児童調査の結果

1. お子さんご家族の状況についてうかがいます

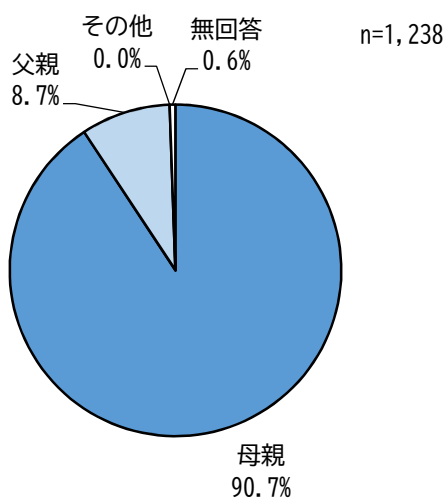
問1 宛て名のお子さんの生まれた年月をご記入ください。(の中に数字でご記入ください。数字は一枠に一字)

お子さんの年齢については、「6歳」が17.1%で最も高く、次いで「2歳」が14.8%、「3歳」が14.6%となっています。



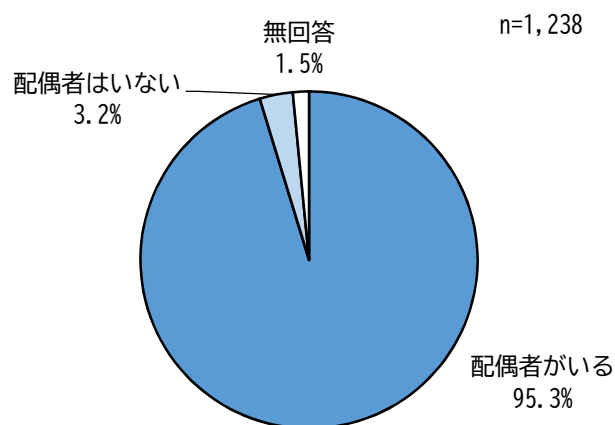
問2 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛て名のお子さんからみた関係でお答えください。(○は1つ)

回答者については、「母親」が90.7%で9割以上と、大半を占めています。



問3 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。
 (問2で「3. その他」と回答した方は回答不要です)(○は1つ)

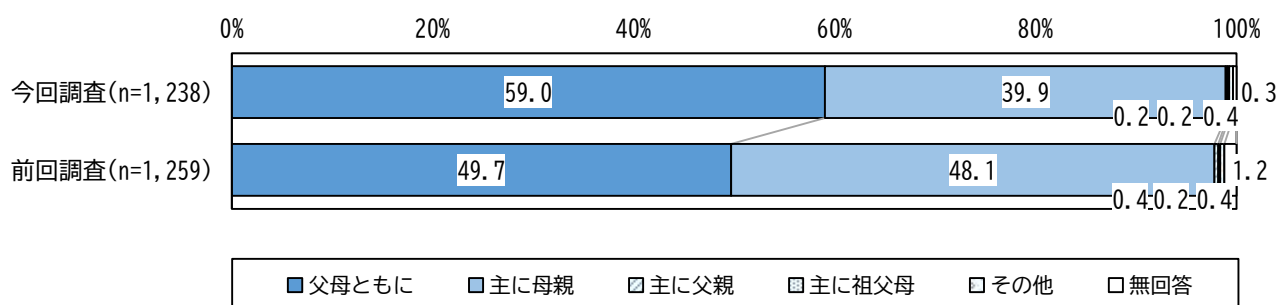
回答者の配偶関係については、「配偶者がいる」が95.3%で、大半を占めています。



問4 宛て名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのは誰ですか。宛て名のお子さんからみた関係でお答えください。(○は1つ)

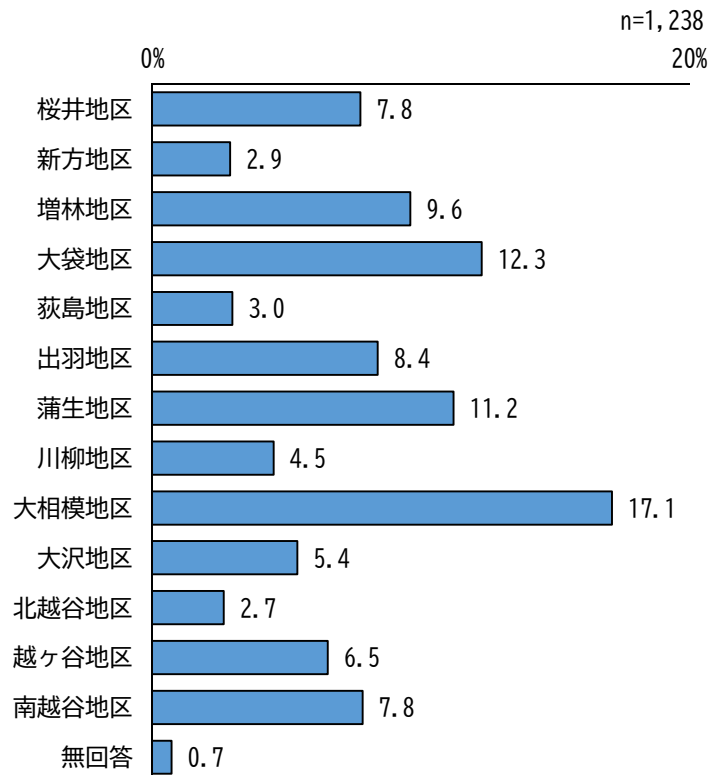
子育て（教育を含む）を主に行っている人については、「父母ともに」が59.0%で最も高く、次いで「主に母親」が39.9%となっています。

前回調査と比較すると、「父母ともに」が9.3ポイント増加しています。



問5 あなたのお住まいはどちらですか。記入例を参考に、お住まいの町名を記入してください。（丁目がある場合は丁目まで。番地の記入は不要です。）

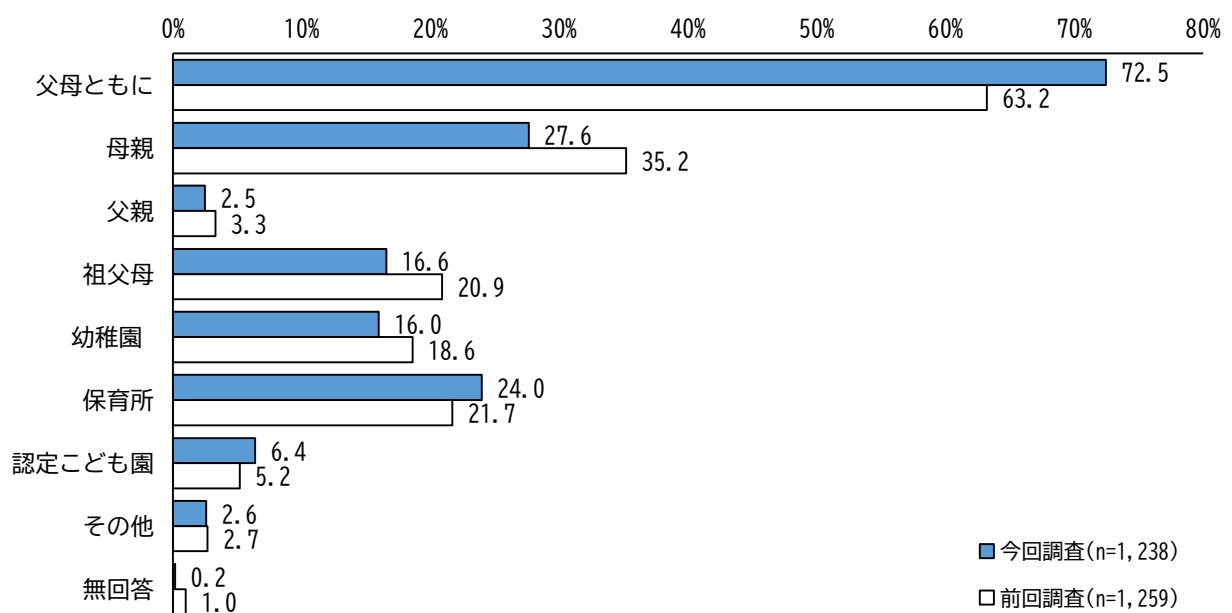
居住する地区については、「大相模地区」が 17.1%で最も高く、次いで「大袋地区」が 12.3%、「蒲生地区」が 11.2%となっています。



問6 宛て名のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方は誰（どこ）ですか。（あてはまるものすべてに○）

子育てに日常的に関わっている人（施設）については、「父母ともに」が 72.5%で最も高く、次いで「母親」が 27.6%、「保育所」が 24.0%となっています。

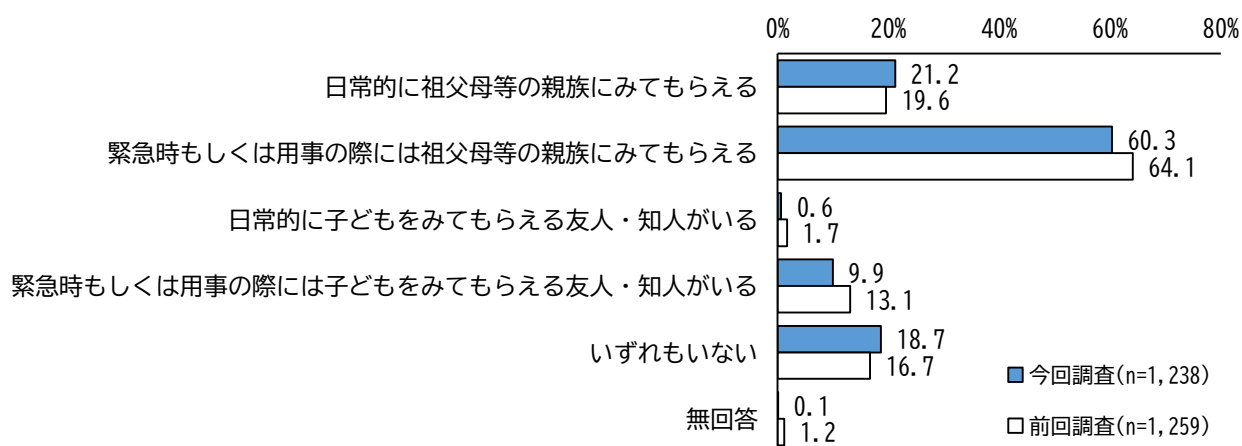
前回調査と比較すると、「父母ともに」が 9.3 ポイント増加しています。



問7 日ごろ、宛て名のお子さんをみてもらえる親族や知人はいますか。（あてはまるものすべてに○）

日ごろ、お子さんをみてもらえる親族や知人の有無については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が60.3%で最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が21.2%、「いずれもない」が18.7%となっています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



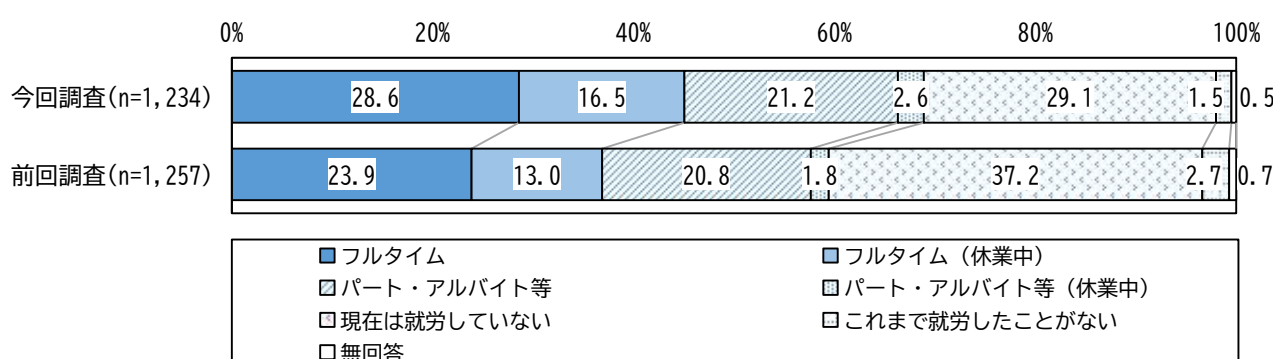
2. お子さんの保護者の就労状況についてうかがいます

問8 宛て名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

① 母親（〇は1つ） ※父子家庭の場合、記入は不要です

母親の就労状況については、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 29.1%、「フルタイムで就労している」が 28.6%、「パート・アルバイト等で就労している」が 21.2%となっています。

前回調査と比較すると、「これまで就労したことがない」が 8.1 ポイント減少し、就労している（休業中を含む）割合が 9.4 ポイント増加しています。



【年齢別】

年齢別にみると、「フルタイムで就労している」は 2 歳の 42.1%が最も高くなっています。「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」は 0 歳と 1 歳、「パート・アルバイト等で就労している」は 4 歳と 6 歳で高くなっています。

問8 ① 母親の就労状況

単位：%

	フルタイムで就労している	フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	パート・アルバイト等で就労している	パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
全体(n=1,234)	28.6	16.5	21.2	2.6	29.1	1.5	0.5
0歳(n=121)	5.0	50.4	4.1	8.3	30.6	1.7	0.0
1歳(n=169)	8.9	42.0	11.2	4.1	33.1	0.6	0.0
2歳(n=183)	42.1	10.9	12.6	2.2	30.1	1.6	0.5
3歳(n=181)	29.8	8.3	23.8	1.1	35.4	0.6	1.1
4歳(n=175)	25.1	10.3	33.1	1.7	28.6	1.1	0.0
5歳(n=177)	36.7	7.9	23.7	1.1	27.1	2.8	0.6
6歳(n=208)	39.9	1.9	32.7	1.9	21.2	1.9	0.5

【問8の①で「1」～「4」（就労している）を選択した方】

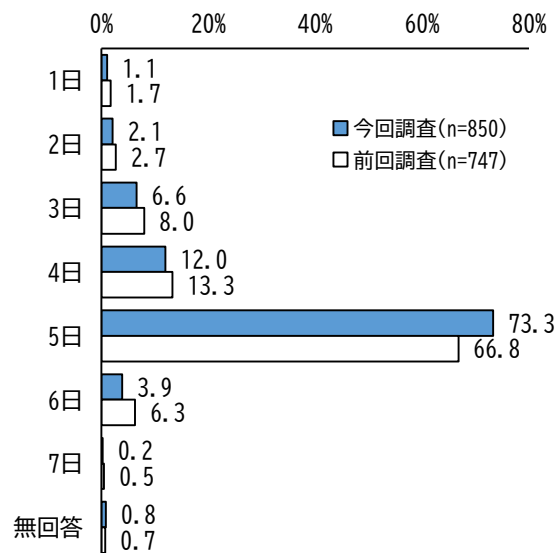
問8 ①ー1 週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。（数字は一桁に一字）

就労している母親の週当たりの就労日数については、「5日」が73.3%で最も高く、次いで「4日」が12.0%、「3日」が6.6%となっています。

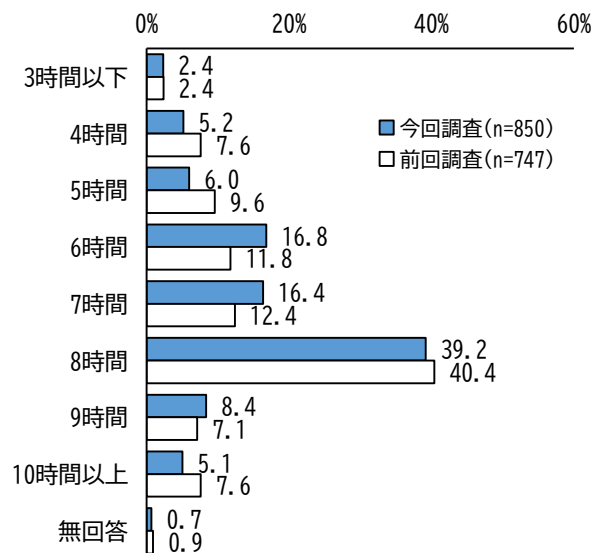
また、1日当たりの就労時間については、「8時間」が39.2%で最も高く、次いで「7時間」が16.4%、「6時間」が16.8%となっています。

前回調査と比較すると、就労日数は「5日」が6.5ポイント増加しています。就労時間は「6時間」が5.0ポイント増加、「7時間」が4.0ポイント増加しています。

【週当たりの就労日数】



【1日当たりの就労時間】



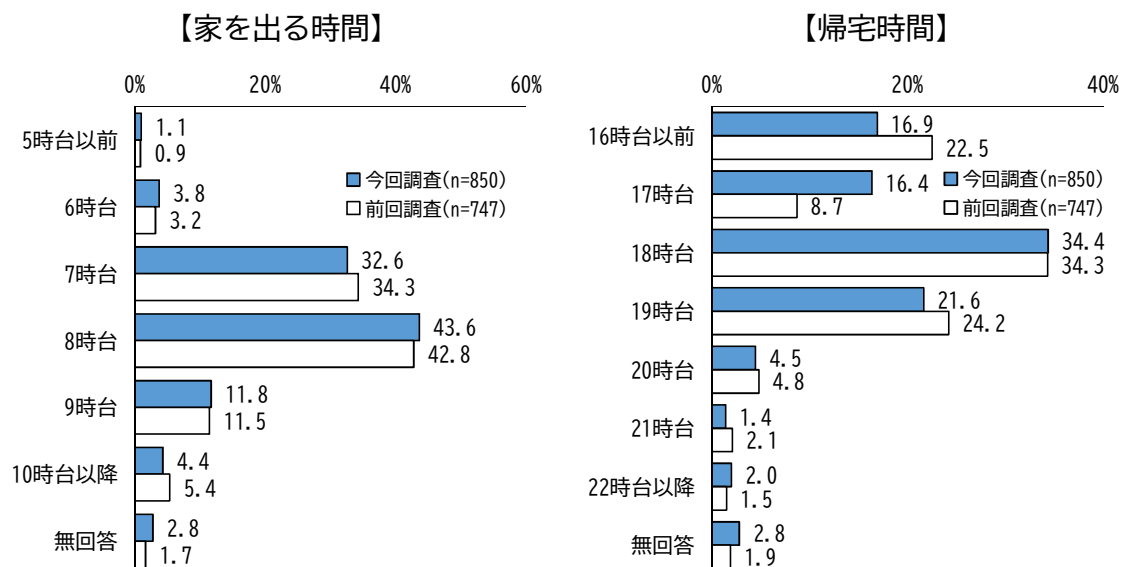
【問8の①で「1」～「4」（就労している）を選択した方】

問8 ①ー2 家を出る時間と帰宅時間をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。必ず、時間は24時間表記（例：帰宅時間 19時）でご記入ください。（数字は一桁に一字）

就労している母親の家を出る時間については、「8時台」が43.6%で最も高く、次いで「7時台」が32.6%、「9時台」が11.8%となっています。

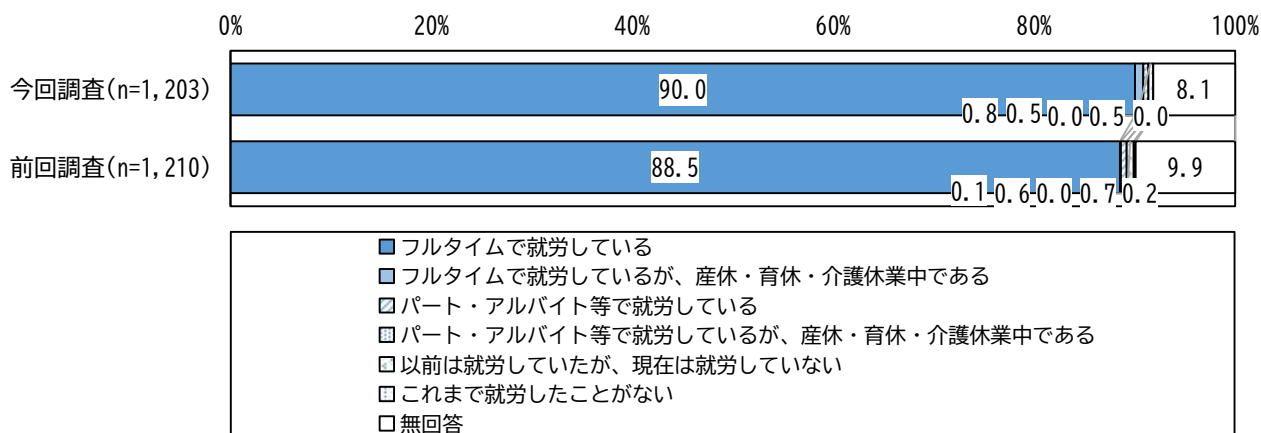
また、帰宅時間については、「18時台」が34.4%で最も高く、次いで「19時台」が21.6%、「16時台以前」が16.9%、「17時台」が16.4%となっています。

前回調査と比較すると、家を出る時間には大きな変化が見られませんが、帰宅時間は「16時台以前」が5.6ポイント減少し、「17時台」が7.7ポイント増加しています。



② 父親（〇は1つ） ※母子家庭の場合、記入は不要です

父親の就労状況については、「フルタイムで就労している」が 90.0%と大半を占めています。
おおむね前回と同様の傾向が見られます。



問【問8の②で「1」～「4」（就労している）を選択した方】

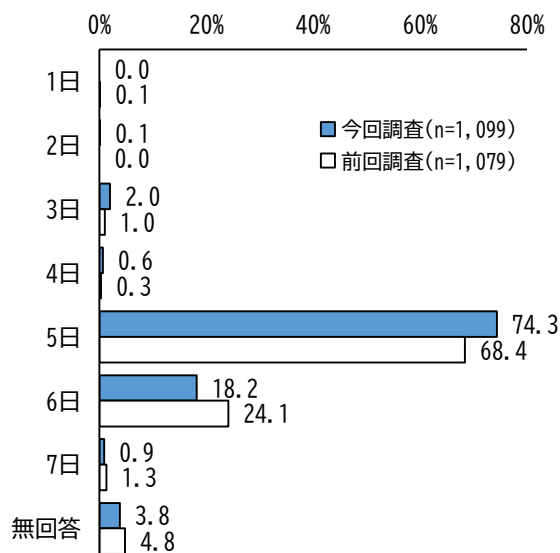
問8 ②ー1 週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。（数字は一桁に一字）

就労している父親の週当たりの就労日数については、「5日」が 74.3%で最も高く、次いで「6日」が 18.2%となっています。

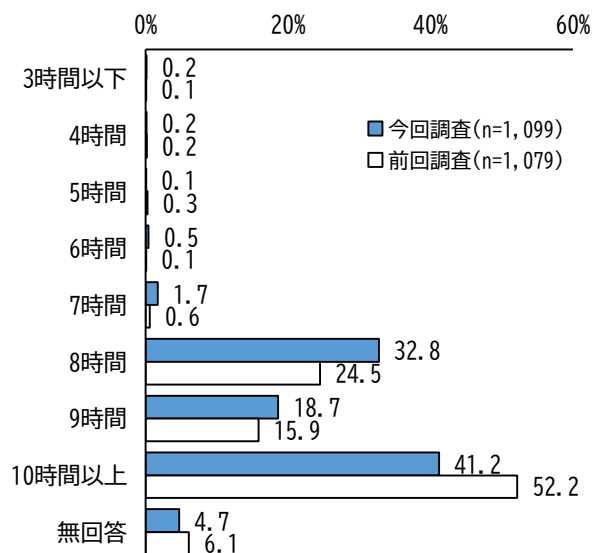
また、1日当たりの就労時間については、「10 時間以上」が 41.2%で最も高く、次いで「8時間」が 32.0%、「9時間」が 18.7%となっています。

前回調査と比較すると、就労日数は「6日」が 5.9 ポイント減少し、「5日」が 5.9 ポイント増加しています。就労時間は「10 時間以上」が 11.0 ポイント減少し、「8時間」が 8.3 ポイント増加しています。

【1週当たりの就労日数】



【1日当たりの就労時間】



【問8の②で「1」～「4」（就労している）を選択した方】

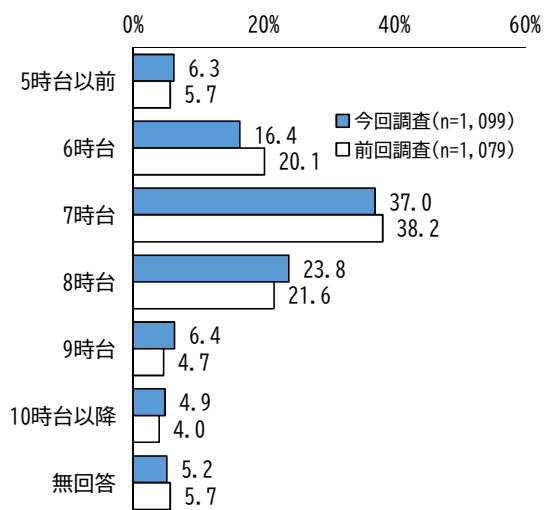
問8 ②ー2 家を出る時間と帰宅時間をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。必ず、時間は24時間表記（例：帰宅時間 19 時）でご記入ください。（数字は一枠に一字）

就労している父親の家を出る時間については、「7時台」が37.0%で最も高く、次いで「8時台」が23.8%、「6時台」が16.4%となっています。

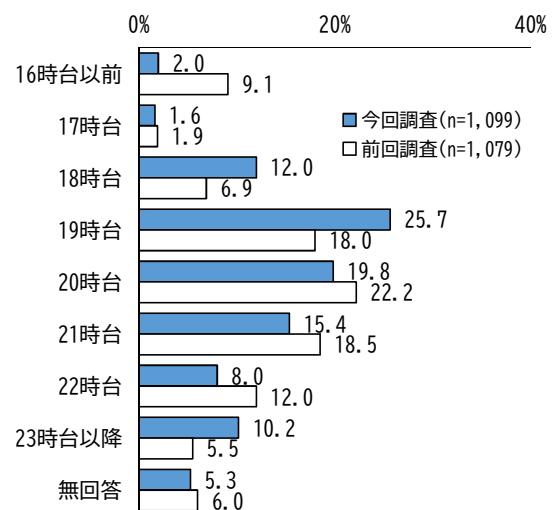
また、帰宅時間については、「19時台」が25.7%で最も高く、次いで「20時台」が19.8%、「21時台」が15.4%、「18時台」が12.0%となっています。

前回調査と比較すると、家を出る時間には大きな変化が見られませんが、帰宅時間は「18時台」が5.1ポイント、「19時台」は7.7ポイント増加しています。

【家を出る時間】



【帰宅時間】

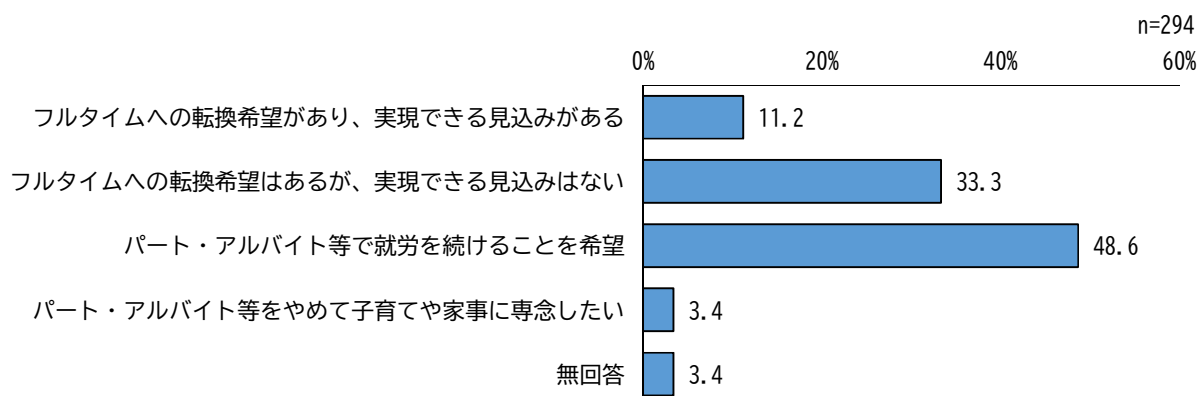


【問8の①または②で「3」または「4」（パート・アルバイト等で就労）を選択した方】

問8 ③ フルタイムへの転換希望はありますか。

③-1 母親（〇は1つ）

パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望については、「パート・アルバイト等で就労を続けることを希望」が48.6%で最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が33.3%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が11.2%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」と「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合計した『転換希望あり』は年齢が上がるほど高く、6歳で51.4%となっています。

問8 ③-1 母親のフルタイムへの転換希望

単位：%

	フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない	パート・アルバイト等で就労を続けることを希望	パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい	無回答	『転換希望あり』
全体(n=294)	11.2	33.3	48.6	3.4	3.4	44.5
0歳(n=15)	13.3	20.0	53.3	6.7	6.7	33.3
1歳(n=26)	11.5	26.9	53.8	3.8	3.8	38.4
2歳(n=27)	14.8	25.9	44.4	7.4	7.4	40.7
3歳(n=45)	8.9	33.3	51.1	2.2	4.4	42.2
4歳(n=61)	8.2	37.7	49.2	1.6	3.3	45.9
5歳(n=44)	13.6	31.8	47.7	2.3	4.5	45.4
6歳(n=72)	12.5	38.9	44.4	4.2	0.0	51.4

③-2 父親（〇は1つ）

パート・アルバイト等で就労している父親のフルタイムへの転換希望については、6件の回答があり、「パート・アルバイト等で就労を続けることを希望」が4件、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が2件となっています。（グラフ省略）

【問8の①または②で「5」または「6」（就労していない・就労したことがない）を選択した方】

問8 ④ 就労したいという希望はありますか。

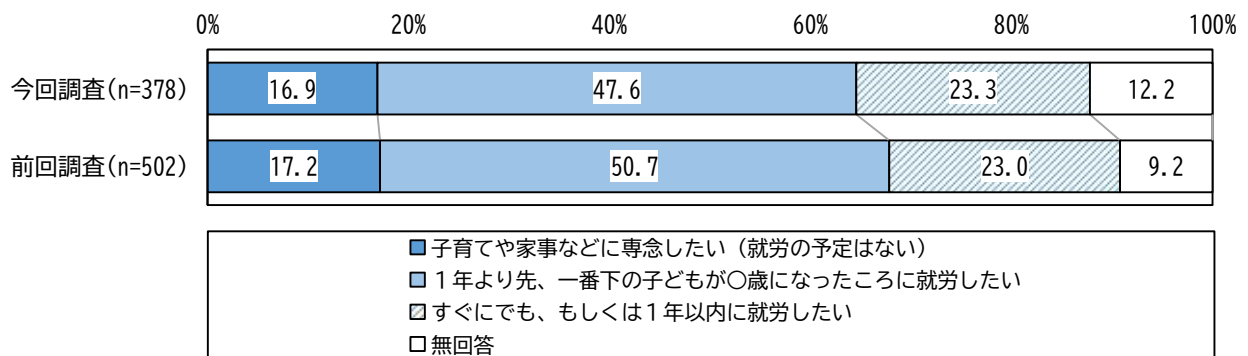
④－1 母親（○は1つ。また数字は一桁に一字）

就労していない母親の就労希望については、「1年より先、一番下の子どもが○歳になったころに就労したい」が47.6%で最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が23.3%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が16.9%となっています。

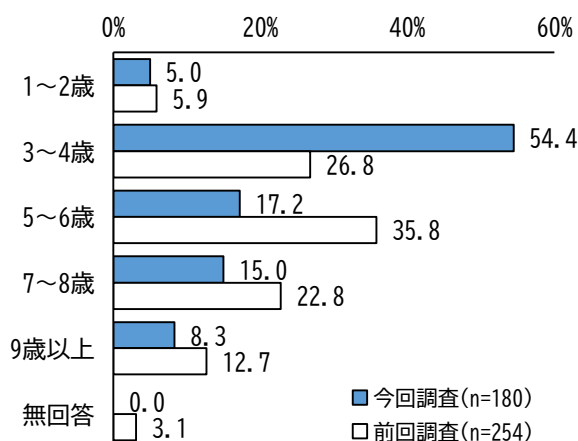
また、就労したい末子の年齢については、「3歳」が33.3%で最も高く、次いで「4歳」が21.1%、「6歳」が12.2%となっています。

就労希望については、おおむね前回と同様の傾向が見られますが、就労したい末子の年齢は、5歳以上の割合が合わせて33.9ポイント減少し、「3～4歳」が27.6ポイント増加しています。

【就労していない母親の就労希望】



【就労したい末子の年齢】

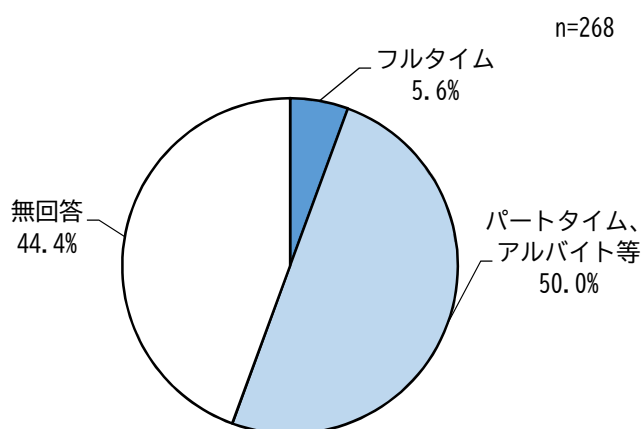


④－１ 今後就労意向がある「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」「１年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったころに就労したい」と回答した母親が希望する就労形態（○は１つ）

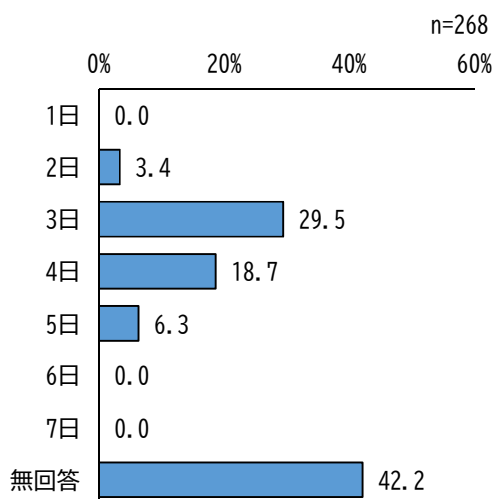
今後就労意向がある母親が希望する就労形態については、「パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）」が 50.0%、「フルタイム」が 5.6%となっています。

また、希望する週当たりの就労日数については、「３日」が 29.5%で最も高く、次いで「４日」が 18.7%、「５日」が 6.3%となっています。

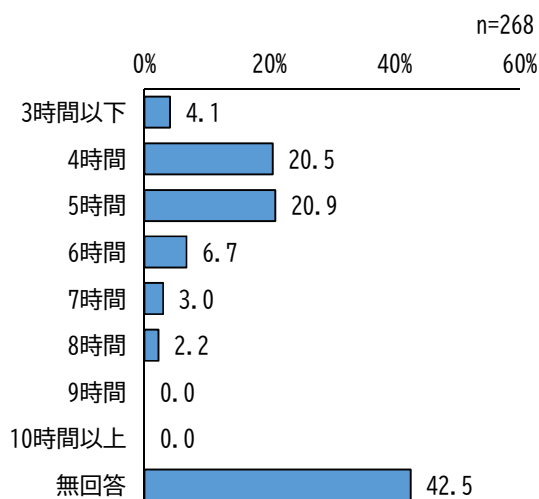
希望する１日当たりの就労時間については、「５時間」が 20.9%、「４時間」が 20.5%、次いで「６時間」が 6.7%となっています。



【希望する週当たりの就労日数】



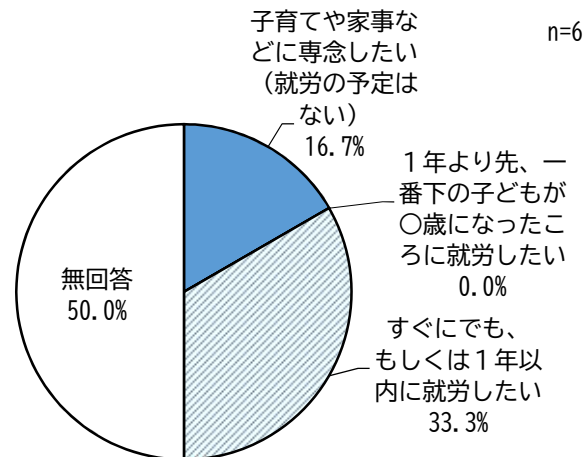
【希望する１日当たりの就労時間】



④－２ 父親（○は１つ。また数字は一枠に一字）

就労していない父親の就労希望については、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」が 33.3%（２件）、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が 16.7%（１件）となっています。（※参考）

また、就労したい末子の年齢については、「１年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったころに就労したい」の回答はありませんでした。



④－２ 今後就労意向がある「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」「１年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったころに就労したい」と回答した父親が希望する就労形態（○は１つ）

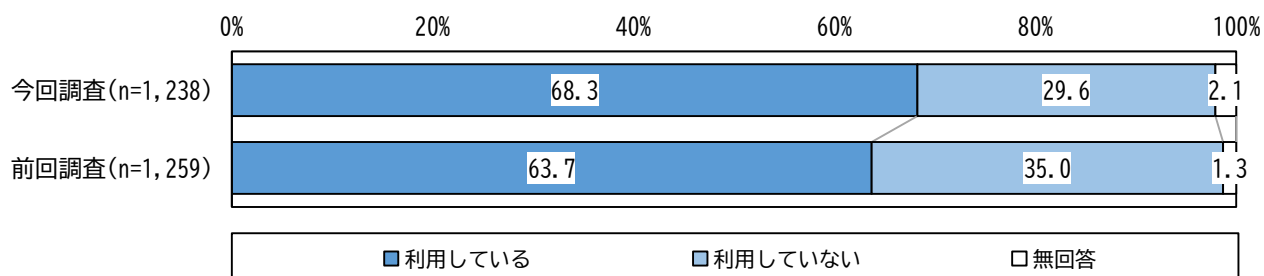
今後就労意向がある父親が希望する就労形態については、２件の回答があり、「フルタイム」「パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）」がともに１件となっています。

また、希望する週当たりの就労日数については「５日」、希望する１日当たりの就労時間については「５時間」に、それぞれ１件ずつの回答があります。（グラフ省略）

3. 幼稚園や保育所などの利用状況についてうかがいます

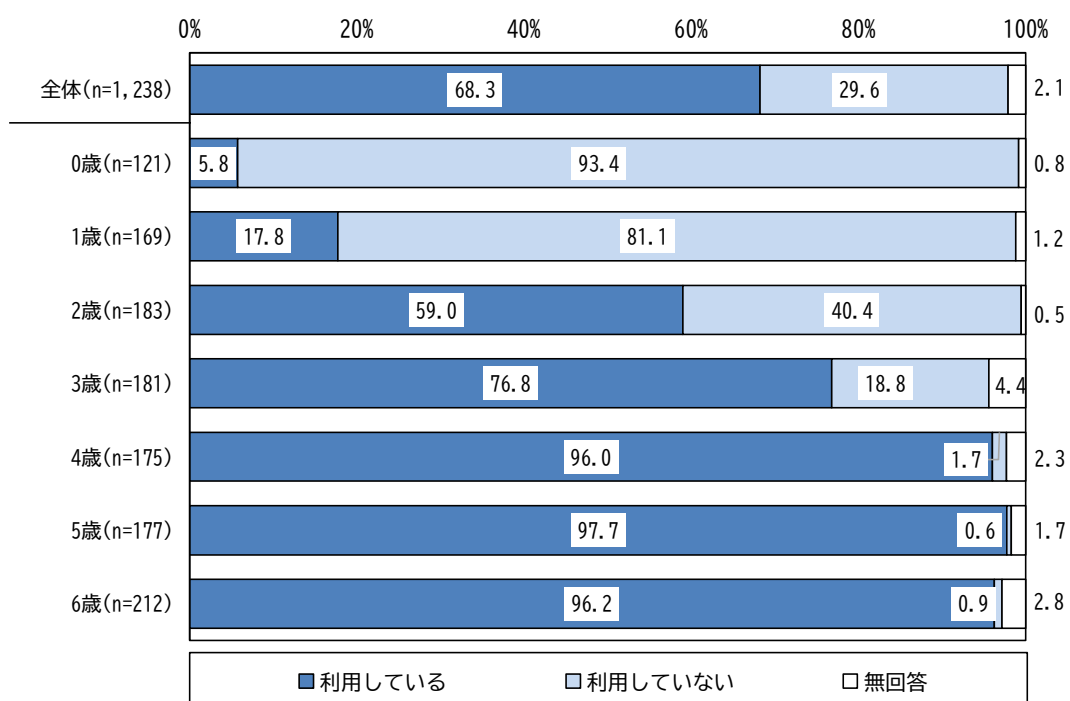
問9 宛て名のお子さんは、現在、平日に幼稚園や保育所などの施設やサービスを「定期的に」利用していますか。（○は1つ）

平日に幼稚園や保育所などの施設やサービスを「定期的に」利用しているかについては、「利用している」は68.3%で、前回調査と比較すると4.6%増加しています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれ「利用している」が高くなっており、4歳以上では9割以上が「利用している」となっています。

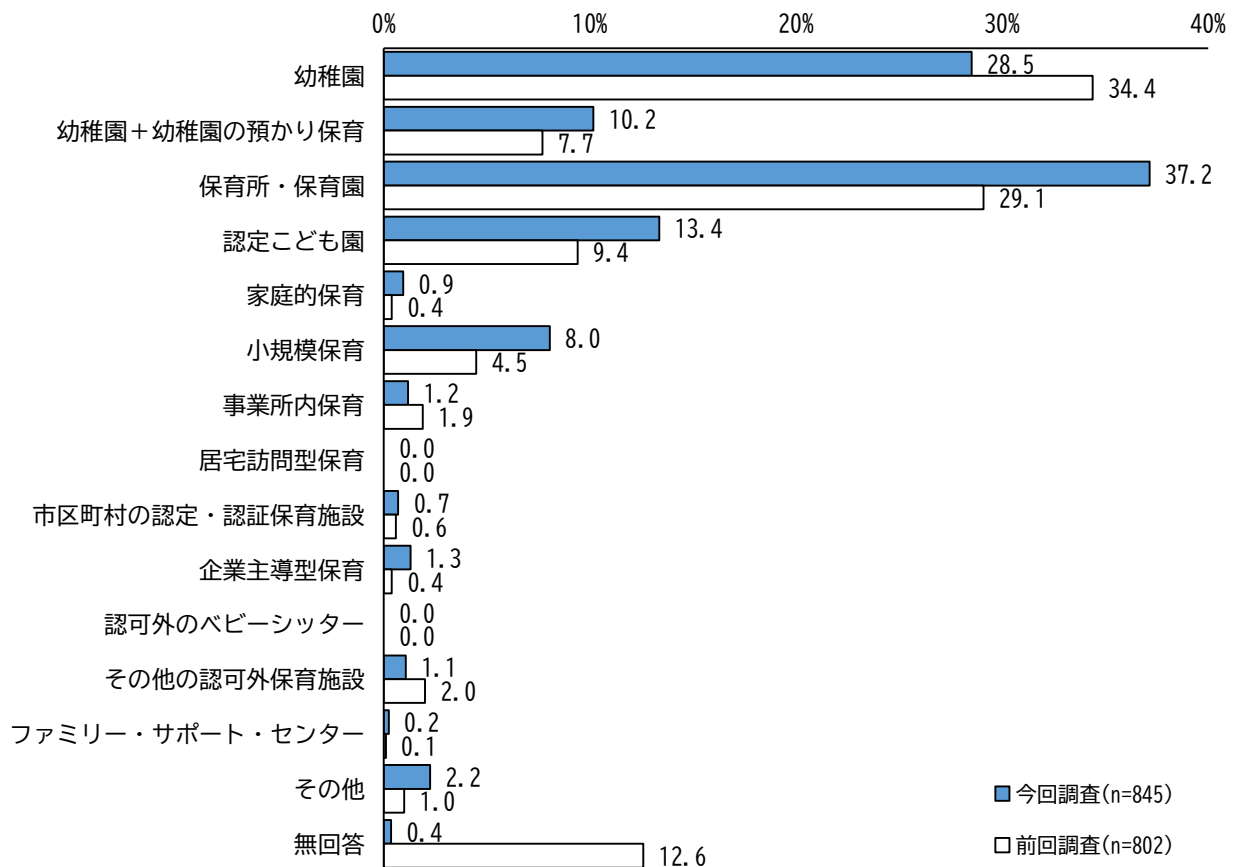


【問9で「1. 利用している」を選択した方】

問9－1 宛て名のお子さんは、現在、平日にどのような施設やサービスを、どのくらい利用していますか。年間を通じて「定期的」に利用しているものについてお答えください。

平日にどのようなサービスを利用しているかについては、「保育所・保育園」が37.2%で最も高く、次いで「幼稚園」が28.5%、「認定こども園」が13.4%となっています。

前回調査と比較すると、「保育所・保育園」が8.1ポイント増加、「認定こども園」が4.0%増加している一方で、「幼稚園」は5.9ポイント減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～3 歳では、「保育所・保育園」が、4 歳では「幼稚園」が最も高く、5 歳以上では「幼稚園」「保育所・保育園」が同程度となっています。

問9-1 現在利用している施設やサービス

単位：％

	幼稚園	幼稚園＋ 幼稚園の 預かり保 育	保育所・ 保育園	認定こど も園	家庭的保 育	小規模保 育	事業所内 保育	居宅訪問 型保育
全体(n=845)	28.5	10.2	37.2	13.4	0.9	8.0	1.2	0.0
0歳(n=7)	0.0	0.0	57.1	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0
1歳(n=30)	0.0	0.0	56.7	10.0	0.0	16.7	10.0	0.0
2歳(n=108)	0.0	0.9	46.3	9.3	0.0	32.4	1.9	0.0
3歳(n=139)	23.0	0.7	39.6	10.1	1.4	18.7	3.6	0.0
4歳(n=168)	42.3	14.3	34.5	11.9	0.0	0.0	0.0	0.0
5歳(n=173)	34.1	15.0	32.4	20.8	0.6	0.0	0.0	0.0
6歳(n=204)	36.8	15.2	32.8	12.7	2.5	0.0	0.0	0.0

	市区町村 の認定・ 認証保 育施設	企業主導 型保育	認可外の ベビー シッター	その他の 認可外保 育施設	ファミ リー・サ ポート・ センター	その他	無回答
全体(n=845)	0.7	1.3	0.0	1.1	0.2	2.2	0.4
0歳(n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1歳(n=30)	0.0	0.0	0.0	3.3	3.3	0.0	0.0
2歳(n=108)	0.9	6.5	0.0	0.9	0.0	0.9	0.9
3歳(n=139)	1.4	0.0	0.0	1.4	0.0	3.6	0.0
4歳(n=168)	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	3.0	0.6
5歳(n=173)	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	2.3	0.6
6歳(n=204)	1.5	0.5	0.0	1.5	0.0	2.0	0.0

①週当たりの利用日数

利用している教育・保育事業の週当たりの利用日数については、ファミリー・サポート・センター、その他を除いた事業で、「5日」が多くなっています。

日数	幼稚園 n=241		幼稚園＋ 幼稚園の 預かり保育 n=86		保育所・ 保育園 n=314		認定 こども園 n=113		家庭的保育 n=8		小規模保育 n=68		事業所内 保育 n=10	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1日	18	7.5	1	1.2	0	0.0	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2日	16	6.6	6	7.0	0	0.0	3	2.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3日	5	2.1	11	12.8	1	0.3	3	2.7	0	0.0	2	2.9	1	10.0
4日	1	0.4	8	9.3	12	3.8	2	1.8	0	0.0	7	10.3	3	30.0
5日	199	82.6	58	67.4	291	92.7	100	88.5	8	100.0	57	83.8	6	60.0
6日	0	0.0	2	2.3	10	3.2	3	2.7	0	0.0	2	2.9	0	0.0
7日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	2	0.8	0	0.0	0	0.0	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0

日数	居宅訪問型 保育 n=0		市区町村の 認定・認証 保育施設 n=6		企業主導型 保育 n=11		認可外の ベビー シッター n=0		その他の 認可外 保育施設 n=9		ファミリー・ サポート・ センター n=2		その他 n=19	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1日	0	0.0	0	0.0	3	27.3	0	0.0	2	22.2	1	50.0	5	26.3
2日	0	0.0	0	0.0	1	9.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.3
3日	0	0.0	1	16.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	10.5
4日	0	0.0	0	0.0	1	9.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.3
5日	0	0.0	5	83.3	5	45.5	0	0.0	4	44.4	0	0.0	2	10.5
6日	0	0.0	0	0.0	1	9.1	0	0.0	2	22.2	0	0.0	0	0.0
7日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	11.1	1	50.0	8	42.1

② 1日当たりの利用時間

利用している教育・保育事業の1日当たりの利用時間については、幼稚園では「5時間」が、それ以外の事業では「8時間以上」が多くなっています。

日数	幼稚園 n=241		幼稚園＋ 幼稚園の 預かり保育 n=86		保育所・ 保育園 n=314		認定 こども園 n=113		家庭的保育 n=8		小規模保育 n=68		事業所内 保育 n=10	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
3時間以下	17	7.1	5	5.8	1	0.3	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4時間	21	8.7	0	0.0	0	0.0	4	3.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5時間	124	51.5	0	0.0	0	0.0	21	18.6	0	0.0	0	0.0	2	20.0
6時間	73	30.3	8	9.3	1	0.3	15	13.3	1	12.5	1	1.5	0	0.0
7時間	1	0.4	17	19.8	32	10.2	4	3.5	1	12.5	12	17.6	3	30.0
8時間以上	3	1.2	56	65.1	276	87.9	67	59.3	6	75.0	55	80.9	5	50.0
無回答	2	0.8	0	0.0	4	1.3	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0

日数	居宅訪問型 保育 n=0		市区町村の 認定・認証 保育施設 n=6		企業主導型 保育 n=11		認可外の ベビー シッター n=0		その他の 認可外 保育施設 n=9		ファミリー・ サポート・ センター n=2		その他 n=19	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
3時間以下	0	0.0	1	16.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10	52.6
4時間	0	0.0	0	0.0	1	9.1	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0
5時間	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	11.1	0	0.0	1	5.3
6時間	0	0.0	0	0.0	1	9.1	0	0.0	2	22.2	0	0.0	0	0.0
7時間	0	0.0	1	16.7	2	18.2	0	0.0	1	11.1	0	0.0	0	0.0
8時間以上	0	0.0	4	66.7	7	63.6	0	0.0	4	44.4	0	0.0	0	0.0
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	11.1	1	50.0	8	42.1

③利用開始時刻

利用している教育・保育事業の利用開始時刻については、幼稚園、市区町村の認定・認証保育施設、その他では「9時」が、それ以外の事業では「8時」が多くなっています。

日数	幼稚園 n=241		幼稚園＋ 幼稚園の 預かり保育 n=86		保育所・ 保育園 n=314		認定 こども園 n=113		家庭的保育 n=8		小規模保育 n=68		事業所内 保育 n=10	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
6時以前	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7時	1	0.4	2	2.3	65	20.7	16	14.2	1	12.5	10	14.7	1	10.0
8時	42	17.4	45	52.3	174	55.4	44	38.9	2	25.0	34	50.0	5	50.0
9時	149	61.8	31	36.0	70	22.3	43	38.1	5	62.5	23	33.8	4	40.0
10時	44	18.3	1	1.2	0	0.0	5	4.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11時以降	0	0.0	4	4.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	5	2.1	3	3.5	5	1.6	5	4.4	0	0.0	1	1.5	0	0.0

日数	居宅訪問型 保育 n=0		市区町村の 認定・認証 保育施設 n=6		企業主導型 保育 n=11		認可外の ベビー シッター n=0		その他の 認可外 保育施設 n=9		ファミリー・ サポート・ センター n=2		その他 n=19	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
6時以前	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8時	0	0.0	2	33.3	8	72.7	0	0.0	3	33.3	0	0.0	0	0.0
9時	0	0.0	3	50.0	3	27.3	0	0.0	4	44.4	0	0.0	4	21.1
10時	0	0.0	1	16.7	0	0.0	0	0.0	1	11.1	1	50.0	4	21.1
11時以降	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	15.8
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	11.1	1	50.0	8	42.1

④利用終了時刻

利用している教育・保育事業の利用終了時刻については、幼稚園では「15 時以前」が、保育所・保育園、小規模保育、企業主導型保育、その他の認可外保育施設では「18 時」が多くなっています。認定こども園では「15 時以前」と「18 時」がともに3割台となっています。

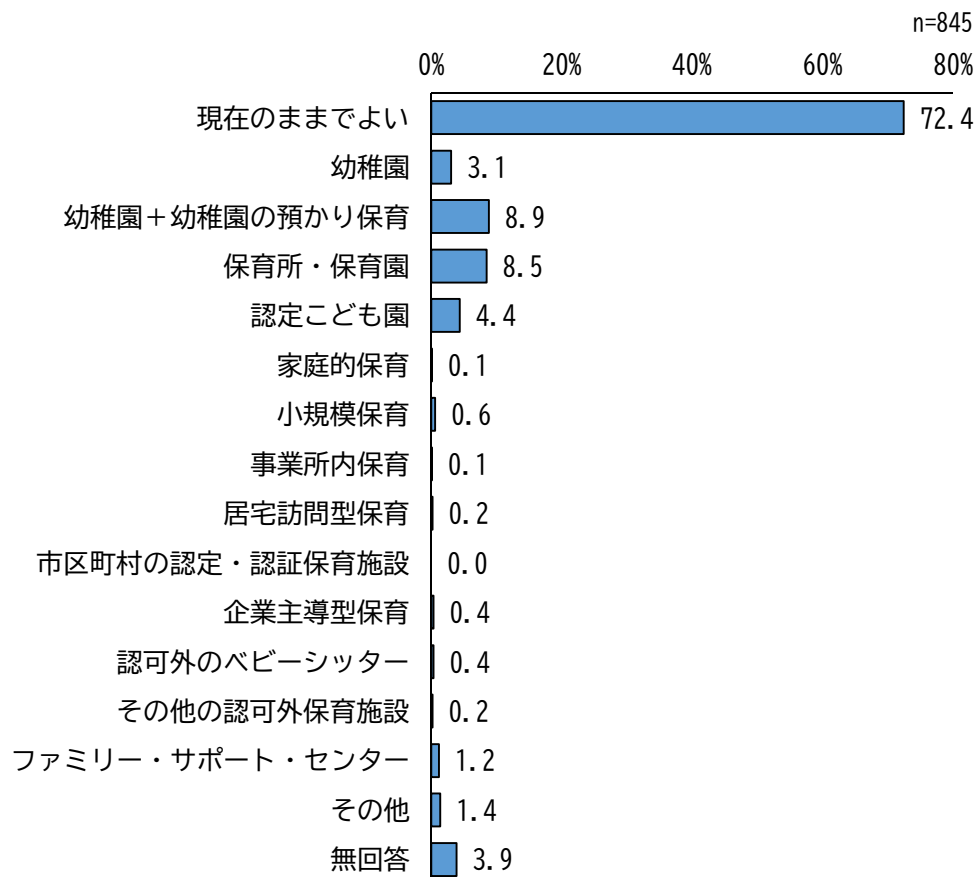
日数	幼稚園 n=241		幼稚園＋ 幼稚園の 預かり保育 n=86		保育所・ 保育園 n=314		認定 こども園 n=113		家庭的保育 n=8		小規模保育 n=68		事業所内 保育 n=10	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
15時以前	231	95.9	14	16.3	9	2.9	39	34.5	1	12.5	2	2.9	2	20.0
16時	3	1.2	18	20.9	70	22.3	10	8.8	1	12.5	18	26.5	2	20.0
17時	2	0.8	28	32.6	77	24.5	17	15.0	5	62.5	19	27.9	5	50.0
18時	0	0.0	22	25.6	143	45.5	38	33.6	1	12.5	27	39.7	1	10.0
19時	0	0.0	1	1.2	10	3.2	4	3.5	0	0.0	1	1.5	0	0.0
20時以降	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	5	2.1	3	3.5	5	1.6	5	4.4	0	0.0	1	1.5	0	0.0

日数	居宅訪問型 保育 n=0		市区町村の 認定・認証 保育施設 n=6		企業主導型 保育 n=11		認可外の ベビー シッター n=0		その他の 認可外 保育施設 n=9		ファミリー・ サポート・ センター n=2		その他 n=19	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
15時以前	0	0.0	1	16.7	2	18.2	0	0.0	3	33.3	1	50.0	8	42.1
16時	0	0.0	2	33.3	2	18.2	0	0.0	1	11.1	0	0.0	1	5.3
17時	0	0.0	1	16.7	2	18.2	0	0.0	1	11.1	0	0.0	2	10.5
18時	0	0.0	2	33.3	5	45.5	0	0.0	3	33.3	0	0.0	0	0.0
19時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20時以降	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	11.1	1	50.0	8	42.1

【問9で「1. 利用している」を選択した方 今後の利用希望についてうかがいます。】

問9-2 今後、平日にどのような施設やサービスを、どのくらい利用したいですか。年間を通じて「定期的に」利用したいと希望するものをお答えください。今後利用を希望する施設やサービスについて、あてはまる番号すべてに○をつけてください。（1を選んだ場合は、○は一つ）

今後、平日に利用したい施設やサービスについては、「現在のままでよい」が72.4%と大半を占めています。



①希望する週当たりの利用日数

希望する教育・保育事業の週当たりの利用日数については、幼稚園、幼稚園＋幼稚園の預かり保育、保育所・保育園、認定こども園、小規模保育で「5日」が多くなっています。

日数	幼稚園 n=26		幼稚園＋ 幼稚園の 預かり保育 n=75		保育所・ 保育園 n=72		認定 こども園 n=37		家庭的保育 n=1		小規模保育 n=5		事業所内 保育 n=1	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1日	0	0.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2日	1	3.8	3	4.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3日	0	0.0	5	6.7	0	0.0	1	2.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4日	0	0.0	3	4.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5日	24	92.3	57	76.0	67	93.1	32	86.5	0	0.0	5	100.0	1	100.0
6日	0	0.0	4	5.3	5	6.9	3	8.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	1	3.8	2	2.7	0	0.0	1	2.7	1	100.0	0	0.0	0	0.0

日数	居宅訪問型 保育 n=2		市区町村の 認定・認証 保育施設 n=0		企業主導型 保育 n=3		認可外の ベビー シッター n=3		その他の 認可外 保育施設 n=2		ファミリー・ サポート・ センター n=10		その他 n=12	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4日	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5日	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	2	100.0	0	0.0	1	33.3	1	33.3	2	100.0	10	100.0	12	100.0

②希望する1日当たりの利用時間

希望する教育・保育事業の1日当たりの利用時間については、幼稚園では「5時間」、幼稚園＋幼稚園の預かり保育、保育所・保育園、認定こども園、小規模保育、企業主導型保育では「8時間以上」が多くなっています。

日数	幼稚園 n=26		幼稚園＋ 幼稚園の 預かり保育 n=75		保育所・ 保育園 n=72		認定 こども園 n=37		家庭的保育 n=1		小規模保育 n=5		事業所内 保育 n=1	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
3時間以下	1	3.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4時間	3	11.5	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5時間	17	65.4	0	0.0	0	0.0	4	10.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6時間	3	11.5	3	4.0	0	0.0	1	2.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7時間	0	0.0	10	13.3	3	4.2	2	5.4	0	0.0	1	20.0	0	0.0
8時間以上	1	3.8	59	78.7	69	95.8	29	78.4	0	0.0	4	80.0	1	100.0
無回答	1	3.8	2	2.7	0	0.0	1	2.7	1	100.0	0	0.0	0	0.0

日数	居宅訪問型 保育 n=2		市区町村の 認定・認証 保育施設 n=0		企業主導型 保育 n=3		認可外の ベビー シッター n=3		その他の 認可外 保育施設 n=2		ファミリー・ サポート・ センター n=10		その他 n=12	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
3時間以下	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4時間	0	0.0	0	0.0	1	33.3	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5時間	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6時間	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7時間	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8時間以上	0	0.0	0	0.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	2	100.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	2	100.0	10	100.0	12	100.0

③希望する利用開始時刻

希望する教育・保育事業の利用開始時刻については、幼稚園では「9時」が、幼稚園＋幼稚園の預かり保育、保育所・保育園、認定こども園、小規模保育、企業主導型保育では「8時」が多くなっています。

日数	幼稚園 n=26		幼稚園＋ 幼稚園の 預かり保育 n=75		保育所・ 保育園 n=72		認定 こども園 n=37		家庭的保育 n=1		小規模保育 n=5		事業所内 保育 n=1	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
6時以前	1	3.8	1	1.3	1	1.4	1	2.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7時	0	0.0	3	4.0	21	29.2	12	32.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8時	2	7.7	37	49.3	38	52.8	15	40.5	0	0.0	4	80.0	1	100.0
9時	17	65.4	32	42.7	12	16.7	7	18.9	0	0.0	1	20.0	0	0.0
10時	5	19.2	0	0.0	0	0.0	1	2.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11時以降	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	1	3.8	2	2.7	0	0.0	1	2.7	1	100.0	0	0.0	0	0.0

日数	居宅訪問型 保育 n=2		市区町村の 認定・認証 保育施設 n=0		企業主導型 保育 n=3		認可外の ベビー シッター n=3		その他の 認可外 保育施設 n=2		ファミリー・ サポート・ センター n=10		その他 n=12	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
6時以前	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8時	0	0.0	0	0.0	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11時以降	0	0.0	0	0.0	1	33.3	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	2	100.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	2	100.0	10	100.0	12	100.0

④希望する利用終了時刻

希望する教育・保育事業の利用終了時刻については、幼稚園では「15 時以前」が、幼稚園＋幼稚園の預かり保育、保育所・保育園、認定こども園、小規模保育では「18 時」が多くなっています。

日数	幼稚園 n=26		幼稚園＋ 幼稚園の 預かり保育 n=75		保育所・ 保育園 n=72		認定 こども園 n=37		家庭的保育 n=1		小規模保育 n=5		事業所内 保育 n=1	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
15時以前	24	92.3	3	4.0	0	0.0	6	16.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
16時	0	0.0	16	21.3	8	11.1	4	10.8	0	0.0	1	20.0	0	0.0
17時	0	0.0	18	24.0	19	26.4	6	16.2	0	0.0	1	20.0	1	100.0
18時	1	3.8	30	40.0	35	48.6	16	43.2	0	0.0	3	60.0	0	0.0
19時	0	0.0	6	8.0	7	9.7	3	8.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20時以降	0	0.0	0	0.0	3	4.2	1	2.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	1	3.8	2	2.7	0	0.0	1	2.7	1	100.0	0	0.0	0	0.0

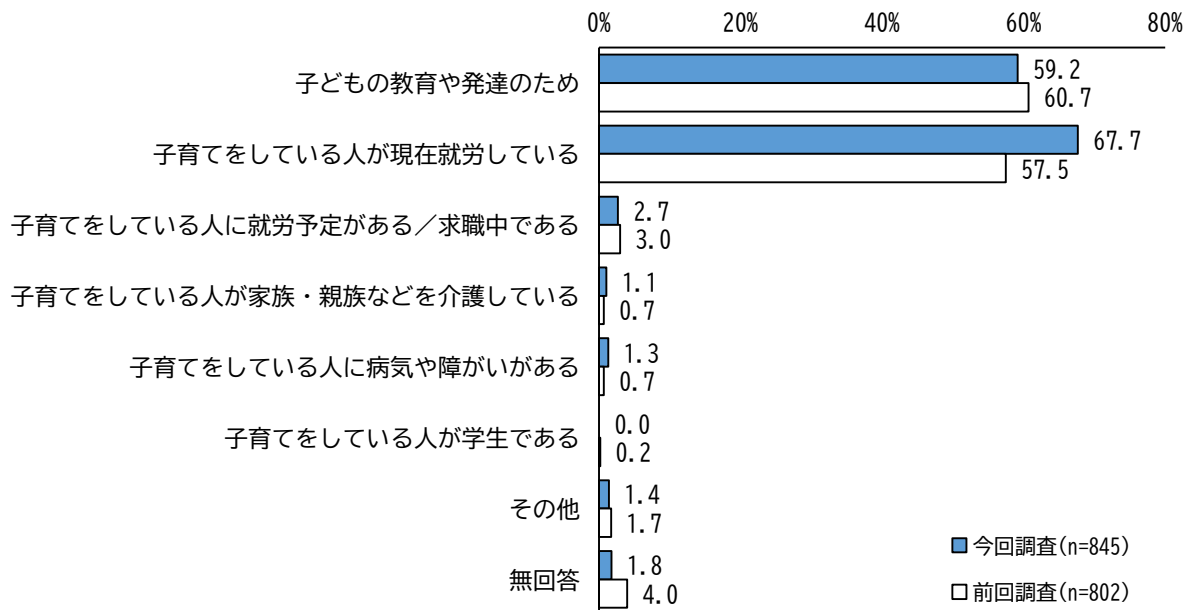
日数	居宅訪問型 保育 n=2		市区町村の 認定・認証 保育施設 n=0		企業主導型 保育 n=3		認可外の ベビー シッター n=3		その他の 認可外 保育施設 n=2		ファミリー・ サポート・ センター n=10		その他 n=12	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
15時以前	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
16時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
17時	0	0.0	0	0.0	1	33.3	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
18時	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
19時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20時以降	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	2	100.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	2	100.0	10	100.0	12	100.0

【問9で「1. 利用している」を選択した方】

問9-3 平日に定期的に施設やサービスを利用している理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

平日に定期的に施設やサービスを利用している理由については、「子育てをしている人が現在就労している」が67.7%で最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」が59.2%となっています。

前回調査と比較すると、「子育てをしている人が現在就労している」が10.2ポイント増加し、「子どもの教育や発達のため」より多くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～3歳では、「子育てをしている人が現在就労している」が、4歳以上では「子どもの教育や発達のため」がそれぞれ最も高くなっています。

問9-3 平日に定期的に施設やサービスを利用している理由

単位：％

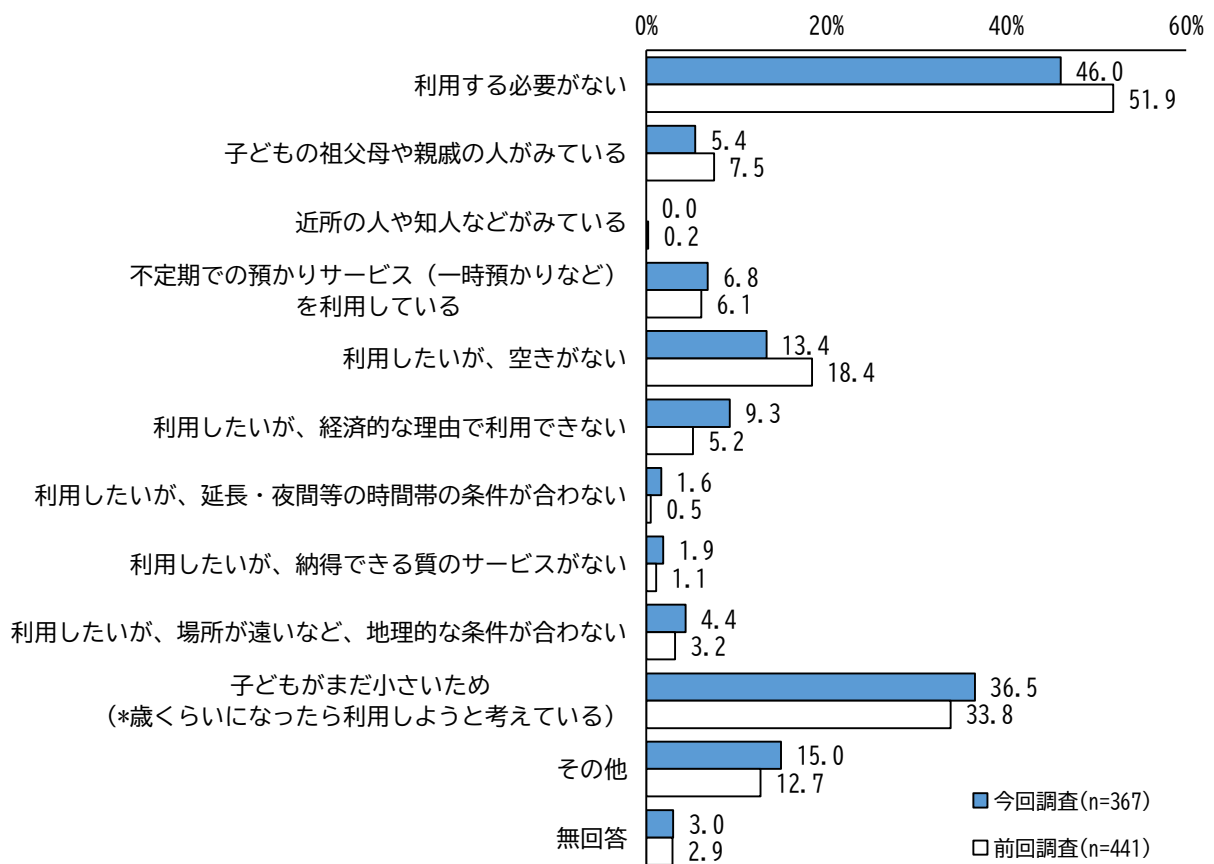
	子どもの教育や発達のため	子育てをしている人が現在就労している	子育てをしている人に就労予定がある／求職中である	子育てをしている人が家族・親族などを介護している	子育てをしている人に病気や障がいがある	子育てをしている人が学生である	その他	無回答
全体(n=845)	59.2	67.7	2.7	1.1	1.3	0.0	1.4	1.8
0歳(n=7)	42.9	57.1	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0
1歳(n=30)	33.3	86.7	3.3	0.0	3.3	0.0	0.0	6.7
2歳(n=108)	32.4	96.3	0.0	0.0	0.9	0.0	2.8	0.9
3歳(n=139)	54.0	71.9	2.9	1.4	3.6	0.0	3.6	0.7
4歳(n=168)	61.9	54.2	4.8	0.6	0.6	0.0	0.6	3.0
5歳(n=173)	73.4	63.0	1.7	1.7	1.2	0.0	1.2	2.3
6歳(n=204)	67.2	61.3	2.5	1.0	0.5	0.0	0.0	1.0

【問9で「2. 利用していない」を選択した方】

問9－4 平日に定期的に施設やサービスを利用していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

平日に定期的に施設やサービスを利用していない理由については、「利用する必要がない（子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないため等）」が46.0%で最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため（□歳くらいになったら利用しようと考えている）」が36.5%、「利用したいが、空きがない」が13.4%となっています。

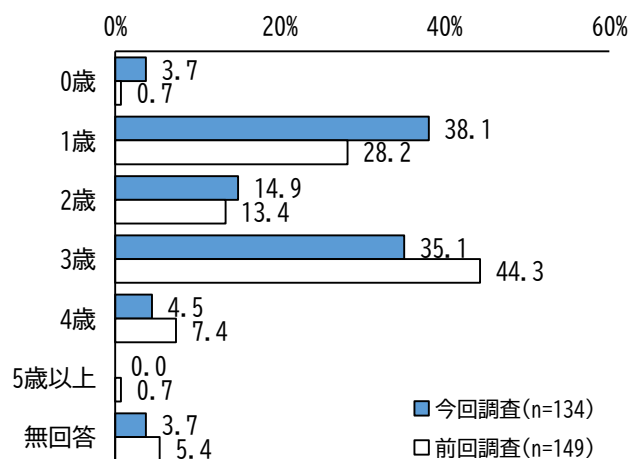
前回調査と比較すると、「利用する必要がない」は5.9ポイント減少、「利用したいが、空きがない」は5.0ポイント減少しています。一方、「利用したいが、経済的な理由で利用できない」は4.1ポイント増加しています。



○問9－4で「子どもがまだ小さいため（□歳くらいになったら利用しようと考えている）」を選択した方が、利用を考えているお子さんの年齢

利用しようと考えている子どもの年齢については、「1歳」が38.1%で最も高く、次いで「3歳」が35.1%、「2歳」が14.9%となっています。

前回調査と比較すると、0～2歳の割合が増加しており、特に「1歳」が9.9ポイント増加しています。

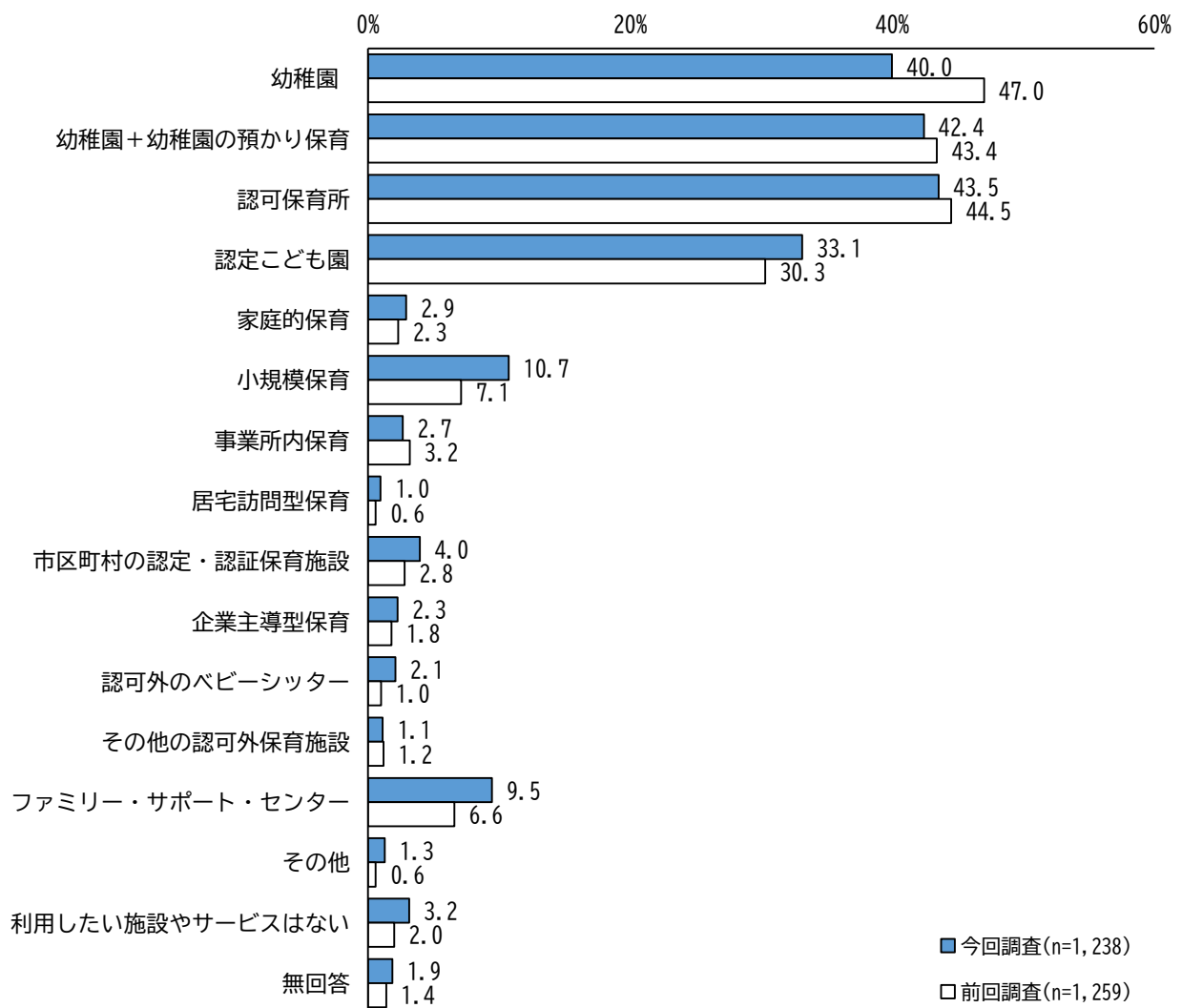


【すべての方にうかがいます。】

問 10 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛て名のお子さんを平日に預ける場として「定期的に」利用したいと考える施設やサービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

平日に預ける場として「定期的に」利用したいと考える施設やサービスについては、「認可保育所」が43.5%で最も高く、次いで「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」が42.4%、「幼稚園」が40.0%、「認定こども園」が33.1%となっています。

前回調査と比較すると、「幼稚園」が7.0ポイント減少しています。その他の施設やサービスはおおむね前回と同様の傾向となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～1歳では「認可保育所」が、2～3歳では「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」がそれぞれ最も高く、5歳以上では、それらが同程度となっています。

問10 平日に定期的に利用したい施設やサービス

単位：％

	幼稚園	幼稚園＋幼稚園の預かり保育	認可保育所	認定こども園	家庭的保育	小規模保育	事業所内保育	居宅訪問型保育
全体(n=1,238)	40.0	42.4	43.5	33.1	2.9	10.7	2.7	1.0
0歳(n=121)	39.7	34.7	59.5	47.9	6.6	20.7	2.5	1.7
1歳(n=169)	32.0	32.5	60.9	41.4	5.9	24.3	4.7	0.0
2歳(n=183)	37.2	53.6	48.1	37.2	3.8	16.4	2.7	2.2
3歳(n=181)	40.9	44.8	36.5	29.8	1.7	6.1	2.2	1.1
4歳(n=175)	41.7	40.0	32.6	24.6	1.1	5.1	1.7	0.6
5歳(n=177)	43.5	43.5	32.8	29.9	0.6	2.8	1.1	0.0
6歳(n=212)	44.3	44.8	41.5	27.8	2.4	4.7	3.8	1.4

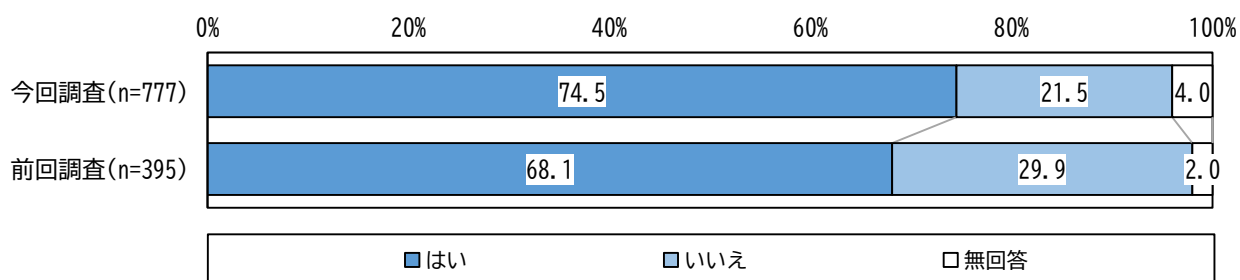
	市区町村の認定・認証保育施設	企業主導型保育	認可外のベビーシッター	その他の認可外保育施設	ファミリー・サポート・センター	その他	利用したい施設やサービスはない	無回答
全体(n=1,238)	4.0	2.3	2.1	1.1	9.5	1.3	3.2	1.9
0歳(n=121)	4.1	0.8	2.5	2.5	5.0	0.0	2.5	0.8
1歳(n=169)	4.1	1.8	2.4	0.6	8.3	0.6	3.0	3.0
2歳(n=183)	7.7	4.4	2.2	1.1	13.7	1.1	3.8	2.2
3歳(n=181)	2.2	2.2	2.2	1.7	12.7	1.1	1.7	1.7
4歳(n=175)	2.3	1.7	2.3	0.6	9.1	1.7	4.0	0.6
5歳(n=177)	2.3	1.7	2.8	1.1	9.6	2.3	3.4	2.3
6歳(n=212)	4.7	2.4	0.9	0.9	7.5	1.9	3.3	2.4

【問 10 で「1」～「2」、かつ「3」～「13」を選択した方におうかがいします】

問 10－1 特に幼稚園（幼稚園の預かり保育を合わせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。（○は1つ）

幼稚園の利用を強く希望するかについては、「はい」が 74.5%で、「いいえ」の 21.5%を上回っています。

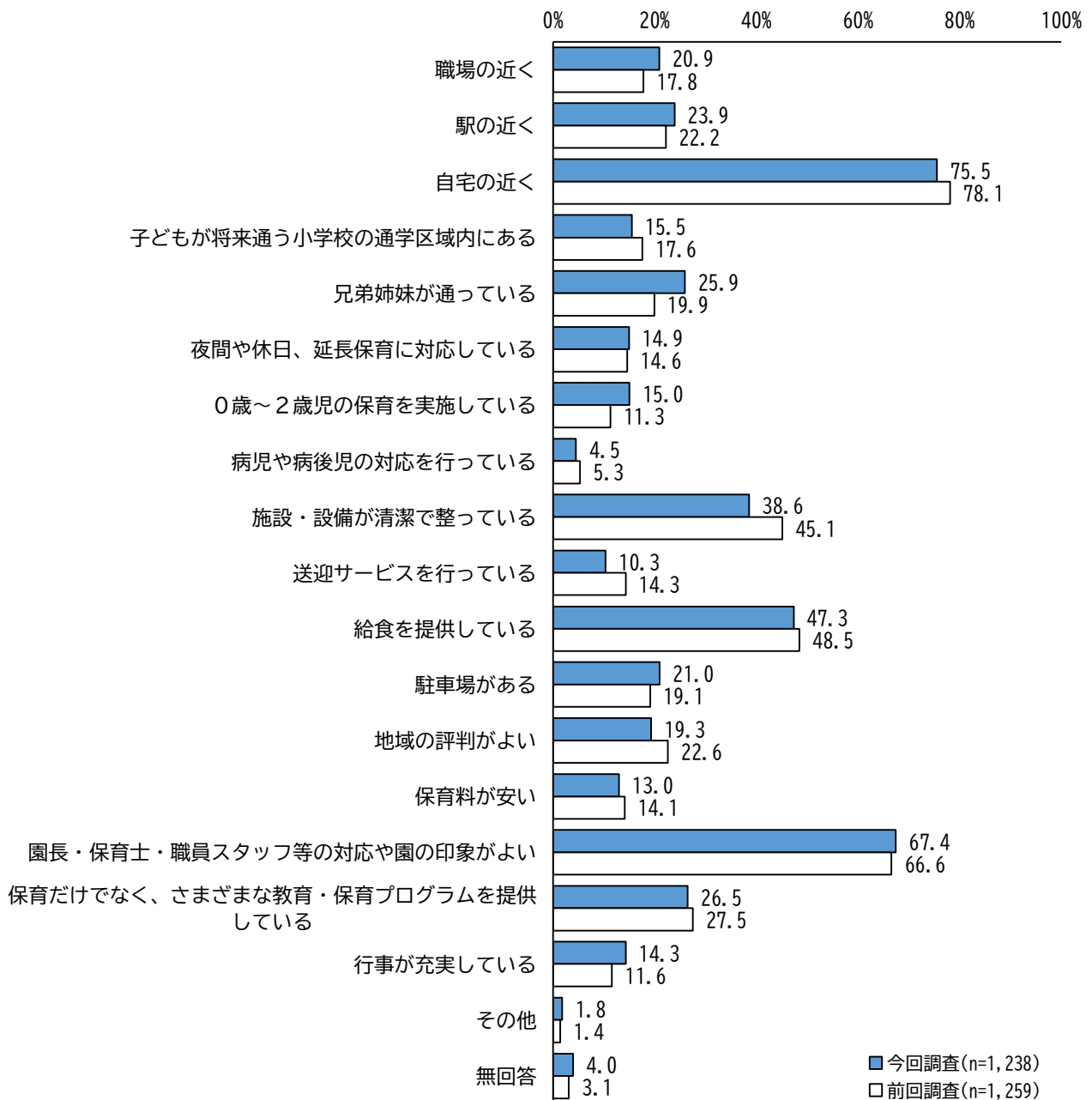
前回調査と比較すると、「はい」が 6.4 ポイント増加しています。



問 11 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛て名のお子さんを平日に預ける施設やサービスを選ぶ際に、重視する点はどのようなことですか。（○は5つまで。記号ア～ク（駅名）は1つに○）

お子さんを平日に預ける施設やサービスを選ぶ際に重視する点については、「自宅の近く」が75.5%で最も高く、次いで「園長・保育士・職員スタッフ等の対応や園の印象がよい」が67.4%、「給食を提供している」が47.3%、「施設・設備が清潔で整っている」38.6%となっています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



【年齢別】

年齢別にみると、すべての年齢で「自宅の近く」が最も高くなっています。また、全ての年齢で「園長・保育士・職員スタッフ等の対応や園の印象がよい」が次いで高くなっています。

問11 平日に預ける施設やサービスを選ぶ際に重視する点

単位：％

	職場の近く	駅の近く	自宅の近く	子どもが将来通う小学校の通学区域内にある	兄弟姉妹が通っている	夜間や休日、延長保育に対応している	0歳～2歳児の保育を実施している
全体(n=1,238)	20.9	23.9	75.5	15.5	25.9	14.9	15.0
0歳(n=121)	16.5	32.2	77.7	11.6	31.4	17.4	33.9
1歳(n=169)	24.9	30.8	79.3	11.8	23.1	15.4	29.6
2歳(n=183)	20.8	27.3	74.3	9.3	31.7	18.6	21.9
3歳(n=181)	18.8	28.2	80.1	13.3	22.7	18.8	9.9
4歳(n=175)	24.6	22.9	73.1	16.6	27.4	10.3	6.9
5歳(n=177)	15.3	13.6	74.6	20.9	23.7	13.6	5.6
6歳(n=212)	24.5	18.9	71.2	21.7	23.6	12.3	6.6

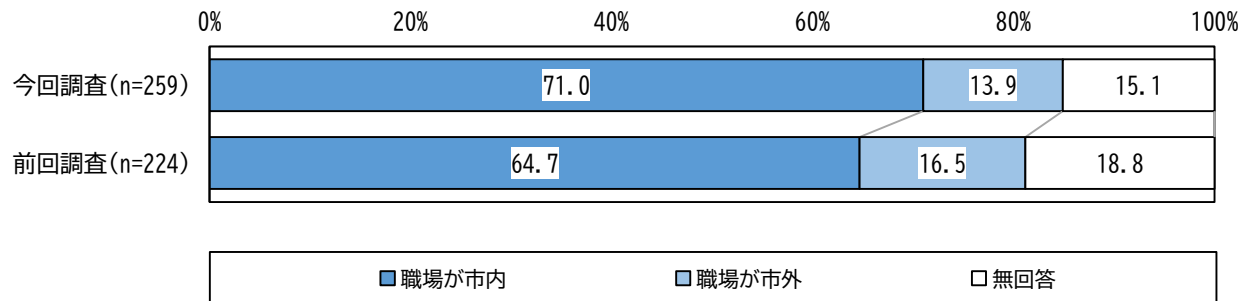
	病児や病後児の対応を行っている	施設・設備が清潔で整っている	送迎サービスを行っている	給食を提供している	駐車場がある	地域の評判がよい	保育料が安い
全体(n=1,238)	4.5	38.6	10.3	47.3	21.0	19.3	13.0
0歳(n=121)	4.1	43.0	8.3	33.1	17.4	25.6	17.4
1歳(n=169)	4.1	46.7	6.5	41.4	17.8	21.9	19.5
2歳(n=183)	4.4	31.7	8.7	49.2	23.5	23.5	14.2
3歳(n=181)	7.7	41.4	11.6	53.6	18.8	21.0	11.6
4歳(n=175)	4.6	34.3	13.1	40.6	20.6	13.7	14.3
5歳(n=177)	5.1	35.6	9.0	53.1	24.9	13.6	8.5
6歳(n=212)	2.4	41.5	14.2	54.2	21.7	18.9	8.0

	園長・保育士・職員スタッフ等の対応や園の印象がよい	保育だけでなく、さまざまな教育・保育プログラムを提供している	行事が充実している	その他	無回答
全体(n=1,238)	67.4	26.5	14.3	1.8	4.0
0歳(n=121)	71.9	24.8	9.9	1.7	1.7
1歳(n=169)	69.2	22.5	7.1	0.0	3.6
2歳(n=183)	65.6	27.3	16.9	2.2	3.8
3歳(n=181)	71.8	31.5	15.5	1.1	3.9
4歳(n=175)	64.0	24.6	13.1	2.9	3.4
5歳(n=177)	66.7	30.5	19.2	3.4	6.2
6歳(n=212)	67.0	24.5	16.0	1.4	4.2

○「職場の近く」を選択した方の職場の場所（○は1つ）

職場の場所については、「職場が市内」が 71.0%で、「職場が市外」の 13.9%を上回っています。

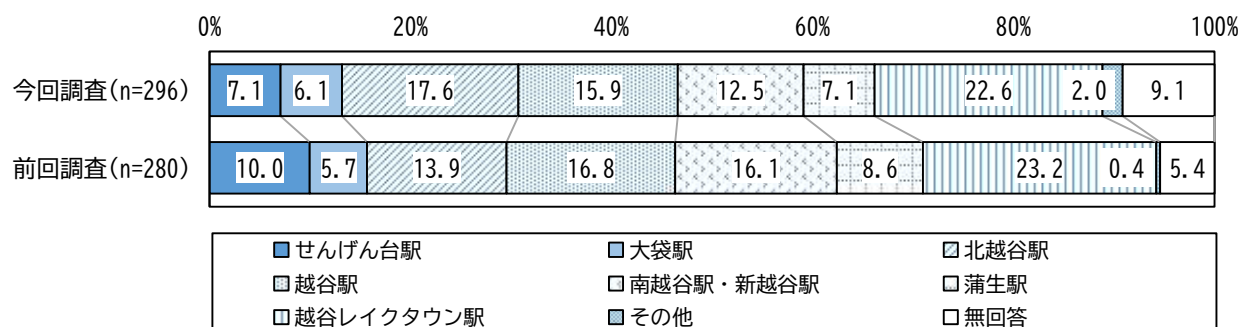
前回調査と比較すると、「職場が市内」が 6.3 ポイント増加しています。



○「駅の近く」を選択した方が利用している駅（○は1つ）

どの駅を利用しているかについては、「越谷レイクタウン駅」が 22.6%で最も高く、次いで「北越谷駅」が 17.6%、「越谷駅」が 15.9%、「南越谷駅・新越谷駅」が 12.5%となっています。

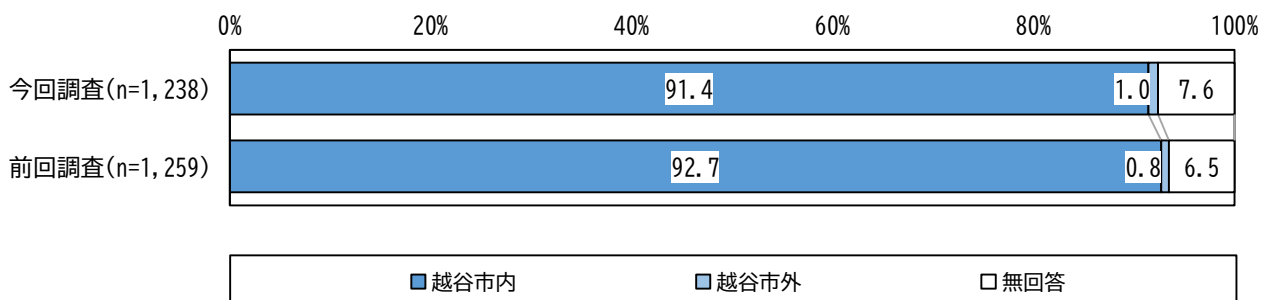
前回調査と比較すると、「北越谷駅」が 3.7 ポイント増加しています。



問 12 あなたは、市内と市外のどちらで定期的に施設やサービスを利用したいですか。（○は1つ）

市内と市外のどちらで定期的に施設やサービスを利用したいかについては、「越谷市内」が 91.4%と大半を占めています。

前回調査と同様に「越谷市内」が大半を占めています。

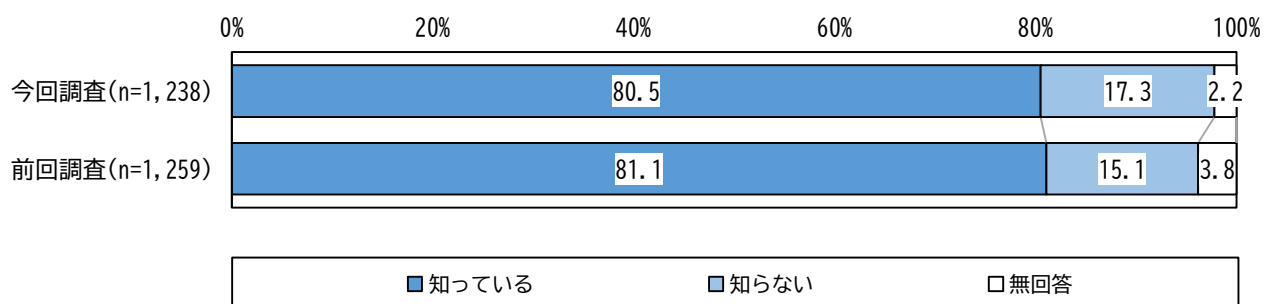


4. 地域の子育て支援事業の利用状況についてうかがいます

問 13 越谷市の地域子育て支援拠点を知っていますか。(○は1つ)

越谷市の地域子育て支援拠点を知っているかについては、「知っている」が 80.5%で、「知らない」の 17.3%を上回っています。

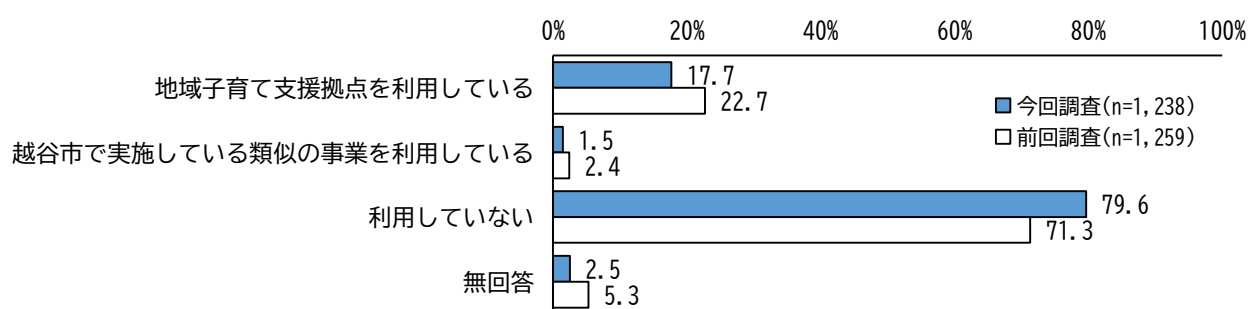
おおむね前回調査と同様の認知度となっています。



問 14 宛て名のお子さんは、現在、越谷市の地域子育て支援拠点を利用していますか。おおよその利用回数（頻度）もご記入ください。（あてはまるものすべてに○。また数字は一律に一字）

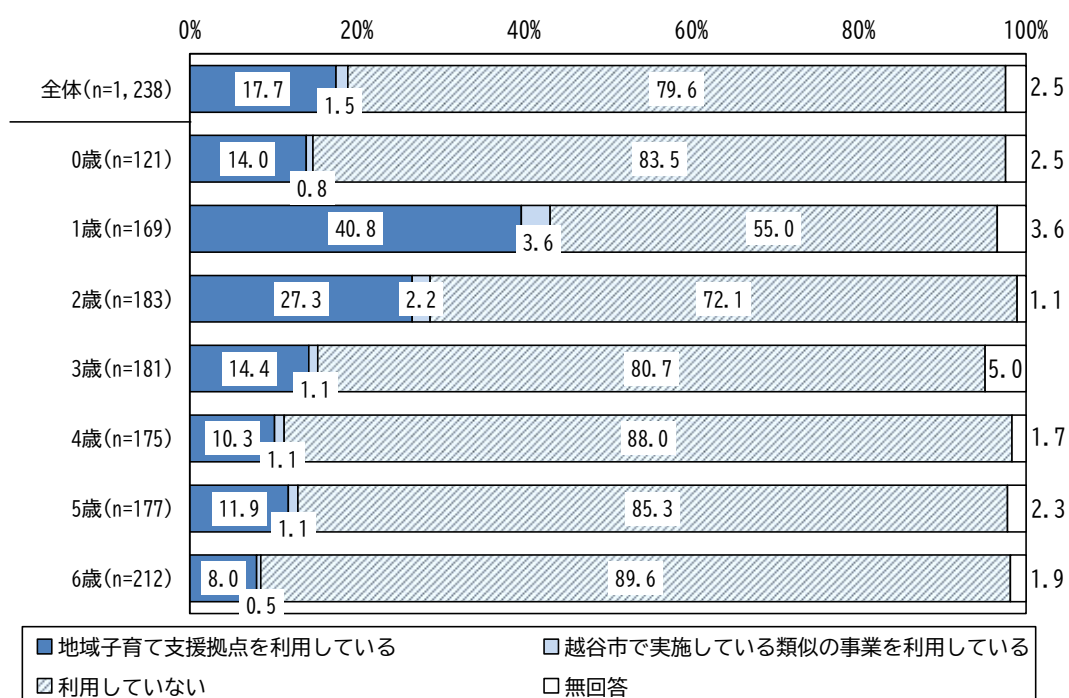
現在、越谷市の地域子育て支援拠点を利用しているかについては、「利用していない」が 79.6%で最も高く、次いで「地域子育て支援拠点を利用している」が 17.7%、「越谷市で実施している類似の事業を利用している」が 1.5%となっています。

前回調査と比較すると、「利用していない」が 8.3 ポイント増加しています。



【年齢別】

年齢別にみると、「地域子育て支援拠点を利用している」は、1歳の40.8%が最も高く、以降年齢が高くなるにつれて低下傾向にあります。



○週・月当たりの利用回数

地域子育て支援拠点の週当たりの利用回数については、「1回」が51.6%で最も高く、次いで「2回」と「3回」がともに21.0%となっています。1か月当たりの利用回数については、「1回」が60.6%で最も高く、次いで「2回」が20.6%となっています。

越谷市で実施している類似の事業の週当たりの利用回数については、「1回」と「3回」がともに50.0%となっています。1か月当たりの利用回数については、「1回」が53.8%で最も高く、次いで「2回」が38.5%となっています。

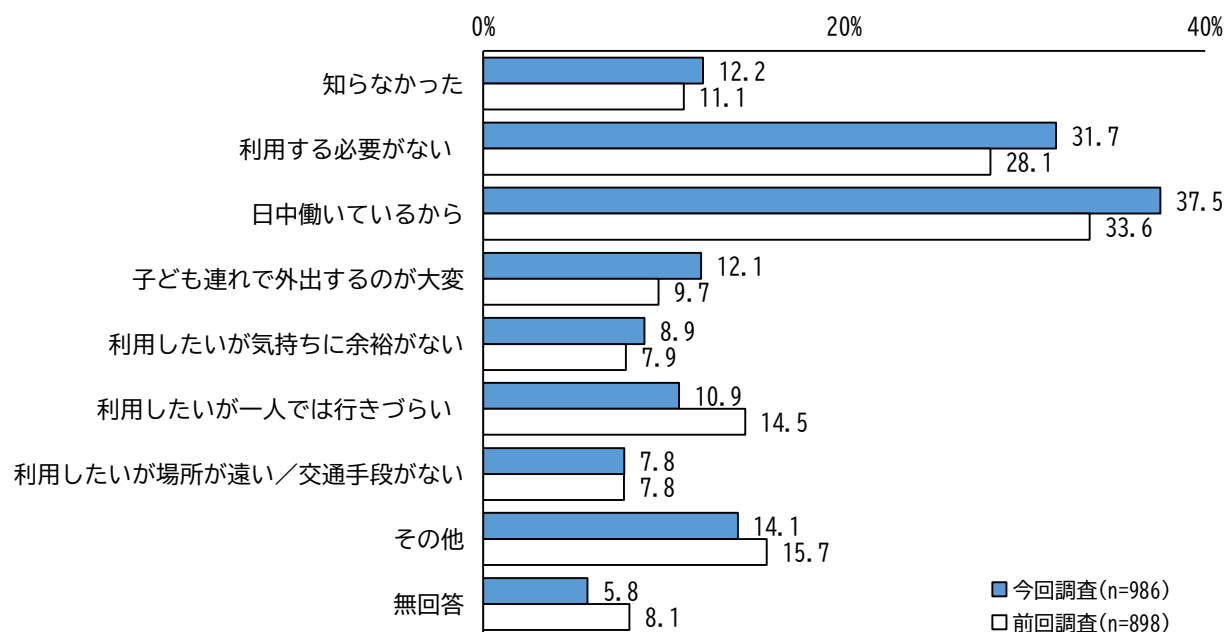
回数	地域子育て支援拠点				越谷市で実施している類似事業			
	週当たり n=62		月当たり n=160		週当たり n=4		月当たり n=13	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1回	32	51.6	97	60.6	2	50.0	7	53.8
2回	13	21.0	33	20.6	0	0.0	5	38.5
3回	13	21.0	17	10.6	2	50.0	1	7.7
4回	3	4.8	9	5.6	0	0.0	0	0.0
5回以上	1	1.6	4	2.5	0	0.0	0	0.0

※無回答を除き集計

○越谷市の地域子育て支援拠点を利用していない理由

越谷市の地域子育て支援拠点を利用していない理由については、「日中働いているから」が37.5%で最も高く、次いで「利用する必要がある」が31.7%、「知らなかった」が12.2%、「子ども連れで外出するのが大変」が12.1%となっています。

前回調査と比較すると、「日中働いているから」が3.9ポイント増加、「利用する必要がある」が3.6ポイント増加しています。



【年齢別／地区別】

年齢別にみると、1 歳では「利用したいが一人では行きづらい」が、2～4 歳では「日中働いているから」が、5 歳以上では「利用する必要がない」が最も高くなっています。

地区別にみると、すべての地区で「日中働いているから」と「利用する必要がない」が上位にあげられています。また、荻島地区では「知らなかった」が他の地区に比べ高くなっています。

問14 越谷市の地域子育て支援拠点を利用していない理由

単位：％

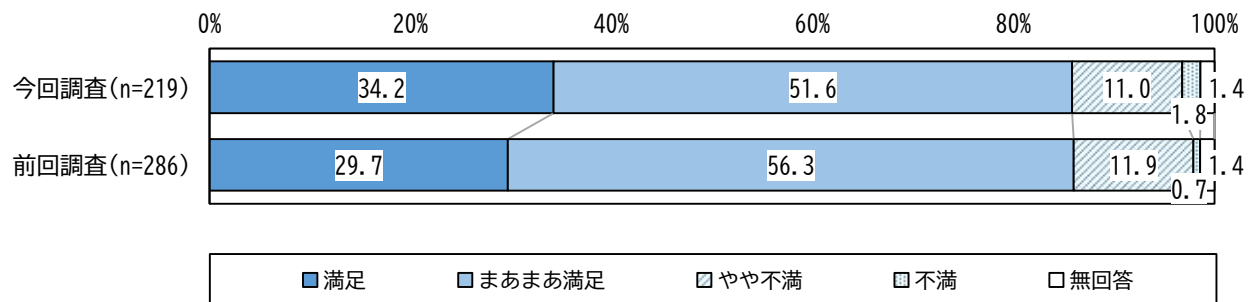
		知らな かった	利用する 必要がな い	日中働い ているか ら	子ども連 れで外出 するのが 大変	利用した いが気持 ちに余裕 がない	利用した いが一人 では行き づらい	利用した いが場所 が遠い／ 交通手段 がない	その他	無回答
全体(n=986)		12.2	31.7	37.5	12.1	8.9	10.9	7.8	14.1	5.8
年 齢 別	0歳(n=101)	20.8	17.8	5.0	14.9	15.8	16.8	8.9	26.7	8.9
	1歳(n=93)	11.8	16.1	20.4	20.4	16.1	26.9	17.2	15.1	5.4
	2歳(n=132)	13.6	22.7	51.5	17.4	14.4	12.9	9.8	9.1	3.8
	3歳(n=146)	13.0	19.2	47.3	17.1	8.2	12.3	9.6	13.7	6.2
	4歳(n=154)	11.7	37.0	39.0	7.8	5.2	7.8	7.1	15.6	3.9
	5歳(n=151)	11.3	43.7	41.1	7.3	0.7	5.3	4.0	11.9	6.6
	6歳(n=190)	7.9	47.4	43.2	6.3	7.9	5.3	3.7	11.1	5.8
地 区 別	桜井地区(n=78)	11.5	29.5	35.9	15.4	6.4	9.0	9.0	12.8	3.8
	新方地区(n=28)	10.7	42.9	39.3	14.3	7.1	14.3	10.7	3.6	3.6
	増林地区(n=98)	10.2	27.6	39.8	12.2	4.1	9.2	7.1	18.4	4.1
	大袋地区(n=117)	9.4	33.3	36.8	11.1	6.8	12.8	10.3	22.2	5.1
	荻島地区(n=29)	27.6	17.2	37.9	13.8	20.7	10.3	6.9	13.8	10.3
	出羽地区(n=86)	11.6	24.4	41.9	7.0	10.5	9.3	9.3	12.8	5.8
	蒲生地区(n=101)	9.9	32.7	26.7	16.8	16.8	14.9	7.9	12.9	5.9
	川柳地区(n=47)	10.6	31.9	53.2	14.9	4.3	8.5	8.5	14.9	6.4
	大相模地区(n=169)	13.6	40.8	39.6	13.6	8.3	10.1	4.1	9.5	4.7
	大沢地区(n=56)	14.3	30.4	32.1	7.1	7.1	8.9	12.5	12.5	7.1
	北越谷地区(n=29)	3.4	27.6	44.8	6.9	10.3	3.4	10.3	27.6	10.3
	越ヶ谷地区(n=64)	18.8	34.4	35.9	9.4	6.3	15.6	9.4	10.9	4.7
	南越谷地区(n=75)	13.3	24.0	38.7	10.7	13.3	10.7	4.0	14.7	6.7

【問 14 で「1. 地域子育て支援拠点を利用している」を選択した方】

問 14-1 越谷市の地域子育て支援拠点を利用した満足度はいかがですか。(○は1つ)

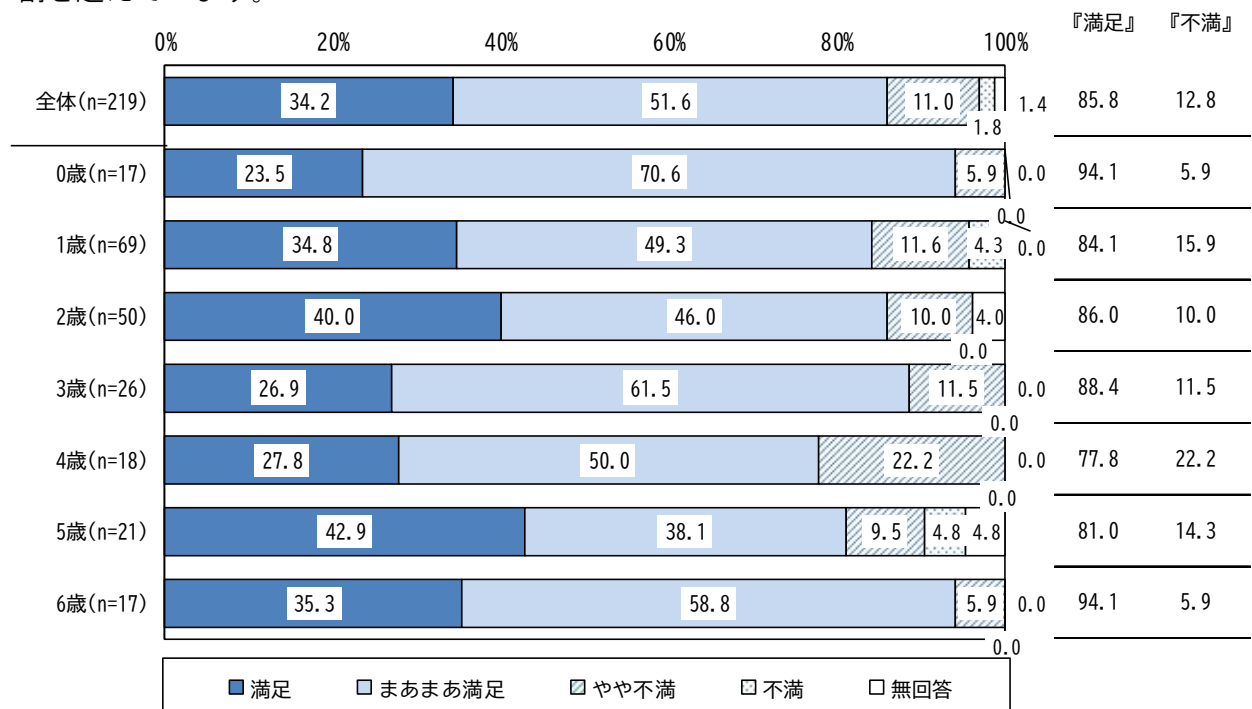
地域子育て支援拠点を利用した満足度については、「満足」と「まあまあ満足」を合わせた『満足』が85.8%で、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』の12.8%を大きく上回っています。

前回調査と比較すると、「満足」が4.5ポイント増加しています。



【年齢別】

年齢別にみると、「満足」と「まあまあ満足」を合計した『満足』の割合は、0歳と6歳で9割を超えています。



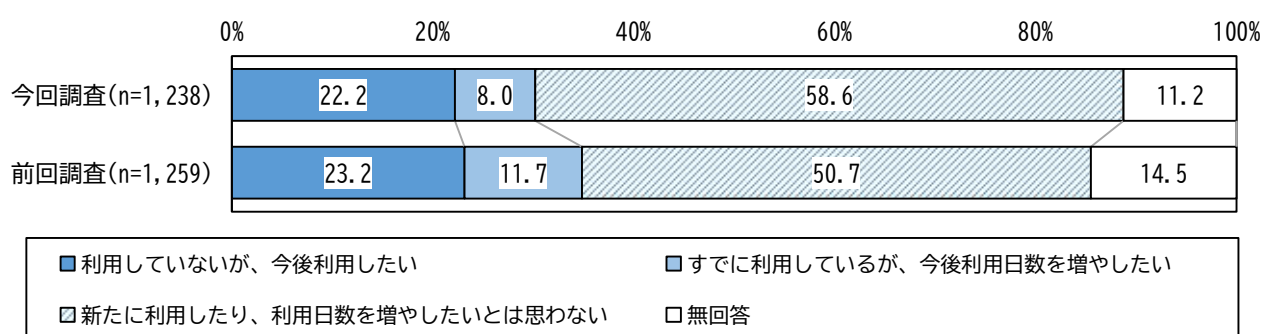
【地域子育て支援拠点を利用して「やや不満」「不満」と感じる理由】

不満と感じる理由 (n=15)
・ 利用しにくい、気軽に利用できない (4件)
・ おもちゃが少ない (3件)
・ 駅や自宅から遠い (3件)
・ 施設の老朽化、雰囲気が悪い (3件)
・ インターネットの情報が古い
・ 年末年始は休みになってしまうため
・ 他市の施設を利用

問 15 問 14 のような地域子育て支援拠点について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。当てはまる番号に○をつけて、おおよその利用回数（頻度）をご記入ください。（○は1つ。また数字は一桁に一字）

地域子育て支援拠点の今後の利用意向については、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が 58.6%で最も高く、次いで「利用していないが、今後利用したい」が 22.2%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が 8.0%となっています。

前回調査と比較すると、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が 7.9ポイント増加しています。



○希望する週・月当たりの利用回数

利用していないが、今後利用したい人の希望する週当たりの利用回数については、「1回」が 78.6%で最も高く、次いで「2回」が 17.3%となっています。1か月当たりの利用回数については、「1回」が 50.0%で最も高く、次いで「2回」が 30.6%となっています。

また、すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい人の希望する週当たりの利用回数については、「1回」が 40.7%で最も高く、次いで「2回」が 33.3%、「3回」が 20.4%となっています。1か月当たりの利用回数については、「2回」が 42.6%で最も高く、次いで「4回」が 20.4%、「3回」が 18.5%となっています。

回数	利用していないが、今後利用したい				すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい			
	週当たり n=98		月当たり n=232		週当たり n=54		月当たり n=54	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1回	77	78.6	116	50.0	22	40.7	2	3.7
2回	17	17.3	71	30.6	18	33.3	23	42.6
3回	3	3.1	16	6.9	11	20.4	10	18.5
4回	0	0.0	15	6.5	2	3.7	11	20.4
5回以上	1	1.0	14	6.0	1	1.9	8	14.8

※無回答を除き集計

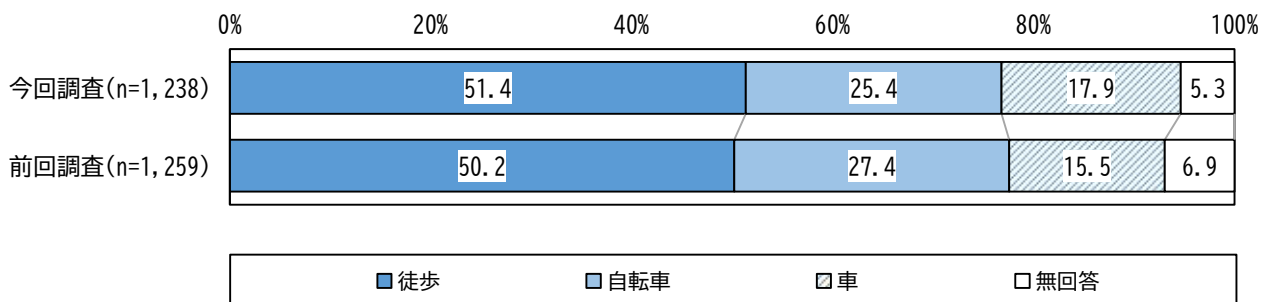
問 16 あなたは、地域子育て支援拠点が徒歩や自転車で、自宅からどれくらいの距離にあれば、利用したいと思いますか。

地域子育て支援拠点への交通手段については、「徒歩」が 51.4%で最も高く、次いで「自転車」が 25.4%、「車」が 17.9%となっています。

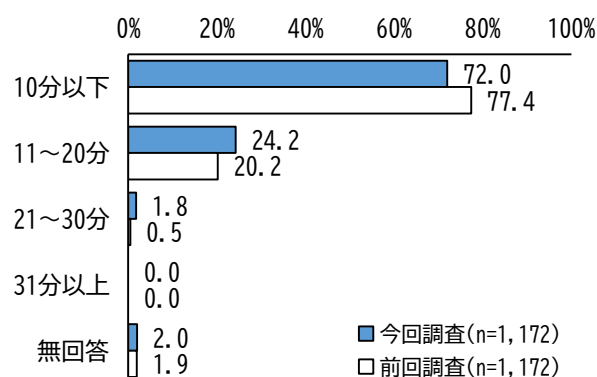
自宅からどれくらいの距離にあれば利用したいかについては、「10 分以下」が 72.0%で最も高く、次いで「11～20 分」が 24.2%、「21～30 分」が 1.8%となっています。

交通手段、自宅からの所要時間ともに、おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。

【交通手段】



【自宅からの所要時間】



【地区別】

地区別にみると、交通手段では、新方地区が「車」が、それ以外の地区では「徒歩」が最も高くなっています。また、自宅からの所要時間については、すべての地区で「10 分以内」が最も高くなっています。

問16 地域子育て支援拠点【交通手段】

単位：％

	徒歩	自転車	車	無回答
全体(n=1,238)	51.4	25.4	17.9	5.3
桜井地区(n=96)	49.0	15.6	30.2	5.2
新方地区(n=36)	19.4	27.8	44.4	8.3
増林地区(n=119)	43.7	21.0	28.6	6.7
大袋地区(n=152)	40.8	31.6	21.7	5.9
荻島地区(n=37)	35.1	32.4	24.3	8.1
出羽地区(n=104)	50.0	32.7	13.5	3.8
蒲生地区(n=139)	60.4	28.1	7.2	4.3
川柳地区(n=56)	51.8	30.4	14.3	3.6
大相模地区(n=212)	58.0	22.2	14.6	5.2
大沢地区(n=67)	50.7	23.9	17.9	7.5
北越谷地区(n=33)	63.6	18.2	15.2	3.0
越ヶ谷地区(n=81)	54.3	29.6	13.6	2.5
南越谷地区(n=97)	69.1	19.6	6.2	5.2

問16 地域子育て支援拠点【所要時間】

単位：％

	10分以下	11～20分	21～30分	31分以上	無回答
全体(n=1,172)	72.0	24.2	1.8	0.0	2.0
桜井地区(n=91)	74.7	20.9	2.2	0.0	2.2
新方地区(n=33)	63.6	36.4	0.0	0.0	0.0
増林地区(n=111)	78.4	18.9	1.8	0.0	0.9
大袋地区(n=143)	74.1	21.7	2.8	0.0	1.4
荻島地区(n=34)	67.6	29.4	2.9	0.0	0.0
出羽地区(n=100)	71.0	29.0	0.0	0.0	0.0
蒲生地区(n=133)	75.2	21.8	0.8	0.0	2.3
川柳地区(n=54)	74.1	24.1	0.0	0.0	1.9
大相模地区(n=201)	70.6	23.9	3.0	0.0	2.5
大沢地区(n=62)	66.1	25.8	1.6	0.0	6.5
北越谷地区(n=32)	68.8	25.0	3.1	0.0	3.1
越ヶ谷地区(n=79)	62.0	34.2	1.3	0.0	2.5
南越谷地区(n=92)	75.0	21.7	1.1	0.0	2.2

5. 土日・休日や長期休暇中の「定期的」な幼稚園や保育園などの利用希望について うかがいます

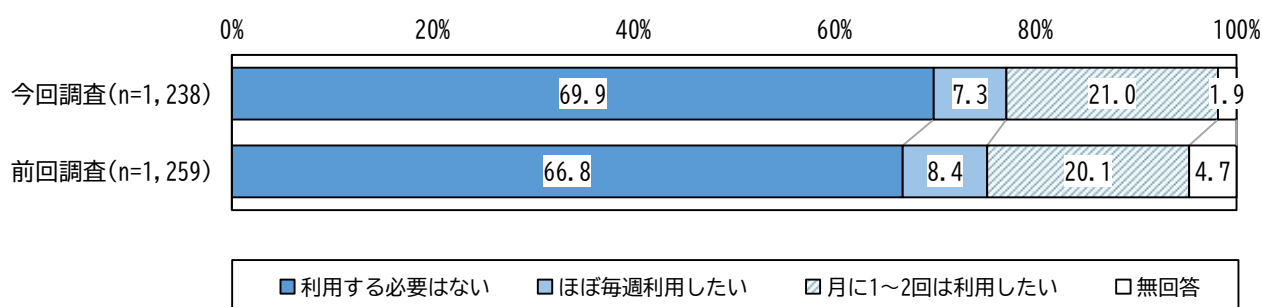
問 17 宛て名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、幼稚園や保育所などの施設やサービスの利用を希望しますか（一時的な利用は除きます）。希望がある場合は、利用したい時間帯を 24 時間表記でご記入ください。一定の利用料（1 時間 500 円～）がかかることをふまえてお答えください。

① 土曜日（○は1つ）

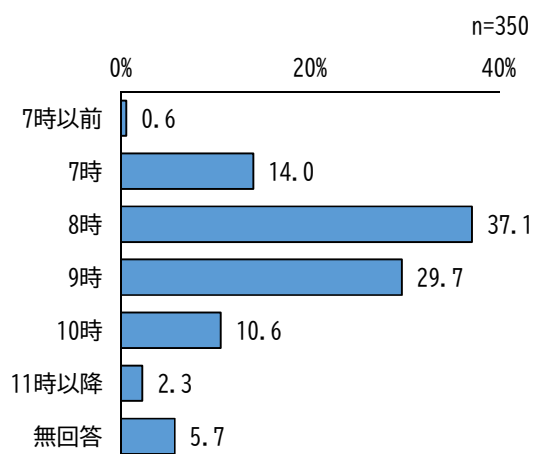
土曜日に、幼稚園や保育所などの施設やサービスの利用を希望するかについては、「利用する必要はない」が 69.9% で最も高く、次いで「月に 1 ～ 2 回は利用したい」が 21.0%、「ほぼ毎週利用したい」が 7.3% となっています。

希望する利用開始時刻については、「8 時」が 37.1% で最も高く、次いで「9 時」が 29.7%、「7 時」が 14.0% となっています。希望する利用終了時刻については、「18 時」が 25.4% で最も高く、次いで「17 時」が 19.4%、「14 時以前」が 15.1% となっています。

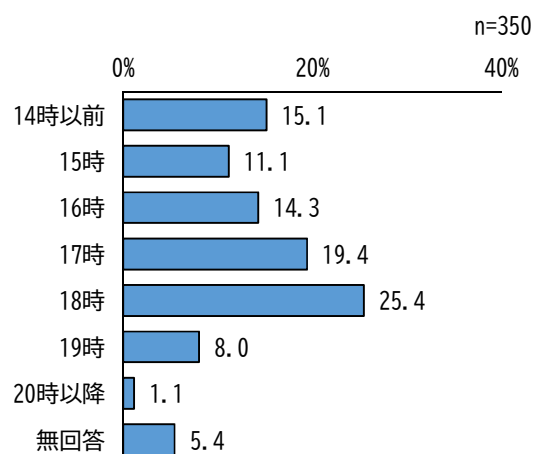
おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



【希望する利用開始時刻】



【希望する利用終了時刻】

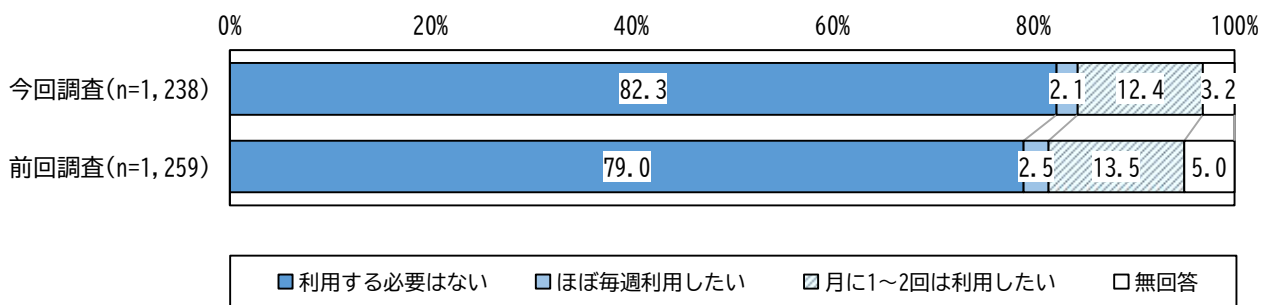


② 日曜・祝日（○は1つ）

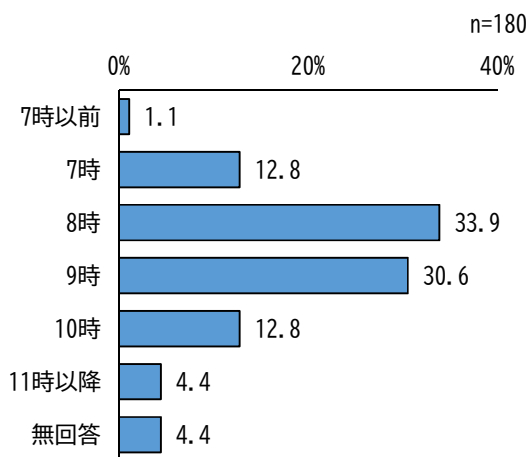
日曜・祝日に、幼稚園や保育所などの施設やサービスの利用を希望するかについては、「利用する必要はない」が 82.3%で最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」が 12.4%、「ほぼ毎週利用したい」が 2.1%となっています。

希望する利用開始時刻については、「8時」が 33.9%で最も高く、次いで「9時」が 30.6%、「7時」と「10時」がともに 12.8%となっています。希望する利用終了時刻については、「18時」が 24.4%で最も高く、次いで「17時」が 22.2%、「16時」が 15.6%、「14時以前」が 13.3%となっています。

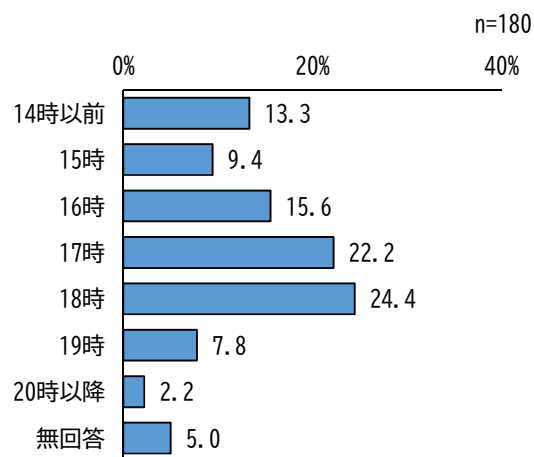
おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



【希望する利用開始時刻】



【希望する利用終了時刻】



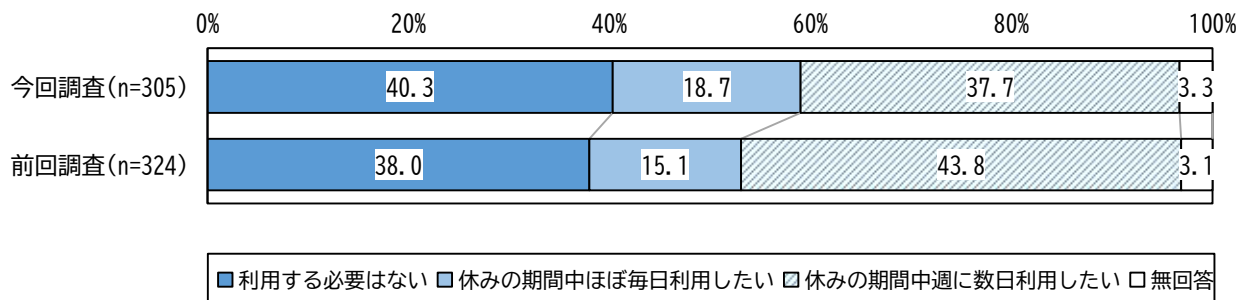
【幼稚園を利用している方】

問 18 宛て名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中に、施設やサービスの利用を希望しますか。希望がある場合は、利用したい時間帯を 24 時間表記でご記入ください。一定の利用料がかかることをふまえてお答えください。（○は 1 つ。また数字は一枠に一字）

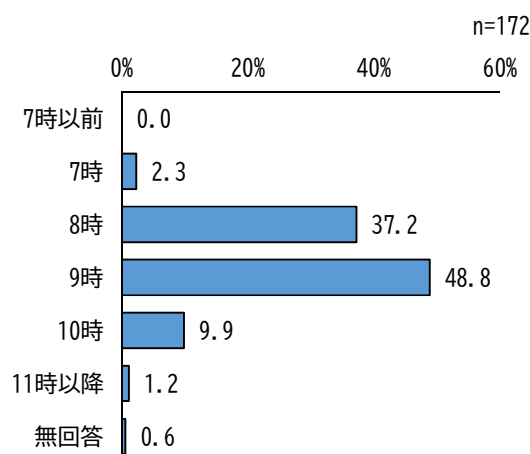
長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望については、「利用する必要はない」が 40.3%で最も高く、次いで、「休みの期間中週に数日利用したい」が 37.7%、「休みの期間中ほぼ毎日利用したい」が 18.7%となっています。

希望する利用開始時刻については、「9 時」が 48.8%で最も高く、次いで「8 時」が 37.2%、「10 時」が 9.9%となっています。希望利用終了時刻については、「15 時」が 21.5%、「17 時」が 20.9%、「14 時以前」が 20.3%、「16 時」が 19.2%、「18 時」が 16.3%など、あまり差がなく並んでいます。

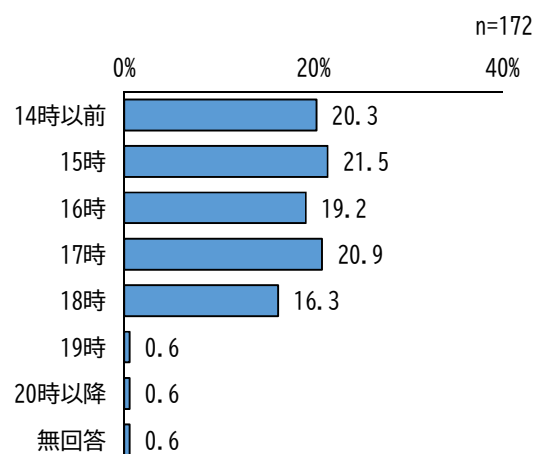
前回調査と比較すると、「休みの期間中ほぼ毎日利用したい」が 3.6 ポイント増加しています。



【希望する利用開始時刻】



【希望する利用終了時刻】



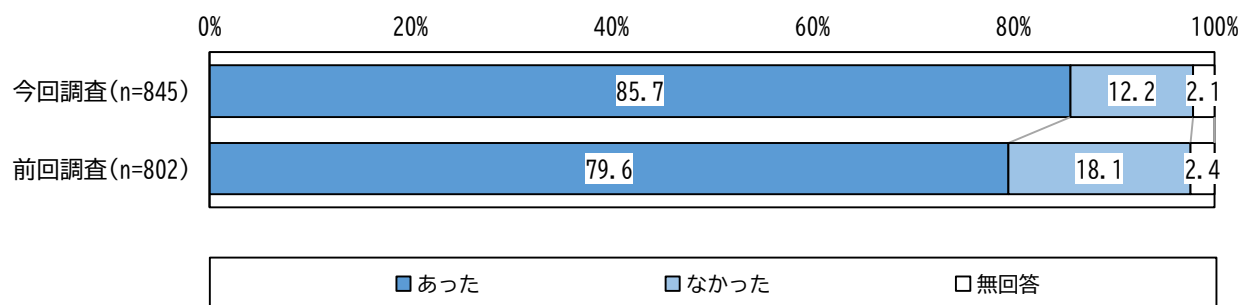
6. お子さんが病気のときなどの対応についてうかがいます

【平日定期的に幼稚園や保育所などを利用していると答えた方】

問 19 この1年間に、宛て名のお子さんが病気やケガで普段利用している施設やサービスが利用できなかったことはありますか。(〇は1つ)

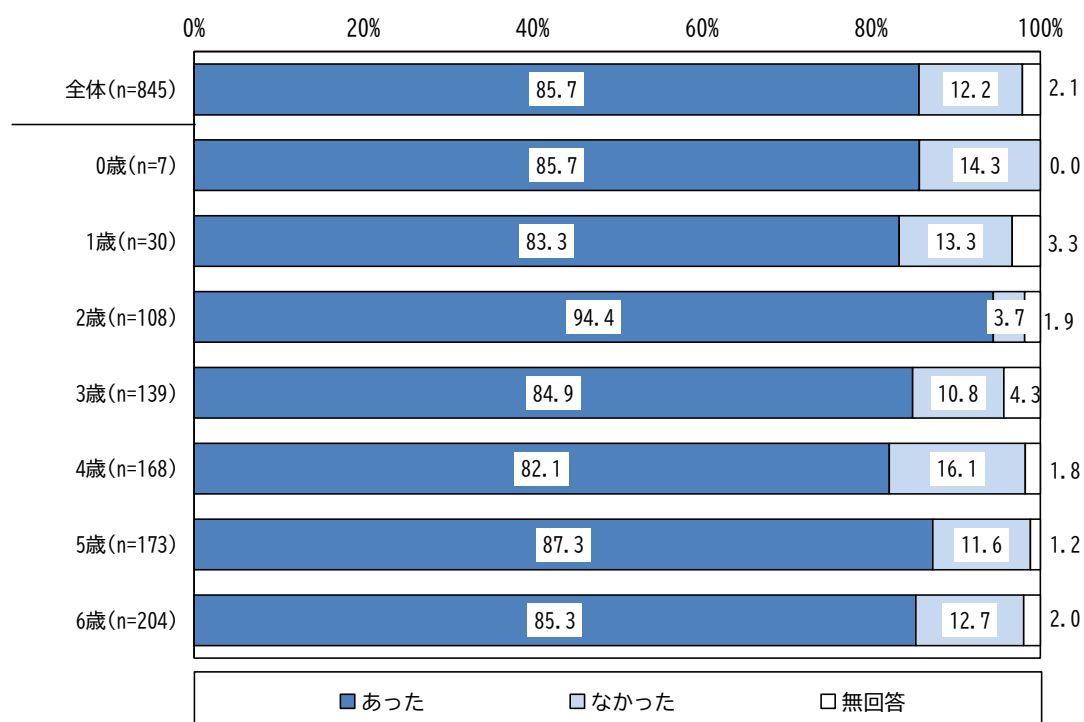
この1年間に、お子さんが病気やケガで普段利用している施設やサービスが利用できなかったことがあるかについては、「あった」が85.7%で、「なかった」の12.2%を上回っています。

前回調査と比較すると、「あった」が6.1ポイント増加しています。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢で「あった」が「なかった」を大きく上回ります。特に2歳では9割を超えています。



【問 19 で「1. あった」を選択した方】

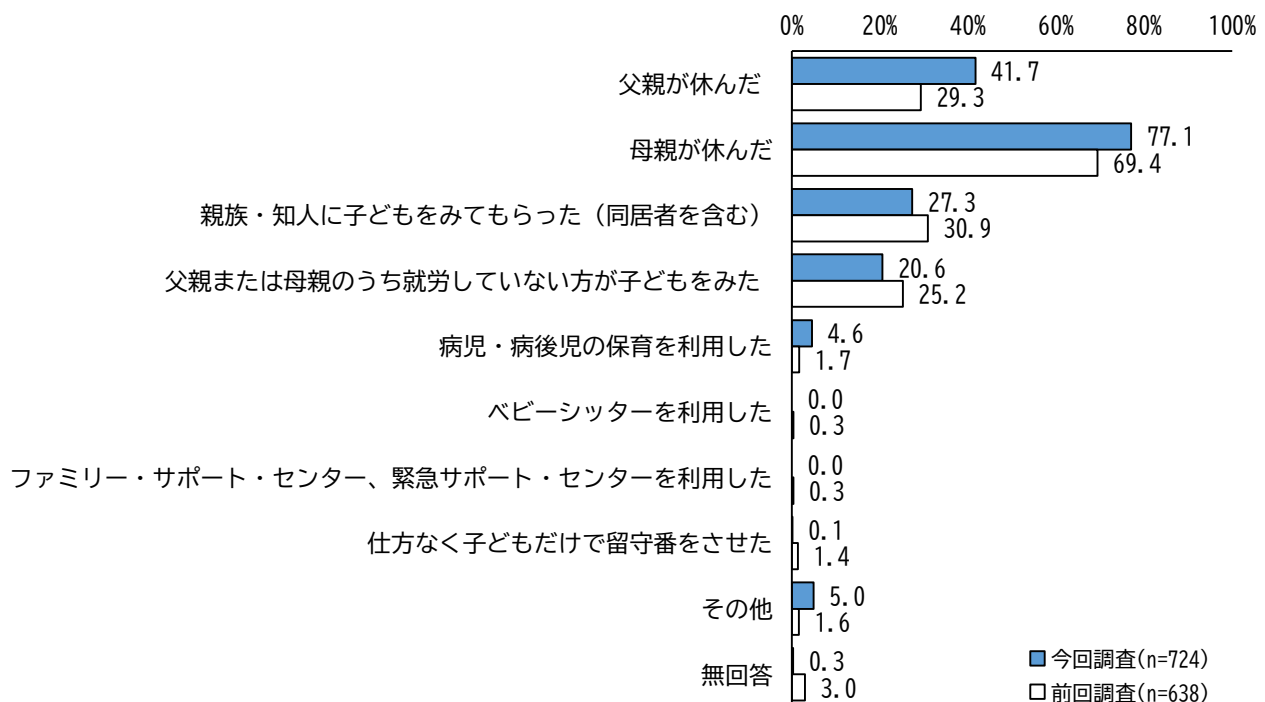
問 19-1 宛て名のお子さんが病気やケガで普段利用している施設やサービスが利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

お子さんが病気やケガで普段利用している施設やサービスが利用できなかった場合の対処法については、「母親が休んだ」が 77.1%で最も高く、次いで「父親が休んだ」が 41.7%、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった」が 27.3%、「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」が 20.6%となっています。

前回調査と比較すると、「父親が休んだ」が 12.4 ポイント増加、「母親が休んだ」が 7.7 ポイント増加しています。

対処方法別の年間日数は、すべての対処方法で「1～10 日」が最も高くなっていますが、「母親が休んだ」や「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」では「11～20 日」も2割を超え高くなっています。

【対処方法】



【対処方法別の1年間の日数】

日数	父親が休んだ n=302		母親が休んだ n=558		親族・知人（同居を含む）に子どもを預けた n=198		父親または母親の働きを補助する n=149		病児・病後児の保育を利用した n=33		仕方なく子どもを預けた n=1		その他 n=36	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1～10日	268	88.7	359	64.3	168	84.8	80	53.7	27	81.8	1	100.0	26	72.2
11～20日	21	7.0	125	22.4	12	6.1	35	23.5	4	12.1	0	0.0	4	11.1
21～30日	2	0.7	30	5.4	1	0.5	16	10.7	1	3.0	0	0.0	2	5.6
31～40日	0	0.0	9	1.6	1	0.5	6	4.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
41～50日	1	0.3	5	0.9	3	1.5	2	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
51日以上	0	0.0	5	0.9	0	0.0	1	0.7	0	0.0	0	0.0	1	2.8
無回答	10	3.3	25	4.5	13	6.6	9	6.0	1	3.0	0	0.0	3	8.3

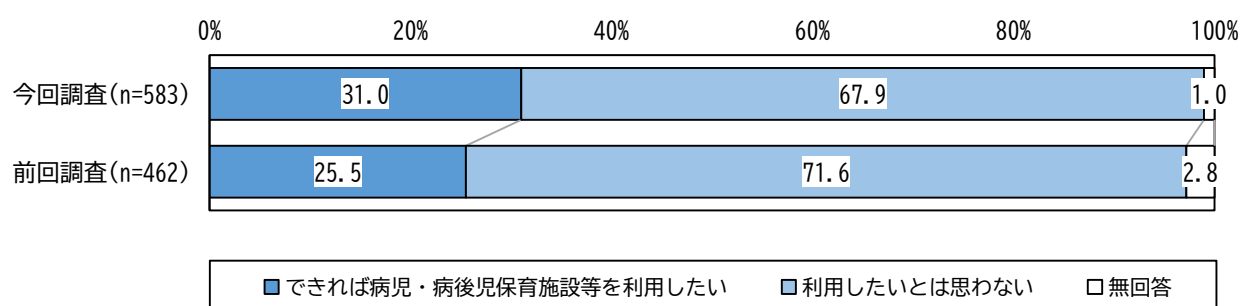
【問 19－1 で「ア. 父親が休んだ」または「イ. 母親が休んだ」を選択した方】

問 19－2 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思いましたか。
(○は1つ)

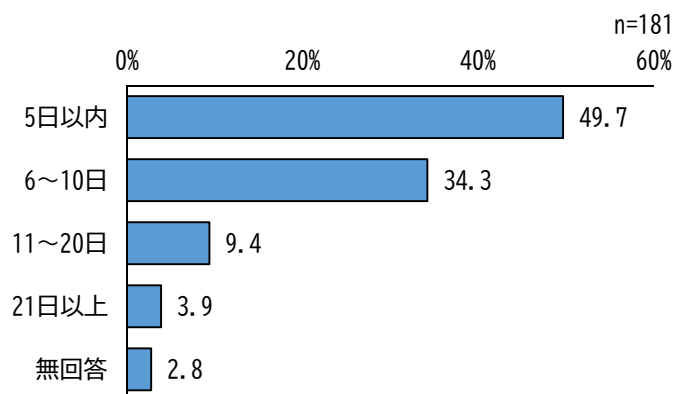
お子さんの病気やケガで父親か母親が休んだ際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったかについては、「利用したいとは思わない」が 67.9%であり、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の 31.0%を上回っています。

前回調査と比較すると、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」が 5.5 ポイント増加しています。

病児・病後児のための保育施設等を利用したい年間日数については、「5 日以内」が 49.7%と最も高く、次いで「6～10 日」が 34.3%となっています。



【病児・病後児保育施設等を利用したい日数（年間）】



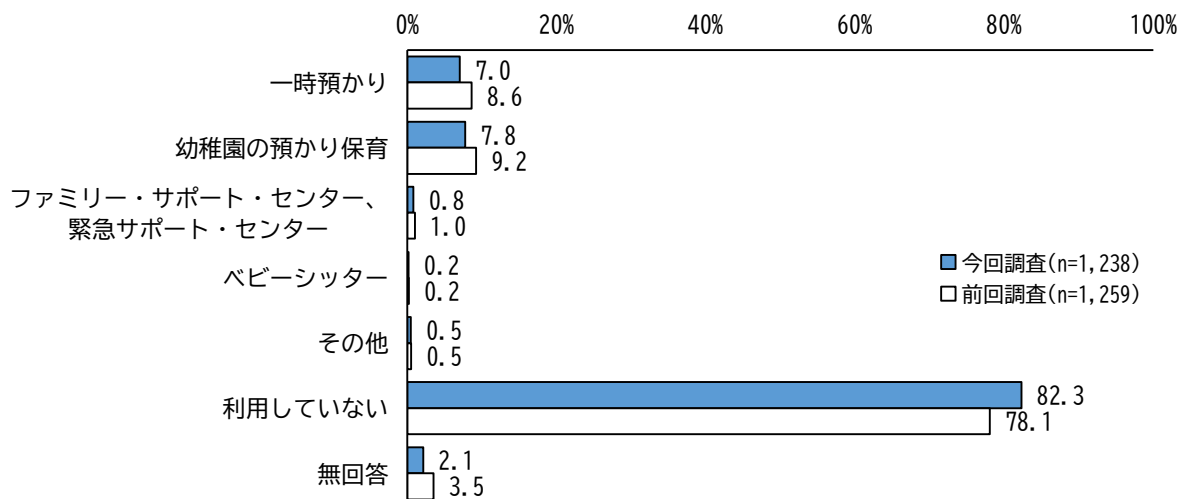
7. 一時預かり等の利用についてうかがいます

問 20 宛て名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労などの理由で、「不定期」に利用しているサービスはありますか。（幼稚園や保育所などの定期的な利用や、子どもが病気の時の保育施設の利用は除きます。）1年間の利用日数（おおよそ）も□の中にご記入ください。（あてはまるものすべてに○）

私用、親の通院、不定期の就労などの理由で、「不定期」に利用しているサービスについては、「利用していない」が82.3%で最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」が7.8%、「一時預かり」が7.0%となっています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。

利用している事業別の1年間の利用日数は、すべてのサービスで「1～10日」が最も多くなっています。



【利用している事業別の1年間の利用日数】

日数	一時預かり		幼稚園の預かり保育		ファミリー・サポート・センター、緊急サポート・センター		ベビーシッター		その他	
	n=87		n=96		n=10		n=2		n=6	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1～10日	58	66.7	67	69.8	8	80.0	1	50.0	2	33.3
11～20日	15	17.2	13	13.5	0	0.0	1	50.0	3	50.0
21～30日	5	5.7	2	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
31～40日	2	2.3	2	2.1	1	10.0	0	0.0	0	0.0
41～50日	2	2.3	3	3.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
51日以上	2	2.3	5	5.2	1	10.0	0	0.0	0	0.0
無回答	3	3.4	4	4.2	0	0.0	0	0.0	1	16.7

問 21 宛て名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労などの理由で、年間何日くらいサービスを利用する必要があると思いますか。利用希望の有無について選択し、必要な日数をご記入ください。一定の利用料（一時預かり 1 時間 500 円～、ファミサポ 700 円～）がかかることをふまえてお答えください。（番号と記号あてはまるものすべてに○。）

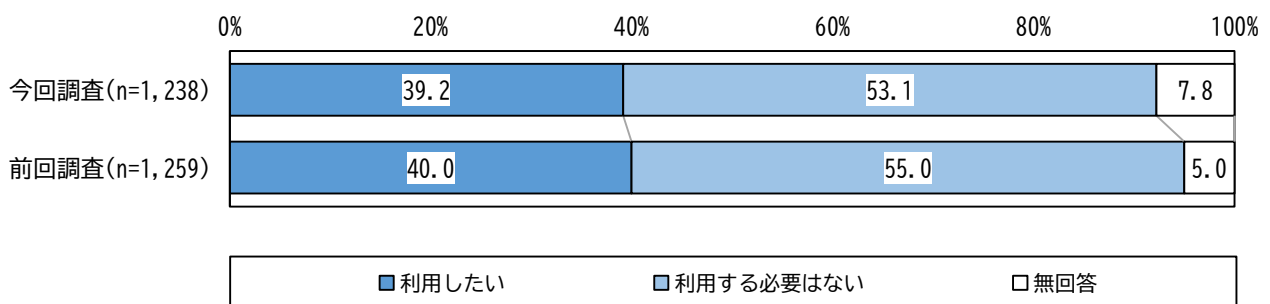
私用、親の通院、不定期の就労等の目的でのサービスの利用希望については、「利用する必要はない」が 53.1%で、「利用したい」の 39.2%を上回っています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。

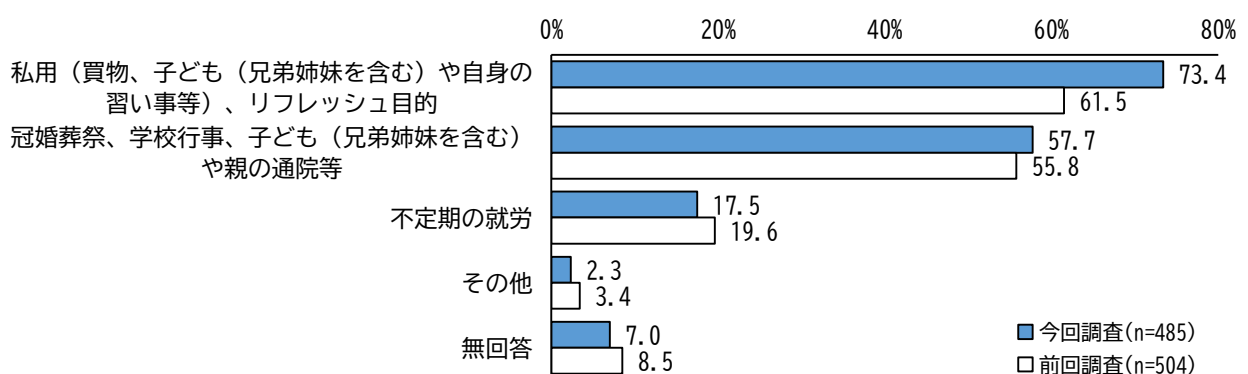
サービスを利用する目的としては、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や自身の習い事等）、リフレッシュ目的」が 73.4%で最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が 57.7%、「不定期の就労」が 17.5%となっています。

前回調査と比較すると、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や自身の習い事等）、リフレッシュ目的」が 11.9 ポイント増加しています。

希望の年間利用日数は、すべての項目で「1～10 日」が最も多くなっています。



【利用したい目的】



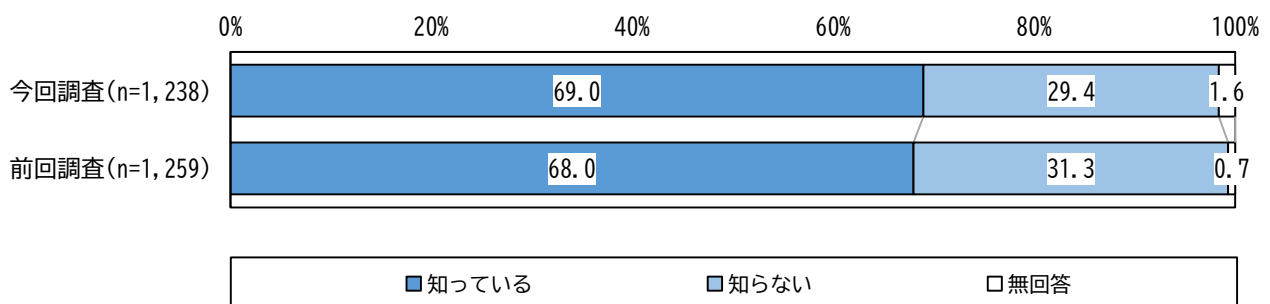
【目的別の1年間の利用希望日数】

日数	目私的、用、レシユ n=156		幼稚園の預かり n=156		親行事、冠の通院、葬祭、子ども学校等 n=10		不定期の就労 n=2		その他 n=6	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1～10日	58	49.9	67	49.1	8	80.0	1	50.0	2	33.3
11～20日	15	15.7	13	7.6	0	0.0	1	50.0	3	50.0
21～30日	5	4.5	2	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
31～40日	2	0.0	2	0.0	1	10.0	0	0.0	0	0.0
41～50日	2	2.5	3	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
51日以上	2	0.8	5	0.0	1	10.0	0	0.0	0	0.0
無回答	3	26.6	4	42.3	0	0.0	0	0.0	1	16.7

問 22 越谷市の子どもの一時預かり事業を知っていますか。(○は1つ)

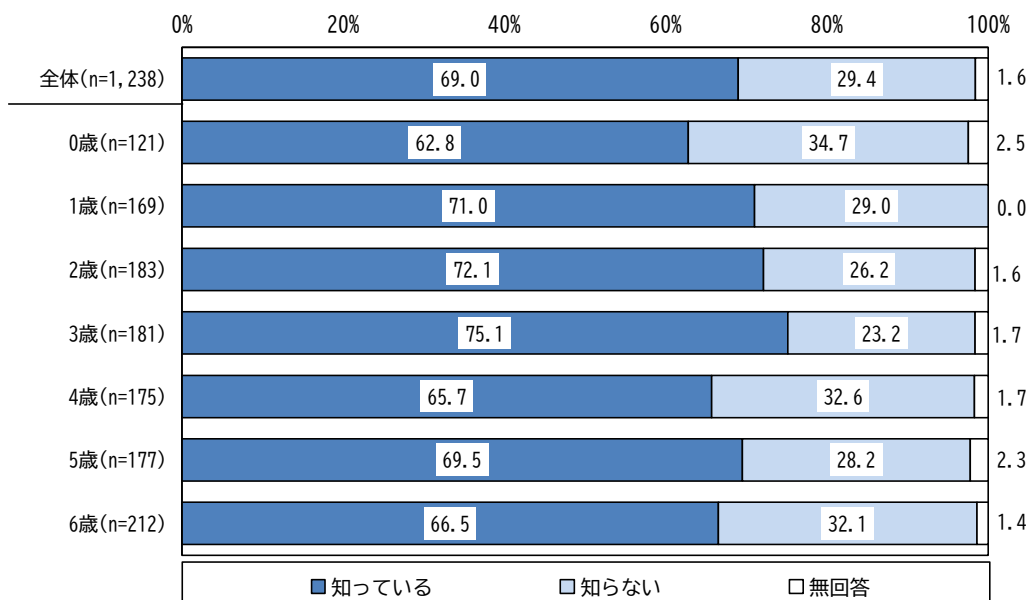
越谷市の子どもの一時預かり事業の認知度については、「知っている」が 69.0%で、「知らない」の 29.4%を上回っています。

おおむね前回調査と同様の認知度となっています。



【年齢別】

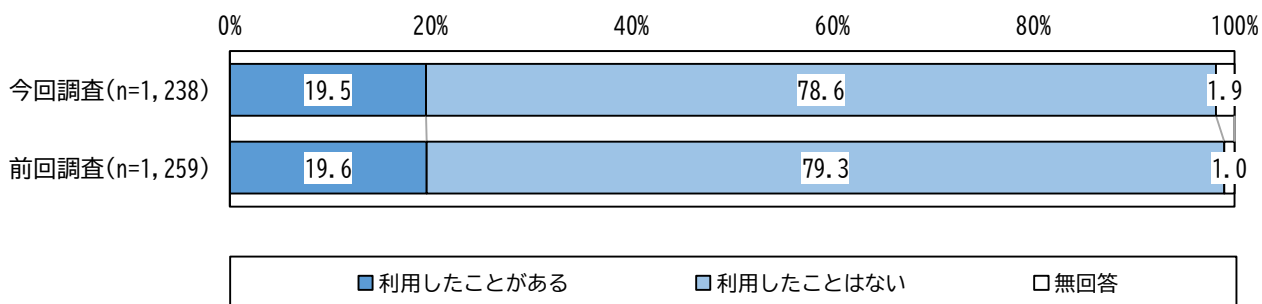
年齢別にみると、全ての年齢で「知っている」が「知らない」を大きく上回ります。特に3歳では1～3歳で7割を超えています。



問 23 越谷市内の子どもの一時預かり事業を利用したことがありますか。(○は1つ)

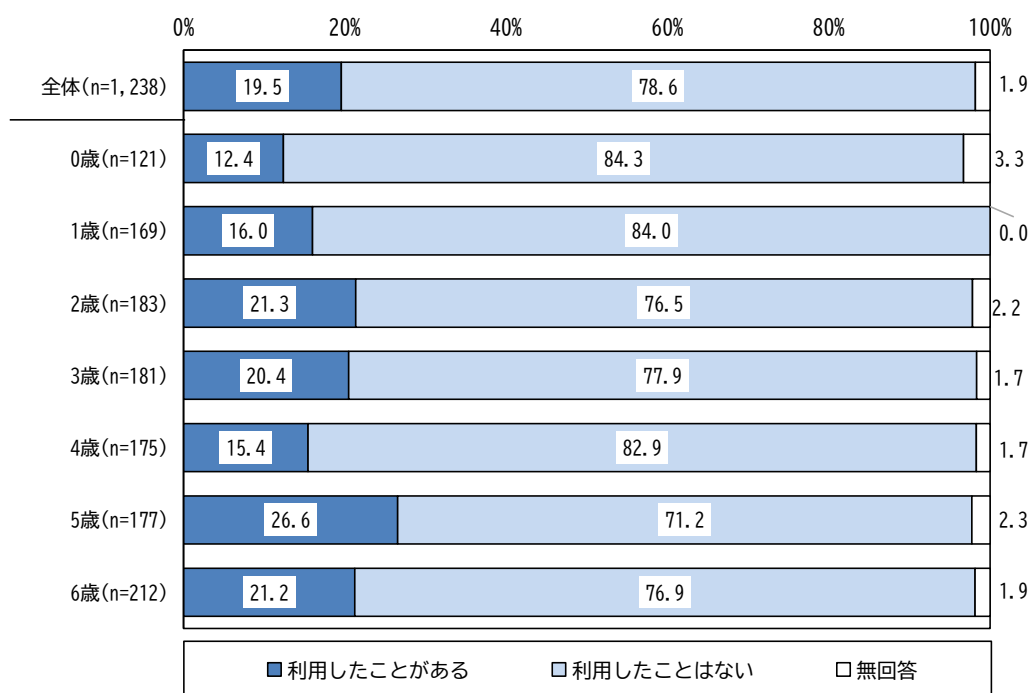
越谷市内の子どもの一時預かり事業を利用したことがあるかについては、「利用したことはない」が78.6%で、「利用したことがある」の19.5%を上回っています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢で「利用したことはない」が「利用したことがある」を大きく上回ります。「利用したことがある」は5歳の26.6%が最も高くなっています。

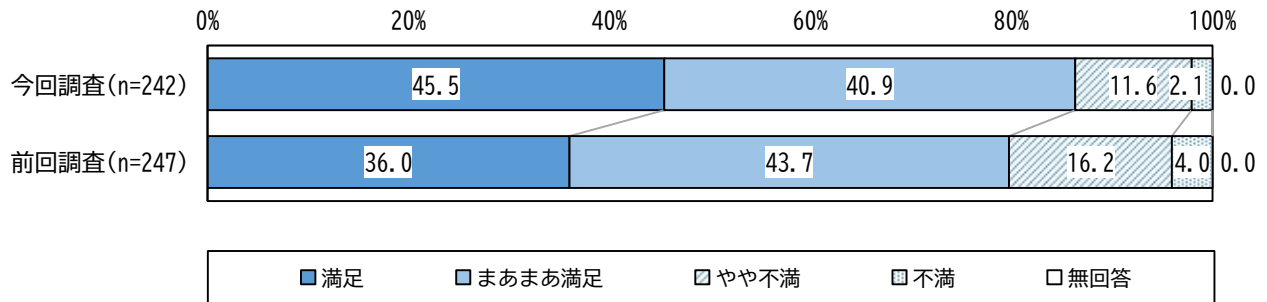


【問 23 で「1. 利用したことがある」を選択した方】

問 23-1 越谷市内の子どもの一時預かり事業を利用した満足度はいかがですか。(○は1つ)

越谷市内の子どもの一時預かり事業を利用した満足度については、「満足」と「まあまあ満足」を合わせた『満足』が 86.4%で、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』の 13.6%を大きく上回っています。

前回調査と比較すると、「満足」が 9.5 ポイント増加しています。



【一時預かり事業を利用して「やや不満」「不満」と感じる理由】

不満と感じる理由 (n=16)

- ・ 予約が取りにくい、予約が取れず利用ができなかった (4 件)
- ・ 利用料金が高い (4 件)
- ・ こどもが預かりに慣れなかった (2 件)
- ・ 利用してこどもがケガをした (2 件)
- ・ 当日予約ができない
- ・ 年末年始にやっていない
- ・ 近くに利用できる場所がない
- ・ 1 歳未満の利用箇所が少ない
- ・ 預かりの体制が不十分
- ・ こどもと保育士が合わなかった
- ・ 施設が不衛生な印象だった

問 24 宛て名のお子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。

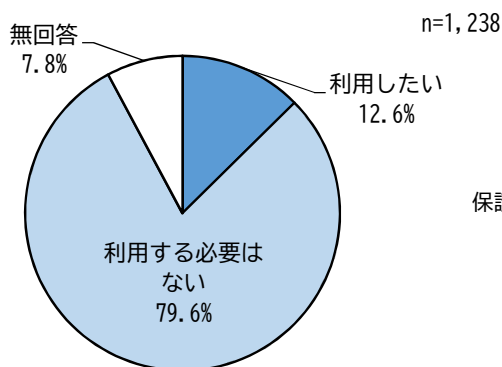
子育て短期支援事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）の利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な泊数をご記入ください。なお事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

子育て短期支援事業（ショートステイ）の利用意向については、「利用する必要はない」が79.6%で、「利用したい」の12.6%を上回っています。

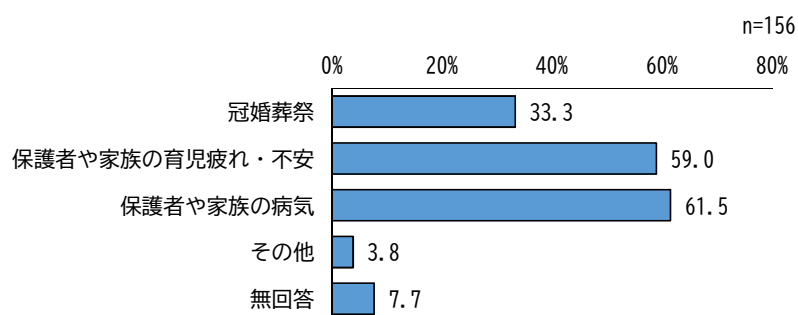
利用目的の内訳は、「保護者や家族の病気」が61.5%、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が59.0%、「冠婚葬祭」が33.3%となっています。

また、希望する利用目的別の宿泊日数については、いずれの利用目的でも「1～10泊」が最も高くなっています。

【利用希望の有無】



【利用目的の内訳】

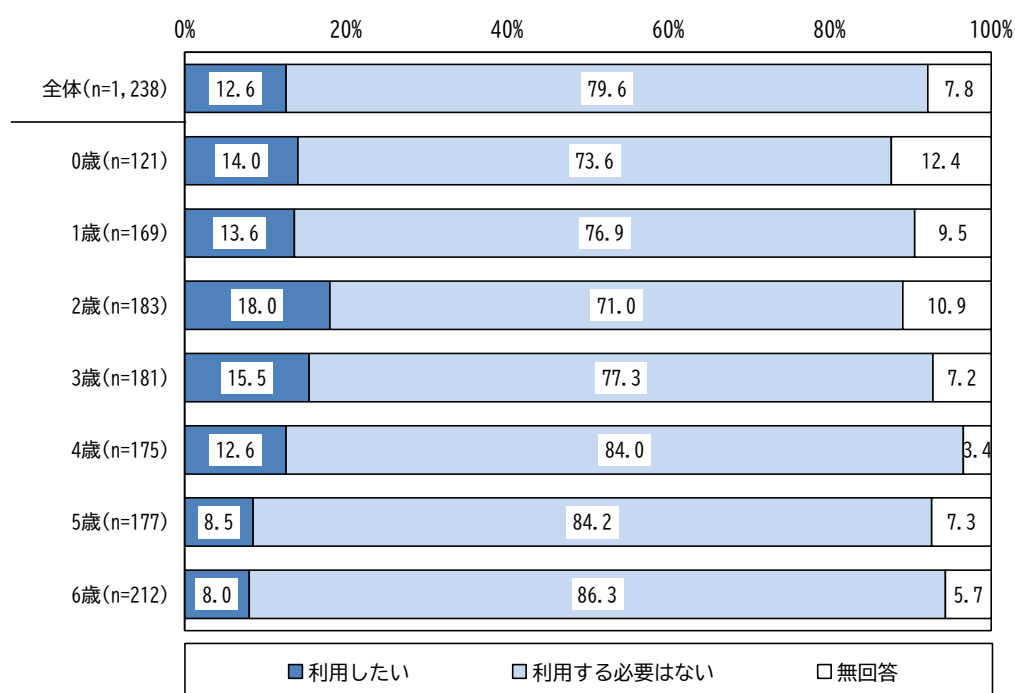


【希望する利用目的別の宿泊日数】

日数	冠 婚 葬 祭		育 保 児 護 疲 者 れ や ・ 家 不 族 安 の		病 保 気 護 者 や 家 族 の		そ の 他	
	n=52		n=92		n=96		n=7	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1～5泊	48	92.3	67	72.8	75	78.1	4	57.1
6～10泊	3	5.8	16	17.4	16	16.7	2	28.6
11～20泊	0	0.0	7	7.6	2	2.1	1	14.3
21～30泊	1	1.9	1	1.1	3	3.1	0	0.0
31～40泊	0	0.0	1	1.1	0	0.0	0	0.0
41～50泊	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
51泊以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢で「利用する必要はない」が「利用したい」を大きく上回ります。「利用したい」は2歳の18.0%が最も高くなっています。



【平日定期的に幼稚園や保育所などを利用していないと答えた方】

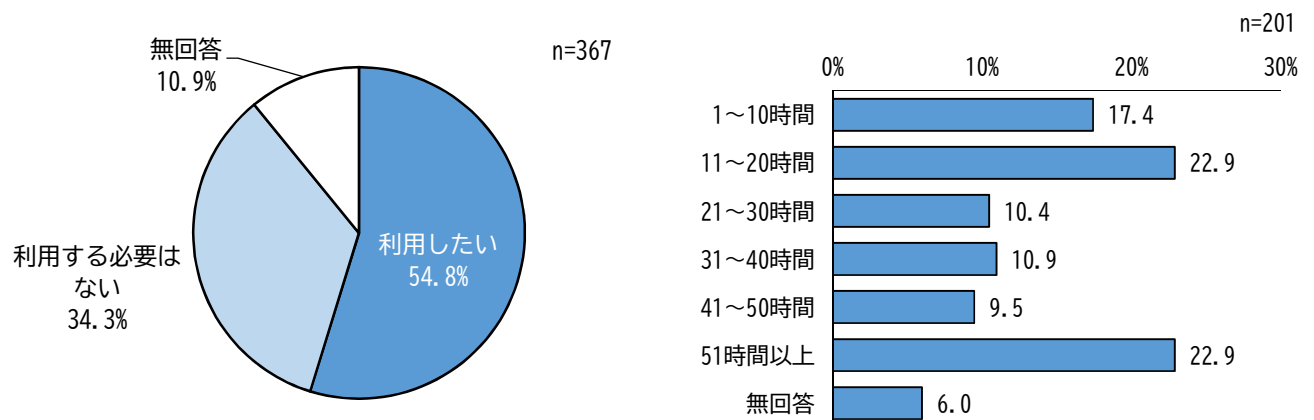
問 25 国では、新たに「こども誰でも通園制度（仮称）」（保育所などの利用要件を緩和し親が就労していなくても時間単位などで子どもを預けられるようにする制度。）の創設を目指しています。

宛て名のお子さんについて、「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用希望の有無について当てはまる番号に○をつけ、必要な時間数をご記入ください（利用したい時間数の合計数を□内に数字でご記入ください。数字は一枠に一字。）。なお事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかることとされています。

「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用したいかについては、「利用したい」の 54.8%が「利用する必要はない」の 34.3%を上回ります。

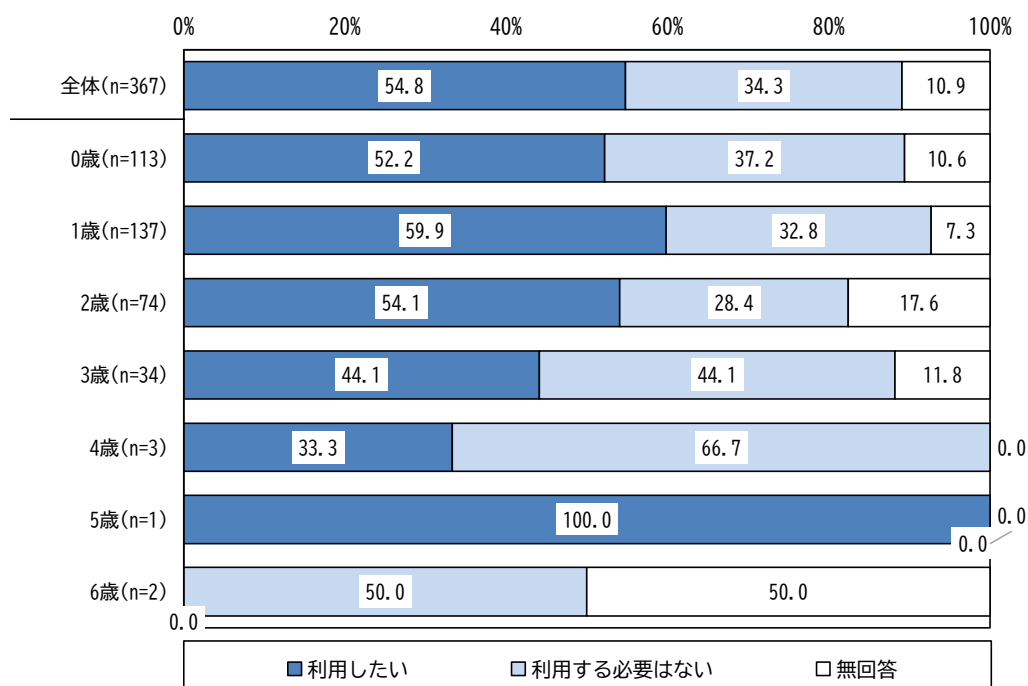
また、1 か月当たりの利用したい時間数は「11～20 時間」と「51 時間以上」がともに 22.9%、次いで「1～10 時間」が 17.4%となっています。

【1 か月当たりの利用したい時間数】



【年齢別】

年齢別にみると、0～2 歳では「利用したい」が 5 割を超え高くなっています。



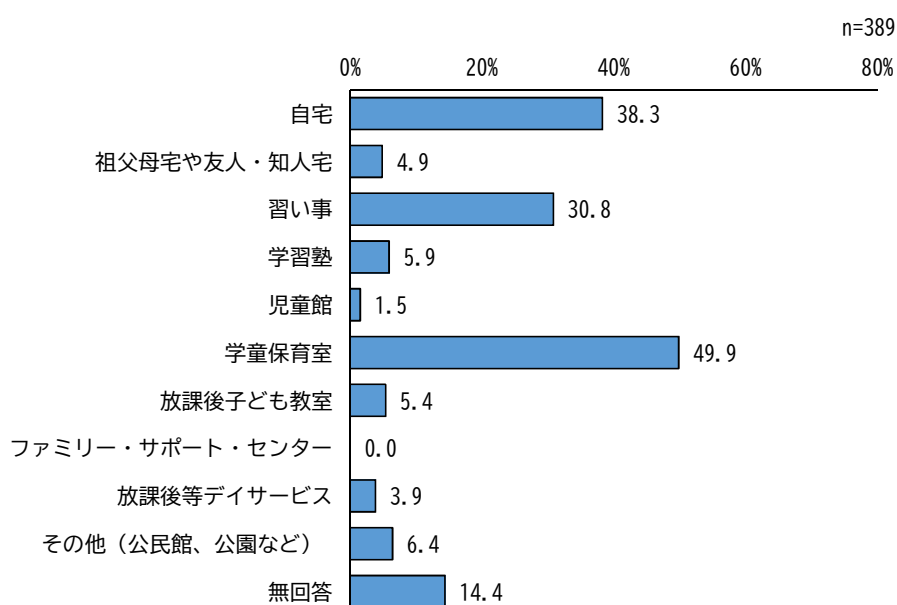
8. 宛て名のお子さんが5歳以上である方に、小学校入学後の放課後の過ごし方についてうかがいます

問 26 宛て名のお子さんが小学校に入ったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。あてはまるものを選択し、それぞれ希望する1週間当たりの日数を数字でご記入ください。また、「学童保育室」「放課後こども教室」の場合には、利用を希望する時間も□の中にご記入ください。必ず、時間は24時間表記でご記入ください。（数字は一桁に一字）

①低学年（1～3年生）のとき

お子さんが小学校低学年のうちに、放課後の時間を過ごさせたい場所については、「学童保育室」が49.9%と最も高く、次いで「自宅」が38.3%、「習い事」が30.8%となっています。

また、それぞれの希望の利用日数を平均でみると「学童保育室」が4.53日、「自宅」が3.62日、「放課後子ども教室」が2.67日などとなっており、「学童保育室」の希望する利用終了時間は「18時」が、「放課後子ども教室」の希望する利用終了時間は「17時」が高くなっています。



【場所別の週当たりの平均利用希望日数】

過ごさせたい場所	n	平均日数
自宅	149	3.62日
祖父母宅や友人・知人宅	19	2.00日
習い事	120	1.85日
学習塾	23	1.22日
児童館	6	3.17日
学童保育室	194	4.53日
放課後子ども教室	21	2.67日
ファミリー・サポート・センター	0	—
放課後等デイサービス	15	3.40日
その他（公民館、公園など）	25	2.04日

【学童保育室利用終了時間】

希望する利用終了時間	n=194	
	n	%
15時	1	0.5
16時	13	6.7
17時	44	22.7
18時	94	48.5
19時	37	19.1
20時以降	1	0.5
無回答	4	2.1

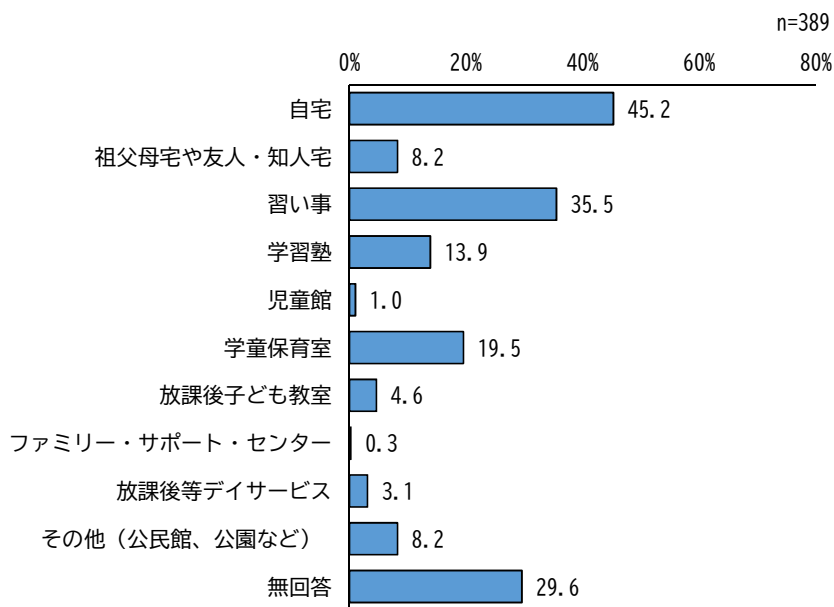
【放課後子ども教室利用終了時間】

希望する利用終了時間	n=21	
	n	%
15時	0	0.0
16時	4	19.0
17時	7	33.3
18時	5	23.8
19時	2	9.5
20時以降	1	4.8
無回答	2	9.5

②高学年（４～６年生）になったら

お子さんが小学校高学年のうちに、放課後の時間を過ごさせたい場所については、「自宅」が 45.2%と最も高く、次いで「習い事」が 35.5%、「学童保育室」が 19.5%となっています。

また、それぞれの希望の利用日数を平均でみると「学童保育室」が 4.13 日、「自宅」が 3.45 日、「放課後子ども教室」が 2.94 日などとなっており、「学童保育室」の希望する利用終了時間は「18 時」が、「放課後子ども教室」の希望する利用終了時間は「17 時」が高くなっています。



【場所別の週当たりの平均利用希望日数】

過ごさせたい場所	n	平均日数
自宅	176	3.45日
祖父母宅や友人・知人宅	32	2.25日
習い事	138	2.05日
学習塾	54	1.65日
児童館	4	2.75日
学童保育室	76	4.13日
放課後子ども教室	18	2.94日
ファミリー・サポート・センター	1	2.00日
放課後等デイサービス	12	3.25日
その他（公民館、公園など）	32	2.47日

【学童保育室利用終了時間】

希望する利用終了時間	n=76	
	n	%
15時	1	1.3
16時	4	5.3
17時	11	14.5
18時	47	61.8
19時	11	14.5
20時以降	1	1.3
無回答	1	1.3

【放課後子ども教室利用終了時間】

希望する利用終了時間	n=18	
	n	%
15時	0	0.0
16時	0	0.0
17時	9	50.0
18時	4	22.2
19時	3	16.7
20時以降	1	5.6
無回答	1	5.6

9. 育児休業などについてうかがいます

問 27 宛て名のお子さんが生まれたとき、育児休業を取得しましたか。母親、父親それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。また、取得していない場合はその理由を番号でご記入ください。

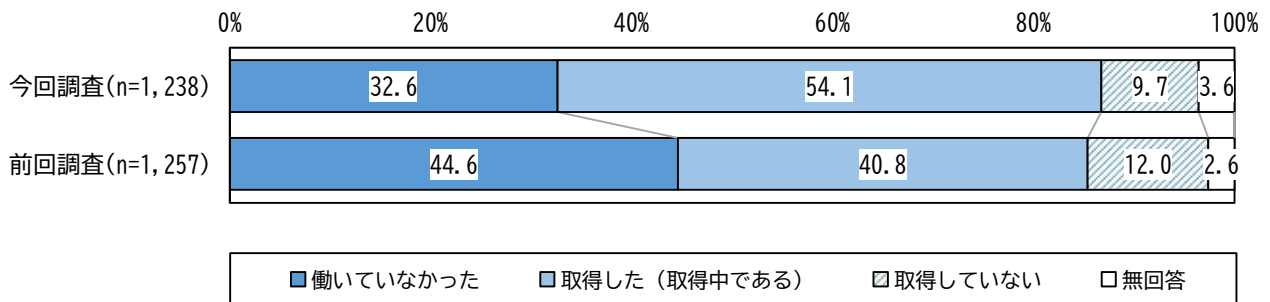
①母親

母親の育児休業取得状況については、「取得した（取得中である）」が 54.1%で最も高く、次いで「働いていなかった」が 32.6%、「取得していない」が 9.7%となっています。

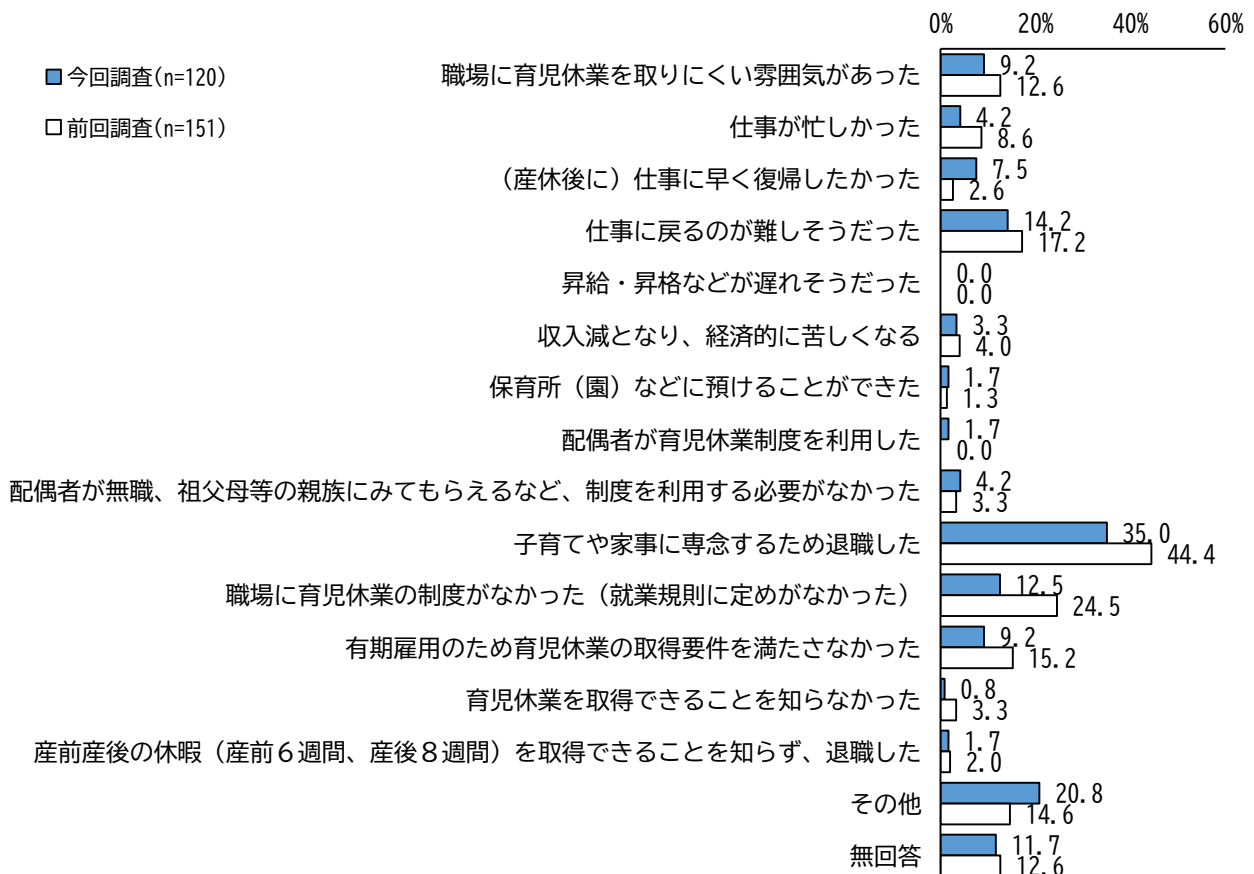
前回調査と比較すると、「取得した（取得中である）」が 13.3 ポイント増加しています。

取得していない理由については、「子育てや家事に専念するため退職した」が 35.0%で最も高く、次いで「仕事に戻るのが難しそうだった」が 14.2%となっています。

前回調査と比較すると、「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が 12.0 ポイント減少しています。



【取得していない理由】



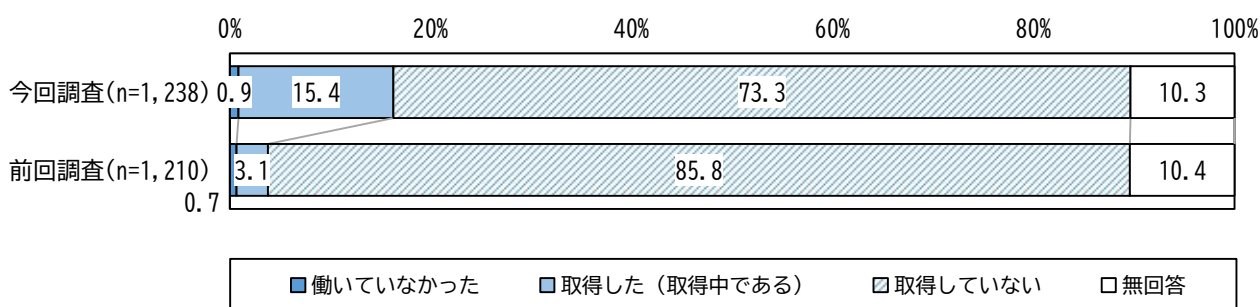
②父親

父親の育児休業取得状況については、「取得していない」が 73.3%と最も高く、次いで「取得した（取得中である）」が 15.4%、「働いていなかった」が 0.9%となっています。

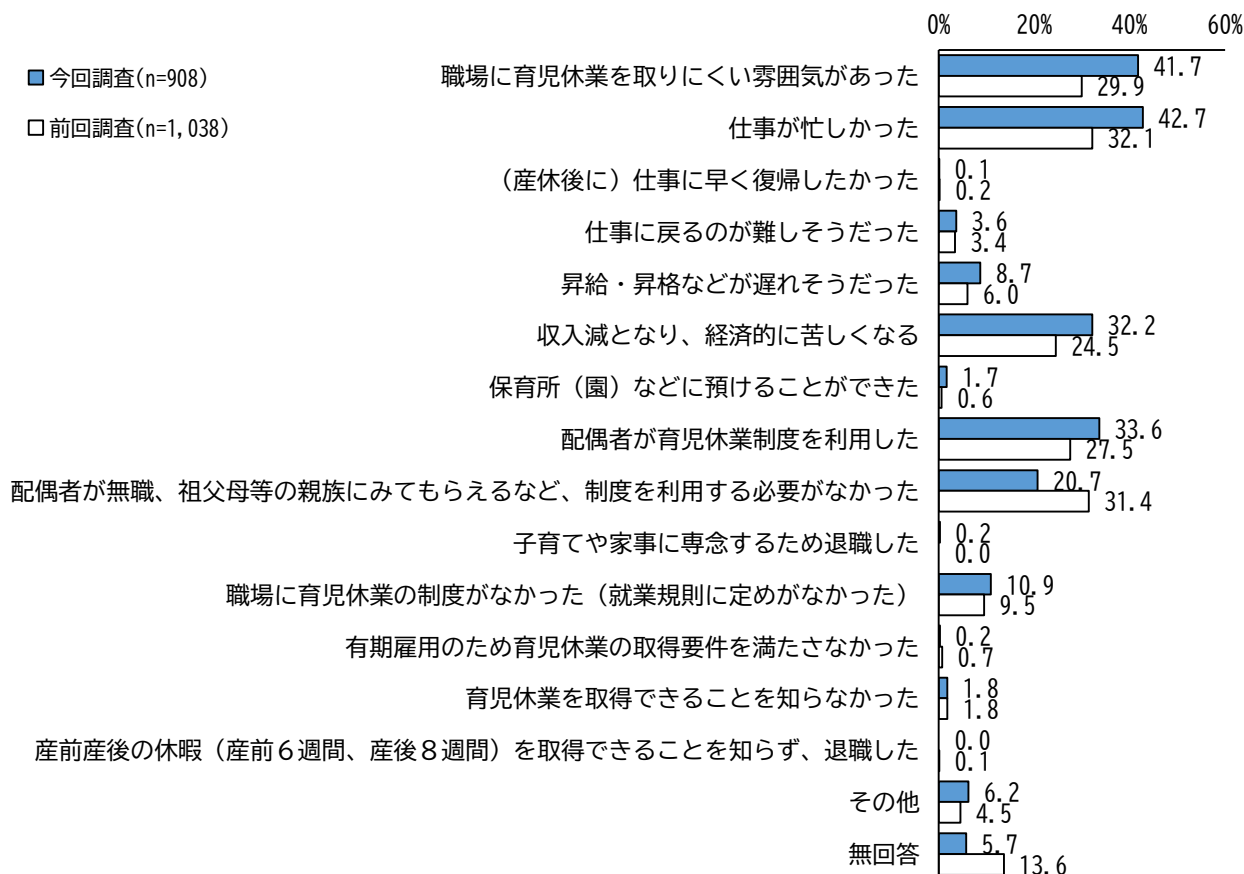
前回調査と比較すると、「取得した（取得中である）」が 12.3 ポイント増加しています。

取得していない理由については、「仕事が忙しかった」が 42.7%で最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 41.7%、「配偶者が育児休業制度を利用した」が 33.6%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が 32.2%となっています。

前回調査と比較すると、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 11.8 ポイント増加、「仕事が忙しかった」が 10.6 ポイント増加しています。一方、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」は 10.7 ポイント減少しています。



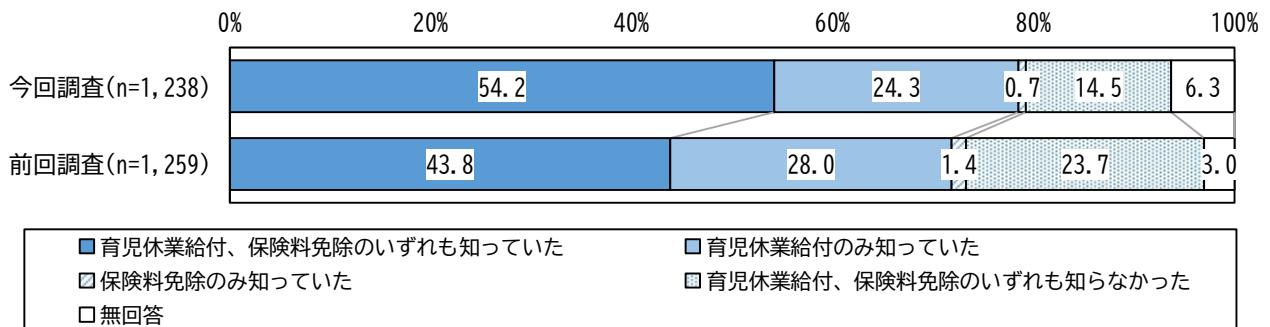
【取得していない理由】



問 27－1 育児休業給付、健康保険等の保険料免除の制度を知っていましたか。(○は1つ)

育児休業給付、健康保険等の保険料免除の制度を知っていたかについては、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が 54.2%で最も高く、次いで「育児休業給付のみ知っていた」が 24.3%、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が 14.5%となっています。

前回調査と比較すると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が 10.4 ポイント増加しています。



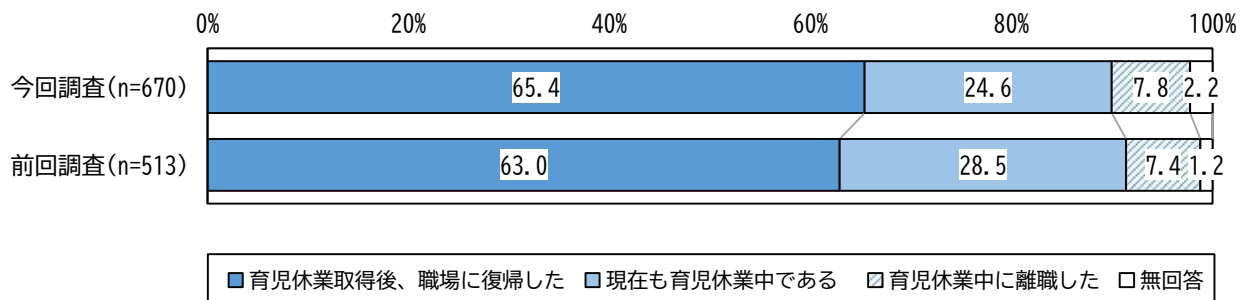
【問 27 で「2. 取得した（取得中である）」を選択した方】

問 27－2 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

①母親

母親の育児休業取得後の職場復帰については、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 65.4%で最も高く、次いで「現在も育児休業中である」が 24.6%、「育児休業中に離職した」が 7.8%となっています。

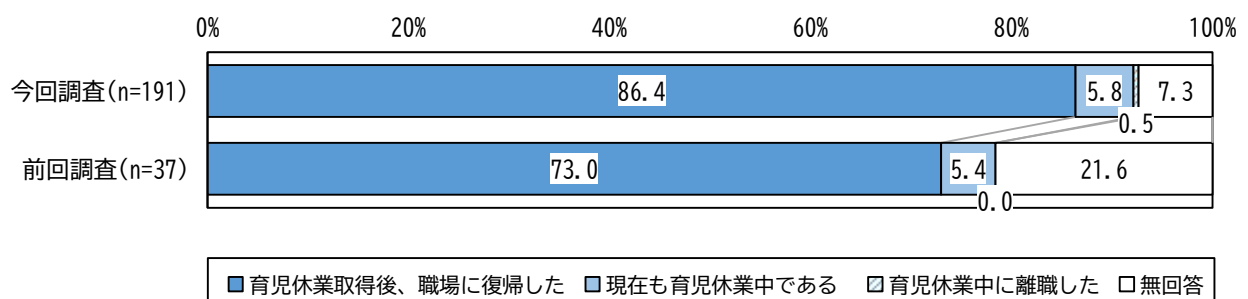
おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



②父親

父親の育児休業取得後の職場復帰については、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 86.4%で最も高く、次いで「現在も育児休業中である」が 5.8%となっています。

前回調査と比較すると、「育児休業取得後、職場に復帰した」が 13.4 ポイント増加しています。



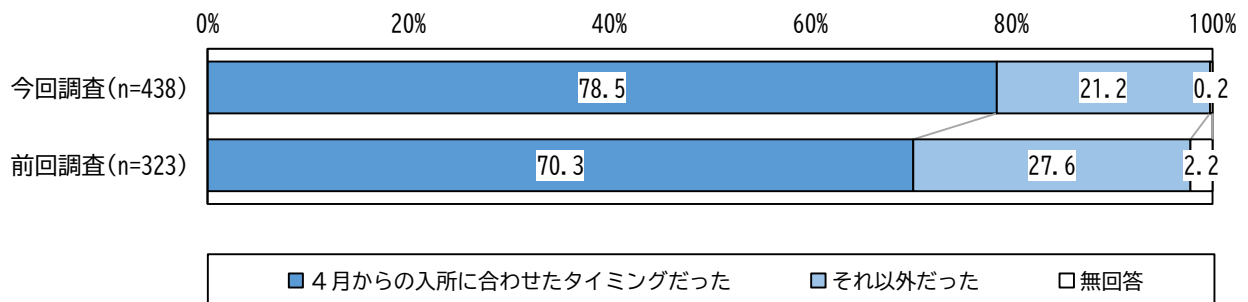
【問 27－2 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した方】

問 27－3 育児休業から職場に復帰したのは、4 月からの保育施設の入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。（○は1つ）

①母親

母親の職場復帰のタイミングについては、「4 月からの入所に合わせたタイミングだった」が 78.5%で、「それ以外だった」の 21.2%を上回っています。

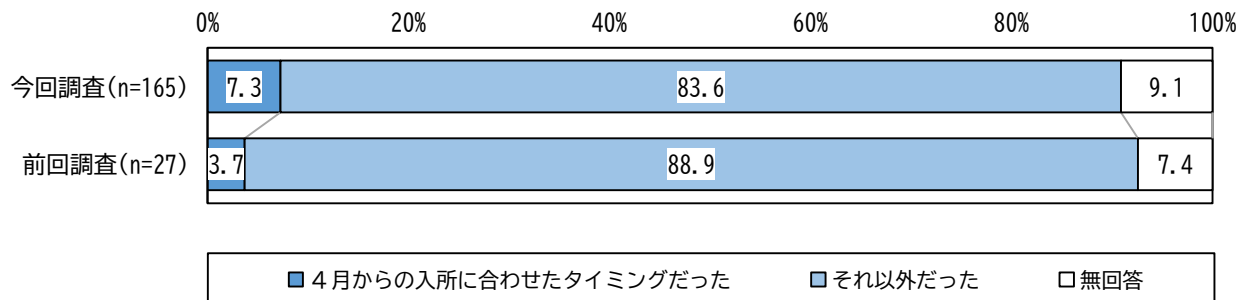
前回調査と比較すると、「4 月からの入所に合わせたタイミングだった」が 8.2 ポイント増加しています。



②父親

父親の職場復帰のタイミングについては、「それ以外だった」が 83.6%で、「4 月からの入所に合わせたタイミングだった」の 7.3%を大きく上回っています。

前回調査と比較すると、「4 月からの入所に合わせたタイミングだった」が 3.6 ポイント増加しています。



【問 27-2 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した方】

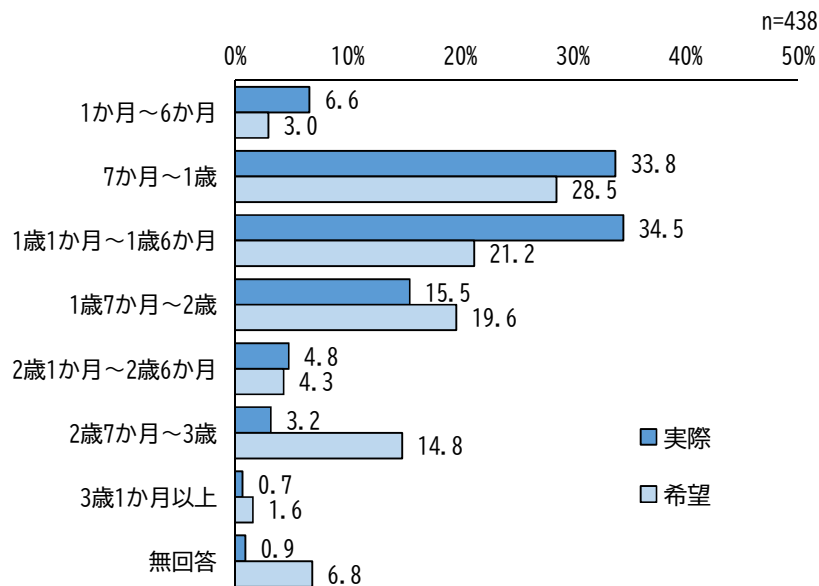
問 27-4 育児休業から「実際」に職場復帰したのは、お子さんがいくつのときですか。
また、「職場の育児休業の制度の期間内」で、「希望」としてはお子さんがいくつのとき
まで取りたかったですか。□の中に数字でご記入ください。（数字は一枠に一字）

①母親【取得期間の実際と希望】

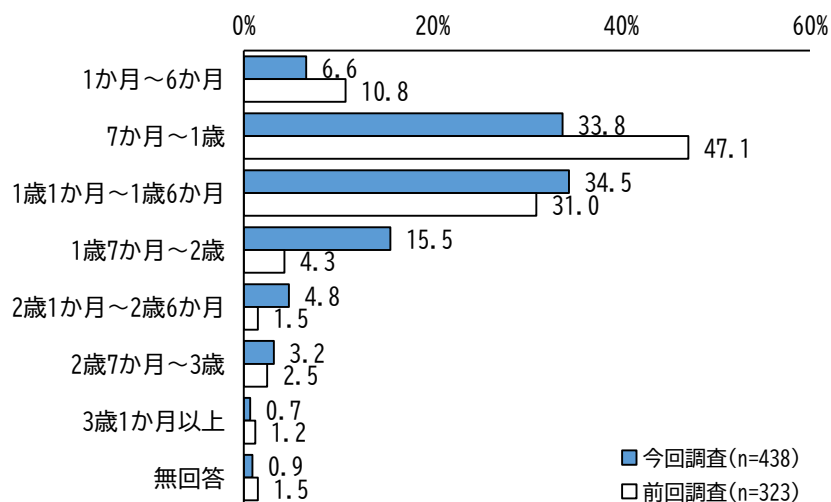
母親が育児休業から＜実際＞にお子さんが何歳のときに職場復帰したかについては、「1歳1か月～1歳6か月」が34.5%、「7か月～1歳」が33.8%となっています。

一方、＜希望＞では何歳のときに職場復帰したかったかについては、「7か月～1歳」が28.5%と最も多く、次いで「1歳1か月～1歳6か月」が21.2%、「1歳7か月～2歳」が19.6%となっています。また、「2歳7か月～3歳」で＜実際＞に比べ＜希望＞の割合が大きく上回っています。

＜実際＞の取得期間を前回調査と比較すると、1歳までの割合が減少し、1歳1か月から3歳までの割合が増加しています。

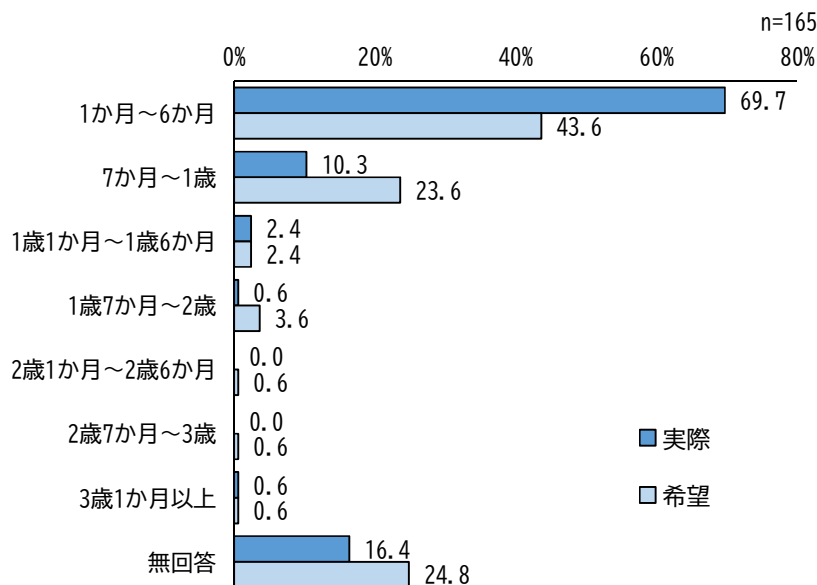


【実際の取得期間の経年比較】

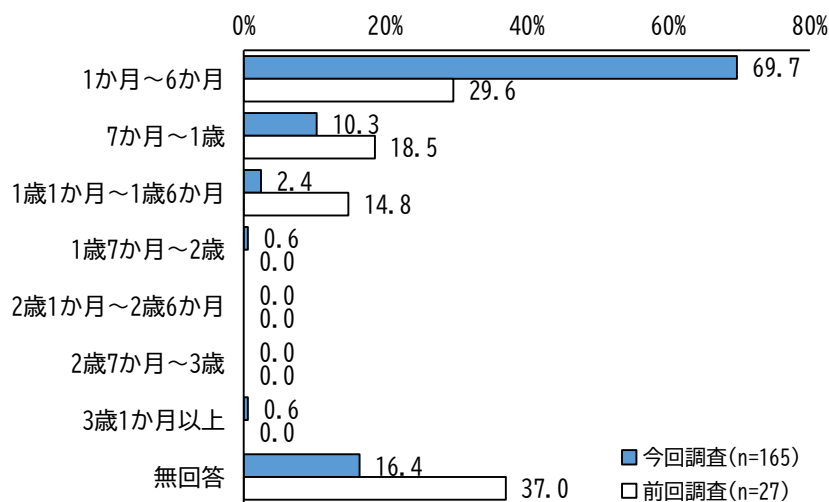


②父親【取得期間の実際と希望】

父親については、＜実際＞＜希望＞ともに、「1 か月～6 か月」が最も高くなっています。「7 か月～1 歳」が 18.5%となっています。「1 か月～6 か月」では＜実際＞が＜希望＞を、「7 か月～1 歳」では＜希望＞が＜実際＞を上回っています。



【実際の取得期間の経年比較】



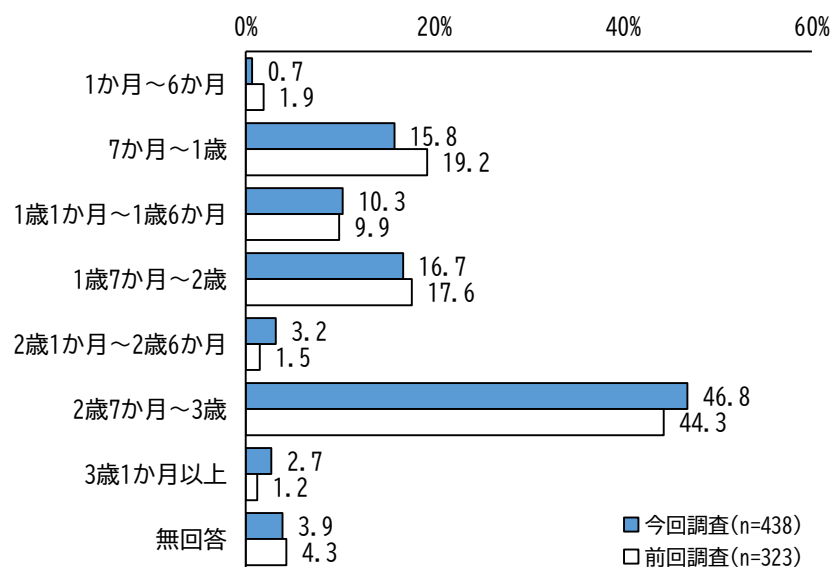
【問 27-2 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した方】

問 27-5 職場に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんがいくつのときまで取りたかったですか。□の中に数字でご記入ください。（数字は一桁に一字）

①母親

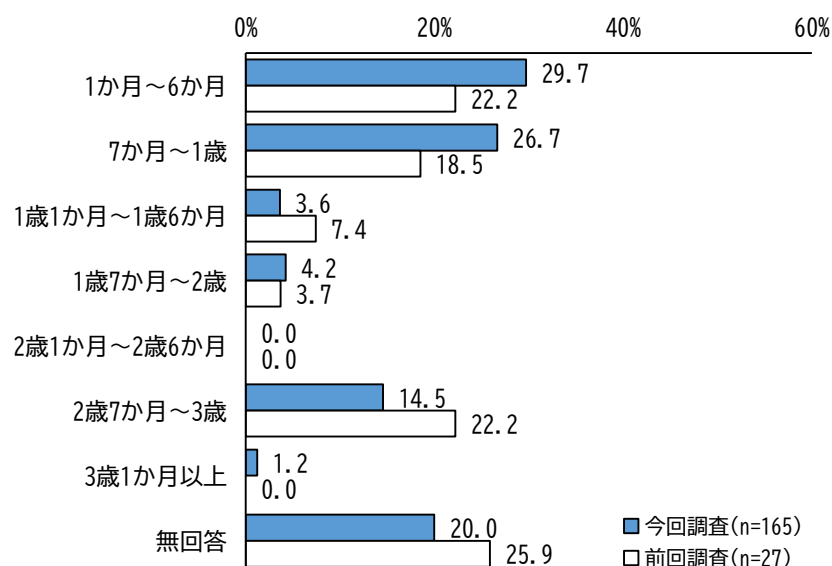
実際の職場に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんがいくつのときまで取りたかったかについては、母親は「2歳7か月～3歳」が46.8%で最も高く、次いで「1歳7か月～2歳」が16.7%、「7か月～1歳」が15.8%、となっています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



②父親

父親は「1か月～6か月」が29.7%で最も高く、次いで「7か月～1歳」が26.7%、「2歳7か月～3歳」が14.5%となっています。



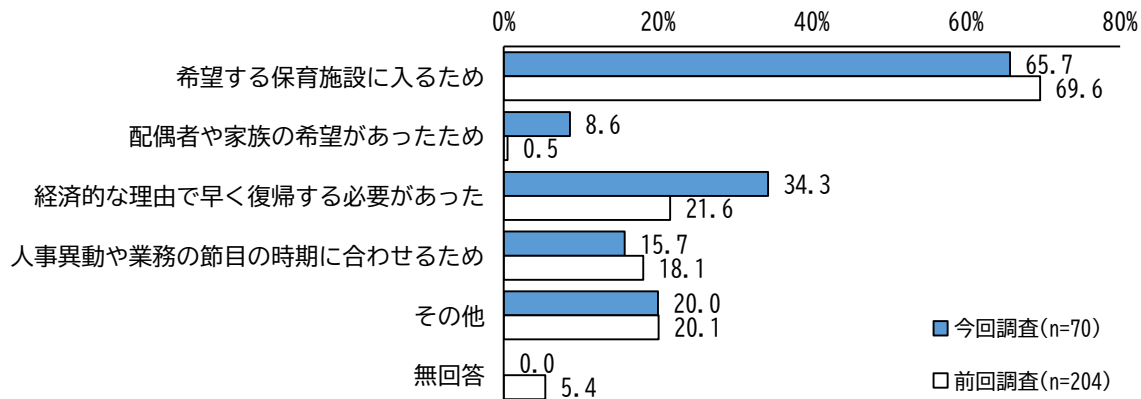
【問 27-4 で実際の復帰が「希望」より早かった方】

問 27-6 希望より早く復帰した理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

①母親

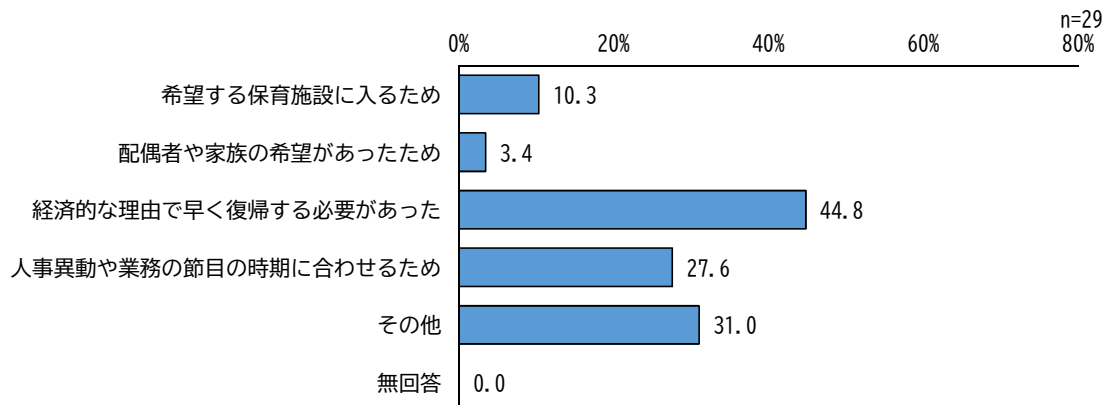
希望より早く復帰した理由について、母親では「希望する保育施設に入るため」が 65.7%で最も高く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が 34.3%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が 15.7%となっています。

前回調査と比較すると、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が 12.7 ポイント増加、「配偶者や家族の希望があったため」が 8.1 ポイント増加しています。



②父親

父親では「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が 44.8%で最も高く、次いで、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が 27.6%となっています。



【問 27-4 で実際の復帰が「希望」より遅かった方】

問 27-7 希望より遅く復帰した理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

①母親

希望より遅く復帰した理由について、母親では3件の回答があり、「希望する保育施設に入らなかったため」が2件、「自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため」と「子どもをみてくれる人がいなかったため」がともに1件となっています。(グラフ省略)

②父親

父親の回答者は1件であり、無回答となっています。(グラフ省略)

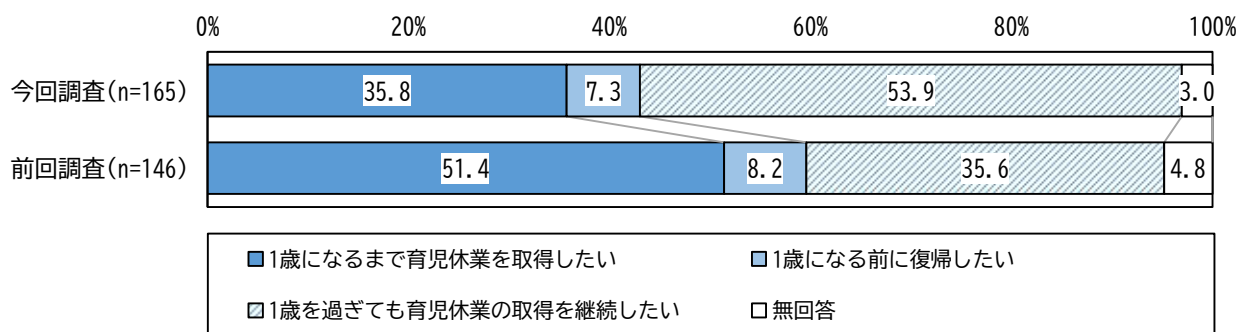
【問 27-2 で「2. 現在も育児休業中である」を選択した方】

問 27-8 宛て名のお子さんが 1 歳になったときに必ず預けられる保育施設があれば、1 歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる施設があっても 1 歳になる前に復帰、または 1 歳を過ぎた後も育児休業の取得を継続しますか。

①母親

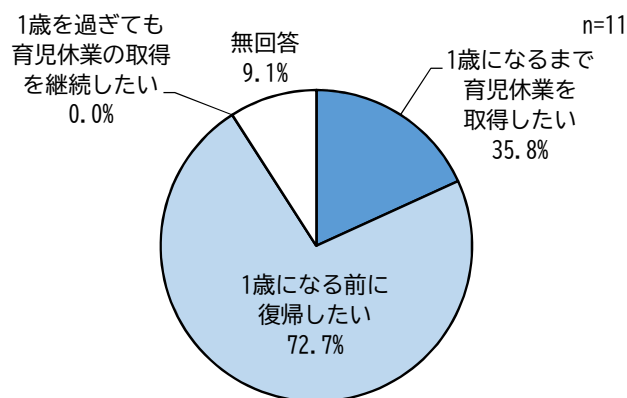
育児休業中の母親で、お子さんが 1 歳になったときに必ず預けられる保育施設があれば、1 歳になるまで育児休業を取得するかについては、「1 歳を過ぎても育児休業の取得を継続したい」が 53.9%で最も高く、次いで「1 歳になるまで育児休業を取得したい」が 35.8%となっています。

前回調査と比較すると、「1 歳になるまで育児休業を取得したい」が 15.6 ポイント減少し、「1 歳を過ぎても育児休業の取得を継続したい」が 18.3 ポイント増加しています。



②父親

育児休業中の父親で、お子さんが 1 歳になったときに必ず預けられる保育施設があれば、1 歳になるまで育児休業を取得するかについては、「1 歳になる前に復帰したい」が 72.7%で最も高く、次いで「1 歳になるまで育児休業を取得したい」が 35.8%となっています。

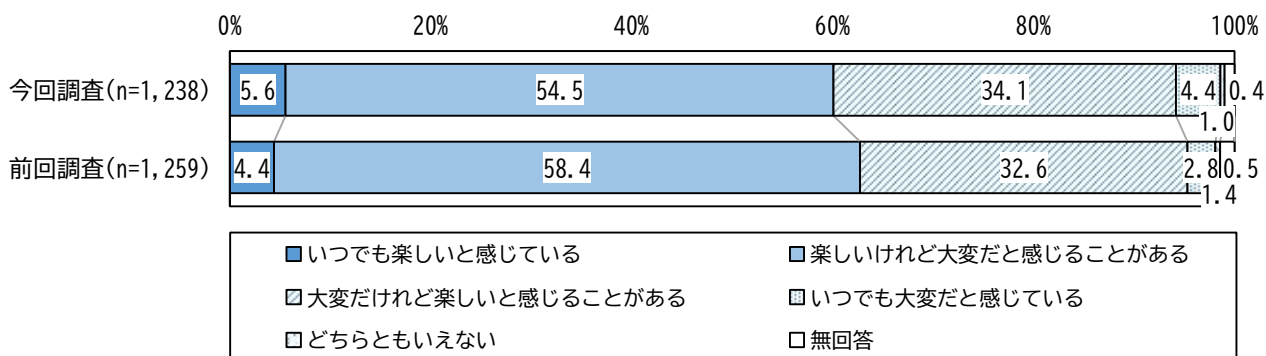


10. 子育て全般についてうかがいます

問 28 あなたは、子育てに対してどのように感じていますか。(○は1つ)

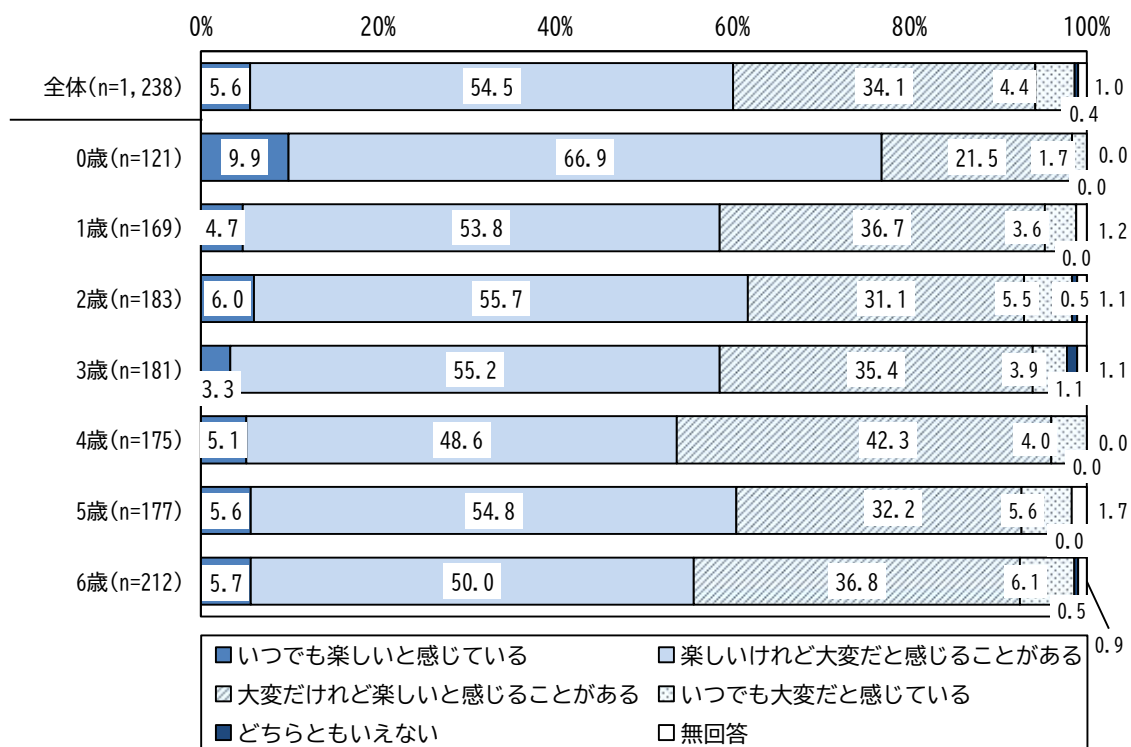
子育てについてどのように感じているかは、「楽しいけれど大変だと感じることもある」が54.5%で最も高く、次いで「大変だけれど楽しいと感じることがある」が34.1%、「いつでも楽しいと感じている」が5.6%、「いつでも大変だと感じている」が4.4%となっています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



【年齢別】

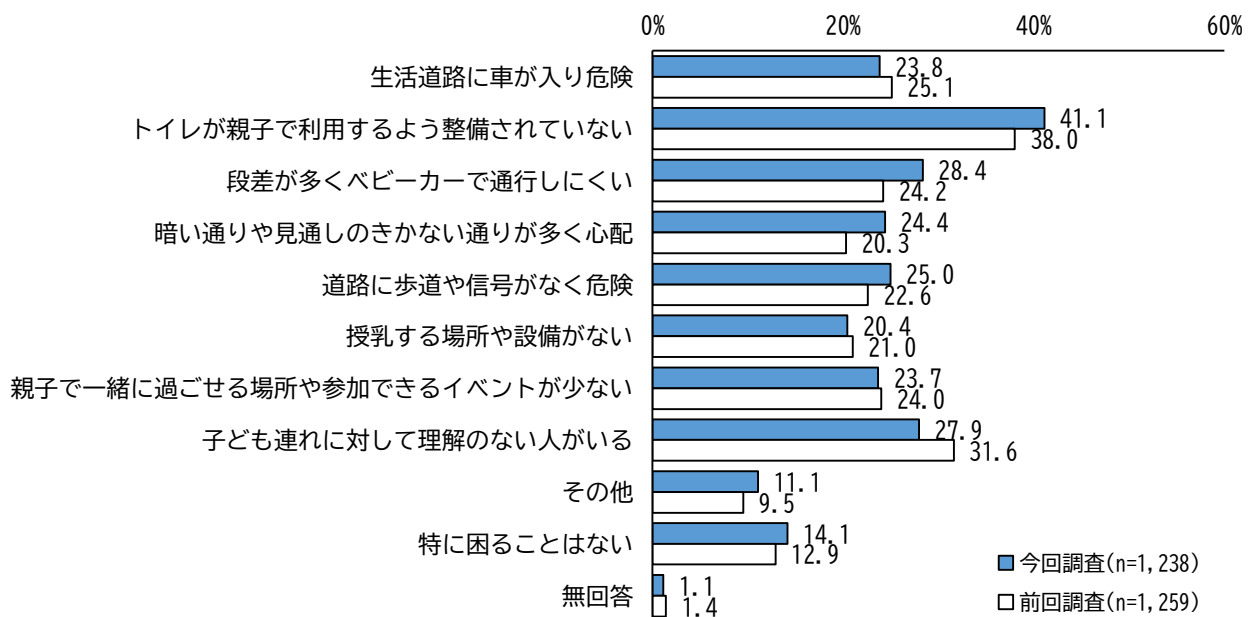
年齢別にみると、全ての年齢で「楽しいけれど大変だと感じることもある」が最も高くなっています。0歳では「いつでも楽しいと感じている」や「楽しいけれど大変だと感じることもある」の割合が他の年代を上回っています。



問 29 子どもと一緒に外出する際に困ることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

お子さんと一緒に外出する際に困ることについては、「トイレが親子で利用するよう整備されていない」が 41.1%で最も高く、次いで「段差が多くベビーカーで通行しにくい」が 28.4%、「子ども連れに対して理解のない人がある」が 27.9%、「道路に歩道や信号がなく危険」が 25.0%となっています。

前回調査と比較すると、「段差が多くベビーカーで通行しにくい」が 4.2 ポイント増加、「暗い通りや見通しのきかない通りが多く心配」が 4.1 ポイント増加しています。



【年齢別】

年齢別にみると、0 歳では「授乳する場所や設備がない」が、1～5 歳では「トイレが親子で利用するよう整備されていない」が、6 歳では「道路に歩道や信号がなく危険」がそれぞれ最も高くなっています。

問29 子どもと一緒に外出する際に困ること

単位：％

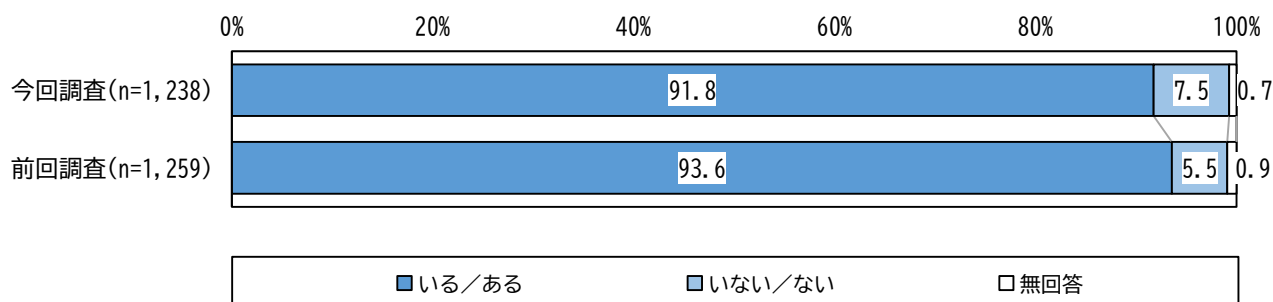
	生活道路に車が入り危険	トイレが親子で利用するよう整備されていない	段差が多くベビーカーで通行しにくい	暗い通りや見通しのきかない通りが多く心配	道路に歩道や信号がなく危険	授乳する場所や設備がない
全体(n=1,238)	23.8	41.1	28.4	24.4	25.0	20.4
0歳(n=121)	16.5	46.3	41.3	20.7	19.0	50.4
1歳(n=169)	18.9	50.3	42.0	18.9	20.1	34.3
2歳(n=183)	27.9	49.7	37.7	24.0	27.3	16.4
3歳(n=181)	26.5	49.2	31.5	26.5	23.8	22.7
4歳(n=175)	22.9	35.4	21.1	22.9	22.9	11.4
5歳(n=177)	24.3	32.2	19.8	28.8	27.1	11.9
6歳(n=212)	28.3	28.8	12.7	26.9	31.6	9.4

	親子で一緒に過ごせる場所や参加できるイベントが少ない	子ども連れに対して理解のない人がいる	その他	特に困ることはない	無回答
全体(n=1,238)	23.7	27.9	11.1	14.1	1.1
0歳(n=121)	24.8	30.6	14.9	10.7	0.0
1歳(n=169)	26.6	29.6	14.8	6.5	1.2
2歳(n=183)	32.2	32.8	11.5	8.2	0.5
3歳(n=181)	27.1	28.2	9.4	12.7	1.7
4歳(n=175)	21.7	28.6	10.9	18.9	1.1
5歳(n=177)	19.2	22.0	10.7	19.2	2.3
6歳(n=212)	17.0	25.0	8.0	19.8	0.9

問 30 宛て名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。（○は1つ）

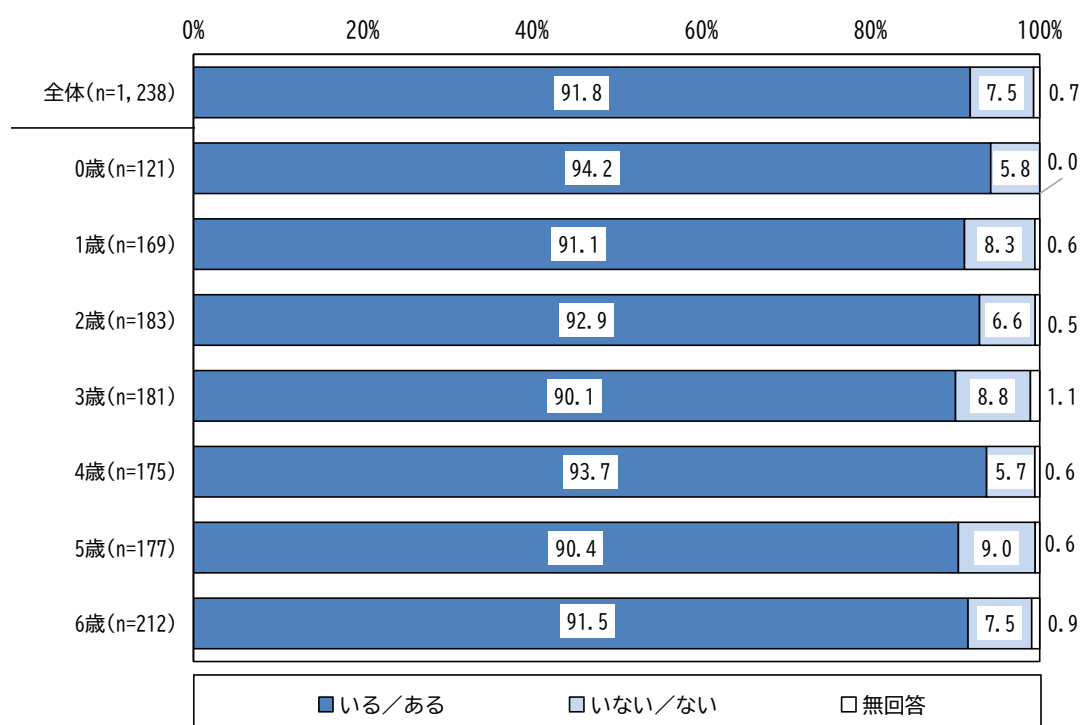
子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人、場所の有無については、「いる／ある」が91.8%と大半を占めています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢で「いる／ある」が9割を超えています。

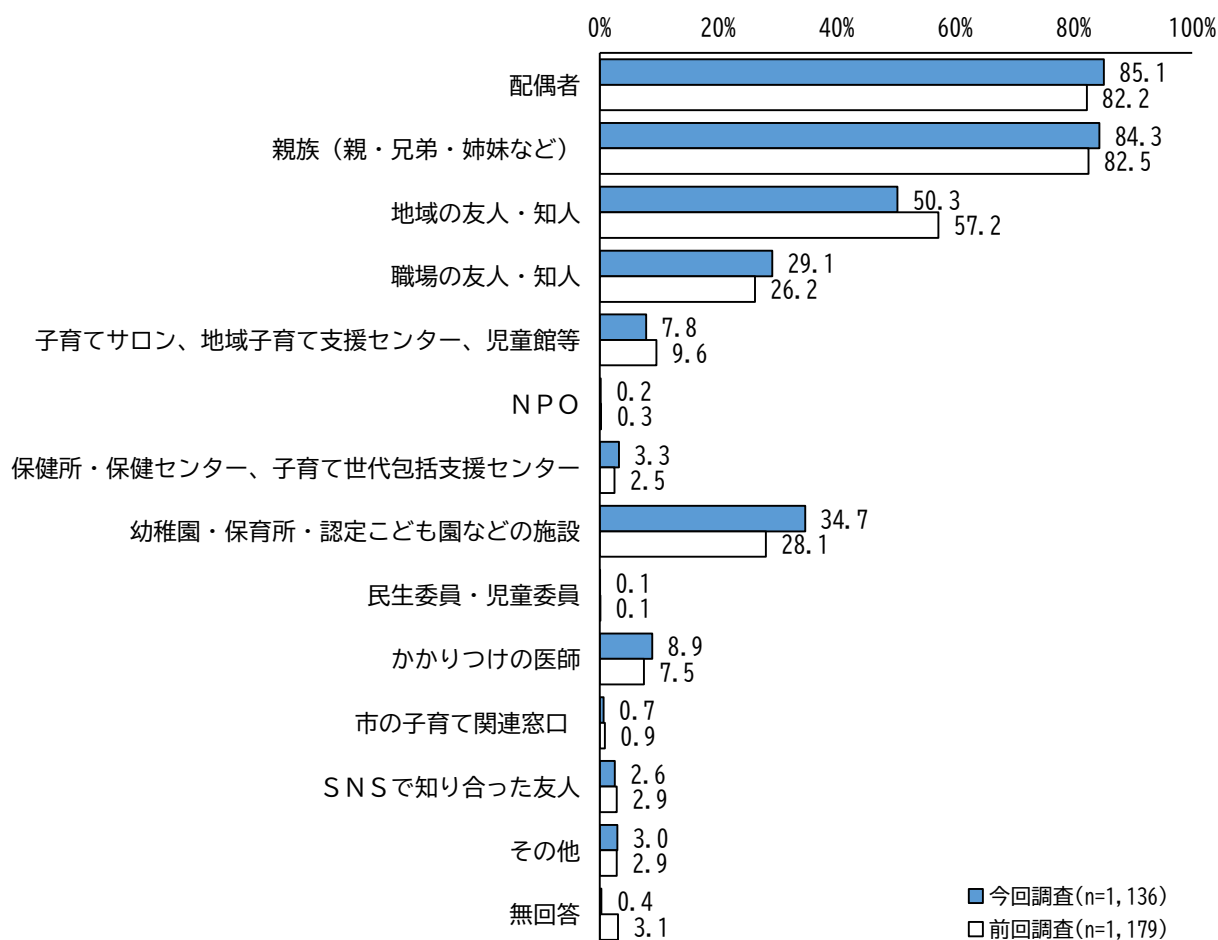


【問 30 で「1. いる／ある」を選択した方】

問 30－1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。（あてはまるものすべてに○）

子育てに関して、気軽に相談できる先については、「配偶者」が 85.1%で最も高く、次いで「親族（親・兄弟・姉妹など）」が 84.3%、「地域の友人・知人」が 50.3%となっています。

前回調査と比較すると、「幼稚園・保育所・認定こども園などの施設」が 6.6 ポイント増加しています。一方、「地域の友人・知人」は 6.9 ポイント減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢も「配偶者」や「親族（親・兄弟・姉妹など）」が上位にあげられています。そのほか、2歳以上では「幼稚園・保育所・認定こども園などの施設」、5・6歳では「地域の友人・知人」が、他の年齢に比べ高くなっています。

問30-1 気軽に相談できる人、場所

単位：％

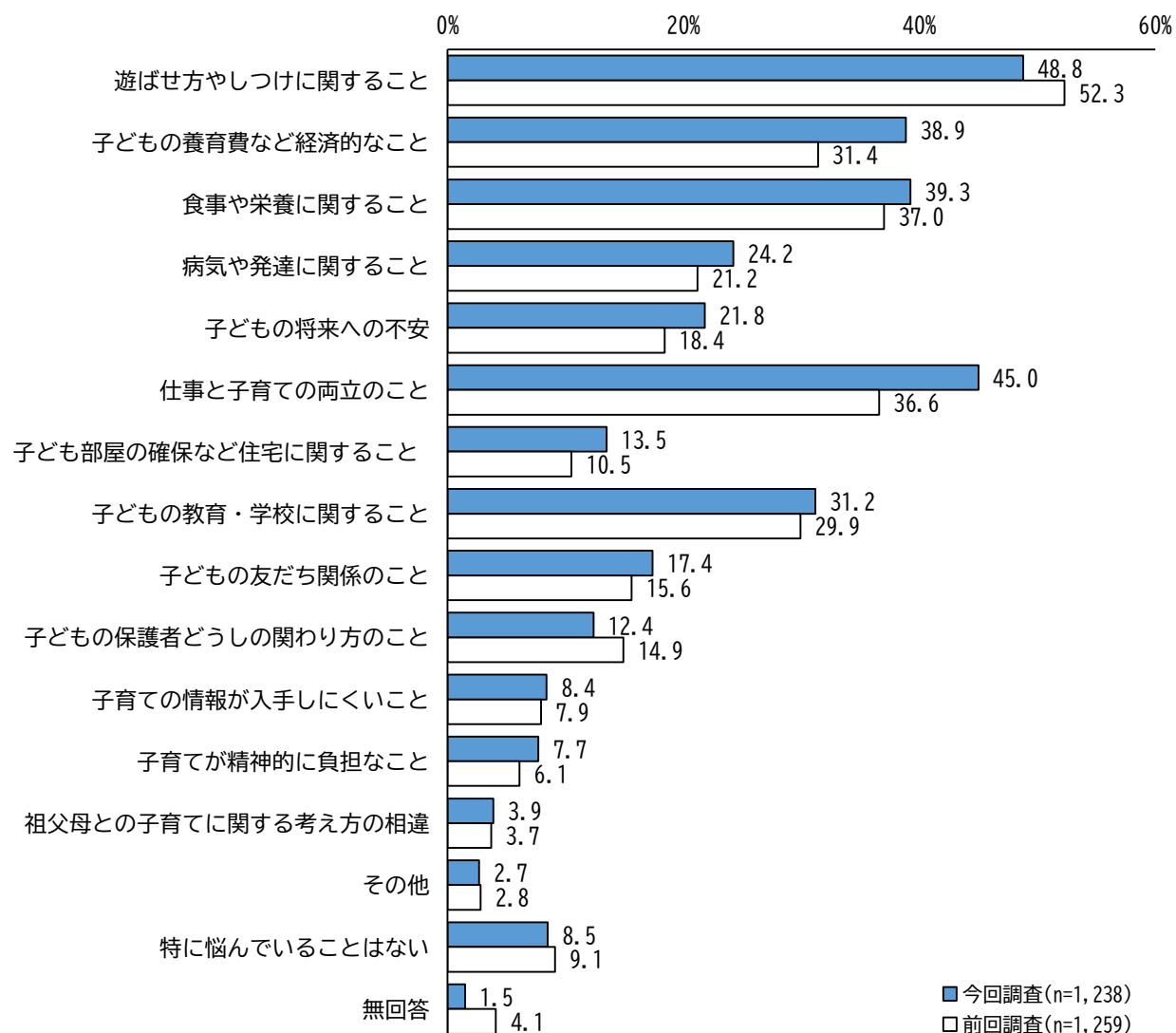
	配偶者	親族 (親・兄弟・姉妹など)	地域の友人・知人	職場の友人・知人	子育てサロン、地域子育て支援センター、児童館等	NPO	保健所・保健センター、子育て世代包括支援センター
全体(n=1,136)	85.1	84.3	50.3	29.1	7.8	0.2	3.3
0歳(n=114)	87.7	87.7	50.9	24.6	12.3	0.0	4.4
1歳(n=154)	88.3	88.3	45.5	19.5	14.9	0.6	6.5
2歳(n=170)	85.3	87.1	47.1	29.4	14.1	0.0	2.9
3歳(n=163)	85.9	84.0	41.1	29.4	7.4	0.0	3.7
4歳(n=164)	85.4	85.4	50.6	26.8	4.9	0.0	1.8
5歳(n=160)	83.8	80.0	59.4	34.4	3.8	0.6	3.1
6歳(n=194)	82.5	80.4	57.2	36.6	1.0	0.0	1.0

	幼稚園・保育所・認定こども園などの施設	民生委員・児童委員	かかりつけの医師	市の子育て関連窓口	SNSで知り合った友人	その他	無回答
全体(n=1,136)	34.7	0.1	8.9	0.7	2.6	3.0	0.4
0歳(n=114)	10.5	0.9	13.2	0.0	3.5	1.8	0.9
1歳(n=154)	9.7	0.0	13.6	0.6	1.9	3.9	0.0
2歳(n=170)	31.2	0.0	8.8	1.2	4.7	2.4	0.0
3歳(n=163)	42.9	0.0	8.6	1.2	2.5	5.5	0.0
4歳(n=164)	53.0	0.0	8.5	0.0	1.2	4.9	0.0
5歳(n=160)	46.9	0.0	7.5	0.6	1.9	0.6	1.3
6歳(n=194)	39.7	0.0	5.2	1.0	2.6	2.1	0.0

問 31 お子さんの子育てに関して、悩んでいるのはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

子育てに関して悩んでいることについては、「遊ばせ方やしつけに関すること」が 48.8%で最も高く、次いで「仕事と子育ての両立のこと」が 45.0%、「食事や栄養に関すること」が 39.3%、「子どもの養育費など経済的なこと」が 38.9%となっています。

前回調査と比較すると、「仕事と子育ての両立のこと」が 8.4 ポイント増加、「子どもの養育費など経済的なこと」が 7.5 ポイント増加しています。



【年齢別】

年齢別にみると、0歳では「子どもの養育費など経済的なこと」と「仕事と子育ての両立のこと」が、1歳では「食事や栄養に関すること」が、2歳以上では「遊ばせ方やしつけに関すること」が最も高くなっています。

また、0～4歳では「仕事と子育ての両立のこと」も多くあげられているほか、6歳では「子どもの教育・学校に関すること」や「子どもの友だち関係のこと」の割合も高くなっています。

問31 子育てに関して悩んでいること

単位：％

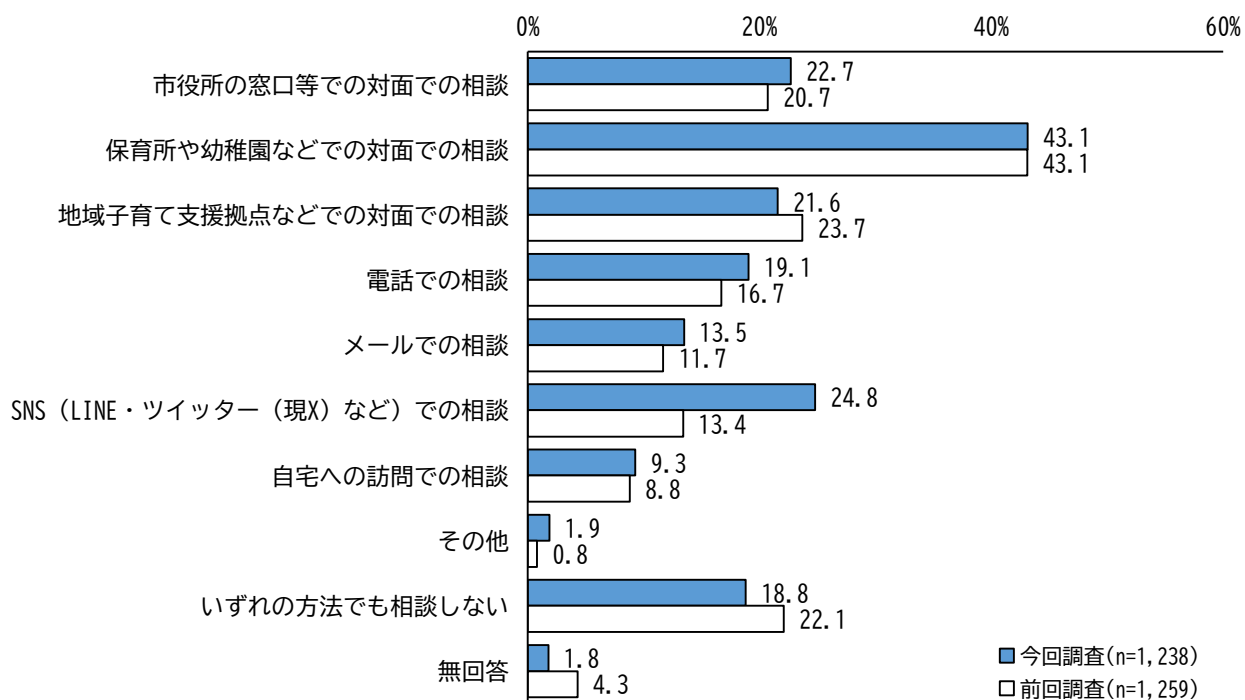
	遊ばせ方やしつけに関すること	子どもの養育費など経済的なこと	食事や栄養に関すること	病気や発達に関すること	子どもの将来への不安	仕事と子育ての両立のこと	子ども部屋の確保など住宅に関すること	子どもの教育・学校に関すること
全体(n=1,238)	48.8	38.9	39.3	24.2	21.8	45.0	13.5	31.2
0歳(n=121)	38.0	42.1	38.0	24.8	18.2	42.1	21.5	19.0
1歳(n=169)	52.1	36.7	54.4	29.0	18.3	52.1	14.2	24.3
2歳(n=183)	57.4	42.1	51.9	30.6	22.4	51.4	15.8	30.1
3歳(n=181)	56.4	41.4	46.4	24.9	20.4	48.6	13.3	30.4
4歳(n=175)	45.7	38.9	32.6	21.7	20.6	43.4	12.0	30.9
5歳(n=177)	40.1	39.0	27.1	18.6	26.0	36.7	11.9	33.9
6歳(n=212)	48.6	34.0	26.4	22.2	23.6	39.6	9.9	44.8

	子どもの友だち関係のこと	子どもの保護者どうしの関わり方のこと	子育ての情報が入手しにくいこと	子育てが精神的に負担なこと	祖父母との子育てに関する考え方の相違	その他	特に悩んでいることはない	無回答
全体(n=1,238)	17.4	12.4	8.4	7.7	3.9	2.7	8.5	1.5
0歳(n=121)	9.1	7.4	7.4	4.1	1.7	2.5	20.7	0.8
1歳(n=169)	10.1	11.2	10.1	4.7	3.6	5.3	5.3	1.8
2歳(n=183)	16.4	14.2	12.6	13.1	6.0	2.7	6.0	1.1
3歳(n=181)	13.8	14.9	12.2	9.4	5.0	0.6	5.0	2.8
4歳(n=175)	12.6	8.6	4.6	7.4	4.0	3.4	12.0	0.0
5歳(n=177)	20.9	11.9	5.1	6.2	2.3	1.7	7.3	2.3
6歳(n=212)	34.0	16.5	7.5	7.1	3.8	2.8	7.1	1.4

問 32 今後、市役所などの公的な機関にどのような形で相談したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

今後、市役所などの公的な機関にどのような形で相談したいと思うかについては、「保育所や幼稚園などでの対面での相談」が 43.1%で最も高く、次いで「SNS（LINE・ツイッター（現 X）など）での相談」が 24.8%、「市役所の窓口等での対面での相談」が 22.7%、「地域子育て支援拠点などでの対面での相談」が 21.6%となっています。

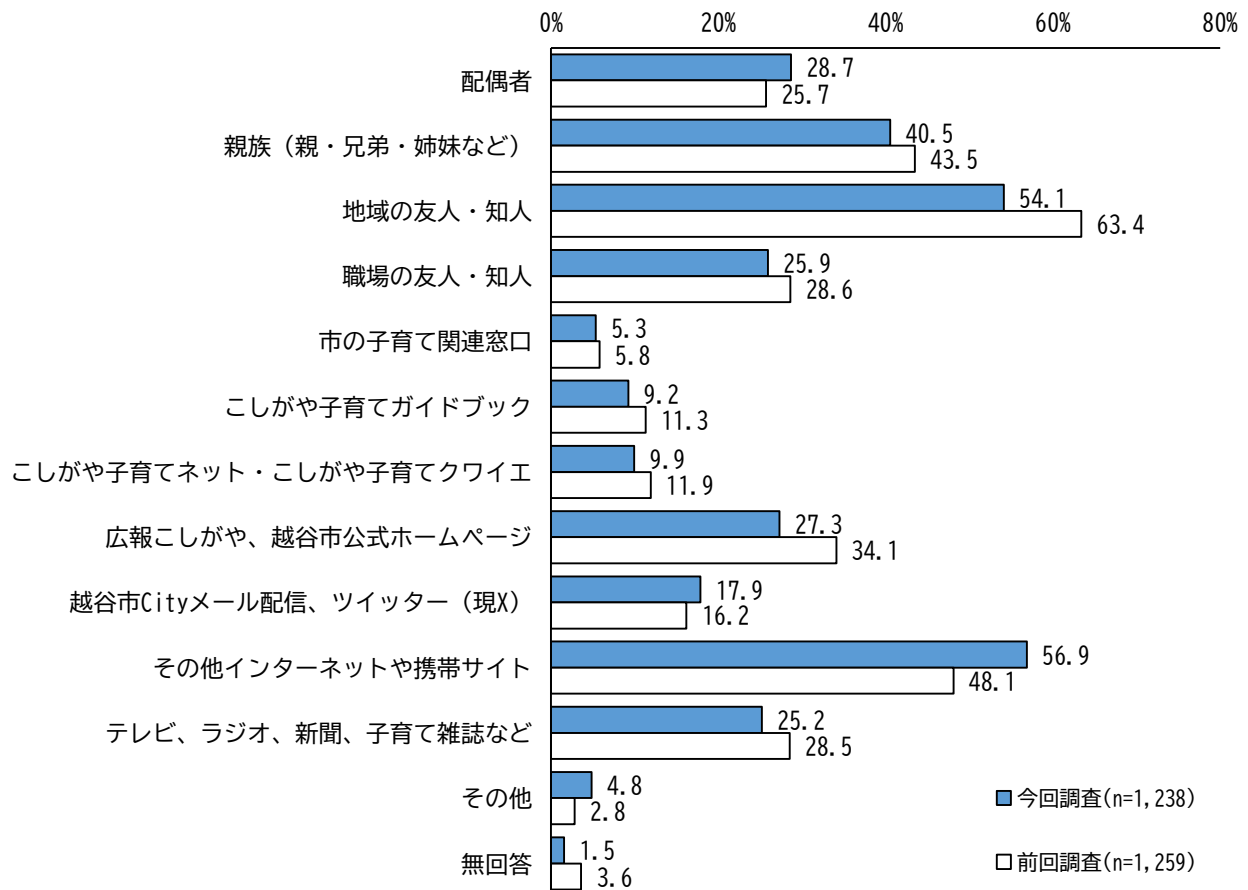
前回調査と比較すると、「SNS（LINE・ツイッター（現 X）など）での相談」が 11.4 ポイント増加しています。



問 33 子育てに関する情報はどちらから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

子育てに関する情報の入手先については、「その他インターネットや携帯サイト」が 56.9% で最も高く、次いで「地域の友人・知人」が 54.1%、「親族（親・兄弟・姉妹など）」が 40.5%となっています。

前回調査と比較すると、「その他インターネットや携帯サイト」が 8.8 ポイント増加しています。一方、「地域の友人・知人」は 9.3 ポイント減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、0～2 歳と 4 歳では「その他インターネットや携帯サイト」が、3 歳と 5～6 歳では「地域の友人・知人」が最も高くなっています。特に、0・1 歳ではその割合が高く 6 割台後半となっています。一方で、「地域の友人・知人」は年齢が上がるにつれ高い傾向にあります。

問33 子育てに関する情報の入手先

単位：％

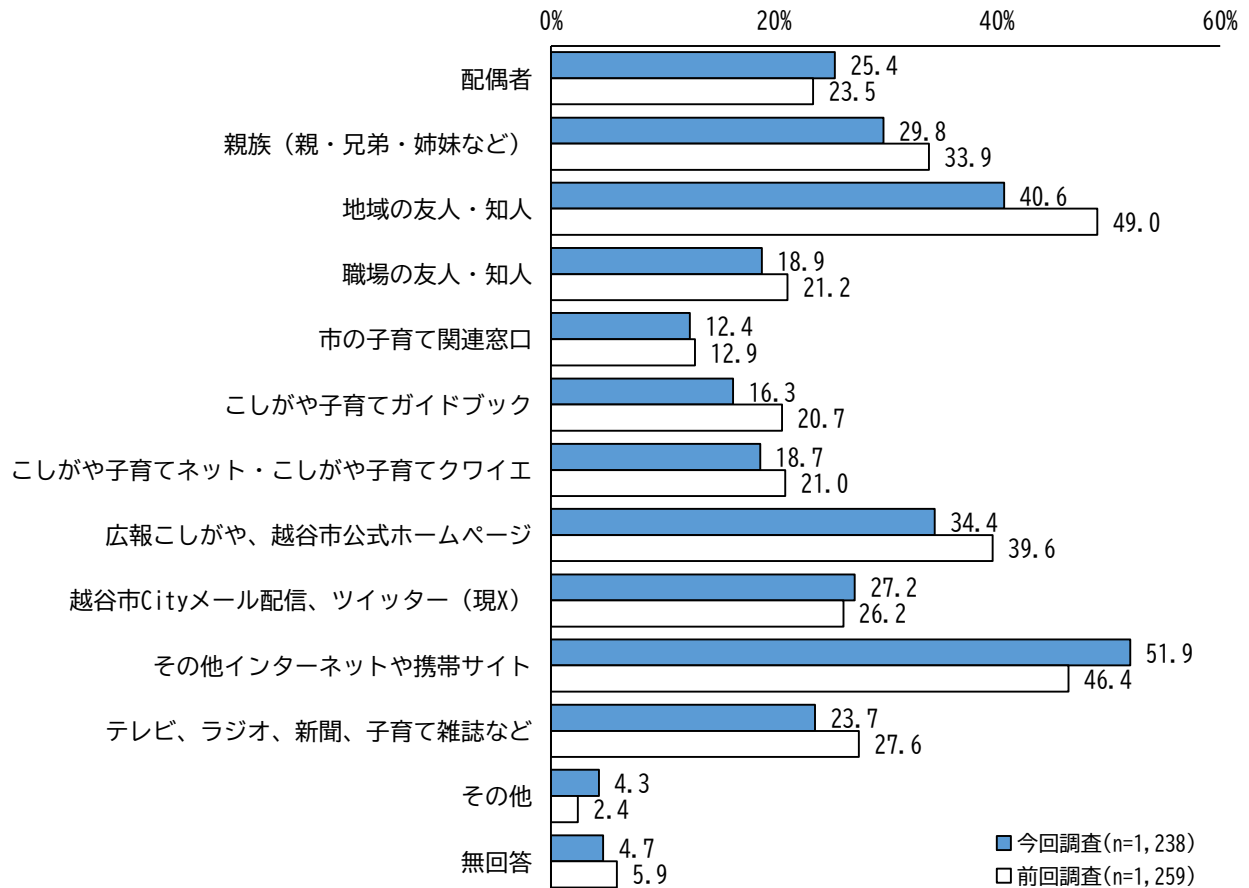
	配偶者	親族 (親・兄弟・姉妹など)	地域の友人・知人	職場の友人・知人	市の子育て関連窓口	こしがや子育てガイドブック	こしがや子育てネット・こしがや子育てクワイエ
全体(n=1,238)	28.7	40.5	54.1	25.9	5.3	9.2	9.9
0歳(n=121)	27.3	48.8	46.3	18.2	4.1	9.1	9.9
1歳(n=169)	23.1	42.0	44.4	17.8	5.9	7.1	8.9
2歳(n=183)	34.4	47.0	50.8	27.3	7.7	10.4	10.9
3歳(n=181)	25.4	42.5	53.6	28.7	5.0	8.3	11.6
4歳(n=175)	30.9	46.3	53.7	25.7	5.7	9.7	9.7
5歳(n=177)	32.8	26.0	62.1	28.2	5.1	10.2	9.6
6歳(n=212)	26.4	36.3	63.7	32.5	4.2	9.0	8.5

	広報こしがや、越谷市公式ホームページ	越谷市Cityメール配信、ツイッター	その他インターネットや携帯サイト	テレビ、ラジオ、新聞、子育て雑誌など	その他	無回答
全体(n=1,238)	27.3	17.9	56.9	25.2	4.8	1.5
0歳(n=121)	24.0	9.1	68.6	27.3	1.7	1.7
1歳(n=169)	27.8	16.6	68.0	25.4	7.1	0.6
2歳(n=183)	31.7	13.7	55.7	27.9	8.7	1.1
3歳(n=181)	23.2	14.9	51.9	22.7	6.6	1.7
4歳(n=175)	29.7	19.4	61.7	27.4	4.0	1.1
5歳(n=177)	27.1	24.9	50.8	22.0	5.1	2.8
6歳(n=212)	27.4	23.6	48.6	25.9	0.9	1.4

問 34 今後、どのような方法で情報を受け取りたいですか。（あてはまるものすべてに○）

今後、どのような方法で情報を受け取りたいかについては、「その他インターネットや携帯サイト」が51.9%で最も高く、次いで「地域の友人・知人」が40.6%で、「広報こしがや、越谷市公式ホームページ」が34.4%となっています。

前回調査と比較すると、「その他インターネットや携帯サイト」が5.5ポイント増加しています。一方、「地域の友人・知人」が8.4ポイント減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、6 歳を除き「その他インターネットや携帯サイト」が最も多く、特に 0・1 歳でその割合が高くなっています。6 歳では「地域の友人・知人」が最も高くなっています。そのほか、2 歳では「広報こしがや、越谷市公式ホームページ」も 41.5%と他の年齢をやや上回ります。

問34 今後希望する情報の受け取り方法

単位：％

	配偶者	親族 (親・兄弟・姉妹 など)	地域の友人・知人	職場の友人・知人	市の子育て関連窓口	こしがや子育てガイドブック	こしがや子育てネット・こしがや子育てクワイエ
全体(n=1,238)	25.4	29.8	40.6	18.9	12.4	16.3	18.7
0歳(n=121)	22.3	33.1	36.4	11.6	13.2	19.8	23.1
1歳(n=169)	19.5	30.8	32.5	12.4	14.8	17.2	18.9
2歳(n=183)	27.9	31.7	33.9	18.0	15.8	19.7	24.0
3歳(n=181)	25.4	32.0	43.6	20.4	11.0	14.9	17.7
4歳(n=175)	30.9	35.4	41.1	21.7	12.6	13.1	16.0
5歳(n=177)	27.7	23.2	46.3	21.5	10.7	14.1	18.6
6歳(n=212)	23.1	25.9	49.1	23.6	9.0	15.6	13.2

	広報こしがや、越谷市公式ホームページ	越谷市Cityメール配信、ツイッター	その他インターネットや携帯サイト	テレビ、ラジオ、新聞、子育て雑誌など	その他	無回答
全体(n=1,238)	34.4	27.2	51.9	23.7	4.3	4.7
0歳(n=121)	31.4	17.4	62.0	22.3	2.5	3.3
1歳(n=169)	34.9	25.4	59.2	26.0	5.3	2.4
2歳(n=183)	41.5	26.8	44.8	23.5	5.5	6.0
3歳(n=181)	32.6	26.5	49.7	23.8	5.0	4.4
4歳(n=175)	32.6	28.0	57.7	29.1	5.1	5.7
5歳(n=177)	31.6	33.3	48.6	22.0	5.6	6.2
6歳(n=212)	35.4	30.7	47.2	20.8	1.4	3.8

問 35 あなたは、越谷市の子育て情報サイト「こしがや子育てネット」・市民サイト「こしがや子育てクワイエ」を知っていますか。（○はそれぞれ1つ）

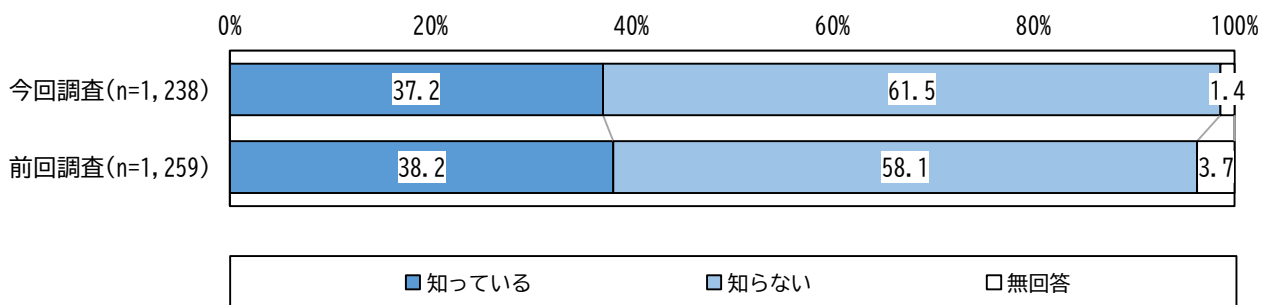
越谷市の子育て情報サイト「こしがや子育てネット」を知っているかについては、「知らない」が61.5%で、「知っている」の37.2%を上回っています。

おおむね前回調査と同様の認知度となっています。

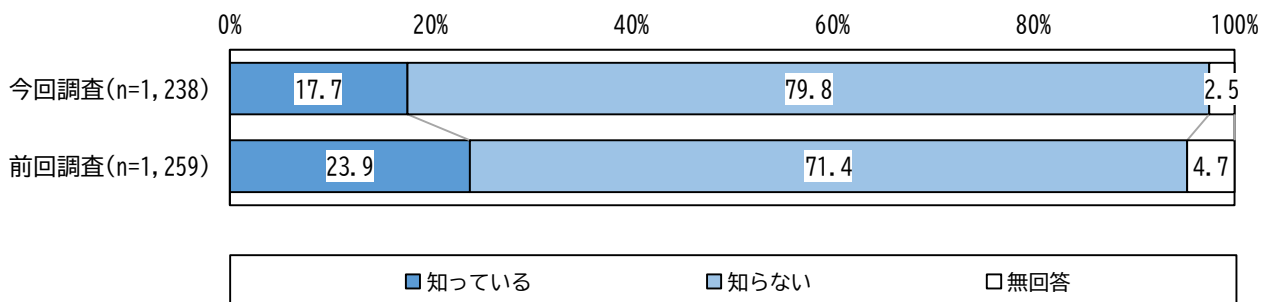
市民サイト「こしがや子育てクワイエ」を知っているかについては、「知らない」が79.8%で、「知っている」の17.7%を上回っています。

前回調査と比較すると、「知らない」が8.4ポイント増加しています。

【こしがや子育てネット】



【こしがや子育てクワイエ】

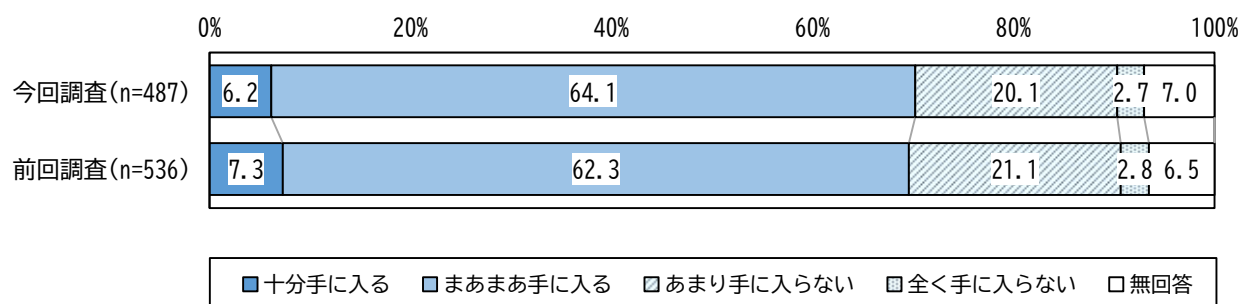


【問 35 で、いずれかまたは両方「1. 知っている」を選択した方】

問 35-1 「こしがや子育てネット」・「こしがや子育てクワイエ」で子育てに必要な情報は手に入りますか。（○は1つ）また今後、どのような情報を載せてほしいと思いますか。

「こしがや子育てネット」・「こしがや子育てクワイエ」で子育てに必要な情報が手に入るかについては、「まあまあ手に入る」が 64.1%で最も高く、次いで「あまり手に入らない」が 20.1%、「十分手に入る」が 6.2%となっています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



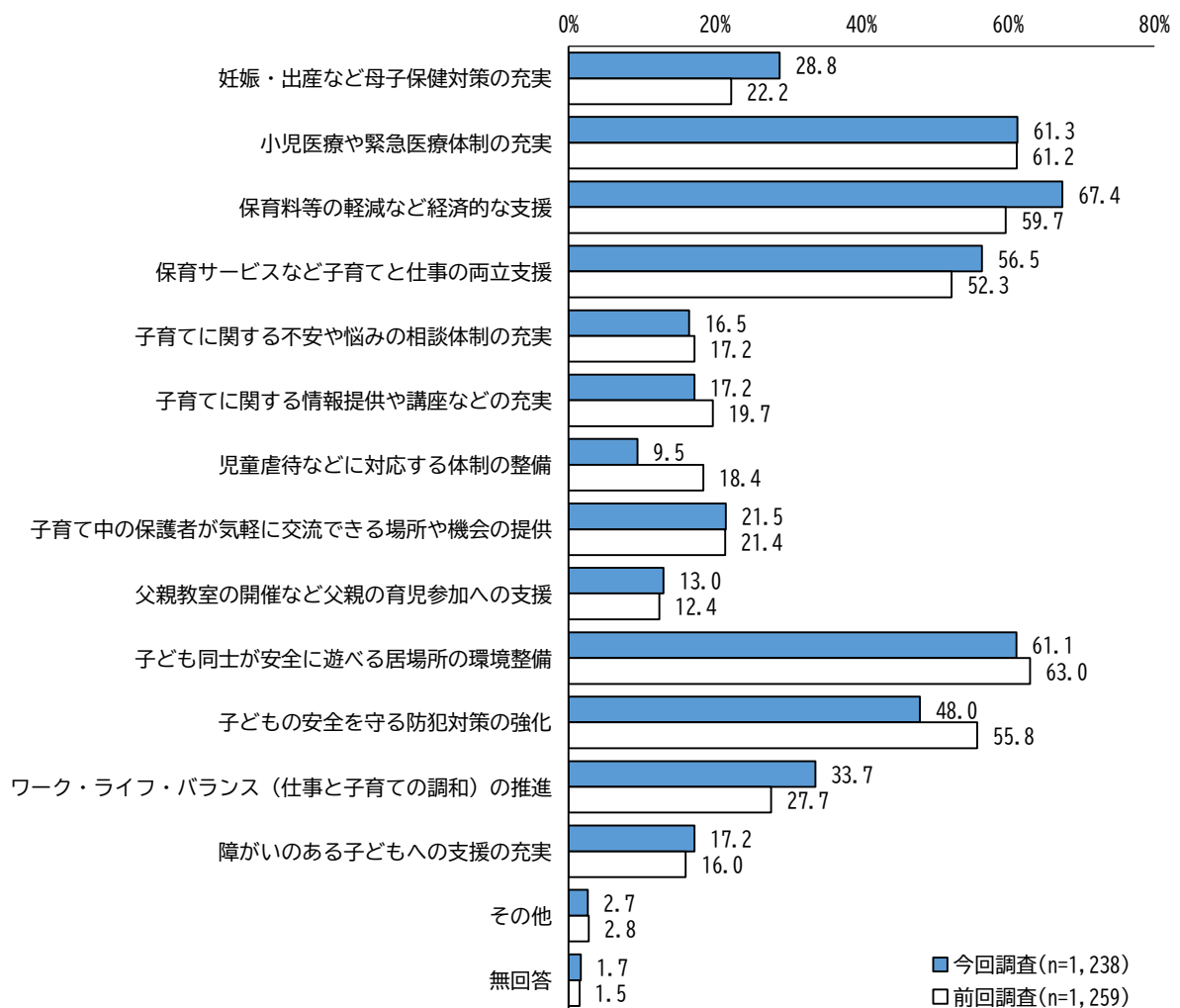
【「こしがや子育てネット」・「こしがや子育てクワイエ」に希望する情報】

希望する情報 (n=52)	
・子育てに関するイベントや地域活動に関する情報（17 件） ・サイトの改善点について（Instagramの活用、アプリ化してカスタマイズできるように、写真や絵を追加、子育て支援センター別の情報掲載 等）（16 件） ・子育て支援やサービス全般に関する情報（4 件） ・保育園・幼稚園・小学校の情報（4 件） ・公園の情報（5 件） ・最新情報の更新（3 件） ・医療・福祉に関する情報（2 件） ・現状のままでよい	

問 36 市に対して、今後特に、どのような子育て支援の充実を図ってほしいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

市に対して、今後どのような子育て支援の充実を図ってほしいかについては、「保育料等の軽減など経済的な支援」が 67.4%で最も高く、次いで「小児医療や緊急医療体制の充実」が 61.3%、「子ども同士が安全に遊べる居場所の環境整備」が 61.1%、「保育サービスなど子育てと仕事の両立支援」が 56.5%となっています。

前回調査と比較すると、おおむね同様の傾向が見られる中、「保育料等の軽減など経済的な支援」が 7.7 ポイント増加、「妊娠・出産など母子保健対策の充実」が 6.6 ポイント増加、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と子育ての調和）の推進」が 6.0 ポイント増加しています。



【年齢別／地区別】

年齢別にみると、0～4歳では「保育料等の軽減など経済的な支援」が、5・6歳では「子ども同士が安全に遊べる居場所の環境整備」が最も高くなっています。

地区別にみると、増林地区・蒲生地区では「小児医療や緊急医療体制の充実」が、荻島地区・川柳地区・大沢地区・南越谷地区では「子ども同士が安全に遊べる居場所の環境整備」、そのほかの地区では「保育料等の軽減など経済的な支援」が最も高くなっています。また、新方地区では「障がいのある子どもへの支援の充実」、荻島地区では「子ども同士が安全に遊べる居場所の環境整備」が他の地区を大きく上回ります。

問36 今後充実してほしい子育て支援について

単位：％

	妊娠・出産など母子保健対策の充実	小児医療や緊急医療体制の充実	保育料等の軽減など経済的な支援	保育サービスなど子育てと仕事の両立支援	子育てに関する不安や悩みの相談体制の充実	子育てに関する情報提供や講座などの充実	児童虐待などに対応する体制の整備	子育て中の保護者が気軽に交流できる場所や機会の提供
全体(n=1,238)	28.8	61.3	67.4	56.5	16.5	17.2	9.5	21.5
年齢別								
0歳(n=121)	41.3	66.9	76.0	57.9	17.4	24.8	6.6	27.3
1歳(n=169)	37.3	59.2	76.3	63.9	15.4	22.5	7.1	30.2
2歳(n=183)	38.3	64.5	76.5	65.0	21.3	23.5	8.7	27.3
3歳(n=181)	32.0	65.2	72.9	60.8	20.4	19.3	12.7	22.7
4歳(n=175)	21.7	57.1	61.1	48.6	8.6	10.3	9.7	17.1
5歳(n=177)	19.8	62.1	59.3	52.0	20.3	14.7	11.9	20.3
6歳(n=212)	17.9	58.0	55.7	50.5	13.2	10.4	8.0	10.8
地区別								
桜井地区(n=96)	33.3	50.0	67.7	58.3	14.6	12.5	7.3	17.7
新方地区(n=36)	27.8	61.1	66.7	52.8	16.7	25.0	11.1	27.8
増林地区(n=119)	31.1	69.7	68.9	55.5	14.3	14.3	12.6	14.3
大袋地区(n=152)	30.9	61.2	69.7	54.6	21.7	16.4	9.2	21.7
荻島地区(n=37)	32.4	59.5	70.3	54.1	18.9	29.7	16.2	29.7
出羽地区(n=104)	26.9	62.5	72.1	63.5	18.3	16.3	9.6	23.1
蒲生地区(n=139)	27.3	66.9	66.2	53.2	17.3	19.4	9.4	21.6
川柳地区(n=56)	33.9	60.7	60.7	58.9	12.5	19.6	10.7	23.2
大相模地区(n=212)	26.4	64.6	67.5	57.1	16.0	14.6	9.9	24.1
大沢地区(n=67)	26.9	59.7	67.2	52.2	11.9	17.9	6.0	16.4
北越谷地区(n=33)	15.2	57.6	63.6	60.6	24.2	12.1	9.1	15.2
越ヶ谷地区(n=81)	30.9	49.4	74.1	58.0	18.5	18.5	6.2	29.6
南越谷地区(n=97)	27.8	62.9	58.8	56.7	12.4	21.6	9.3	20.6

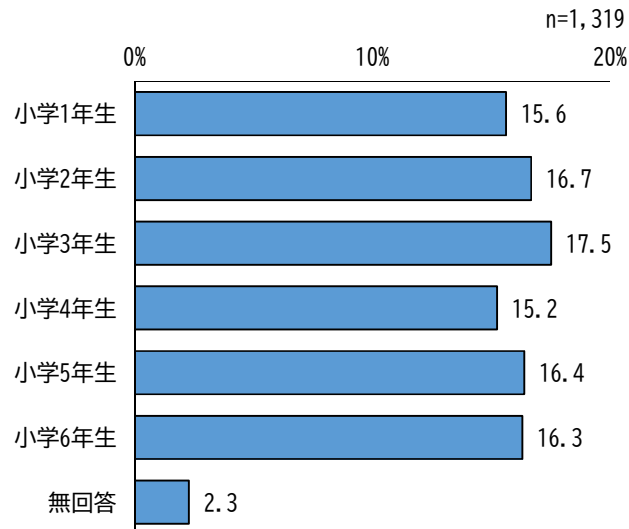
	父親教室の開催など父親の育児参加への支援	子ども同士が安全に遊べる居場所の環境整備	子どもの安全を守る防犯対策の強化	ワーク・ライフ・バランス（仕事と子育ての調和）の推進	障がいのある子どもへの支援の充実	その他	無回答
全体(n=1,238)	13.0	61.1	48.0	33.7	17.2	2.7	1.7
年齢別							
0歳(n=121)	18.2	52.9	48.8	31.4	14.0	2.5	1.7
1歳(n=169)	13.0	60.9	45.6	29.6	11.8	2.4	1.2
2歳(n=183)	19.7	68.3	45.4	38.8	14.2	3.3	1.1
3歳(n=181)	18.2	64.1	55.2	37.6	21.5	1.7	1.7
4歳(n=175)	8.0	56.0	48.0	30.3	20.6	2.3	3.4
5歳(n=177)	11.3	63.8	52.5	33.3	22.6	5.6	1.1
6歳(n=212)	5.2	59.4	41.5	33.5	15.6	0.9	1.9
地区別							
桜井地区(n=96)	13.5	56.3	45.8	41.7	19.8	3.1	3.1
新方地区(n=36)	11.1	61.1	58.3	30.6	33.3	0.0	0.0
増林地区(n=119)	6.7	64.7	57.1	33.6	24.4	3.4	0.8
大袋地区(n=152)	19.7	56.6	50.7	34.9	15.8	5.9	1.3
荻島地区(n=37)	21.6	83.8	48.6	32.4	16.2	0.0	5.4
出羽地区(n=104)	14.4	60.6	47.1	35.6	12.5	2.9	1.0
蒲生地区(n=139)	14.4	61.9	43.2	31.7	15.1	1.4	2.2
川柳地区(n=56)	7.1	64.3	37.5	44.6	25.0	1.8	3.6
大相模地区(n=212)	13.7	62.7	51.4	31.6	15.1	3.3	1.4
大沢地区(n=67)	11.9	67.2	44.8	22.4	10.4	0.0	1.5
北越谷地区(n=33)	15.2	51.5	54.5	33.3	15.2	9.1	0.0
越ヶ谷地区(n=81)	11.1	49.4	32.1	28.4	16.0	0.0	1.2
南越谷地区(n=97)	8.2	66.0	48.5	38.1	17.5	0.0	2.1

Ⅲ 小学生調査の結果

1. お子さんご家族の状況について

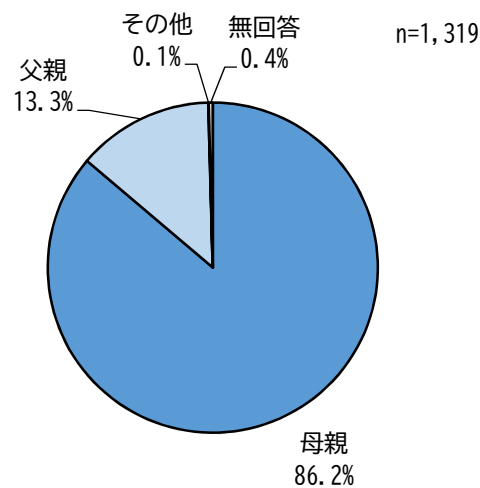
問1 宛て名のお子さんが生まれた年月をご記入ください。(の中に数字でご記入ください。数字は一桁に一字。)

お子さんの学年については、「小学3年生」が17.5%で最も高く、次いで「小学2年生」が16.7%、「小学5年生」が16.4%となっています。



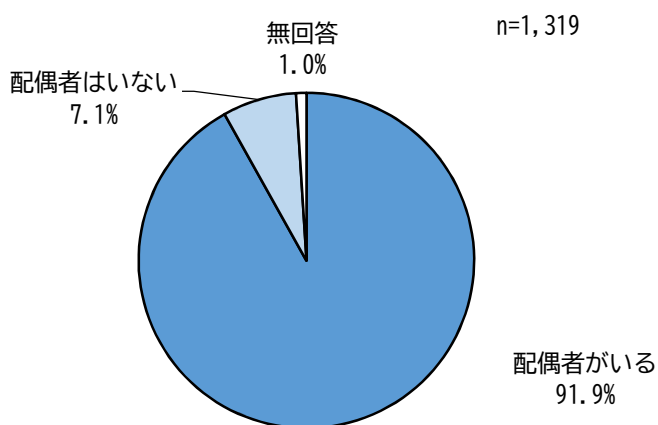
問2 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛て名のお子さんからみた関係でお答えください。(○は1つ)

回答者については、「母親」が86.2%で、大半を占めています。



問3 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。（問2で「3. その他」と回答した方は回答不要です）（○は1つ）

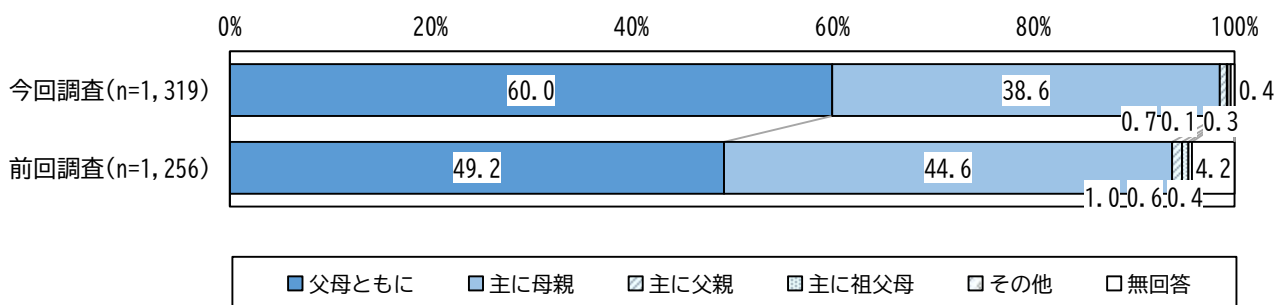
回答者の配偶関係については、「配偶者がいる」が88.0%で、大半を占めています。



問4 宛て名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのは誰ですか。宛て名のお子さんからみた関係でお答えください。（○は1つ）

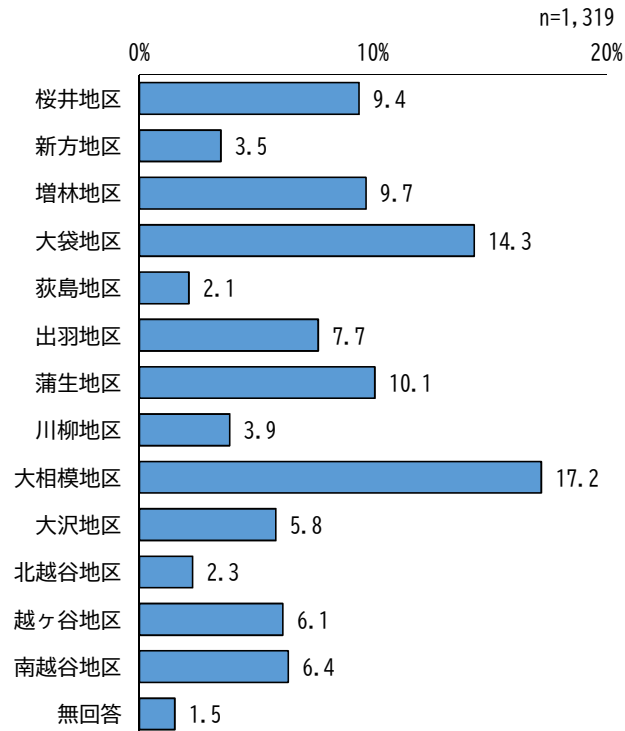
子育て（教育を含む）を主に行っている人については、「父母ともに」が60.0%で最も高く、次いで「主に母親」が38.6%となっています。

前回調査と比較すると、「父母ともに」が10.8ポイント増加しています。



問5 あなたのお住まいはどちらですか。記入例を参考に、お住まいの町名を記入してください。（丁目がある場合は丁目まで。番地の記入は不要です。）

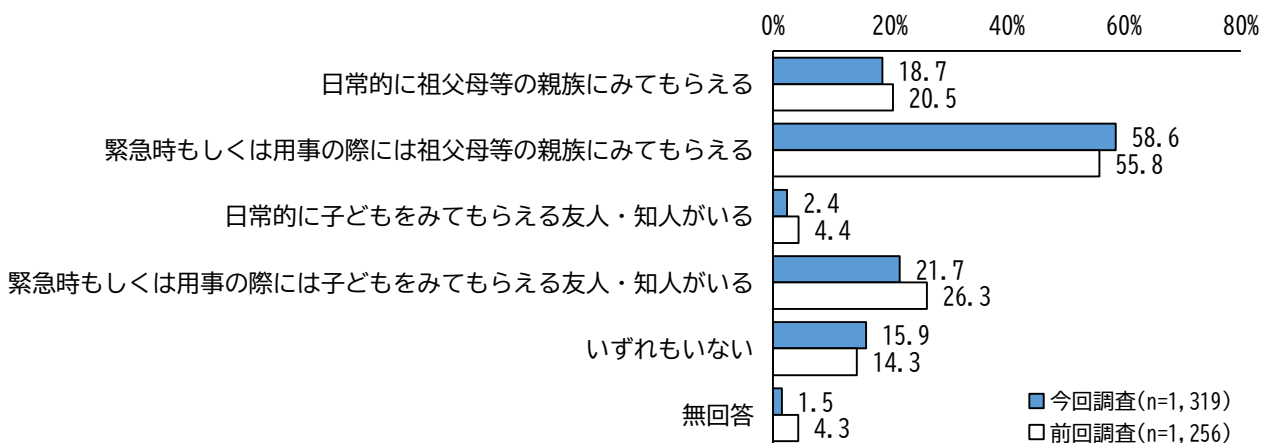
居住する地区については、「大相模地区」が 17.2%で最も高く、次いで「大袋地区」が 14.3%、「蒲生地区」が 10.1%となっています。



問6 日ごろ、宛て名のお子さんをみてもらえる親族や知人はいますか。（あてはまるものすべてに○）

日ごろ、お子さんをみてもらえる親族・知人の有無については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 58.6%で最も高く、次いで「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が 21.7%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 18.7%となっています。

前回調査と比較すると、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が 4.6 ポイント減少しています。



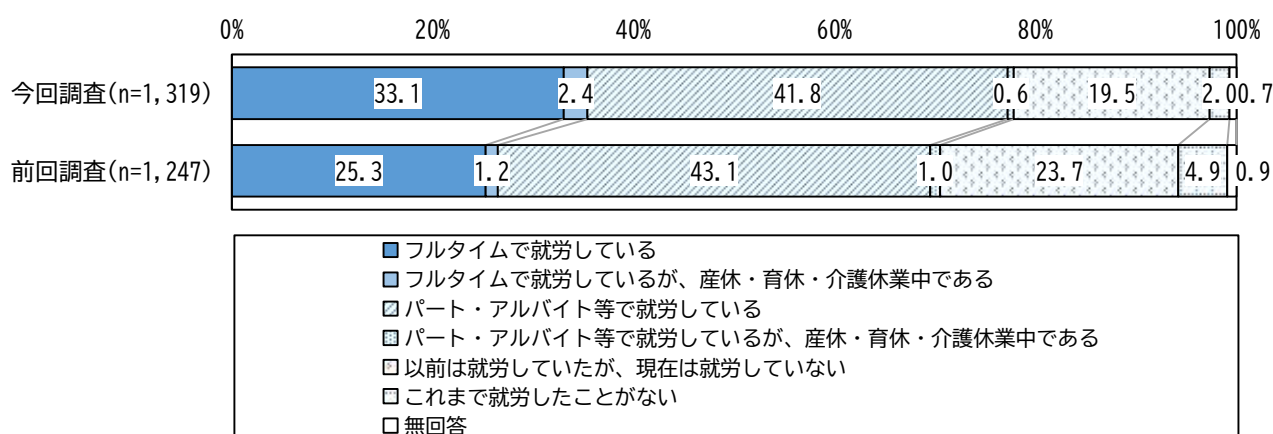
2. お子さんの保護者の就労状況について

① 母親（○は1つ） ※父子家庭の場合、記入は不要です

問7 宛て名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

母親の就労状況については、「パート・アルバイト等で就労している」が41.8%で最も高く、次いで「フルタイムで就労している」が33.1%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が19.5%となっています。

前回調査と比較すると、「フルタイムで就労している」が7.8ポイント増加しています。



【問7の①で「1」～「4」（就労している）を選択した方】

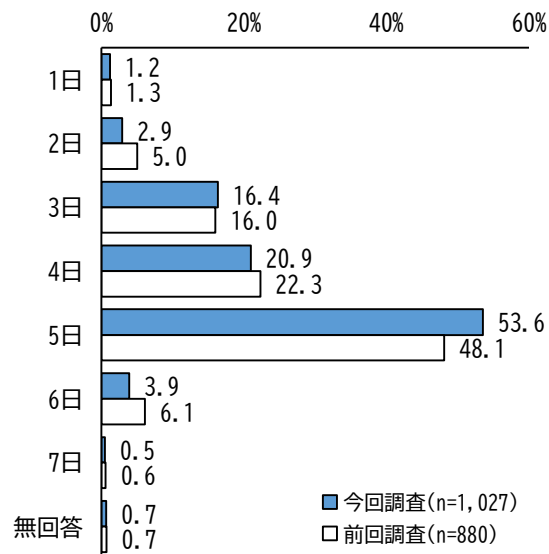
問7 ①ー1 週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。（数字は一桁に一字）

就労している母親の週当たりの就労日数については、「5日」が53.6%で最も高く、次いで「4日」が20.9%、「3日」が16.4%となっています。

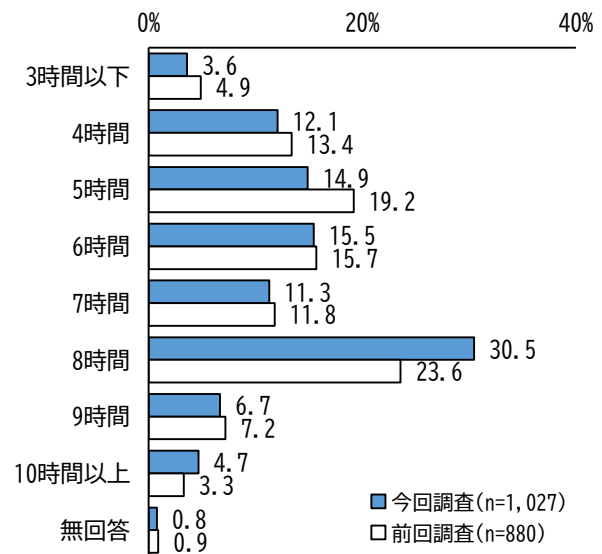
また、1日当たりの就労時間については、「8時間」が30.5%で最も高く、次いで「6時間」が15.5%、「5時間」が14.9%となっています。

前回調査と比較すると、就労日数は「5日」が5.5ポイント増加しています。就労時間は「8時間」が6.9ポイント増加しています。

【週当たりの就労日数】



【1日当たりの就労時間】



【問7の①で「1」～「4」（就労している）を選択した方】

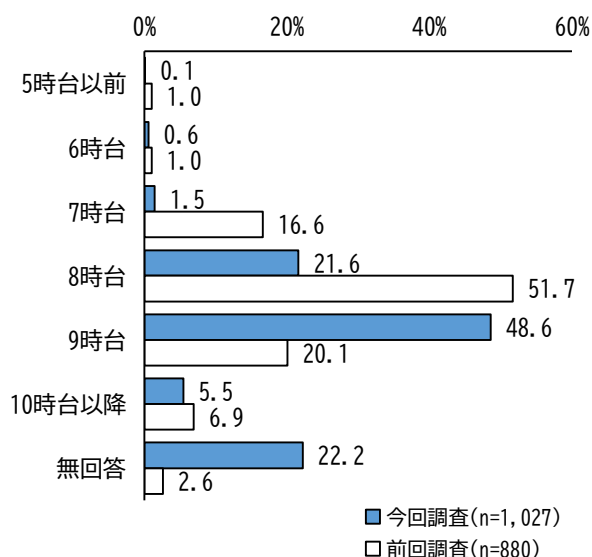
問7 ①ー2 家を出る時間と帰宅時間をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。必ず、時間は24時間表記（例：帰宅時間 時）でご記入ください（数字は一枠に一字）。

就労している母親の家を出る時間については、「9時台」が48.6%で最も高く、次いで「8時台」が21.6%、「10時以降」が5.5%となっています。

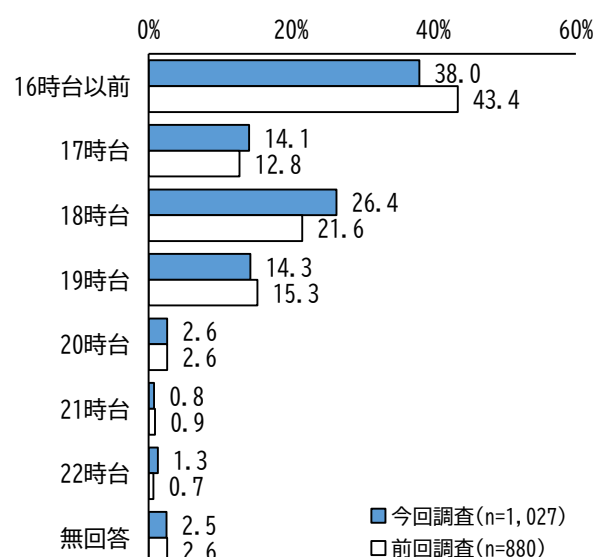
また、帰宅時間については、「16時台以前」が38.0%で最も高く、次いで「18時台」が26.4%、「19時台」が14.3%、「17時台」が12.8%となっています。

前回調査と比較すると、家を出る時間は「8時台」が30.1ポイント減少、「7時台」が15.1ポイント減少し、「9時台」が28.5ポイント増加しています。帰宅時間は「16時台以前」が5.4ポイント減少し、「18時台」が4.8ポイント増加しています。

【家を出る時間】



【帰宅時間】

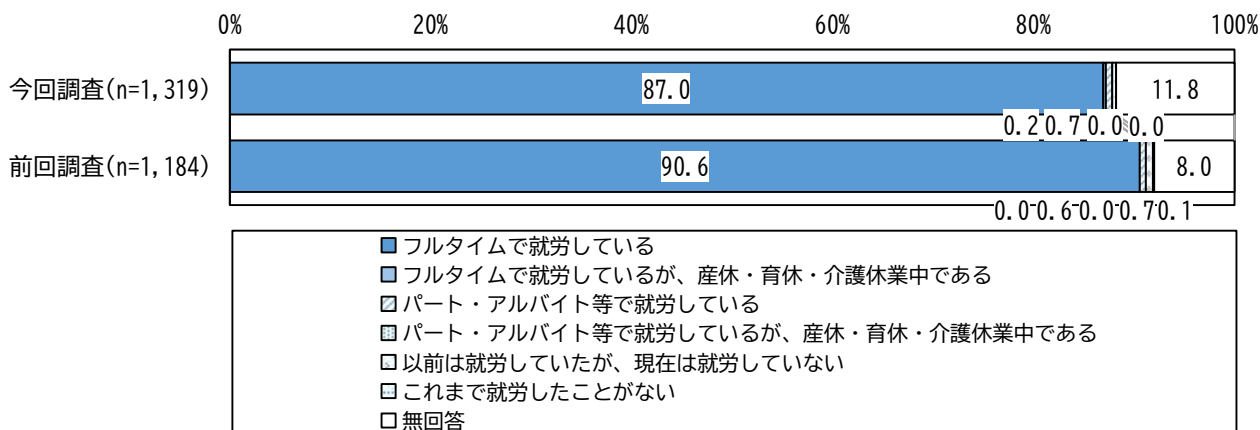


② 父親（〇は1つ） ※母子家庭の場合、記入は不要です

7 宛て名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

父親の就労状況については、「フルタイムで就労している」が 87.0%と大半を占めています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



【問7の①で「1」～「4」（就労している）を選択した方】

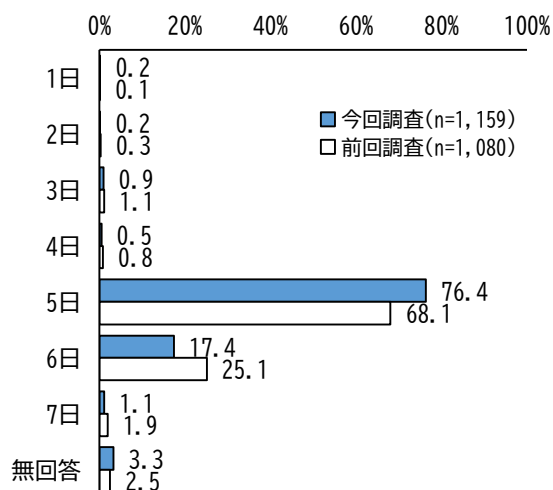
問7 ①ー1 週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。（数字は一桁に一字）

就労している父親の週当たりの就労日数については、「5日」が 76.4%で最も高く、次いで「6日」が 17.4%となっています。

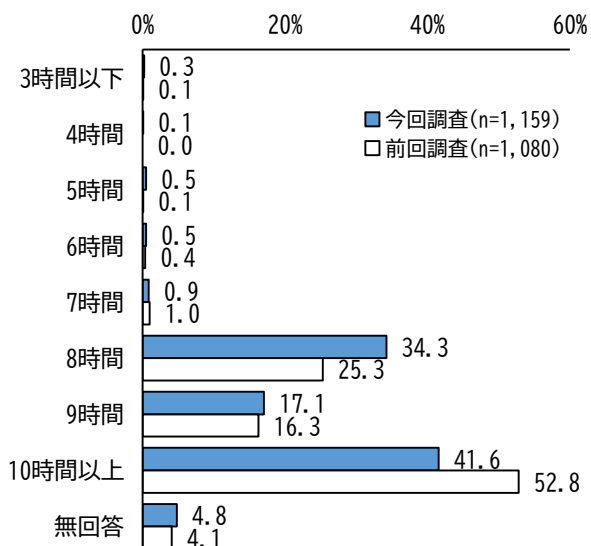
また、1日当たりの就労時間については、「10 時間以上」が 41.6%で最も高く、次いで「8時間」が 34.3%、「9時間」が 17.1%となっています。

前回調査と比較すると、就労日数は「6日」が 7.7 ポイント減少し、「5日」が 8.3 ポイント増加しています。就労時間は「10 時間以上」が 11.2 ポイント減少し、「8時間」が 9.0 ポイント増加しています。

【週当たりの就労日数】



【1日当たりの就労時間】



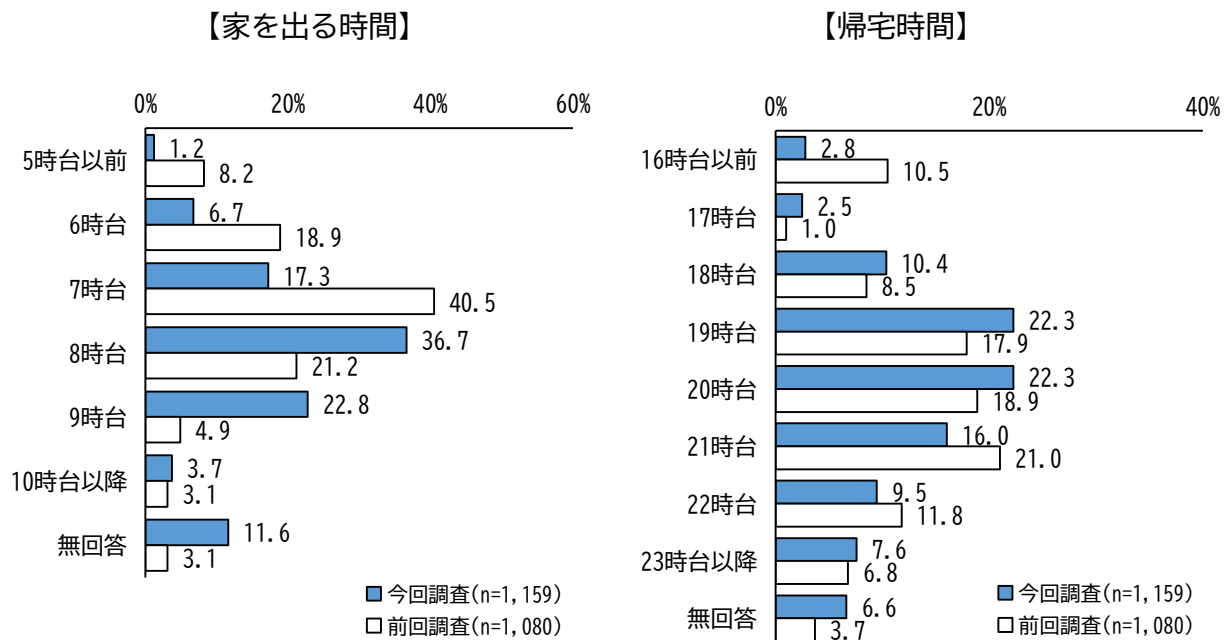
【問7の①で「1」～「4」（就労している）を選択した方】

問7 ①ー2 家を出る時間と帰宅時間をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。必ず、時間は24時間表記（例：帰宅時間 19 時）でご記入ください（数字は一桁に一字）。

就労している父親の家を出る時間については、「8時台」が36.7%で最も高く、次いで「9時台」が22.8%、「7時台」が17.3%となっています。

また、帰宅時間については、「19時台」と「20時台」がともに22.3%であり、次いで「21時台」が16.0%、「18時台」が10.4%となっています。

前回調査と比較すると、家を出る時間は「7時台」が23.2ポイント減少、「6時台」が12.2ポイント減少し、「9時台」が17.9ポイント増加、「8時台」が15.5ポイント増加しています。帰宅時間は「16時台以前」が7.7ポイント減少、「21時台」が5.0ポイント減少し、「19時台」が4.4ポイント増加、「20時台」が3.4ポイント増加しています。



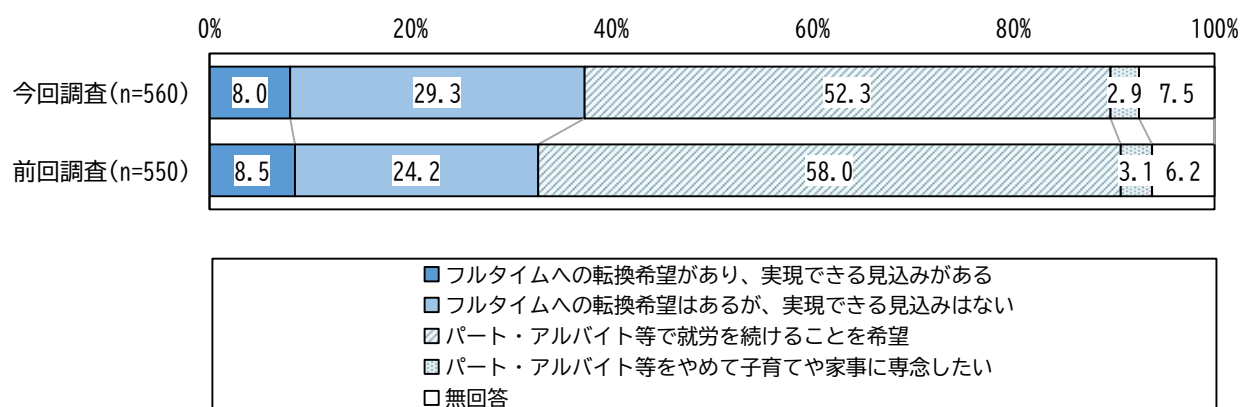
【問7の①または②で「3」または「4」（パート・アルバイト等で就労）を選択した方】

問7 ③ フルタイムへの転換希望はありますか。

③-1 母親（〇は1つ）

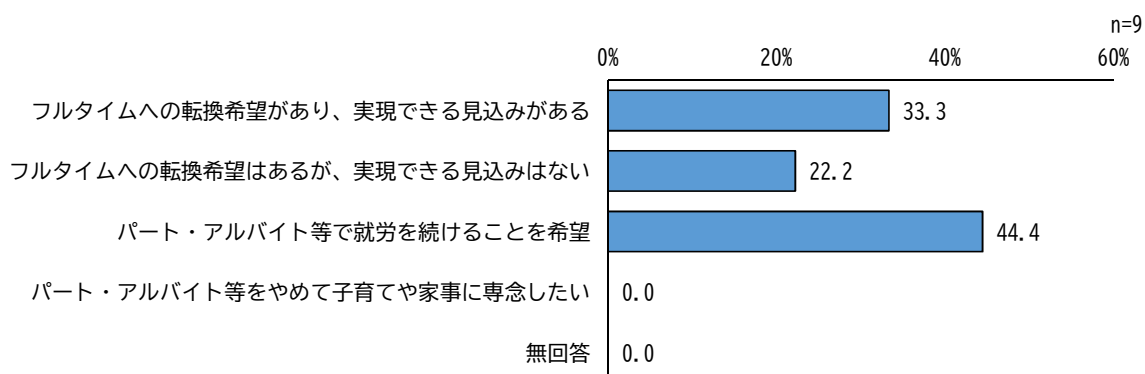
パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望については、「パート・アルバイト等で就労を続けることを希望」が52.3%で最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が29.3%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が8.0%となっています。

前回調査と比較すると、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が5.1%増加しています。一方、「パート・アルバイト等で就労を続けることを希望」は5.7ポイント減少しています。



③-2 父親（〇は1つ）

パート・アルバイト等で就労している父親のフルタイムへの転換希望については9件の回答があり、「パート・アルバイト等で就労を続けることを希望」が44.4%（4件）、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が33.3%（3件）、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が22.2%（2件）となっています。



【問7の①または②で「5」または「6」（就労していない・就労したことがない）を選択した方】

問7 ④ 就労したいという希望はありますか。

④-1 母親（〇は1つ）

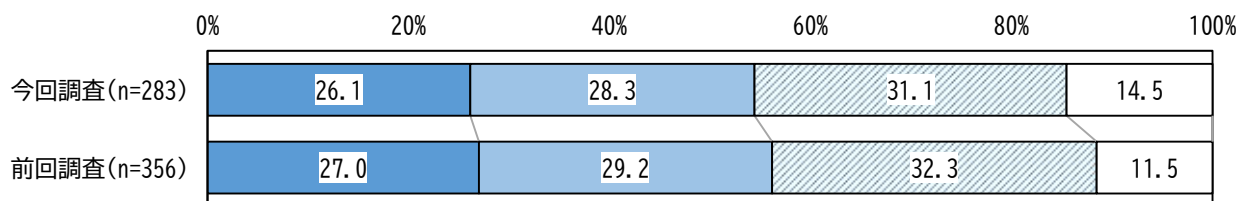
就労していない母親の就労希望については、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が31.1%で最も高く、次いで「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」が26.3%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が26.1%となっています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。

また、就労したい末子の年齢については、「9歳以上」が42.5%で最も高く、次いで「7～8歳」が22.5%、「5～6歳」が16.3%となっています。

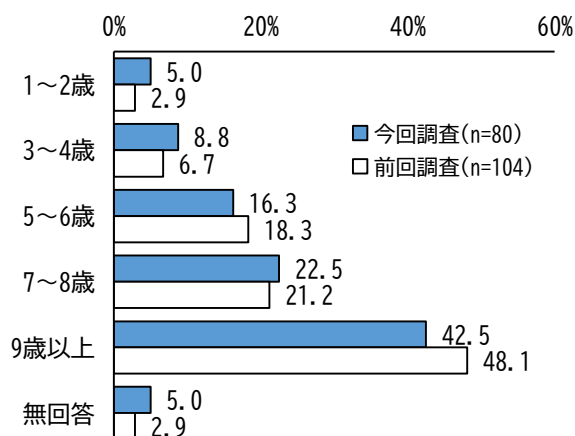
前回調査と比較すると、「9歳以上」が5.6ポイント減少しています。

【就労していない母親の就労希望】



■ 子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
 ■ 1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい
 ■ すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい
 □ 無回答

【就労したい末子の年齢】



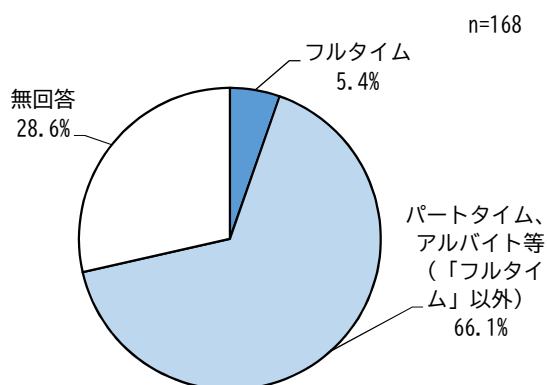
④ー１ 今後就労意向がある「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」「１年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったころに就労したい」と回答した母親が希望する就労形態（○は１つ）

④ー１ 母親（○は１つ）

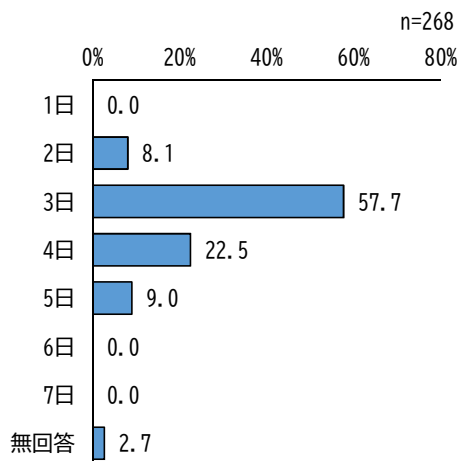
今後就労意向がある母親が希望する就労形態については、「パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）」が 66.1%で、「フルタイム」の 5.4%を上回っています。

また、希望する週当たりの就労日数については、「３日」が 57.7%で最も高く、次いで「４日」が 22.5%、「５日」が 9.0%、「２日」が 8.1%となっています。

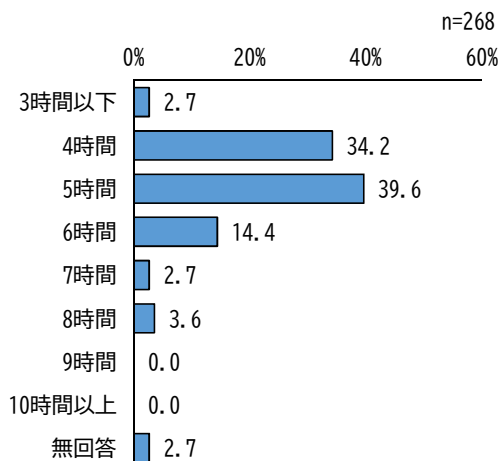
希望する１日当たりの就労時間については、「５時間」が 39.6%で最も高く、次いで「４時間」が 34.2%、「６時間」が 14.4%となっています。



【希望する週当たりの就労日数】



【希望する１日当たりの就労時間】



④ー２ 父親（○は１つ）

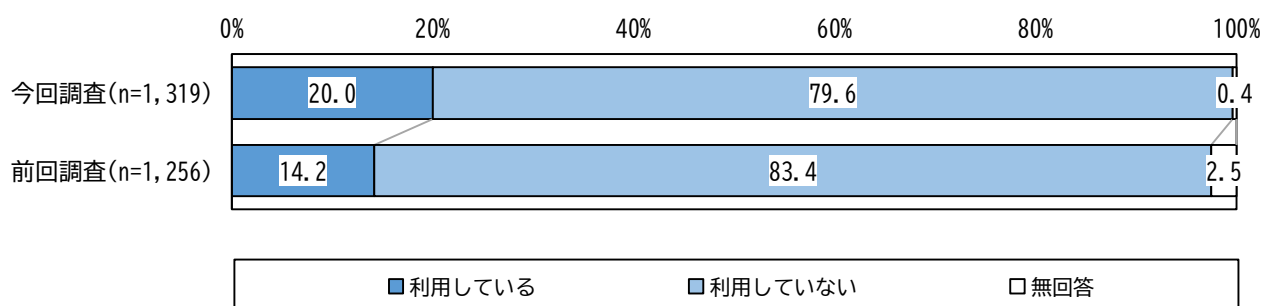
就労していない父親の就労希望については回答が５件で、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」が３件、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が１件、無回答が１件となっています。（グラフ省略）

3. 学童保育室の利用について

問8 宛て名のお子さんについて、現在、学童保育室を利用していますか。(○は1つ)

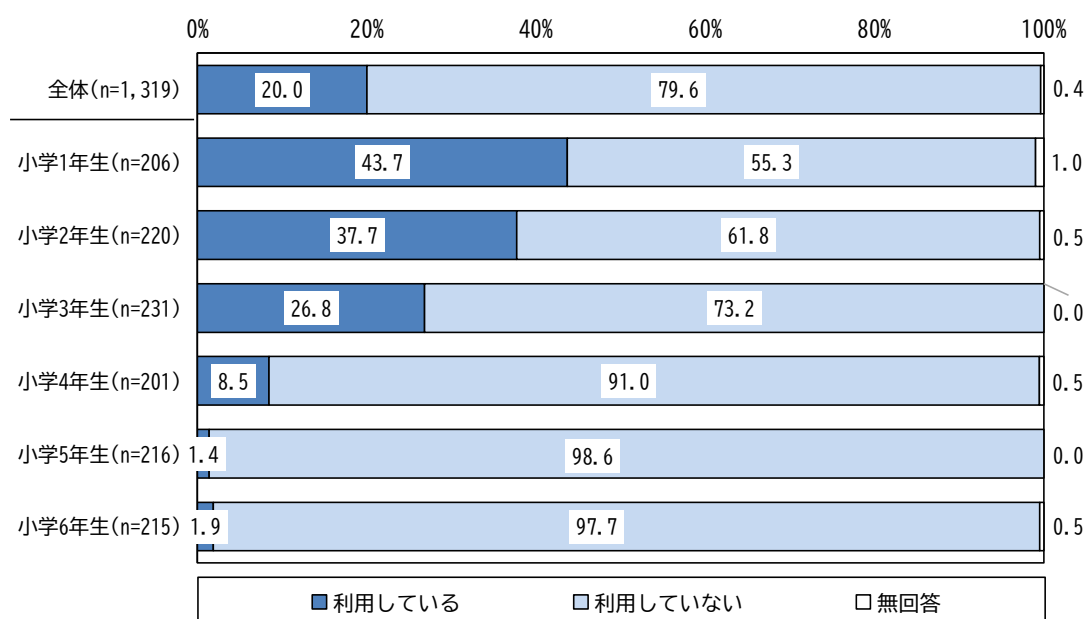
学童保育室の利用の有無については、「利用していない」が79.6%で、「利用している」の20.0%を大きく上回っています。

前回調査と比較すると、「利用している」が5.8ポイント増加しています。



【学年別】

学年別にみると、「利用している」は3年生以下で2～4割台となっており、小学1年生で最も高くなっています。4年生以上では、1割に満たない値となっています。



【問8で「1. 利用している」を選択した方】

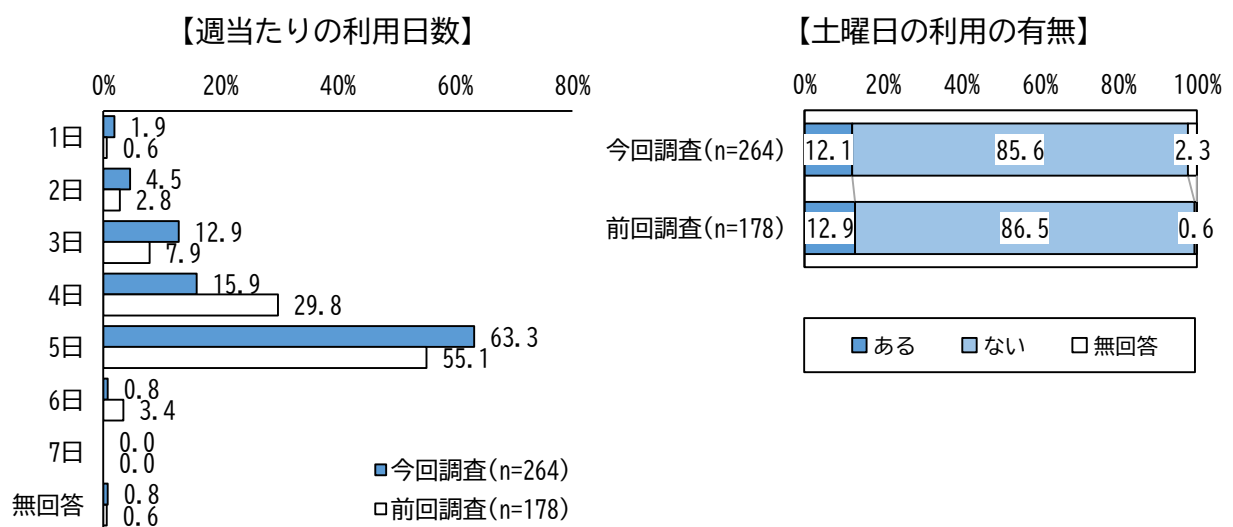
問8－1 宛て名のお子さんについて、学童保育室の利用日数はどれくらいですか。（数字は一
 枠に一字。また○は1つ）

学童保育室の利用日数については、「5日」が63.3%で最も高く、次いで「4日」が15.9%、
 「3日」が12.9%となっています。

前回調査と比較すると、「4日」が13.9ポイント減少し、「5日」が8.2ポイント増加して
 います。

土曜日の利用の有無については、「ない」が85.6%で、「ある」の12.1%を大きく上回って
 います。

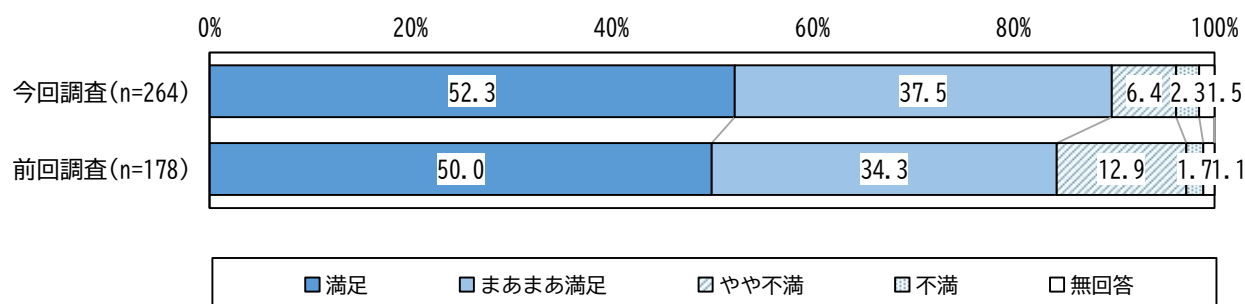
おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



問 8－2 利用した満足度はいかがですか。(○は1つ)

学童保育室の満足度については、「満足」と「まあまあ満足」を合わせた『満足』が 89.8%で、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』の 8.7%を大きく上回っています。

前回調査と比較すると、「やや不満」が 6.5 ポイント減少し、「まあまあ満足」が 3.2 ポイント増加、「満足」が 2.3 ポイント増加しています。

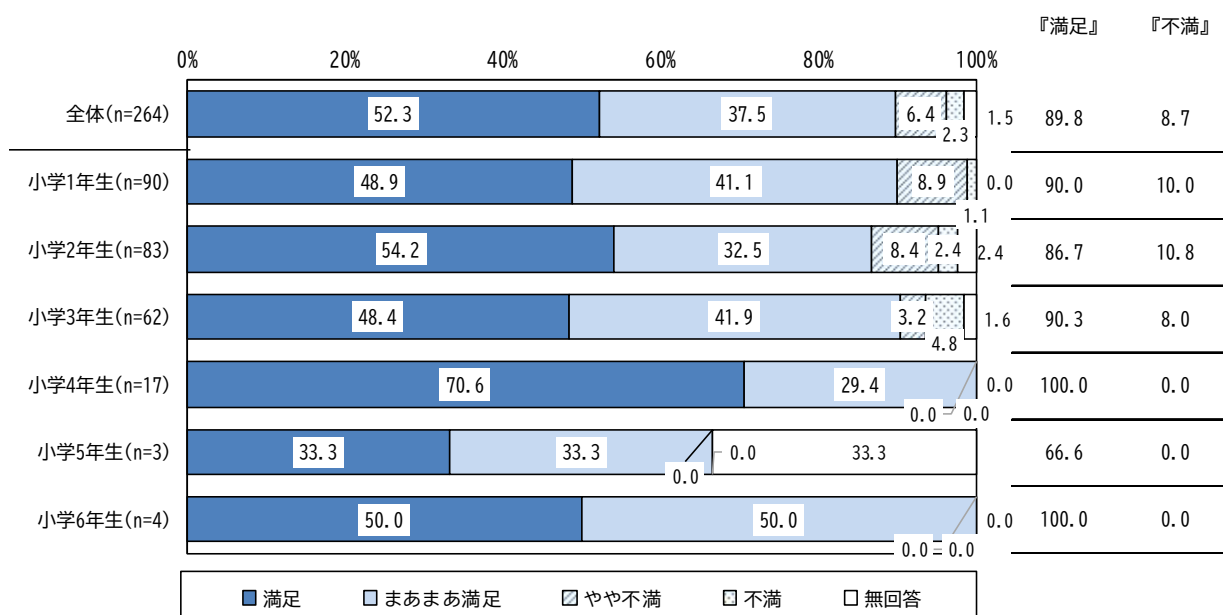


【学童保育室を利用して「やや不満」「不満」と感じる理由】

不満と感じる理由 (n=20)	
・ 指導員の対応や資質に不満がある。入れ替わりが多い。(7件)	
・ 教室で過ごす時間が長いなど、過ごし方の内容に不満がある。(5件)	
・ お弁当を持たせないといけないため。(2件)	
・ おやつの内容や時間帯に不満。(2件)	
・ 施設の設備が古い。(2件)	
・ おやつ代が振込だとよい、日割りにしてほしい。	
・ 学校によってクラス数(受け入れ人数、学年)が違ってくるのは不公平。	
・ 不登校もあり、学童も行っていない	

【学年別】

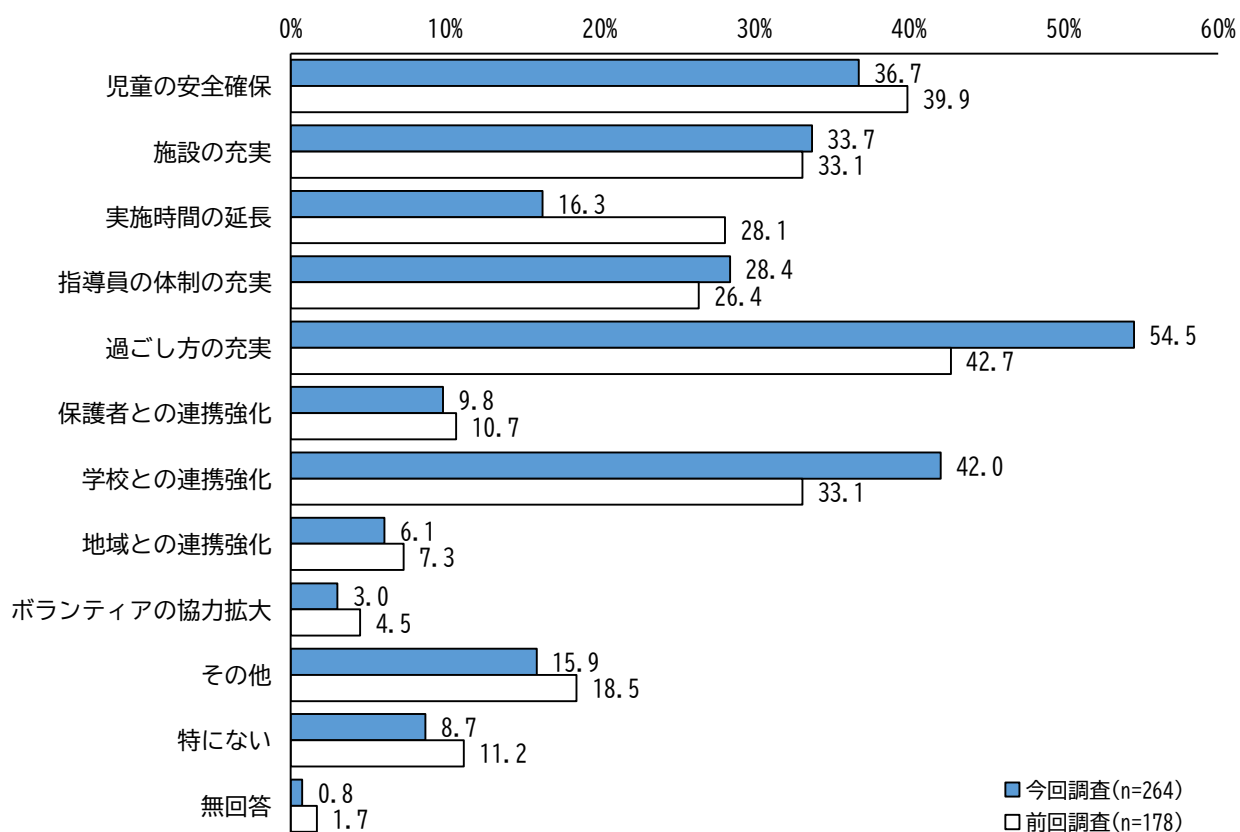
学年別にみると、利用者の多い 3 年生以下では、『満足』が 8 割台後半～9 割、『不満』は約 1 割となっています。



問 8－3 学童保育室に今後望むのはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

学童保育室に今後望むことについては、「過ごし方の充実」が 54.5%で最も高く、次いで「学校との連携強化」が 42.0%、「児童の安全確保」が 36.7%、「施設の充実」が 33.7%となっています。

前回調査と比較すると、「過ごし方の充実」が 11.8 ポイント増加、「学校との連携強化」が 8.9 ポイント増加しています。一方、「実施時間の延長」は 11.8 ポイント減少しています。



【学年別】

学年別にみると、利用者の多い３年生以下では、「過ごし方の充実」が最も高くなっています。また、学年が上がるほど「指導員の体制の充実」が高い割合となっています。

問8-3 学童保育室に今後望むこと

単位：％

	児童の安全確保	施設の充実	実施時間の延長	指導員の体制の充実	過ごし方の充実	保護者との連携強化
全体(n=264)	36.7	33.7	16.3	28.4	54.5	9.8
小学1年生(n=90)	35.6	34.4	14.4	20.0	55.6	8.9
小学2年生(n=83)	34.9	33.7	20.5	28.9	51.8	10.8
小学3年生(n=62)	37.1	33.9	11.3	43.5	54.8	9.7
小学4年生(n=17)	52.9	35.3	11.8	29.4	47.1	11.8
小学5年生(n=3)	33.3	0.0	33.3	0.0	100.0	0.0
小学6年生(n=4)	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0

	学校との連携強化	地域との連携強化	ボランティアの協力拡大	その他	特になし	無回答
全体(n=264)	42.0	6.1	3.0	15.9	8.7	0.8
小学1年生(n=90)	42.2	3.3	2.2	18.9	6.7	0.0
小学2年生(n=83)	41.0	4.8	1.2	19.3	9.6	2.4
小学3年生(n=62)	48.4	12.9	8.1	11.3	6.5	0.0
小学4年生(n=17)	23.5	5.9	0.0	5.9	17.6	0.0
小学5年生(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学6年生(n=4)	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

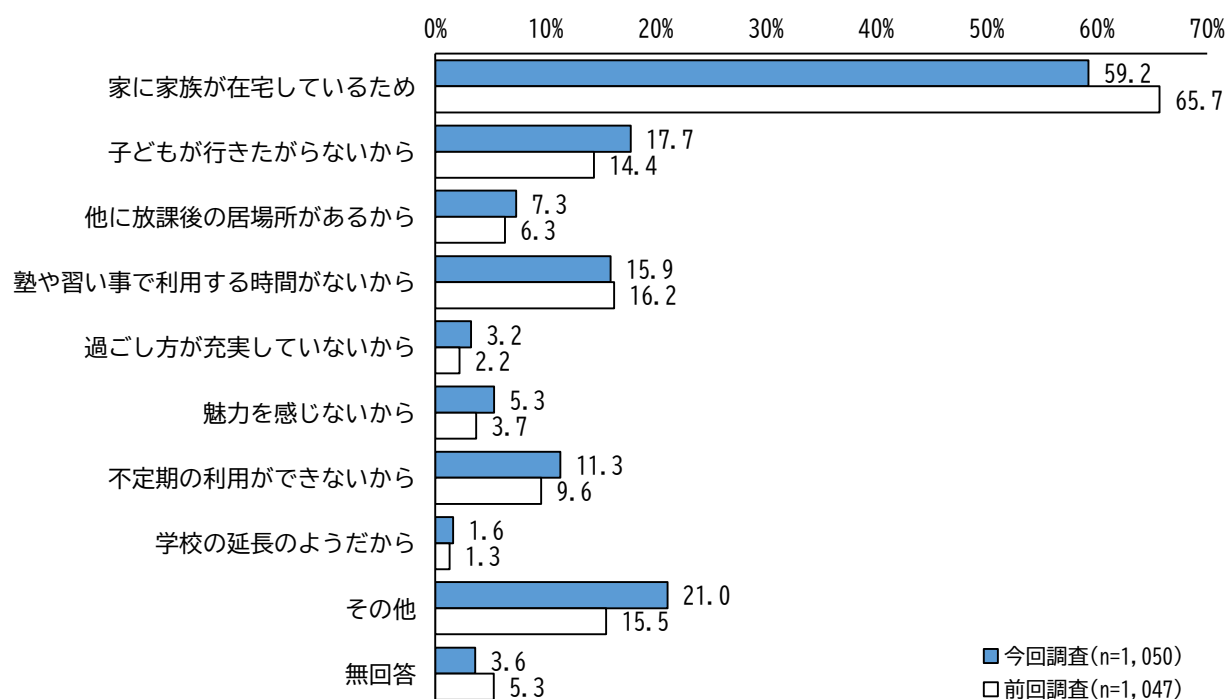
【問8で「2. 利用していない」を選択した方】

問8－4 学童保育室を利用していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

学童保育室を利用していない理由については、「家に家族が在宅しているため」が 59.2%で最も高く、次いで「子どもが行きたがらないから」が 17.7%「塾や習い事で利用する時間がないから」が 15.9%となっています。

前回調査と比較すると、「家に家族が在宅しているため」が 6.5 ポイント減少しています。

なお、「その他」の記述内容として、高学年になり利用する必要がなくなったこと、利用を希望したが入室できなかったことなどが多く挙げられています。



【学年別】

学年別にみると、いずれの学年も「家に家族が在宅しているため」が最も高くなっています。

問8-4 学童保育室を利用していない理由

単位：％

	家に家族が在宅しているため	子どもが行きたがらないから	他に放課後の居場所があるから	塾や習い事で利用する時間がないから	過ごし方が充実していないから
全体(n=1,050)	59.2	17.7	7.3	15.9	3.2
小学1年生(n=114)	79.8	8.8	7.9	10.5	3.5
小学2年生(n=136)	72.1	11.0	4.4	11.8	2.9
小学3年生(n=169)	61.5	17.2	7.7	17.2	3.0
小学4年生(n=183)	54.1	21.9	5.5	16.4	3.3
小学5年生(n=213)	50.2	21.6	9.4	18.8	3.8
小学6年生(n=210)	52.4	20.0	7.6	18.1	2.9

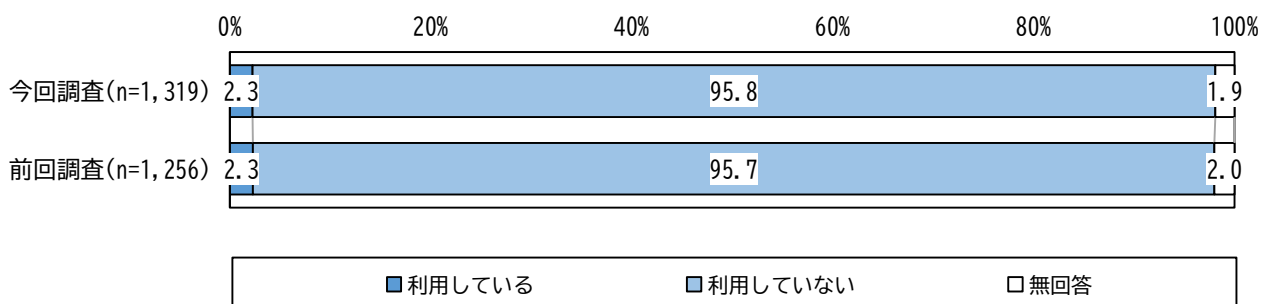
	魅力を感じないから	不定期の利用ができないから	学校の延長のようだから	その他	無回答
全体(n=1,050)	5.3	11.3	1.6	21.0	3.6
小学1年生(n=114)	6.1	11.4	1.8	10.5	3.5
小学2年生(n=136)	5.1	16.9	1.5	11.0	1.5
小学3年生(n=169)	4.1	16.0	1.8	23.1	3.6
小学4年生(n=183)	7.1	12.6	1.6	19.1	4.4
小学5年生(n=213)	5.6	8.9	1.4	29.1	3.3
小学6年生(n=210)	4.3	5.2	1.9	24.8	4.3

4. 放課後子ども教室の利用について

問9 宛て名のお子さんについて、現在、放課後子ども教室を利用していますか。(○は1つ)

放課後子ども教室の利用状況については、「利用していない」が95.8%で、「利用している」の2.3%を大きく上回っています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。

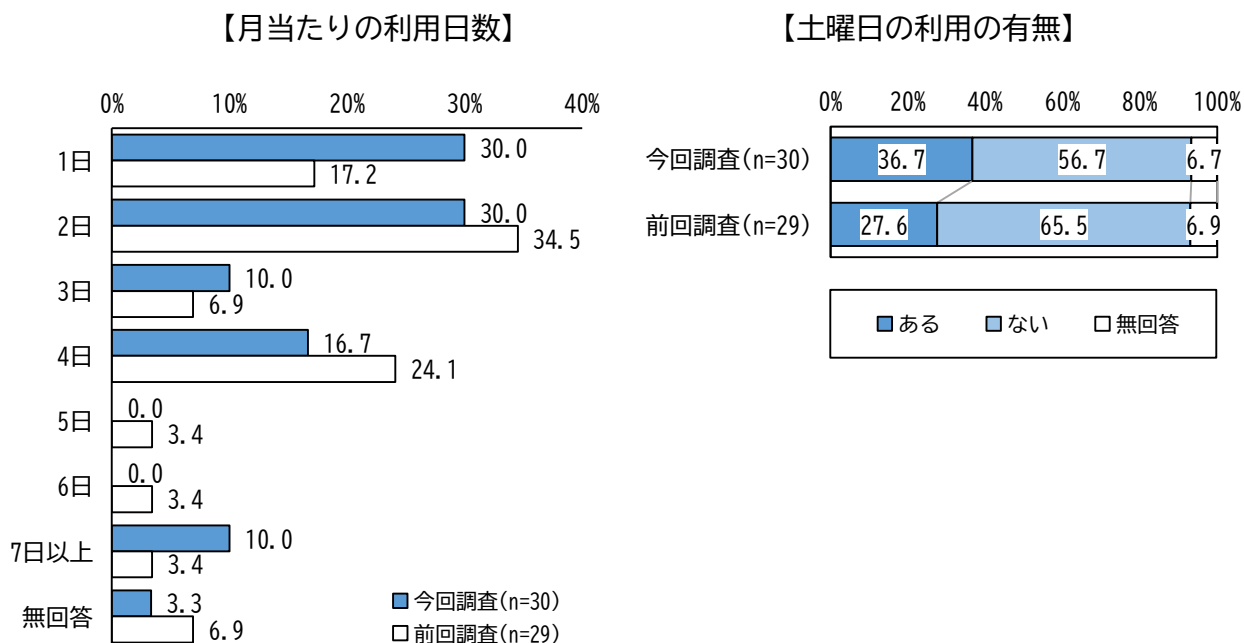


【問9で「1. 利用している」を選択した方】

問9-1 宛て名のお子さんについて、放課後子ども教室の利用日数はどれくらいですか。
(数字は一桁に一字。また○は1つ)

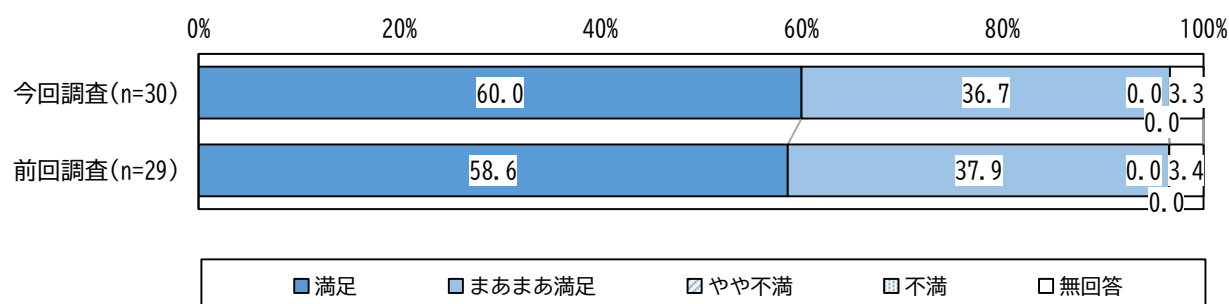
放課後子ども教室の1か月の利用日数については、「1日」と「2日」がともに30.0%、次いで「4日」が16.7%となっています。

また、土曜日の利用の有無については、「ない」が56.7%、「ある」が36.7%となっています。



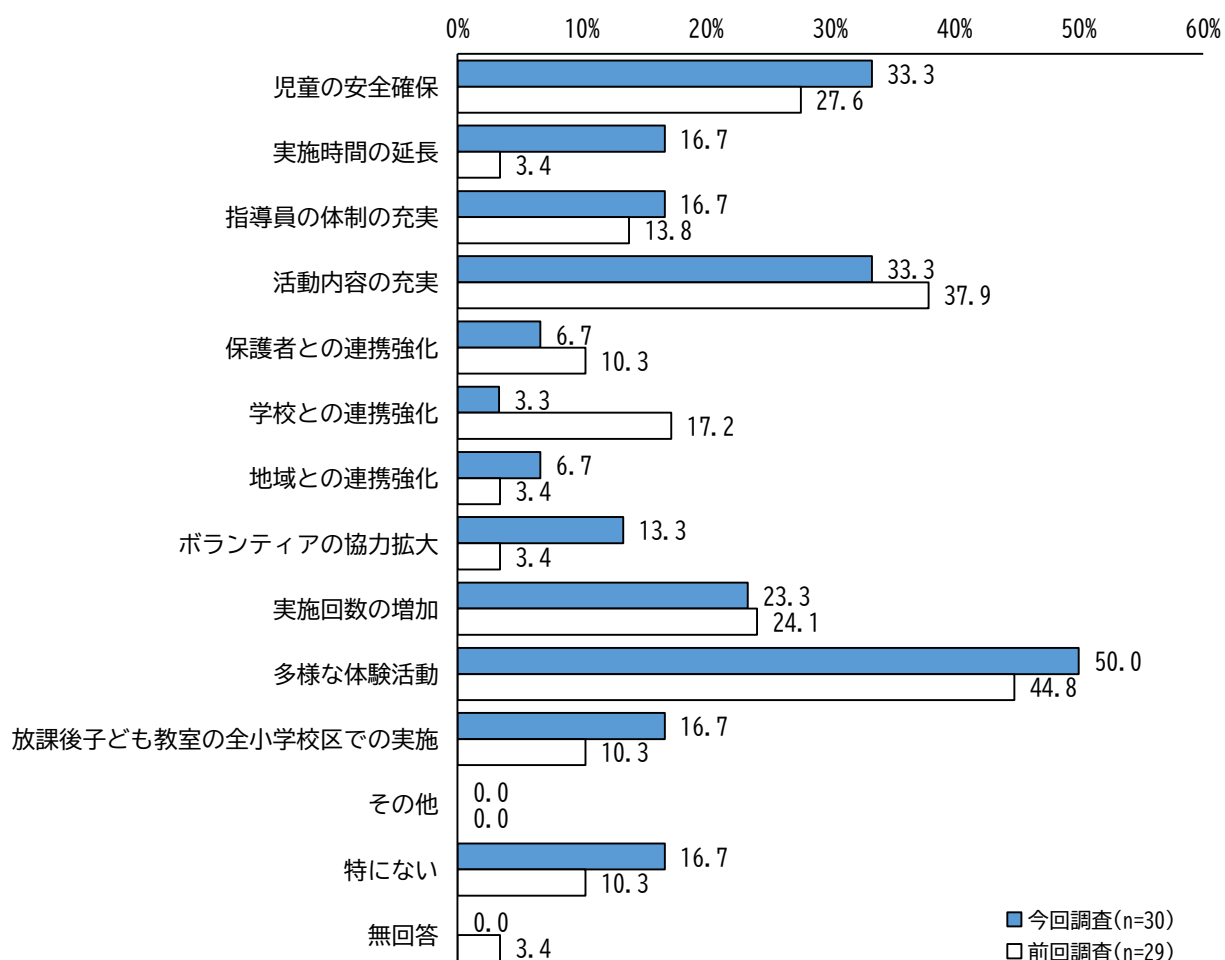
問9-2 利用した満足度はいかがですか。(○は1つ)

放課後子ども教室の満足度については、「満足」と「まあまあ満足」を合わせた『満足』が96.7%となっています。



問9-3 放課後子ども教室に今後望むのはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

放課後子ども教室に今後望むことについては、「多様な体験活動」が50.0%で最も高く、次いで「児童の安全確保」と「活動内容の充実」がともに33.3%となっています。

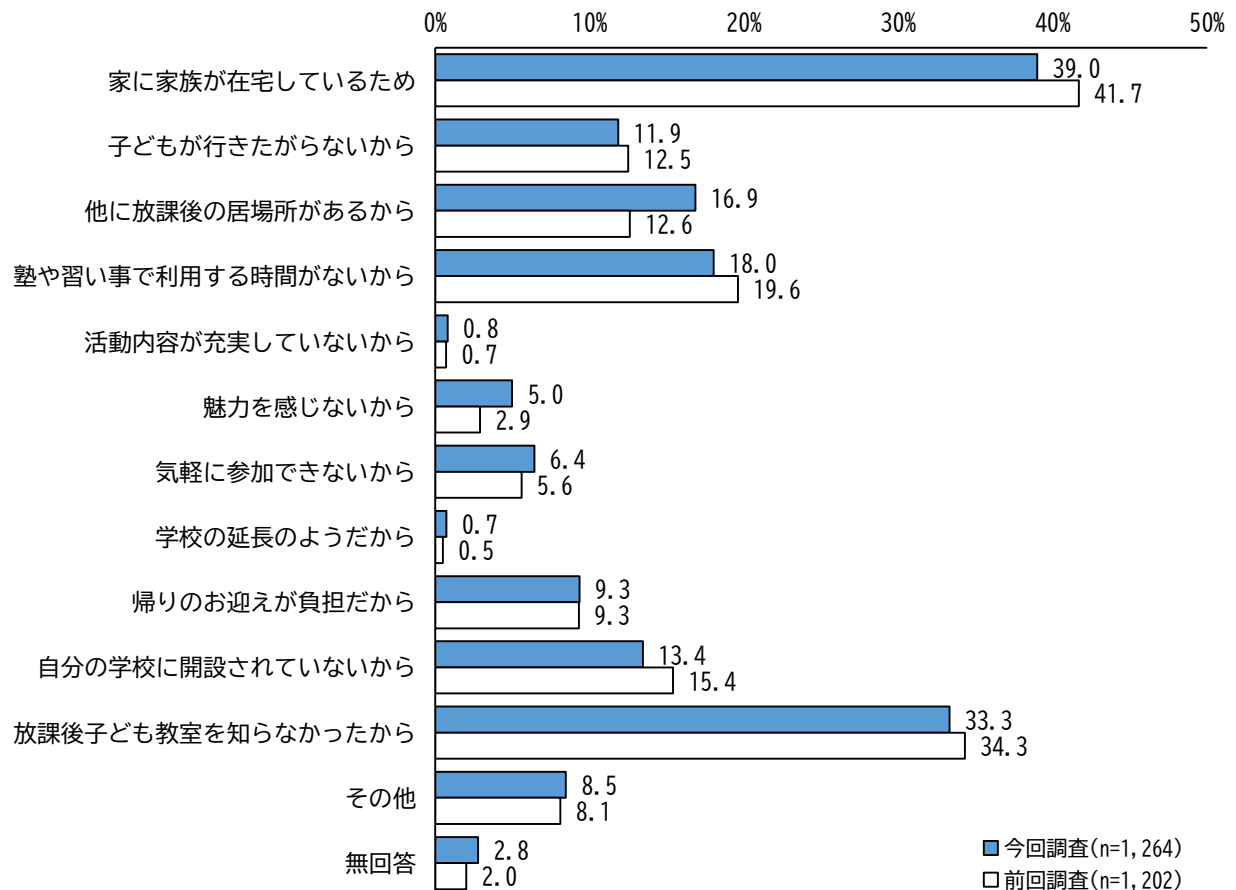


【問9で「2. 利用していない」を選択した方】

問9－4 放課後子ども教室を利用していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

放課後子ども教室を利用していない理由については、「家に家族が在宅しているため」が39.0%で最も高く、次いで、「放課後子ども教室を知らなかったから」が33.3%、「塾や習い事で利用する時間がないから」が18.0%となっています。

前回調査と比較すると、「他に放課後の居場所があるから」が4.3ポイント増加しています。

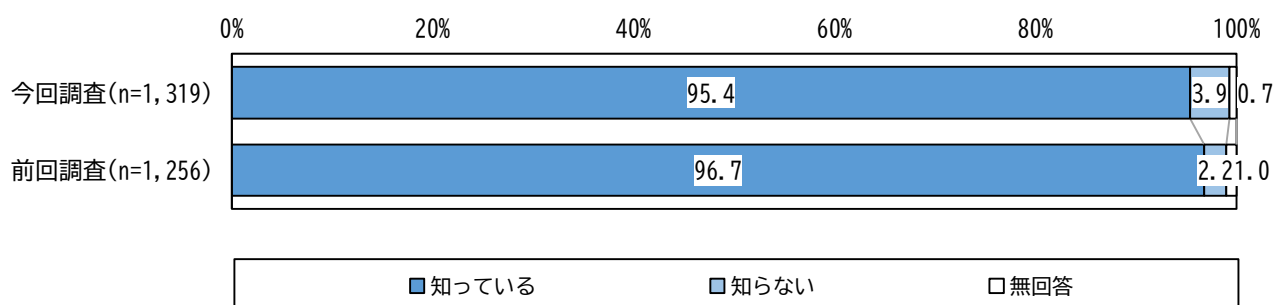


5. 児童館の利用について

問 10 越谷市に児童館があるのを知っていますか。(○は1つ)

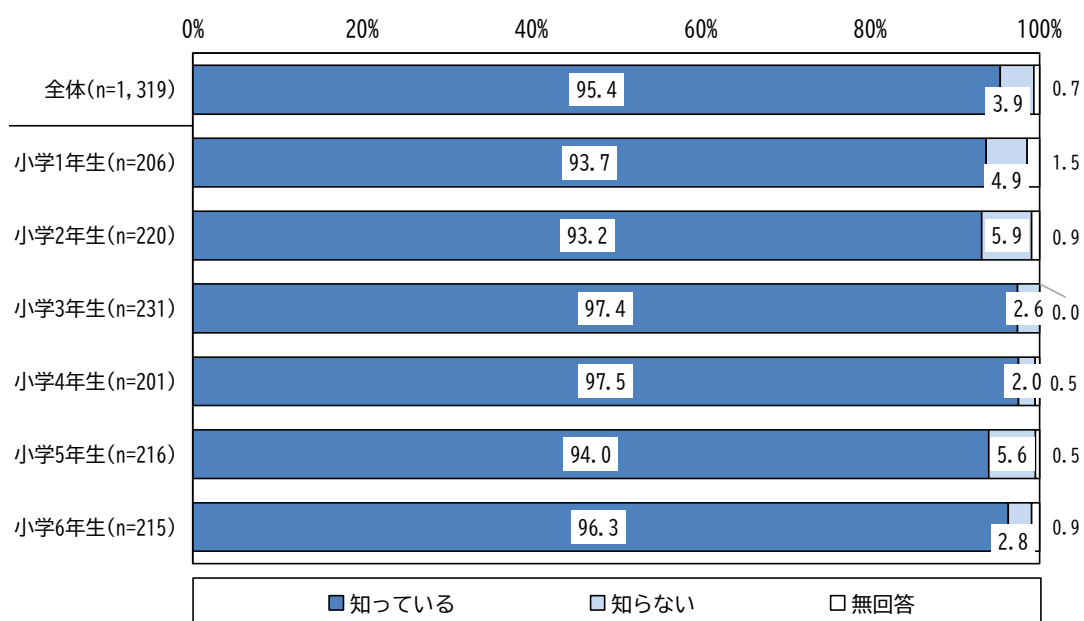
越谷市の児童館の認知度については、「知っている」が 95.4%と回答の大半を占めています。

前回調査と同様に大半が認知しています。



【学年別】

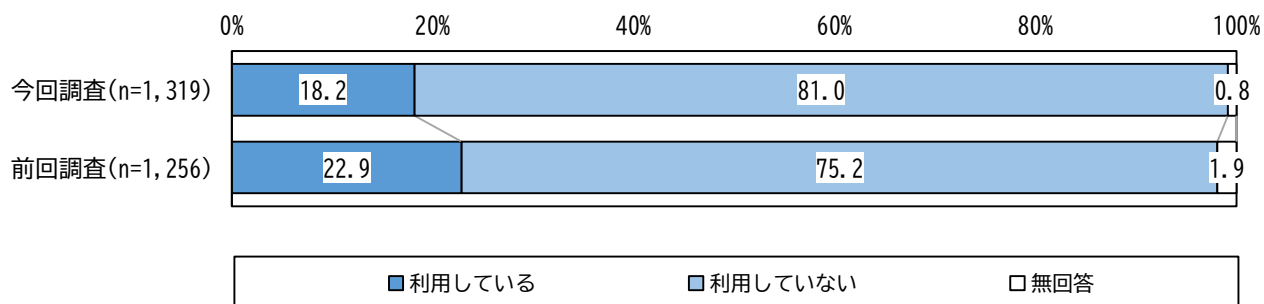
学年別にみると、いずれの学年も「知っている」が9割を超えています。



問 10－1 宛て名のお子さんは、ふだん児童館を利用していますか。(○は1つ)

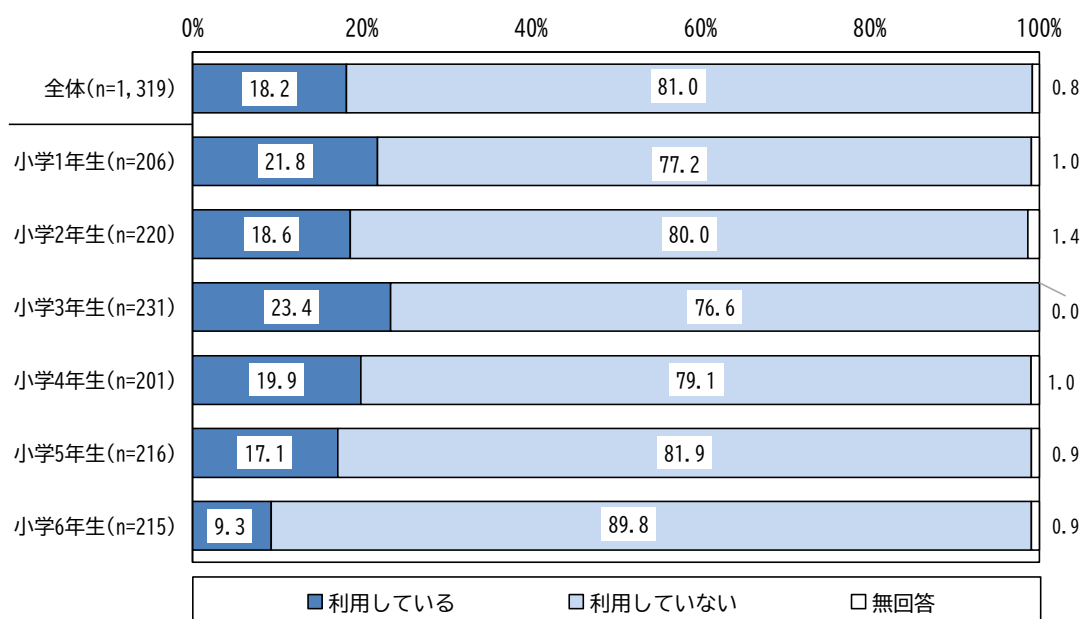
児童館の利用の有無については、「利用していない」が 81.0%で、「利用している」の 18.2%を大きく上回っています。

前回調査と比較すると、「利用している」が 4.7 ポイント減少しています。



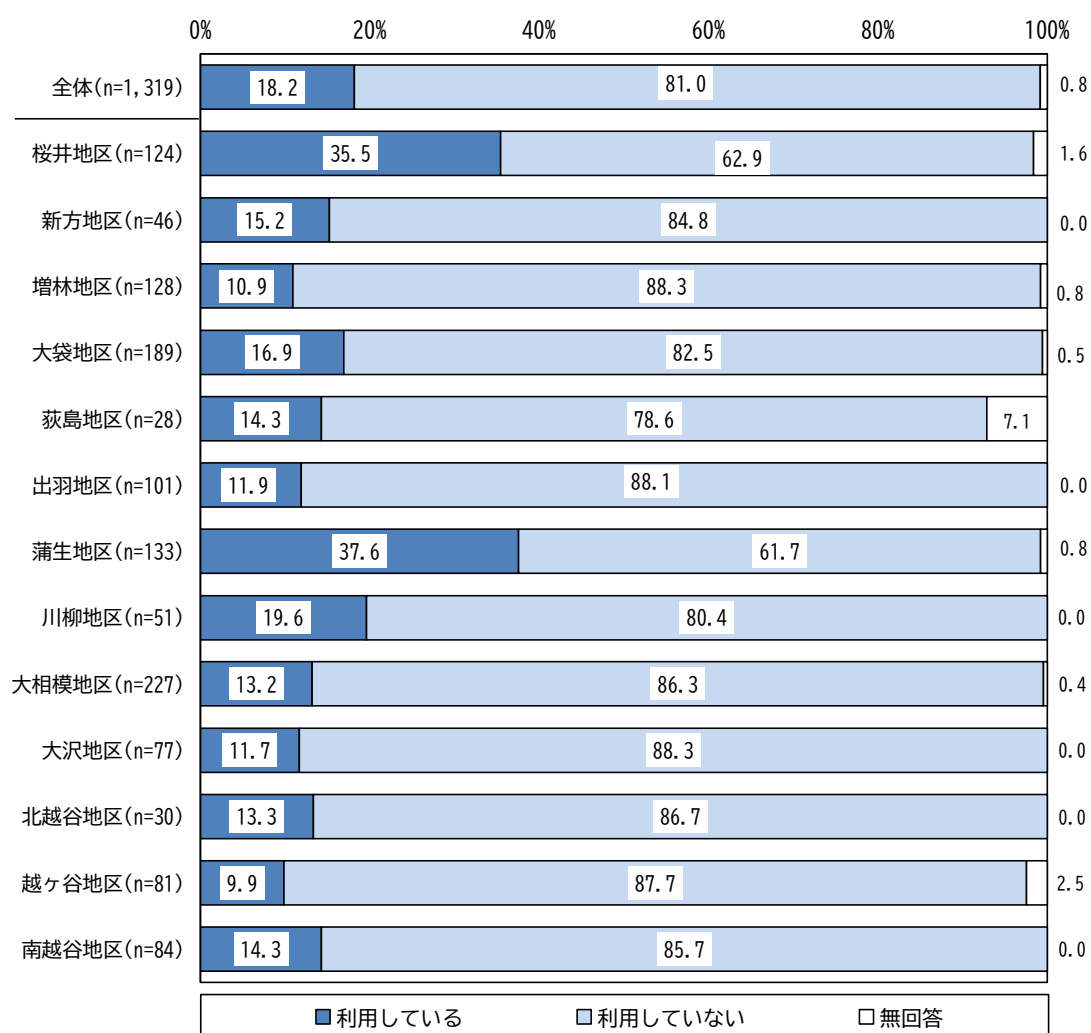
【学年別】

学年別にみると、1～5年生で「利用している」が1割台後半～2割台となっています。



【地区別】

地区別にみると、桜井地区と蒲生地区のみ 3 割を超え、他の地区は 1 割台にとどまっています。

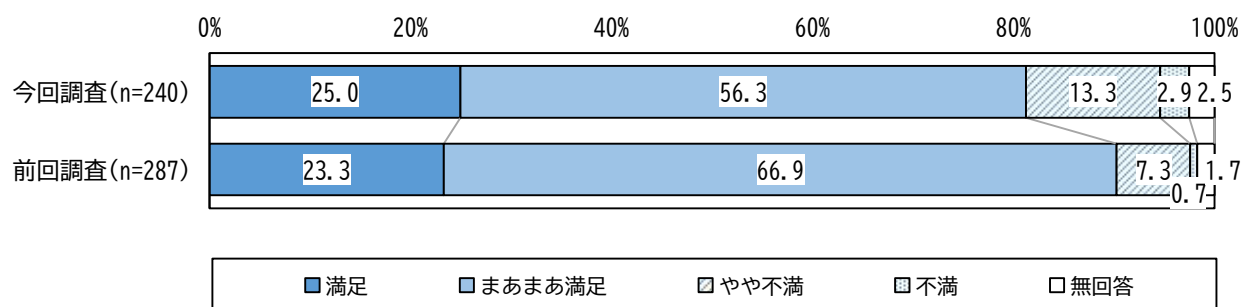


【問 10－1 で「1. 利用している」を選択した方】

問 10－2 満足度はいかがですか。(○は1つ)

児童館の満足度については、「満足」と「まあまあ満足」を合わせた『満足』が 81.3%で、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』の 16.3%を大きく上回っています。

前回調査と比較すると、「まあまあ満足」が 10.6 ポイント減少し、「やや不満」が 6.0 ポイント減少、「不満」が 2.2 ポイント減少しています。



【児童館を利用して「やや不満」「不満」と感じる理由】

不満と感じる理由 (n=36)

- ・遠すぎてこどもだけで利用できない。立地に不満。(8件)
- ・施設や設備、展示物の老朽化(6件)
- ・年齢により遊ぶスペースが分かれており、異年齢のこども2人で利用しづらい。(5件)
- ・小学生が利用できる場所や内容が少ない。(5件)
- ・駐車場が少ない・常に満車(3件)
- ・コスモスの設備、講座、職員の対応に不満。(2件)
- ・魅力的な遊具やおもちゃがない。(2件)
- ・講座の予約が取れない。(2件)
- ・コロナ以降、昼食を食べる事ができなくなり、外で食べていること。(2件)
- ・イベントが少ない、いつもの内容が同じ。(2件)
- ・たくさん利用しているので飽きてきた。
- ・こどもが外遊びを好むため、室内遊びは満足度が低い。
- ・職員の対応に不満。
- ・目が行き届かない印象がある。
- ・図書室が使えないのが不満。
- ・閉館時間が早い。

【学年別／地区別】

学年別にみると、3・4年生で『満足』が8割台と高くなっています。

地区別にみると、利用が比較的多かった蒲生地区は『満足』が88.0%、一方で、桜井地区は『不満』が36.4%と最も高くなっています。

問10-2 児童館の満足度

単位：％

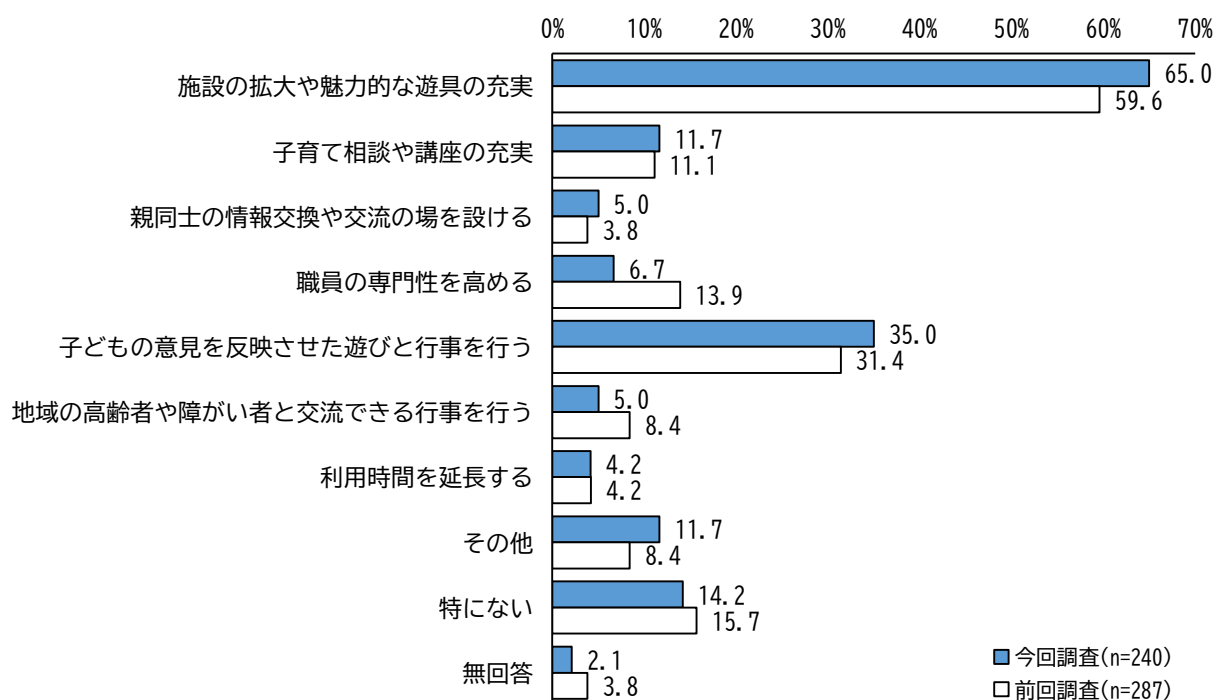
		満足	まあまあ満足	やや不満	不満	無回答	『満足』	『不満』
全体(n=240)		25.0	56.3	13.3	2.9	2.5	81.3	16.2
学 年 別	小学1年生(n=45)	20.0	57.8	13.3	4.4	4.4	77.8	17.7
	小学2年生(n=41)	26.8	51.2	19.5	0.0	2.4	78.0	19.5
	小学3年生(n=54)	35.2	50.0	7.4	5.6	1.9	85.2	13.0
	小学4年生(n=40)	22.5	60.0	12.5	2.5	2.5	82.5	15.0
	小学5年生(n=37)	10.8	64.9	21.6	2.7	0.0	75.7	24.3
	小学6年生(n=20)	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
地 区 別	桜井地区(n=44)	25.0	38.6	36.4	0.0	0.0	63.6	36.4
	新方地区(n=7)	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	増林地区(n=14)	42.9	42.9	7.1	0.0	7.1	85.8	7.1
	大袋地区(n=32)	18.8	65.6	6.3	9.4	0.0	84.4	15.7
	荻島地区(n=4)	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0	75.0	25.0
	出羽地区(n=12)	41.7	33.3	16.7	8.3	0.0	75.0	25.0
	蒲生地区(n=50)	28.0	60.0	8.0	2.0	2.0	88.0	10.0
	川柳地区(n=10)	40.0	30.0	30.0	0.0	0.0	70.0	30.0
	大相模地区(n=30)	13.3	70.0	10.0	0.0	6.7	83.3	10.0
	大沢地区(n=9)	33.3	44.4	11.1	11.1	0.0	77.7	22.2
	北越谷地区(n=4)	0.0	75.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0
	越ヶ谷地区(n=8)	0.0	87.5	0.0	0.0	12.5	87.5	0.0
	南越谷地区(n=12)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

問 10－3 児童館への要望を次の中から選びください。(○は3つまで)

児童館への要望については、「施設の拡大や魅力的な遊具の充実」が 65.0%で最も高く、次いで「子どもの意見を反映させた遊びと行事を行う」が 35.0%、「特にない」が 14.2%となっています。

前回調査と比較すると、「施設の拡大や魅力的な遊具の充実」が 5.4 ポイント増加しています。一方、「職員の専門性を高める」は 7.2 ポイント減少しています。

「利用時間を延長する」と回答した方（10 件）の希望の利用終了時刻については、「18 時台」が 41.7%で最も高く、次いで「17 時 30 分」が 2 件、「18 時」が 3 件、「19 時」が 3 件、無回答が 2 件となっています。（グラフ省略）



【学年別／地区別】

学年別にみると、5年生以下で「施設の拡大や魅力的な遊具の充実」が、6年生では「子どもの意見を反映させた遊びと行事を行う」がそれぞれ最も高くなっています。

地区別にみると、利用が比較的多かった桜井地区・蒲生地区ともに「施設の拡大や魅力的な遊具の充実」が最も高く、次いで「子どもの意見を反映させた遊びと行事を行う」となっています。

問10-3 児童館への要望

単位：％

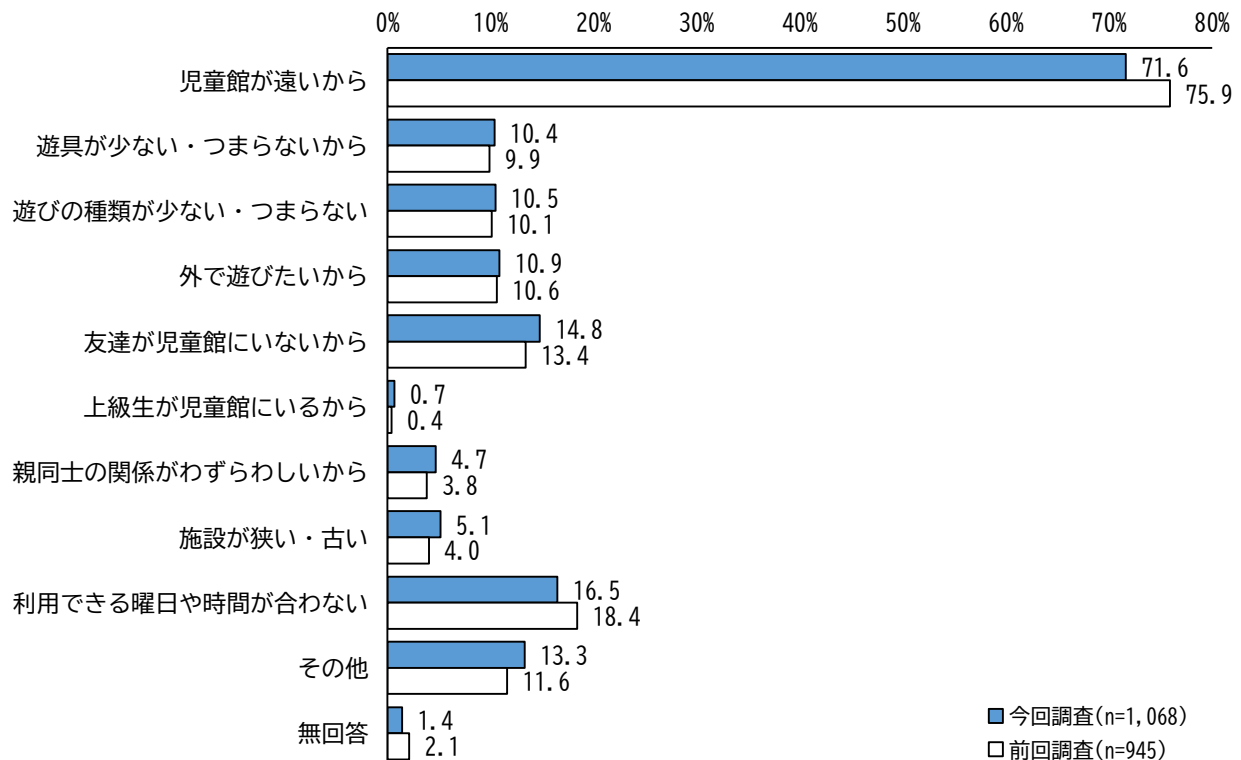
		施設の拡大や魅力的な遊具の充実	子育て相談や講座の充実	親同士の情報交換や交流の場を設ける	職員の専門性を高める	子どもの意見を反映させた遊びと行事を行う	地域の高齢者や障がい者と交流できる行事を行う	利用時間を延長する	その他	特になし	無回答
全体(n=240)		65.0	11.7	5.0	6.7	35.0	5.0	4.2	11.7	14.2	2.1
学年別	小学1年生(n=45)	80.0	17.8	6.7	4.4	37.8	2.2	6.7	8.9	6.7	0.0
	小学2年生(n=41)	75.6	7.3	4.9	2.4	31.7	7.3	2.4	12.2	12.2	0.0
	小学3年生(n=54)	70.4	7.4	3.7	11.1	25.9	1.9	1.9	11.1	14.8	3.7
	小学4年生(n=40)	45.0	15.0	2.5	7.5	37.5	7.5	7.5	7.5	22.5	5.0
	小学5年生(n=37)	54.1	8.1	0.0	10.8	32.4	8.1	5.4	18.9	16.2	2.7
	小学6年生(n=20)	50.0	20.0	15.0	0.0	60.0	5.0	0.0	10.0	15.0	0.0
地区別	桜井地区(n=44)	65.9	11.4	9.1	6.8	43.2	4.5	6.8	4.5	15.9	0.0
	新方地区(n=7)	71.4	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	28.6	0.0
	増林地区(n=14)	64.3	14.3	7.1	0.0	21.4	14.3	0.0	21.4	14.3	0.0
	大袋地区(n=32)	75.0	9.4	3.1	6.3	28.1	0.0	3.1	12.5	9.4	3.1
	荻島地区(n=4)	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	出羽地区(n=12)	83.3	0.0	0.0	8.3	41.7	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3
	蒲生地区(n=50)	56.0	10.0	4.0	6.0	34.0	4.0	8.0	12.0	20.0	4.0
	川柳地区(n=10)	50.0	10.0	10.0	0.0	40.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0
	大相模地区(n=30)	56.7	10.0	3.3	6.7	46.7	6.7	3.3	16.7	16.7	3.3
	大沢地区(n=9)	55.6	11.1	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0
	北越谷地区(n=4)	100.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	越ヶ谷地区(n=8)	87.5	25.0	12.5	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
	南越谷地区(n=12)	66.7	25.0	8.3	16.7	33.3	8.3	0.0	25.0	8.3	0.0

【問 10－1 で「2. 利用していない」を選択した方】

問 10－4 児童館を利用していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

児童館を利用していない理由については、「児童館が遠いから」が 71.6%で最も高く、次いで「利用できる曜日や時間が合わない」が 16.5%、「友達が児童館にいないから」が 14.0%となっています。

前回調査と比較すると、「児童館が遠いから」が 4.3 ポイント減少しています。



【学年別】

学年別にみると、すべての学年で「児童館が遠いから」が最も高くなっています。そのほか、「利用できる曜日や時間が合わない」は、3年生以下で高学年に比べ高い値になっています。

問10-4 児童館を利用していない理由

単位：％

	児童館が 遠いから	遊具が少 ない・つ まらない から	遊びの種 類が少な い・つま らない	外で遊び たいから	友達が児 童館にい ないから	上級生が 児童館に いるから
全体(n=1,068)	71.6	10.4	10.5	10.9	14.8	0.7
小学1年生(n=159)	70.4	13.2	12.6	11.9	11.3	1.3
小学2年生(n=176)	69.3	10.2	11.9	13.1	14.2	1.1
小学3年生(n=177)	71.8	11.9	13.0	11.9	14.1	0.6
小学4年生(n=159)	74.8	9.4	8.8	8.8	13.2	0.0
小学5年生(n=177)	73.4	7.3	6.2	9.0	15.3	0.6
小学6年生(n=193)	69.9	9.3	8.8	11.4	17.6	0.5

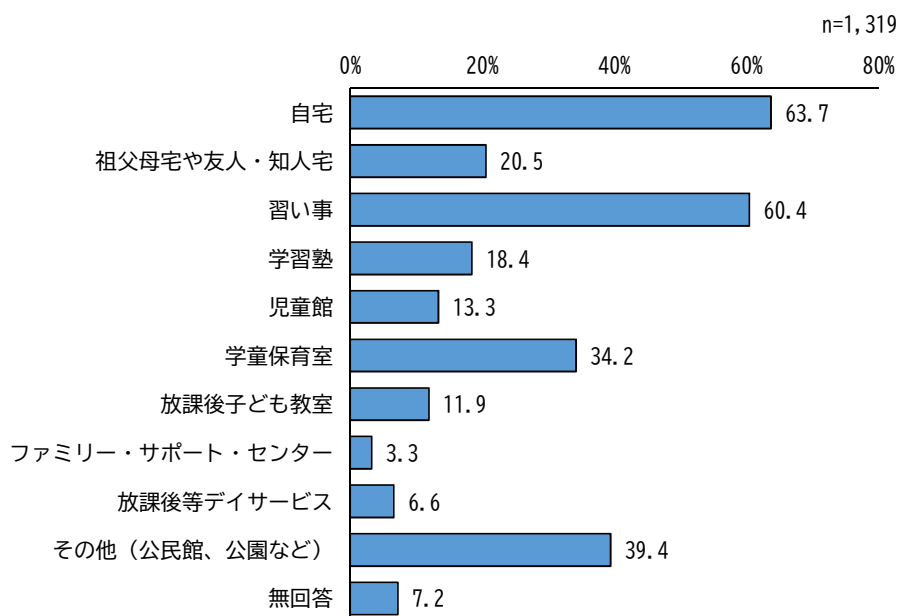
	親同士の 関係がわ ずらわし いから	施設が狭 い・古い	利用でき る曜日や 時間が合 わない	その他	無回答
全体(n=1,068)	4.7	5.1	16.5	13.3	1.4
小学1年生(n=159)	8.2	4.4	20.1	13.8	0.6
小学2年生(n=176)	7.4	8.0	18.2	11.4	2.3
小学3年生(n=177)	4.0	6.8	20.3	10.2	1.7
小学4年生(n=159)	1.9	3.8	15.7	10.1	1.9
小学5年生(n=177)	3.4	5.1	11.3	16.4	1.1
小学6年生(n=193)	3.6	3.1	11.9	16.1	1.0

問 11 宛て名のお子さんについて、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせるのがよいと思いますか。あてはまるものを選択し、それぞれ希望する週当たり日数を数字でご記入ください。また、「学童保育室」「放課後子ども教室」の場合には、利用を希望する時間も□の中にご記入ください。必ず、時間は 24 時間表記でご記入ください（数字は一桁に一字）。

①低学年（1～3年生）のとき

お子さんが小学校低学年のうちに、放課後の時間を過ごさせたい場所については、「自宅」が 63.7%と最も高く、次いで「習い事」が 60.4%、「その他（公民館、公園など）」が 39.4%、「学童保育室」が 34.2%となっています。

また、それぞれの希望の利用日数を平均でみると、「学童保育室」が 4.29 日、「自宅」が 3.40 日、「放課後デイサービス」が 2.66 日などとなっており、「学童保育室」の希望する利用終了時間は「18 時」が、「放課後子ども教室」の希望する利用終了時間は「17 時」が高くなっています。



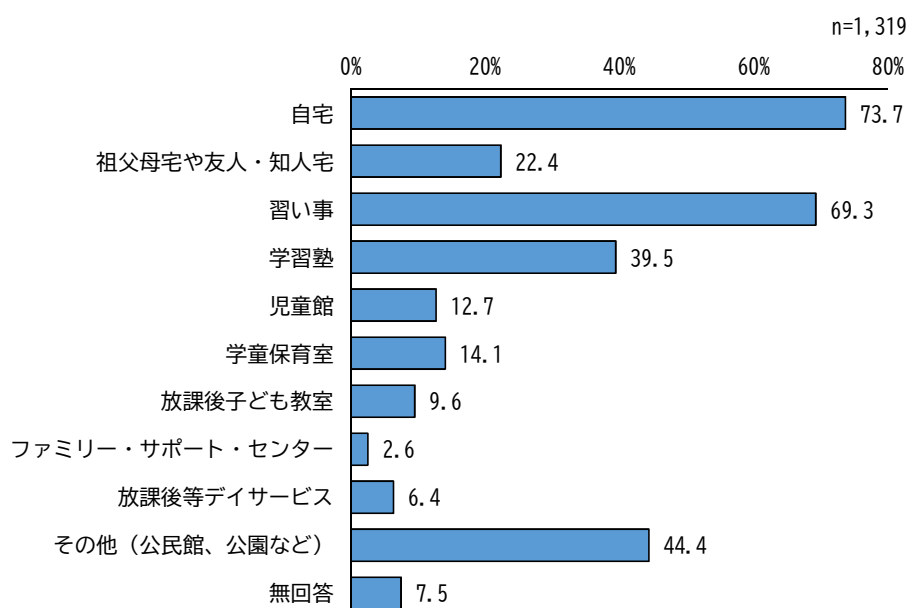
【場所別の週当たりの平均利用希望日数】

過ごさせたい場所	n	平均日数
自宅	840	3.40日
祖父母宅や友人・知人宅	271	1.64日
習い事	797	1.81日
学習塾	243	1.40日
児童館	176	1.42日
学童保育室	451	4.29日
放課後子ども教室	157	1.87日
ファミリー・サポート・センター	43	1.79日
放課後等デイサービス	87	2.66日
その他（公民館、公園など）	520	2.20日

②高学年（４～６年生）になったら

お子さんが小学校高学年のうちに、放課後の時間を過ごさせたい場所については、「自宅」が 73.7%と最も高く、次いで「習い事」が 69.3%、「その他（公民館、公園など）」が 44.4%、「学習塾」が 39.5%となっています。

また、それぞれの希望の利用日数を平均でみると「学童保育室」が 3.52 日、「自宅」が 3.23 日、「放課後デイサービス」が 2.77 日などとなっており、「学童保育室」の希望する利用終了時間は「18 時」が、「放課後子ども教室」の希望する利用終了時間は「17 時」が高くなっています。



【場所別の週当たりの平均利用希望日数】

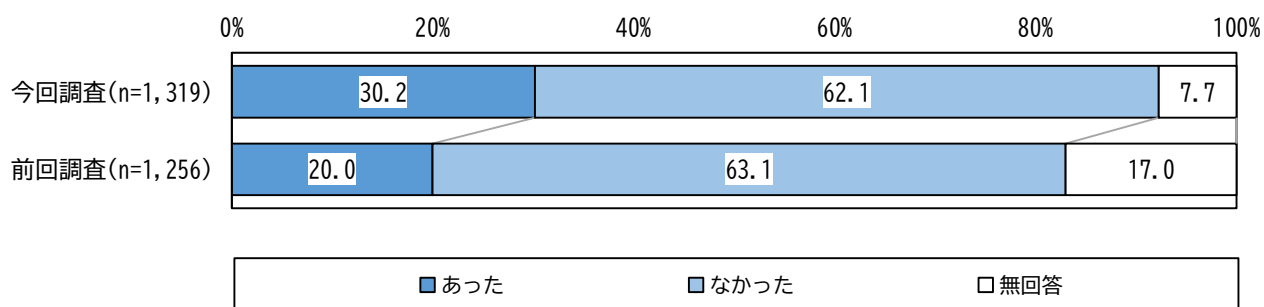
過ごさせたい場所	n	平均 日数
自宅	972	3.23日
祖父母宅や友人・知人宅	295	1.58日
習い事	914	2.04日
学習塾	521	1.69日
児童館	168	1.37日
学童保育室	186	3.52日
放課後子ども教室	126	1.77日
ファミリー・サポート・センター	34	1.47日
放課後等デイサービス	84	2.77日
その他（公民館、公園など）	586	2.35日

6. お子さんが病気のときなどの対応について

問 12 この1年間に、宛て名のお子さんが病気やケガで学校を休み、「学童保育室」や「放課後子ども教室」が利用できなかったことはありますか。(○は1つ)

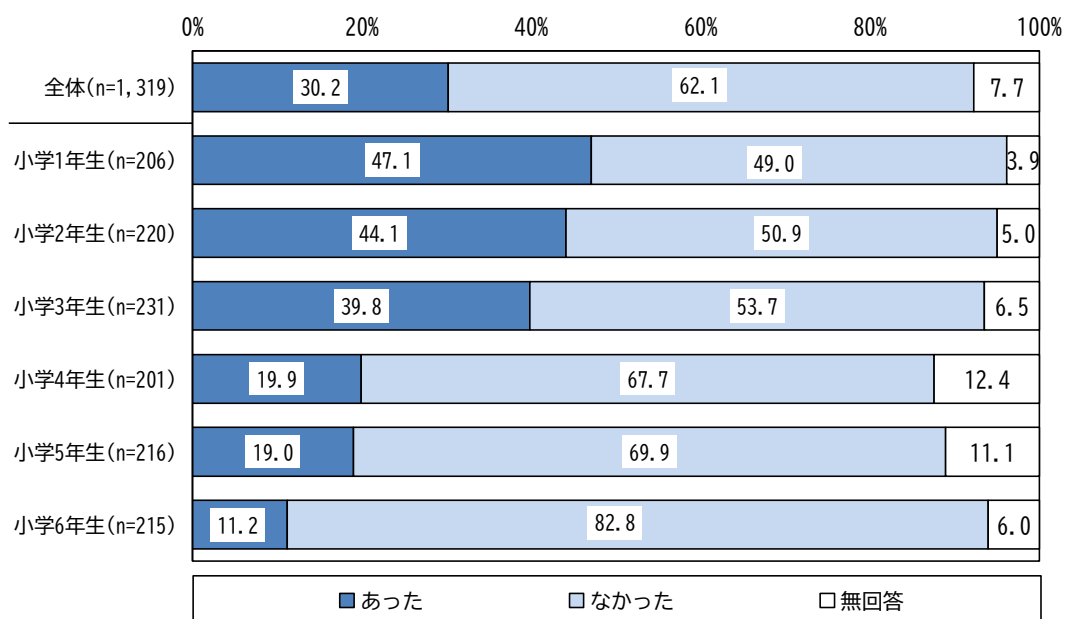
お子さんが病気やケガで学校を休み、「学童保育室」や「放課後子ども教室」を利用できなかったことがあったかについては、「なかった」が62.1%で、「あった」の30.2%を上回っています。

前回調査と比較すると、「あった」が10.2ポイント増加しています。



【学年別】

学年別にみると、3年生以下では「あった」が3割台後半～4割台となっています。



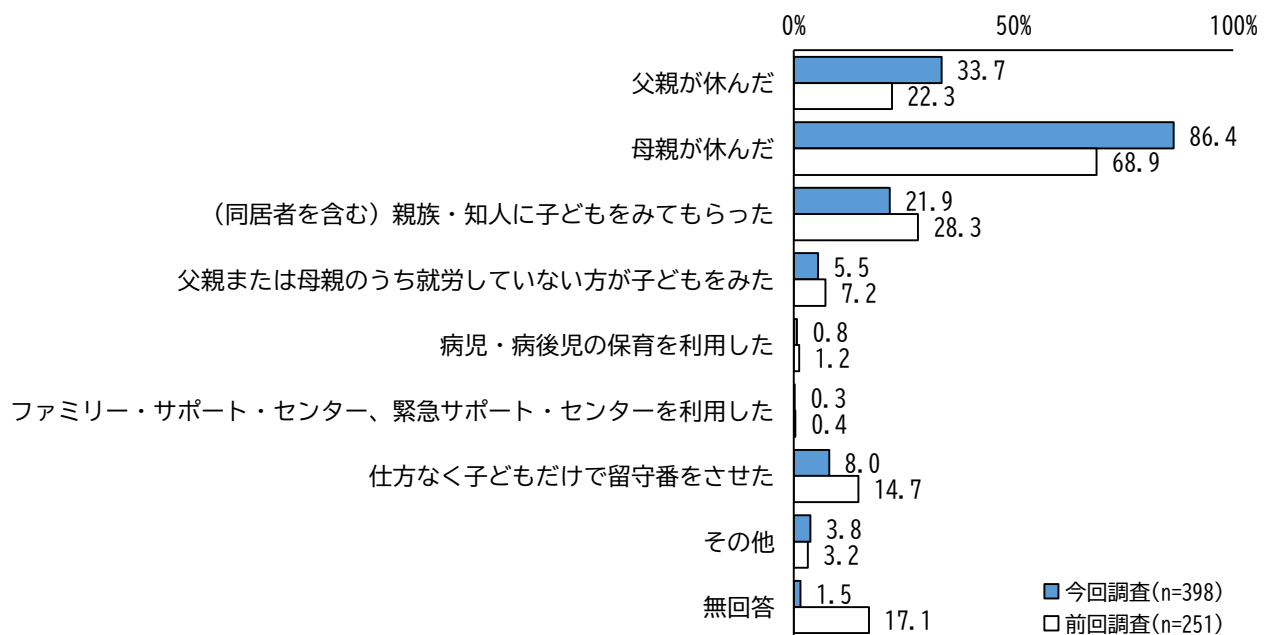
【問 12 で「1. あった」を選択した方】

問 12-1 その場合に、どのように対応しましたか。それぞれの日数も□の中に数字でご記入ください。（あてはまるものすべてに○。また数字は一桁に一字。）

お子さんが病気やケガで普段利用している施設やサービスが利用できなかった場合の対処法については、「母親が休んだ」が 86.4%で最も高く、次いで「父親が休んだ」が 33.7%、「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」が 21.9%、となっています。

前回調査と比較すると、「母親が休んだ」が 17.5 ポイント増加、「父親が休んだ」が 11.4 ポイント増加しています。

対処方法別の年間日数は、すべての対処方法で「1～10 日」が最も多くなっています。

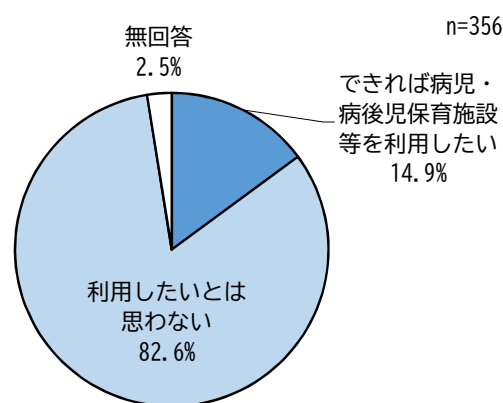


【問 12-1 で「ア. 父親が休んだ」または「イ. 母親が休んだ」を選択した方】

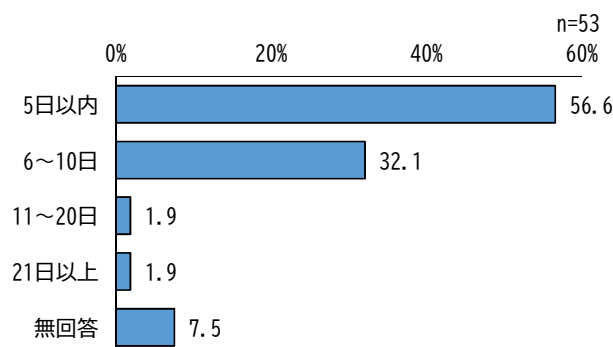
問 12-2 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思いましたか。日数についても□の中にご記入ください。一定の利用料（1 日当たり 2,000 円～）がかかること、また利用前にかかりつけ医の受診が必要なことをふまえてお答えください。（○は1つ。また数字は一桁に一字）

お子さんの病気やケガで父親か母親が休んだ際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったかについては、「利用したいとは思わない」が 82.6%であり、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の 14.9%を上回っています。

病児・病後児のための保育施設等を利用したい年間日数については、「5 日以内」が 56.6%と最も高く、次いで「6～10 日」が 32.1%となっています。



【病児・病後児保育施設等を利用したい日数（年間）】

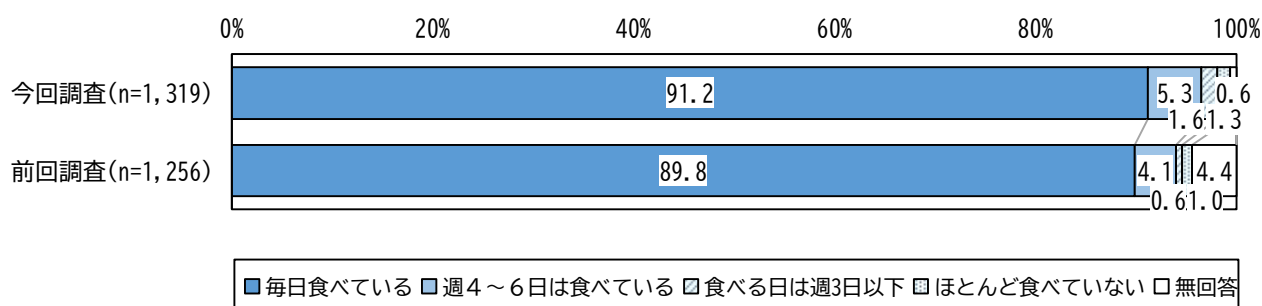


7. お子さんの生活について

問 13 宛て名のお子さんは、朝ごはんを食べますか。(○は1つ)

お子さんが朝ごはんを食べるかについては、「毎日食べている」が 91.2%と、回答の大半を占めています。

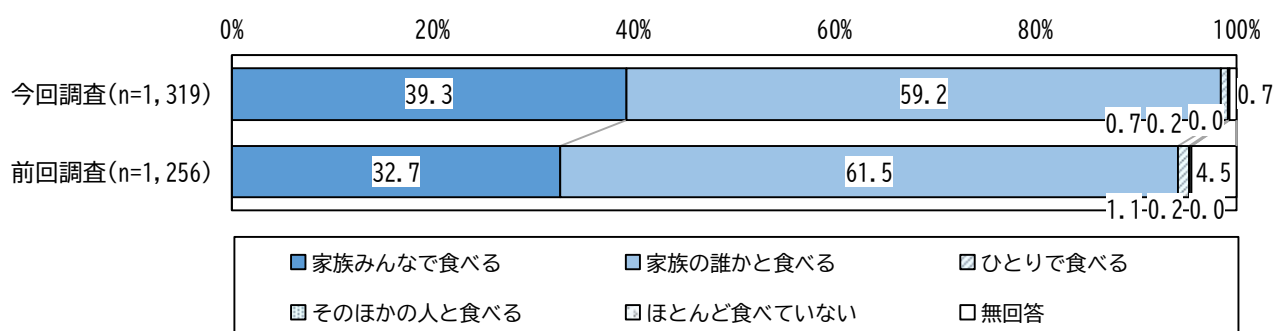
おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



問 14 宛て名のお子さんは、夜ごはんを誰と食べることが多いですか。(○は1つ)

お子さんが夜ごはんを誰と食べるが多いかについては、「家族の誰かと食べる」が 59.2%で最も高く、次いで「家族みんなで食べる」が 39.3%、「ひとりで食べる」は 0.7%となっています。

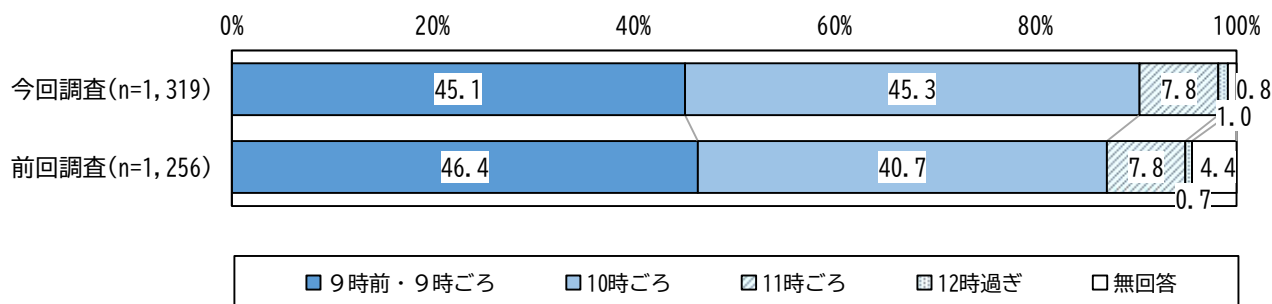
前回調査と比較すると、「家族みんなで食べる」が 6.6 ポイント増加しています。



問 15 宛て名のお子さんが寝る時間は、だいたい何時ごろですか。(〇は1つ)

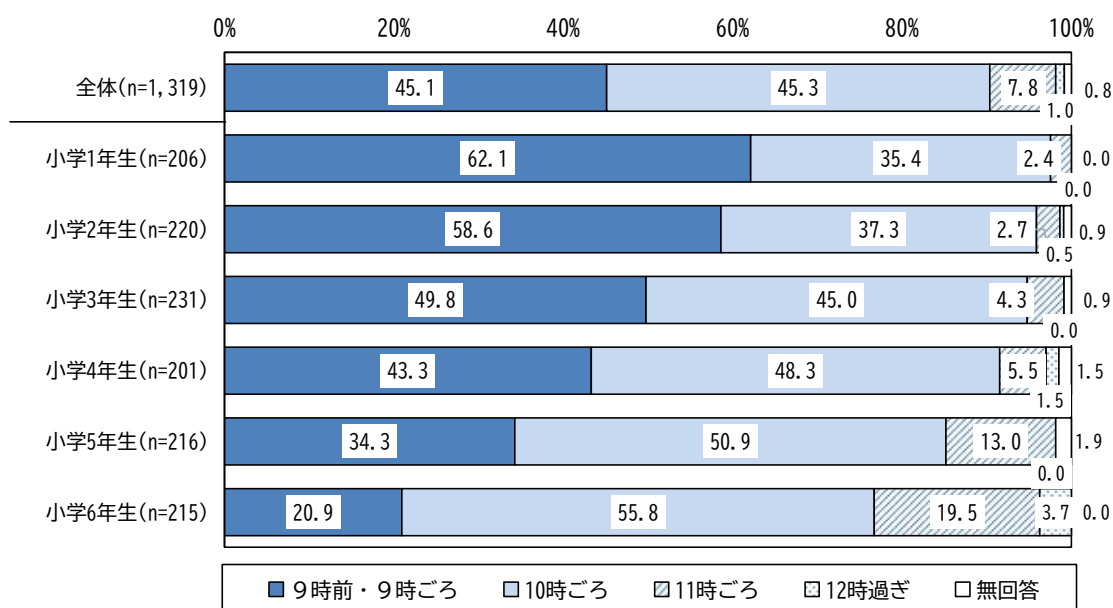
お子さんの就寝時間については、「9時前・9時ごろ」が45.1%で最も高く、次いで「10時ごろ」が45.3%、「11時ごろ」が7.8%となっています。

前回調査と比較すると、「10時ごろ」が4.6ポイント増加しています。



【学年別】

学年別にみると、学年が上がるほど「9時前・9時ごろ」が低くなり、「10時ごろ」「11時ごろ」が増加しています。

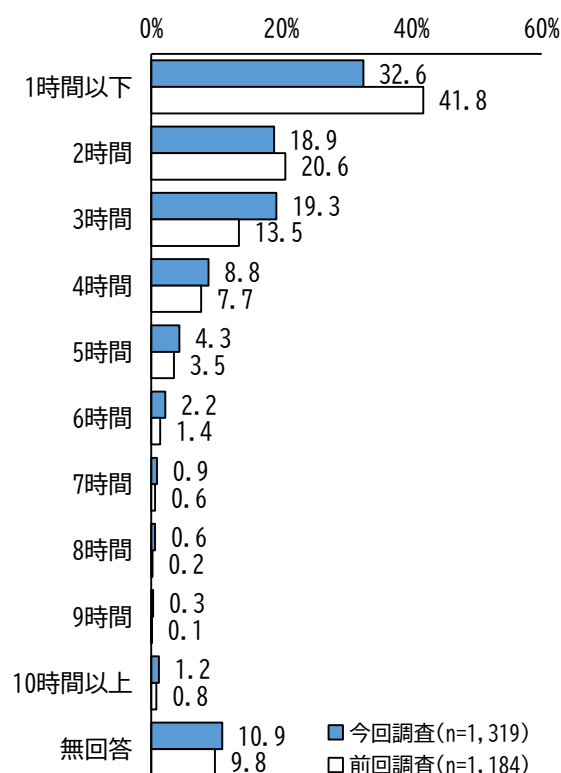


問 16 宛て名のお子さんが起きているときに、お子さんと一緒に過ごす時間は、1日何時間くらいですか。それぞれの□の中に数字でご記入ください。(数字は一桁に一字)

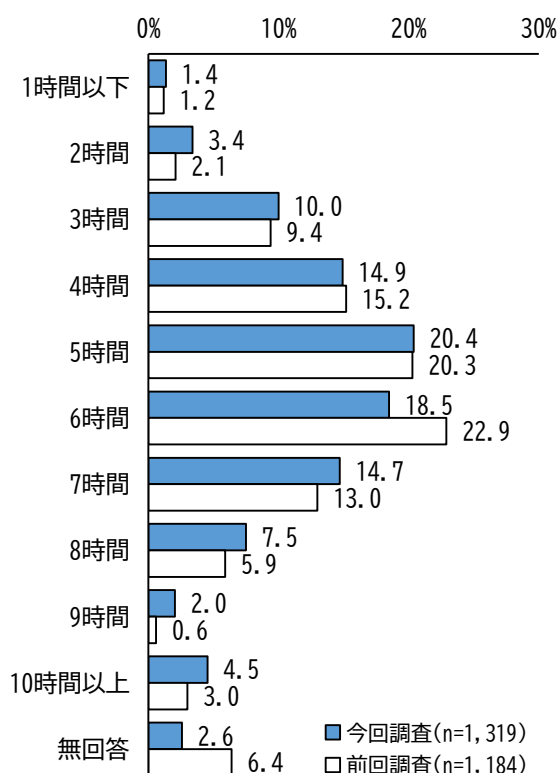
お子さんと一緒に過ごす時間については、父親では「1時間以下」が32.6%で最も高く、次いで「3時間」が19.3%、「2時間」が18.9%となっています。また、母親では「5時間」が20.4%で最も高く、次いで「6時間」が18.5%、「4時間」が14.9%となっています。

前回調査と比較すると、父親は「1時間以下」が9.2ポイント減少し、「3時間」の割合が5.8ポイント増加しています。母親は、おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。

【父親のこどもと一緒に過ごす時間】



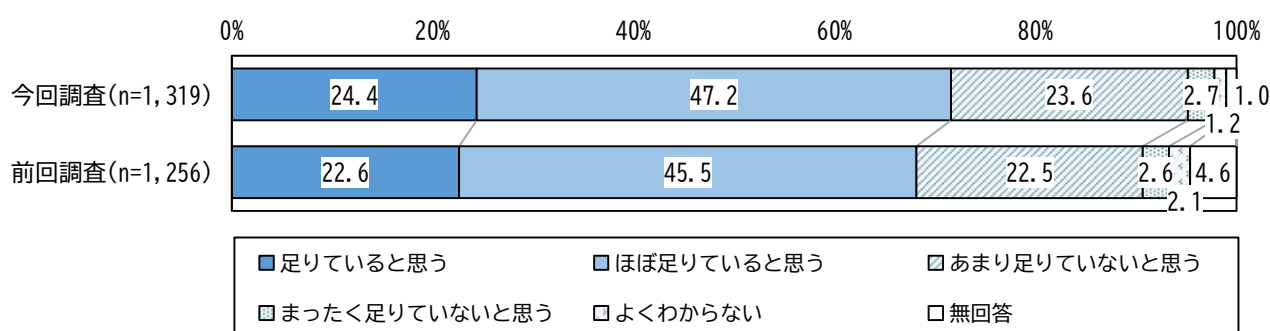
【母親のこどもと一緒に過ごす時間】



問 17 お子さんとのふれあいや会話は足りていると思いますか。(○は1つ)

お子さんとのふれあいや会話が足りていると思うかについては、「ほぼ足りていると思う」が47.2%で最も高く、次いで「足りていると思う」が24.4%、「あまり足りていないと思う」が23.6%となっています。

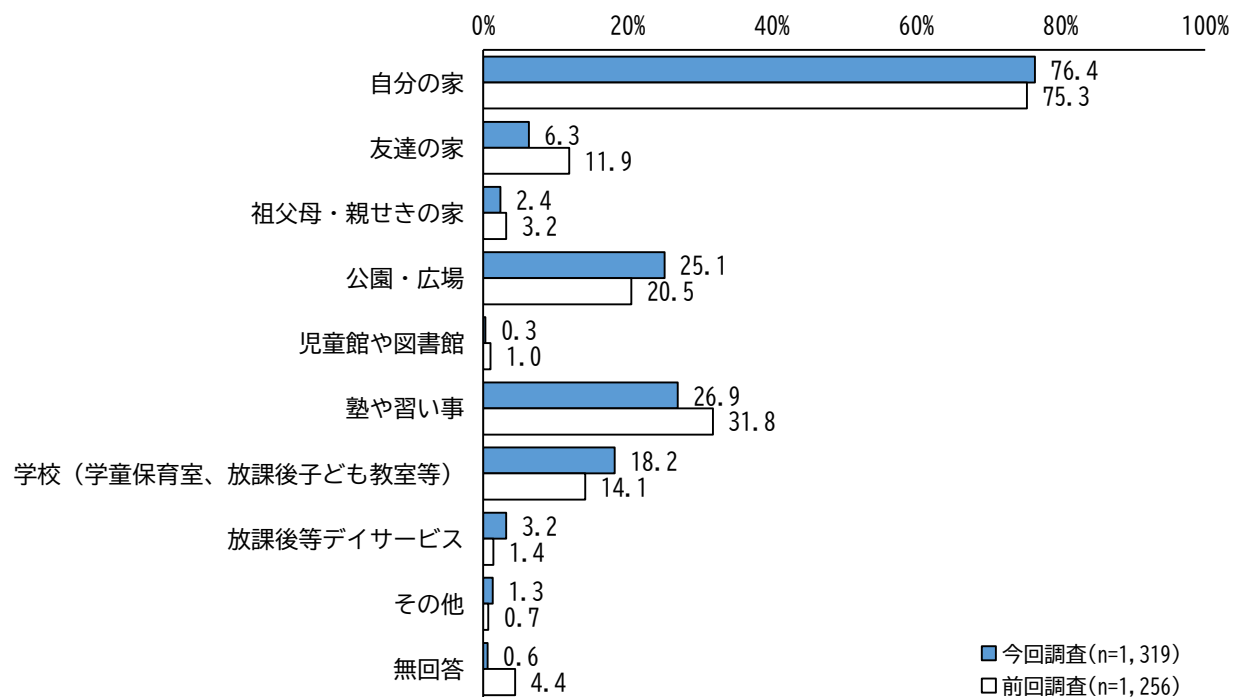
おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



問 18 放課後、お子さんはどこで過ごしていることが多いですか。(〇は2つまで)

放課後にお子さんが過ごす場所については、「自分の家」が 76.4%で最も高く、次いで「塾や習い事」が 26.9%、「公園・広場」が 25.1%となっています。

前回調査と比較すると、「公園・広場」が 4.6 ポイント増加、「学校（学童保育室、放課後子ども教室等）」が 4.1 ポイント増加しています。一方、「友達の家」は 5.6 ポイント減少、「塾や習い事」は 4.9 ポイント減少しています。



【学年別／地区別】

学年別にみると、いずれの学年も「自分の家」が最も高くなっています。また、3年生以下では「学校（学童保育室、放課後子ども教室等）」、5年生以上では「塾や習い事」の割合が高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「自分の家」が最も高くなっています。また、増林地区では「公園・広場」、蒲生地区と北越谷地区で「学校（学童保育室、放課後子ども教室等）」が他の地区をやや上回ります。

問18 放課後お子さんはどこで過ごしていることが多いか

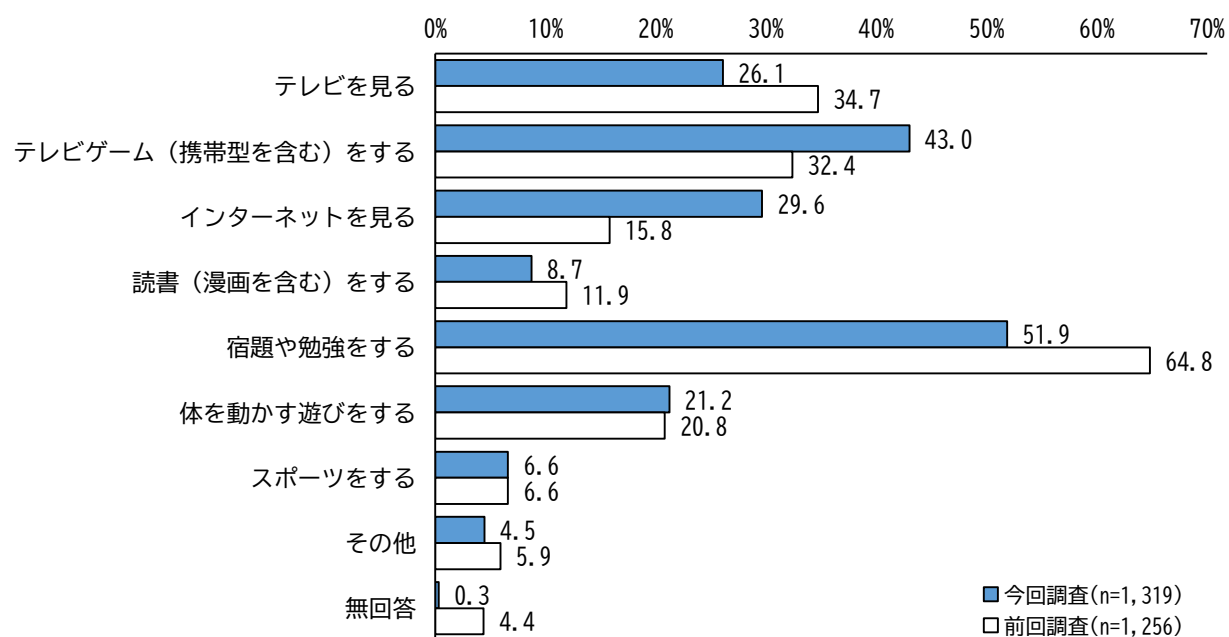
単位：％

		自分の家	友達の家	祖父母・親せきの家	公園・広場	児童館や図書館	塾や習い事	学校（学童保育室、放課後子ども教室等）	放課後等デイサービス	その他	無回答
学年別	全体(n=1,319)	76.4	6.3	2.4	25.1	0.3	26.9	18.2	3.2	1.3	0.6
	小学1年生(n=206)	61.7	1.9	2.9	17.0	0.5	17.0	43.2	6.3	0.0	0.0
	小学2年生(n=220)	69.1	3.6	1.8	20.0	0.5	22.7	34.5	1.8	1.4	0.9
	小学3年生(n=231)	73.6	3.5	1.3	25.5	0.9	26.4	23.8	3.5	2.2	0.4
	小学4年生(n=201)	84.6	12.4	1.5	29.4	0.0	23.9	6.5	2.5	1.0	1.5
	小学5年生(n=216)	84.3	7.4	4.2	24.5	0.0	36.1	0.5	4.6	2.8	0.9
	小学6年生(n=215)	86.5	9.3	1.9	33.0	0.0	33.5	0.9	0.9	0.5	0.0
地区別	桜井地区(n=124)	84.7	8.9	4.0	24.2	2.4	17.7	15.3	3.2	0.8	0.0
	新方地区(n=46)	78.3	2.2	6.5	26.1	0.0	19.6	13.0	2.2	0.0	2.2
	増林地区(n=128)	75.0	6.3	1.6	31.3	0.0	26.6	17.2	3.1	0.8	0.8
	大袋地区(n=189)	77.2	6.3	2.1	28.0	0.0	24.9	16.4	5.8	0.5	1.1
	荻島地区(n=28)	75.0	14.3	0.0	21.4	0.0	35.7	7.1	0.0	0.0	7.1
	出羽地区(n=101)	75.2	10.9	4.0	26.7	0.0	16.8	17.8	3.0	1.0	0.0
	蒲生地区(n=133)	67.7	1.5	3.0	26.3	0.8	24.1	29.3	4.5	1.5	0.0
	川柳地区(n=51)	76.5	7.8	0.0	13.7	0.0	37.3	21.6	3.9	0.0	0.0
	大相模地区(n=227)	82.4	6.6	0.9	21.6	0.0	34.4	12.8	1.8	3.5	0.4
	大沢地区(n=77)	70.1	6.5	2.6	23.4	0.0	26.0	24.7	2.6	2.6	1.3
	北越谷地区(n=30)	63.3	3.3	6.7	26.7	0.0	16.7	30.0	3.3	0.0	0.0
	越ヶ谷地区(n=81)	72.8	3.7	1.2	21.0	0.0	33.3	21.0	2.5	0.0	0.0
	南越谷地区(n=84)	76.2	6.0	1.2	27.4	0.0	34.5	17.9	1.2	0.0	0.0

問 19 放課後、お子さんは何をして過ごしていることが多いですか。(〇は2つまで)

放課後、お子さんが何をして過ごしているかについては、「宿題や勉強をする」が 51.9%で最も高く、次いで「テレビゲーム（携帯型を含む）をする」が 43.0%、「インターネットを見る」が 29.6%、「テレビを見る」が 26.1%となっています。

前回調査と比較すると、「インターネットを見る」が 13.8 ポイント増加、「テレビゲーム（携帯型を含む）をする」が 10.6 ポイント増加しています。一方、「宿題や勉強をする」は 12.9 ポイント減少、「テレビを見る」が 8.6 ポイント減少しています。



【学年別／地区別】

学年別にみると、5年生以下では「宿題や勉強をする」が、6年生では「テレビゲーム（携帯型を含む）をする」が最も高くなっています。また、6年生では「インターネットを見る」の割合が他の学年に比べ高くなっています。3年生以下では「学校（学童保育室、放課後子ども教室等）」、5年生以上では「塾や習い事」の割合が高くなっています。

地区別にみると、桜井地区と蒲生地区では「テレビゲーム（携帯型を含む）をする」が、その他の地区では「宿題や勉強をする」が最も高くなっています。

問19 放課後お子さんは何をして過ごしていることが多いか

単位：％

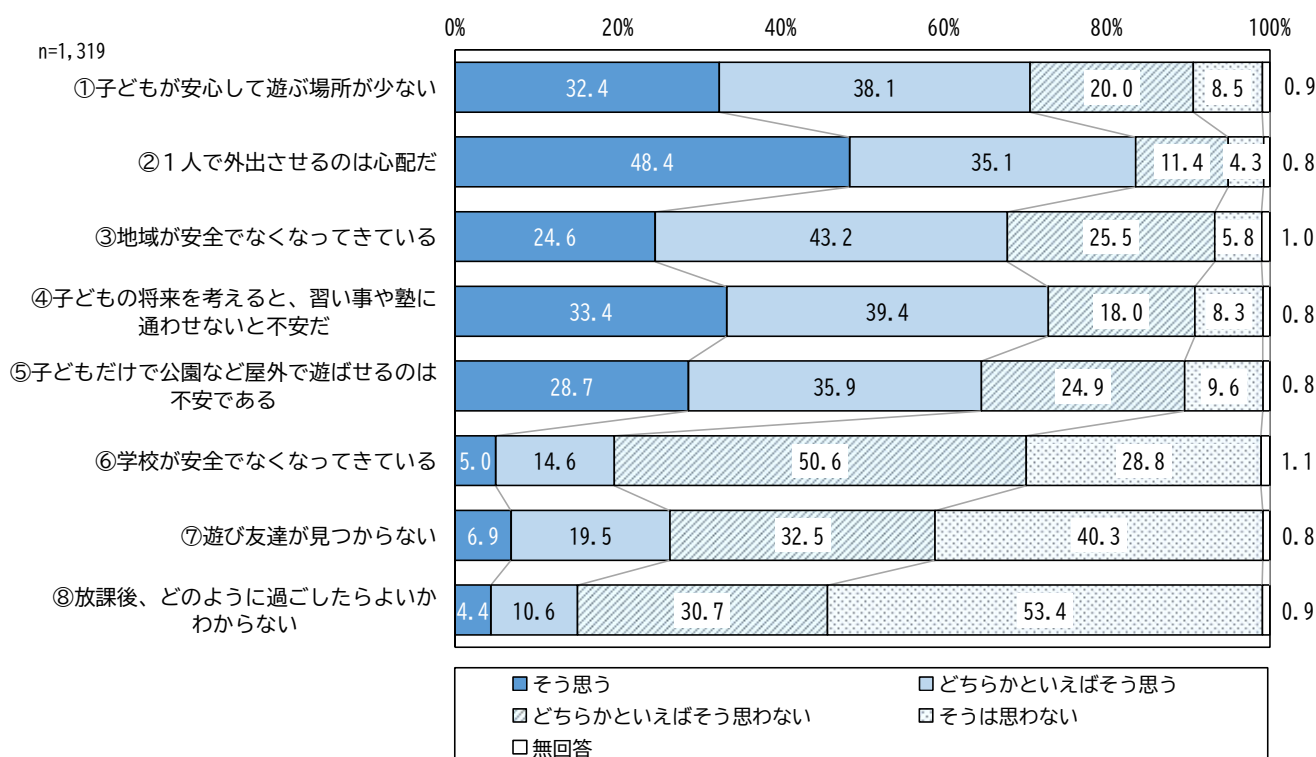
		テレビを見る	テレビゲーム（携帯型を含む）をする	インターネットを見る	読書（漫画を含む）をする	宿題や勉強をする	体を動かす遊びをする	スポーツをする	その他	無回答
全体(n=1,319)		26.1	43.0	29.6	8.7	51.9	21.2	6.6	4.5	0.3
学 年 別	小学1年生(n=206)	35.4	37.4	19.9	5.8	57.3	25.7	4.9	7.3	0.0
	小学2年生(n=220)	34.1	38.2	21.8	11.4	51.4	23.2	7.3	3.6	0.5
	小学3年生(n=231)	26.0	43.7	25.5	8.2	56.3	22.1	5.2	4.3	0.0
	小学4年生(n=201)	25.4	42.3	29.9	10.4	48.3	18.9	8.0	5.0	1.0
	小学5年生(n=216)	19.9	47.2	36.1	10.6	53.2	16.2	7.4	3.2	0.5
	小学6年生(n=215)	16.7	49.8	44.7	6.0	43.3	20.5	7.0	2.8	0.0
地 区 別	桜井地区(n=124)	18.5	55.6	35.5	8.1	46.8	20.2	6.5	4.0	0.0
	新方地区(n=46)	17.4	41.3	41.3	4.3	50.0	19.6	2.2	6.5	2.2
	増林地区(n=128)	26.6	35.9	19.5	11.7	57.8	28.9	6.3	3.9	0.0
	大袋地区(n=189)	27.0	40.2	36.5	7.4	46.0	23.8	4.8	4.8	0.5
	荻島地区(n=28)	17.9	25.0	39.3	10.7	60.7	14.3	17.9	0.0	7.1
	出羽地区(n=101)	28.7	43.6	34.7	5.9	46.5	22.8	6.9	4.0	0.0
	蒲生地区(n=133)	27.8	48.9	29.3	12.0	42.9	21.1	3.0	3.0	0.0
	川柳地区(n=51)	31.4	43.1	19.6	9.8	62.7	19.6	9.8	0.0	0.0
	大相模地区(n=227)	28.2	41.9	27.8	9.3	57.7	16.7	6.6	4.8	0.0
	大沢地区(n=77)	28.6	40.3	40.3	6.5	41.6	19.5	5.2	6.5	0.0
	北越谷地区(n=30)	26.7	20.0	33.3	0.0	63.3	33.3	10.0	3.3	0.0
	越ヶ谷地区(n=81)	22.2	43.2	18.5	6.2	65.4	18.5	8.6	7.4	0.0
	南越谷地区(n=84)	32.1	45.2	14.3	14.3	58.3	17.9	9.5	6.0	0.0

問 20 宛て名のお子さんの身近な生活環境について、それぞれどのように思いますか。（それぞれ○は1つ）

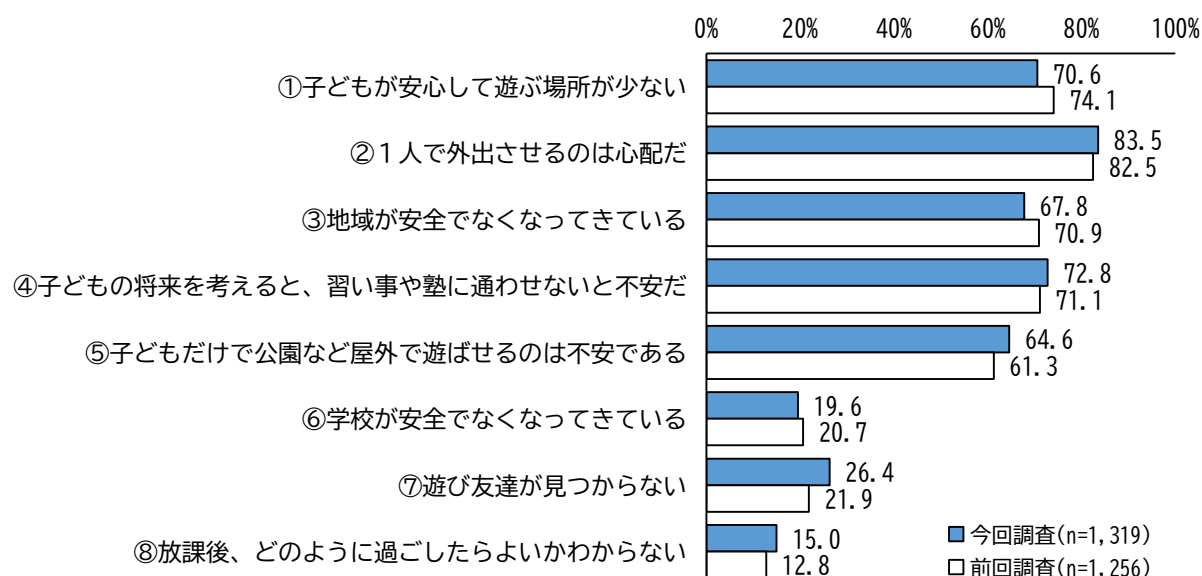
お子さんの身近な生活環境については、〈①子どもが安心して遊ぶ場所が少ない〉〈②1人で外出させるのは心配だ〉〈③地域が安全でなくなっている〉〈④子どもの将来を考えると、習い事や塾に通わせないと不安だ〉〈⑤子どもだけで公園など屋外で遊ばせるのは不安である〉については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』が6割以上で、「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた『思わない』を上回っています。

一方で、〈⑥学校が安全でなくなっている〉〈⑦遊び友達が見つからない〉〈⑧放課後、どのように過ごしたらよいかわからない〉については、『思わない』が7割以上で、『思う』を大きく上回っています。

『思う』と回答した人の割合について、前回調査と比較すると、〈⑦遊び友達が見つからない〉が 4.5 ポイント増加、〈⑤子どもだけで公園など屋外で遊ばせるのは不安である〉が 3.3 ポイント増加しています。



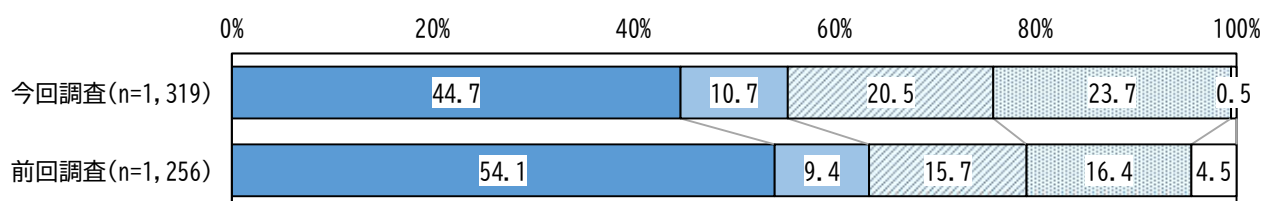
【『思う』と回答した人の経年比較】



問 21 お子さんは、地域活動やグループ活動などへ参加したことがありますか。(○は1つ)

お子さんの地域活動やグループ活動への参加の有無については、「参加したことがある・参加している」が 44.7%で最も高く、次いで「身近な地域の活動やグループ活動について知らない」が 23.7%、「参加したことも参加する予定もない」が 20.5%となっています。

前回調査と比較すると、「参加したことがある・参加している」が 9.4 ポイント減少し、「身近な地域の活動やグループ活動について知らない」が 7.3 ポイント増加、「参加したことも参加する予定もない」が 4.8 ポイント増加しています。



- 参加したことがある・参加している
- 参加したことはないが、今後は参加させたい
- 参加したことも参加する予定もない
- 身近な地域の活動やグループ活動について知らない
- 無回答

【学年別／地区別】

学年別にみると、「参加したことがある・参加している」は、5年生の51.9%が最も高くなっています。また、「参加したことはないが、今後は参加させたい」は学年が下がるほど高い傾向にあります。

地区別にみると、越ヶ谷地区のみ「参加したことも参加する予定もない」が、その他の地区では「参加したことがある・参加している」が最も高くなっています。また、大相模地区では「身近な地域の活動やグループ活動について知らない」が30.8%であり、他の地区を上回ります。

問21 お子さんは地域活動やグループ活動などへ参加したことがあるか

単位：％

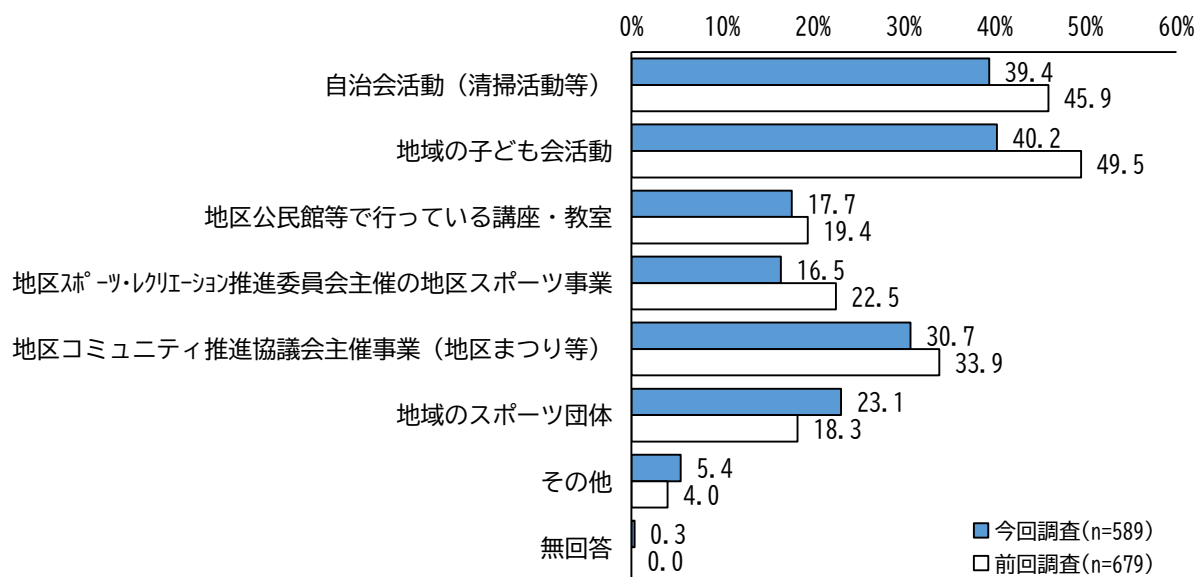
		参加した ことがあ る・参加 している	参加した ことはな いが、今 後は参加 させたい	参加した ことも参 加する予 定もない	身近な地 域の活動 やグルー プ活動に ついて知 らない	無回答
全体(n=1,319)		44.7	10.7	20.5	23.7	0.5
学 年 別	小学1年生(n=206)	35.9	19.4	20.9	23.3	0.5
	小学2年生(n=220)	41.8	13.2	18.2	26.4	0.5
	小学3年生(n=231)	46.8	10.8	17.3	25.1	0.0
	小学4年生(n=201)	46.3	8.5	20.4	23.4	1.5
	小学5年生(n=216)	51.9	4.2	21.8	21.8	0.5
	小学6年生(n=215)	43.3	8.8	25.1	22.8	0.0
地 区 別	桜井地区(n=124)	42.7	13.7	21.8	21.8	0.0
	新方地区(n=46)	47.8	13.0	19.6	17.4	2.2
	増林地区(n=128)	53.1	4.7	14.8	27.3	0.0
	大袋地区(n=189)	51.3	10.6	19.0	18.5	0.5
	荻島地区(n=28)	39.3	7.1	21.4	25.0	7.1
	出羽地区(n=101)	39.6	11.9	24.8	23.8	0.0
	蒲生地区(n=133)	48.9	12.0	18.0	20.3	0.8
	川柳地区(n=51)	43.1	15.7	15.7	25.5	0.0
	大相模地区(n=227)	42.7	9.7	16.7	30.8	0.0
	大沢地区(n=77)	33.8	14.3	23.4	28.6	0.0
	北越谷地区(n=30)	50.0	3.3	26.7	20.0	0.0
	越ヶ谷地区(n=81)	32.1	9.9	33.3	24.7	0.0
	南越谷地区(n=84)	42.9	11.9	25.0	17.9	2.4

【問 21 で「1. 参加したことがある・参加している」を選択した方】

問 21－1 参加したことがある・参加している地域活動やグループ活動はどちらですか。
(あてはまるものすべてに○)

参加したことがある・参加している地域活動やグループ活動については、「地域の子ども会活動」が 40.2%、「自治会活動（清掃活動等）」が 39.4%、「地区コミュニティ推進協議会（地区コミ協）主催事業（地区まつり等）」が 30.7%となっています。

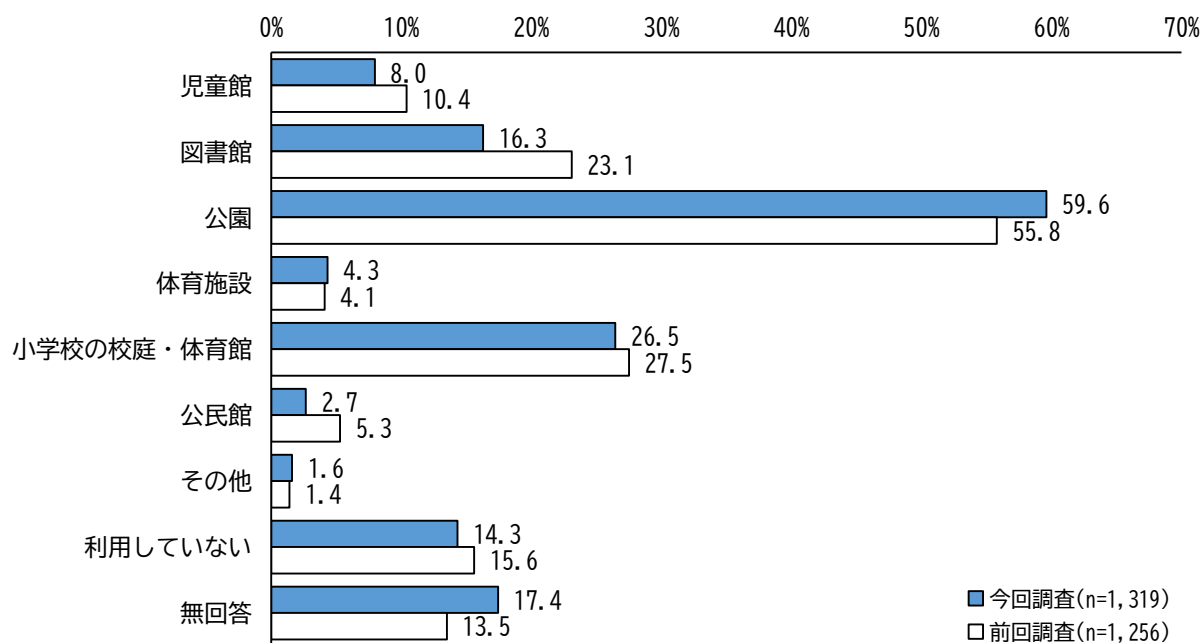
前回調査と比較すると、「地域のスポーツ団体」が 4.8 ポイント増加しています。一方、「地域の子ども会活動」は 9.3 ポイント減少、「自治会活動（清掃活動等）」は 6.5 ポイント減少、「地区スポーツ・レクリエーション推進委員会主催の地区スポーツ事業」は 6.0 ポイント減少しています。



問 22 放課後や休日にお子さんがよく利用する市の公共施設は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

放課後や休日によくお子さんが利用する市の公共施設については、「公園」が 59.6%で最も高く、次いで「小学校の校庭・体育館」が 26.5%、「図書館」が 16.3%となっています。

前回調査と比較すると、「図書館」が 6.8 ポイント減少しています。



【学年別／地区別】

学年別にみると、すべての学年で「公園」が最も高くなっています。また、2年生では「図書館」、4年生と6年生では「小学校の校庭・体育館」の割合も他の学年に比べ高くなっています。

地区別にみると、すべての地区で「公園」が最も高くなっています。また、南越谷地区で「図書館」が、北越谷地区では「小学校の校庭・体育館」、桜井地区と蒲生地区では「児童館」が他の地区を上回ります。

問22 放課後や休日にお子さんがよく利用する市の公共施設

単位：％

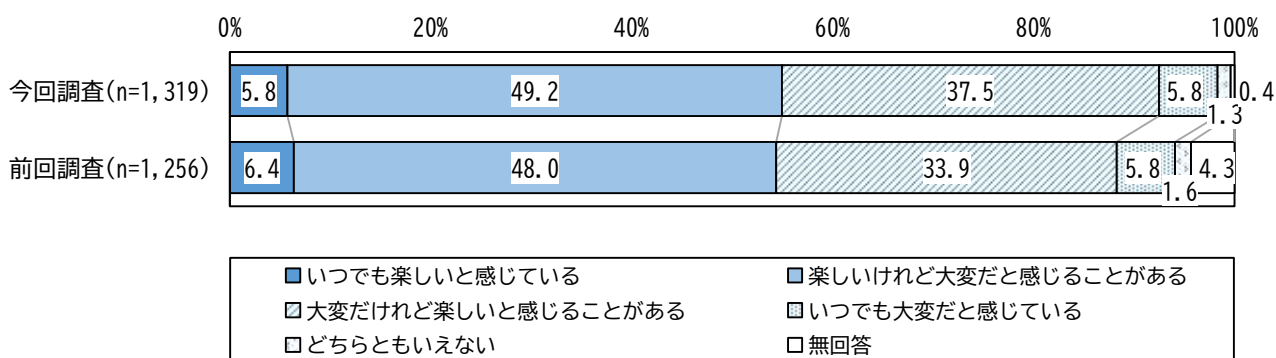
		児童館	図書館	公園	体育施設	小学校の校庭・体育館	公民館	その他	利用していない	無回答
学年別	全体(n=1,319)	8.0	16.3	59.6	4.3	26.5	2.7	1.6	14.3	17.4
	小学1年生(n=206)	12.1	16.0	67.0	1.0	14.6	0.5	1.0	12.1	16.0
	小学2年生(n=220)	10.0	25.5	65.0	5.0	25.0	0.9	2.3	10.5	17.7
	小学3年生(n=231)	10.0	18.6	64.1	4.3	24.7	3.5	2.2	10.8	18.6
	小学4年生(n=201)	6.0	12.4	56.2	6.0	33.8	3.5	1.5	16.9	15.9
	小学5年生(n=216)	6.9	17.6	53.2	4.6	26.9	3.7	0.9	16.2	17.6
	小学6年生(n=215)	3.3	8.4	51.6	4.7	32.6	3.7	1.4	20.0	18.6
地区別	桜井地区(n=124)	21.8	9.7	62.1	3.2	35.5	0.0	0.8	12.9	12.9
	新方地区(n=46)	13.0	8.7	60.9	2.2	28.3	10.9	2.2	13.0	15.2
	増林地区(n=128)	5.5	21.1	66.4	2.3	21.1	0.0	0.8	14.1	14.1
	大袋地区(n=189)	3.7	13.8	65.1	3.7	31.2	2.1	2.1	14.8	15.9
	荻島地区(n=28)	0.0	21.4	46.4	10.7	28.6	7.1	3.6	10.7	28.6
	出羽地区(n=101)	3.0	10.9	57.4	2.0	27.7	0.0	2.0	12.9	24.8
	蒲生地区(n=133)	22.6	18.0	55.6	2.3	29.3	1.5	0.0	16.5	15.8
	川柳地区(n=51)	11.8	15.7	70.6	7.8	9.8	0.0	0.0	19.6	9.8
	大相模地区(n=227)	4.0	18.1	52.4	5.3	17.2	1.3	2.2	18.5	19.8
	大沢地区(n=77)	2.6	13.0	59.7	2.6	32.5	18.2	1.3	6.5	20.8
	北越谷地区(n=30)	0.0	10.0	73.3	13.3	43.3	0.0	0.0	0.0	16.7
	越ヶ谷地区(n=81)	2.5	18.5	60.5	3.7	27.2	3.7	3.7	11.1	19.8
	南越谷地区(n=84)	4.8	31.0	54.8	8.3	22.6	2.4	2.4	17.9	16.7

8. 子育て全般について

問 23 あなたは、子育てに対してどのように感じていますか。(○は1つ)

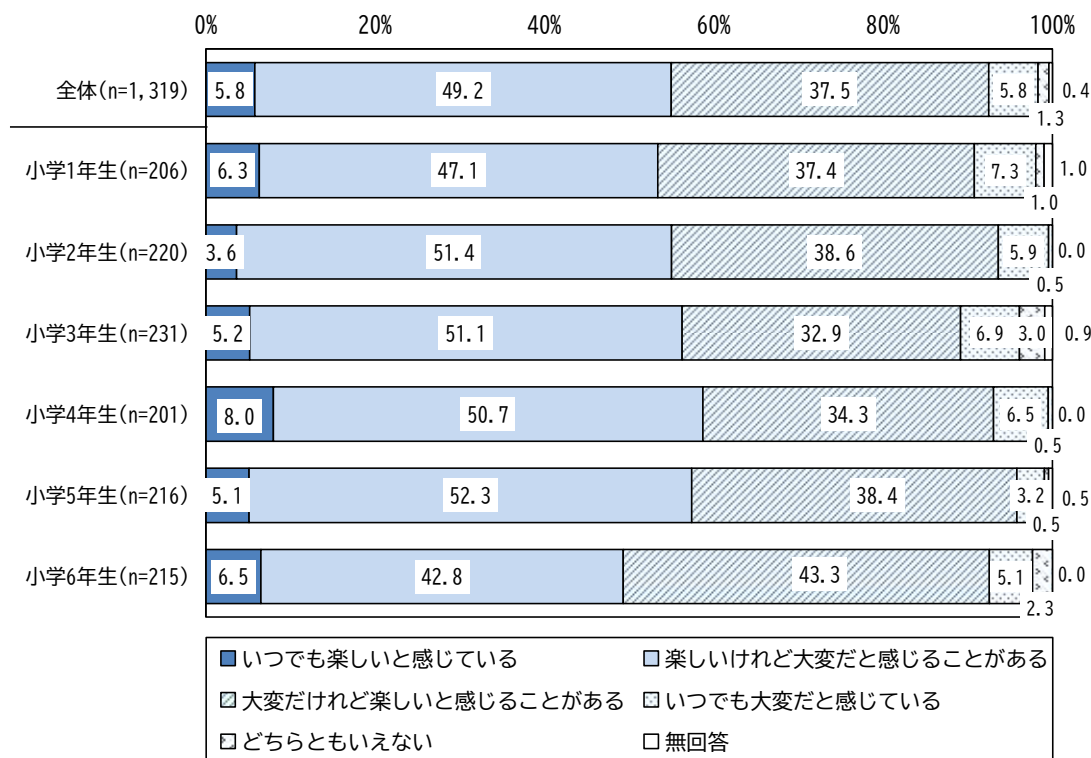
子育てについてどのように感じているかは、「楽しいけれど大変だと感じることもある」が 49.2%で最も高く、次いで「大変だけれど楽しいと感じることがある」が 37.5%、「いつでも楽しいと感じている」が 5.8%となっています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



【学年別】

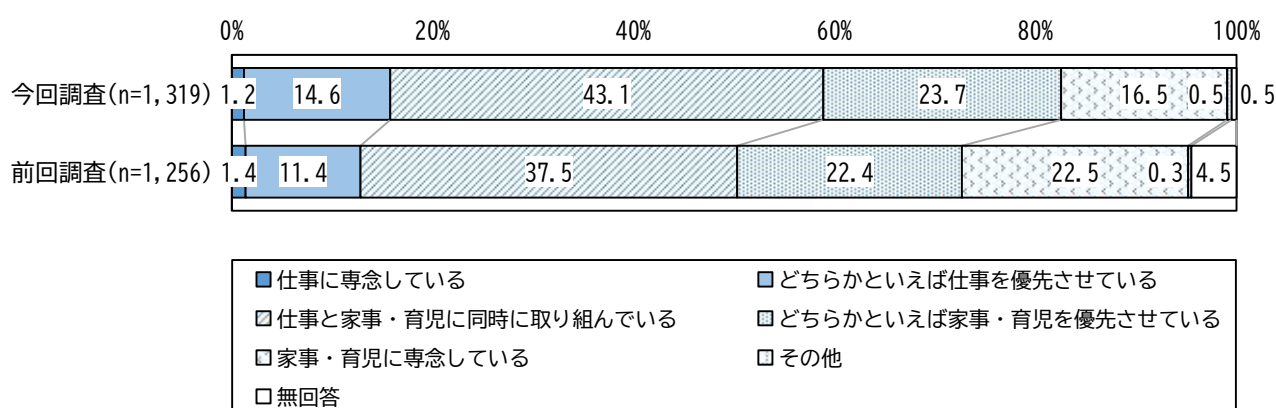
学年別にみると、6年生では「大変だけれど楽しいと感じることがある」が、それ以外の学年では「楽しいけれど大変だと感じることもある」が最も高くなっています。



問 24 仕事や家事・育児などの家庭生活について、あなたの現在の状況に近いものはどれですか。(○は1つ)

仕事や家事・育児などの家庭生活の現在の状況は、「仕事と家事・育児に同時に取り組んでいる」が 43.1%で最も高く、次いで「どちらかといえば家事・育児を優先させている」が 23.7%、「家事・育児に専念している」が 16.5%となっています。

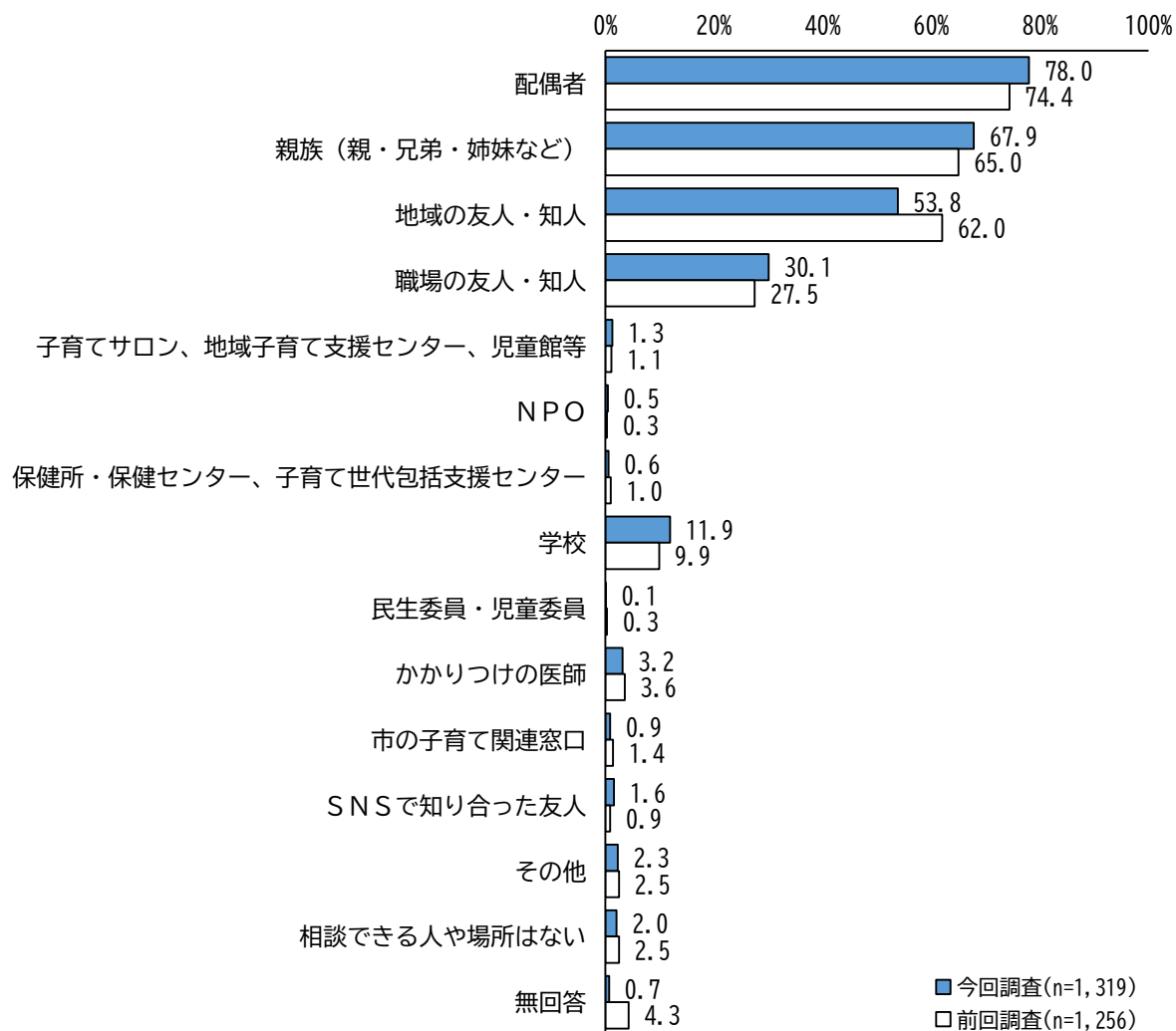
前回調査と比較すると、「家事・育児に専念している」が 6.0 ポイント減少し、「仕事と家事・育児に同時に取り組んでいる」が 5.6 ポイント増加しています。



問 25 子育てや子どもの教育に関して、あなたが気軽に相談できる人や場所がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

子育てに関して、気軽に相談できる先については、「配偶者」が 78.0%で最も高く、次いで「親族（親・兄弟・姉妹など）」が 67.9%、「地域の友人・知人」が 53.8%となっています。

前回調査と比較すると、「地域の友人・知人」が 8.2 ポイント減少しています。



【学年別／地区別】

学年別にみると、すべての学年で「配偶者」や「親族（親・兄弟・姉妹など）」「地域の友人・知人」が上位にあげられています。

地区別にみると、すべての地区で「配偶者」や「親族（親・兄弟・姉妹など）」が上位にあげられています。「地域の友人・知人」については、多くの地区で5割台であるのに対し、北越谷地区では36.7%であるなど、地区により差が見られます。北越谷地区では「職場の友人・知人」や「学校」が他の地区を上回ります。

問25 子育てや子どもの教育に関して気軽に相談できる人や場所があるか

単位：％

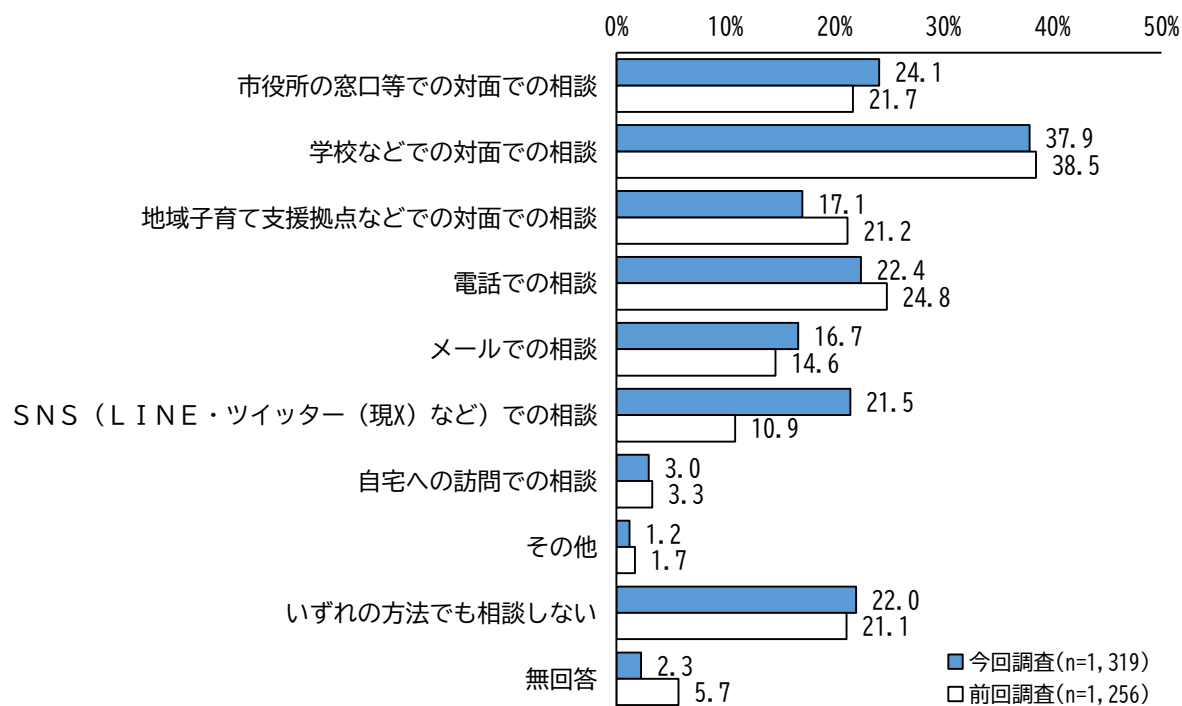
		配偶者	親族 (親・兄弟・姉妹など)	地域の友人・知人	職場の友人・知人	子育てサロン、地域子育て支援センター、児童館等	NPO	保健所・保健センター、子育て世代包括支援センター	学校
学年別	全体(n=1,319)	78.0	67.9	53.8	30.1	1.3	0.5	0.6	11.9
	小学1年生(n=206)	80.6	66.0	48.1	30.1	1.5	0.0	0.5	10.7
	小学2年生(n=220)	84.5	74.5	50.0	30.0	2.7	0.9	1.4	13.2
	小学3年生(n=231)	77.9	68.0	53.2	26.8	1.3	0.0	0.0	12.1
	小学4年生(n=201)	77.1	64.2	58.7	25.9	0.5	0.5	0.5	10.4
	小学5年生(n=216)	76.4	64.8	55.6	31.0	1.4	1.4	0.5	15.3
	小学6年生(n=215)	70.7	69.8	57.7	35.8	0.5	0.0	0.9	10.2
地区別	桜井地区(n=124)	68.5	64.5	55.6	30.6	2.4	0.0	0.0	12.9
	新方地区(n=46)	80.4	69.6	47.8	37.0	0.0	0.0	0.0	6.5
	増林地区(n=128)	76.6	68.0	54.7	25.8	1.6	0.8	0.0	11.7
	大袋地区(n=189)	76.2	67.2	58.2	32.8	1.1	0.5	1.1	10.6
	荻島地区(n=28)	64.3	75.0	53.6	17.9	3.6	0.0	0.0	3.6
	出羽地区(n=101)	73.3	70.3	51.5	24.8	2.0	0.0	0.0	10.9
	蒲生地区(n=133)	82.0	63.9	54.9	33.1	1.5	2.3	1.5	15.0
	川柳地区(n=51)	92.2	80.4	56.9	31.4	0.0	0.0	0.0	2.0
	大相模地区(n=227)	78.9	66.1	57.3	27.3	0.9	0.0	0.0	11.0
	大沢地区(n=77)	83.1	72.7	44.2	29.9	1.3	1.3	0.0	16.9
	北越谷地区(n=30)	70.0	60.0	36.7	43.3	0.0	0.0	3.3	20.0
	越ヶ谷地区(n=81)	81.5	67.9	48.1	39.5	0.0	0.0	2.5	16.0
	南越谷地区(n=84)	84.5	72.6	56.0	27.4	2.4	0.0	1.2	11.9

		民生委員・児童委員	かかりつけの医師	市の子育て関連窓口	SNSで知り合った友人	その他	相談できる人や場所はない	無回答
学年別	全体(n=1,319)	0.1	3.2	0.9	1.6	2.3	2.0	0.7
	小学1年生(n=206)	0.0	4.9	0.5	1.0	3.4	1.9	1.5
	小学2年生(n=220)	0.0	1.4	0.9	3.6	4.1	1.8	0.0
	小学3年生(n=231)	0.4	3.5	0.9	1.7	0.9	0.9	1.7
	小学4年生(n=201)	0.0	3.5	0.5	0.0	3.0	3.0	0.0
	小学5年生(n=216)	0.0	4.2	1.4	0.5	1.9	2.3	0.9
	小学6年生(n=215)	0.0	1.9	1.4	2.8	0.9	2.3	0.0
地区別	桜井地区(n=124)	0.0	5.6	2.4	0.8	0.8	3.2	1.6
	新方地区(n=46)	0.0	0.0	0.0	2.2	4.3	0.0	0.0
	増林地区(n=128)	0.0	7.8	0.0	0.8	1.6	2.3	1.6
	大袋地区(n=189)	0.0	1.6	0.5	1.1	2.6	2.6	0.5
	荻島地区(n=28)	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0
	出羽地区(n=101)	0.0	3.0	0.0	1.0	1.0	5.0	2.0
	蒲生地区(n=133)	0.0	3.0	0.0	2.3	1.5	2.3	0.8
	川柳地区(n=51)	0.0	2.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0
	大相模地区(n=227)	0.0	2.6	1.3	1.8	2.2	2.2	0.0
	大沢地区(n=77)	1.3	3.9	1.3	1.3	2.6	0.0	0.0
	北越谷地区(n=30)	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
	越ヶ谷地区(n=81)	0.0	3.7	2.5	2.5	3.7	2.5	0.0
	南越谷地区(n=84)	0.0	2.4	2.4	3.6	2.4	0.0	0.0

問 26 今後、市役所などの公的な機関にどのような形で相談したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

今後、市役所などの公的な機関にどのような形で相談したいと思うかについては、「学校などでの対面での相談」が 37.9%で最も高く、次いで「市役所の窓口等での対面での相談」が 24.1%、「電話での相談」が 22.4%、「SNS（LINE・ツイッター（現 X）など）での相談」が 21.5%となっています。

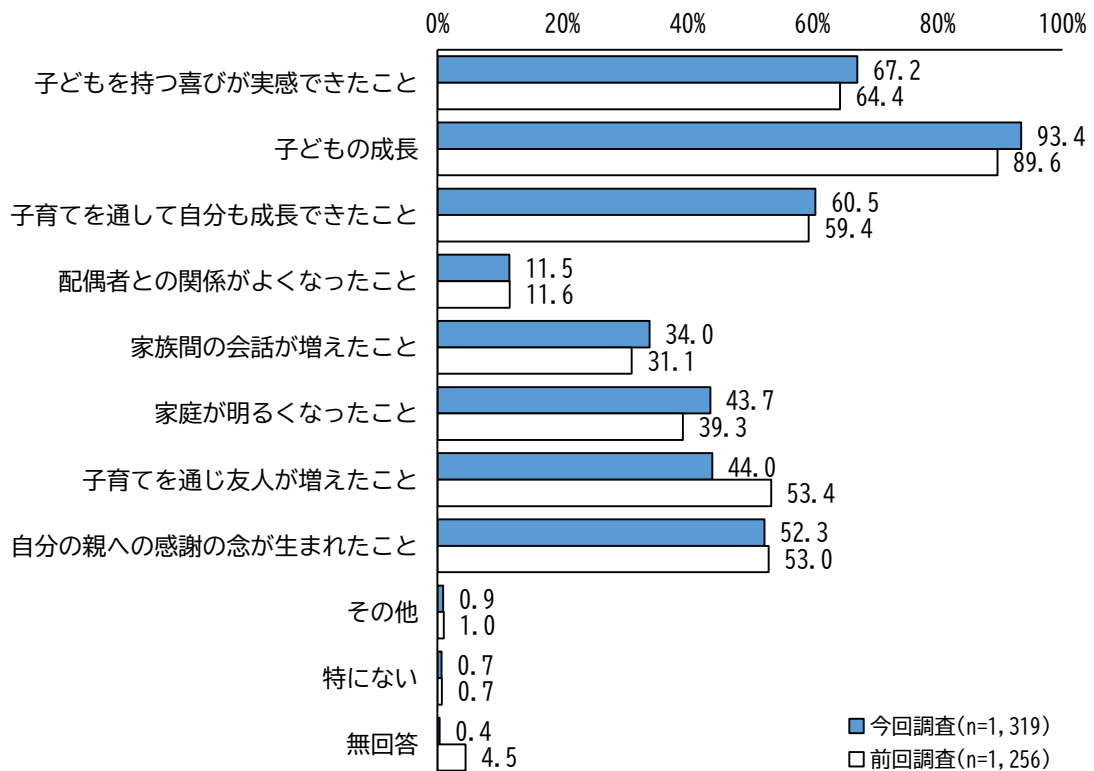
前回調査と比較すると、「SNS（LINE・ツイッター（現 X）など）での相談」が 10.6 ポイント増加しています。



問 27 あなたが子育てをしてよかったこと、嬉しかったことはなんですか。（あてはまるものすべてに○）

子育てをしてよかったこと、嬉しかったことについては、「子どもの成長」が 93.4%で最も高く、次いで「子どもを持つ喜びが実感できたこと」が 67.2%、「子育てを通して自分も成長できたこと」が 60.5%となっています。

前回調査と比較すると、「家庭が明るくなったこと」が 4.4 ポイント増加、「子どもの成長」が 3.8 ポイント増加しています。一方、「子育てを通じ友人が増えたこと」は 9.4 ポイント減少しています。



【学年別】

学年別にみると、すべての学年で「子どもの成長」が最も高くなっています。また、6年生では「自分の親への感謝の念が生まれたこと」や「子育てを通じ友人が増えたこと」が他の学年に比べ高くなっています。

問27 子育てをしてよかったこと、嬉しかったこと

単位：％

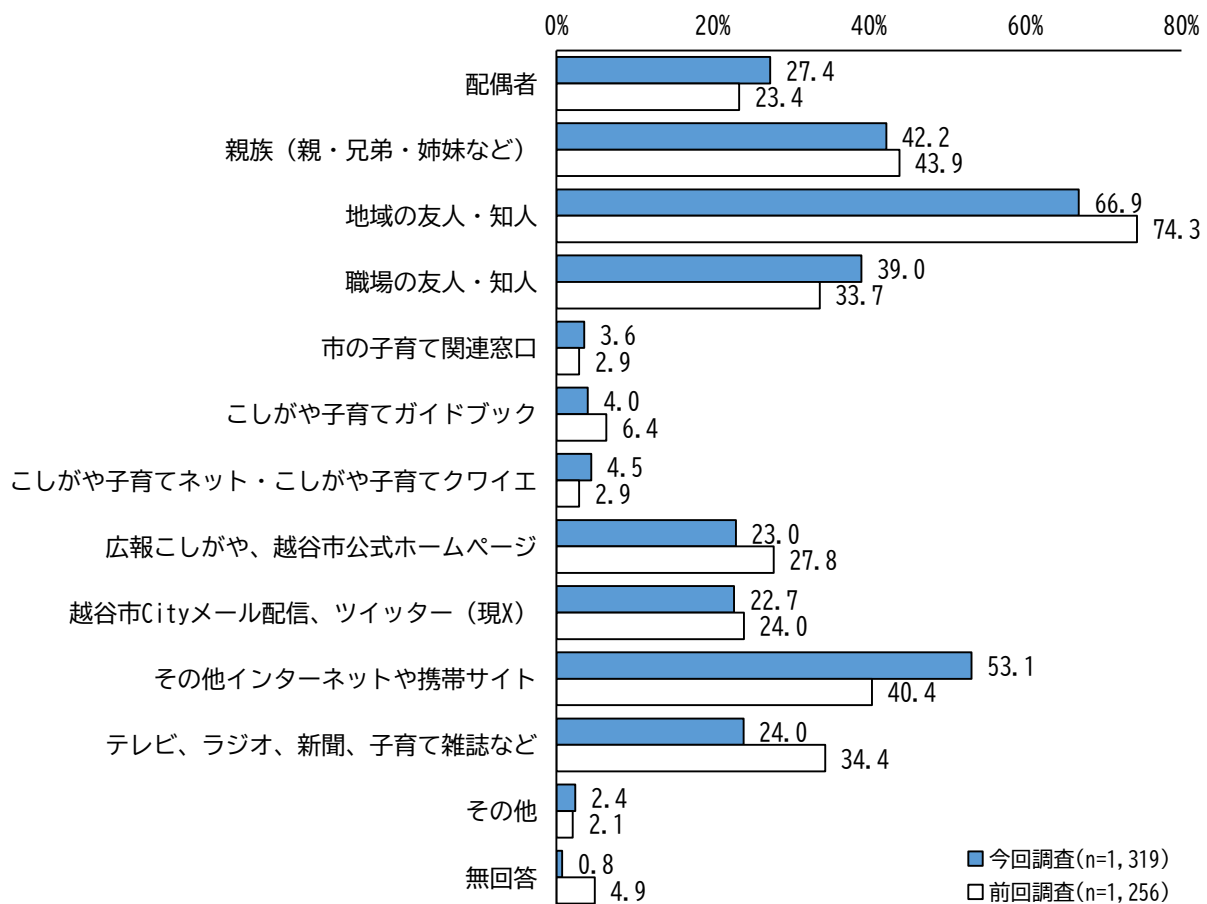
	子どもを持つ喜びが実感できたこと	子どもの成長	子育てを通して自分も成長できたこと	配偶者との関係がよくなったこと	家族間の会話が増えたこと	家庭が明るくなったこと
全体(n=1,319)	67.2	93.4	60.5	11.5	34.0	43.7
小学1年生(n=206)	69.4	94.2	54.4	10.7	34.0	49.0
小学2年生(n=220)	70.0	94.5	62.7	15.5	34.5	48.6
小学3年生(n=231)	67.5	95.2	59.7	9.5	37.7	44.2
小学4年生(n=201)	62.2	88.6	62.2	8.5	30.3	37.3
小学5年生(n=216)	64.8	93.1	62.0	9.7	28.7	46.8
小学6年生(n=215)	67.0	94.4	61.4	14.9	36.3	35.3

	子育てを通じ友人が増えたこと	自分の親への感謝の念が生まれたこと	その他	特にない	無回答
全体(n=1,319)	44.0	52.3	0.9	0.7	0.4
小学1年生(n=206)	40.3	50.0	0.5	1.5	0.5
小学2年生(n=220)	42.7	53.2	0.5	1.4	0.0
小学3年生(n=231)	44.2	58.0	0.9	0.4	0.4
小学4年生(n=201)	36.8	45.3	0.5	0.5	0.5
小学5年生(n=216)	48.1	48.6	1.4	0.0	0.9
小学6年生(n=215)	50.2	57.7	1.4	0.5	0.0

問 28 子育てに関する情報はどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

子育てに関する情報の入手先については、「地域の友人・知人」が 66.9%で最も高く、次いで「その他インターネットや携帯サイト」が 53.1%、「親族（親・兄弟・姉妹など）」が 42.2%となっています。

前回調査と比較すると、「その他インターネットや携帯サイト」が 12.7 ポイント増加しています。一方、「テレビ、ラジオ、新聞、子育て雑誌など」は 10.4 ポイント減少、「地域の友人・知人」は 7.4 ポイント減少しています。



【学年別】

学年別にみると、すべての学年で「地域の友人・知人」が最も高く、次いで「その他インターネットや携帯サイト」となっています。

問28 子育てに関する情報の入手先

単位：％

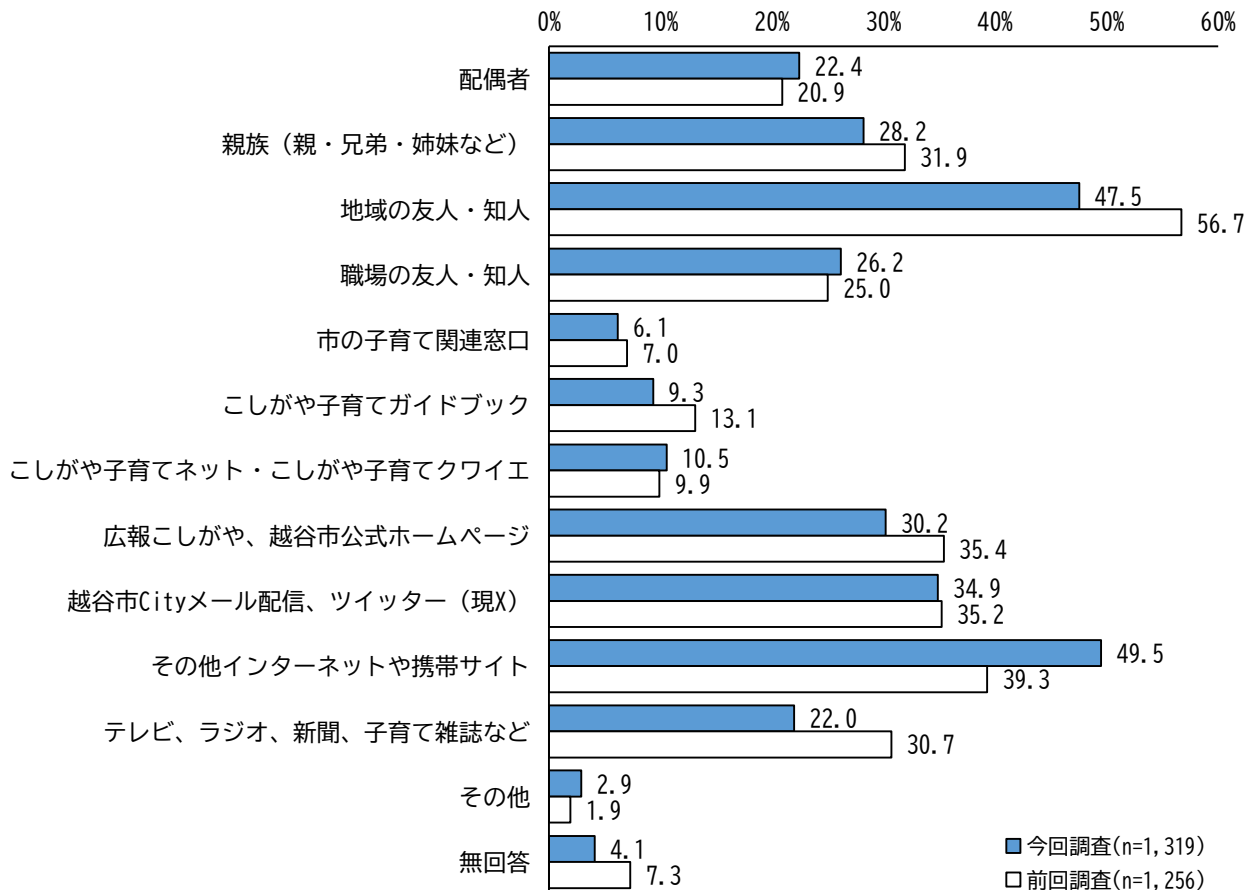
	配偶者	親族 (親・兄弟・姉妹 など)	地域の友 人・知人	職場の友 人・知人	市の子育 て関連窓 口	こしがや 子育てガ イドブッ ク	こしがや 子育て ネット・ こしがや 子育てク ワイエ
全体(n=1,319)	27.4	42.2	66.9	39.0	3.6	4.0	4.5
小学1年生(n=206)	30.6	47.6	58.3	37.9	2.4	4.4	2.9
小学2年生(n=220)	24.5	47.7	64.1	35.5	2.7	6.8	7.7
小学3年生(n=231)	28.1	41.6	66.7	34.6	3.5	3.9	5.6
小学4年生(n=201)	26.9	38.8	74.1	38.8	6.0	3.5	2.5
小学5年生(n=216)	27.8	39.8	66.2	40.3	2.8	2.3	3.2
小学6年生(n=215)	26.5	38.6	71.6	45.6	3.7	3.3	3.7

	広報こし がや、越 谷市公式 ホーム ページ	越谷市 Cityメー ル配信、 ツイッ ター(現 X)	その他イ ンター ネットや 携帯サイ ト	テレビ、 ラジオ、 新聞、子 育て雑誌 など	その他	無回答
全体(n=1,319)	23.0	22.7	53.1	24.0	2.4	0.8
小学1年生(n=206)	23.3	19.4	52.4	20.9	2.4	1.0
小学2年生(n=220)	22.7	28.2	57.3	30.9	1.4	0.5
小学3年生(n=231)	18.2	18.2	56.7	25.1	3.9	0.9
小学4年生(n=201)	26.4	20.9	46.8	21.4	1.5	1.0
小学5年生(n=216)	26.9	27.3	53.7	22.7	2.8	1.4
小学6年生(n=215)	20.5	22.3	52.1	22.3	2.3	0.0

問 29 今後、どのような方法で情報を受け取りたいですか。（あてはまるものすべてに○）

今後、どのような方法で情報を受け取りたいかについては、「その他インターネットや携帯サイト」が 49.5%で最も高く、次いで「地域の友人・知人」が 47.5%、「越谷市 City メール配信、ツイッター（現 X）」が 34.9%となっています。

前回調査と比較すると、「その他インターネットや携帯サイト」が 10.2 ポイント増加しています。一方、「地域の友人・知人」は 9.2 ポイント減少、「テレビ、ラジオ、新聞、子育て雑誌など」は 8.7 ポイント減少しています。



【学年別】

学年別にみると、1年生と4年生では「地域の友人・知人」が、それ以外の学年では「その他インターネットや携帯サイト」が最も高くなっています。

問29 今後希望する子育てに関する情報の入手先

単位：％

	配偶者	親族 (親・兄弟・姉妹 など)	地域の友 人・知人	職場の友 人・知人	市の子育 て関連窓 口	こしがや 子育てガ イドブッ ク	こしがや 子育て ネット・ こしがや 子育てク ワイエ
全体(n=1,319)	22.4	28.2	47.5	26.2	6.1	9.3	10.5
小学1年生(n=206)	27.7	31.6	48.5	23.8	6.8	11.7	11.7
小学2年生(n=220)	22.7	31.4	45.9	22.3	7.7	8.6	14.5
小学3年生(n=231)	22.1	26.4	46.3	24.2	5.6	10.0	12.1
小学4年生(n=201)	18.9	24.9	50.2	26.9	7.5	8.0	6.5
小学5年生(n=216)	21.3	29.2	46.8	27.8	3.7	10.2	9.7
小学6年生(n=215)	22.3	26.0	47.9	31.2	5.1	7.4	8.8

	広報こし がや、越 谷市公式 ホーム ページ	越谷市 Cityメー ル配信、 ツイッ ター(現 X)	その他イ ンター ネットや 携帯サイ ト	テレビ、 ラジオ、 新聞、子 育て雑誌 など	その他	無回答
全体(n=1,319)	30.2	34.9	49.5	22.0	2.9	4.1
小学1年生(n=206)	28.6	28.6	44.7	21.4	4.4	2.4
小学2年生(n=220)	29.5	44.1	55.0	24.1	1.8	2.7
小学3年生(n=231)	25.5	32.5	51.9	26.0	3.0	7.4
小学4年生(n=201)	32.8	35.8	45.8	17.4	2.5	4.5
小学5年生(n=216)	32.4	34.7	51.9	20.4	3.7	5.1
小学6年生(n=215)	32.1	32.1	49.3	23.3	1.9	1.9

問 30 あなたは、越谷市の子育て情報サイト「こしがや子育てネット」・市民サイト「こしがや子育てクワイエ」を知っていますか。（○はそれぞれ1つ）

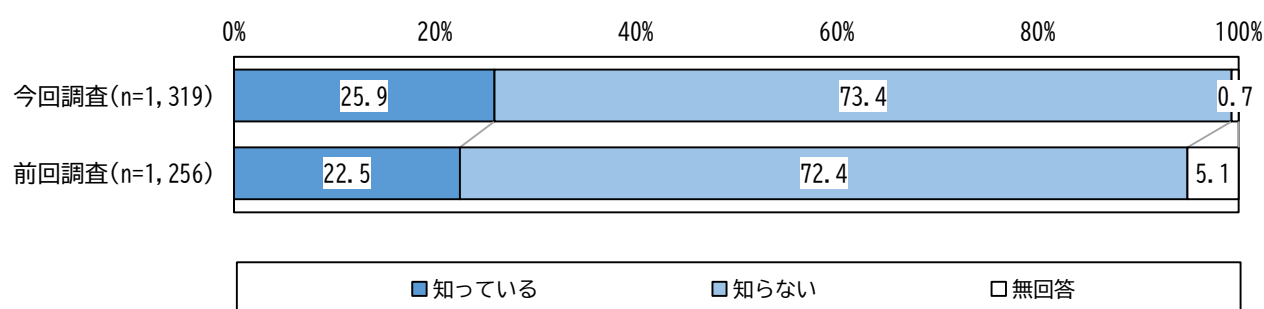
越谷市の子育て情報サイト「こしがや子育てネット」を知っているかについては、「知らない」が73.4%で、「知っている」の25.9%を上回っています。

前回調査と比較すると、「知っている」が3.4ポイント増加しています。

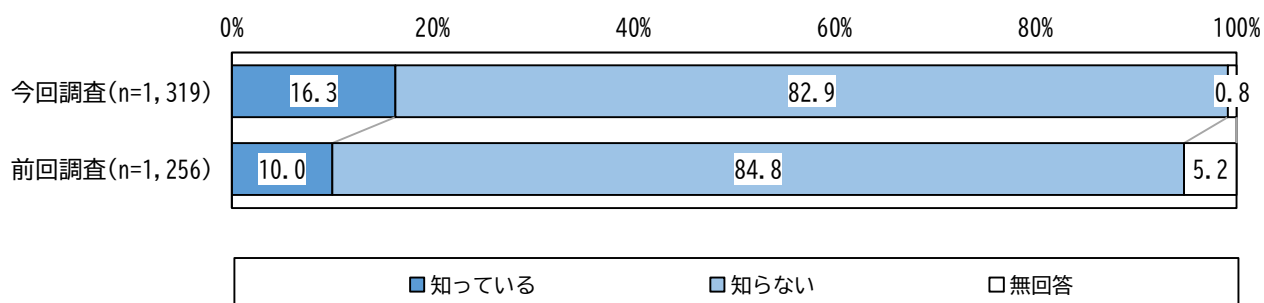
市民サイト「こしがや子育てクワイエ」を知っているかについては、「知らない」が82.9%で、「知っている」の16.3%を上回っています。

前回調査と比較すると、「知っている」が6.3ポイント増加しています。

【こしがや子育てネット】



【こしがや子育てクワイエ】

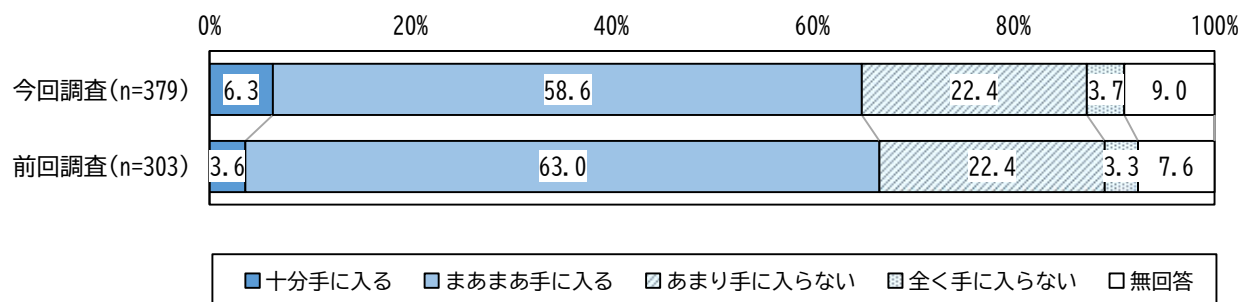


【問 30 で、いずれかまたは両方「1. 知っている」を選択した方】

問 30-1 「こしがや子育てネット」・「こしがや子育てクワイエ」で子育てに必要な情報は手に入りますか。（○は1つ）また今後、どのような情報を載せてほしいと思いますか。

「こしがや子育てネット」・「こしがや子育てクワイエ」で子育てに必要な情報が手に入るかについては、「まあまあ手に入る」が 58.6%で最も高く、次いで「あまり手に入らない」が 22.4%、「十分手に入る」が 6.3%となっています。

おおむね前回調査と同様の傾向が見られます。



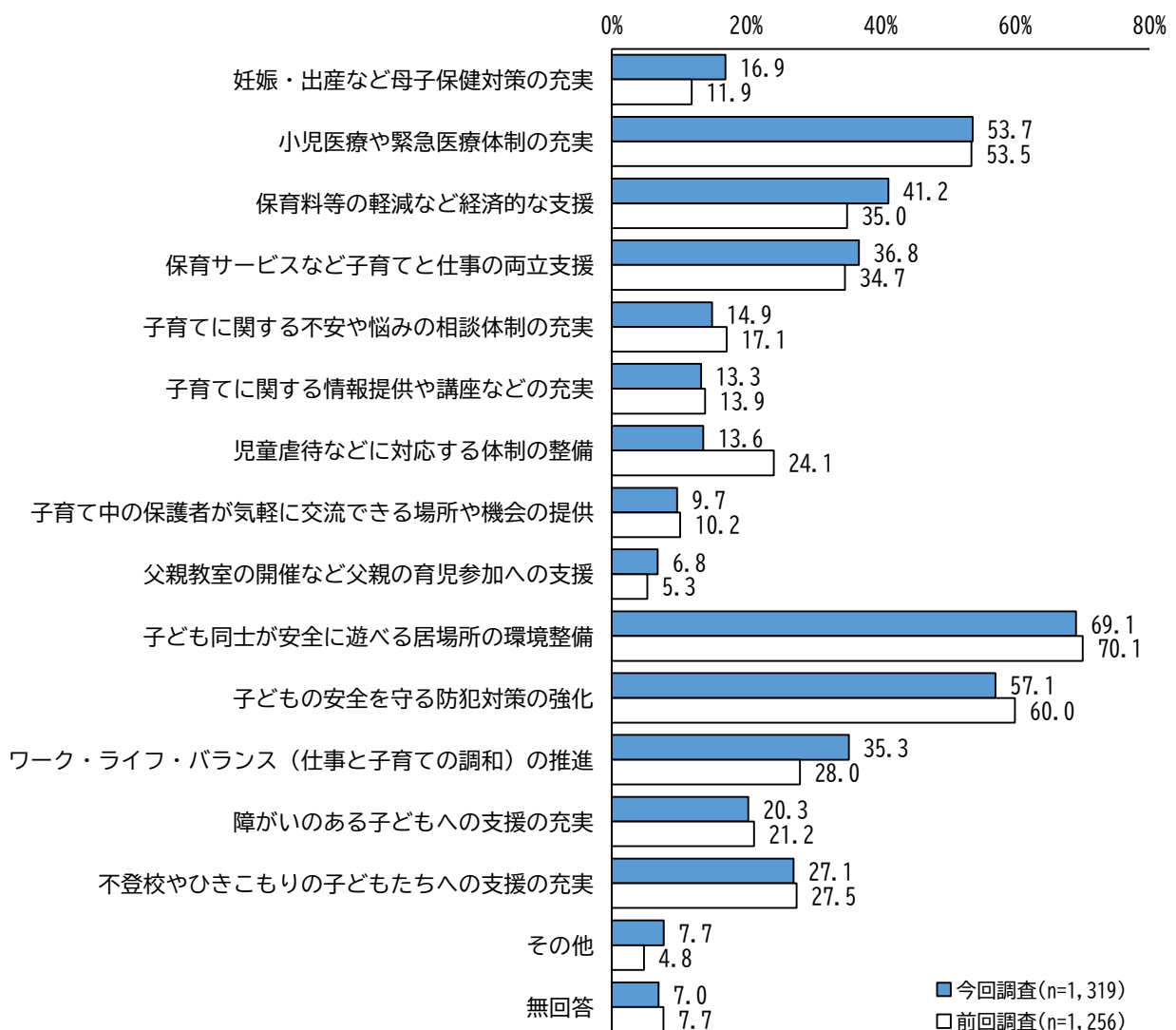
【「こしがや子育てネット」・「こしがや子育てクワイエ」に希望する情報】

不満と感ずる理由 (n=68)	
・ 子育てに関するイベントや地域活動に関する情報 (15 件)	
・ 利用していない、見たことがない (13 件)	
・ 学校や学区、進学、不登校、学童保育室に関する情報 (11 件)	
・ サイトの改善点について (写真や絵を追加、リアルな情報がほしい等) (10 件)	
・ 市に関する情報、助成金・補助金に関する情報 (7 件)	
・ こどもの年齢にあった情報の提供 (5 件)	
・ 遊び場や交流の場に関する情報 (4 件)	
・ その他 (3 件)	

問 31 市に対して、今後特に、どのような子育て支援の充実を図ってほしいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

市に対して、今後どのような子育て支援の充実を図ってほしいと考えるかについては、「子ども同士が安全に遊べる居場所の環境整備」が 69.1%で最も高く、次いで「子どもの安全を守る防犯対策の強化」が 57.1%、「小児医療や緊急医療体制の充実」が 53.7%、「保育料等の軽減など経済的な支援」が 41.2%となっています。

前回調査と比較すると、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と子育ての調和）の推進」が 7.3 ポイント増加、「保育料等の軽減など経済的な支援」が 6.2 ポイント増加しています。一方、「児童虐待などに対応する体制の整備」は 10.5 ポイント減少しています。



【学年別／地区別】

学年別にみると、すべての学年で「子ども同士が安全に遊べる居場所の環境整備」や「子どもの安全を守る防犯対策の強化」が上位にあげられています。また、1年生では「小児医療や緊急医療体制の充実」や「保育料等の軽減など経済的な支援」が他の学年を上回ります。

地区別にみると、北越谷地区と荻島地区では「小児医療や緊急医療体制の充実」が、その他の地区では「子ども同士が安全に遊べる居場所の環境整備」がそれぞれ最も高くなっています。

問31 市に対して今後充実を図ってほしい子育て支援

単位：％

		妊娠・出産など母子保健対策の充実	小児医療や緊急医療体制の充実	保育料等の軽減など経済的な支援	保育サービスなど子育てと仕事の両立支援	子育てに関する不安や悩みの相談体制の充実	子育てに関する情報提供や講座などの充実	児童虐待などに対応する体制の整備	子育て中の保護者が気軽に交流できる場所や機会の提供
学年別	全体(n=1,319)	16.9	53.7	41.2	36.8	14.9	13.3	13.6	9.7
	小学1年生(n=206)	22.3	64.1	54.4	48.5	13.1	16.5	14.6	12.1
	小学2年生(n=220)	14.1	50.5	43.6	43.6	14.5	12.7	12.7	10.9
	小学3年生(n=231)	15.6	57.6	41.1	40.3	14.7	11.3	13.9	7.4
	小学4年生(n=201)	16.9	53.7	37.3	31.8	14.9	13.9	12.4	11.4
	小学5年生(n=216)	17.6	49.1	38.4	31.5	18.5	15.7	13.0	7.9
	小学6年生(n=215)	15.8	47.9	29.8	24.7	14.9	10.7	13.5	7.9
地区別	桜井地区(n=124)	21.0	55.6	39.5	33.9	16.1	12.9	20.2	10.5
	新方地区(n=46)	13.0	43.5	43.5	37.0	15.2	6.5	17.4	6.5
	増林地区(n=128)	18.8	54.7	37.5	35.2	18.0	15.6	13.3	10.9
	大袋地区(n=189)	19.0	53.4	42.3	34.9	15.9	15.3	13.8	12.2
	荻島地区(n=28)	17.9	67.9	57.1	42.9	14.3	17.9	14.3	3.6
	出羽地区(n=101)	11.9	49.5	40.6	39.6	17.8	12.9	11.9	10.9
	蒲生地区(n=133)	18.8	55.6	39.1	39.1	7.5	12.8	10.5	9.8
	川柳地区(n=51)	11.8	66.7	41.2	31.4	19.6	17.6	19.6	11.8
	大相模地区(n=227)	12.3	52.9	38.8	32.6	12.3	9.3	10.1	6.2
	大沢地区(n=77)	13.0	50.6	36.4	35.1	14.3	9.1	9.1	13.0
	北越谷地区(n=30)	20.0	73.3	40.0	43.3	13.3	10.0	16.7	6.7
	越ヶ谷地区(n=81)	21.0	45.7	43.2	45.7	19.8	22.2	21.0	12.3
	南越谷地区(n=84)	20.2	50.0	48.8	40.5	15.5	15.5	10.7	6.0

		父親教室の開催など父親の育児参加への支援	子ども同士が安全に遊べる居場所の環境整備	子どもの安全を守る防犯対策の強化	ワーク・ライフ・バランス（仕事と子育ての調和）の推進	障がいのある子どもへの支援の充実	不登校やひきこもりの子どもたちへの支援の充実	その他	無回答
学年別	全体(n=1,319)	6.8	69.1	57.1	35.3	20.3	27.1	7.7	7.0
	小学1年生(n=206)	7.8	75.2	58.7	40.8	16.0	18.0	6.8	3.9
	小学2年生(n=220)	10.9	74.1	60.5	40.5	18.2	25.0	7.3	8.2
	小学3年生(n=231)	6.5	74.5	60.6	35.5	18.2	29.9	9.5	4.8
	小学4年生(n=201)	6.0	67.7	57.7	29.4	25.4	26.4	7.0	7.5
	小学5年生(n=216)	4.6	63.0	55.1	36.1	24.5	30.6	9.3	7.4
	小学6年生(n=215)	4.7	61.4	51.2	27.9	20.9	32.6	6.5	10.2
地区別	桜井地区(n=124)	4.8	71.0	53.2	33.1	22.6	25.0	3.2	8.1
	新方地区(n=46)	6.5	69.6	52.2	39.1	26.1	32.6	4.3	6.5
	増林地区(n=128)	4.7	70.3	57.0	34.4	23.4	28.1	4.7	8.6
	大袋地区(n=189)	9.0	71.4	56.6	37.6	23.3	25.4	8.5	4.2
	荻島地区(n=28)	7.1	60.7	57.1	42.9	14.3	21.4	3.6	7.1
	出羽地区(n=101)	7.9	65.3	62.4	28.7	21.8	28.7	5.0	9.9
	蒲生地区(n=133)	4.5	72.2	59.4	30.1	17.3	24.1	9.0	7.5
	川柳地区(n=51)	13.7	82.4	68.6	39.2	25.5	31.4	7.8	3.9
	大相模地区(n=227)	5.7	67.0	53.7	36.1	18.1	25.1	13.7	7.5
	大沢地区(n=77)	2.6	67.5	63.6	35.1	15.6	26.0	9.1	1.3
	北越谷地区(n=30)	20.0	66.7	53.3	50.0	30.0	36.7	3.3	0.0
	越ヶ谷地区(n=81)	9.9	64.2	59.3	30.9	16.0	32.1	4.9	14.8
	南越谷地区(n=84)	7.1	67.9	56.0	39.3	13.1	26.2	9.5	6.0

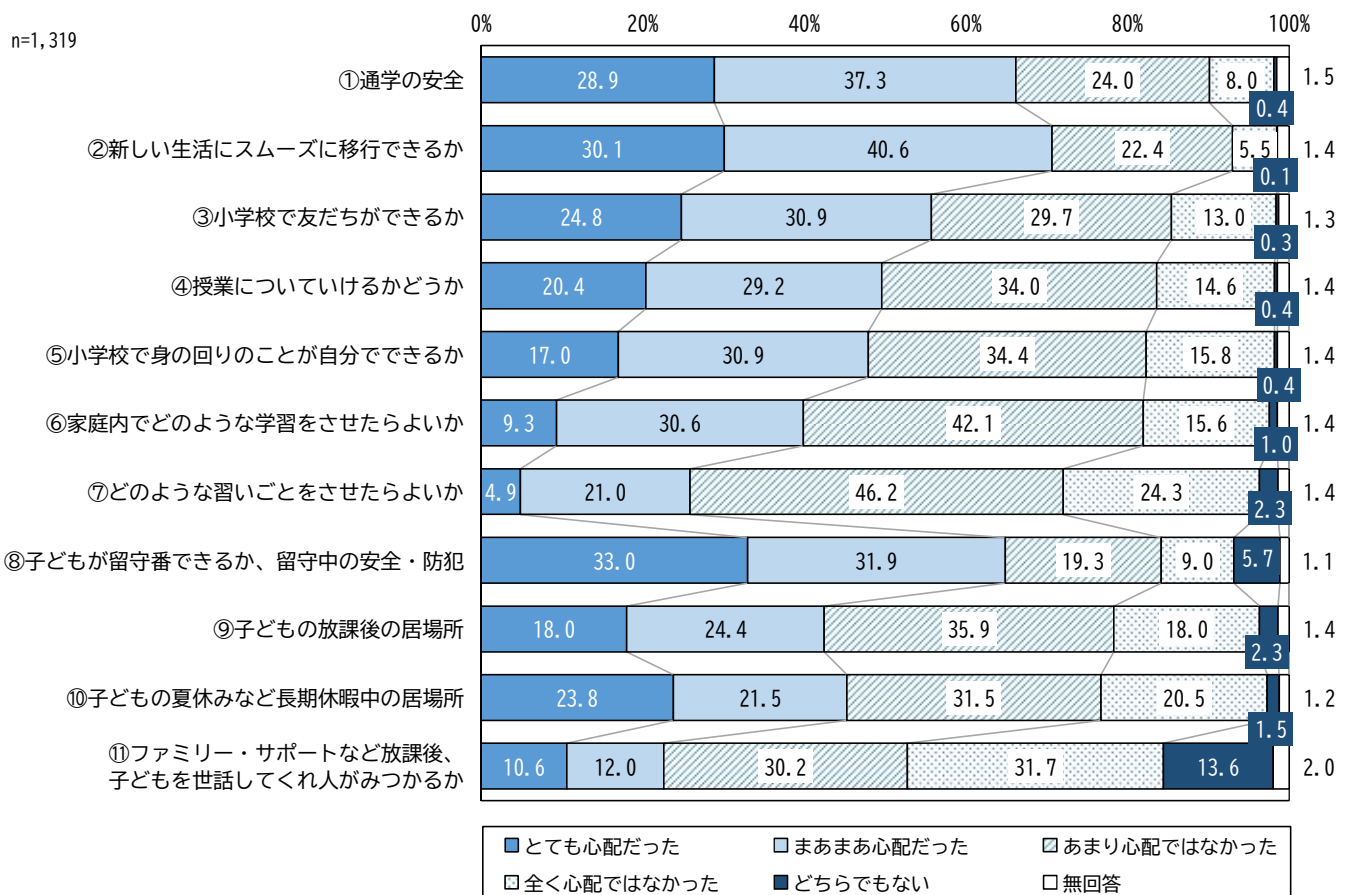
問 32 お子さんが小学校に入学した時に心配だったことについて、その程度をお答えください。(①～⑪のそれぞれ1つに○)

お子さんが小学校に入学した時に心配だったことについては、〈①通学の安全〉〈②新しい生活にスムーズに移行できるか〉〈③小学校で友だちができるか〉〈⑧子どもが留守番できるか、留守中の安全・防犯〉において、「とても心配だった」と「まあまあ心配だった」を合わせた『心配だった』が5割以上で、「あまり心配ではなかった」と「全く心配ではなかった」を合わせた『心配ではなかった』を上回っています。

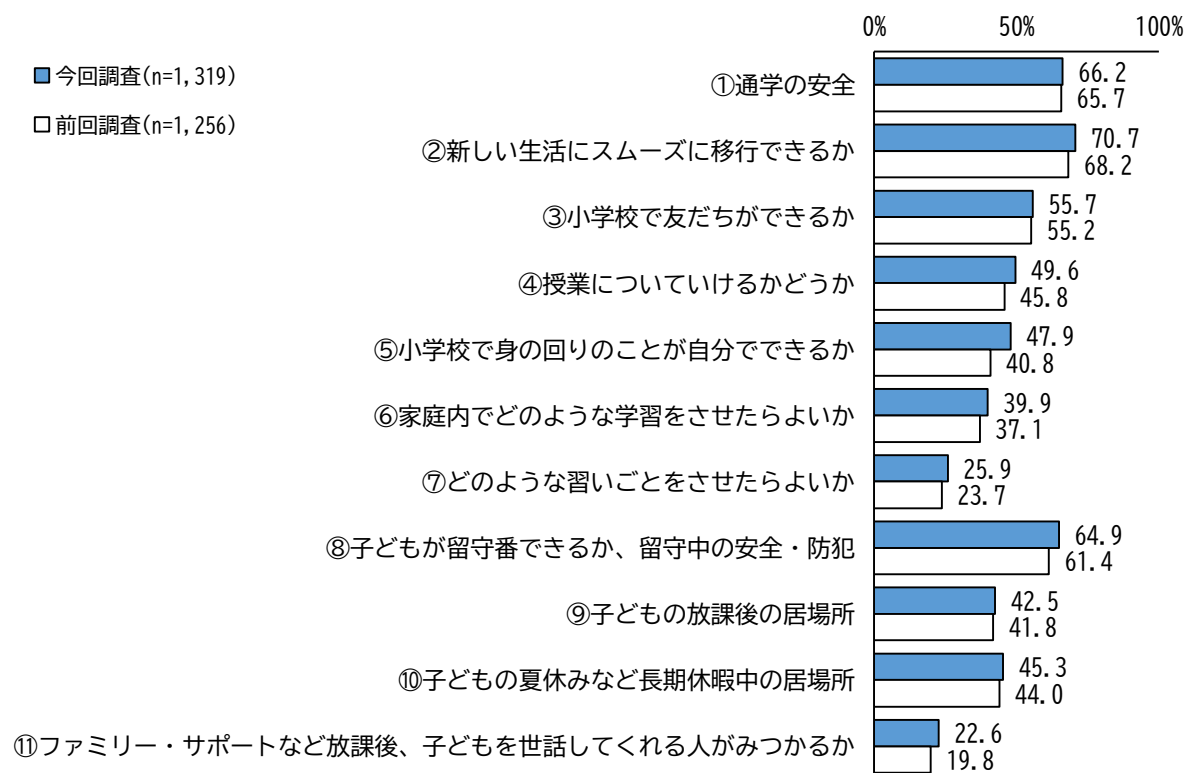
一方で、〈⑤小学校で身の回りのことが自分でできるか〉〈⑥家庭内でどのような学習をさせたらよいか〉〈⑦どのような習いごとをさせたらよいか〉〈⑨子どもの放課後の居場所〉〈⑩子どもの夏休みなど長期休暇中の居場所〉〈⑪ファミリー・サポートなど放課後、子どもを世話してくれる人がみつかるか〉においては、『心配ではなかった』が5割以上で、『心配だった』を上回っています。

また、〈④授業についていけるかどうか〉においては、『心配だった』が『心配ではなかった』を上回っているものの、その差はあまりみられません。

『心配だった』と回答した人の割合について、前回調査と比較すると、すべての項目で割合が高くなっており、特に〈⑤小学校で身の回りのことが自分でできるか〉は7.1ポイント増加しています。



【『心配だった』と回答した人の経年比較】



IV こどもの生活実態調査の結果

●本章の本文やグラフに掲載されている属性について

「生活状況別」における等価世帯収入※の算出方法については、P5 を参照ください。

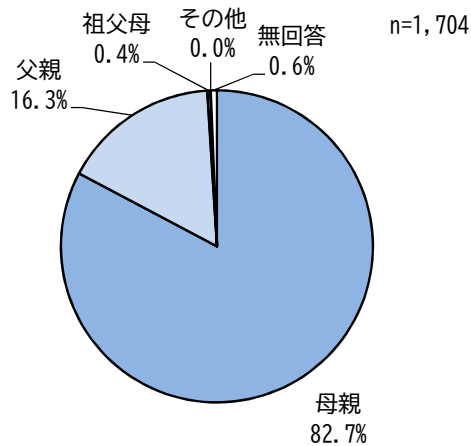
※等価世帯収入：世帯全体の年間収入(税込)を世帯人員で調整したもの。

「世帯別」：問6 ひとり親の該当、問3 同居家族、問4 家族全員の人数における回答より算出した【ひとり親の判定】(P165 掲載)をクロス集計の属性として使用しています。

1. ご家庭やご両親のことについてお聞きします

問1 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。(○は1つだけ)

お子さんとの続柄については、「母親」が82.7%、「父親」が16.3%となっています。

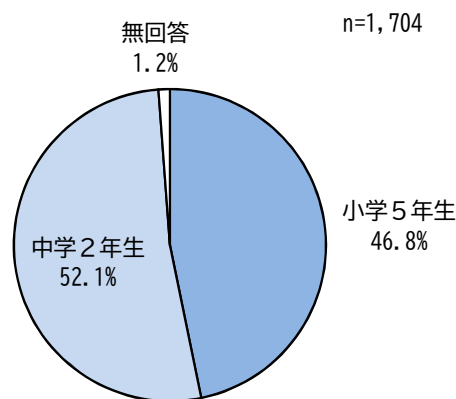


問2 お子さんが通学する小(中)学校をお答え下さい。(○は1つだけ)

※ 公立学校以外に在籍の場合は、お住まいのご住所が該当する通学区域の学校名をお答えください。

お子さんの学年については、「小学5年生」が46.8%、「中学2年生」が52.1%となっています。

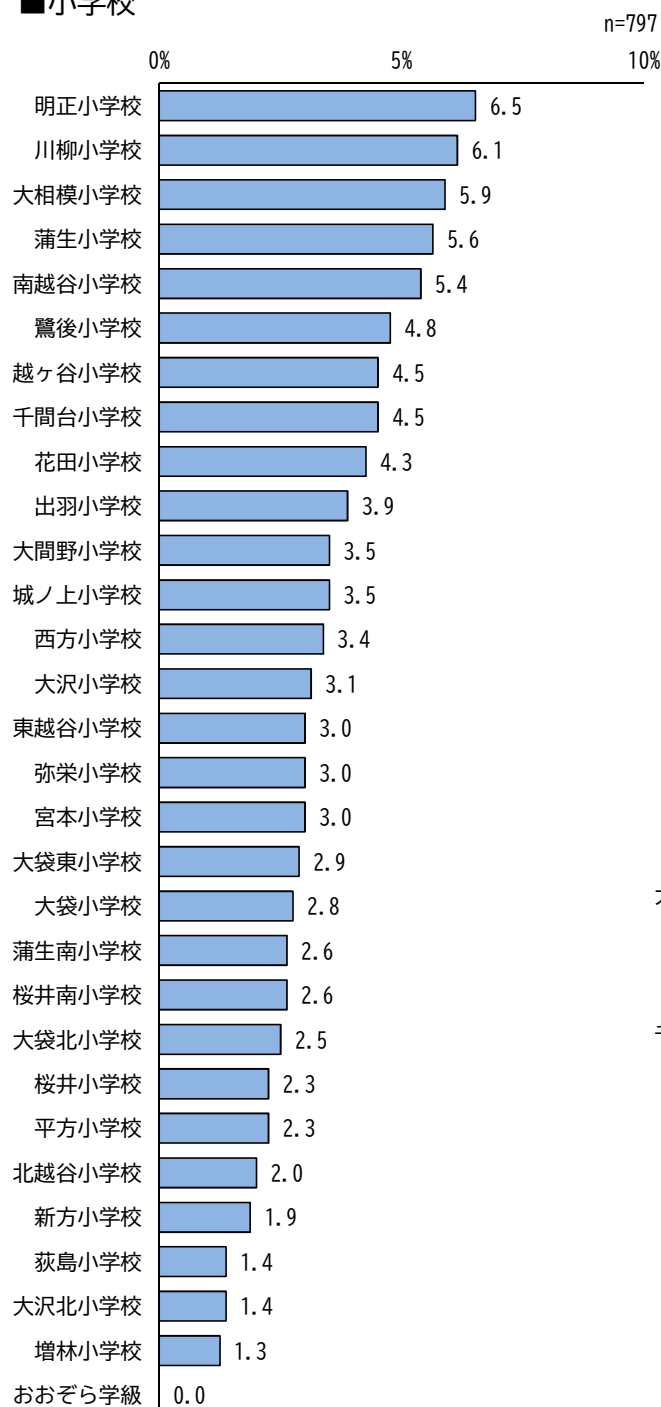
お子さんが通学する小学校については、「明正小学校」が6.5%で最も高く、次いで「川柳小学校」が6.1%、「大相模小学校」が5.9%、「蒲生小学校」が5.6%、「南越谷小学校」が5.4%、「鷺後小学校」が4.8%となっています。



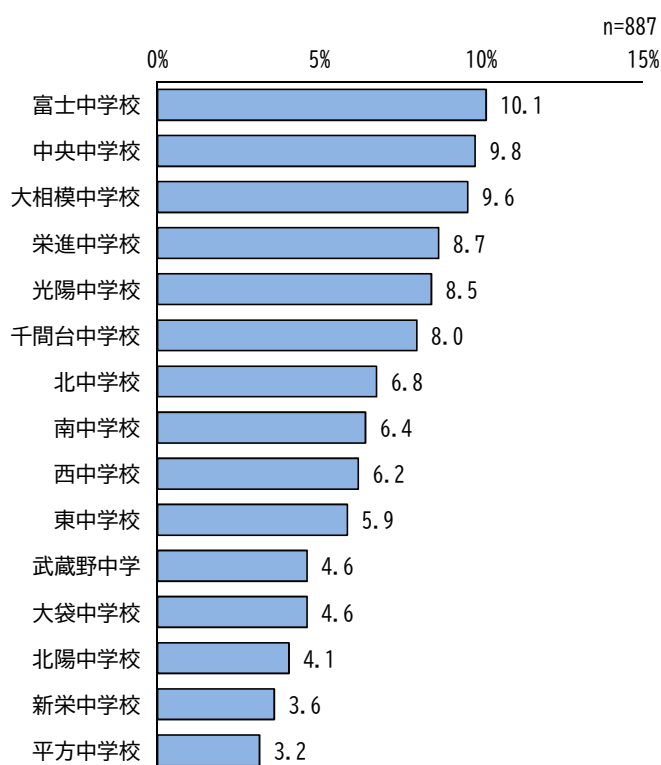
お子さんが通学する小学校については、「明正小学校」が 6.5%で最も高く、次いで「川柳小学校」が 6.1%、「大相模小学校」が 5.9%、「蒲生小学校」が 5.6%、「南越谷小学校」が 5.4%、「鷺後小学校」が 4.8%となっています。

中学校については、「富士中学校」が 5.3%で最も高く、次いで「中央中学校」が 5.1%、「大相模中学校」が 5.0%、「栄進中学校」が 4.5%、「光陽中学校」が 4.4%、「千間台中学校」が 4.2%となっています。

■小学校



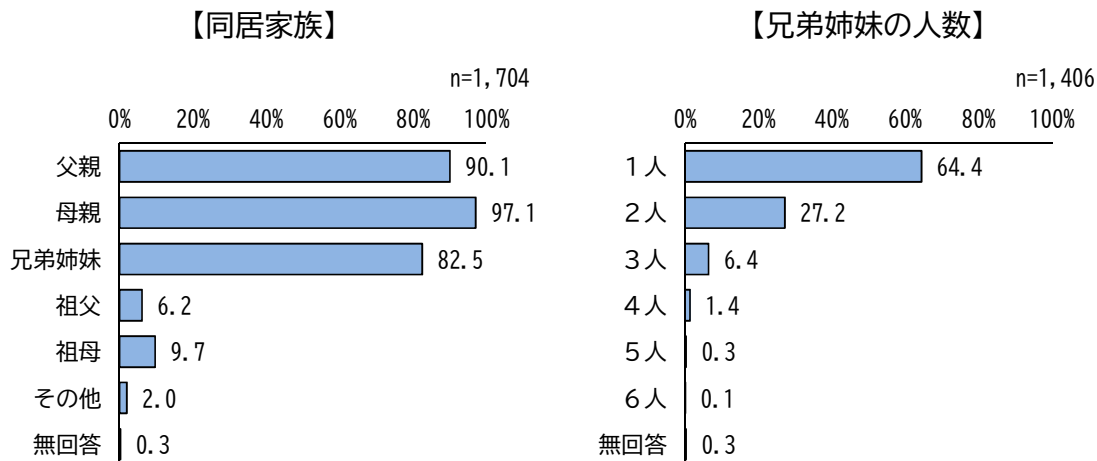
■中学校



問3 お子さんと同居しているご家族の方はどなたですか。兄弟姉妹については、人数も教えてください。（あてはまる番号すべてに○。人数はカッコの中に数字で回答してください。）

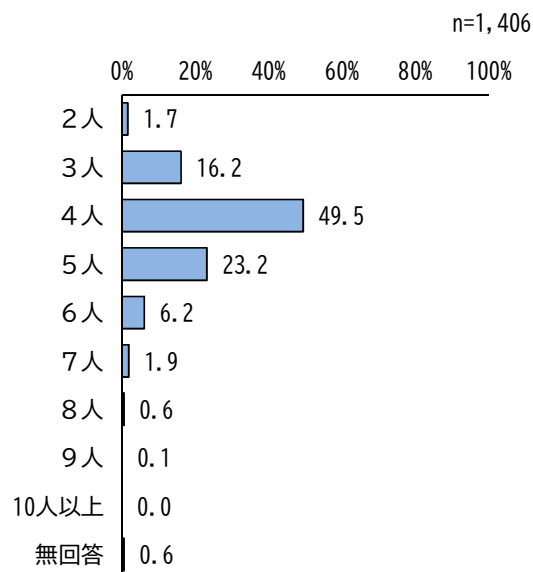
同居する家族は、「母親」が97.1%、「父親」が90.1%、「兄弟姉妹」が82.5%、「祖母」が9.7%、「祖父」が6.2%となっています。

兄弟姉妹の人数については、「1人」が64.4%で最も高く、次いで「2人」が27.2%、「3人」が6.4%、「4人」が1.4%となっています。



問4 あなたとお子さんを含め、問3でお答えになった家族全員の人数は何人ですか。〈単身赴任やひとり暮らしのお子さんなど、別居していても生計を一緒にする方はすべて含みます。〉（○はひとつだけ）

家族全員の人数は、「4人」が49.5%で最も高く、次いで「5人」が23.2%、「3人」が16.2%、「6人」が6.2%、「2人」が1.7%となっています。

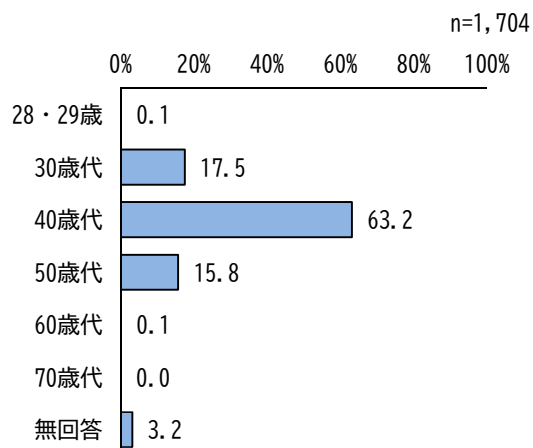


問5 お子さんのご両親の現在の年齢についてお答えください。（お母さん・お父さんそれぞれについて数字で回答、いない場合やわからない場合は「－」と記入してください。）

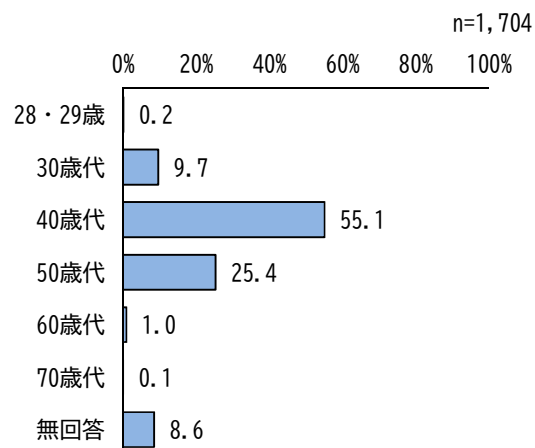
母親の年齢は、「40 歳代」が 63.2%で最も高く、次いで「30 歳代」が 17.5%、「50 歳代」が 15.8%となっています。

父親の年齢は、「40 歳代」が 55.1%で最も高く、次いで「50 歳代」が 25.4%、「30 歳代」が 9.7%となっています。

【母親の年齢】



【父親の年齢】



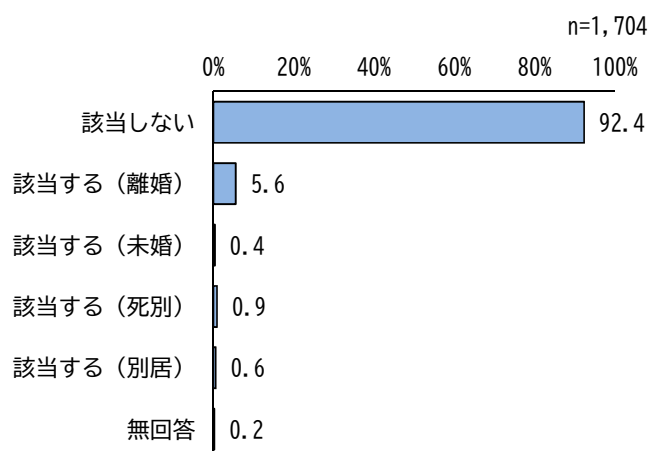
問6 あなたの世帯は、「ひとり親世帯※」に該当しますか。(○はひとつだけ)

※ 単身赴任など一時的な別居の場合は、ひとり親世帯には該当しません。また、法律上の婚姻をしていなくても、事実婚の状況であれば、ひとり親には該当しません。一方、法的な離婚が成立しなくても離婚を前提として別居している場合は、該当します。

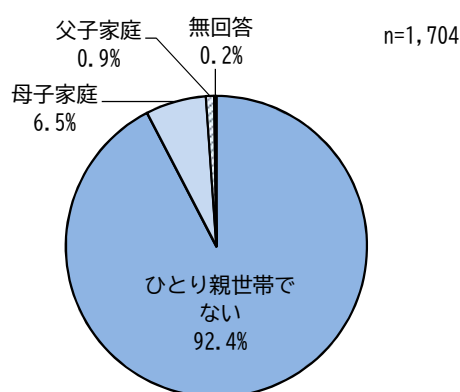
ひとり親への該当については、「該当しない」が92.4%で最も高く、次いで「該当する（離婚）」が5.6%、「該当する（未婚）」が0.4%、「該当する（死別）」が0.9%、「該当する（別居）」が0.6%となっています。

ひとり親の判定では、「ひとり親世帯でない」が92.4%で最も高く、次いで「母子家庭」が6.5%、「父子家庭」が0.9%となっています。

【ひとり親への該当】

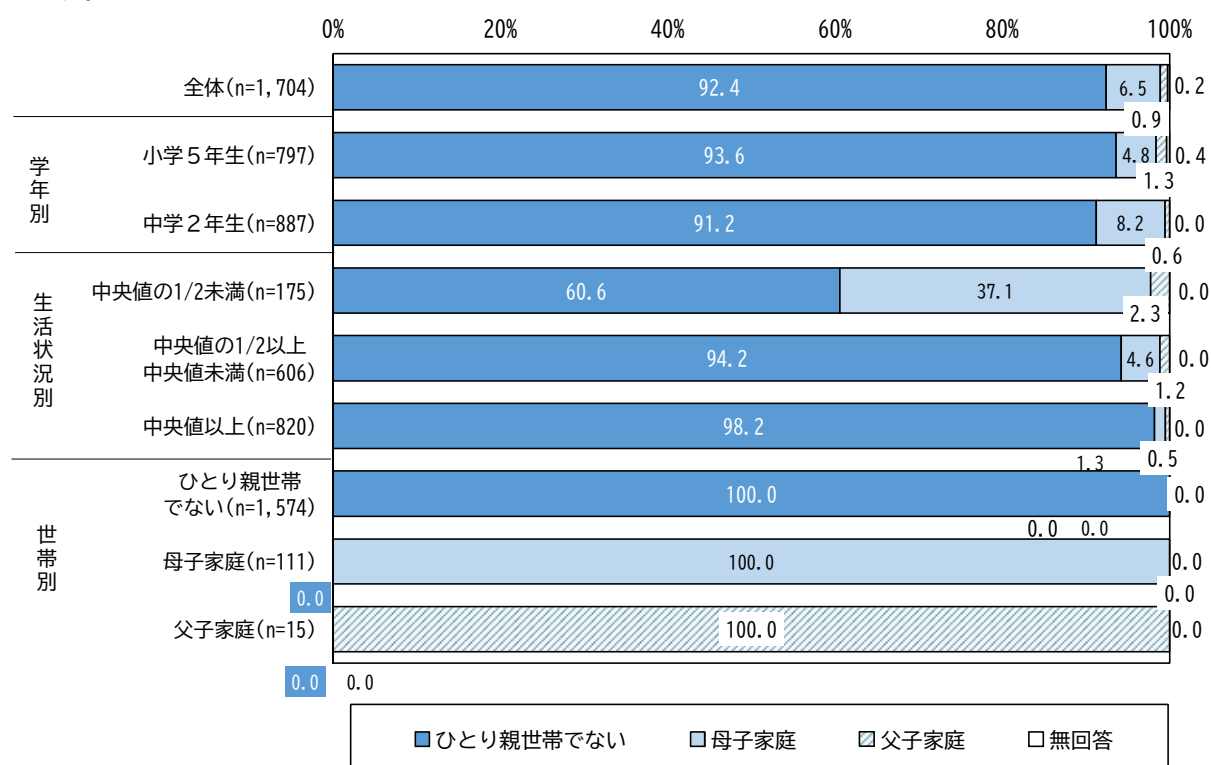


【ひとり親の判定】



【属性別】

「母子家庭」は、学年別では中学2年生、生活状況別では中央値の1/2未満で高くなっています。



【問6で「2. 該当する（離婚）」を選んだ方にうかがいます。】

問7 離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。（○はひとつだけ）

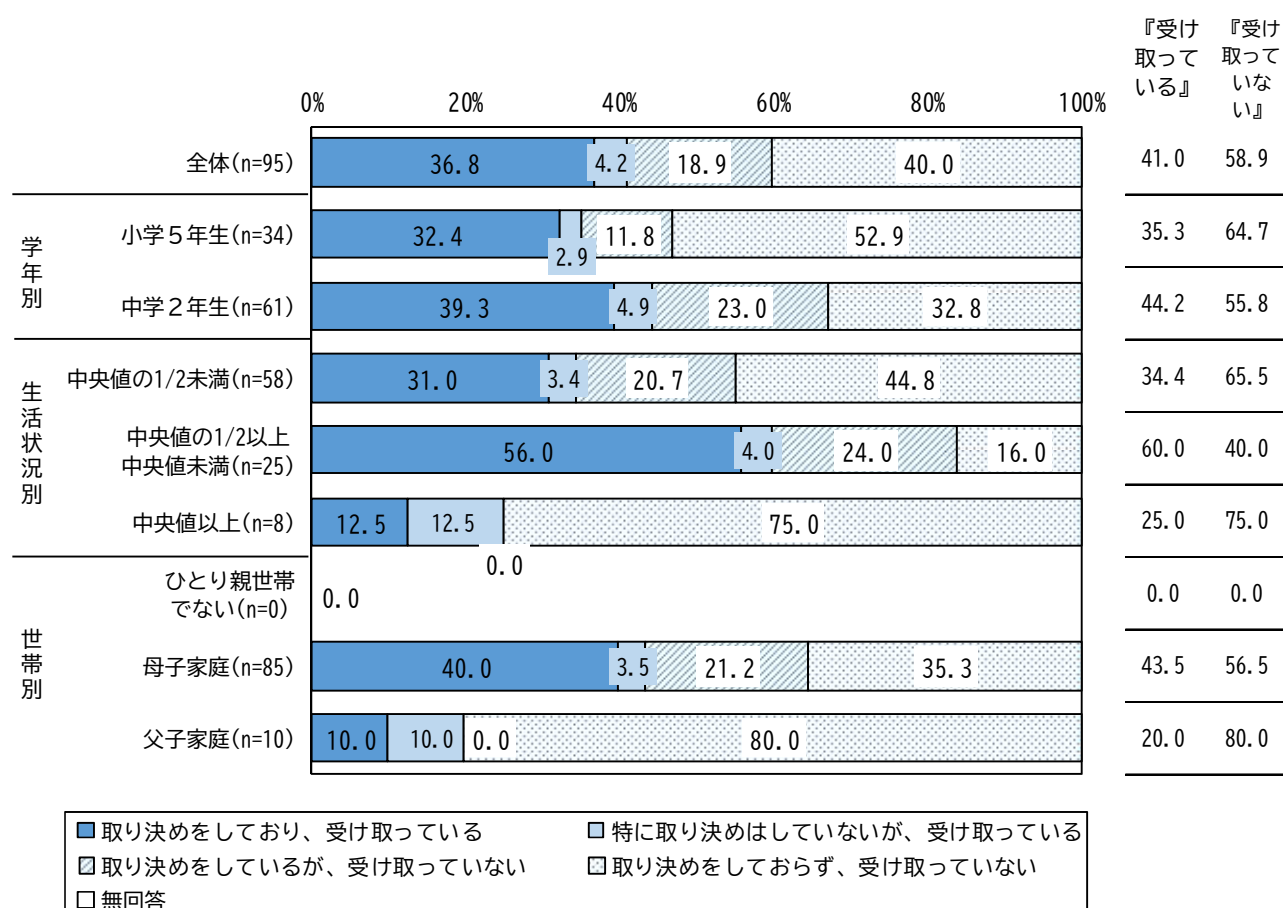
離婚相手との養育費の取り決めについては、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が40.0%で最も高く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が36.8%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が18.9%、「特に取り決めはしていないが、受け取っている」が4.2%となっています。

【属性別】

学年別では、「取り決めをしているが、受け取っていない」と「取り決めをしておらず、受け取っていない」を合わせた『受け取っていない』は、は中学2年生に比べ小学5年生で高くなっています。

生活状況別では、中央値の1/2未満と中央値以上で『受け取っていない』割合が高くなっています。

世帯別では、母子世帯に比べ父子世帯で『受け取っていない』割合が高くなっています。

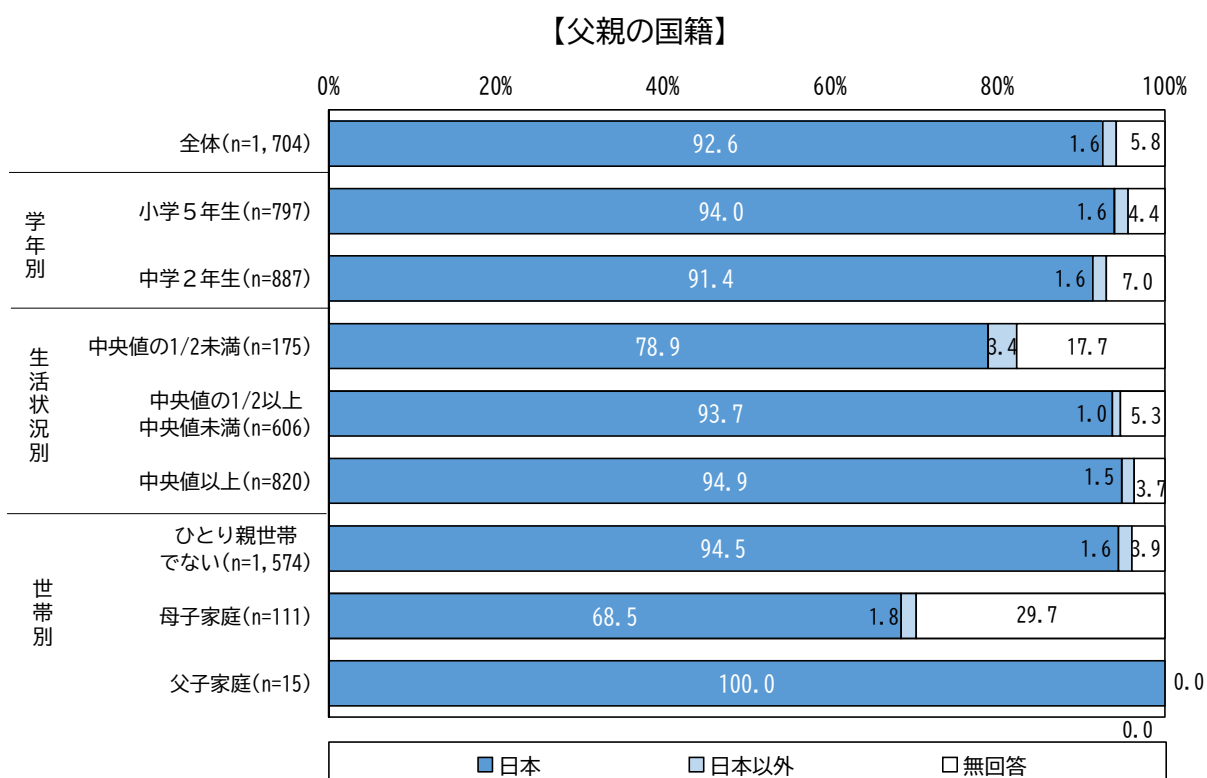
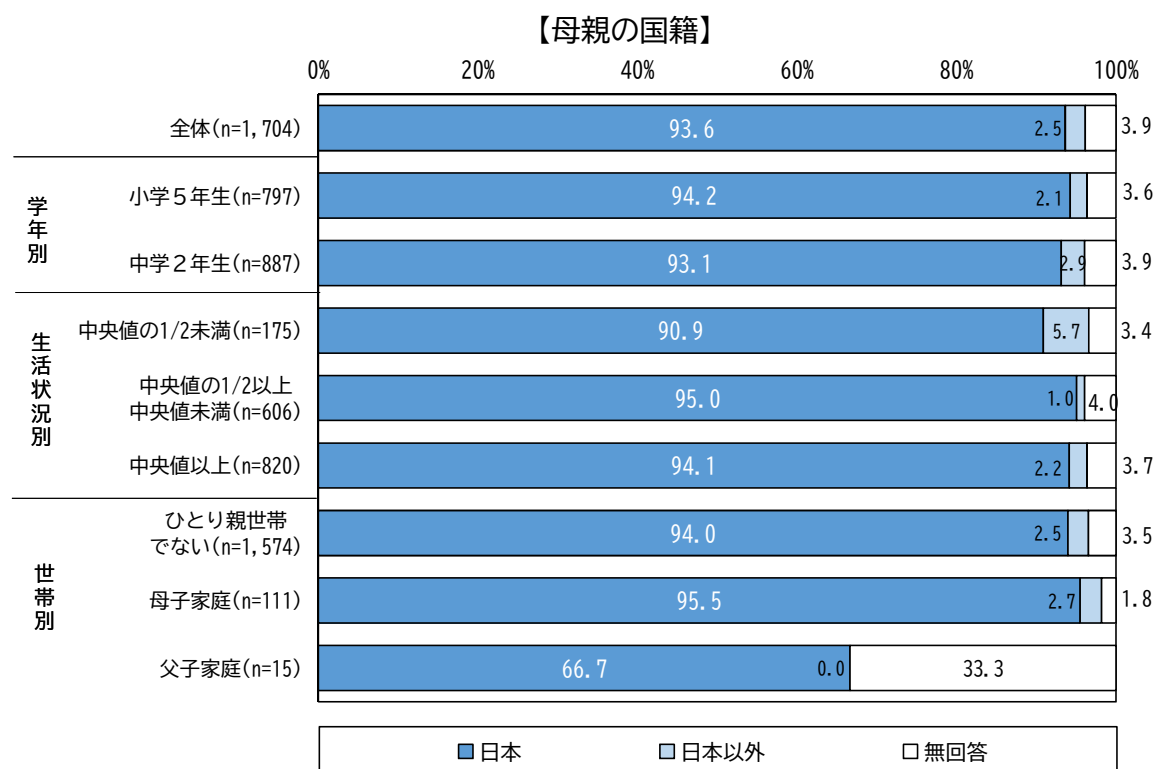


問8 お子さんのお母さん、お父さんの国籍にあてはまる番号を、それぞれ教えてください。
(①②それぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

母親の国籍は、母親・父親ともに「日本」が大半を占めています。

【属性別】

生活状況別では、中央値の1/2未満で他の属性に比べ、母親・父親ともに「日本以外」の割合がわずかに高くなっています。



問9 お子さんのお母さん、お父さんが最後に卒業・修了した学校をお答えください。(①②それぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

①母親の最終学歴

母親の最終学歴は、「大学」が 28.3%で最も高く、次いで「短期大学」が 20.8%、「専門学校（高校卒業後に通う）」が 20.4%、「高等学校（全日制）」が 19.8%、「中学校」が 3.3%、「高等学校（定時制または通信制）」が 2.6%となっています。

【属性別】

学年別では、「大学」は中学2年生に比べ小学5年生で高くなっています。

生活状況別では、**等価世帯収入**が高いほど「大学」、低いほど「高等学校（全日制）」の割合が高くなっています。

世帯別では、母子世帯で「高等学校（全日制）」の割合が高くなっています。

問9①母親の最終学歴

単位：%

項目		中学校	高等学校 (全日制)	高等学校 (定時制 または通 信制)	高等専修 学校・高 等専門学 校(中学 校卒業後 に通う)	短期大学	専門学校 (高校卒 業後に通 う)
全体(n=1,704)		3.3	19.8	2.6	1.5	20.8	20.4
学年別	小学5年生(n=797)	2.8	17.4	2.9	1.4	18.6	21.5
	中学2年生(n=887)	3.8	22.2	2.4	1.7	22.5	19.5
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	9.1	30.9	4.0	2.9	16.6	20.0
	中央値の1/2以上 中央値未満(n=606)	4.3	23.6	3.6	1.7	19.3	23.4
	中央値以上(n=820)	1.3	14.5	1.6	1.0	22.4	18.5
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	2.6	19.3	2.6	1.5	21.4	20.5
	母子家庭(n=111)	11.7	28.8	1.8	2.7	15.3	21.6
	父子家庭(n=15)	13.3	20.0	6.7	0.0	6.7	6.7

項目		大学	大学院	その他	わからな い	いない	無回答
全体(n=1,704)		28.3	1.4	0.3	0.2	0.1	1.2
学年別	小学5年生(n=797)	31.5	1.9	0.4	0.3	0.3	1.3
	中学2年生(n=887)	25.5	1.0	0.2	0.1	0.0	1.0
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	13.1	0.6	0.0	0.6	0.0	2.3
	中央値の1/2以上 中央値未満(n=606)	21.1	0.5	0.7	0.3	0.3	1.2
	中央値以上(n=820)	37.7	2.3	0.1	0.0	0.0	0.5
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	29.5	1.3	0.3	0.1	0.1	1.0
	母子家庭(n=111)	15.3	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	父子家庭(n=15)	13.3	0.0	0.0	13.3	6.7	13.3

②父親の最終学歴

父親の最終学歴は、「大学」が46.0%で最も高く、次いで「高等学校（全日制）」が18.4%、「専門学校（高校卒業後に通う）」が15.0%、「大学院」が5.1%、「中学校」が4.4%、「高等学校（定時制または通信制）」が2.5%となっています。

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「大学」の割合が高くなっています。

世帯別では、ひとり親ではない世帯と父子世帯では「大学」の割合が最も高くなっています。

問9②父親の最終学歴

単位：％

項目		中学校	高等学校 (全日制)	高等学校 (定時制 または通 信制)	高等専修 学校・高 等専門学 校(中学 校卒業後 に通う)	短期大学	専門学校 (高校卒 業後に通 う)
全体(n=1,704)		4.4	18.4	2.5	1.9	0.7	15.0
学年別	小学5年生(n=797)	3.4	18.3	1.9	2.1	0.8	15.2
	中学2年生(n=887)	5.3	18.5	3.0	1.8	0.7	15.1
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	10.9	20.0	2.9	2.3	0.6	17.1
	中央値の1/2以上	6.1	26.7	3.3	1.7	1.2	17.0
	中央値以上(n=820)	1.7	12.3	1.8	1.7	0.5	13.3
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	4.3	18.4	2.4	2.0	0.8	15.6
	母子家庭(n=111)	6.3	19.8	3.6	0.0	0.0	6.3
	父子家庭(n=15)	6.7	20.0	0.0	6.7	0.0	20.0

項目		大学	大学院	その他	わからな い	いない	無回答
全体(n=1,704)		46.0	5.1	0.3	0.6	0.9	4.1
学年別	小学5年生(n=797)	47.7	5.8	0.5	0.5	0.6	3.3
	中学2年生(n=887)	44.4	4.5	0.1	0.8	1.1	4.6
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	18.9	0.6	0.0	3.4	4.6	18.9
	中央値の1/2以上	36.8	1.5	0.5	0.5	0.8	4.0
	中央値未満(n=606)	58.4	9.0	0.1	0.1	0.1	0.9
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	48.2	5.5	0.3	0.4	0.4	1.8
	母子家庭(n=111)	17.1	0.0	0.0	4.5	8.1	34.2
	父子家庭(n=15)	46.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 10 お子さんのお母さん、お父さんの就労状況について、あてはまるものを回答してください。(①②それぞれについて、○はひとつだけ)

①母親の就労状況

母親の就労状況は、「パート・アルバイト」が 44.1%で最も高く、次いで「正社員・正規職員」が 23.9%、「働いていない（家事専業を含む）」が 18.1%、「契約社員・派遣社員・非正規職員」が 6.0%、「自営業・家業（自由業・フリーランスを含む）」が 6.0%となっています。

【属性別】

学年別では、「働いていない（家事専業を含む）」は中学 2 年生に比べ小学 5 年生で高くなっています。

生活状況別では、中央値の 1/2 以上中央値未満で「パート・アルバイト」の割合が高くなっています。

世帯別では、ひとり親ではない世帯で「パート・アルバイト」、母子世帯では「正社員・正規職員」の割合が高くなっています。

②父親の就労状況

父親の就労状況は、「正社員・正規職員」が 80.2%で最も高く、次いで「自営業・家業（自由業・フリーランスを含む）」が 10.3%となっています。

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「正社員・正規職員」、低いほど「自営業・家業（自由業・フリーランスを含む）」の割合が高くなっています。

世帯別では、父子世帯で「自営業・家業（自由業・フリーランスを含む）」や「働いていない（家事専業を含む）」割合が高い傾向にあります。

問10 ①母親の就労状況

単位：％

項目		正社員・ 正規職員	契約社 員・派遣 社員・非 正規職員	パート・ アルバイト	自営業・ 家業（自 由業・フ リーラン スを含 む）	働いてい ない（家 事専業を 含む）	わからな い	いない	無回答
全体(n=1,704)		23.9	6.0	44.1	6.0	18.1	0.4	0.3	1.2
学年別	小学5年生(n=797)	24.3	4.6	42.7	5.1	20.8	0.6	0.5	1.3
	中学2年生(n=887)	23.8	7.2	45.2	6.7	15.7	0.1	0.1	1.2
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	19.4	10.3	38.9	9.7	17.7	1.7	0.0	2.3
	中央値の1/2以上 中央値未満(n=606)	15.2	5.9	52.3	5.1	19.6	0.2	0.5	1.2
	中央値以上(n=820)	32.9	5.4	39.1	5.2	16.3	0.1	0.2	0.6
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	22.7	5.7	45.7	6.0	19.0	0.1	0.0	0.8
	母子家庭(n=111)	45.9	11.7	27.0	6.3	8.1	0.0	0.0	0.9
	父子家庭(n=15)	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0	26.7	33.3	26.7

問10 ②父親の就労状況

単位：％

項目		正社員・ 正規職員	契約社 員・派遣 社員・非 正規職員	パート・ アルバイト	自営業・ 家業（自 由業・フ リーラン スを含 む）	働いてい ない（家 事専業を 含む）	わからな い	いない	無回答
全体(n=1,704)		80.2	1.6	0.5	10.3	0.5	1.1	1.5	4.4
学年別	小学5年生(n=797)	82.6	2.0	0.4	9.3	0.3	0.9	1.3	3.4
	中学2年生(n=887)	78.4	1.2	0.6	10.9	0.7	1.2	1.7	5.3
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	32.6	2.3	3.4	21.7	2.3	6.3	8.0	23.4
	中央値の1/2以上 中央値未満(n=820)	83.7	2.0	0.0	9.2	0.3	0.5	1.2	3.1
	中央値以上(n=820)	89.0	1.0	0.1	8.2	0.0	0.1	0.4	1.2
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	84.8	1.6	0.5	10.5	0.3	0.3	0.6	1.5
	母子家庭(n=111)	19.8	0.9	0.0	8.1	1.8	11.7	13.5	44.1
	父子家庭(n=15)	66.7	6.7	0.0	13.3	13.3	0.0	0.0	0.0

【問 10 で「5 働いていない」を選んだ方にうかがいます。】

問 10－1 働いていない最も主な理由を教えてください。（①②それぞれについて、○はひとつだけ）

①母親の働いていない理由

母親の働いていない理由については、「子育てを優先したいため」が 50.6%で最も高く、次いで「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」が 19.5%、「自分の病気や障害のため」が 9.7%、「家族の介護・介助のため」が 4.5%、「通学しているため」が 1.3%、「その他の理由」が 12.0%となっています。

【属性別】

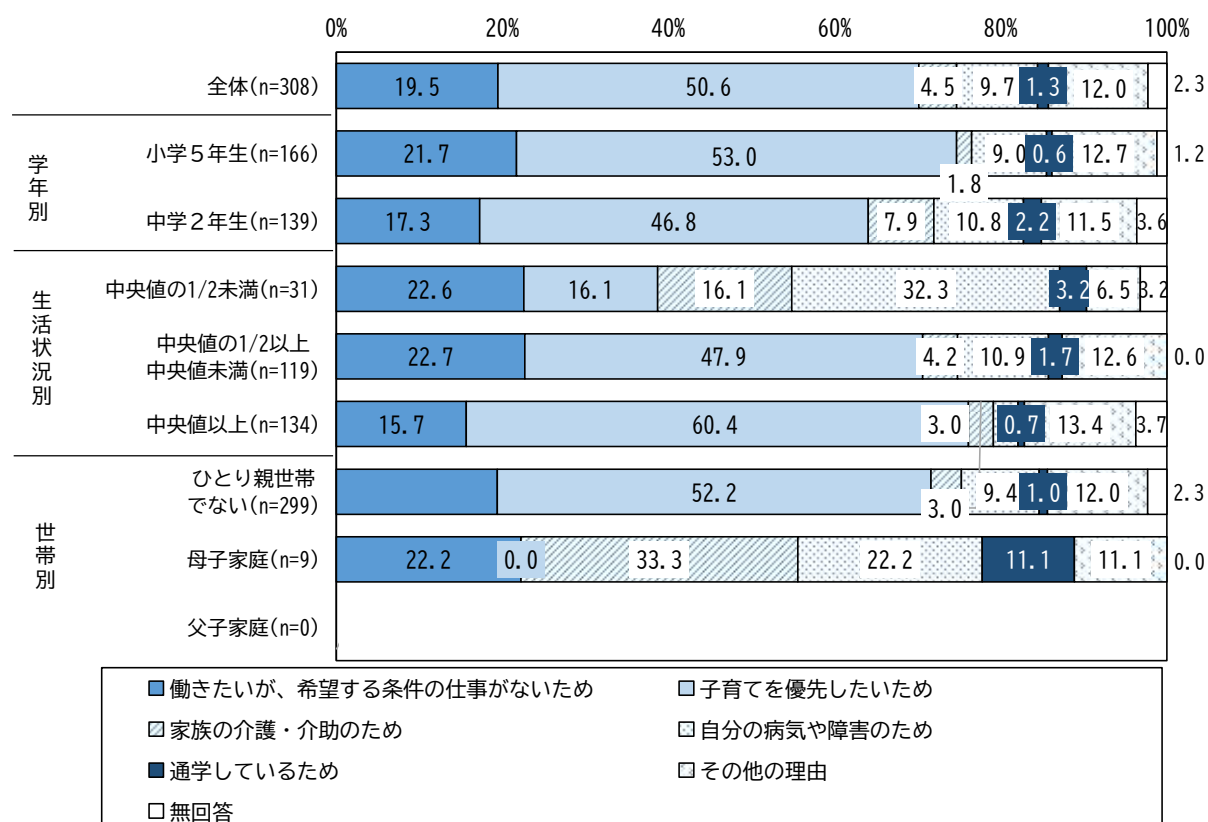
学年別では、「子育てを優先したいため」は小学5年生、「家族の介護・介助のため」は中学2年生で高くなっています。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「子育てを優先したいため」、低いほど「自分の病気や障害のため」の割合が高くなっています。

世帯別では、ひとり親ではない世帯で「子育てを優先したいため」、母子世帯では「家族の介護・介助のため」「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」「自分の病気や障害のため」が多くあげられています。

②父親の働いていない理由

父親の働いていない理由については、8件の回答があり、「その他の理由」が4件、「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」と「自分の病気や障害のため」がそれぞれ2件となっています。（グラフ省略）



2. 子育てや教育についてお聞きします

問 11 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（○はひとつだけ）

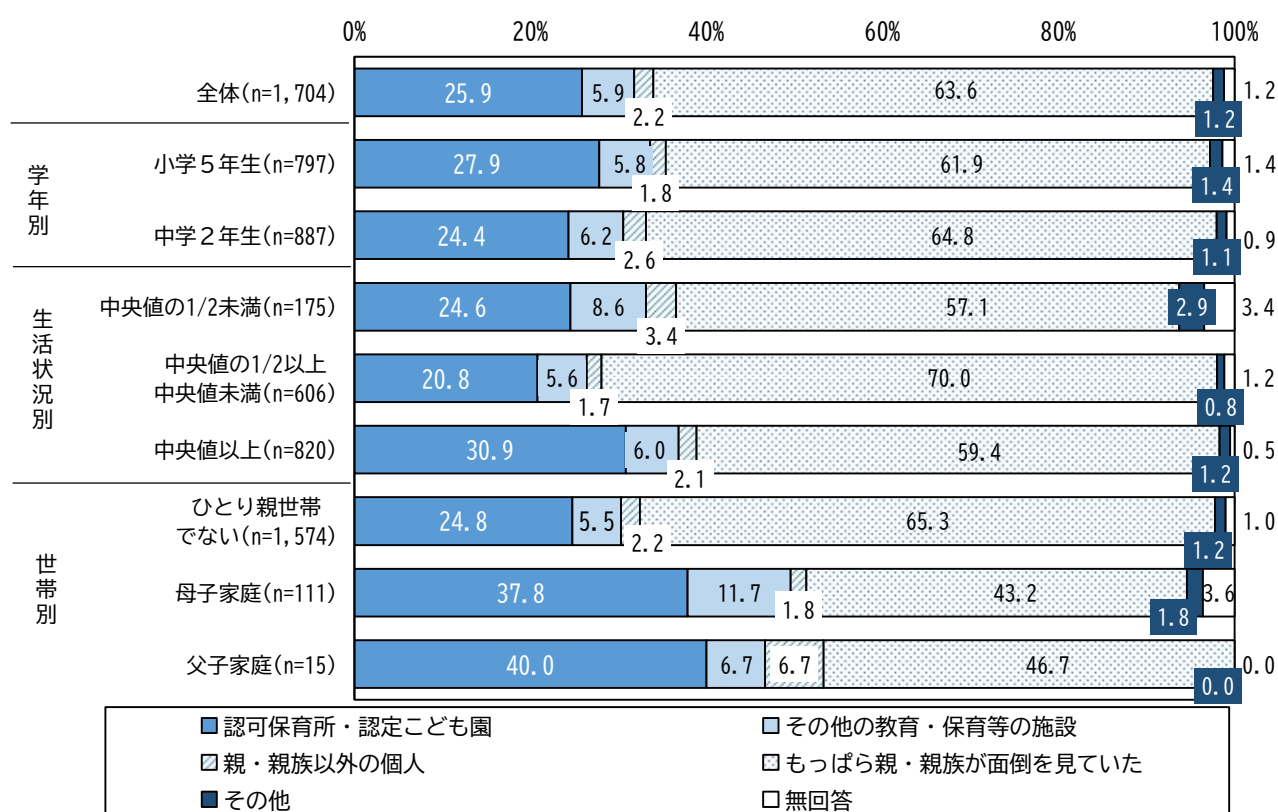
お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等については、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」が63.6%で最も高く、次いで「認可保育所・認定こども園」が25.9%、「その他の教育・保育等の施設」が5.9%となっています。

【属性別】

学年別では、「認可保育所・認定こども園」は小学5年生、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」は中学2年生でやや高くなっています。

生活状況別では、いずれも「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」が最も高くなっていますが、中央値以上で「認可保育所・認定こども園」が30.9%と他の層を上回ります。

世帯別では、いずれも「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」が最も高くなっていますが、母子世帯や父子世帯では「認可保育所・認定こども園」の割合も高くなっています。



問 12 お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（○はひとつだけ）

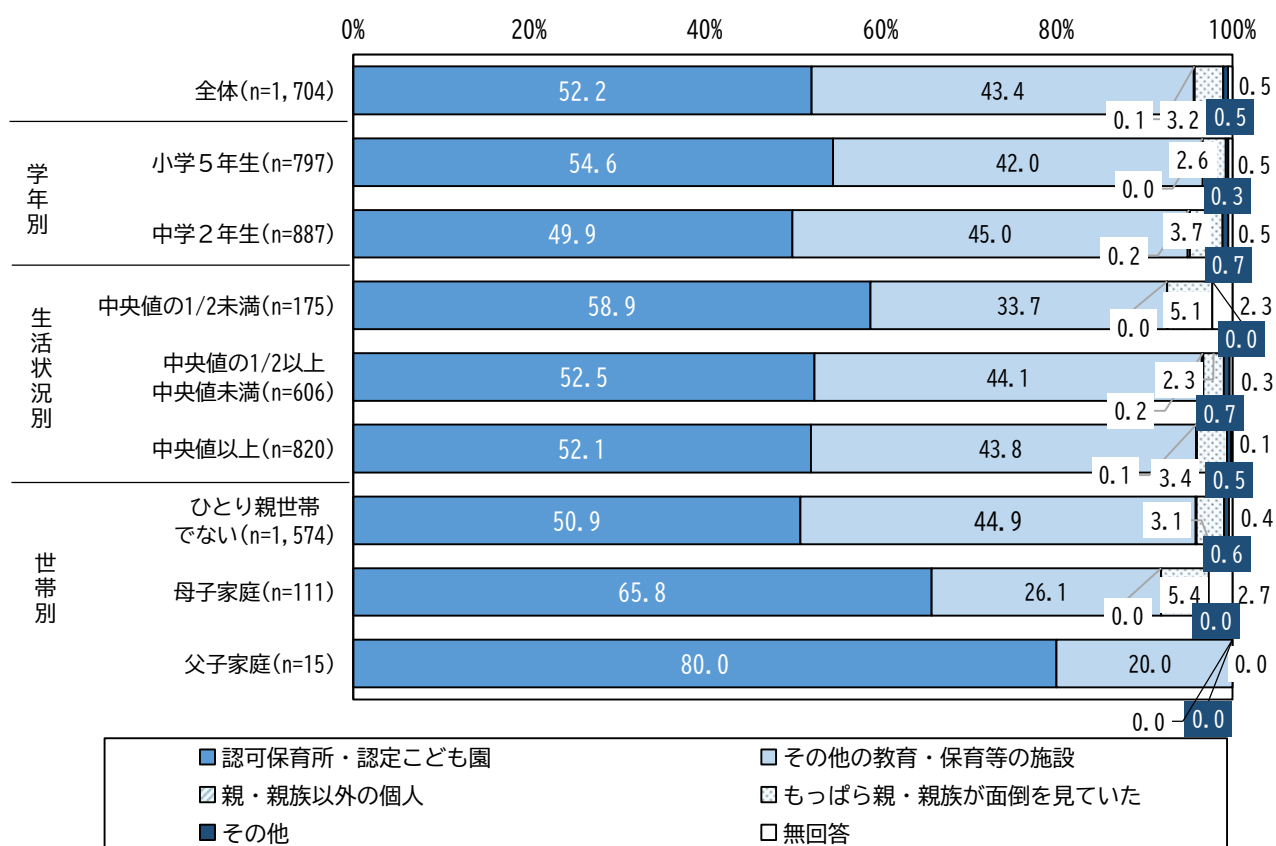
お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等については、「認可保育所・認定こども園」が52.2%で最も高く、次いで「その他の教育・保育等の施設」が43.4%、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」が3.2%となっています。

【属性別】

学年別では、「認可保育所・認定こども園」は中学2年生に比べ小学5年生で高くなっています。

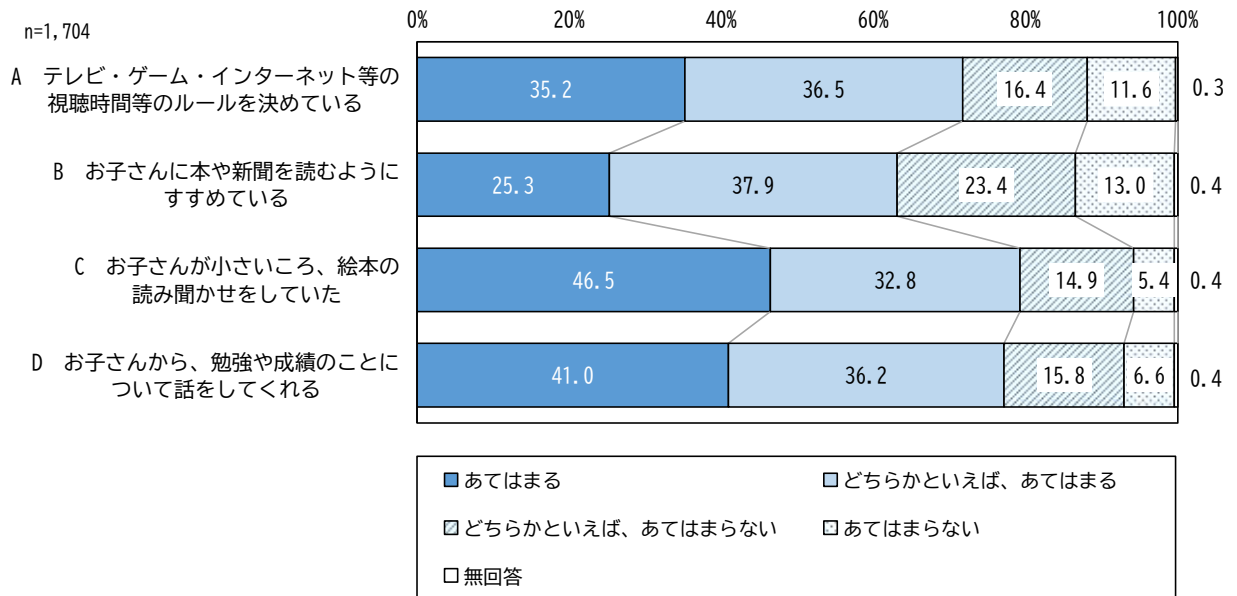
生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「その他の教育・保育等の施設」、低いほど「認可保育所・認定こども園」の割合が高い傾向にあります。

世帯別では、いずれも「認可保育所・認定こども園」が最も高くなっていますが、母子世帯で6割、父子世帯では8割を超えています。



問 13 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。（A～Dそれぞれについて、○はひとつだけ）

保護者のお子さんとの関わり方については、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合は、〈A テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている〉が 71.7%、〈B お子さんに本や新聞を読むようにすすめている〉が 63.2%、〈C お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた〉が 79.3%、〈D お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる〉が 77.2%となっています。



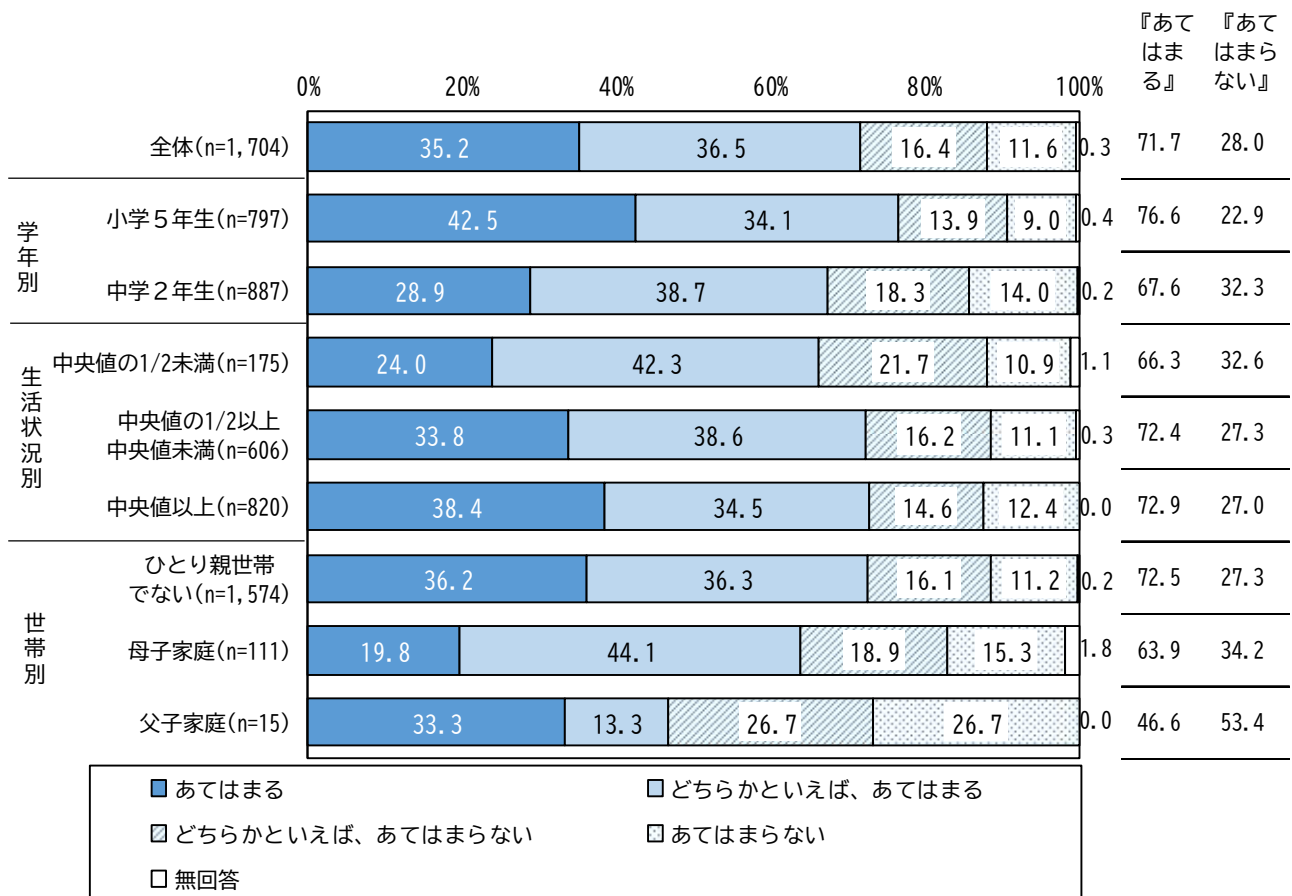
①テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

【属性別】

学年別では、中学2年生に比べ小学5年生で『あてはまる』割合が高くなっています。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど『あてはまる』、低いほど『あてはまらない』割合が高い傾向にあります。

世帯別では、母子世帯や父子世帯で『あてはまらない』割合が高くなっています。



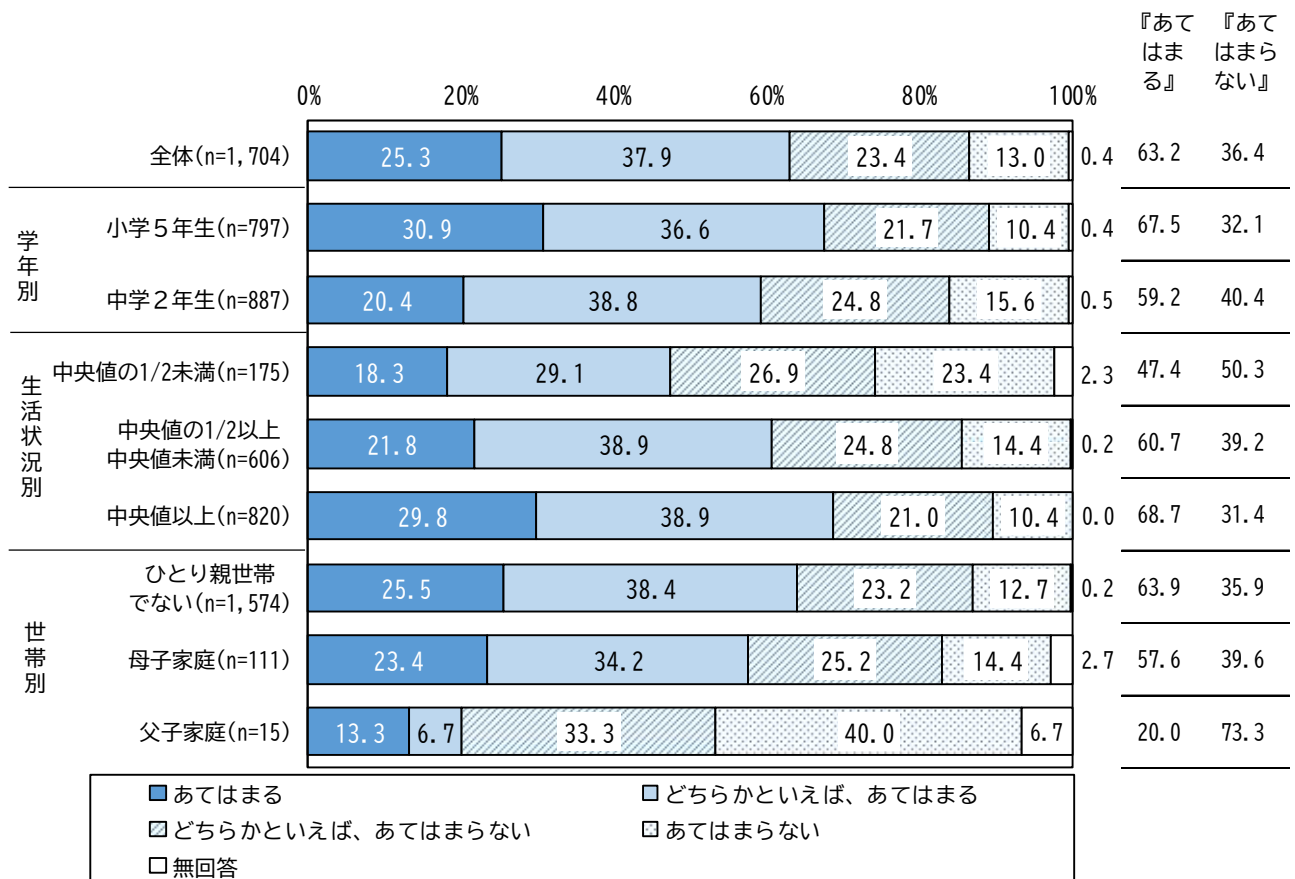
②お子さんに本や新聞を読むようにすすめている

【属性別】

学年別では、『あてはまる』割合は中学2年生に比べ小学5年生で高くなっています。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど『あてはまる』、低いほど『あてはまらない』割合が高い傾向にあります。

世帯別では、父子世帯で『あてはまらない』割合が7割を超えています。



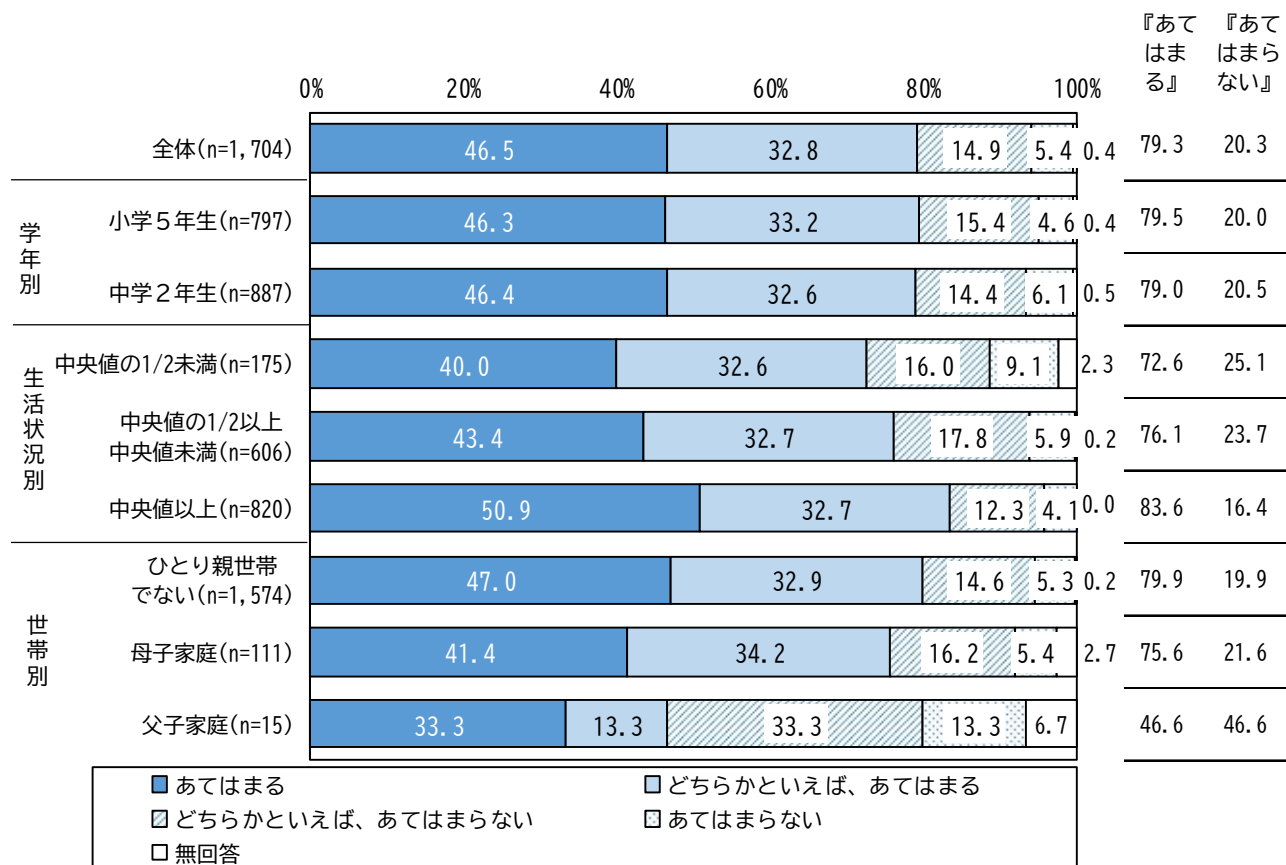
③お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど『あてはまる』割合が高くなっています。

世帯別では、父子世帯で『あてはまらない』割合が高くなっています。



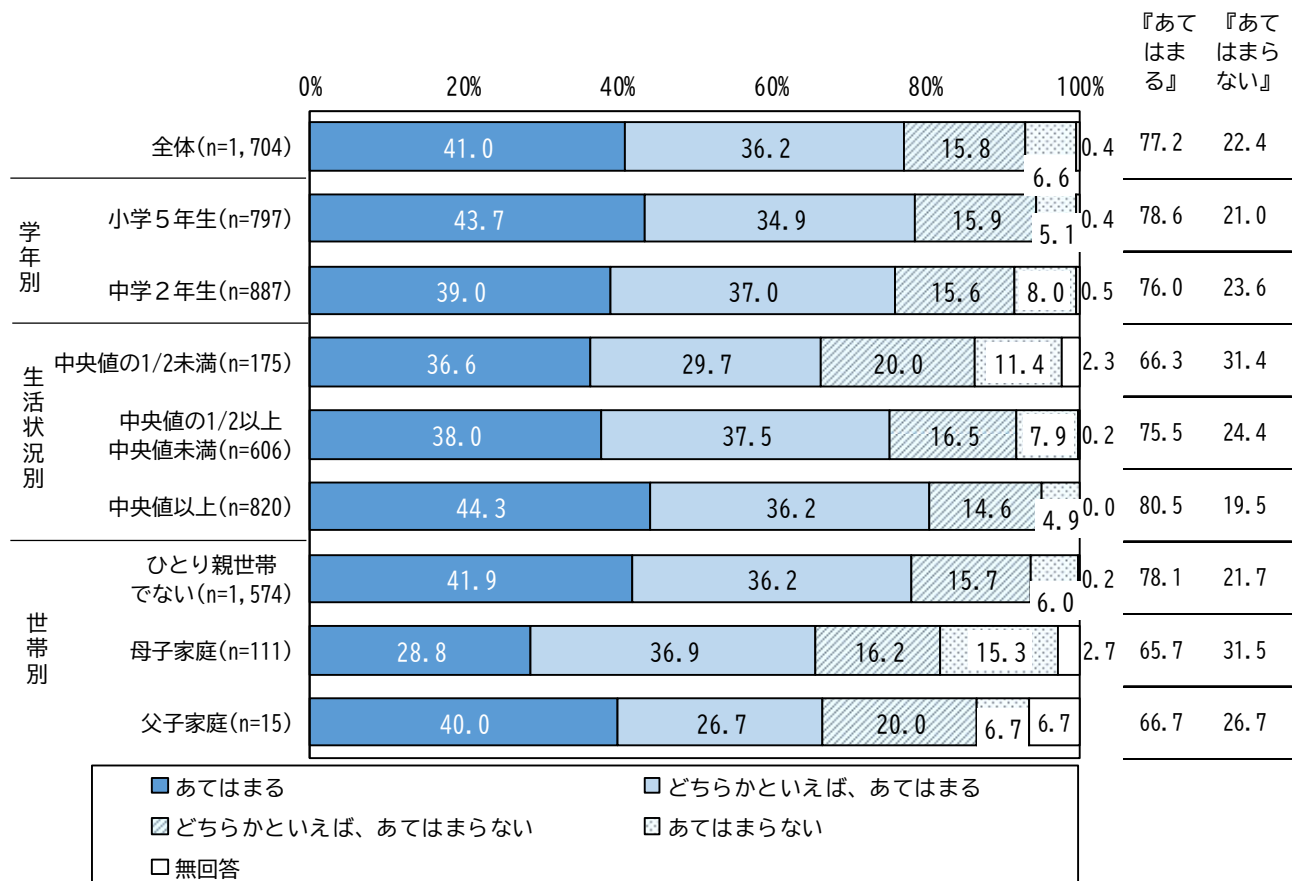
④お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

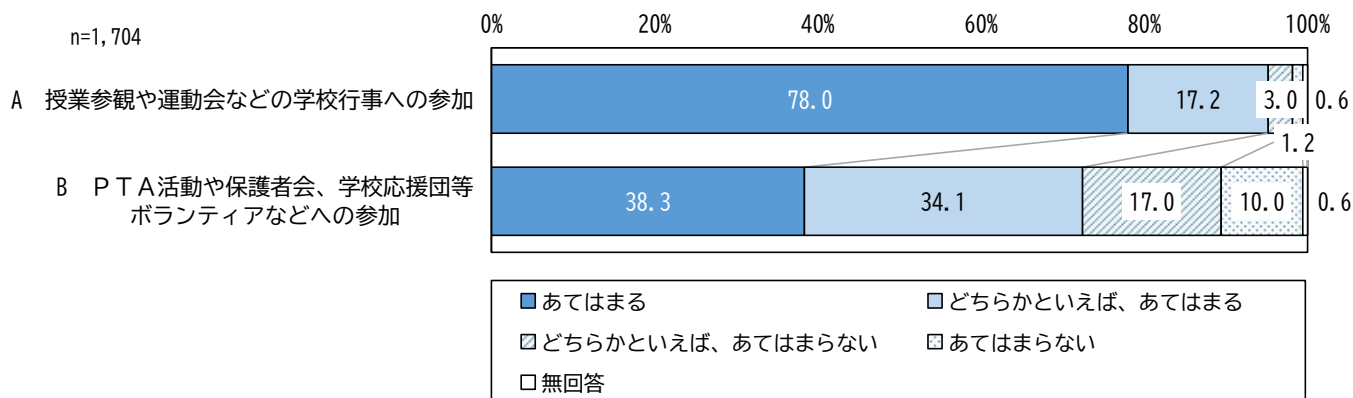
生活状況別では、等価世帯収入が高いほど『あてはまる』、低いほど『あてはまらない』割合が高くなっています。

世帯別では、母子世帯で『あてはまらない』割合が他の層を上回ります。



問 14 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(A、Bそれぞれについて、○はひとつだけ)

保護者の学校との関わりについては、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合は、〈A 授業参観や運動会などの学校行事への参加〉が 95.2%、〈B P T A活動や保護者会、学校応援団等ボランティアなどへの参加〉が 72.4%となっています。



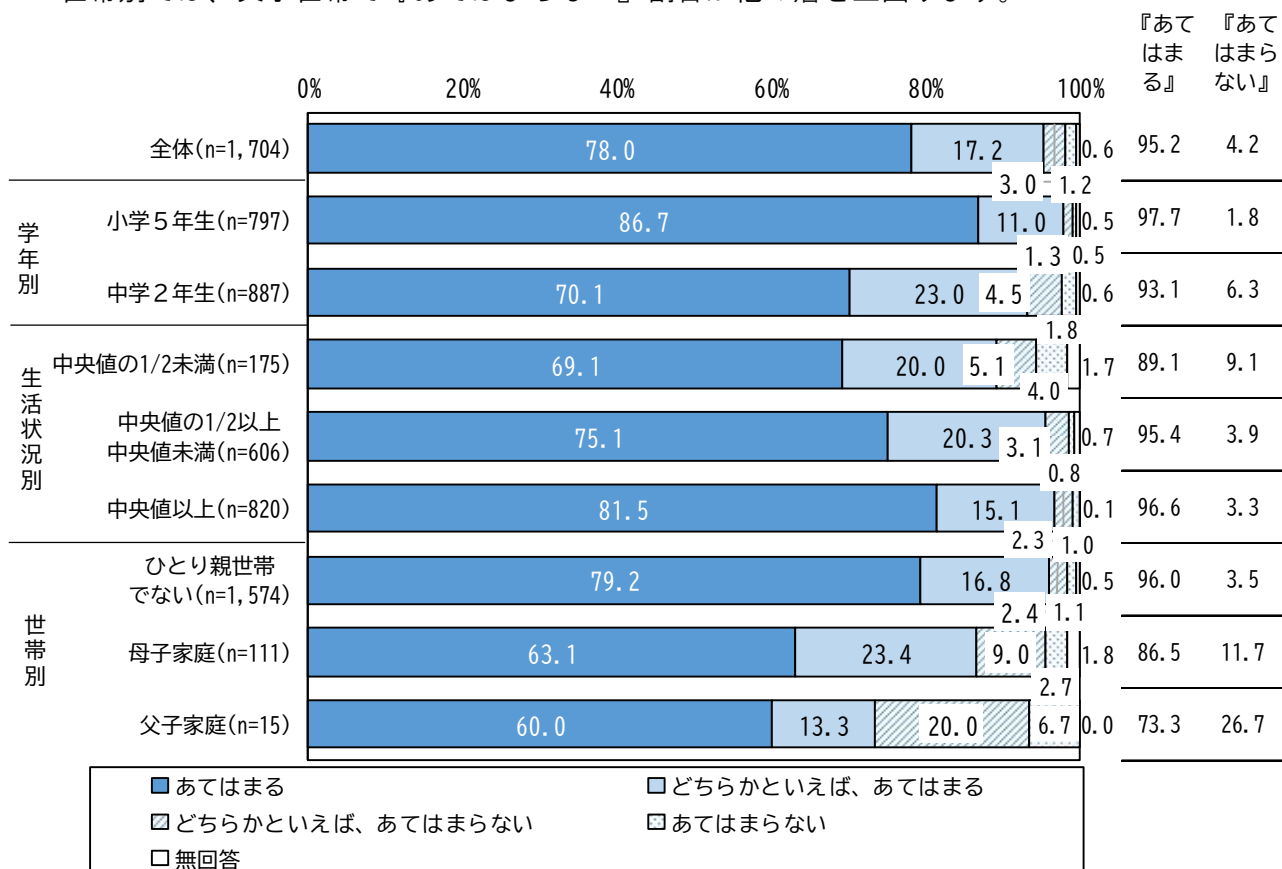
①授業参観や運動会などの学校行事への参加

【属性別】

学年別では、「あてはまる」は小学5年生が中学2年生を大きく上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど『あてはまる』割合が高くなっています。

世帯別では、父子世帯で『あてはまらない』割合が他の層を上回ります。



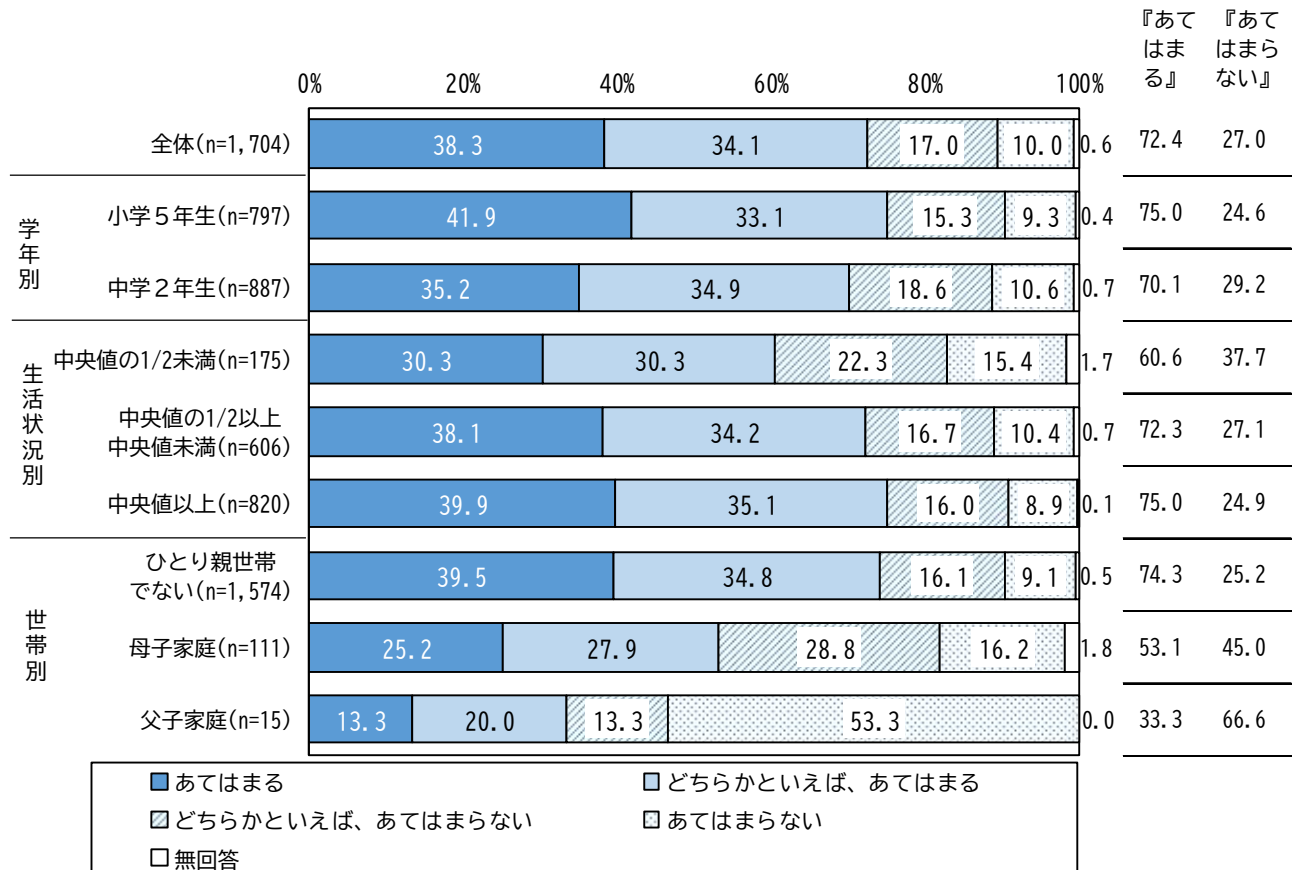
②PTA活動や保護者会、学校応援団等ボランティアなどへの参加

【属性別】

学年別では、『あてはまる』は小学5年生が中学2年生をやや上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど『あてはまる』割合が高くなっています。

世帯別では、父子世帯で『あてはまらない』割合が他の層を上回ります。



問 15 お子さんの、学校での成績はいかがですか。(○はひとつだけ)

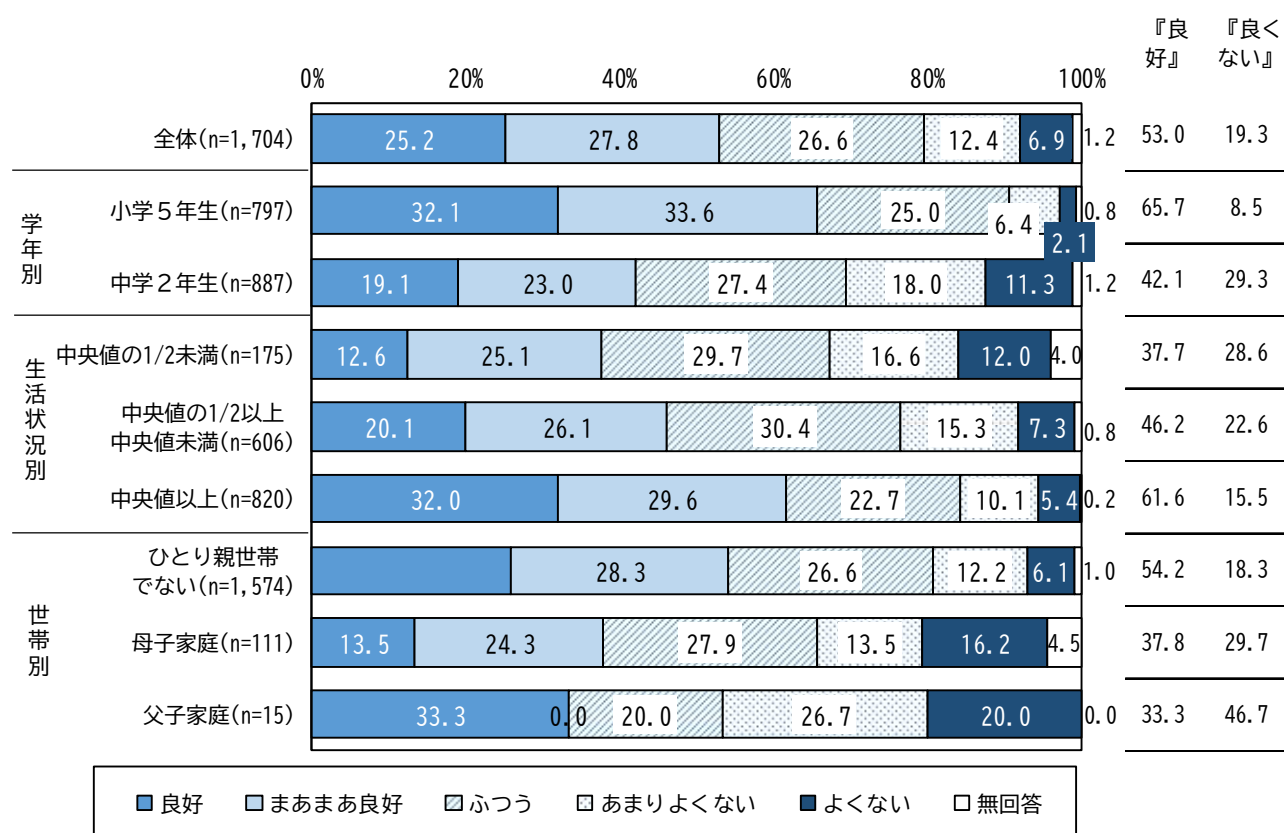
お子さんの学校での成績については、「まあまあ良好」が 27.8%で最も高く、次いで「ふつう」が 26.6%、「良好」が 25.2%、「あまりよくない」が 12.4%、「よくない」が 6.9%となっています。

【属性別】

学年別では、『良好』は小学5年生が中学2年生を大きく上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど『良好』、低いほど『良くない』割合が高くなっています。

世帯別では、『良くない』は母子世帯で約3割、父子世帯で4割を超えています。



問 16 宛名のお子さんは将来どの段階まで進学すると思いますか。あなたの希望と、現実的に見た場合、それぞれについてお答えください。(①②それぞれについて、○はひとつだけ)

①こどもの将来の進学＜希望＞

お子さんが将来どの段階まで進学するかについての保護者の希望は、「大学まで」が 71.1%で最も高く、次いで「専門学校、5年生の高等専門学校（高専）、短大等まで」が 12.7%、「高校まで」が 6.0%、「大学院まで」が 3.8%となっています。また、「まだわからない」は 5.2%となっています。

【属性別】

学年別では、「大学」は小学5年生が中学2年生をやや上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「大学まで」、低いほど「高校まで」の割合が高くなっています。

世帯別では、いずれも「大学」が最も高いものの、その割合は母子世帯で 49.5%、父子世帯 53.3%と低くなっています。母子世帯・父子世帯では「専門学校、5年生の高等専門学校（高専）、短大等まで」や「高校まで」の割合が高い傾向にあります。

②こどもの将来の進学＜現実＞

現実的に見た場合は、「大学まで」が 52.1%で最も高く、次いで「まだわからない」が 16.5%、「専門学校、5年生の高等専門学校（高専）、短大等まで」が 15.6%、「高校まで」が 10.7%、「大学院まで」が 2.1%となっています。

【属性別】

学年別では、いずれも「大学」が最も高くなっていますが、中学2年生では「高校まで」が小学5年生を上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「大学まで」、低いほど「高校まで」や「まだわからない」の割合が高くなっています。

世帯別では、母子世帯では「まだわからない」が最も高く、「大学」は 21.6%と他の層を大きく下回ります。

問16 お子さんの将来の進学 ①希望

単位：％

項目		中学校まで	高校まで	専門学校、5年生の高等専門学校（高専）、短大等まで	大学まで	大学院まで	その他	まだわからない	無回答
全体(n=1,704)		0.2	6.0	12.7	71.1	3.8	0.7	5.2	0.4
学年別	小学5年生(n=797)	0.1	4.1	12.0	72.5	3.5	1.3	5.8	0.6
	中学2年生(n=887)	0.2	7.8	13.3	69.7	4.1	0.2	4.5	0.2
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	1.1	15.4	19.4	49.1	2.9	1.7	9.1	1.1
	中央値の1/2以上								
	中央値未満(n=606)	0.2	7.8	16.5	66.2	2.0	0.8	6.4	0.2
	中央値以上(n=820)	0.0	2.7	8.0	80.0	5.2	0.5	3.3	0.2
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	0.1	5.5	11.6	72.7	3.9	0.7	5.1	0.3
	母子家庭(n=111)	0.0	12.6	25.2	49.5	2.7	0.9	7.2	1.8
	父子家庭(n=15)	6.7	13.3	26.7	53.3	0.0	0.0	0.0	0.0

問16 お子さんの将来の進学 ②現実

項目		中学校まで	高校まで	専門学校、5年生の高等専門学校（高専）、短大等まで	大学まで	大学院まで	その他	まだわからない	無回答
全体(n=1,704)		1.1	10.7	15.6	52.1	2.1	0.6	16.5	1.4
学年別	小学5年生(n=797)	0.5	8.4	15.9	52.7	1.8	0.8	18.4	1.5
	中学2年生(n=887)	1.5	13.0	15.3	51.4	2.4	0.5	14.8	1.2
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	2.9	27.4	17.1	21.7	0.6	0.0	24.6	5.7
	中央値の1/2以上								
	中央値未満(n=606)	1.2	13.4	20.5	41.3	0.8	0.8	21.0	1.2
	中央値以上(n=820)	0.6	5.4	11.7	66.6	3.3	0.6	11.2	0.6
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	0.9	9.8	15.1	54.4	2.1	0.6	15.8	1.3
	母子家庭(n=111)	2.7	21.6	22.5	21.6	1.8	0.9	25.2	3.6
	父子家庭(n=15)	6.7	26.7	6.7	33.3	0.0	0.0	26.7	0.0

【問 16 で「希望」と「現実」が異なる回答をした方にうかがいます。】

問 16-1 希望と現実が異なると考えるのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

希望と現実が異なると考えた理由については、「お子さんの学力から考えて」が 42.0%で最も高く、次いで「家庭の経済的な状況から考えて」が 28.6%、「お子さんがそう希望しているから」が 17.1%、「一般的な進路だと思うから」が 8.6%となっています。

【属性別】

学年別では、小学5年生では「家庭の経済的な状況から考えて」、中学2年生では「お子さんの学力から考えて」が最も高くなっています。

生活状況別では、中央値の 1/2 未満では「家庭の経済的な状況から考えて」、他の層では「お子さんの学力から考えて」が最も高くなっています。

世帯別では、母子世帯や父子世帯では「家庭の経済的な状況から考えて」が半数近くを占めています。

問16-1 希望と現実が異なると考える理由

単位：％

項目		お子さんの 学力から 考えて	家庭の経 済的な状 況から考 えて	お子さん がそう希 望してい るから	一般的 な進路だ と思うか ら	その他	特に理由 はない	無回答
全体(n=560)		42.0	28.6	17.1	8.6	15.4	10.7	0.4
学年別	小学5年生(n=266)	28.9	30.8	18.0	10.9	16.2	14.7	0.4
	中学2年生(n=290)	53.8	26.2	15.9	6.6	14.8	7.2	0.3
生活状況別	中央値の1/2未満(n=83)	31.3	51.8	15.7	7.2	12.0	7.2	1.2
	中央値の1/2以上中央値未満 (n=237)	47.3	32.5	15.2	8.4	14.3	9.7	0.4
	中央値以上(n=205)	41.0	14.6	20.0	9.3	17.1	13.2	0.0
世帯別	ひとり親世帯でない(n=500)	42.6	26.4	17.8	9.0	15.4	10.8	0.2
	母子家庭(n=51)	39.2	47.1	13.7	3.9	13.7	7.8	0.0
	父子家庭(n=8)	25.0	50.0	0.0	12.5	12.5	25.0	12.5

3. 現在の暮らしについてお聞きます

問 17 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(○はひとつだけ)

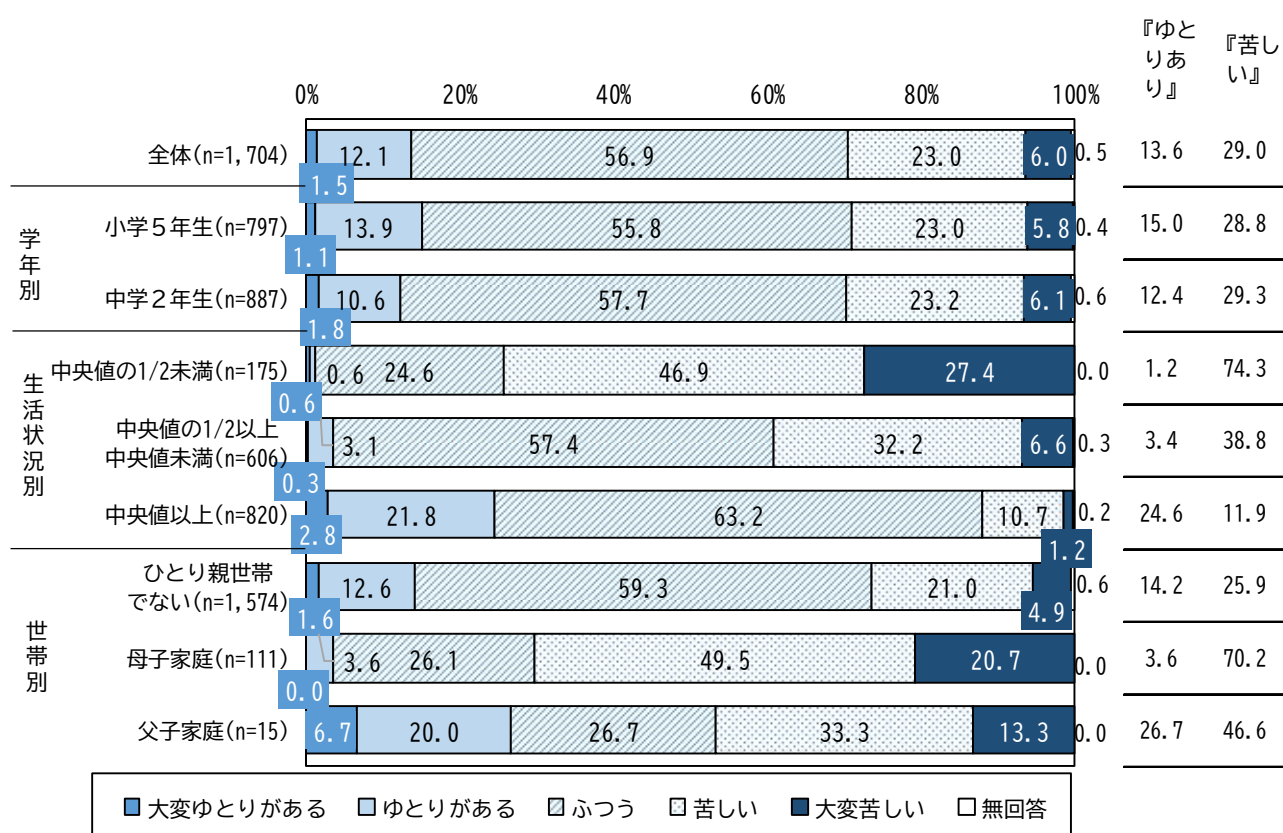
現在の暮らしの状況については、「ふつう」が 56.9%で最も高く、「大変ゆとりがある」と「ゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』は 13.6%、「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた『苦しい』は 29.0%となっています。

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、『苦しい』は中央値の 1/2 未満で 7 割を超えています。

世帯別では、『苦しい』は母子世帯で 7 割、父子世帯でも 4 割を超えています。



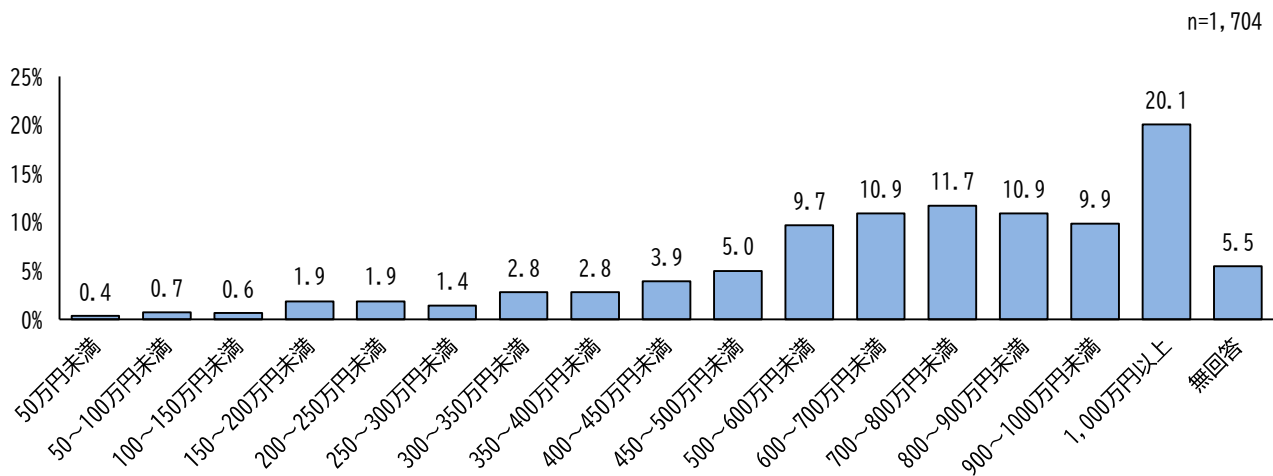
問 18 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(○はひとつだけ)

※令和5（2023）年の年間収入についてお答えください。

※収入には、同居し、生計を同一にしている家族全員の以下の収入が含まれます。

- ・勤め先収入（定期収入等）
- ・事業収入（原材料費、人件費、営業上の諸経費等を除く）、内職収入（材料費等を除く）
- ・公的年金・おんきゅう 恩給、その他の^{しゃかいほしょうきゅうふきん} 社会保障給付金（生活保護、児童手当、児童扶養^{ふよう}手当等）
- ・農林漁業収入（農機具等の材料費、営業上の諸経費等を除く）
- ・資産収入（預貯金利子、家賃収入等。家・土地などの資産売却代金や生命保険・損害保険からの受取金等は除く。）
- ・その他の収入（仕送り、養育費、個人年金、各種祝い金等）

世帯全体のおおよその年間収入については、「1,000 万円以上」が 20.1%で最も高く、次いで「700～800 万円未満」が 11.7%、「600～700 万円未満」が 10.9%、「800～900 万円未満」が 10.9%、「900～1000 万円未満」が 9.9%、「500～600 万円未満」が 9.7%となっています。



【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、『300 万円未満』は中央値の 1/2 未満で 6 割を超えています。

世帯別では、『300 万円未満』は母子世帯で 5 割、父子世帯でも 2 割を超えています。

問18 世帯全体のおおよその年間収入

単位：％

項目		50万円未満	50～100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200～250万円未満	250～300万円未満	300～350万円未満	350～400万円未満	400～450万円未満
全体(n=1,704)		0.4	0.7	0.6	1.9	1.9	1.4	2.8	2.8	3.9
学年別	小学5年生(n=797)	0.3	0.6	0.4	1.8	1.9	1.5	2.6	2.3	4.5
	中学2年生(n=887)	0.5	0.7	0.9	2.0	1.9	1.4	2.8	3.4	3.5
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	3.4	6.9	6.3	18.3	17.1	13.1	20.6	9.1	3.4
	中央値の1/2以上中央値未満(n=606)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	5.3	10.1
	中央値以上(n=820)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中央値以上(n=820)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	0.1	0.2	0.4	1.0	1.0	0.8	2.4	2.7	3.9
	母子家庭(n=111)	2.7	8.1	4.5	14.4	14.4	9.0	9.0	4.5	4.5
	父子家庭(n=15)	13.3	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0	6.7	6.7	6.7

項目		450～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900～1000万円未満	1,000万円以上	無回答	『300万円未満』
全体(n=1,704)		5.0	9.7	10.9	11.7	10.9	9.9	20.1	5.5	6.9
学年別	小学5年生(n=797)	6.3	8.5	11.7	13.4	9.9	9.9	19.4	5.0	6.5
	中学2年生(n=887)	3.8	10.7	10.4	10.4	12.0	9.8	20.5	5.4	7.4
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	65.1
	中央値の1/2以上中央値未満(n=606)	13.4	26.9	27.1	11.4	2.8	0.5	0.7	0.0	0.0
	中央値以上(n=820)	0.0	0.1	2.7	15.6	20.6	20.0	41.0	0.0	0.0
	中央値以上(n=820)	0.0	0.1	2.7	15.6	20.6	20.0	41.0	0.0	0.0
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	4.8	10.1	11.2	12.5	11.7	10.5	21.5	5.5	3.5
	母子家庭(n=111)	6.3	5.4	5.4	0.9	0.9	1.8	1.8	6.3	53.1
	父子家庭(n=15)	13.3	0.0	20.0	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	26.7

問 19 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品しこうひんは含みません。(○はひとつだけ)

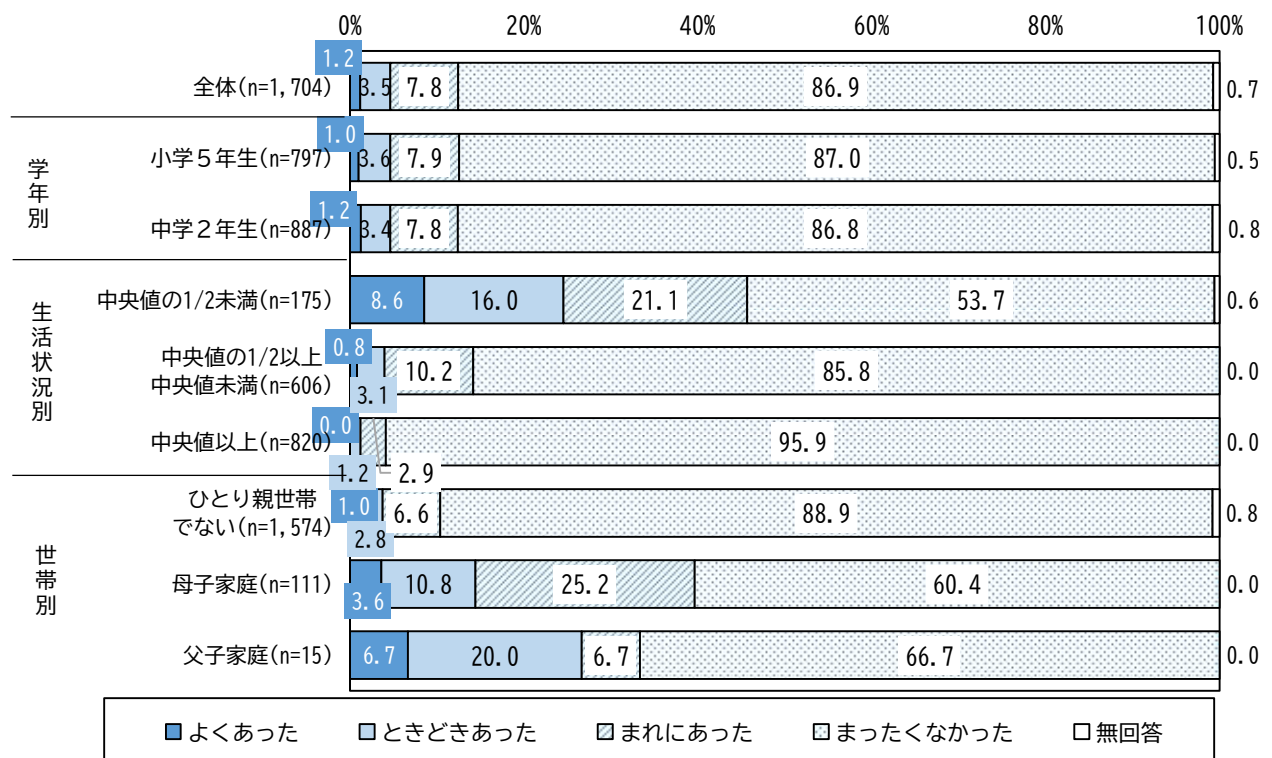
お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えない経験については、「まったくなかった」が86.9%で最も高く、次いで「まれにあった」が7.8%、「ときどきあった」が3.5%、「よくあった」が1.2%となっています。

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、「よくあった」「まれにあった」「ときどきあった」割合は、いずれも中央値の1/2未満が他の層を大きく上回ります。

世帯別では、いずれも「まったくなかった」が最も高くなっていますが、母子世帯では「まれにあった」、父子世帯では「ときどきあった」が2割を超えています。



問 20 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(〇はひとつだけ)

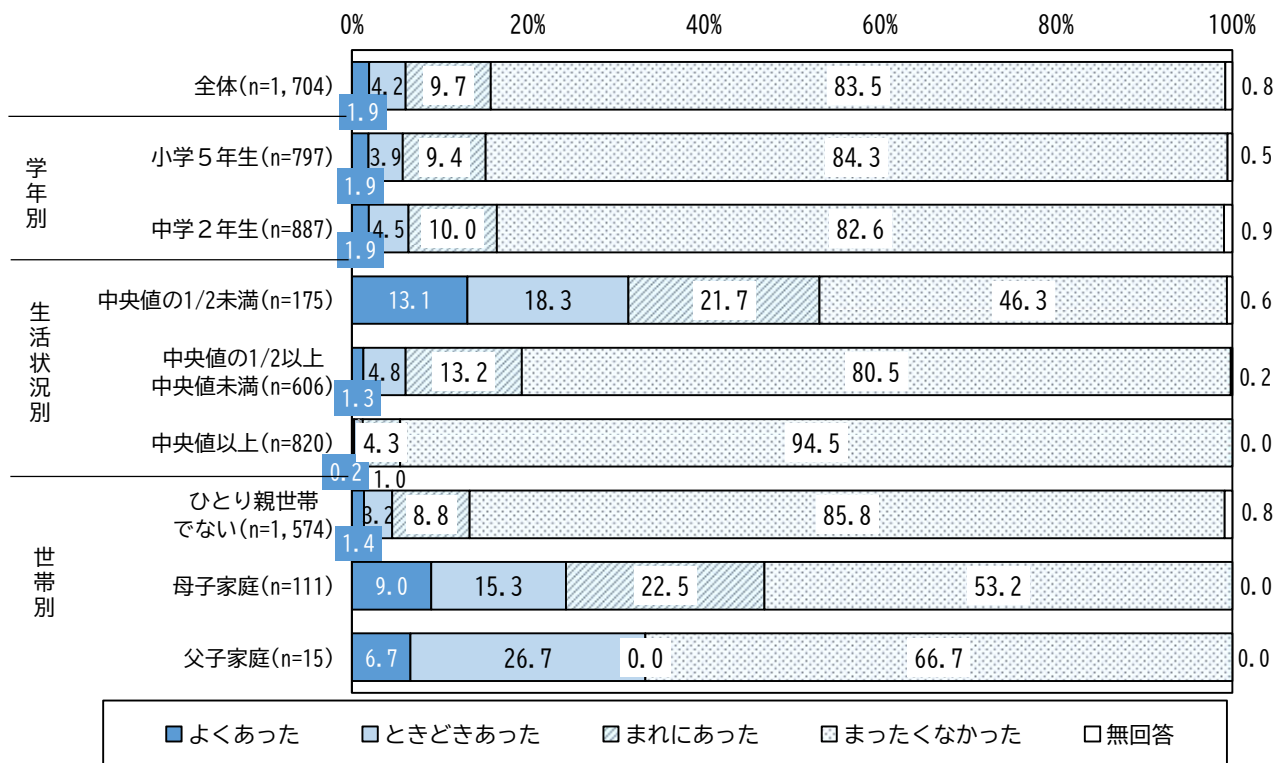
お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えない経験については、「まったくなかった」が83.5%で最も高く、次いで「まれにあった」が9.7%、「ときどきあった」が4.2%、「よくあった」が1.9%となっています。

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

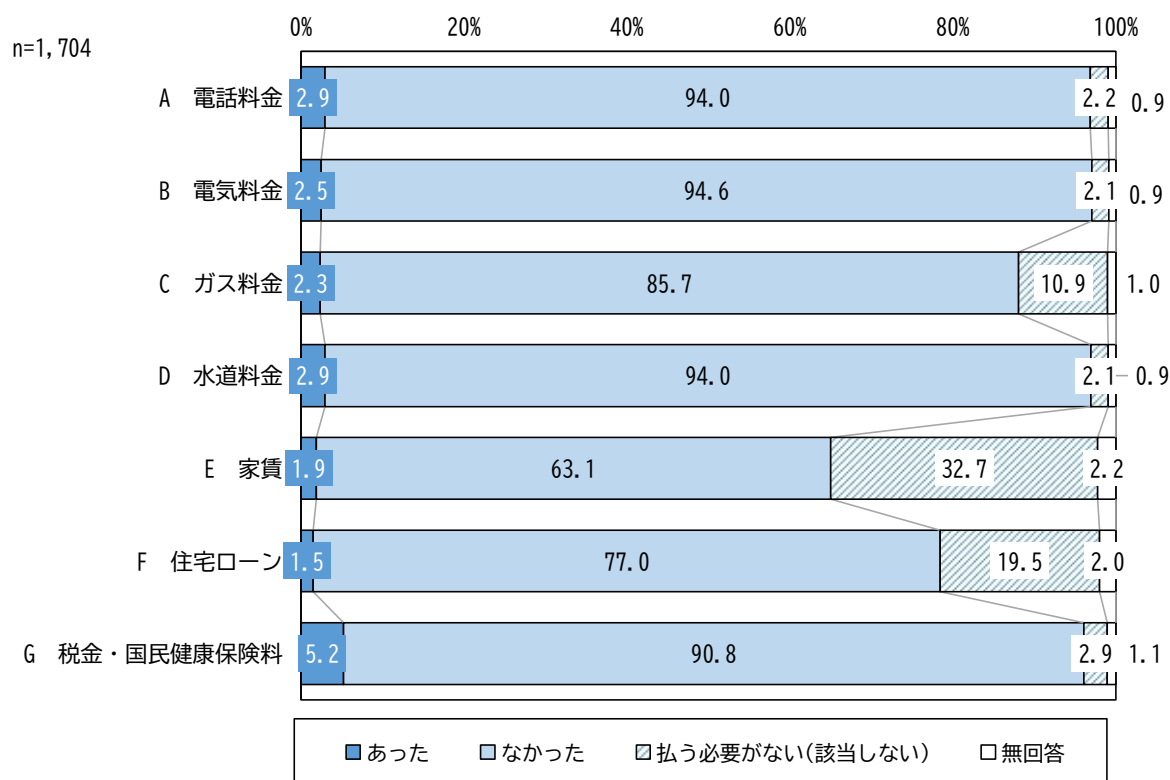
生活状況別では、「よくあった」「まれにあった」「ときどきあった」割合は、いずれも中央値の1/2未満が他の層を大きく上回ります。

世帯別では、いずれも「まったくなかった」が最も高くなっていますが、母子世帯では「まれにあった」、父子世帯では「ときどきあった」が2割を超えています。



問 21 あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由のために以下のA～Gの費用を支払えないことがありましたか。(A～Gそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

経済的な理由で支払いができなかった経験について、いずれの項目も「なかった」が最も高くなっています。「あった」は、＜G 税金・国民健康保険料＞が 5.2%と他の項目をやや上回ります。



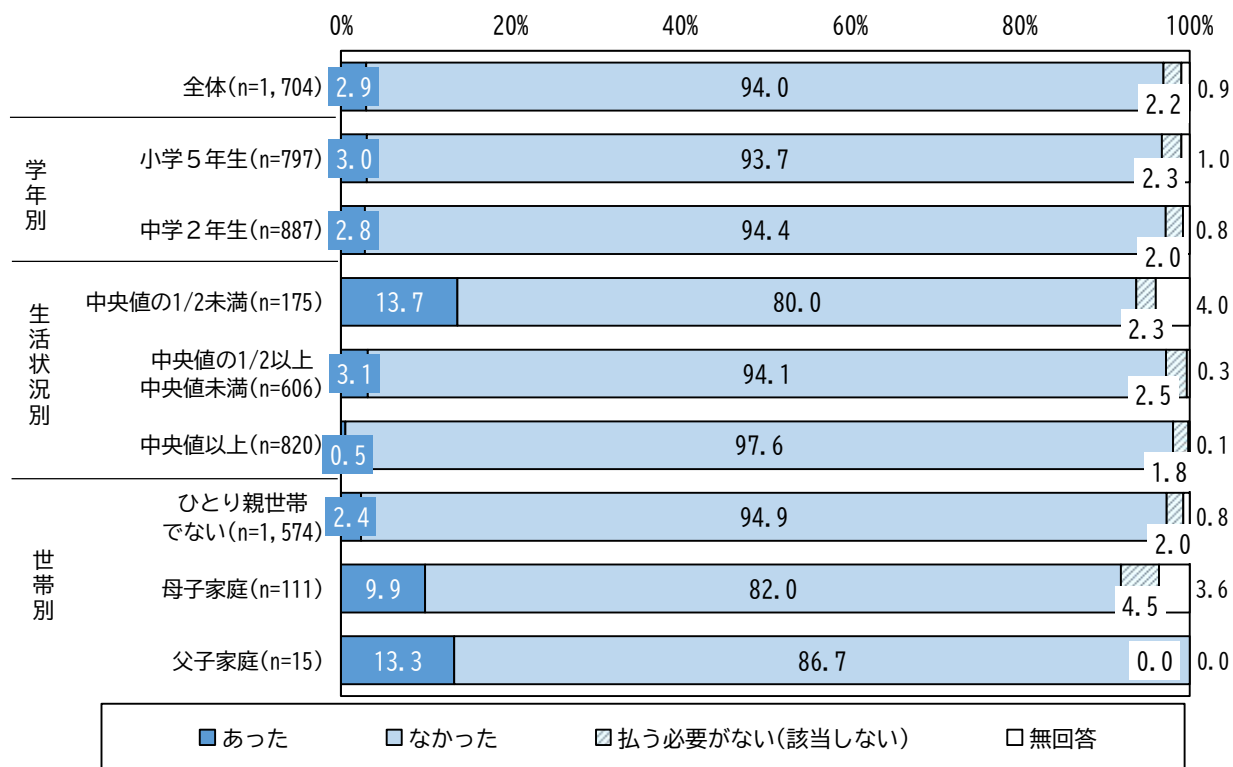
①電話料金

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、「あった」は中央値の1/2未満のみ1割を超えています。

世帯別では、「あった」は母子世帯と父子世帯で1割程度となっています。



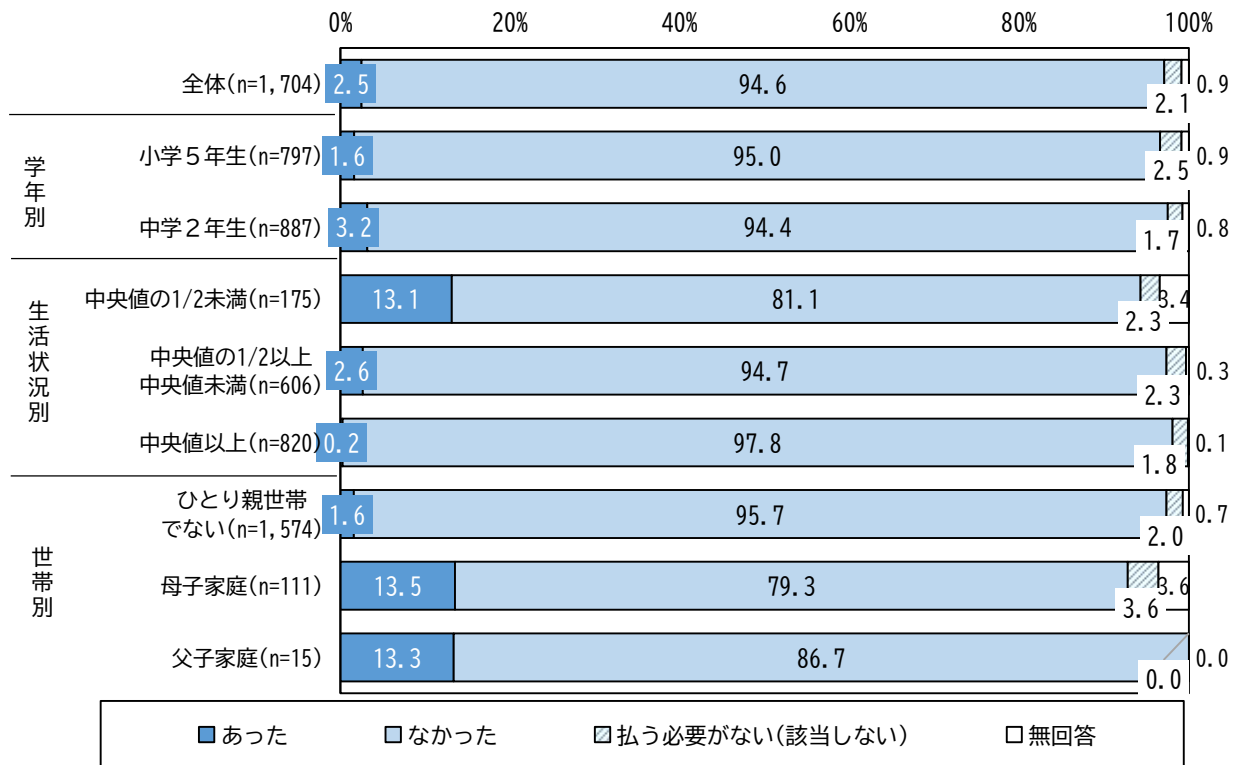
②電気料金

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、「あった」は中央値の1/2未満のみ1割を超えています。

世帯別では、「あった」は母子世帯と父子世帯で1割台前半となっています。



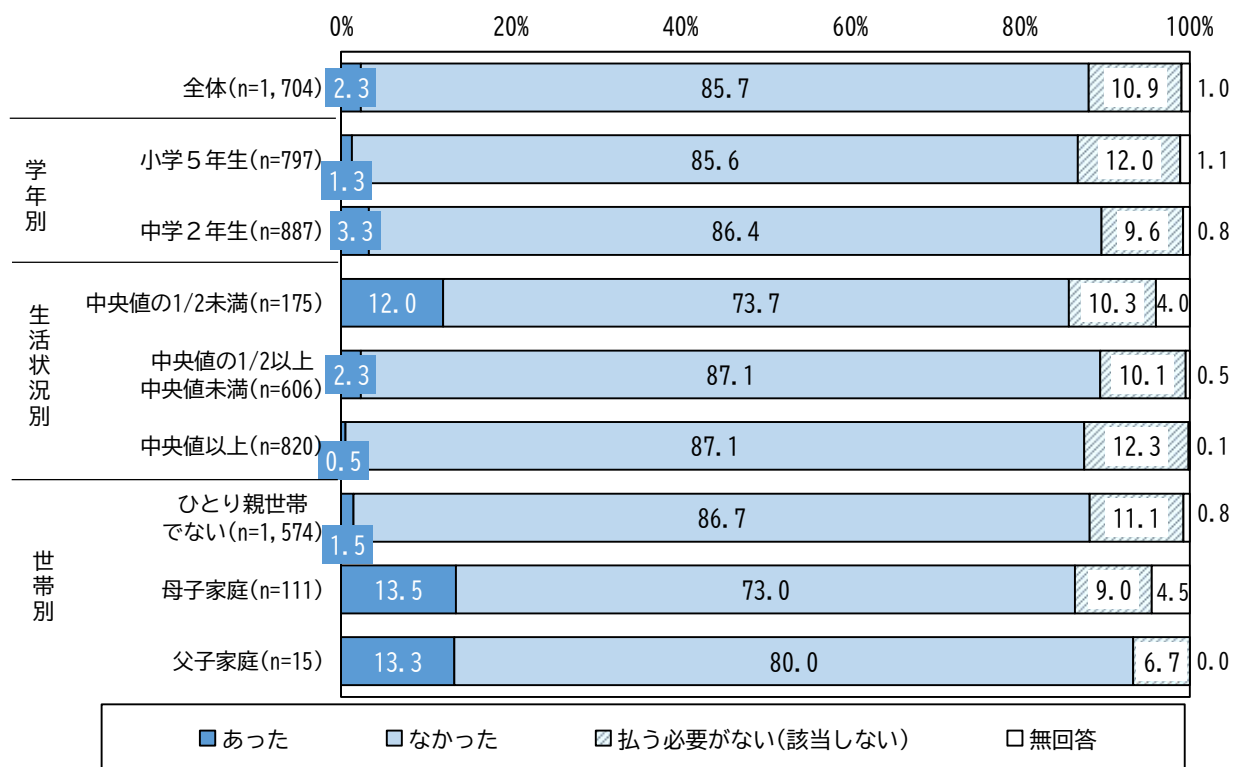
③ガス料金

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、「あった」は中央値の1/2未満のみ1割を超えています。

世帯別では、「あった」は母子世帯と父子世帯で1割台前半となっています。



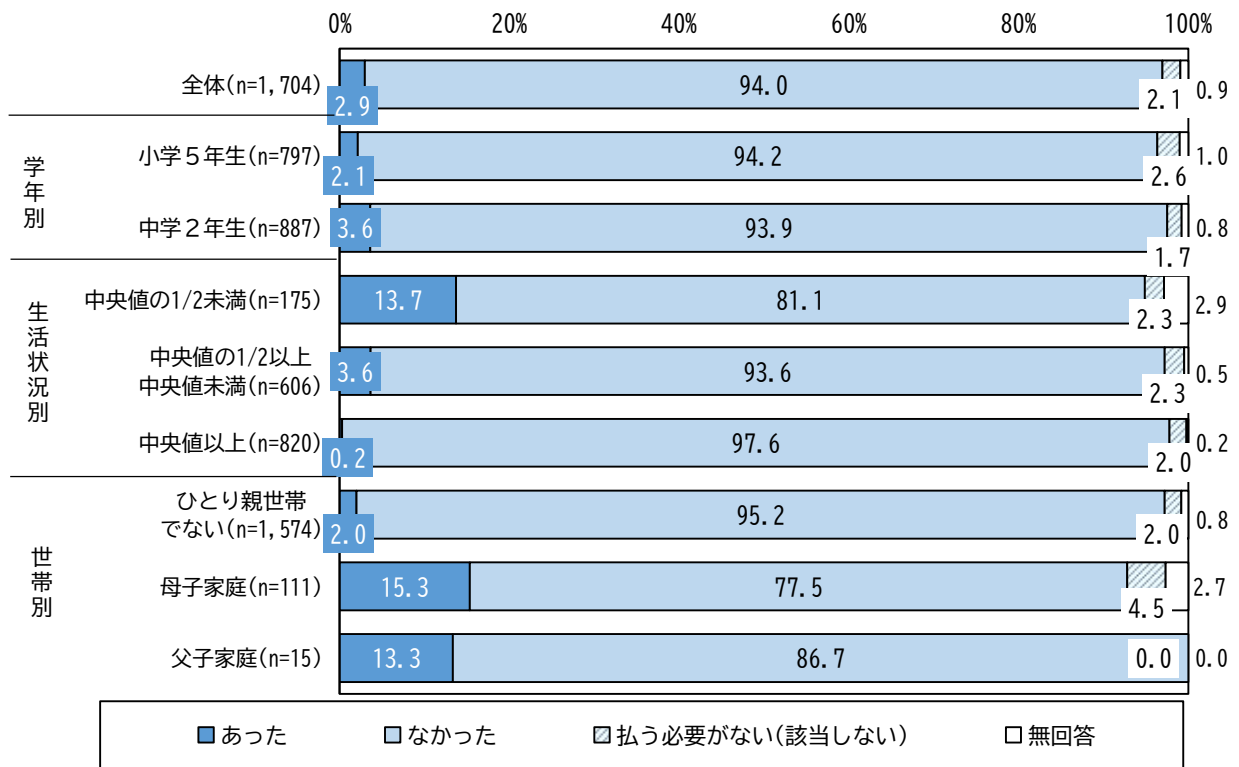
④水道料金

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、「あった」は中央値の1/2未満のみ1割を超えています。

世帯別では、「あった」は母子世帯で15.3%、父子世帯で13.3%となっています。



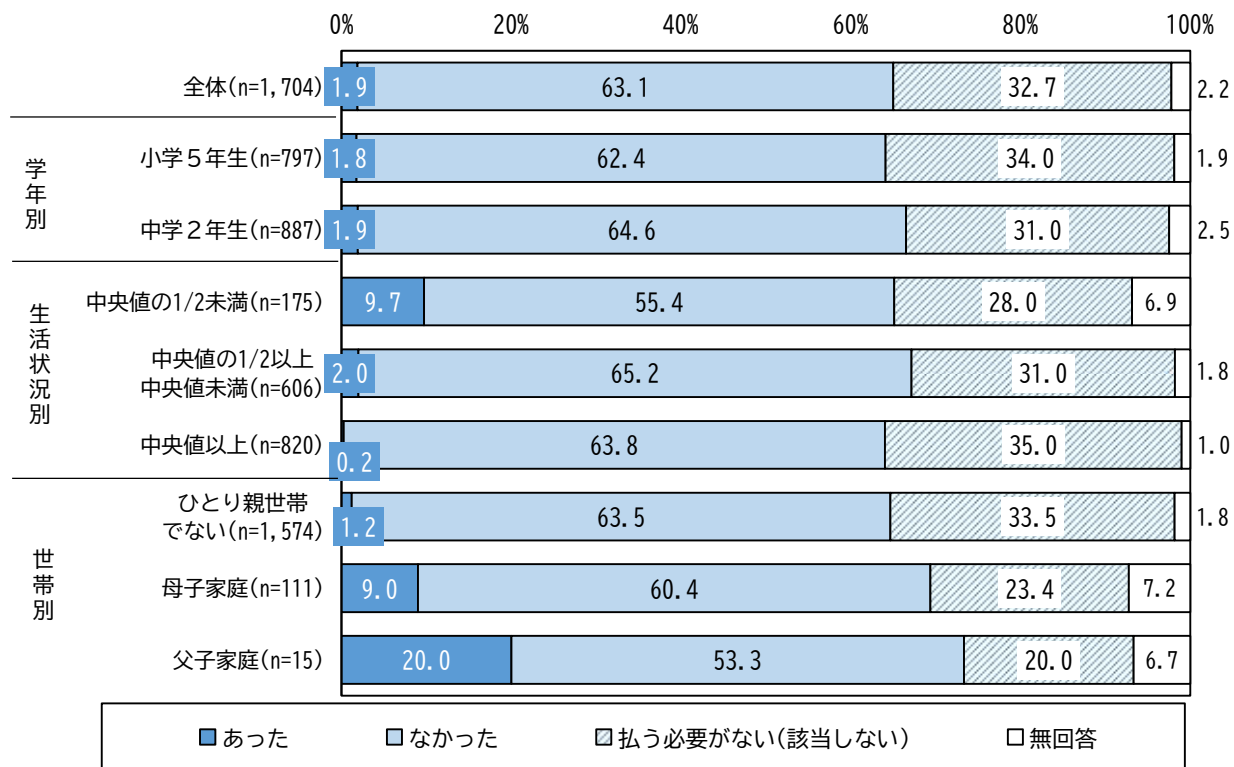
⑤家賃

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、「あった」は中央値の1/2未満で約1割となっています。

世帯別では、「あった」は母子世帯で9.0%、父子世帯で20.0%となっています。



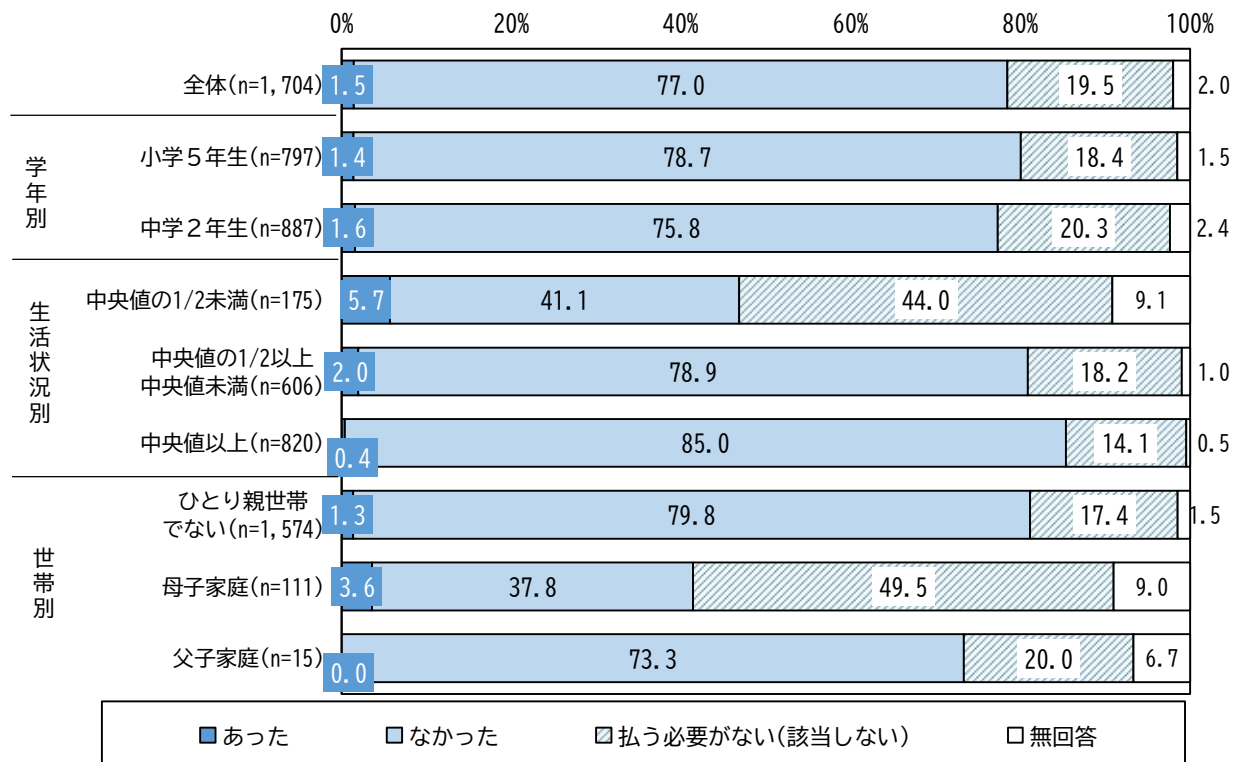
⑥住宅ローン

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、中央値の1/2未満では「払う必要がない(該当しない)」が最も高くなっています。

世帯別では、「あった」は母子世帯では「払う必要がない(該当しない)」が最も高くなっています。



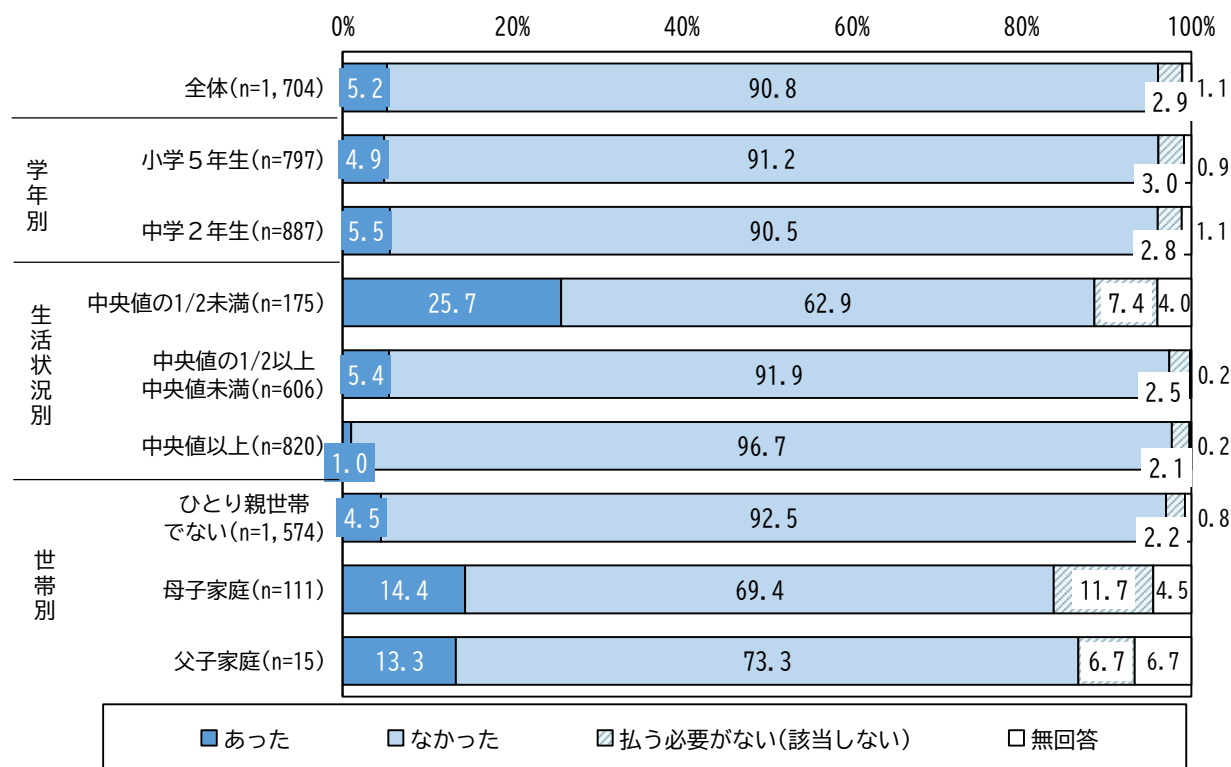
⑦税金・国民健康保険料

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、「あった」は中央値の1/2未満で25.7%と他の層を大きく上回ります。

世帯別では、「あった」は母子世帯と父子世帯で1割台前半となっています。



問 22 次のA～Fの質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようなでしたか。(A～Fそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

保護者の心理的な状態に関して、調査では「K6」と呼ばれる指標を把握するための6つの項目※を設定しました。この6つの調査項目の結果を足し合わせて、K6のスコアを算出しています。「K6」はうつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されるものです。算出方法は、ひとつの質問ごとに0点（まったくない）から4点（いつも）を振り、6項目の合計点を算出しました。点数が高くなるほど抑うつ状態が強いことを示しています。

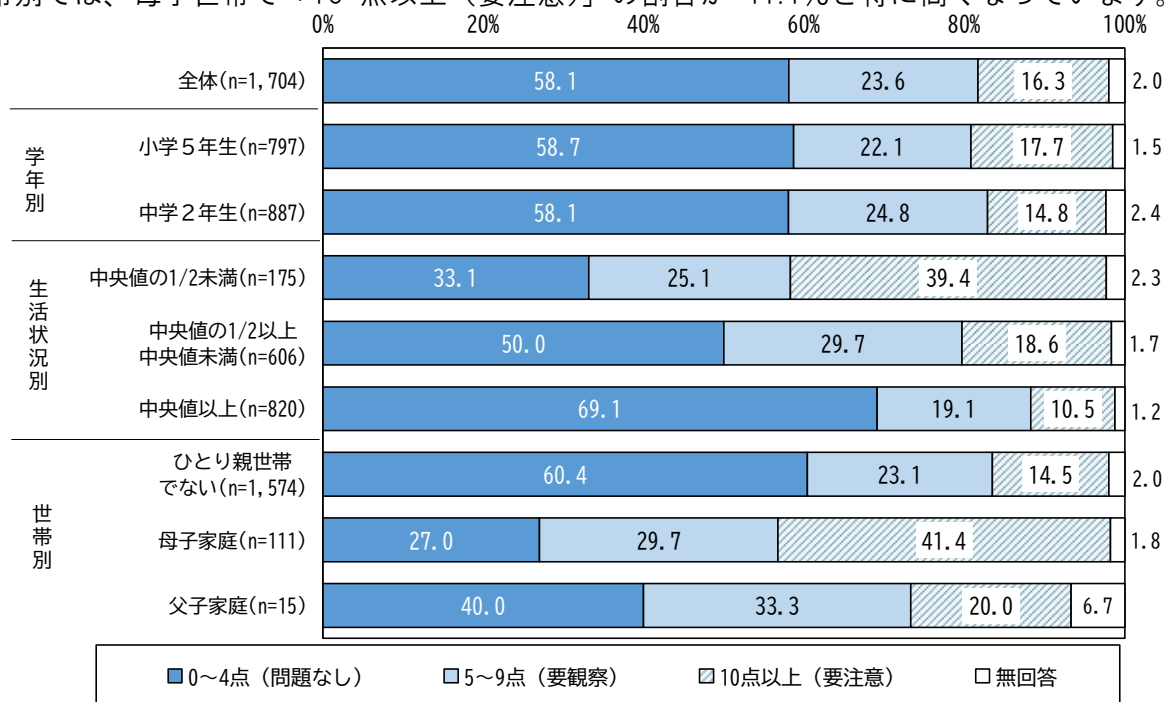
K6指標については、「0～4点（問題なし）」が58.1%で最も高く、次いで「5～9点（要観察）」が23.6%、「10点以上（要注意）」が16.3%となっています。

【属性別】

学年別では、「10点以上（要注意）」は中学2年生が小学5年生をわずかに上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が低いほど「10点以上（要注意）」の割合が高くなっています。

世帯別では、母子世帯で「10点以上（要注意）」の割合が41.4%と特に高くなっています。



単位：点数(最大で24点)

※K6を把握するための6項目	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない
①神経過敏(ナーバス)に感じた	4	3	2	1	0
②絶望的だと感じた	4	3	2	1	0
③そわそわ、落ち着かなく感じた	4	3	2	1	0
④気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた	4	3	2	1	0
⑤何をするのも面倒だと感じた	4	3	2	1	0
⑥自分は価値のない人間だと感じた	4	3	2	1	0

問 23 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。(○はひとつだけ)

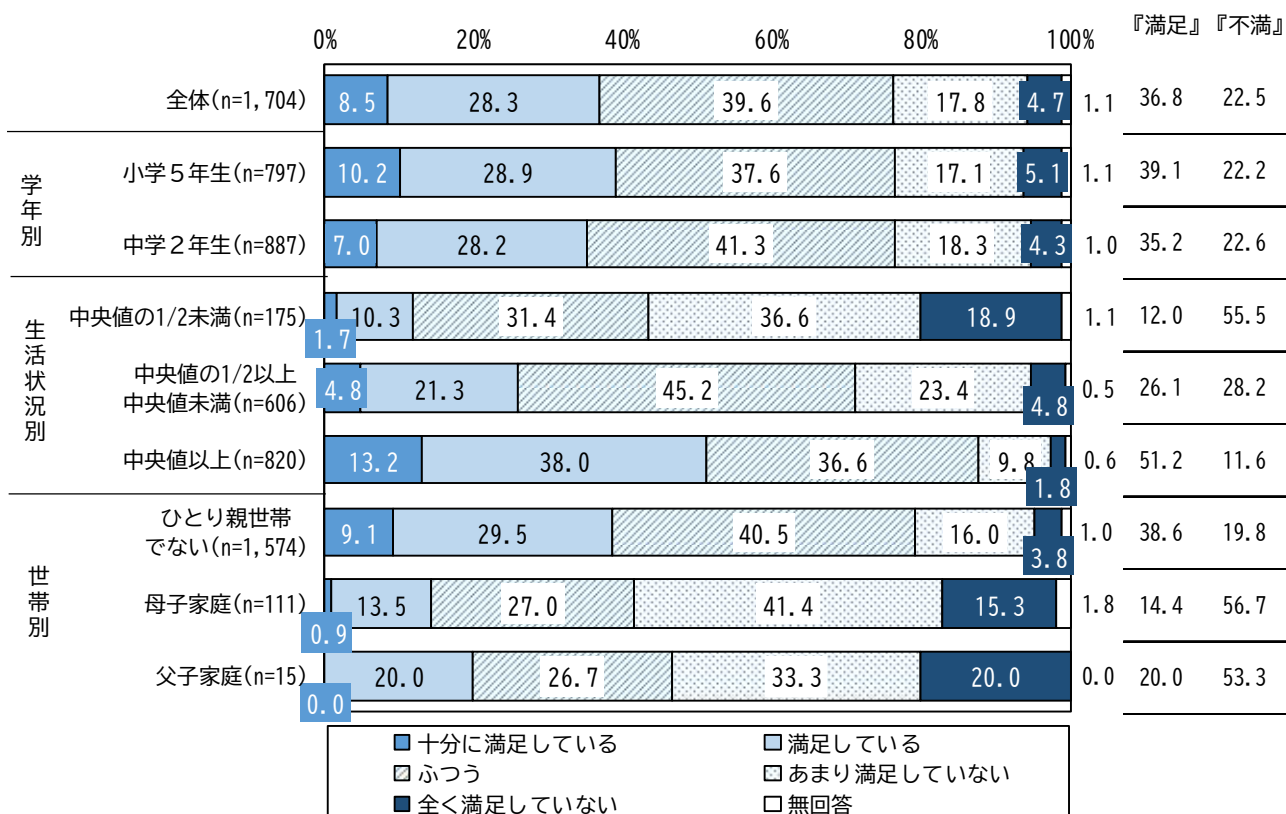
最近の生活への満足度については、「ふつう」が 39.6%で最も高く、「十分に満足している」と「満足している」を合わせた『満足』は 36.8%、「あまり満足していない」と「全く満足していない」を合わせた『不満』は 22.5%となっています。

【属性別】

学年別では、『満足』は小学5年生が中学2年生をやや上回ります。

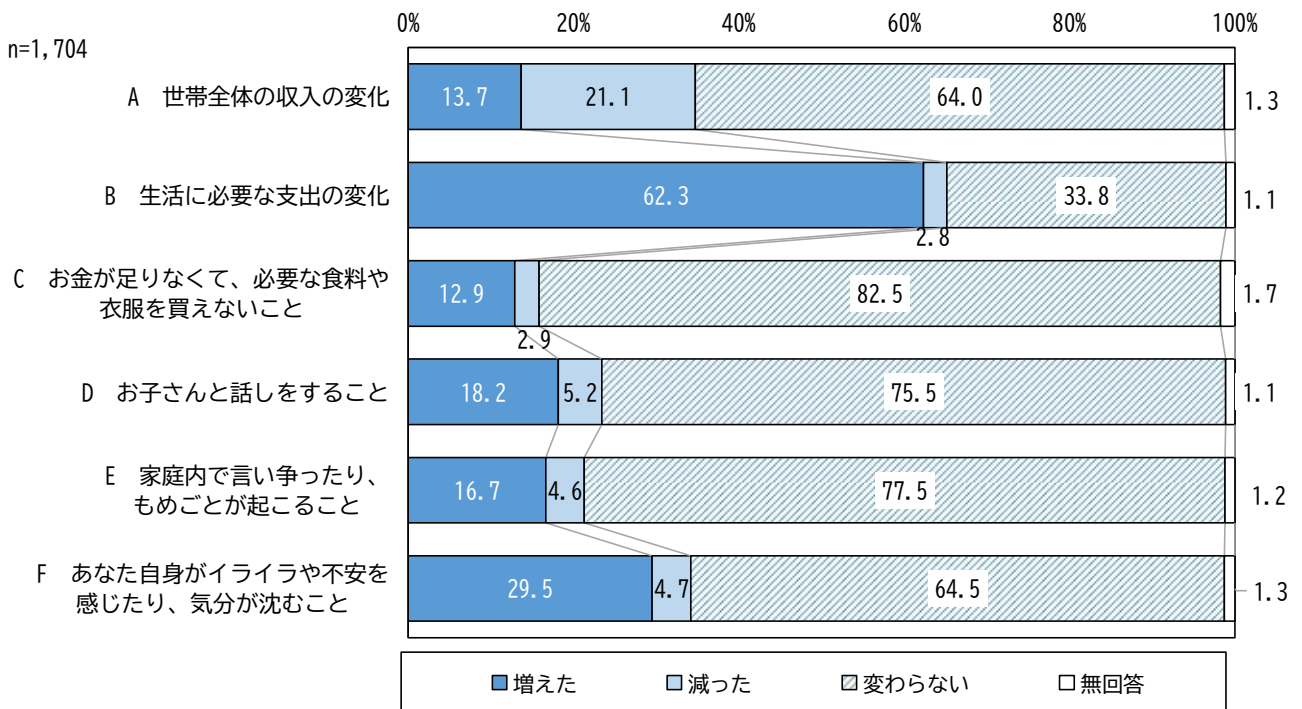
生活状況別では、等価世帯収入が高いほど『満足』、低いほど『不満』の割合が高くなっています。

世帯別では、母子世帯と父子世帯で『不満』が5割を超えています。



問 24 あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前（2020 年2月以前）から比べて、どのように変わりましたか。（A～F それぞれについて、あてはまる番号ひとつに○）

新型コロナウイルス感染症の拡大による家庭への影響については、「増えた」は〈B 生活に必要な支出の変化〉が 62.3%と他の項目を大きく上回っています。〈A 世帯全体の収入の変化〉や〈C お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと〉〈D お子さんと話しをすること〉〈E 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること〉については、「変わらない」が最も高くなっています。



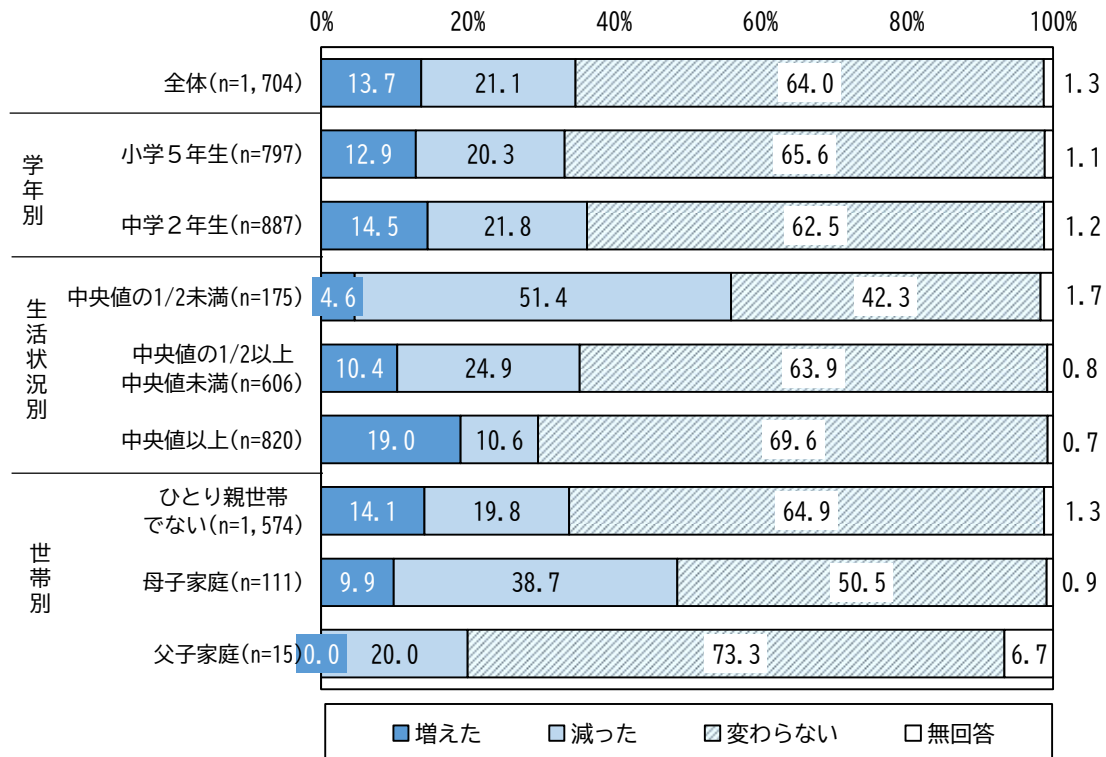
①世帯全体の収入の変化

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、中央値の1/2未満で「減った」が51.4%と他の層を大きく上回ります。

世帯別では、母子世帯では「減った」が38.7%と他の層を上回ります。



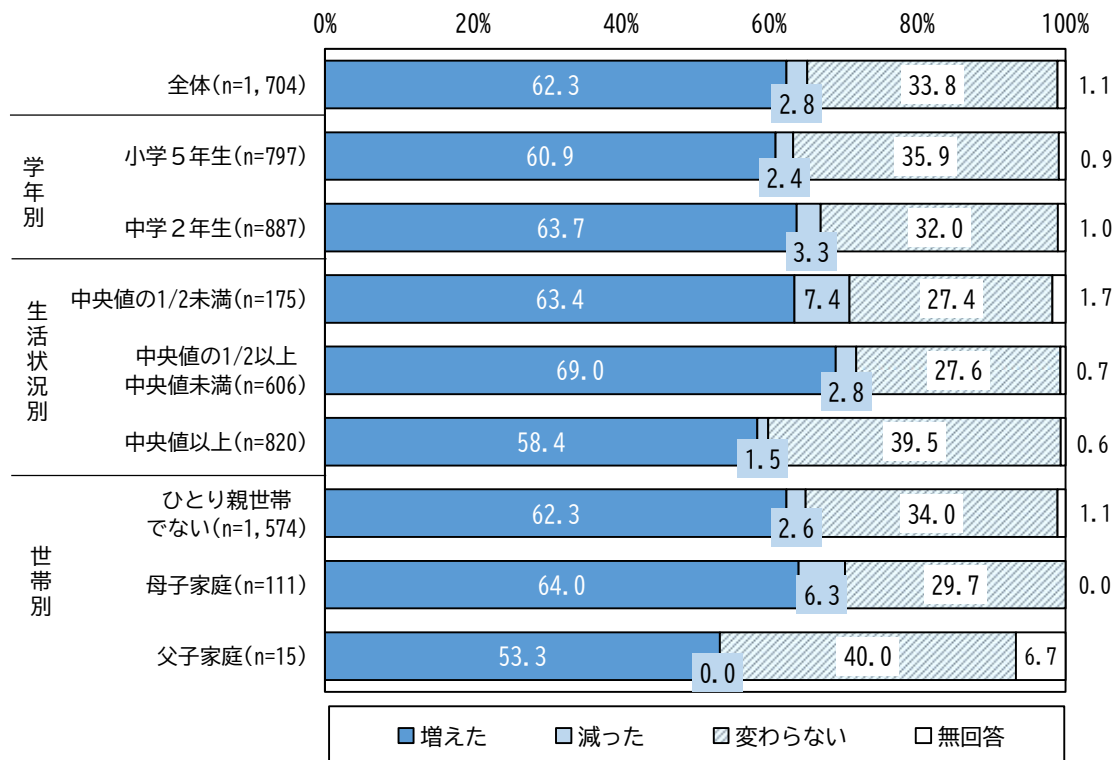
②生活に必要な支出の変化

【属性別】

学年別では、「増えた」は中学2年生が小学5年生をわずかに上回ります。

生活状況別では、中央値の1/2以上中央値未満で「増えた」が69.0%と他の層を上回ります。

世帯別では、いずれも「増えた」が最も高くなっています。



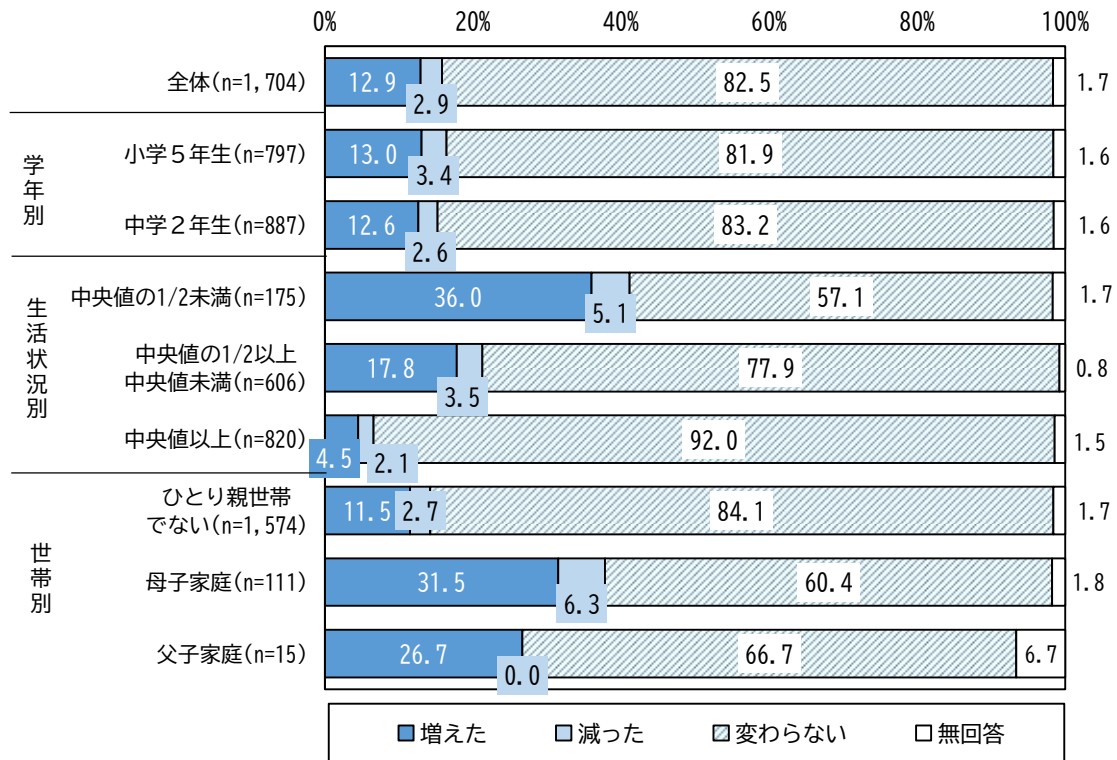
③お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、等価世帯収入が低いほど「増えた」の割合が高くなっています。

世帯別では、「増えた」は母子世帯で 31.5%、父子世帯で 26.7%と高くなっています。



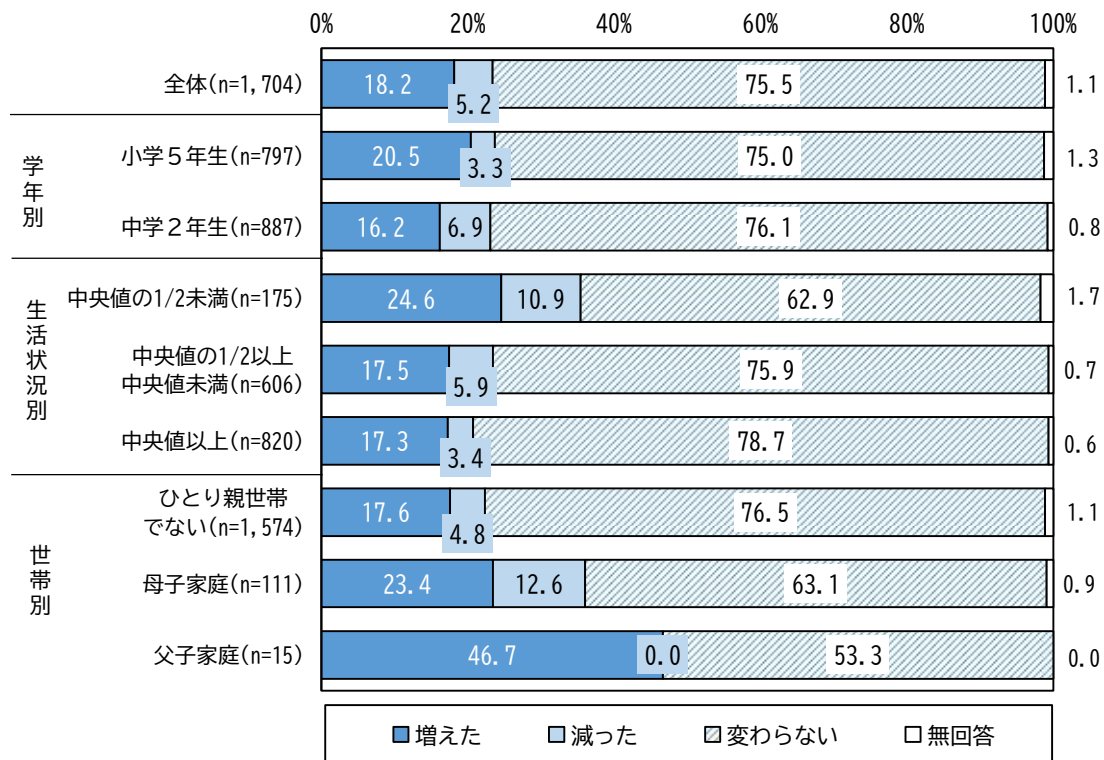
④お子さんと話しをすること

【属性別】

学年別では、「増えた」は小学5年生が中学2年生を上回ります。

生活状況別では、中央値の1/2未満で「増えた」が24.6%と他の層を上回ります。

世帯別では、父子世帯で「増えた」が46.7%と他の層を大きく上回ります。



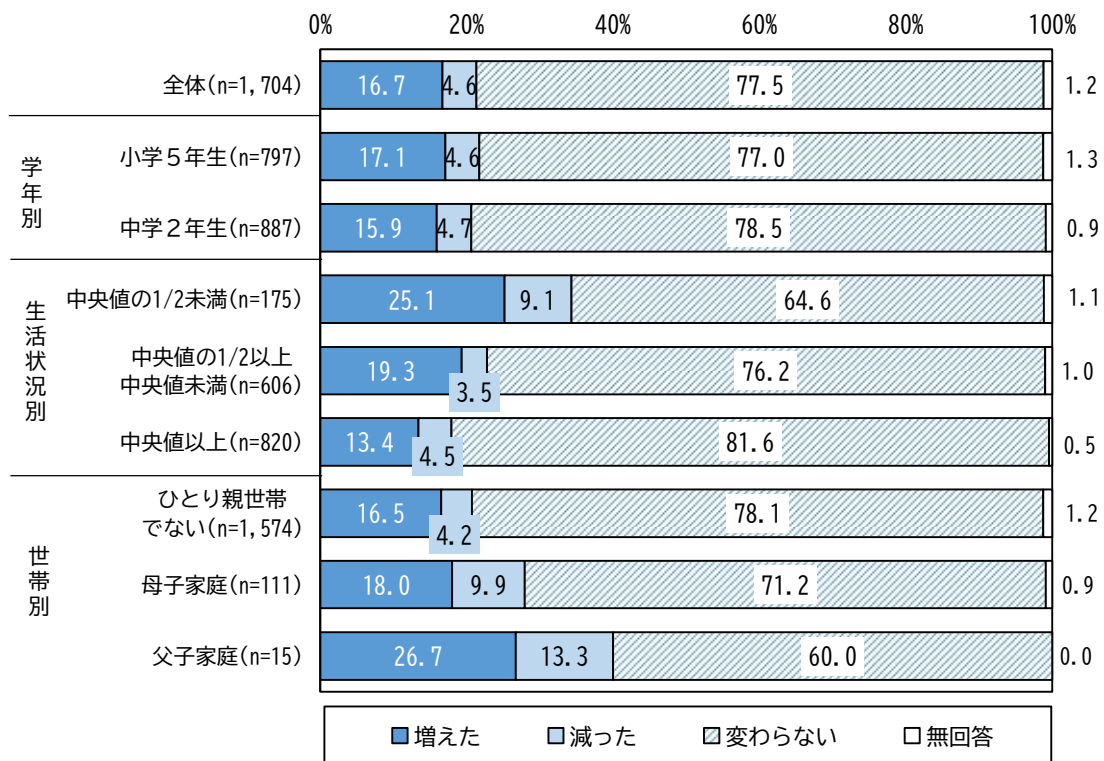
⑤家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、等価世帯収入が低いほど「増えた」割合が高くなっています。

世帯別では、父子世帯で「増えた」が26.7%と他の層を上回ります。



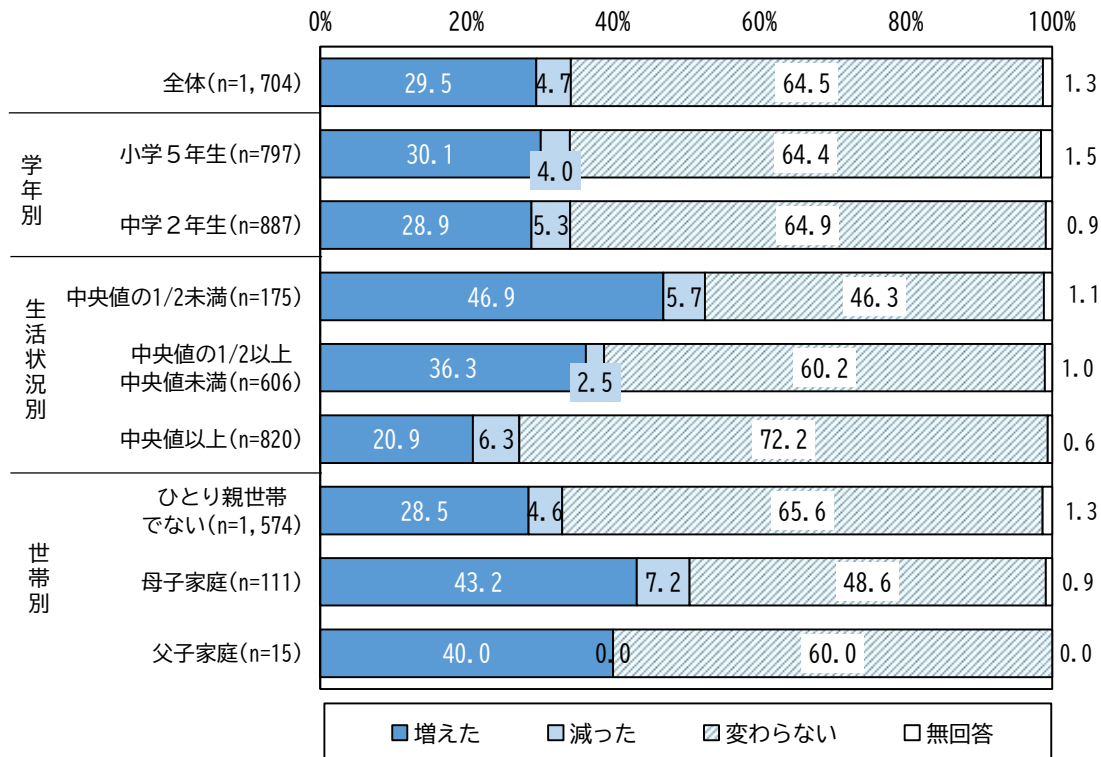
⑥あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、等価世帯収入が低いほど「増えた」割合が高くなっています。

世帯別では、母子世帯と父子世帯で「増えた」が4割を超え高くなっています。



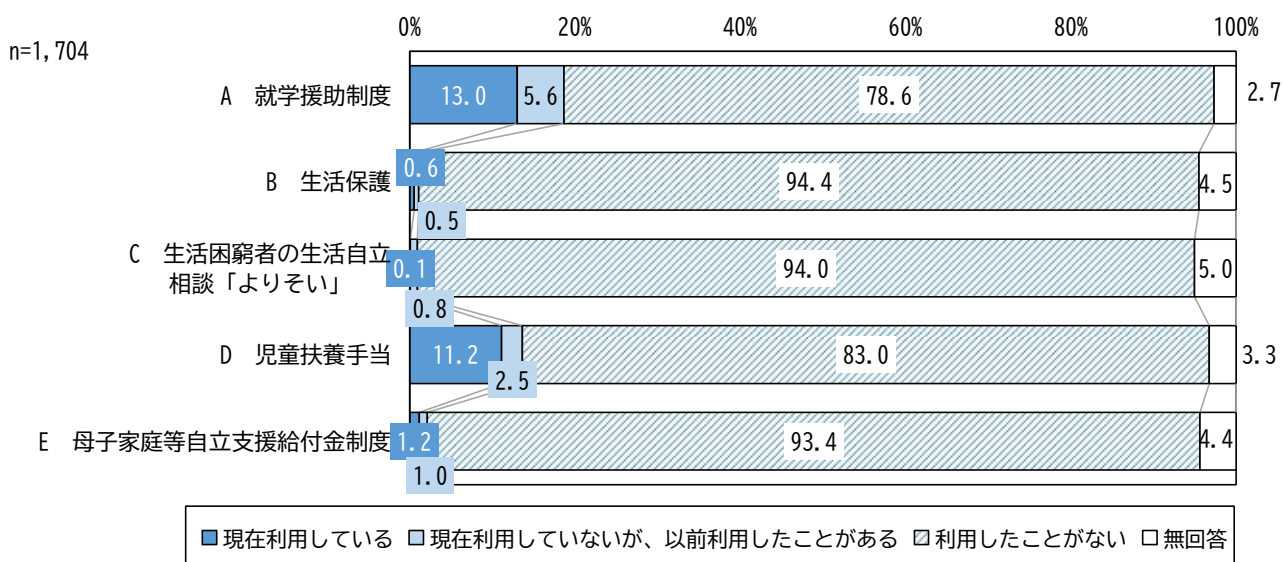
4. 支援制度や相談先などについておうかがいします

問 25 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。(A～E それぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(ア～オのあてはまるもの1つに○)

支援制度の利用状況について、「現在利用している」の割合は、〈A 就学援助制度〉と〈D 児童扶養手当〉で1割を超えています。一方で、〈B 生活保護〉、〈C 生活困窮者の生活自立相談「よりそい」〉、〈E 母子家庭等自立支援給付金制度〉は「利用したことがない」が9割以上を占めています。

利用したことがない理由については、「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」が8割台後半～9割程度となっています。



①就学援助制度

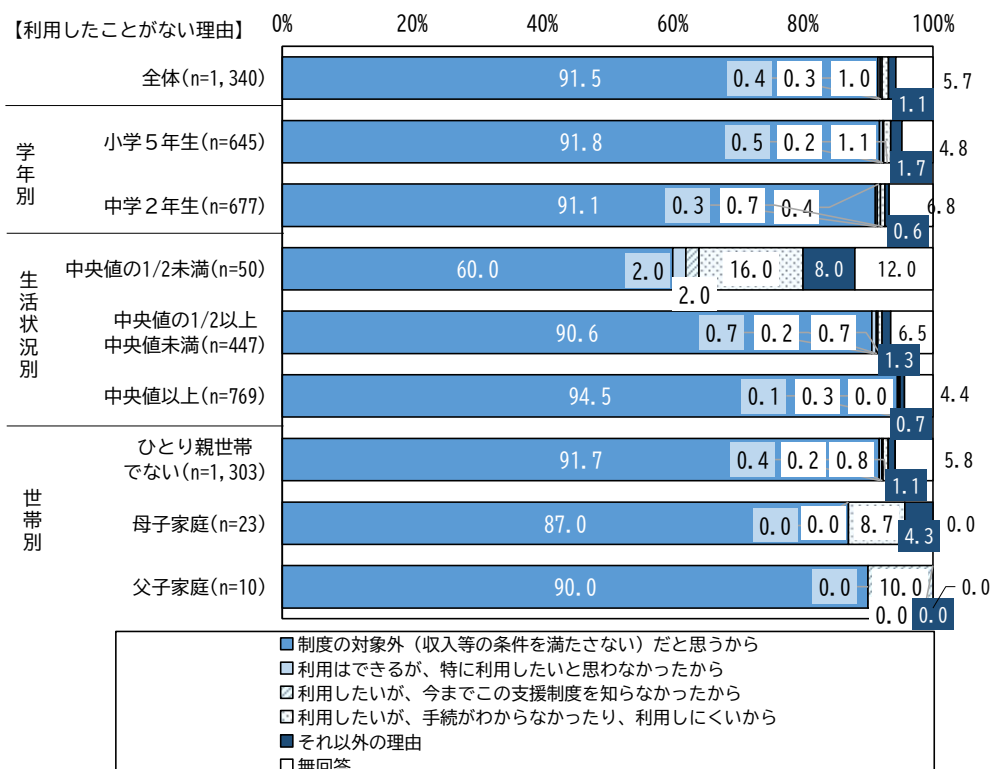
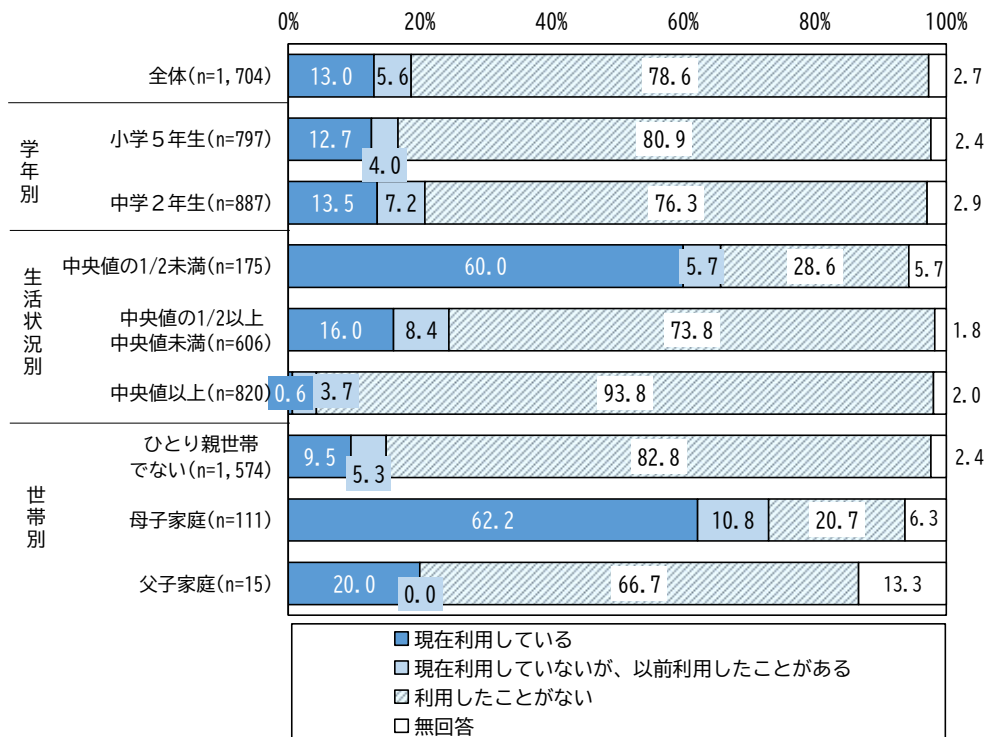
【属性別】

学年別では、「現在利用していないが、以前利用したことがある」は中学2年生が小学5年生を上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が低いほど「現在利用している」割合が高くなっています。

世帯別では、母子世帯で「現在利用している」が6割を超え高くなっています。

利用したことがない理由について、世帯状況別では中央値の1/2未満のみ「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1割を超えています。



②生活保護

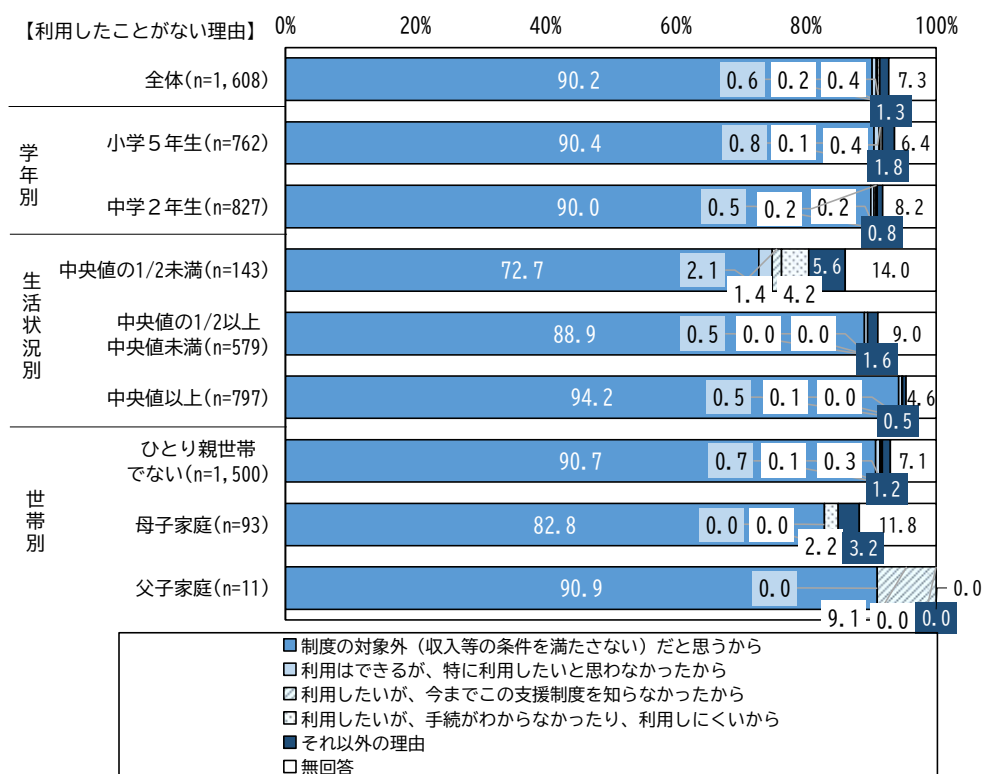
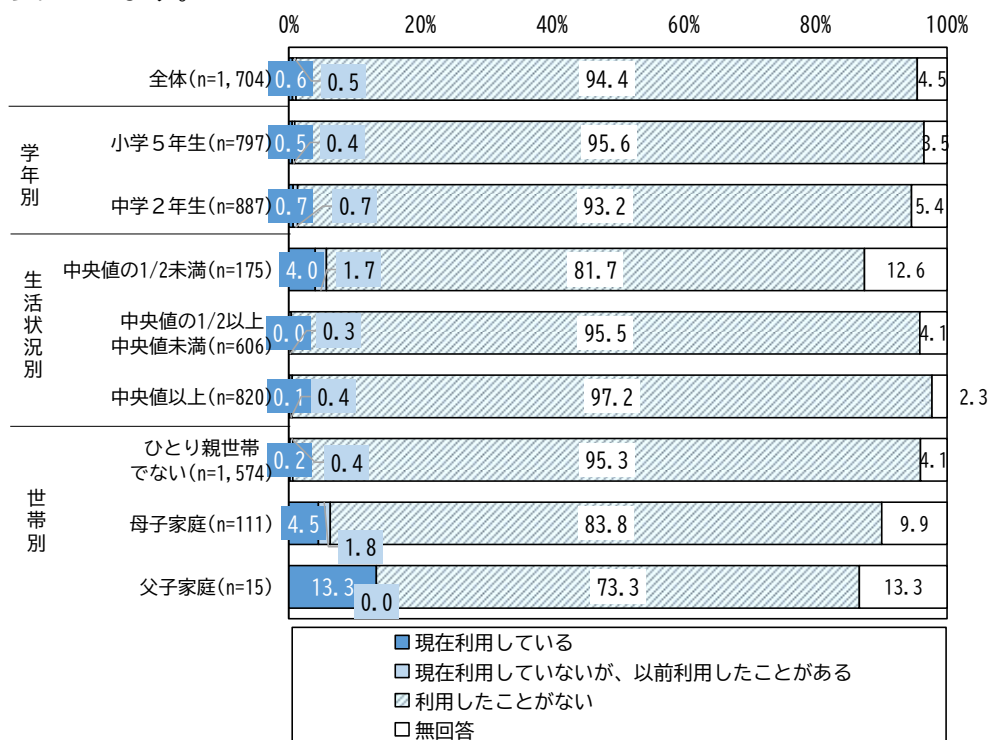
【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、中央値の 1/2 未満で「現在利用している」や「現在利用していないが、以前利用したことがある」割合が他の層を上回ります。

世帯別では、父子世帯で「現在利用している」が1割を超え高くなっています。

利用したことがない理由について、世帯状況別では中央値の 1/2 未満、で「それ以外の理由」や「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」などさまざまな項目があげられています。



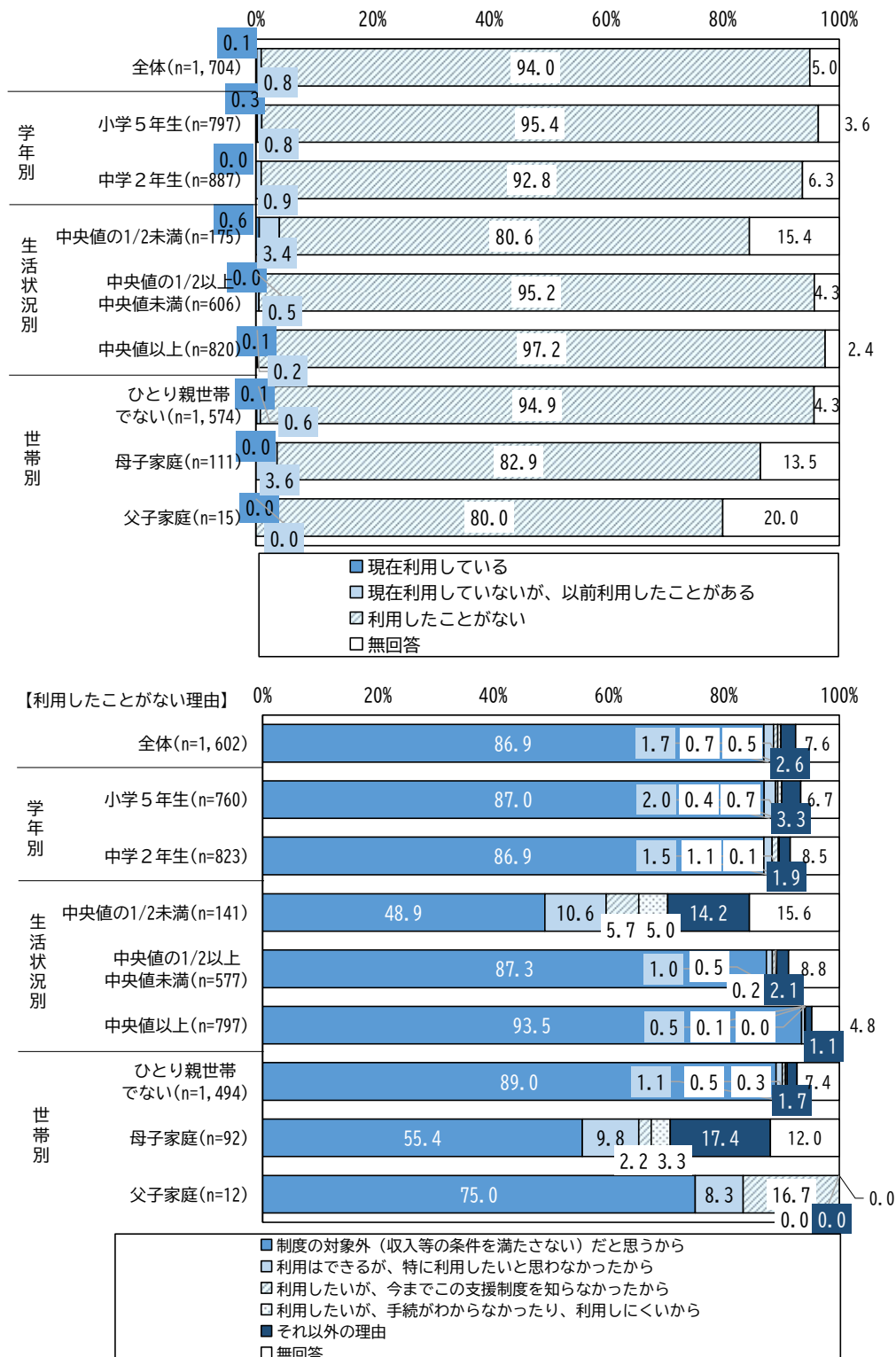
③生活困窮者の生活自立相談「よりそい」

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では中央値の 1/2 未満、世帯別では母子世帯で「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3%台と他の層をわずかに上回ります。

利用したことがない理由について、世帯状況別では中央値の 1/2 未満、世帯別では母子世帯で「それ以外の理由」や「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が約1割～1割台後半となっています。



④児童扶養手当

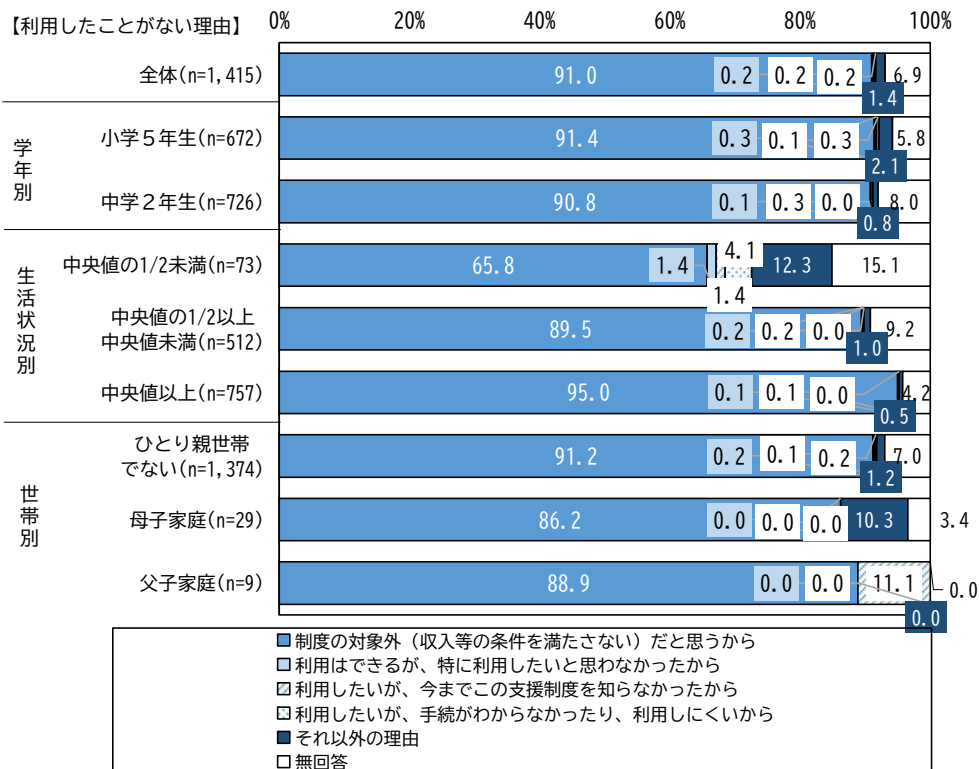
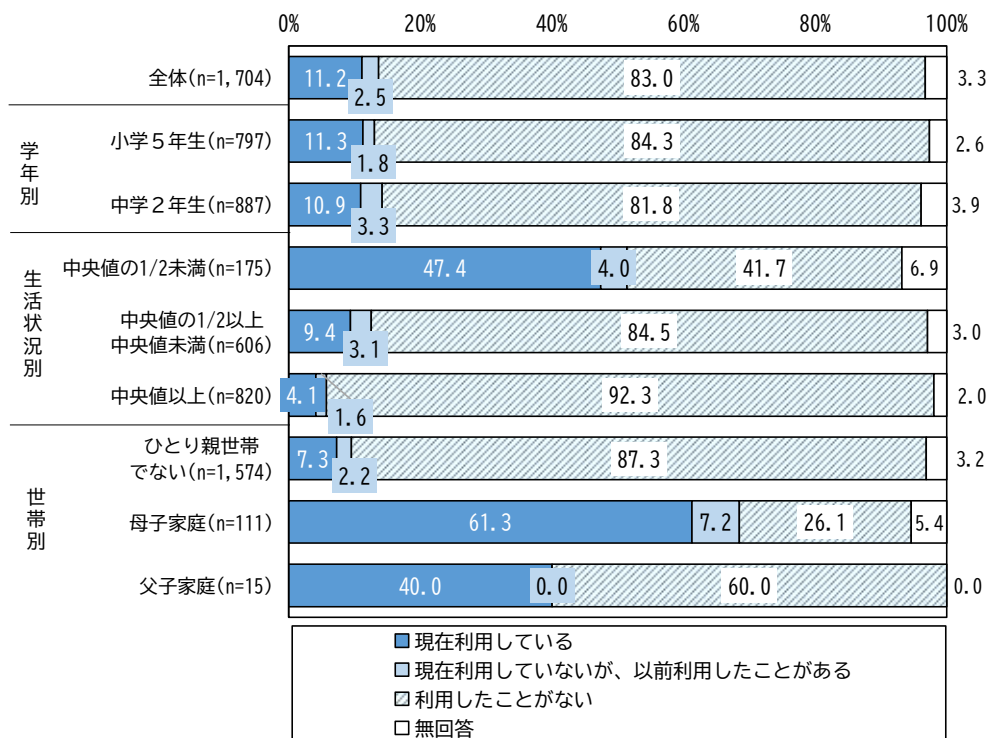
【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、「現在利用している」は中央値の 1/2 未満で 47.4%と他の層を大きく上回ります。

世帯別では、「現在利用している」は母子世帯で 61.3%、父子世帯で 40.0%となっています。

利用したことがない理由について、世帯状況別では中央値の 1/2 未満、世帯別では母子世帯で「それ以外の理由」1 割を超えています。



⑤母子家庭等自立支援給付金制度

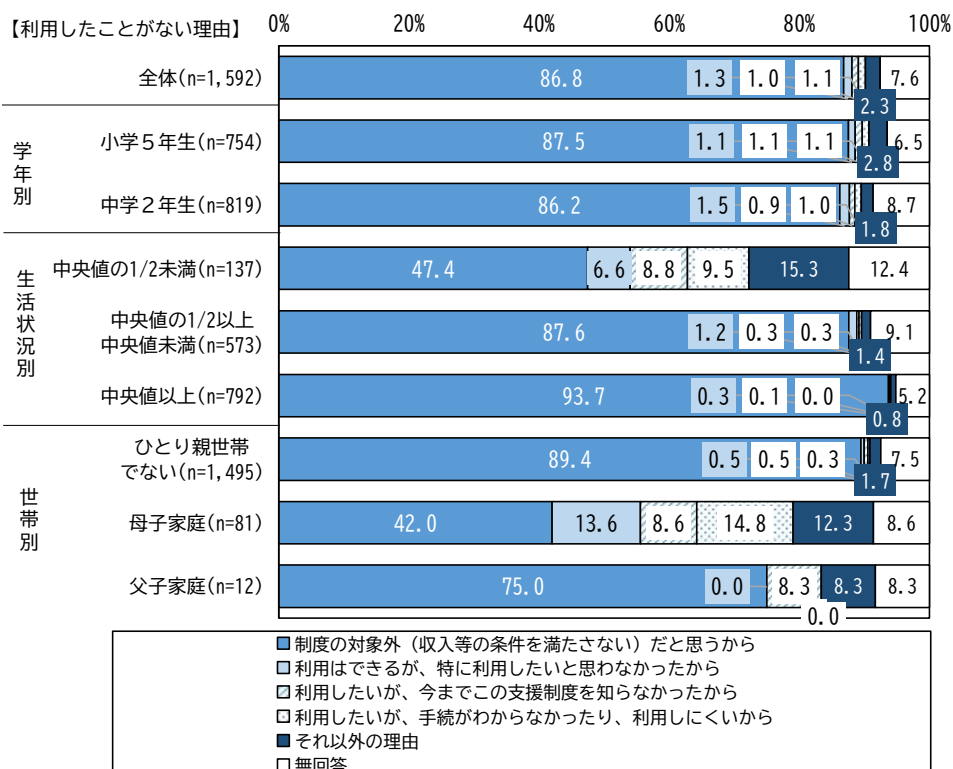
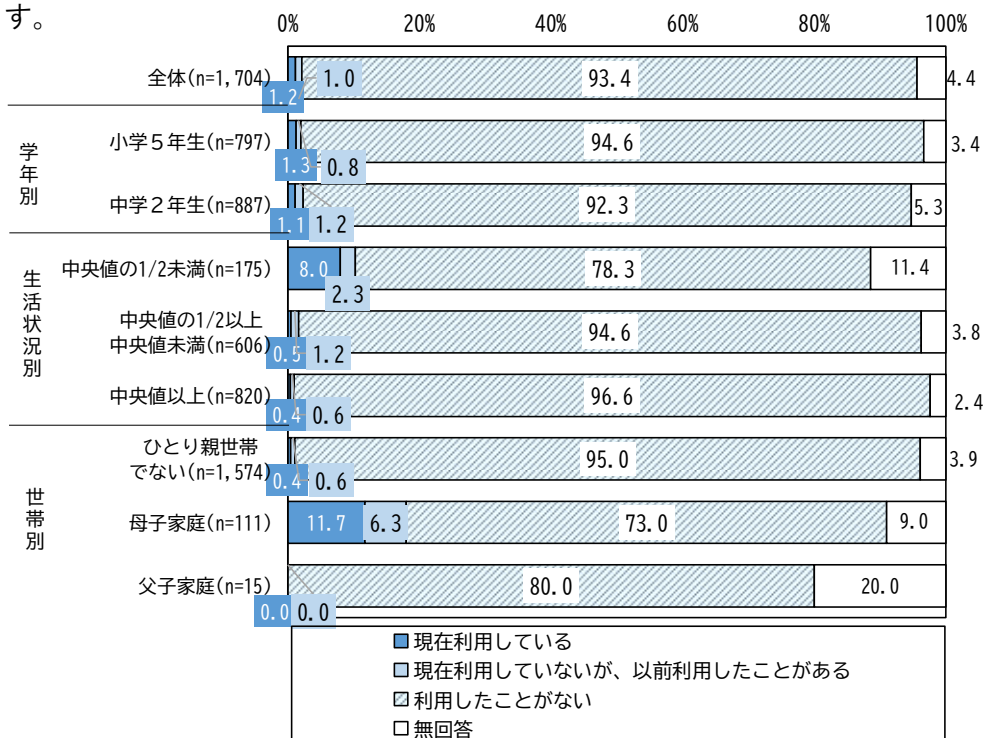
【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、「現在利用している」は中央値の 1/2 未満で 8.0%と他の層を上回ります。

世帯別では、母子世帯で「現在利用している」が 11.7%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が 6.3%となっています。

利用したことがない理由について、世帯状況別では中央値の 1/2 未満、世帯別では母子世帯で「それ以外の理由」や「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」などさまざまな項目があげられています。

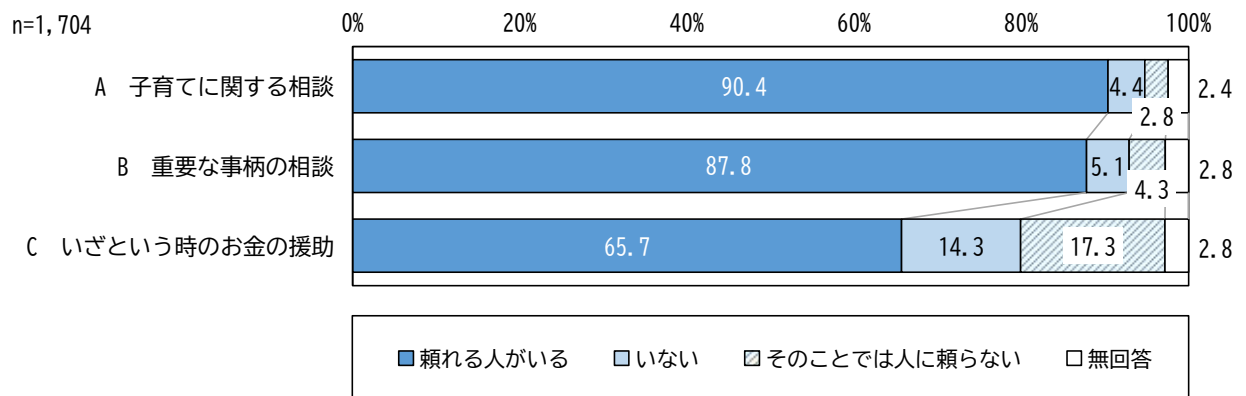


問 26 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(A～Cそれぞれについて、1～3の
あてはまるもの1つに○)
また、「1. 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。(ア～キのあてはまるものすべて
に○)

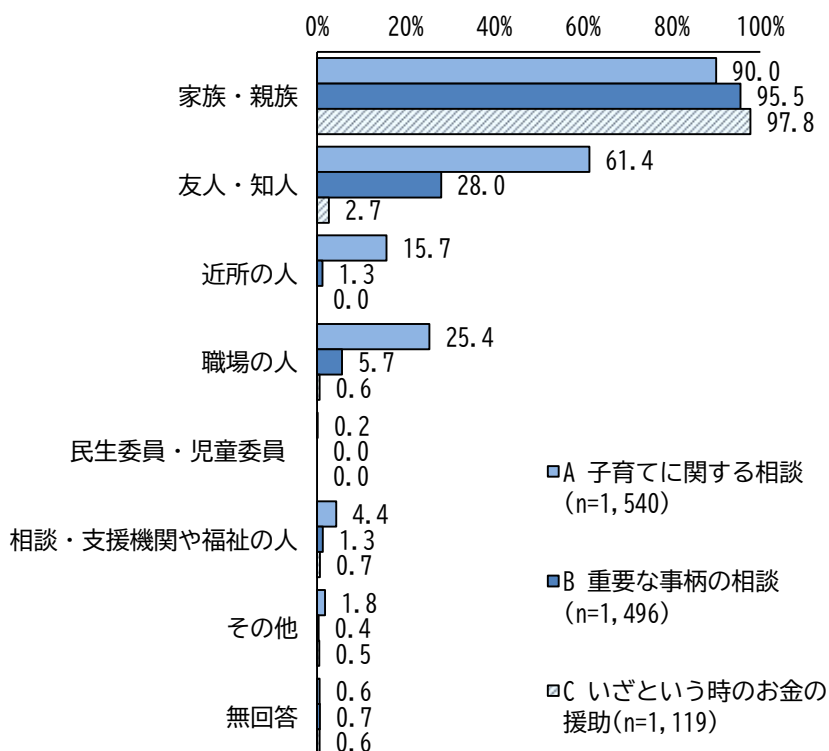
保護者が頼れる相手について、「頼れる人がいる」の割合は、〈A 子育てに関する相談〉が
90.4%、〈B 重要な事柄の相談〉が 87.8%、〈C いざという時のお金の援助〉が 65.7%となっ
ています。

頼れる相手は、いずれも「家族・親族」の割合が最も高く、9割を超えています。〈A 子育
てに関する相談〉については、「友人・知人」(61.4%)や「職場の人」(25.4%)の割合も高
くなっています。

【頼れる相手の有無】



【頼れる相手の内訳】



①子育てに関する相談

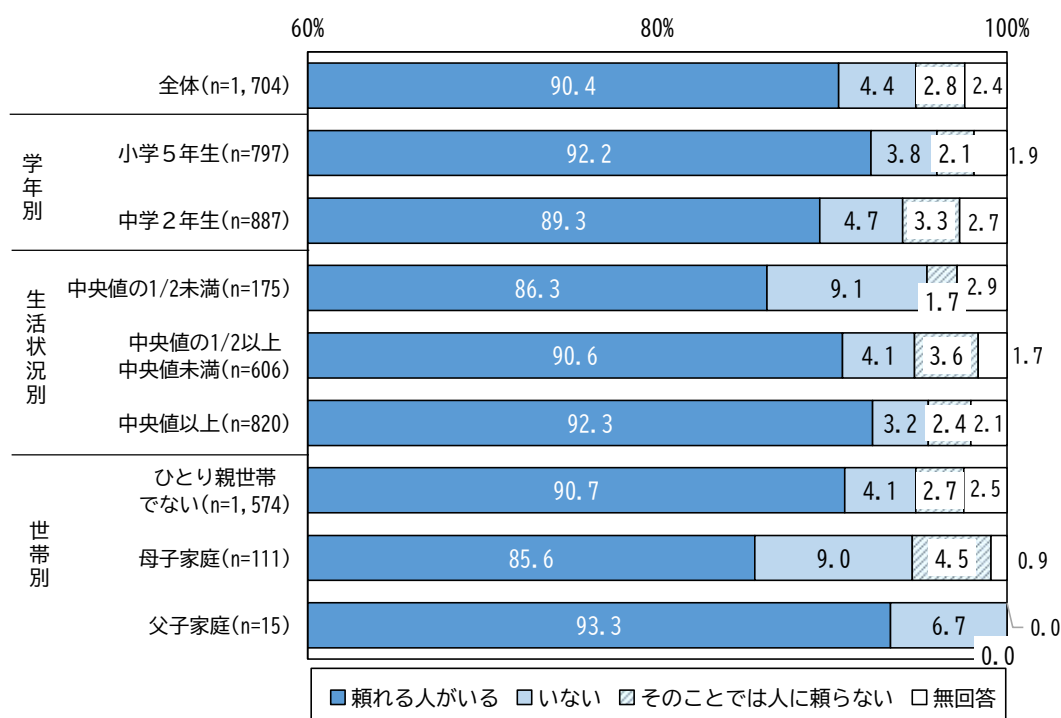
【属性別】

学年別では、「頼れる人がいる」は、小学5年生が中学2年生をやや上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「頼れる人がいる」割合が高くなっています。

世帯別では、いずれも「頼れる人がいる」が最も高いものの、「いない」は母子世帯が9.0%と他の層を上回ります。

頼れる人の内訳について、いずれの属性も「家族・親族」が最も高くなっていますが、その割合は、生活状況別では中央値の1/2未満、世帯別では母子世帯・父子世帯でやや低くなっています。



問26 頼れる人の内訳 <A 子育てに関する相談>

単位：%

項目		家族・親族	友人・知人	職場の人	近所の人	相談・支援機関や福祉の人	民生委員・児童委員	その他	無回答
全体 (n=1,540)		90.0	61.4	25.4	15.7	4.4	0.2	1.8	0.6
学年別	小学5年生 (n=735)	89.7	61.4	23.1	14.8	4.4	0.3	1.4	0.4
	中学2年生 (n=792)	90.2	61.5	27.7	16.7	4.4	0.1	2.1	0.8
生活状況別	中央値の1/2未満 (n=151)	78.1	54.3	20.5	7.9	3.3	0.7	3.3	2.0
	中央値の1/2以上中央値未満 (n=549)	89.3	62.3	24.8	14.8	5.8	0.2	1.5	0.4
	中央値以上 (n=757)	92.7	62.7	28.0	18.5	3.4	0.1	1.8	0.5
世帯別	ひとり親世帯でない (n=1428)	91.0	61.4	25.1	16.3	4.3	0.2	1.6	0.6
	母子家庭 (n=95)	76.8	64.2	29.5	9.5	5.3	0.0	3.2	0.0
	父子家庭 (n=14)	71.4	50.0	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0

②重要な事柄の相談

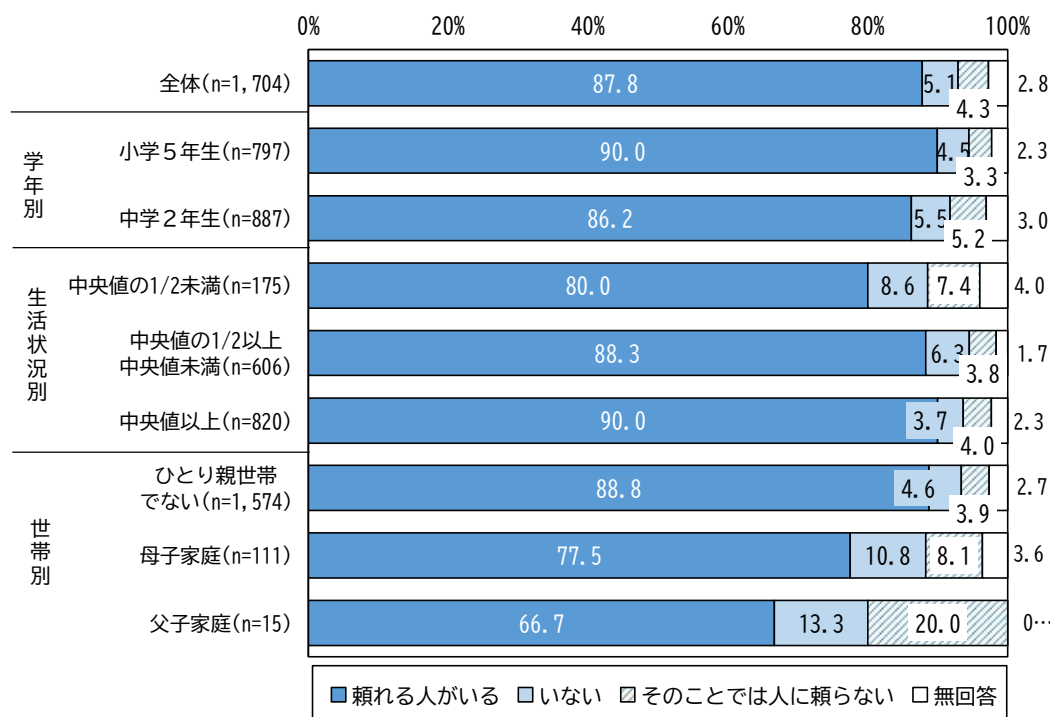
【属性別】

学年別では、「頼れる人がいる」は、小学5年生が中学2年生をやや上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「頼れる人がいる」割合が高くなっています。

世帯別では、いずれも「頼れる人がいる」が最も高いものの、「いない」は母子世帯と父子世帯で1割を超えています。また、父子世帯では「そのことでは人に頼らない」が2割と高くなっています。

頼れる人の内訳について、いずれの属性も「家族・親族」が最も高くなっています。世帯別では母子世帯で「友人・知人」や「職場の人」の割合が他の層に比べ高くなっています。



問26 頼れる人の内訳 <B 重要な事柄の相談>

単位：%

項目	家族・親族	友人・知人	職場の人	相談・支援機関や福祉の人	近所の人	民生委員・児童委員	その他	無回答
全体(n=1,496)	95.5	28.0	5.7	1.3	1.3	0.0	0.4	0.7
学年別								
小学5年生(n=717)	95.5	25.7	4.6	1.1	1.4	0.0	0.4	0.4
中学2年生(n=765)	95.6	29.9	6.7	1.6	1.2	0.0	0.4	0.9
生活状況別								
中央値の1/2未満(n=140)	85.0	28.6	5.7	0.7	0.0	0.0	2.1	2.1
中央値の1/2以上中央値未満(n=535)	96.6	28.8	4.7	1.7	0.6	0.0	0.2	0.4
中央値以上(n=738)	97.2	27.5	6.9	1.1	1.9	0.0	0.3	0.5
世帯別								
ひとり親世帯でない(n=1397)	96.3	27.3	5.4	1.2	1.3	0.0	0.3	0.7
母子家庭(n=86)	83.7	38.4	11.6	3.5	1.2	0.0	1.2	0.0
父子家庭(n=10)	80.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0

③いざという時のお金の援助

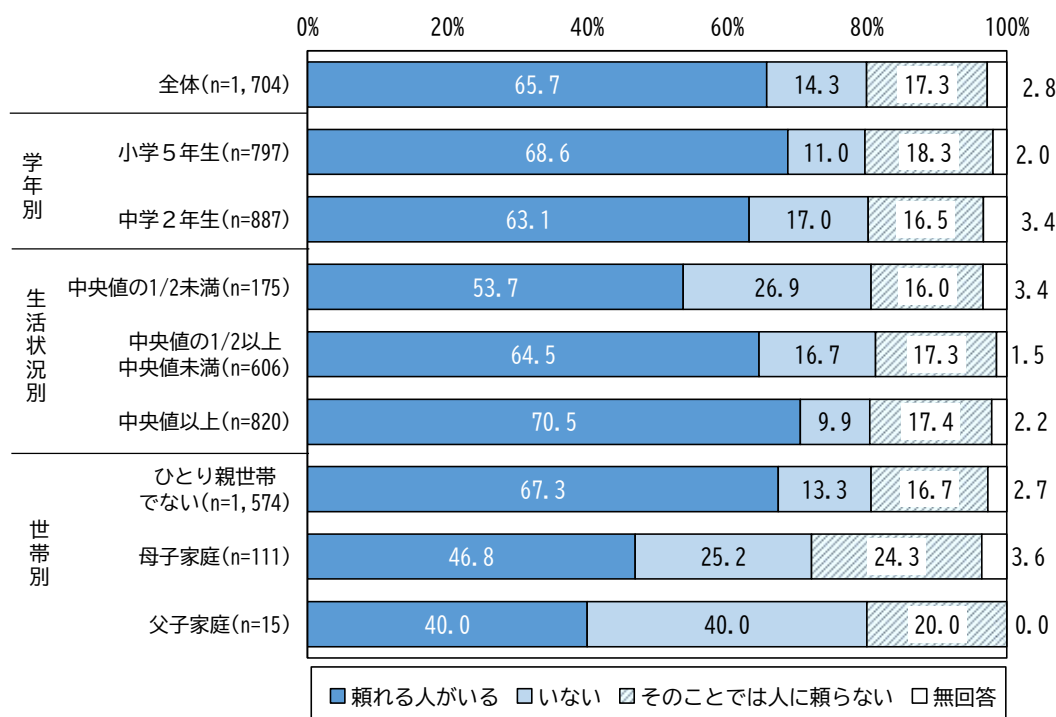
【属性別】

学年別では、「頼れる人がいる」は、小学5年生が中学2年生を上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「頼れる人がいる」割合が高くなっています。
中央値の1/2未満では「いない」が26.9%と他の層を大きく上回ります。

世帯別では、「頼れる人がいる」は、母子世帯と父子世帯では4割台と低く、「いない」は母子世帯で25.2%、父子世帯で40.0%となっています。母子世帯と父子世帯では「そのことでは人に頼らない」も2割台と他の属性を上回っています。

頼れる人の内訳について、いずれの属性も「家族・親族」が最も高くなっています。生活状況別では中央値の1/2未満、世帯別では母子世帯で「相談・支援機関や福祉の人」が4～5%と他の属性に比べやや高くなっています。



問26 頼れる人の内訳 <C> いざという時のお金の援助>

単位：%

項目		家族・親族	友人・知人	相談・支援機関や福祉の人	職場の人	近所の人	民生委員・児童委員	その他	無回答
全体(n=1,119)		97.8	2.7	0.7	0.6	0.0	0.0	0.5	0.6
学年別	小学5年生(n=547)	98.4	1.8	0.5	0.5	0.0	0.0	0.4	0.7
	中学2年生(n=560)	97.3	3.2	0.9	0.7	0.0	0.0	0.7	0.5
生活状況別	中央値の1/2未満(n=94)	89.4	2.1	4.3	1.1	0.0	0.0	2.1	2.1
	中央値の1/2以上中央値未満(n=391)	98.2	2.8	1.0	1.0	0.0	0.0	0.8	0.3
	中央値以上(n=578)	98.8	2.8	0.0	0.3	0.0	0.0	0.2	0.7
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1059)	98.1	2.7	0.5	0.7	0.0	0.0	0.4	0.7
	母子家庭(n=52)	90.4	1.9	5.8	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0
	父子家庭(n=6)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 27 あなたは、子育て（兄弟姉妹を含む）や暮らしに関する情報はどこから手に入れますか。（あてはまる番号すべてに○）

子育てや暮らしに関する情報の入手先については、「身近な人（友人や同僚、地域の人）」が 72.9%で最も高く、次いで「インターネットの相談サイトや子育て関連 SNS（ツイッター（現 X）など）」が 51.1%、「配偶者」が 40.5%、「自分の親」が 37.7%、「広報こしがや・ホームページ」が 32.6%、「兄弟姉妹や親せき」が 25.9%となっています。

【属性別】

学年別では、「配偶者」や「インターネットの相談サイトや子育て関連 SNS」は、小学 5 年生が中学 2 年生を上回ります。

生活状況別では、いずれの項目も等価世帯収入が高い層ほど割合が高い傾向にあります。

世帯別では、母子世帯で「市役所等の窓口」が 10.8%と他の層を上回る一方で、「子どもが通う保育所・園や学校の先生」は 9.9%と他の層に比べ低くなっています。

問27 子育てや暮らしに関する情報の入手先

単位：％

上位項目		身近な人 (友人や同僚、 地域の人)	インター ネットの相 談サイトや 子育て関連 SNS (ツ イッター (現X)な ど)	配偶者	自分の親	広報こしが や・ホーム ページ
全体(n=1,704)		72.9	51.1	40.5	37.7	32.6
学年別	小学 5 年生(n=797)	72.1	53.1	43.8	38.0	31.7
	中学 2 年生(n=887)	73.7	49.4	37.4	37.5	33.5
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	65.7	44.6	17.1	33.7	21.7
	中央値の1/2以上	74.9	52.1	37.6	38.0	34.3
	中央値以上(n=820)	74.6	51.6	47.9	38.3	33.8
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	73.6	51.4	43.8	38.8	33.4
	母子家庭(n=111)	66.7	47.7	0.9	24.3	24.3
	父子家庭(n=15)	53.3	40.0	0.0	26.7	13.3

項目		兄弟姉妹や 親せき	子どもが通 う保育所・ 園や学校の 先生	市役所等の 窓口	その他	無回答
全体(n=1,704)		25.9	24.2	3.3	2.8	2.4
学年別	小学 5 年生(n=797)	28.5	25.1	3.4	2.4	1.9
	中学 2 年生(n=887)	23.8	23.6	3.4	3.0	2.7
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	21.7	18.3	6.3	4.6	4.0
	中央値の1/2以上	27.1	21.8	3.3	2.8	1.7
	中央値未満(n=606)	27.1	21.8	3.3	2.8	1.7
	中央値以上(n=820)	26.7	28.0	2.7	2.4	2.1
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	26.4	25.3	2.8	2.7	2.2
	母子家庭(n=111)	19.8	9.9	10.8	2.7	3.6
	父子家庭(n=15)	20.0	26.7	6.7	6.7	13.3

問 28 現在、お子さん（兄弟姉妹を含む）のことで悩んでいることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

お子さんのことで悩んでいることについては、「特に悩みはない」が 41.8%で最も高くなっていますが、「子どもとの関わり方」が 22.1%、「子どもの反抗や暴言・暴力」が 11.7%、「子どもの病気や障がい」が 10.7%、「子どもと過ごす時間が持てない」が 8.9%、「子どもの友達関係やいじめ」が 8.6%、「家族間での教育方針の違い」が 7.3%となっています。

【属性別】

学年別では、「子どもとの関わり方」は、小学5年生が中学2年生を上回ります。

生活状況別では、中央値の 1/2 未満で「子どもとの関わり方」や「子どもと過ごす時間が持てない」「子どもの反抗や暴言・暴力」が高くなっています。

世帯別では、母子世帯と父子世帯で「子どもとの関わり方」や「子どもと過ごす時間が持てない」「子どもの不登校やひきこもり」が高くなっています。父子世帯では多くの項目で高い割合となっています。

問28 現在お子さんのことで悩んでいること

単位：%

上位項目		子どもとの関わり方	子どもの反抗や暴言・暴力	子どもの病気や障がい	子どもと過ごす時間が持てない	子どもの友達関係やいじめ	家族間での教育方針の違い
全体(n=1,704)		22.1	11.7	10.7	8.9	8.6	7.3
学年別	小学5年生(n=797)	24.6	12.2	10.5	9.5	8.3	7.4
	中学2年生(n=887)	19.6	10.9	10.9	8.2	9.1	7.2
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	30.3	14.9	14.3	17.7	13.1	4.6
	中央値の1/2以上	22.8	14.0	12.9	5.9	10.2	8.1
	中央値以上(n=820)	20.1	9.8	8.7	9.5	7.0	7.3
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	21.5	11.5	10.5	7.9	8.4	7.8
	母子家庭(n=111)	27.9	13.5	13.5	19.8	8.1	0.9
	父子家庭(n=15)	40.0	20.0	13.3	26.7	33.3	0.0

下位項目		子どもの不登校やひきこもり	学校の先生との関係	他の保護者との関係	その他	特に悩みはない	無回答
全体(n=1,704)		6.2	4.8	3.9	13.1	41.8	3.1
学年別	小学5年生(n=797)	5.6	3.4	4.8	11.0	43.0	2.8
	中学2年生(n=887)	6.9	6.2	3.0	15.2	40.6	3.3
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	12.6	5.7	5.1	16.0	27.4	3.4
	中央値の1/2以上	7.1	5.0	6.4	11.9	42.1	2.5
	中央値未満(n=606)	7.1	5.0	6.4	11.9	42.1	2.5
	中央値以上(n=820)	4.5	4.5	2.1	12.6	45.1	2.6
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	5.8	4.6	3.9	12.5	43.0	3.0
	母子家庭(n=111)	10.8	4.5	2.7	21.6	27.0	2.7
	父子家庭(n=15)	13.3	20.0	20.0	13.3	26.7	0.0

問 29 あなたが現在必要としていること、重要だと思う支援等はどうのようなものですか。（あてはまる番号すべてに○）

保護者が現在必要とすること、重要だと思う支援等については、「子どもの就学にかかる費用の軽減」が 60.0%で他を大きく上回ります。次いで「子どもの教育・進学に関する相談」が 30.3%、「様々な行政サービスの申請や相談が一つの場所でできること」が 24.4%、「病気や出産、事故などの事情があったときに一時的に子どもを預けられること」が 16.1%、「子どもや生活などの悩みごとの相談」が 13.8%、「病気や障害のことなどについての専門的な相談」が 12.9%となっています。一方で、「特にない」は 15.2%となっています。

【属性別】

学年別では、小学5年生で「病気や出産、事故などの事情があったときに一時的に子どもを預けられること」、中学2年生で「子どもの教育・進学に関する相談」がやや高くなっています。

生活状況別では、多くの項目で等価世帯収入が低いほど割合が高くなっています。特に「様々な行政サービスの申請や相談が一つの場所でできること」「一時的に必要な資金の貸付」や「自身の就職・転職のための支援」などで他の層を上回ります。

世帯別では、母子世帯で「子どもの就学にかかる費用の軽減」、父子世帯で「子どもや生活などの悩みごとの相談」が突出して高くなっています。

問29 現在必要としていること、重要だと思う支援等

単位：％

上位項目		子どもの就学にかかる費用の軽減	子どもの教育・進学に関する相談	様々な行政サービスの申請や相談が一つの場所でできること	病気や出産、事故などの事情があったときに一時的に子どもを預けられること	子どもや生活などの悩みごとの相談	病気や障害のことなどについての専門的な相談	同じような悩みを持った人同士が知り合えること	一時的に必要な資金の貸付	自身の就職・転職のための支援
全体(n=1,704)		60.0	30.3	24.4	16.1	13.8	12.9	11.7	11.5	11.2
学年別	小学5年生(n=797)	59.1	28.5	24.7	19.7	13.8	12.3	12.5	10.2	12.9
	中学2年生(n=887)	60.7	32.7	24.2	12.9	13.9	13.3	11.2	12.6	9.7
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	69.7	37.7	36.0	20.0	22.3	18.9	18.3	26.3	21.1
	中央値の1/2以上	69.6	30.4	21.9	15.5	11.7	12.9	11.6	14.4	11.6
	中央値未満(n=606)									
	中央値以上(n=820)	51.6	29.0	23.9	16.0	13.5	11.5	11.0	6.6	8.9
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	59.0	29.9	24.1	15.6	13.7	12.7	11.4	10.7	11.2
	母子家庭(n=111)	74.8	36.9	29.7	22.5	9.9	14.4	15.3	21.6	13.5
	父子家庭(n=15)	66.7	40.0	26.7	26.7	46.7	26.7	26.7	26.7	0.0

下位項目		自宅での家事や育児をヘルパー等が一時的に援助する支援	離婚や養育費についての専門的な相談	自身の就職活動のときに一時的に子どもを預けられること	必要とする住宅を探すための支援	民生委員・児童委員など地域の人からの支援	その他	特にない	無回答
全体(n=1,704)		9.7	5.2	4.4	4.0	1.9	5.2	15.2	2.5
学年別	小学5年生(n=797)	10.4	4.4	6.0	4.4	2.1	6.5	16.3	1.3
	中学2年生(n=887)	8.9	5.9	2.8	3.5	1.8	4.1	14.4	3.4
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	11.4	12.0	8.0	13.7	7.4	5.1	8.0	2.9
	中央値の1/2以上	7.6	5.9	5.6	3.1	1.0	4.8	12.7	2.1
	中央値未満(n=606)								
	中央値以上(n=820)	11.1	3.4	3.2	2.3	1.7	6.0	19.1	1.7
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	9.5	4.6	4.5	3.4	1.8	5.2	15.8	2.4
	母子家庭(n=111)	11.7	11.7	2.7	12.6	3.6	4.5	8.1	1.8
	父子家庭(n=15)	20.0	20.0	6.7	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0

5. お子さんの健康状況についておうかがいします

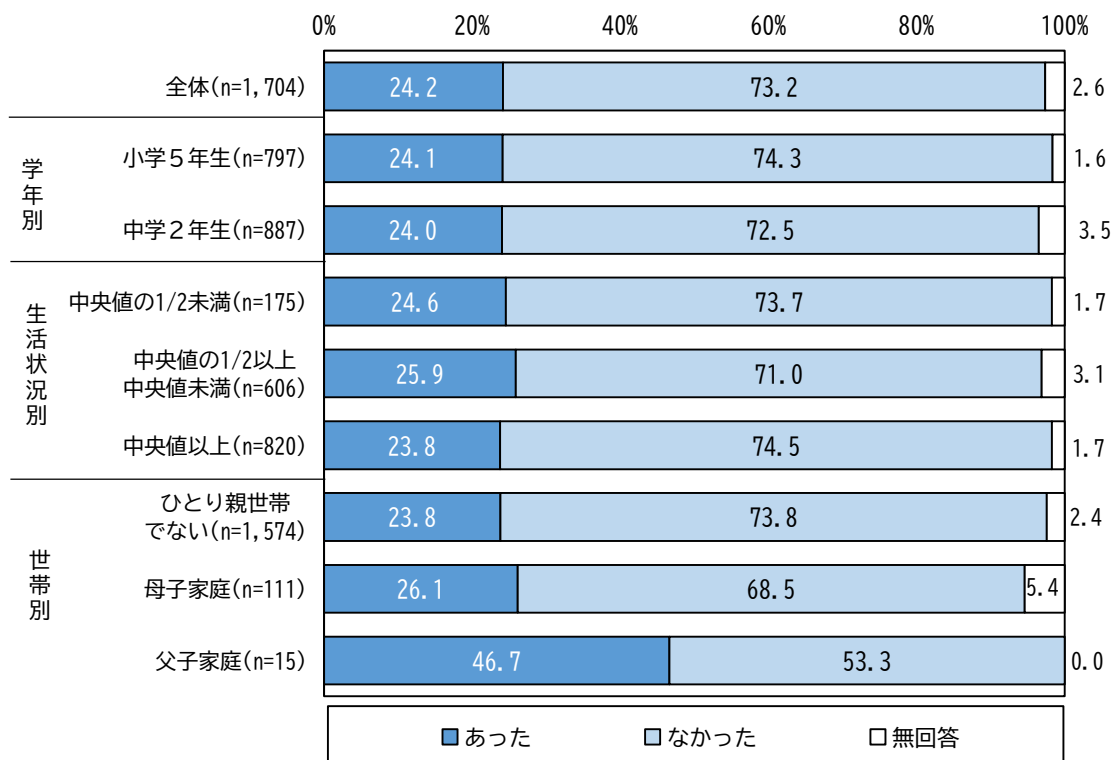
問 30 これまでに、お子さんを医療機関に連れていった方がよいと思ったが、実際には連れていかなかったことがありますか。(〇はひとつだけ)

お子さんを医療機関に連れていかなかった経験については、「なかった」の 73.2%が「あった」の 24.2%を上回ります。

【属性別】

学年別や生活状況別では、大きな差は見られません。

世帯別では、父子世帯で「あった」が 46.7%と他の層を大きく上回ります。



【問 30 で「1. あった」を選んだ方にうかがいます。】

問 30－1 医療機関に連れていかなかった理由のうち、最も近いものに○をつけてください。
(○はひとつだけ)

お子さんを医療機関に連れていかなかった理由については、「最初は受診させようと思ったけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため」が 53.2%で最も高く、次いで「忙しくて医療機関に連れて行く時間がなかったため」が 21.1%、「子ども本人が受診しなかったため」が 10.2%、「あなた自身の体調が悪くて行けなかったため」が 4.6%となっています。

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、中央値の 1/2 未満で「忙しくて医療機関に連れて行く時間がなかったため」が 30.2%と他の層を大きく上回ります。

世帯別では、母子世帯と父子世帯で「忙しくて医療機関に連れて行く時間がなかったため」が高くなっています。また、母子世帯では「あなた自身の体調が悪くて行けなかったため」が 10.3%と他の層を上回ります。

問30-1 医療機関に連れていかなかった理由

単位：％

項目		最初は受診させようと思ったけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため	忙しくて医療機関に連れて行く時間がなかったため	子ども本人が受診しなかったため	あなた自身の体調が悪くて行けなかったため	医療機関が遠く、通院が困難だったため	保険証は持っていたが、医療機関の窓口での支払いができないと思ったため	保険証を持っておらず、医療費の支払いができなかったため	その他	無回答
全体(n=412)		53.2	21.1	10.2	4.6	2.4	1.5	0.0	7.0	0.0
学年別	小学5年生(n=192)	54.2	19.8	8.9	5.2	2.6	0.5	0.0	8.9	0.0
	中学2年生(n=213)	52.6	22.5	10.8	3.8	2.3	2.3	0.0	5.6	0.0
生活状況別	中央値の1/2未満(n=43)	44.2	30.2	7.0	7.0	7.0	2.3	0.0	2.3	0.0
	中央値の1/2以上中央値未満(n=157)	52.9	18.5	12.1	6.4	0.6	3.2	0.0	6.4	0.0
	中央値以上(n=195)	55.4	22.6	8.7	2.1	2.6	0.0	0.0	8.7	0.0
世帯別	ひとり親世帯でない(n=375)	55.2	19.2	10.4	4.3	2.1	1.1	0.0	7.7	0.0
	母子家庭(n=29)	37.9	34.5	6.9	10.3	3.4	6.9	0.0	0.0	0.0
	父子家庭(n=7)	14.3	57.1	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0

問 31 お子さんは、普段、朝食を食べていますか。この 1 か月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。(○はひとつだけ)

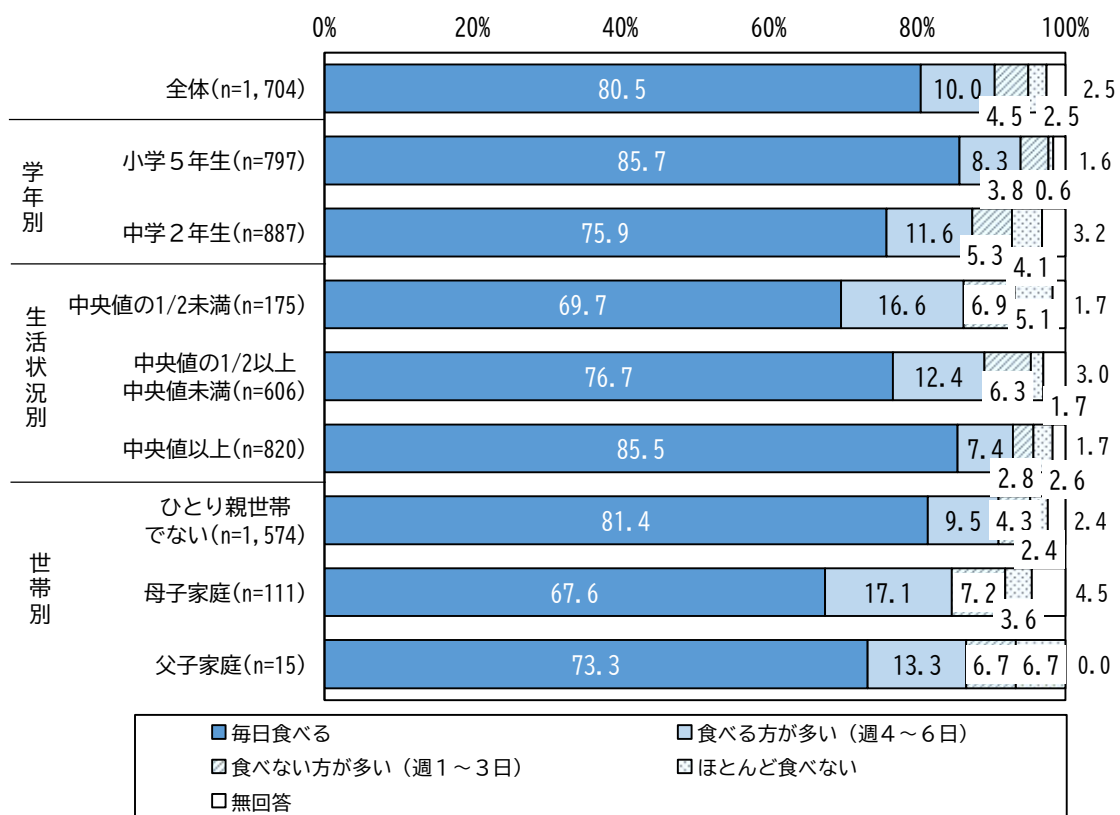
お子さんが朝ごはんを食べるかについては、「毎日食べる」が 80.5%を占めています。次いで「食べる方が多い(週4～6日)」が 10.0%、「食べない方が多い(週1～3日)」が 4.5%、「ほとんど食べない」は 2.5%となっています。

【属性別】

学年別では、「毎日食べる」は小学5年生が中学2年生を上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「毎日食べる」割合が高くなっています。

世帯別では、母子世帯と父子世帯で「食べない方が多い(週1～3日)」や「ほとんど食べない」割合が高くなっています。



問 32 お子さんは、夕食を誰と食べることが多いですか。（あてはまる番号すべてに○）

お子さんが夕食を誰と食べるが多いかについては、「親」が 88.9%で最も高く、次いで「兄弟」が 60.0%、「子ども 1 人」が 9.6%、「祖父母」が 7.2%となっています。

【属性別】

学年別では、「親」や「兄弟」は小学 5 年生が中学 2 年生を上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「親」の割合が高くなっています。中央値の 1/2 未満では「祖父母」も 1 割を超え高くなっています。

世帯別では、母子世帯で「子ども 1 人」が 15.3%と他の層を上回ります。

問32 お子さんは夕食を誰と食べるが多いか

単位：％

項目		親	兄弟	子ども 1 人	祖父母	その他	食べない	無回答
全体(n=1,704)		88.9	60.0	9.6	7.2	0.4	0.0	2.5
学年別	小学 5 年生(n=52)	92.5	64.4	3.6	7.3	0.8	0.0	1.8
	中学 2 年生(n=157)	85.9	56.3	15.1	7.1	0.0	0.0	3.0
生活状況別	中央値の1/2未満(n=29)	84.6	53.1	14.3	13.7	0.0	0.0	1.7
	中央値の1/2以上中央値未満	87.3	63.7	8.6	7.8	0.3	0.0	3.1
	中央値以上(n=102)	91.3	58.5	10.1	5.1	0.5	0.0	1.6
世帯別	ひとり親世帯でない(n=188)	89.1	60.2	9.2	7.2	0.3	0.0	2.4
	母子家庭(n=20)	86.5	56.8	15.3	6.3	0.0	0.0	4.5
	父子家庭(n=3)	86.7	66.7	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0

【問 32 で「2. 兄弟」のみ、または「4. 子ども 1 人」を選んだ方にうかがいます。】

問 32-1 お子さんが夕食を子どもだけで食べる理由はなんですか。（あてはまる番号すべてに○）

夕食を子どもだけで食べる理由については、「本人が学校、部活動、習い事・塾などで帰宅が遅くなるから」が 63.5%で最も高く、次いで「働いている保護者の帰宅が遅いから」が 33.6%、「保護者が夜間の仕事で不在となるから」が 8.5%、「保護者が育児・介護などで忙しいから」が 3.8%となっています。

【属性別】

学年別では、「本人が学校、部活動、習い事・塾などで帰宅が遅くなるから」は中学 2 年生が小学 5 年生を大きく上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「本人が学校、部活動、習い事・塾などで帰宅が遅くなるから」の割合が高くなっています。一方、中央値の 1/2 未満では「働いている保護者の帰宅が遅いから」が 62.1%と他の層を大きく上回ります。

世帯別では、母子世帯と父子世帯で「働いている保護者の帰宅が遅いから」が 6 割を超えています。

問32-1 お子さんが夕食を子どもだけで食べる理由

単位：％

項目		本人が学校、部活動、習い事・塾などで帰宅が遅くなるから	働いている保護者の帰宅が遅いから	保護者が夜間の仕事で不在となるから	保護者が育児・介護などで忙しいから	その他	無回答
全体(n=211)		63.5	33.6	8.5	3.8	14.7	2.4
学年別	小学 5 年生(n=52)	46.2	32.7	5.8	9.6	21.2	3.8
	中学 2 年生(n=157)	68.8	33.8	8.9	1.9	12.7	1.9
生活状況別	中央値の1/2未満(n=29)	34.5	62.1	13.8	0.0	3.4	3.4
	中央値の1/2以上中央値未満	60.5	26.3	6.6	6.6	23.7	2.6
	中央値以上(n=102)	72.5	30.4	7.8	2.9	11.8	2.0
世帯別	ひとり親世帯でない(n=188)	67.6	29.3	6.9	4.3	15.4	2.1
	母子家庭(n=20)	35.0	70.0	25.0	0.0	10.0	0.0
	父子家庭(n=3)	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3

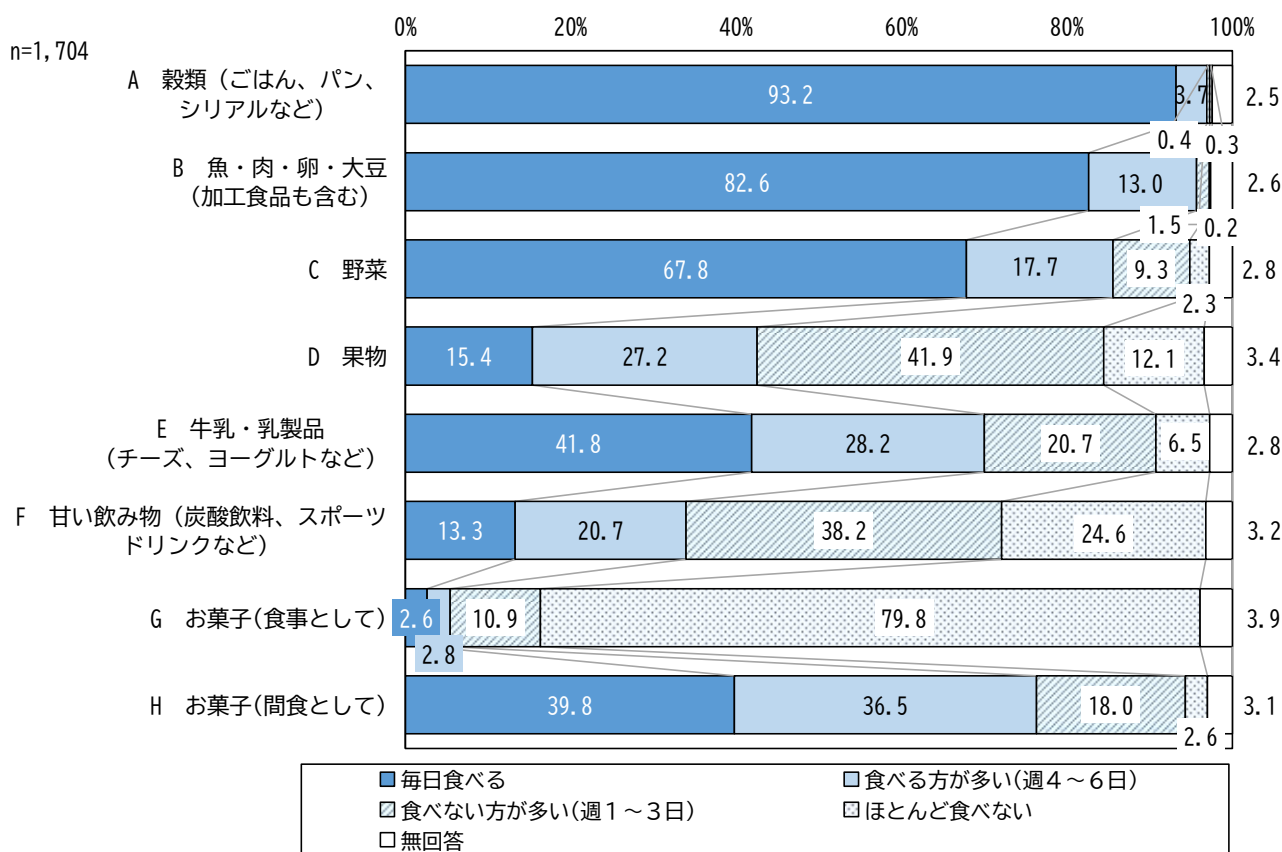
問 33 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この1か月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。(A～Hそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

食品を食べる頻度について、「毎日食べる」の割合は、〈A 穀類（ごはん、パン、シリアルなど）〉や〈B 魚・肉・卵・大豆（加工食品も含む）〉では8割を超えていますが、〈C 野菜〉は6割台、〈E 牛乳・乳製品（チーズ、ヨーグルトなど）〉は4割台にとどまります。

〈H お菓子(間食として)〉は「毎日食べる」(39.8%)や「食べる方が多い(週4～6日)」(36.5%)の割合が高くなっています。

〈F 甘い飲み物（炭酸飲料、スポーツドリンクなど）〉は「食べない方が多い(週1～3日)」(38.2%)や「ほとんど食べない」(24.6%)の割合が高くなっています。

〈G お菓子(食事として)〉は、「ほとんど食べない」が79.8%となっています。

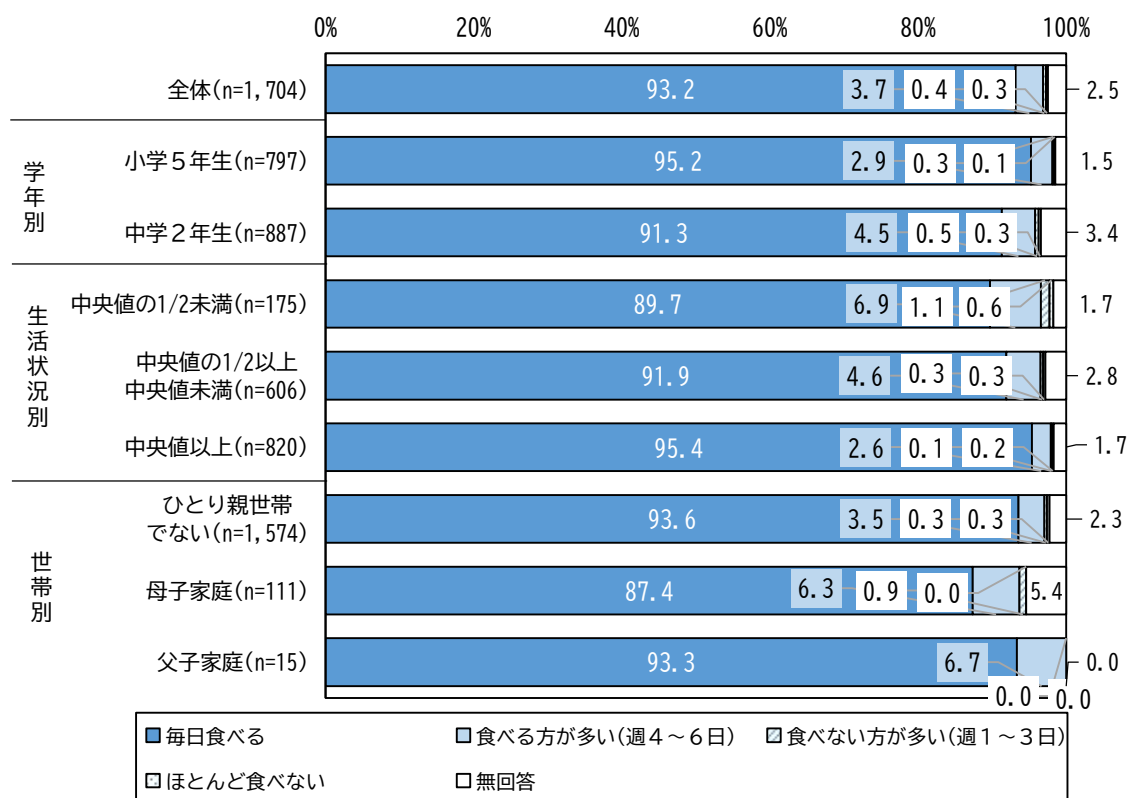


①穀類（ごはん、パン、シリアルなど）

【属性別】

いずれの属性も「毎日食べる」が最も高くなっています。

生活状況別では中央値の 1/2 未満、世帯別では母子世帯で「毎日食べる」が8割台後半となっています。



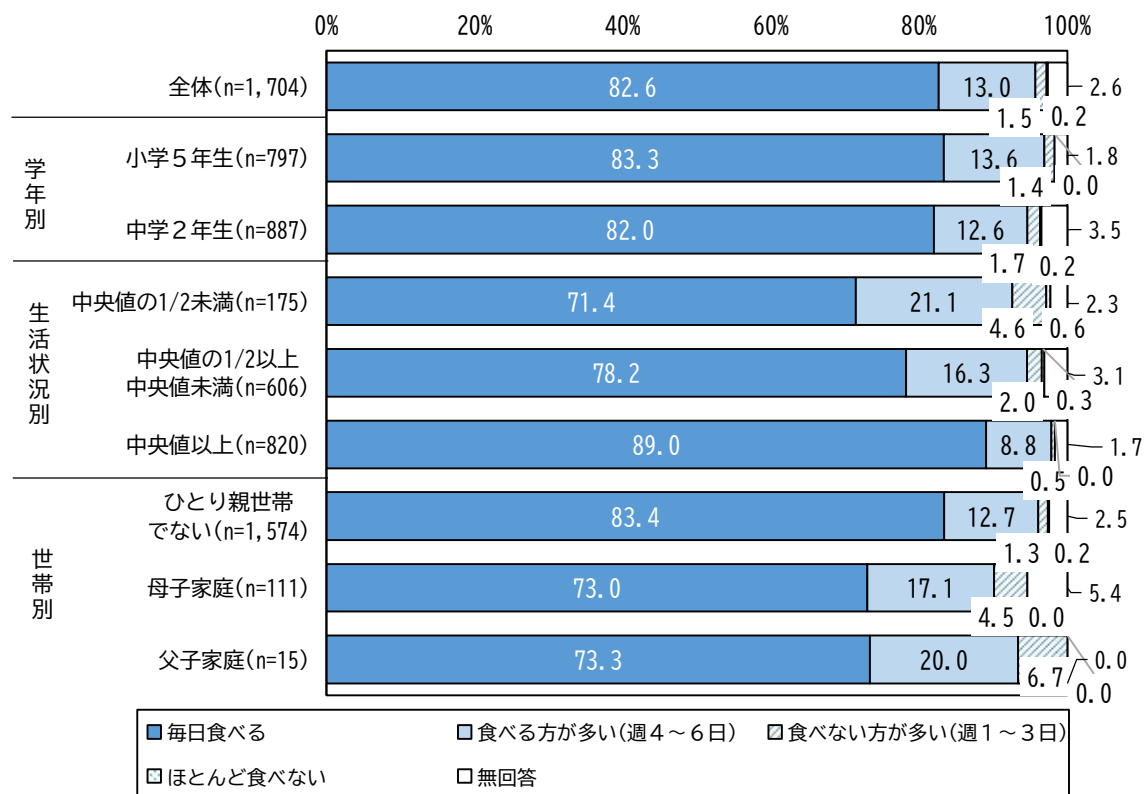
②魚・肉・卵・大豆（加工食品も含む）

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「毎日食べる」の割合が高くなっています。

世帯別では、母子世帯と父子世帯で「毎日食べる」が7割台となっています。



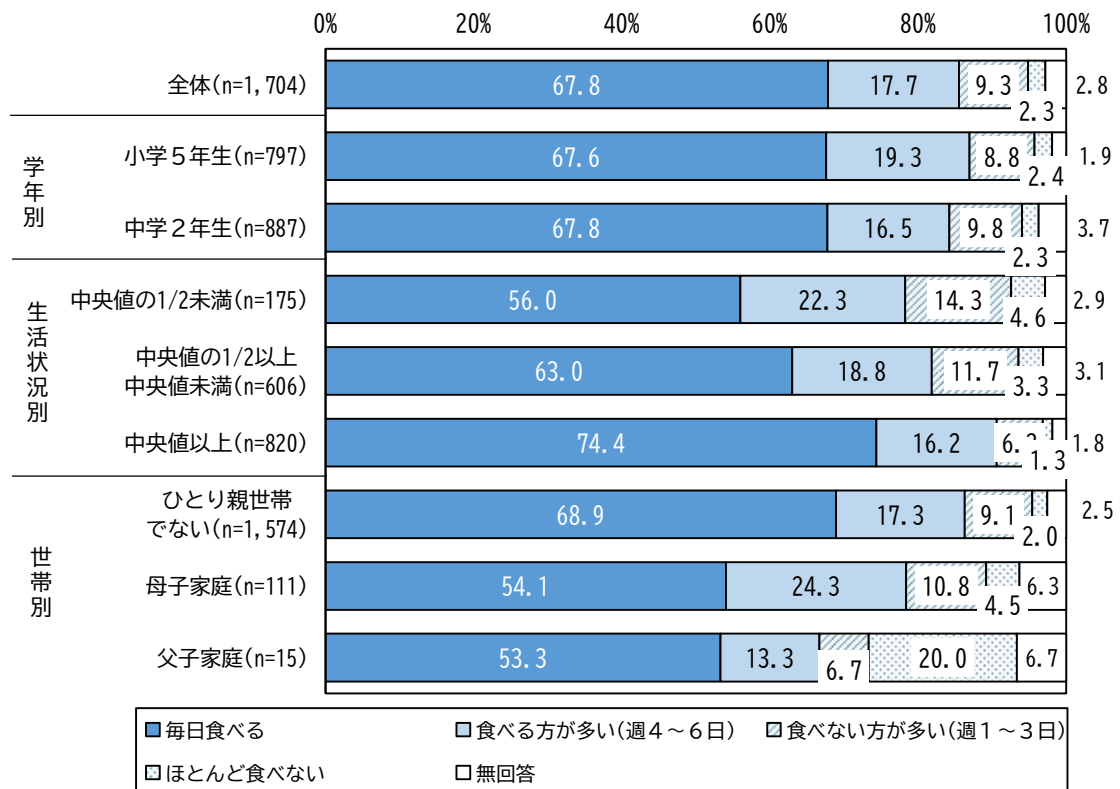
③野菜

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「毎日食べる」の割合が高くなっています。

世帯別では、母子世帯と父子世帯で「毎日食べる」が5割台であり、父子世帯では「ほとんど食べない」も2割と高くなっています。



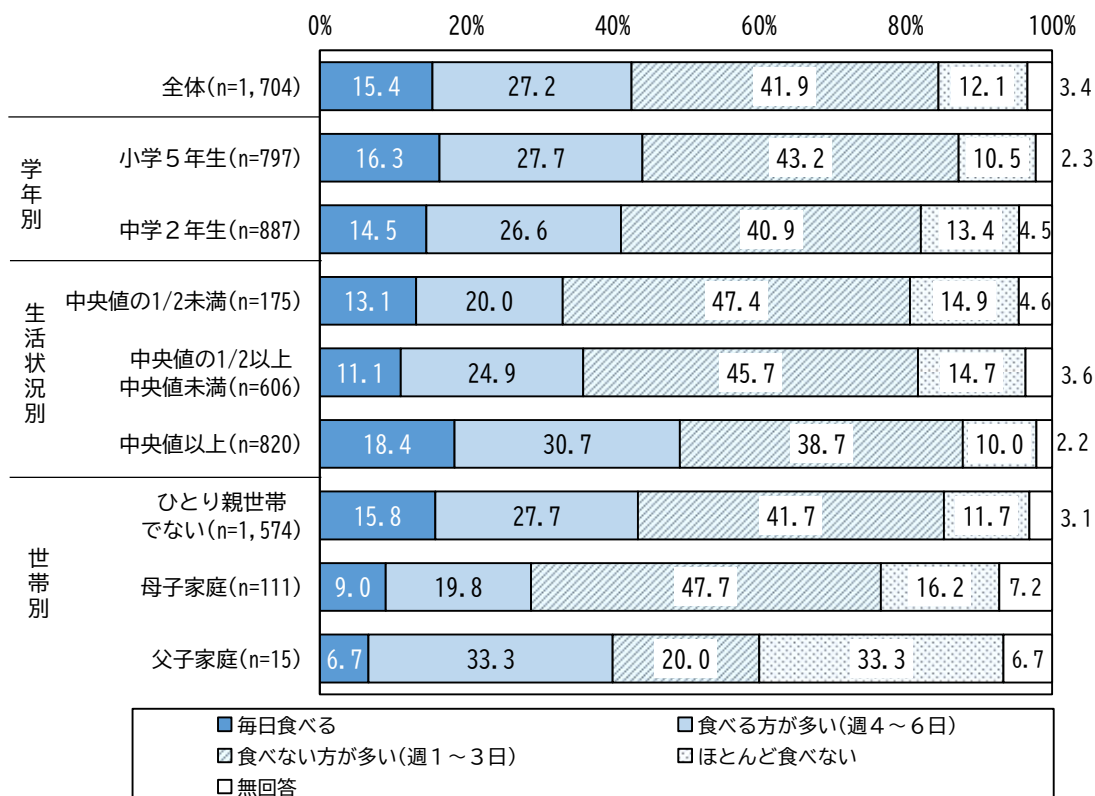
④果物

【属性別】

学年別では、「毎日食べる」「食べる方が多い（週４～６日）」は小学５年生が中学２年生をやや上回ります。

生活状況別では、中央値以上で「毎日食べる」「食べる方が多い（週４～６日）」が高くなっています。

世帯別では、母子世帯で「食べない方が多い（週１～３日）」が４７．７％と他の層を上回ります。



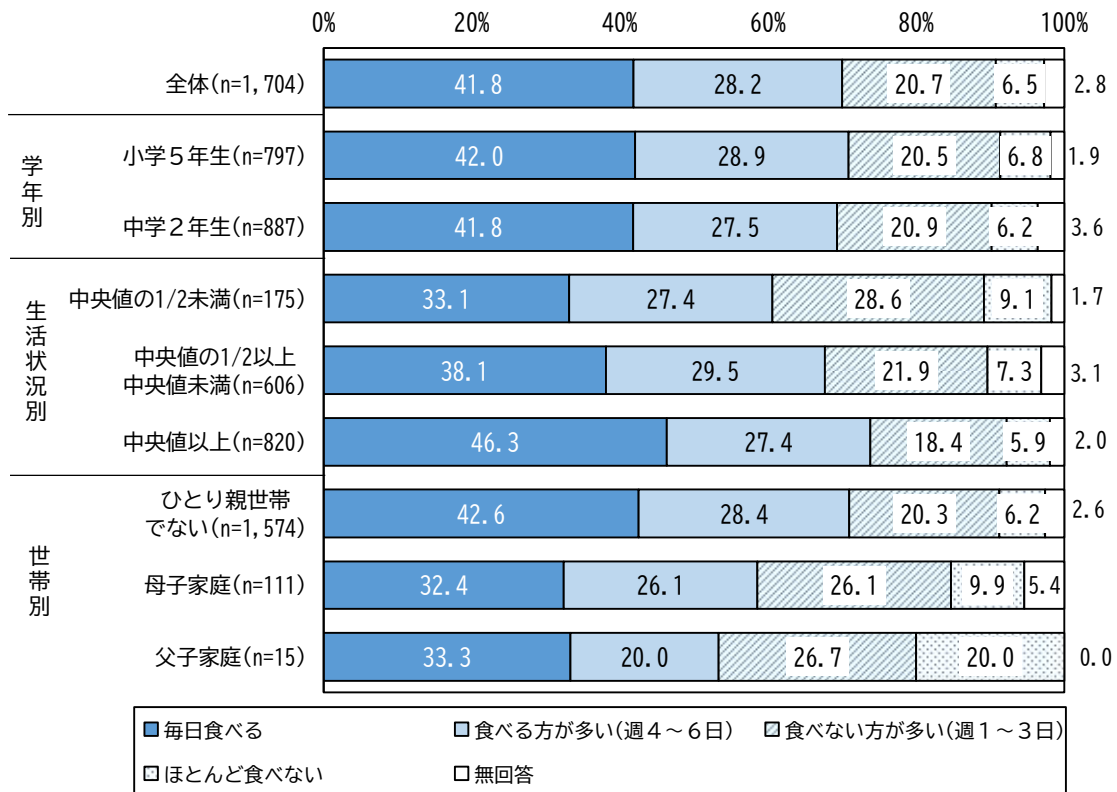
⑤牛乳・乳製品（チーズ、ヨーグルトなど）

【属性別】

学年別では、大きな差は見られません。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「毎日食べる」の割合が高くなっています。

世帯別では、母子世帯や父子世帯で「食べない方が多い（週1～3日）」「ほとんど食べない」の割合が高くなっています。



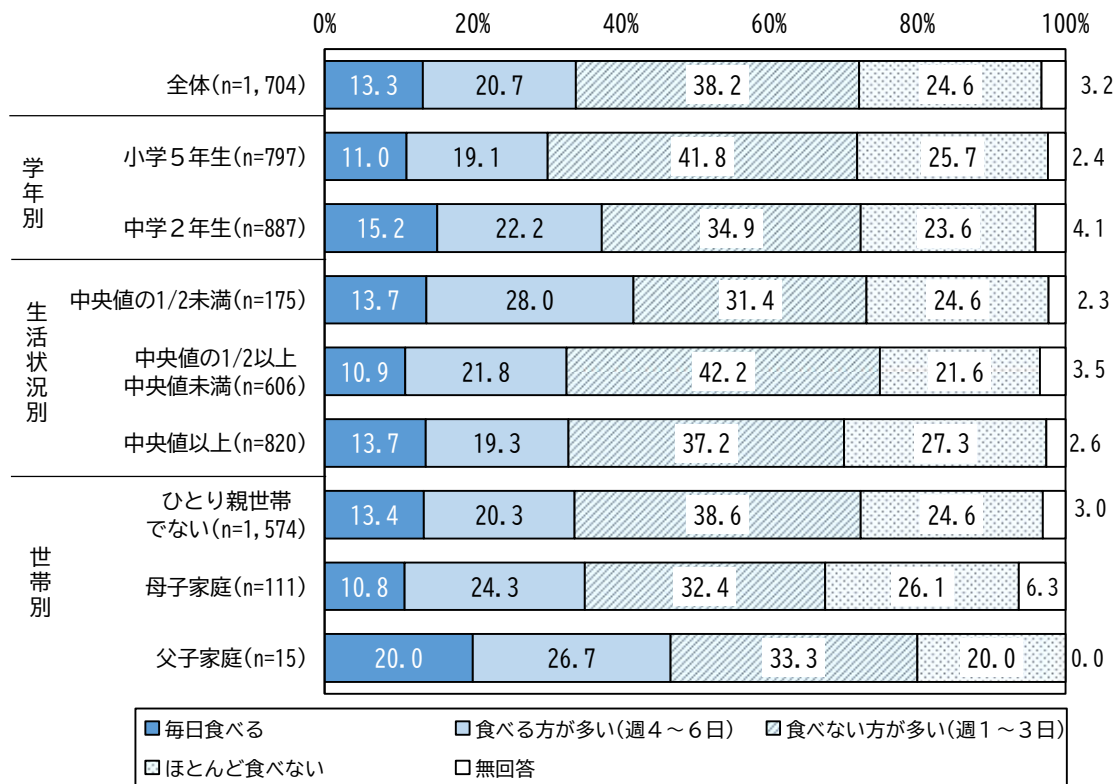
⑥甘い飲み物（炭酸飲料、スポーツドリンクなど）

【属性別】

学年別では、「毎日食べる」「食べる方が多い（週4～6日）」は中学2年生が小学5年生を上回ります。

生活状況別では、中央値の1/2未満で「毎日食べる」「食べる方が多い（週4～6日）」が他の層をやや上回ります。

世帯別では、父子世帯で「毎日食べる」が2割と他の層を上回ります。



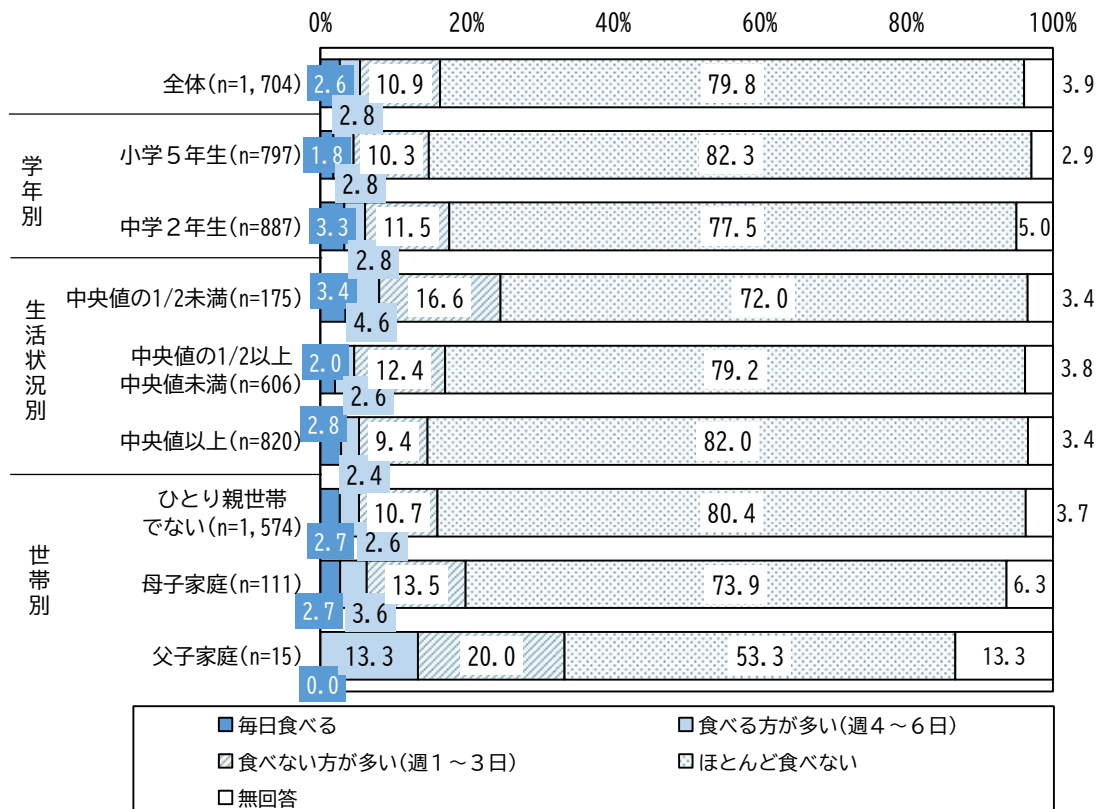
⑧お菓子(食事として)

【属性別】

学年別では、「ほとんど食べない」は小学5年生が中学2年生を上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「ほとんど食べない」の割合が高くなっています。

世帯別では、父子世帯で「食べる方が多い(週4～6日)」や「食べない方が多い(週1～3日)」の割合が高くなっています。



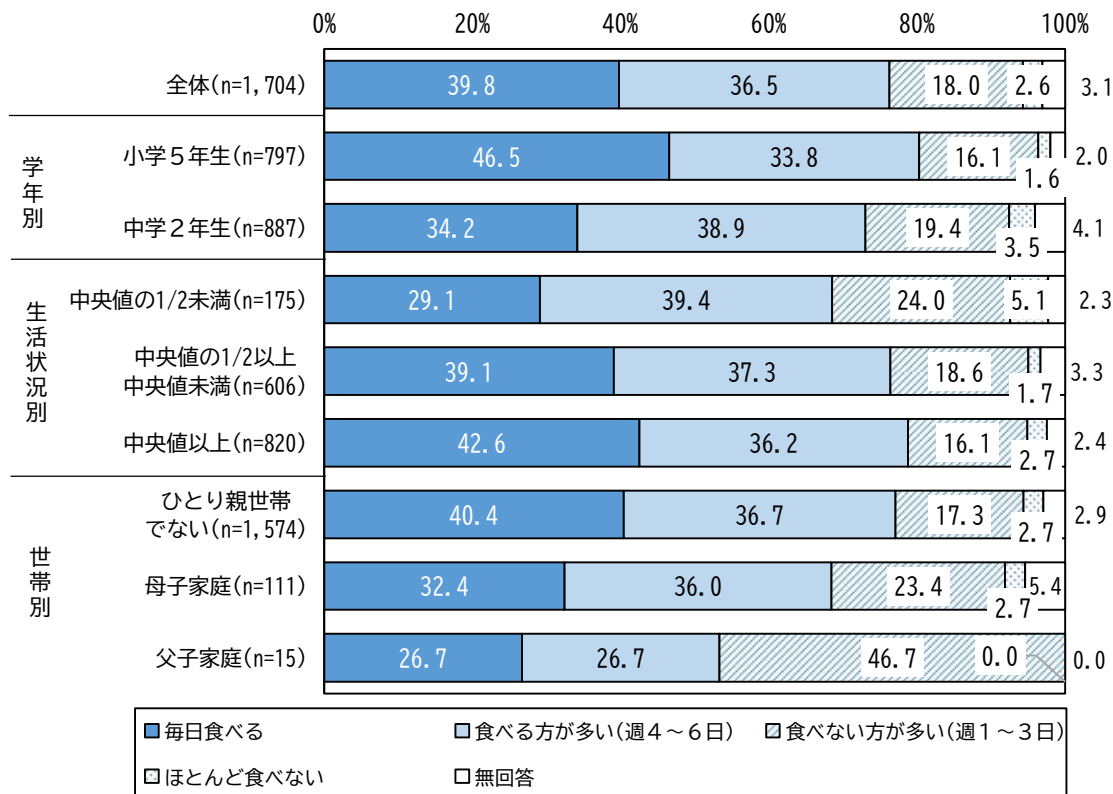
⑨お菓子(間食として)

【属性別】

学年別では、「毎日食べる」は小学5年生が中学2年生を大きく上回ります。

生活状況別では、等価世帯収入が高いほど「毎日食べる」の割合が高くなっています。

世帯別では、母子世帯では「食べる方が多い(週4～6日)」、父子世帯では「食べない方が多い(週1～3日)」の割合が高くなっています。



問 34 お子さんの歯や口のことで、気になることがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

お子さんの歯や口で気になることについては、「歯ならび」が 39.5%で最も高く、次いで「歯の汚れ」が 20.8%、「むし歯」が 20.2%、「口のにおい」が 15.3%、「かみ合わせ」が 14.7%、「歯のはえかわり」が 6.7%となっています。一方で、「気にならない」は 26.2%となっています。

【属性別】

学年別では、「歯ならび」「口のにおい」「歯のはえかわり」は小学5年生が中学2年生を上回ります。

生活状況別では、中央値の1/2未満で「むし歯」が 28.6%と他の層を上回ります。

世帯別では、母子世帯で「むし歯」が 27.9%と他の層を上回ります。また、父子家庭で「気にならない」が 40.0%と他の層を上回ります。

問34 お子さんの歯や口のことで気になること

単位：％

項目		歯ならび	歯の汚れ	むし歯	口のにおい	かみ合わせ	歯のはえかわり	歯ぐきから血が出る・はれている	気にならない	無回答
全体(n=1,704)		39.5	20.8	20.2	15.3	14.7	6.7	2.6	26.2	3.3
学年別	小学5年生(n=797)	45.8	21.8	21.8	19.4	16.6	10.4	3.1	21.0	2.0
	中学2年生(n=887)	34.0	20.0	19.2	11.6	13.1	3.4	2.3	30.7	4.4
生活状況別	中央値の1/2未満(n=175)	38.3	26.9	28.6	18.9	16.6	6.3	1.7	26.3	4.0
	中央値の1/2以上									
	中央値未満(n=606)	40.9	20.6	21.6	17.7	16.7	7.1	2.6	22.1	3.3
	中央値以上(n=820)	39.5	20.2	17.6	12.9	13.5	6.2	3.0	29.3	2.4
世帯別	ひとり親世帯でない(n=1,574)	39.5	20.3	19.8	15.2	15.0	6.9	2.8	26.5	3.1
	母子家庭(n=111)	42.3	28.8	27.9	17.1	13.5	3.6	0.9	19.8	6.3
	父子家庭(n=15)	20.0	20.0	13.3	13.3	0.0	6.7	0.0	40.0	6.7

問 35 お子さんにはむし歯がありますか。(○はひとつだけ)

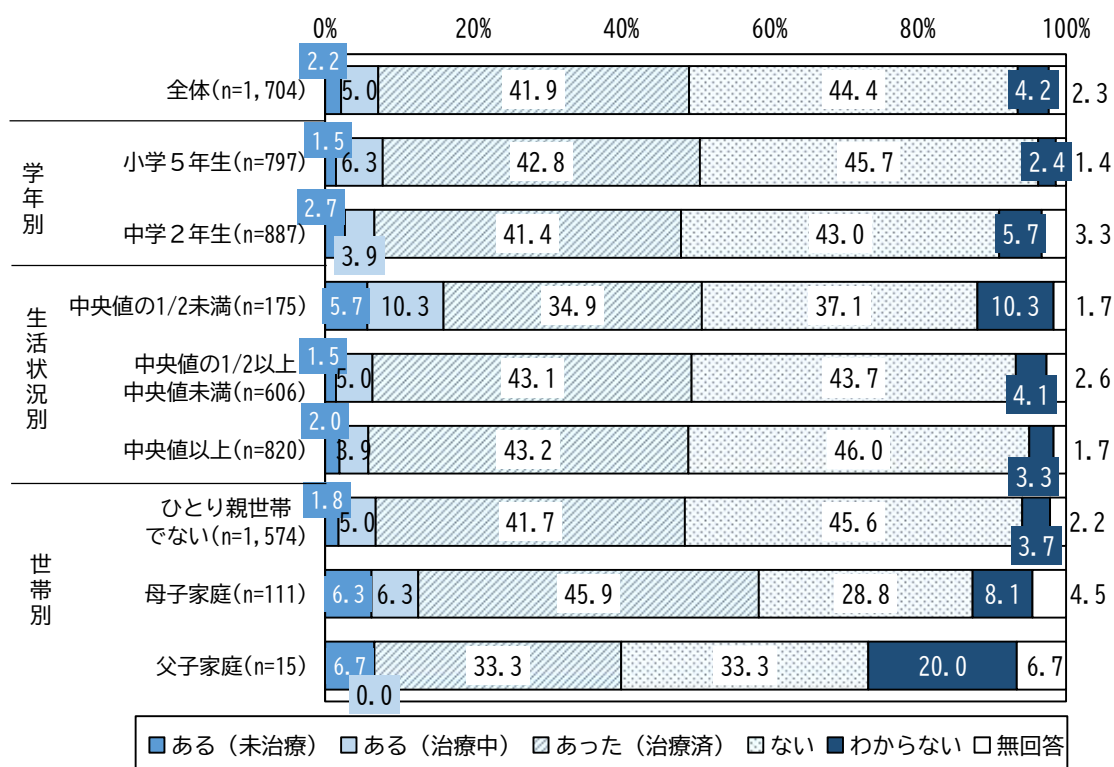
お子さんにむし歯があるかについては、「ない」が 44.4%で最も高く、次いで「あった（治療済）」が 41.9%、「ある（治療中）」が 5.0%、「ある（未治療）」が 2.2%となっています。

【属性別】

学年別では、「ある（治療中）」「あった（治療済）」は小学5年生が中学2年生をやや上回ります。

生活状況別では、中央値の 1/2 未満で「ある（未治療）」と「ある（治療中）」の割合が他の層を上回ります。

世帯別では、母子世帯で「ある（未治療）」と「ある（治療中）」が高くなっています。また、父子家庭で「わからない」が 20.0%と他の層を上回ります。



問 36 お子さんは毎食後に歯をみがいていますか。(○はひとつだけ)

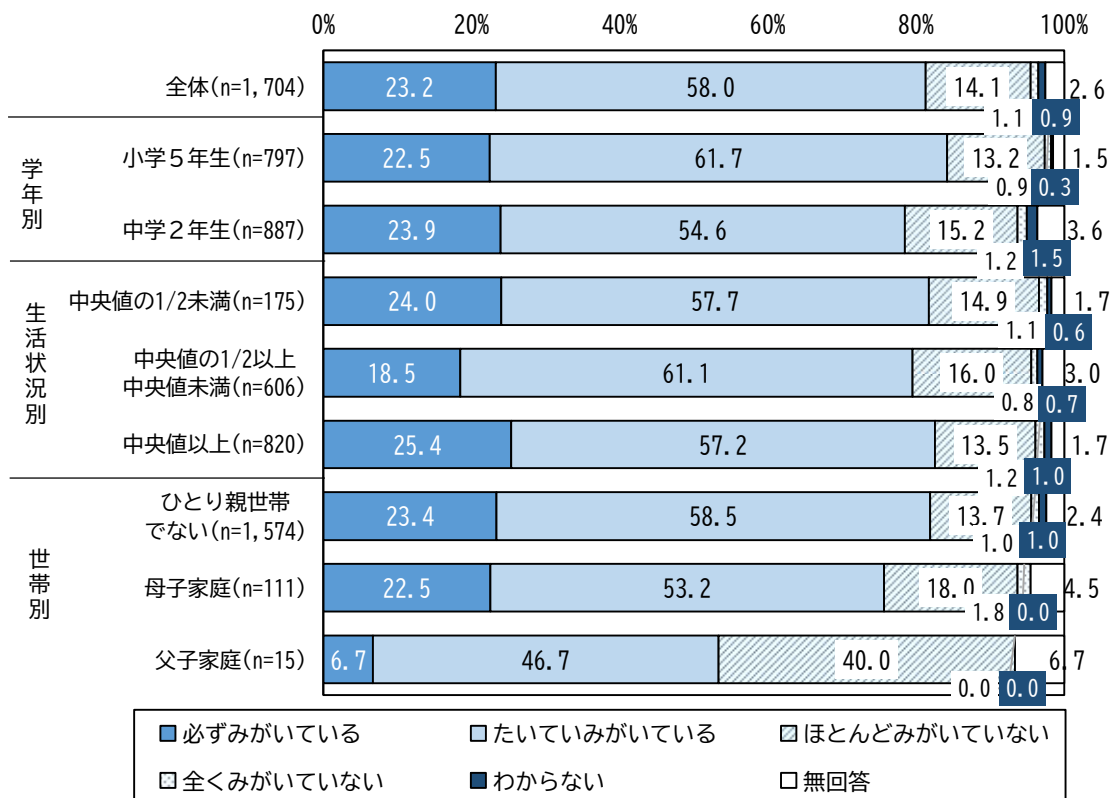
お子さんが毎食後に歯をみがくかについては、「たいていみがいている」が 58.0%で最も高く、次いで「必ずみがいている」が 23.2%、「ほとんどみがいていない」が 14.1%となっています。

【属性別】

学年別では、「たいていみがいている」は、小学5年生が中学2年生を上回ります。

生活状況別では、中央値の 1/2 以上中央値未満で「たいていみがいている」の割合が高くなっています。

世帯別では、父子世帯で「ほとんどみがいていない」の割合が高くなっています。



V 関係機関・団体調査

1. 調査の概要

国のこども・子育て政策が大きく変化するなかで、すべてのこども・若者が幸せな今を生き、健やかに成長していけるよう必要な方策を検討するため、関係する機関・団体の皆様に対し、ヒアリング調査及びアンケート調査を実施しました。

2. 調査対象及び調査方法・調査期間

区 分	調査対象
A ヒアリング調査	・教育センター ・青少年相談室 ・フリースクール（越谷らるご） ・児童発達支援センター ・こども食堂（ぼらむの家） 計 5 団体
B アンケート調査	・保育園、幼稚園、認定こども園 ・民生委員・児童委員協議会 ・子育て支援関係団体 ・児童相談所 ・こども食堂 ・庁内関係機関（ファミリー・サポート・センター、子育てサロン） 計 75 団体

■調査方法

A：調査票に基づき、各対象団体を訪問の上、ヒアリングを実施した。

B：調査票を郵送より配布・回収し、意見聴取を実施した。（回収数 53 団体、回収率 70.7%）

■調査期間

A：令和6年1月15日（月）

B：令和6年2月5日（月）～26日（月）

3. 調査項目

- こどもの貧困対策について
 - ・該当するこどもや家庭の背景や特徴
 - ・生活や学習における特徴的な状況
 - ・経済的困窮が与える影響や課題
 - ・こどもや保護者に必要な支援 等
- 外国籍のこどもへの対応について
- 普段接するこどもを代弁しての意見

A ヒアリング調査

1. こどもの貧困対策について

(1) こどもの貧困対策に関する意識的な取組

区分	具体的な内容
教育センター	・ 貧困家庭が抱える複合的な課題を探るため、保護者の困り感の確認。 ・ 生活を安定させるため、生活保護を受給していなければ、まず利用につなげている。 ・ 庁内各課との連携による必要な支援の提供と保護者の気持ちに寄り添った対応を心がけている。 ・ 学習支援事業等の制度（対象となる学年や生活保護世帯非該当など）からこぼれ落ちる児童生徒に対する支援・つなぎ先が課題。
青少年相談室	・ 関係機関との連携、情報共有。利用できる支援窓口を伝えること。 ・ 電話しても解決しないと分かりつつ、今の状況が大変だということを毎週相談される人もおり、傾聴を心がけている。 ・ 相談者は、大学や専門学校入学時に奨学金が必要な保護者等で生活保護受給者の方が多い。奨学金については、行政への相談にあたりどう説明すればよいか、心構え等の相談も多い。 ・ 奨学金申請時の作文作成の相談等、こども・若者の当事者からの相談もある。
フリースクール	・ 会費については減免制度を設け、経済的に厳しい家庭でも利用できるようにしている。 ・ 学習支援や居場所づくりを中心としているため、「貧困」に限定しなければ、関連する内容が多いと感じる。間接的に貧困の連鎖を断ち切ることに繋がればよい。
児童発達支援センター	・ 貧困の問題を抱えている保護者は、「支援を受ける」「情報を得る」「誰かに相談する」ということが苦手な人が多いと思うため、関係づくりを進め居場所を作ることが中心となる。
こども食堂	・ 食事の提供のほか、受験のことで困っている生徒への支援など、こどもが、親でも先生でもない、困った時に頼れる第3の居場所になるよう心がけている。つながり続けることでできることがある。

(2) 貧困以外で抱えている問題について

区分	具体的な内容
教育センター	・ ひとり親世帯、外国籍、保護者の虐待・DV 経験、保護者の障がい・疾患等、問題の複合化・複雑化がある。 ・ DV 等による母親の精神疾患が増加している。最も気になるのが母1人子1人で、母親が精神障がいのケース。そうなると子はヤングケアラーになることを強いられ、子への精神的な影響が大きい。いわゆる孤立世帯になっている。どう支援につなげていくかが課題。 ・ 外国籍市民が増加。最近はナイジェリアやフィリピン国籍が多く、一定の地域に集住する傾向がある。
青少年相談室	・ 経済的な困窮以外では、保護者本人の障がいについての相談が多くなっている。発達障がいや知的障がい、家族で通院が必要な方がいる場合の相談が多い。
フリースクール	・ ひとり世帯、保護者の虐待経験、DV 経験、障がい、生活支援が該当。自立援助ホームの活動もしており、児童相談所から措置されてくる場所なので該当項目が多い。
児童発達支援センター	・ 保護者の方の精神的な疾患、多子世帯、こどもが障がいを持っているケースがある。

こども食堂	・活動をする中で耳にする、それぞれの家庭に関する噂、ネグレクト、ステップファミリーである等の情報を把握し、アプローチする。
-------	---

(3) 生活や学習の様子で特徴的な状況

区分	具体的な内容
教育センター	・欠食・生活習慣、身なり・所持品、学習習慣・意欲、不登校・中退・退学、家庭や地域での居場所がないこと等が該当する。 ・食事をきちんとしていないこどもがおり、給食がない長期休みが心配。夏休みには時々訪問し、健康状態を確認している。 ・小学2年生で永久歯が全てむし歯であるような「デンタルネグレクト」が生じるケースもある。父母揃っており、歯科受診を促してもいるが、「忙しい」「面倒」と断られてしまうなど、子の健康状態に無関心。 ・こどもの健康面への関心がない家庭は、孤立家庭、ネグレクト、不登校、母親が精神疾患である家庭が多い。周囲の積極的な関わりが重要。
青少年相談室	・不登校が最も多い。経済的な事情による不登校の相談については、現在はないが、以前学校でスクールカウンセラーをしていた時は、貧困と不登校が結びついているケースは多く存在した。家庭が安定せず不登校になっているこどもは多い。 ・不登校でどうしたらよいかわからない、学校に通わせる方がいいのか、他の教育手段をとった方がいいのか、悩んで相談に来る保護者が多い。
フリースクール	・欠食・生活習慣をはじめ、複合的な形でつながりがあるため、問題が1つだけというケースは少ない。
児童発達支援センター	・生活習慣や食事内容については、こどもが元々持っている特性があるため、生活が整えづらい部分がある。 ・出かけることが難しい場合は、地域とのつながりが薄い。こどもの障がい等、特性として地域に出づらくともあるのではないかな。
こども食堂	・不登校になるのは、早寝早起の習慣がないため。家庭での欠食により、給食目当てで学校に行っているこどももいる。 ・進学相談が親にできない。通信制の学校を通いたいと思っても、わずかな授業料等も払ってもらえず、兄弟と自分のお小遣いで支払いをしたこどももいる。学校の先生に相談しても、個人情報で学校としては支援が難しい。そうした関わりを持っても最後まで見届けられないことがありもどかしい。

(4) 保護者との関係で特徴的な状況

区分	具体的な内容
教育センター	・顔色をうかがう、甘えられない、会話が少ない、ふれあう機会が少ない、無関心が該当する。 ・家庭内に支配関係がある。家庭内別居のように、こどもは自分の部屋にしか居場所がない。 ・ネグレクト家庭では、親に要求する、困っていることを伝えることを諦めているこどもが多い。 ・ペットの世話はするが、自分のこどもには無関心という親がいる。
青少年相談室	・経済的に困窮している保護者の相談の場合、こどもが親を責めるケースがある。お金がないことに対してではなく、母親が不安定な状態でこどもとの接し方についてのことが多い。 ・親子ともに自己肯定感、自尊心が低い。
フリースクール	・自立援助ホーム入所の場合、保護者と完全に関係が切れているケースも多く、親の無関心は気になっている。 ・フリースクールはお金がかかるため、積極的な保護者が多い。経済的に困窮していても何とかしたいと思っている方が利用している。

児童発達支援センター	・ こどもの障がいの特性によって、親とふれあう機会が少ないことがある。
こども食堂	・ こどもが保護者との関係をうまく作ることができない。その親も支援を受けようとせず、一人で頑張ろうとする。市や学校のフォローが必要。

(5) 経済的困窮が与える影響や課題

区分	具体的な内容
教育センター	・ 不登校が低年齢化により基礎学力が身に付かない。 ・ 不登校の生徒の進学時には定時制高校を薦めることが多いが、欠席が重なり単位が取れずに進級できない。通信制高校は学費が高い。 ・ 不登校により、友達付き合いの経験も不足。「おあしす」に来て、初めて同級生同士で会話をする楽しさを覚えて少しずつ心を開いていく。 ・ 自己肯定感が低い、丁寧な指導により勉強ができた喜びを初めて味わい、勉強に意欲が出るこどもがいる。こどもは心境の変化でぐんと伸びるので、変えられるチャンスはある。 ・ 母親が過労でこどもと接する時間が減り、ネグレクトになるケースがある。
青少年相談室	・ 居場所について、発達障がいのある保護者は、特性を理解してもらえる場所としてこばと館の絵画教室を息抜きのために利用する方もいる。
フリースクール	・ 不安感から来る心身の健康への影響が大きいと思われる。 ・ 自立援助ホームの場合は、問題の根幹は経済的困窮ではない。親が養育できないのは、その親の育ってきた環境も大きく関係する。 ・ 自己肯定感や自尊心の低さは全てにつながってくるので、就学や就労の意欲が削がれ刹那的な生き方になってしまうのではないかな。
児童発達支援センター	・ 心身の健康への影響はある。保護者の気持ちの余裕やよりどころがない状況がこどもにも影響する。自立能力形成への影響もある。 ・ 学校に通いながら放課後デイや療育に通うことになっても、保護者が付き添えないことがあるため、就学後の支援が必要。 ・ 本来持っている能力を自立に向けて十分に発揮できない。
こども食堂	・ 心身の健康への影響、進学、対人関係、自立能力の形成、自己肯定感・自尊心の低下が該当する。学力は意欲の問題だと思われ、こどもも先生も親も、どうすればいいかわからなくなっている。

(6) 生活困難なこどもや保護者に必要な支援

区分	具体的な内容
教育センター	・ 傾聴、否定しないで聞くことが大事である。 ・ 精神的に不安な場合、心の健康支援室と一緒に相談対応をしてくれる。他の自治体よりも市内の連携が取れていて、とてもやりやすいと感じている。
青少年相談室	・ 障がいのある保護者で「良いことが何もない」「お金もない」「どこにも行けない」、人に非難されることが多く、「外に出るのが怖い」と話す人が多いため、安心して行ける場所、専門的なスタッフがいる場所で過ごす時間が大切。
フリースクール	・ 生活保護の権利があることを伝えている。個人で申請が難しい場合は団体に声をかけたり、役所につなぐ。保護者が一人で抱え込まない、孤立しないことが大事である。保護者が追い詰められて生活していると、こどもはそれを感じとってしまう。
児童発達支援センター	・ (こどもの障がい等により) 保護者が疲弊してしまう時があるので、こどもと離れて保護者の就労や自分の時間を確保できるようにすることが必要。 ・ 保護者の孤立を防ぐため、直接貧困と関わる機関ではないところで、普段と同じように話せる場所が必要ではないかな。 ・ 自分に利益がある情報を信頼できる方から伝えてもらうことが一番支援につながりやすい。それとともに、関係機関の情報共有が重要である。

こども食堂	・居場所づくり、相談・傾聴・声かけのほか、情報共有も重要である。 ・具体的には、生活保護の申請に動向したことがあるが、保護者からは「行政は敷居が高い」と思われている。相談で訪れた際の窓口の印象が原因だと思われる。
-------	---

(7) 生活困難な子どもや保護者に対する市の取組

区分	具体的な内容
教育センター	・就労支援だけでなく、家庭全体の状況を把握することが重要。一部のケースワーカーは保護者だけを見ていることがあるため、家庭全体を見てほしい。 ・おあしすも4か所に増えるが、自宅から距離があると通うのが難しい。小学生の場合、保護者の送迎が必要だが、それがハードルとなることもある。自分で通える場所での開設や送迎の支援が必要か。
青少年相談室	・市の窓口・担当者は相談者をよく見ていると実感。 ・青少年相談室、生活福祉課、こころの健康支援室、民間事業所等で、相談を使い分けている方が多く、連携が取れている。
フリースクール	・窓口があっても活用しにくいものが多い。子ども家庭部でやっても、それが生活保護の福祉課と連携が取れるのかが気になっている。生活保護のことで福祉課に一人で行くと追い返されてしまうことがあり、敷居が高いイメージがある。一緒に付いてきてくれる等、トータル的なマネジメントがあると安心感に繋がると思う。市全体で支える窓口ができれば一番良いのではないかな。 ・こどもの包括的支援が少ない。
児童発達支援センター	・センターに来た方には何かしらの支援と繋がりを持てるが、経済的に困窮している保護者の背景として、保護者自身が障がいを持っていたり、社会で出ることが難しいことが原因の経済困窮の場合は、お子さんへの影響が大きい。生活を建て直すことが第一だが、保護者とお子さんを同時進行で支援ができれば良いと思う。 ・生活トータルをコーディネートしてくれる機関があると良い。
こども食堂	・こどもは小学5年生ぐらいから活動範囲が広がるので、自炊等生きる力を教えた方が良い。親ではなく、こども本人への支援が必要であり、親とこどもをセットで考えない方が良い。

(8) 市への意見・要望

区分	具体的な内容
教育センター	・支援団体が増えているが、越谷こども食堂のように週5日利用できる場所は少ない。「りそな YOUTH BASE」(せんげん台)の開設により、北部の住民が利用しやすくなった。フードバンクも実施しており、おやつ提供もある。 ・越谷市は中核市であるが、スクールソーシャルワーカーが3人しか配置されていない。毎年度要望を出す、6年目でも予算がなかなか増えない。中学校に1人常駐は難しいとしても、最低限5人配置にしてほしい。 ・SSWの常駐により、困難ケースの早期発見・早期支援が可能となる。まずは人数を増やして、中学校に常駐できるようにしてほしい。 ・アスポートについても、越谷駅前だと通えるこどもに限られるため、実施場所を増やしてほしい。
青少年相談室	・相談内容によって、庁内のどこにつなげばよいか、相談先と内容が一覧になっているマニュアルがあるとよい。
フリースクール	・フリースクールはお金がかかるイメージがあり、経済的に厳しい家庭はそもそも選択肢に入らない。経済的に厳しい家庭もフリースクールを利用できるよう周知してほしい。ただし、利用料の減免にも限度があるので、財政的な支援があれば助かる。外国籍市民にも利用してほしい。

児童発達支援センター	・ 支援を必要としている人は多いと思うので、生活をトータルで見てくれる支援、こどもの将来も考えた関わりが持てる支援が必要である。 ・ 保護者の問題の背景を含めると、相談のあった最初の問題だけ进行处理のではなく、継続的な支援をしてほしい。こどもへの影響や連鎖を防ぐために、こどもの学習機会の保証、信頼できる大人とのつながりや経験を積める機会が必要。
こども食堂	・ 市のスペースを開放して、中高生の居場所を作ってほしい。市は学習ができる場所を開放し、そこにこども食堂がキッチンカーで行き、食事の提供することもできる。そうしたスペースを活用したい人や NPO 法人はたくさんいるため、彼らのノウハウを市は活用して、場所だけ提供してほしい。実現できれば、市の魅力の向上にもつながるのでは。最低賃金と活動費があればよいので、年間数百万円で運営が可能。 ・ 学童は母親の就労等の要件があり、3年生位までしか利用ができない。家庭の経済状況により、放課後の居場所の有無や質に差が出ている。 ・ 一人で留守番させないために塾に行かせるという考え方の家庭もある。経済状況により塾に行けないこどもたちは居場所がないということになる。 ・ 毎週土曜日にトライの講師による無料の学習支援があるが、そうした学習支援を兼ねた居場所づくりが必要。 ・ こども食堂は数が限られるため、学校を巡回して希望者に支援するのが理想である。 ・ アスポートは生活保護受給家庭のみなど利用要件が狭く、申請をしないと情報が得られない。こどもの学ぶ権利は平等であるべきで、もっとチャンスを与えてほしい。

2. 外国籍のこどもへの対応について

(1) 外国籍のこどもや家庭の抱える課題

区分	具体的な内容
教育センター	・日本語の習得、学習の問題がある。学校が申請すれば日本語支援員を派遣してくれるようだが、十分ではない。 ・経済的に困窮しているケースもある。両親が外国籍だと就労が難しいケースがある。 ・NPO がツインタワーで土日に開催する日本語学校を紹介している。川口市では、駅前で NPO が外国人専用の学習の場を設けている。そういう場所が越谷市にもあるとよい。 ・こどもは早く日本語を習得するが、保護者は時間がかかるため日本語習得の支援が必要。こども自身も話せるが読めない、書けないケースがある。 ・こどもが通訳のような立ち回りをする家庭が多く、ヤングケアラーになっている可能性もある。 ・役所の窓口にも一緒について行くことが多い。窓口の方もアプリを使用しているようである。
青少年相談室	・外国籍のこどもと接する機会はない。相談したいと思っている人はいるかもしれない。
フリースクール	・外国籍のこどもと接する機会はない。越谷市は外国籍市民が多いが、フリースクールにはつながっていない。存在自体を知らないと思われる。
児童発達支援センター	・センターの利用者でも外国籍市民がおり、日本語でコミュニケーションをとっていない家庭も多い。自国の文化により、決められた時間の登園が難しい、長期で休むなど登園が続かない家庭もある。そうすると支援が継続できない。
こども食堂	・「りそな YOUTH BASE」の方で接する機会がある。日本で当たり前のことが外国では当たり前ではない。文化の違いへの理解が必要である。

(2) 外国籍のこどもや家庭に必要な支援

区分	具体的な内容
教育センター	・学習支援、進学・就労支援が必要である。学費や支払いの確認等、理解が難しい内容が多いため、就学説明等に同行することがある。 ・入学当初の受入体制づくりが必要。多言語の通訳アプリ等もあるが、全ての学校で活用・対応しているかは不明。(西中学校など一部の学校では対応している。) ・日本語指導の先生がもっと増えるとよい。
青少年相談室	・現状で英語・多言語での対応が難しいため、外国籍の方からの相談があれば、埼玉県「よりそい」という外国語対応の相談窓口を紹介したい。
児童発達支援センター	・言葉が話せないお子さんが多いので、コミュニケーション手段はジェスチャーとなる。就学前はまだよいが、小学校に入学する際の受入体制は整っているか。疎外感がないようにしてほしい。 ・外国籍のこども、障がいのあるこども、誰でも受け入れられる体制や文化ができると良い。
こども食堂	・日本語習得に対する支援、こどもの居場所づくりが必要。

3. 普段接するこどもを代弁しての意見

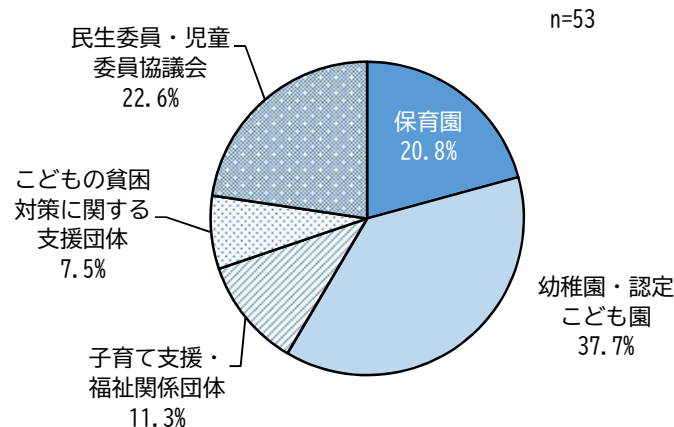
区分	具体的な内容
教育センター	・諦めているこどもの本当の気持ちを聞き出すことが重要。親にも同様に聞くようにしている。 ・こどもの気持ちを聞くアンケートは有用。家の状況や親からの扱いを話さないこどもが多いので、家庭訪問や1対1の付き合いで聞き出すことが大切。 ・ヤングケアラーのこどもが意外に多いが、学校では発見されにくい。 ・定時制高校に入学するこどもは不登校、精神疾患、発達障がい、母子家庭でネグレクトなど複合的な問題を抱えている子が多い。しかし、支援によって自分の道を見つけるこどももいる。 ・重層的支援が始まり、子ども施策推進課とも交流し、良いヒントを得ていきたい。越谷市は関係機関との連携もしっかりしていて活動しやすい。
青少年相談室	・こどもからは「学校に行きたいけどどうしたらいいか」という相談があるが、不登校のこどもを救う場所が学校か親の二択しかなく、親子で孤立してしまう。学校につなげるためのアドバイスや先生との連携が必要。 ・民間事業者を紹介してはいけない規定があるため、民間のフリースクールは紹介できないが、「らるご」は紹介ができる。 ・家と学校以外の救済場所が必要。 ・精神疾患のあるこどもへの対応が必要。
フリースクール	・自己決定を尊重し、スタッフも対等に関わることを大切にしている。 ・こどもの声を聞く組織作りは大変だが重要であり、学ぶことが多い。こどもが安心して意見を言える環境が必要。こどもによって関わり方が違うため、正解はない。言葉がうまく出てこないこどものもどかしさを共に考える人が窓口に必要な。 ・フリースクール利用者の多くは小・中学生。学校に行きたいが行けないこどもや、学校が合わないこどもがいる。教育センターの教育相談は、基本的に学校に行くことを前提にしている。 ・民間の他のフリースクールとの連携はほとんどない。現場を大事にしたいと考えている。
児童発達支援センター	・こども自身が選択をしたり、自分が嫌なことは嫌だと伝えられる、それを受け止めてあげられる施設が増えるとよい。 ・今までは、箱の中にこどもをどう納めるか、どう社会に順応させるか、こどもを変えていくことが支援の考え方だったが、今後はそのこどもにとって何がプラスなのか、慣例に従うのではなく、大人側が柔軟に対応する、支援者が変わる必要がある。 ・自閉症など、感情が表に出にくいこどももいるが、ありのままで過ごせるようになるとうい。 ・こどもの希望をできるだけ受け止め、多様性を重視することが必要。受け止められる施設、大人が増えていくことが重要である。
こども食堂	・親の就労支援よりもこどもの支援を優先してほしい。

B アンケート調査

1. 回答団体の属性

●回答団体の内訳

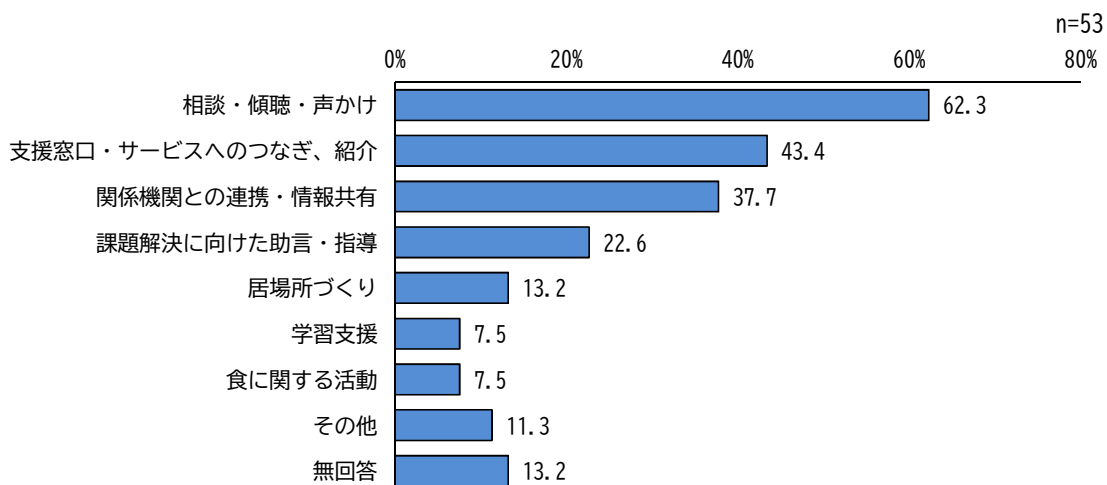
「幼稚園・認定こども園」が 37.7%（20 件）で最も高く、次いで「民生委員・児童委員協議会」が 22.6%（12 件）、「保育園」が 20.8%（11 件）、「子育て支援・福祉関係団体」が 11.3%（6 件）、「こどもの貧困対策に関する支援団体」が 7.5%（4 件）となっています。



2. こどもの貧困対策について

問1 貴機関、団体では現在、こどもの貧困対策について意識的に取り組んでいることはありますか。（該当するものすべてに○）

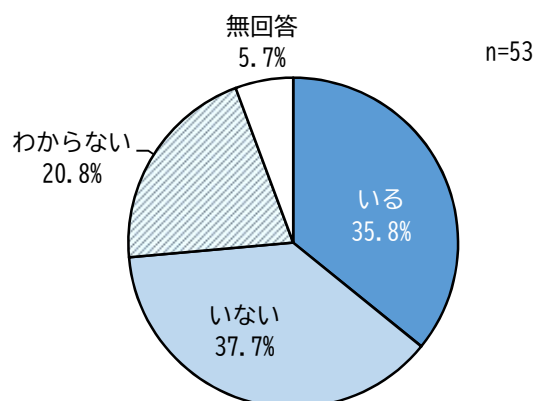
「相談・傾聴・声かけ」が 62.3%で最も高く、次いで「支援窓口・サービスへのつなぎ、紹介」が 43.4%、「関係機関との連携・情報共有」が 37.7%、「課題解決に向けた助言・指導」が 22.6%、「居場所づくり」が 13.2%、「学習支援」が 7.5%となっています。



区分	具体的な内容
保育園	・ 入園時に購入する保育用品等の縮減、リユース(バザーの活用)。
幼稚園	・ 幼保教育無償化以後は少なくなったが、保育料が払えない方がいたので声をかけて助けられる部分は手助けした。 ・ なかなか自ら貧困と言える人はいないと思います。そのため私達がちょっとしたサインやその他のこと(衣服や持ち等)、そして関わることで察知できるので、積極的に声をかけることが大切だと思います。関わりを深めていくことで解決に進めていけると考えています。
子育て支援・福祉関係団体	・ 個人的に団体の活動の内外で相談されることが多いので、市の支援窓口や事業を紹介している。意識的、積極的に取り組んでいるわけではないが、活動している内にぼろっと相談されている。深刻な話ほど人間関係ができ上がらないとされない。 ・ 地域の中で子ども会活動を行いながら、保護司、民生委員、更生保護女性会、青少年指導員等を兼ねている方が多数いる。情報共有や紹介または個々に寄り添うことなど行っている。
こどもの貧困対策に関する支援団体	・ 低価格での食事、お弁当提供。こども向けのハンドメイドワークショップ、おたのしみ会の開催 ・ 個人の家庭を知った上で、必要な支援や情報を提供したり、窓口に繋いだりしている。活動の際に困り事の相談を受けることが多い。主任児童委員のスタッフがいたので、学校や社協との連携ができています。
民生委員・児童委員協議会	・ こどもの虐待への学校からの応援要請により、関係機関への相談や通報。お子さんに関する、親御さんからの相談、支援窓口などの紹介(不登校、友達関係の悩み等)。 ・ 重層的支援体制整備事業において、ある家庭のサポートを行っている。主任児童委員を通じて、地域や学校から個別のお子さんの相談があり、学校や関係機関と連携している。 ・ 部会の活動として学校訪問(小・中学校)を行い、校長先生のお話を伺い、貧困に該当するこどもがいる場合は、行政へつなぐことをしている(当地区はあまりいないようである)。

問2 活動に参加しているこどもや活動を通じて接するこどもの中で、経済的に困窮していると感じるこどもがいらっしゃいますか。(○は1つ)

「いる」が35.8%、「いない」が37.7%、「わからない」が20.8%となっています。

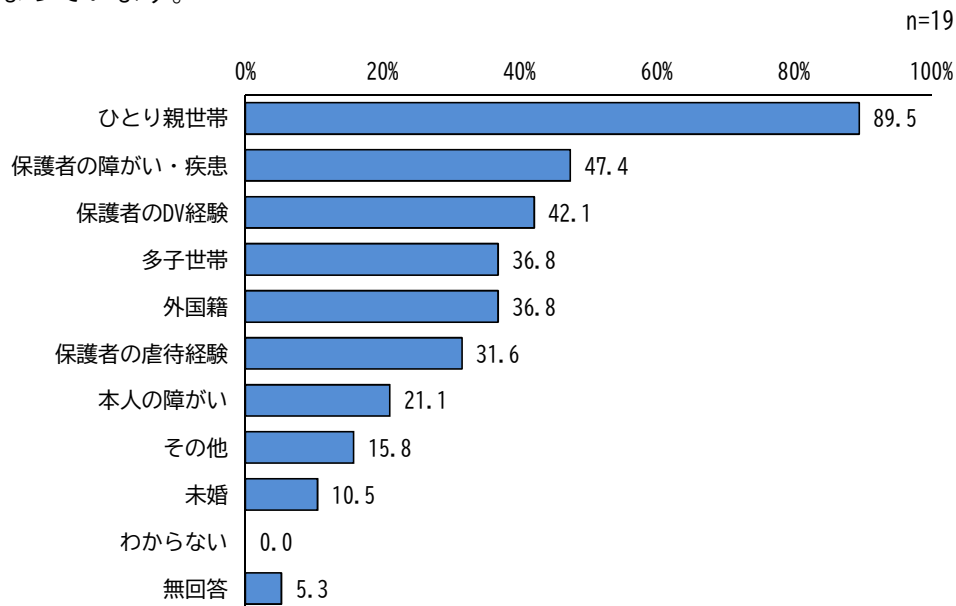


【問3～6は問2で「1 いる」と回答した方にお伺いします。】

- どのような点でそう感じる人が多いですか。ある場合、どのようなケースがよく見られるか、個人を特定できない範囲でお答えください。【特徴、背景、生活状況、抱えている課題など】

問3 経済的に困窮していると感じるこどもにおいて、貧困であること以外にどのような背景や特徴が見られますか。（該当するものすべてに○）

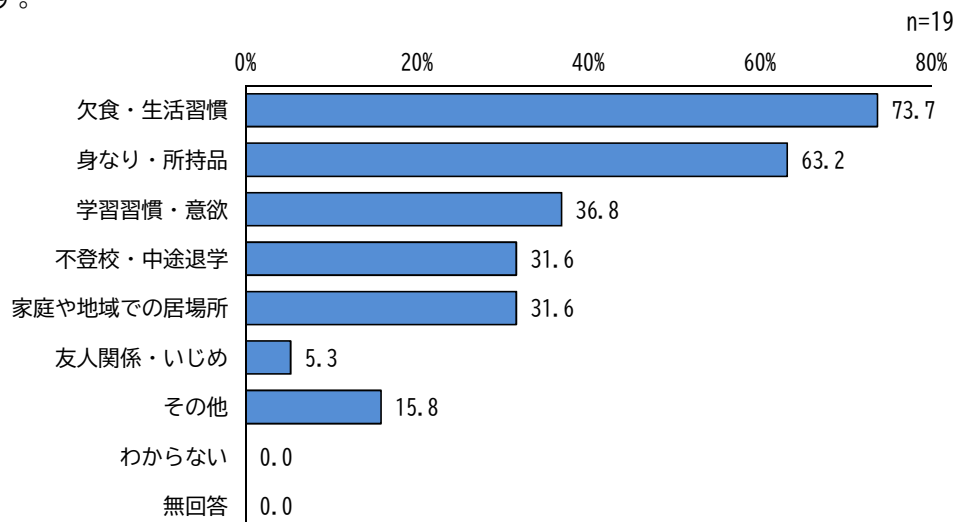
「ひとり親世帯」が89.5%で最も高く、次いで「保護者の障がい・疾患」が47.4%、「保護者のDV経験」が42.1%、「多子世帯」が36.8%、「外国籍」が36.8%、「保護者の虐待経験」が31.6%となっています。



区分	具体的な内容
保育園	- 生活保護を受けているが、食事面、生活面が安定していない。病状により決まった生活リズムが作れない。再婚家庭ではこどもの人数も増えることにより、こどもの年齢によってかかる金額も変わるので、持ち物等を揃えられなかったり、衣服も使い回されたものを着ている。支払いができない。 - 祖父母(保護者の父母)の介護、通院の付き添い等で仕事の幅が制限される。夜間にも業務が入ってくる。
幼稚園	欠席のメールは届くが欠席の理由が不明である。
子育て支援・福祉関係団体	- 保護者自身の虐待やDVの経験から人間不信に陥っていたり、コミュニケーション能力や社会経験、文化的経験が不足していたりして、また家族にも頼れなかったりすることでこどもに大きく影響している。 - 保護者に精神疾患があることにより、生活が苦しい、ひどくなると生活保護になる。外国籍の方が派遣等で働いているので生活が苦しい等。 - 内縁関係にある(母親の)男性から性的被害を受け、家出をし保護されたケースがある。こどもは親を選ぶことはできない。声をあげにくい＝気づきにくい状況がある。
こどもの貧困対策に関する支援団体	パントリー活動では利用者の9割以上がひとり親家庭となっている。
民生委員・児童委員協議会	- こどもを育てながら一人で働く事は、こどもの具合が悪い時など休むことになってしまい、働きにくい社会だと思います。長く続かず転職というケースも少なくないです。 - イスラム系の方のコミュニティがあるので、外国籍のお子さんが多い。ひとり親家庭も多い。

問4 経済的に困窮していると感じる子どもにおいて、生活や学習の様子で特徴的な状況は、どのようなことですか。（該当するものすべてに○）

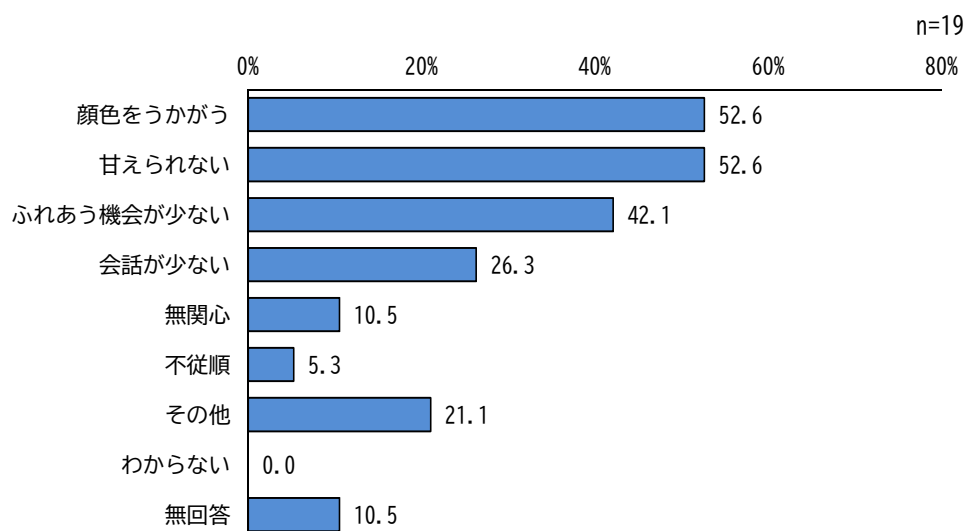
「欠食・生活習慣」が73.7%で最も高く、次いで「身なり・所持品」が63.2%、「学習習慣・意欲」が36.8%、「不登校・中途退学」が31.6%、「家庭や地域での居場所」が31.6%となっています。



区分	具体的な内容
保育園	・ 就寝時刻等生活リズムの乱れや朝食の欠食。
幼稚園	・ 服や持ち物や古いものを長く使っているケースがある。 ・ 母親の就労の関係で延長保育のお迎えが午後7時を過ぎることがある
子育て支援・福祉関係団体	・ 保護者自身に生活習慣が身に付いていない。学校を中途退学したり、アルバイトのような形でしか働いたことがなく、学習する必要性も感じていない。自分もできていないし、するものとも思っていないので、こどもをきちんと学校へ送り出すことができない。 ・ 年齢の低い子どもに関わることが多いので、ほとんどが欠食・生活習慣だが、このままの状態が続くと思われ、近い将来としてはその他の項目になっていく。 ・ 学習の習慣がない。勉強（資格の取得や学校へ行く）することが苦手。将来のことを考えられない。
こどもの貧困対策に関する支援団体	・ 十分食べられていないお子さんが何人かいる。不登校の割合が比較的高い。困窮家庭ではいつも同じ服を着ている。小さいサイズの錆びた自転車に乗っている。ガスが止まってお風呂に入れない状況になるお子さんがいる。洗濯をしていない、調理を全くしない家庭がある。
民生委員・児童委員協議会	・ 夫婦揃っていても経済的に困窮しているのか、忙しくてこどもの面倒が見られなかったり、足りない道具も中々買いに行く暇がなく揃わなかったり、こどもが不便な思いをしていたりする。 ・ 生活習慣の基本、学習環境が良くない状況が見られる。不登校のこどもが多い。家で勉強ができない等がある。

問5 経済的に困窮していると感じるこどもにおいて、保護者との関係で特徴的な状況は、どのようなことですか。（該当するものすべてに○）

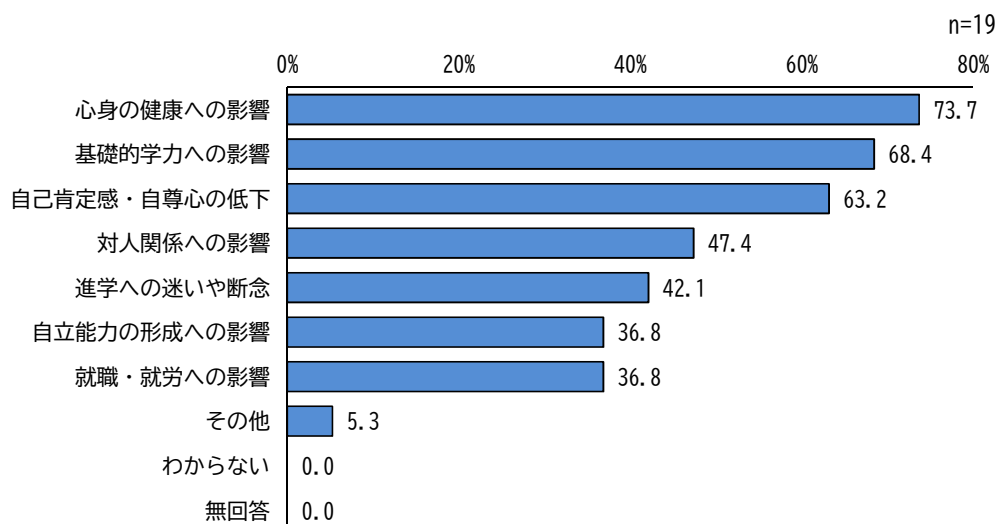
「顔をうかがう」が52.6%で最も高く、次いで「甘えられない」が52.6%、「ふれあう機会が少ない」が42.1%、「会話が少ない」が26.3%となっています。



区分	具体的な内容
保育園	・ 仕事や介護にかかる時間が多く、こどもと向き合う時間が少ない。
子育て支援・福祉関係団体	・ 保護者に余裕がないせいか、こどもはある意味では精神的に大人で冷めている。一種のケアラーの役割を保護者に対して果たしている。 ・ 保護者に精神的な余裕がないので、こどもへの温かい関わりが難しくなる。家の中が乱雑なケースも多い。 ・ 不幸な環境にありながらも、とても親を想っている。
こどもの貧困対策に関する支援団体	・ ひとり親家庭では保護者に余裕がなく、お子さんは保護者を想い、寂しいと思っても我慢している、ということがよく見受けられる。
民生委員・児童委員協議会	・ 多種多様だが、親の顔をうかがい、親の前ではとても良い子、その分外では関わりの大人にべたべたついてきたり、「自分を見て」という事が強い子もいる。 ・ 保護者との関係は概ね良好。お互いを思いやつの行動が見受けられる。時間的に関わる時間が不足気味である。

問6 経済的に困窮していると感じる子どもにおいて、経済的に困窮している状況がどのような影響や課題を与えていると思いますか。（該当するものすべてに○）

「心身の健康への影響」が73.7%で最も高く、次いで「基礎的学力への影響」が68.4%、「自己肯定感・自尊心の低下」が63.2%、「対人関係への影響」が47.4%、「進学への迷いや断念」が42.1%、「自立能力の形成への影響」と「就職・就労への影響」がともに36.8%となっています。

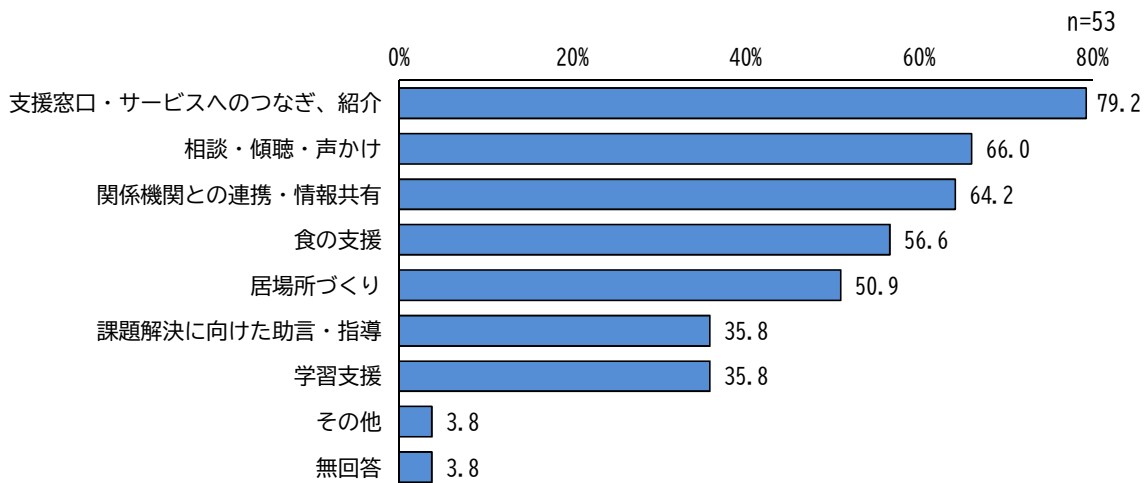


区分	具体的な内容
保育園	・ 日中活動時の疲れ、会話の理解力や集中力の低下
幼稚園	・ 身なりなどで困窮を感じる子ども、そうでない子ども大きな違いを感じない。
子育て支援・福祉関係団体	・ 援助希求力がない、もしくは低い。 ・ 小さい子どもとの関わりが多いので、年齢が小さい時は心身の健康への影響だが、年齢が上がるにつれてその他の項目になっていく。
こどもの貧困対策に関する支援団体	・ あらゆる面に影響があると感じる。
民生委員・児童委員協議会	・ 心と体ともに心配。偏った食事、あごの発達、歯の健康なども心配である。 ・ 特に基礎学力への影響、対人関係、コミュニケーションの取り方に影響が大きい気がする。

【すべての方にお伺いします。】

問7 経済的に困窮していると感じる子どもや保護者に対して、どのような支援が必要だと感じていますか。（該当するものすべてに○）

「支援窓口・サービスへのつなぎ、紹介」が79.2%で最も高く、次いで「相談・傾聴・声かけ」が66.0%、「関係機関との連携・情報共有」が64.2%、「食の支援」が56.6%、「居場所づくり」が50.9%、「課題解決に向けた助言・指導」と「学習支援」がともに35.8%となっています。

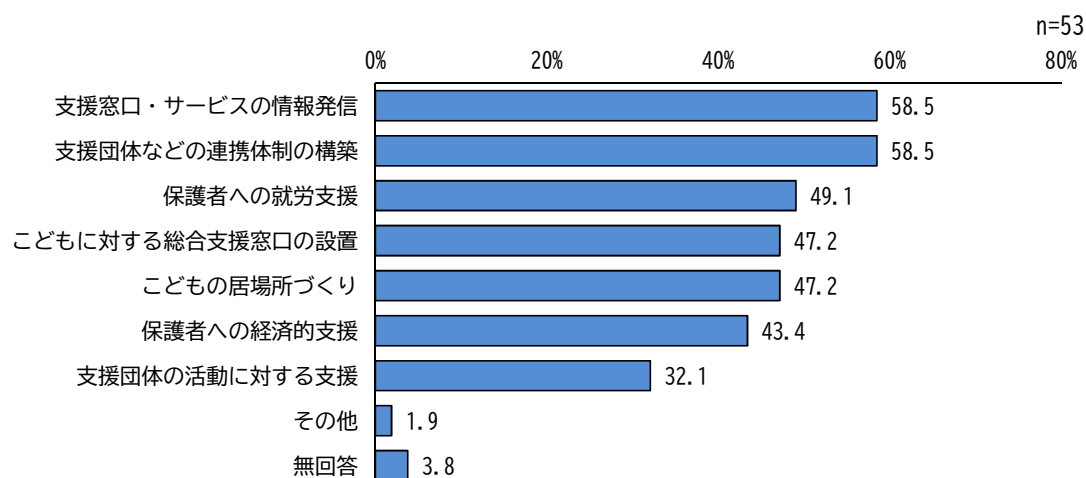


区分	具体的な内容
保育園	・ 困窮している理由にもよるが、保護者が孤立しないように見守ったり、寄り添ってくれる人や場所が必要だと思う。周りのサポート体制を整え、情報共有のための話し合いの場もあると思う。 ・ 食の支援、ひとりぼっちで食べないための環境づくり。家から出られない子どもに近くまで来てくれる、届けてくれるキッチンカーなどの利用。 ・ 相談しやすい関係を築いていくこと。掲示や配布物等で情報を発信していくこと。
幼稚園	・ 園でできることは、子どもの発育、成長のために良い環境を提供すること、困っている時に話を聞くことだと思う。経済的な支援は園ではできないので、行政にお願いしたい。 ・ どのような支援があるのかを知る情報が身近にあると良いと思う。そして色々なサービスがあることを知ってもらうこと。 ・ おそらく上記の全てが必要だと思うが、まずは気づくことではないか。 ・ 自園給食を行っているため、食事の面では支援につながっているのではと感じている。
子育て支援・福祉関係団体	・ 日常的に相談、傾聴には心がけている。子育て支援課だけでなく、相談の内容に応じて児童課や包括支援センターにも相談に行く。 ・ 精神的に疾患を抱えていたり、孤立していたり、複合的に課題が絡み合っている。子どもだけでなく家庭を丸ごと支援する必要がある。 ・ 課題が複合的であるため、関係機関との連携により、それぞれの役割を担いながら、様々なところからその家族に関わるとよい。 ・ 寄り添い、就労へつなげる方法を探す（生活保護の受給に安易につなげない）。子どもには学力を付け、自信・意欲が持てるように環境面で支援・寄り添う。
民生委員・児童委員協議会	・ 困窮だけに限らず、どれも大切で必要な支援だと思う。経済的な困窮から虐待に繋がるケースも多く、ネグレクトや心の問題になっていくような場合も考えられるため。

	・重層的支援体制整備事業の対象となる家族に対して、各支援者が方針を一本化してそれぞれの役割を遂行する。 ・金銭面の支援。 ・すでにいろいろな支援がある現状を知らせること、知って頂くことが大事と考える。せっかく支援があっても情報が届かず、利用者がいない・少なければ意味がないので、情報の発信に力を入れて頂きたい。
--	---

問8 今後、経済的に困窮していると感じる子どもや保護者に対する支援として、市としてどのような取り組みが必要だとお考えですか。（該当するものすべてに○）

「支援窓口・サービスの情報発信」と「支援団体などの連携体制の構築」がともに 58.5%で最も高く、次いで「保護者への就労支援」が 49.1%、「子どもに対する総合支援窓口の設置」と「子どもの居場所づくり」が 47.2%、「保護者への経済的支援」が 43.4%となっています。

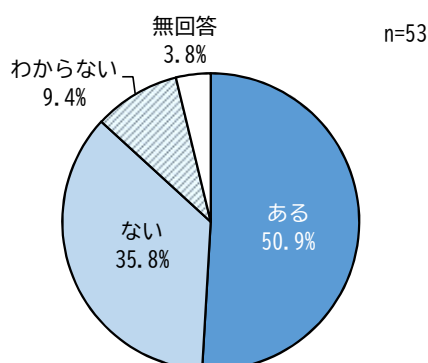


区分	具体的な内容
保育園	・園では中々気づきにくいと思うので、行政から助言をいただきたい。 ・支援窓口のお知らせ等で、支援の内容をより具体的に分かりやすく発信していくこと。
幼稚園	・上記の取り組みができれば良いのだと思いますが、それが支援を必要としている方に情報としてちゃんと伝わるかが大事だと思う。本当に支援が必要な方に限って言えないことも多いと感じることも多い。 ・まずはサービスに関する情報を知ることが大事であるので、市への相談をアピールする。 ・ひとり親世帯の保護者に対する経済的支援。
子育て支援・福祉関係団体	・包括支援センターに何回か相談に行ったところ、当団体から児童発達支援センターに連絡してほしいと言われた。連携が面倒という対応だった。 ・早期発見するために、気楽に話ができる場所、人が必要。まずは経済的に安定することであると思うので、保護者への就労支援の確保。
こどもの貧困対策に関する支援団体	・経済的に困窮している家庭を DX 化して浮き彫りにして、アウトリーチすることで受けられる支援を受けていただきたい。また食料の支援は宅配型でないと行き届かないので、宅配することも食堂を今後展開する予定である。
民生委員・児童委員協議会	・窓口を設置したとしても、その場所に行かない人も多いので、支援団体などとの連携体制を図り、そういう人たちを拾い上げることも大切。 ・困窮している家庭に限らず、すべての世帯の学校給食費を無料にする。 ・ひとり親家庭(特に母親)に経済的困窮があるように見える。子育てをしながらの就労が限られてしまい、働きたくても働けないという声もある。保護者が安心して働けるような環境づくりがまずは大事と考える。

3. 外国籍のこどもへの対策について

問9 活動の中で外国籍のこどもと接する機会はありますか。(○は1つ)

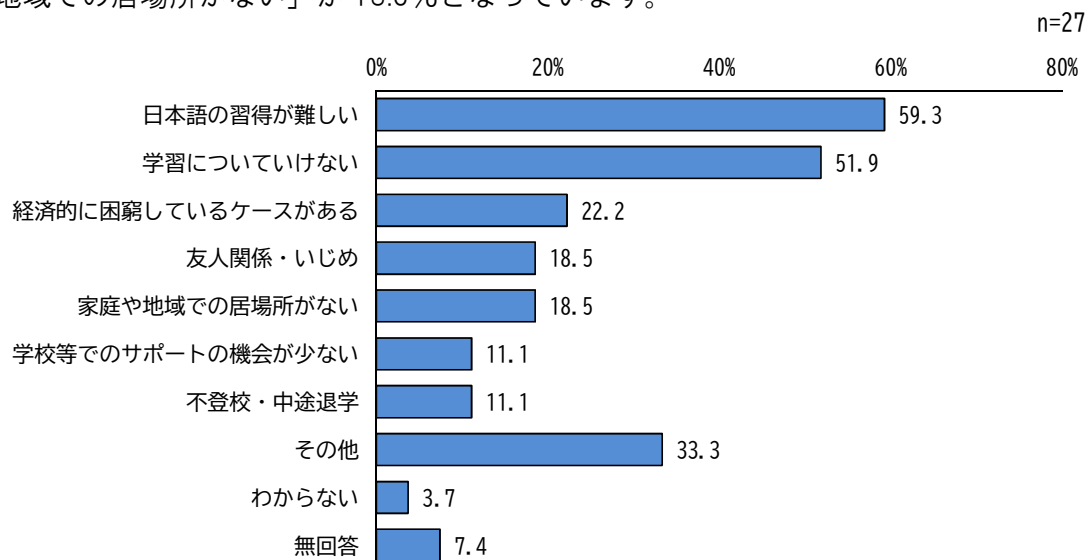
「ある」が50.9%、「ない」が35.8%、「わからない」が9.4%となっています。



【問10～11は問9で「1 ある」と回答した方にお伺いします。】

問10 外国籍のこどもの状況や抱えている課題は、どのようなことですか。(該当するものすべてに○)

「日本語の習得が難しい」が59.3%で最も高く、次いで「学習についていけない」が51.9%、「経済的に困窮しているケースがある」が22.2%、「友人関係・いじめ」が18.5%、「家庭や地域での居場所がない」が18.5%となっています。

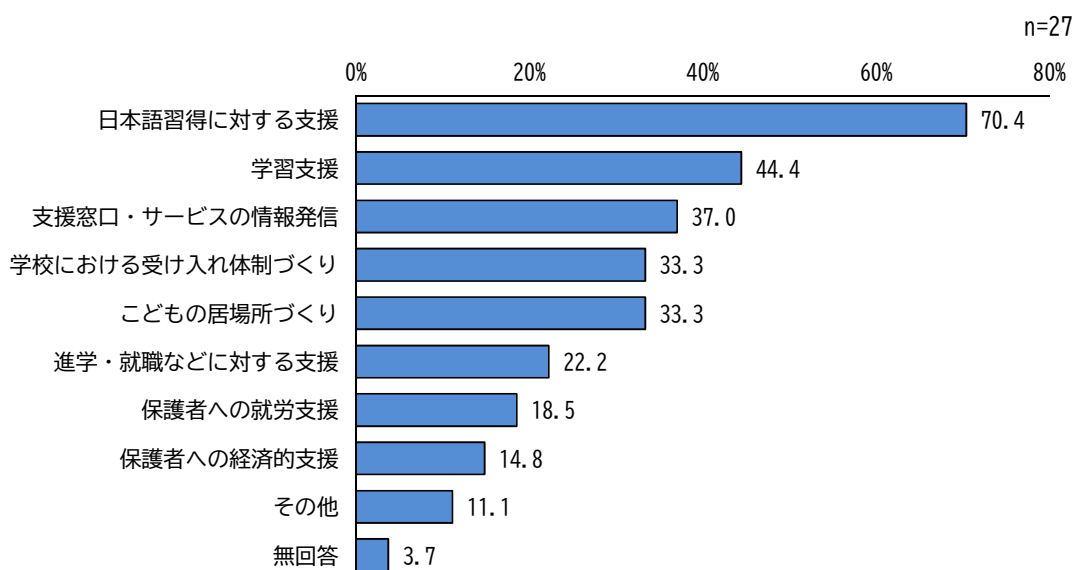


区分	具体的な内容
保育園	・両親共に外国籍で、日本語をほとんど話せない場合、こどもも日本語の理解が難しく、しばらくの間友達や先生の話聞いても困る様子だった。 ・日常的な会話の中でのすれ違いや全体の話の場での理解の差がある。また、外見の違い等について、他児が何気なく口にした言葉で傷つく場合がある。
幼稚園	・親が日本語を話せたとしても、家庭内では母国語のため、こどもは中々日本語が話せない。国によって文化が違うため、園のルール等を理解してもらえないことが多く、対応が難しい。都合が悪いと思われる時には「外国籍だからわからない」等言われる事もあり、職員が対応に疲弊している。

区分	具体的な内容
子育て支援・福祉関係団体	・ 東越谷3丁目で活動していた時には数組の外国籍家族がいた。当団体の決まりを伝えることが難しかった。夫婦ともに外国籍の場合、家庭では母国語を使用し、こどもに対しても母国語での対応となる。 ・ 学校に登校していても、学習支援が受けられず勉強がわからないまま放置されているのではないかとと思われるケースがある。特に家庭では学習言語としての日本語が習得できないことが多いので、きめ細かいケアが必要はらず。 ・ ホームスタートで関わっていた外国籍家族の知人より、小学校の息子たちについて、日本語の習得、学習、サポート、経済的困窮について相談を受けた。関わった家族は、こどもがまだ小さいが両親は休まずに働きぎりの生活をしていた。
民生委員・児童委員協議会	・ 教員の人数も足りないようである。

問 11 それらの課題に対して必要だと感じる支援があればお答えください。（該当するものすべてに○）

「日本語習得に対する支援」が70.4%で最も高く、次いで「学習支援」が44.4%、「支援窓口・サービスの情報発信」が37.0%、「学校における受け入れ体制づくり」と「こどもの居場所づくり」がともに33.3%、「進学・就職などに対する支援」が22.2%となっています。



区分	具体的な内容
保育園	・ 保護者の日本語習得に対しての支援。
子育て支援・福祉関係団体	・ 文化的、宗教的背景もあり、難しいこともあるが、今後も外国籍のこどもや家庭は増加すると見込まれる。日本の社会に適應できるよう、わかりやすい情報提供やサービスの充実と共に保護者への啓発も欠かせないと思う。
こどもの貧困対策に関する支援団体	・ 親に対する書類作成の支援

問 12 こどもの貧困対策についてご意見や市への要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

区分	具体的な内容
保育園	・ 関係施設、機関との情報共有や連携が必要。 ・ 貧困は目に見えないため発見が難しい。支援の仕方が見えにくい。 ・ こどもの貧困が起こる背景には、多種多様な問題が含まれていることが多いと思う。複数の機関が関わることで、解決できることがあると考える。各機関は、それぞれの強みと限界があり、他の機関との連携が大切。 ・ 当園には貧困家庭のこども達はいないと考えられるが、ひとり親家庭は以前より増え、こどもの7人に1人が貧困という中で、保育園の給食は大切なものだとして改めて感じている。消耗品などオムツ代に対し、月何枚までの補助や着なくなった洋服や靴などで寄付品を保育園に置いたり、市にコーナーを作るなどをして支援すること、制服の再利用を市で行ってくれると助かるのではないかなと思う。 ・ 祖父母の介護や通院にかかる保護者の負担を軽減する支援の拡大して頂けると、育児への余裕にもつながり、より良いこどもの育ちが期待できるものと思う。
幼稚園	・ 幼稚園のこどもで貧困と思われる児童がいた際には、保護者に寄り添い即座に市との連携を持ち、苦しみから救ってあげられるように働きかけていきたいと思う。 ・ 経済的に困っている保護者が、相談しやすい、言い出しやすい環境を作っていただけるとありがたい。 ・ 支援団体（幼稚園・保育園）などの活動に対する支援への充実。経済的困窮家庭には、保護者などの心の病や子の発達の遅れなどが伴うことがあるため、幼稚園や保育園での対応は非常に難しい。市と専門機関の連携が取れていないように感じる。 ・ こどもの貧困をどうにかしてあげたいと考える人は沢山いると思う。実際どのようにしたらいいかわからない人が多いので、広報活動を広めて、沢山のの人に知らせていけるようにしたらいいのではないかな。
子育て支援・福祉関係団体	・ 以前に担当頂いた若い職員には親身に相談にのっていただいた。その際に情報は集まっているが、どのように支援していくかが、次の担当者に申し送りされていないと感じた。また、一人ひとりの個人の資質に任されている状況がある。当団体では、国・県と毎年学習・研修を行い、国の情報、全国のモデル事業の学習を行い、質の向上を目指している。福祉を担う者として、寄り添う気持ちを高める研修、学習を市として行ってほしい。 ・ こどもが貧困なのではなく、そのこどもの家庭が貧困である。シングル家庭の増加をあわせて考えると、こどものみにフォーカスするのではなく、困難を抱えた女性への対策をあわせて考えてほしい。総じて、課題を抱えた保護者は、余裕がなかったり、活動するエネルギーが足りていなかったりする。コンシェルジュのような細かなサポートがワンストップで受けられるとよいのではないかな。 ・ こどもに直接支援すると共に、多くは家庭の問題であるので、早い段階から家族との関係が作れるようになることよい。就学すると親との繋がりが切れ、それまでの支援の厚みが薄れるので、それ以降の支援に厚みが必要だと思う。こどもには第3の居場所が身近にあることよい。 ・ 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校へ行かない子はどこにもつながりにくい。その後のその子に対する支援や見守りが途切れてしまう。その点をどうしたら良いか。スクールカウンセラーの方に広範囲に当たっていただく、そのために人員を増やす。そういう子や家庭が見受けられたら寄り添い、対策の取れる人を向かわせることができる部署を置く。そこへ話をつなぎ、横の連携をとる等、もれなく拾っていただきたい。

区分	具体的な内容
こどもの貧困対策に関する支援団体	・細かく情報などの共有や意見交換等の場をつくり、連携をとることが大切だと思う。 ・こども食堂をはじめから2年近くになるが、まだまだ知られていないと感じている。理由はほぼ毎回同じ方のご利用があり、新規の方は1～2人ほどにとどまるため。当方が気軽に利用してもらいたいと思っても、食堂や活動の存在を知られていないのではもったいないと感じる。本当に必要な方やこどもたちへ届くような情報の発信を、ぜひ公の機関である市にお願いしたい。食堂やフードパントリーのマップ作り、学校や保育施設へのチラシ配布の許可等。 ・給食残さの活用は是非進めていただきたい。 ・ひとり親家庭の貧困率が高い。子育て応援フードパントリーは地域で顔の見える関係で困窮家庭と繋がっており、信頼関係も作れている。是非連携していただきたい。4つのパントリーで300世帯と繋がっている。また、こどもの居場所は運営が大変な部分があるのでサポートしてもらえるとありがたい。
民生委員・児童委員協議会	・こどもの貧困対策について、国や県をはじめ市が取り組む事は大変重要だと認識しているが、情報が入らないのが現状であり、今後の参考にしていただきたい。自治会に加入している家庭のこどもの状況は把握できるが、未加入の家庭の状況は難しい。子ども会等が廃止されている自治会が多い。学校（教育委員会）はこどもの貧困や不登校・ヤングケアラーについて地域の団体に協力要請はするが、情報提供はしない。子ども家庭部や福祉部が様々な団体に協力要請するが、教育委員会からの要請はない。本来ならばこどもの貧困・不登校・ヤングケアラーについては教育委員会が主体になるべきだと思う。今後も行政が様々な情報提供がされると思うが、自治会加入者には個々の配布や回覧等で伝えるが、未加入者には提供できない状況にある。災害時の対応等も含め、多くの市民の様々な情報が手元に届くようお願いしたい。 ・当民児協においては、定例会の中で毎月各委員から事例発表の形で情報共有をしているが、高齢者の問題がほとんどで、こどもには関するものは皆無と言っていい状態であり、普段の活動の中で、こどもが置かれている状況を知ろうとすることは大変難しいものがある。辛うじて小学校と繋がりを持っているため、学校長からお見聞きする事例もたまにはあるが、学校や教育委員会がこどもの状況を熟知していると思う。 ・埋もれている家庭もたくさんあると思う。個人情報も関わると思うが、そういう人達にも手を差し延べてほしい。また、支援団体からの聞き取りなどをしていただき、上手に活かしてほしい。 ・直接貧困対策に繋がるかどうかはわからないが、コロナ禍の前は学校応援団が活発に活動していた。こども達の様子も把握でき、先生方の手助けにも繋がる。現在はこの活動は全くないが、学校も地域の個人に遠慮なく頼ってほしいと思う。この件で学校応援団長にアクションを起こしましたが、何の反応もない。国も進めているこの学校応援団を市としても進めてほしいと思う。開かれた学校、地域との連携が大切である。 ・実際には貧困の状態にあるこどもには遭遇していないので分からないが、支援窓口からよく相談がある。特に生命に関わる問題と思われる。 ・荻島地区では、荻島小学校、西中学校との連携、訪問を行っているが、主任児童委員には貧困の状況は伝わってこない。今後も学校との連携を図っていくつもりであるが、できれば市からの情報を主任児童委員に共有させていただければと思う。 ・スクールソーシャルワーカーが少なすぎる。学校で発見された困り事を、学校内での対応で解決することは働き方改革中の今の学校では難しいと思う。行政や社協、民間の活動など外の支援に繋げるためにも、その繋ぎの役割であるスクールソーシャルワーカーの増員を要望する。

	・保護者はフルタイムで働きたいと思う。こどもの居場所として学童保育や保育園などがあるが、そこへ行けない家庭もある。例えば自治会の集合所などを利用して、自治会の老人会や婦人会の人達が、放課後のこどもの世話(宿題を見たり、遊んだりする)をする。または、大学生や高校生のアルバイトのようなことでも良いと思う。地域の大人に見守ってもらうのは、とても大切なことと思う。保護者がこどものことの不安を抱えこまずにいてほしいと思う。
--	--

4. 普段接するこどもを代弁しての意見

問 13 国はこども・若者当事者の視点を尊重し、その意見を聴くことを重視しています。一方で、自らの意見を表明することが難しいこどもも多いなか、普段接するお子さんの意見を代弁してご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

区分	具体的な内容
保育園	・経済的な貧困よりも愛着の貧困が気になる。親の時間的、精神的ゆとりがないことで、必要な時期の愛着形成がとても希薄で、幼児期以降に発達障害のような行動をするお子さんが増えていると感じる。物の豊かさよりも、心の豊かさを感じる世の中であってほしいと思う。 ・こどもの生活習慣の乱れについて、改善のためには保護者自身の生活リズム、仕事と家庭のバランス改善が必要なので、そこにつながる支援があればと思う。
幼稚園	・安心安全な居場所の確保及び充実を求める。 ・こどもは親を選べないので、まず親の支援も視野に入れていただきたい。 ・まずは保護者と信頼関係を築き、少しずつ家庭の話を聞き出していくことが大切だと考える。 ・女性が社会で活躍することは大いに素晴らしいことだと思うが、大切なのは幼児期であり、こどもの心に向き合う余裕をもって仕事をしてほしいと思う。
子育て支援・福祉関係団体	・貧困だけでなく、不登校のこどもにも目を向けてほしい。学校に戻ることを目的とした適応教室だけでなく、スリースクールや居場所など、全てのこどもにサードプレイスを用意してあげてほしい。子育て支援センター並みに各中学校区に1か所くらい、こども食堂、学習支援、居場所と多機能であるといい。 ・親のストレスをこどもにぶつけないでほしい。ゆったりぼーっと過ごせる場所がほしい。
こどもの貧困対策に関する支援団体	・虐待や貧困は恥ずかしさや辛さのあまり、表に出しにくいものだと思う。自分は困っている、辛い、という気持ちを他者へ届けられるような仕組みづくりをしていかなければと思う。お金のばらまきは何の解決にもならない。一時しのぎも大切な時があるかもしれないが、長期的な対策を望む。 ・学習支援、こどもの居場所を開催しているが、地域に安心して来られるこどもの居場所がもっと増えたらいいと感じる。不登校のこども達の居場所がもっと必要。教育の機会がない状態で家庭にいる子がとても多い。
民生委員・児童委員協議会	・こどもや若者は、これ以上自分に降りかかってこないように、中々本音を言わないものだと思う。親は何をされてもこどもにとっては親で、嫌われたくないので親の前では大好きというそぶりを見せる。中にはネグレクトで幼少期であっても身の回りの準備も自分でやる、いけないとわかっているけど嘘をついてしまうという児童がいる。そうしないと自分を守っていけない、それが当たり前になってしまっている。 ・先生の一言で傷付き、不登校になってしまう子がいる。誰でも失言はある。

	その後の先生の行動が大切だと思う。 ・ 貧困家庭からの SOS は出しづらいと考える。日頃から近所の情報収集を考える。 ・ 本アンケートは主任児童委員の方に出された方がいいと思う。民生委員より情報を持っていると思う。 ・ こども達は中々自分の意見が言えない。長い時間をかけて信頼できる大人と繋がり、心を許して初めて自分が感じていることを話してくれる。信頼関係を結ぶには、継続的に会って話しをすることが必要で、それができる場所が必要。信頼できる大人に出会える場所としてもこどもの居場所が増えたらいいと感じている。
--	--

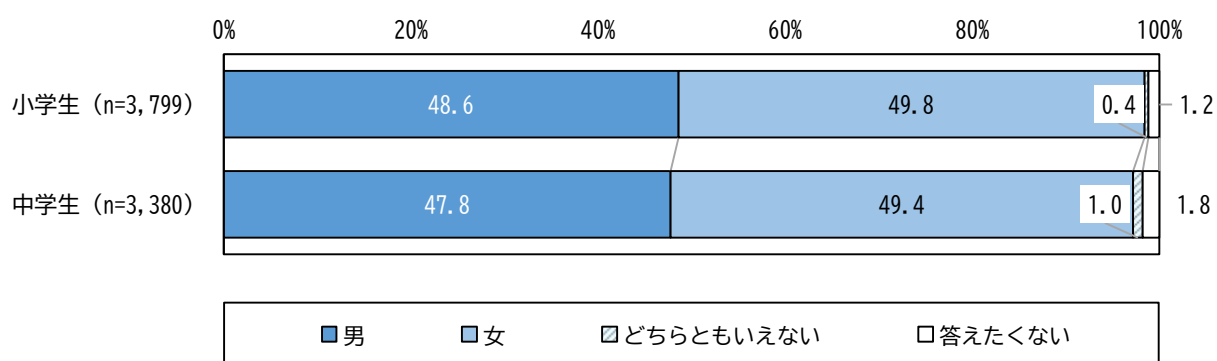
VI 小学生・中学生調査

1. 調査回答者の基本情報の確認

F 1 あなたの性別を教えてください。(1つにチェック)

回答者の性別について、小学生は「男」が 48.6%、「女」が 49.8%、「どちらともいえない」が 0.4%、「答えたくない」が 1.2%となっています。

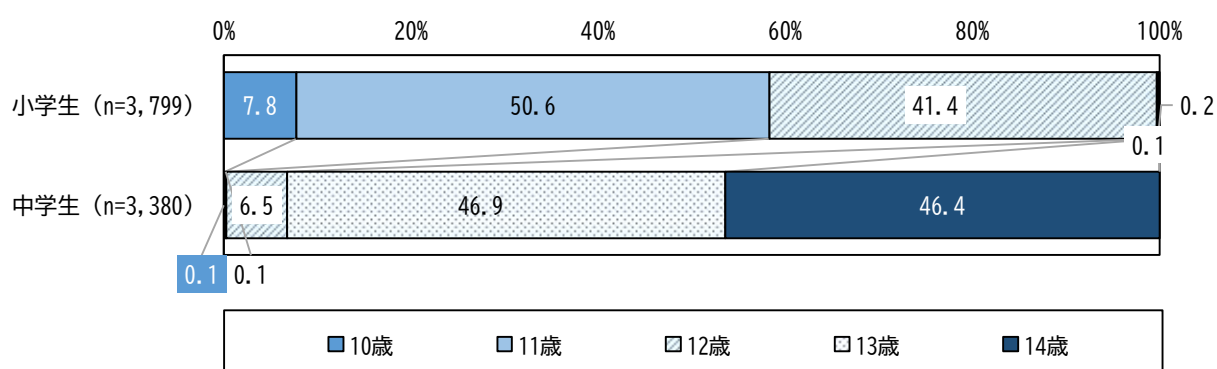
中学生は、「男」が 47.8%、「女」が 49.4%、「どちらともいえない」が 1.0%、「答えたくない」が 1.8%となっています。



F 2 あなたの年齢を教えてください。(1つにチェック)

回答者の年齢について、小学生は「11 歳」が 50.6%、「12 歳」が 41.4%、「10 歳」が 7.8%となっています。

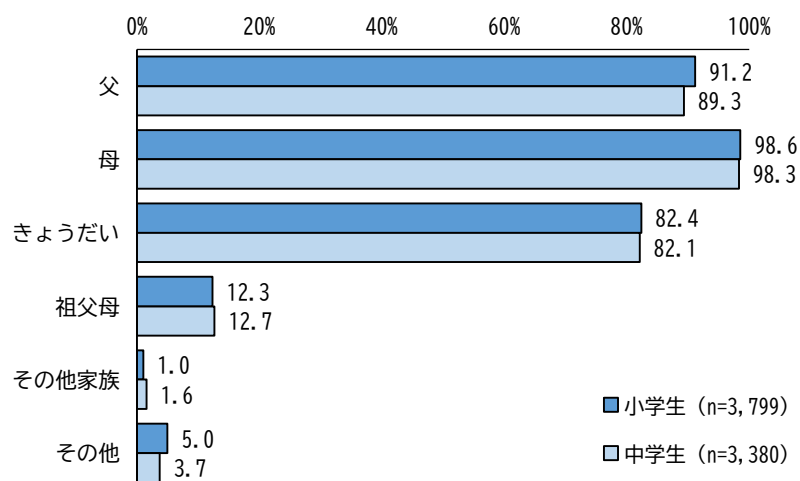
中学生は、「13 歳」が 46.9%、「14 歳」が 46.4%、「12 歳」が 6.5%となっています。



F 3 一緒に住んでいる方を教えてください。（該当する選択肢の全てにチェック）

一緒に住んでいる人について、小学生は「母」が 98.6%で最も高く、次いで「父」が 91.2%、「きょうだい」が 82.4%、「祖父母」が 12.3%となっています。

中学生は、「母」が 98.3%で最も高く、次いで「父」が 89.3%、「きょうだい」が 82.1%、「祖父母」が 12.7%となっています。

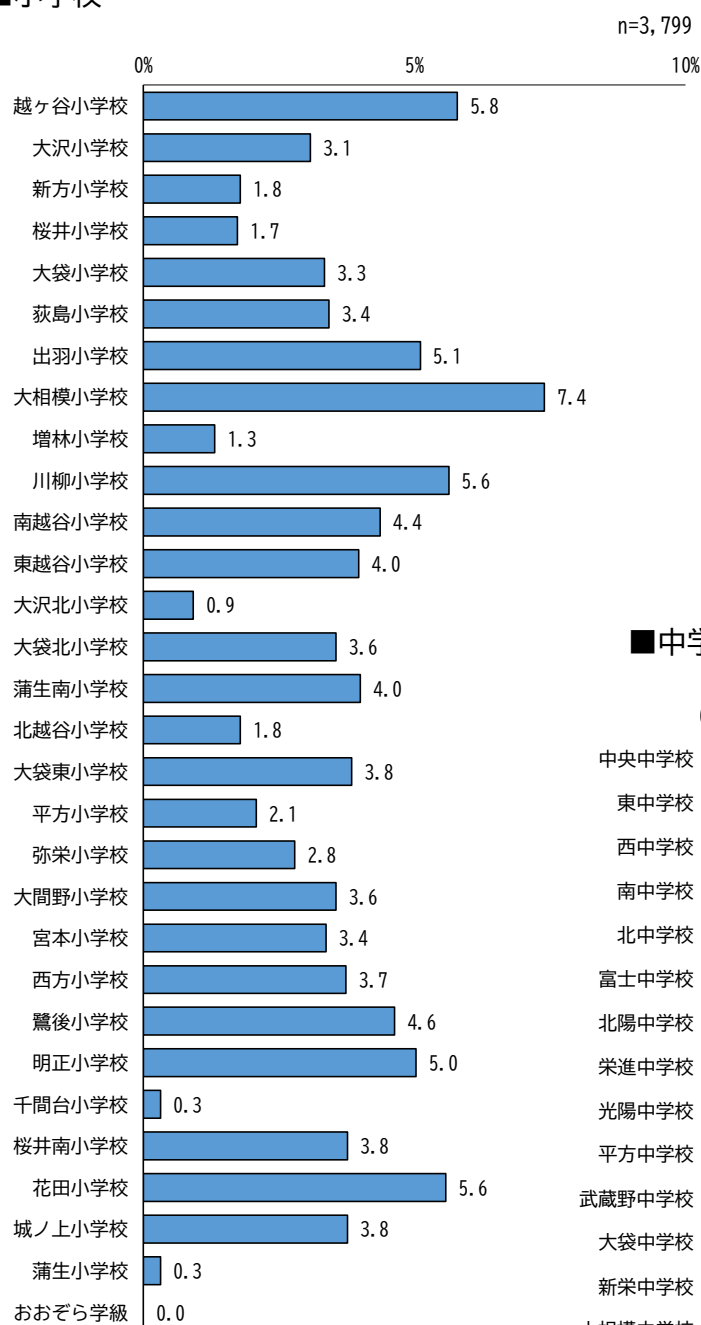


F 4 あなたが通っている学校を教えてください。(1つにチェック)

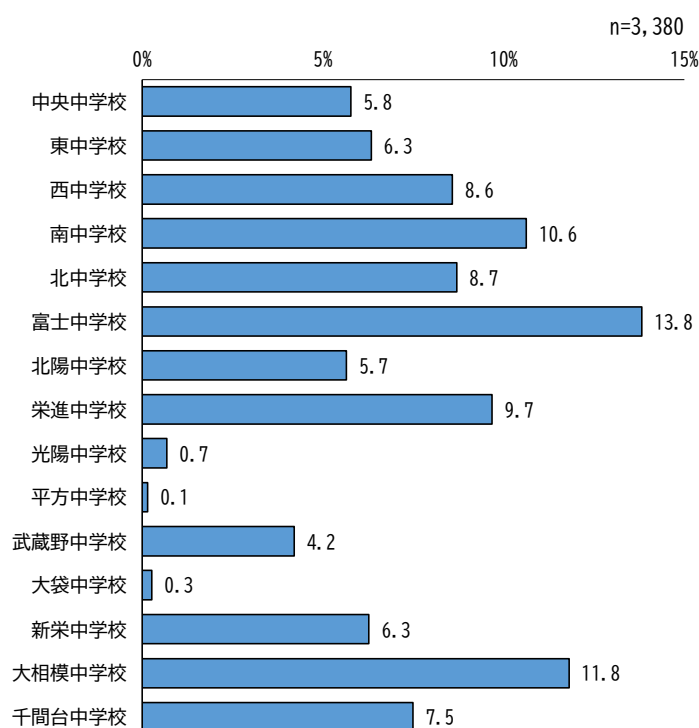
通っている学校について、小学生は「大相模小学校」が 7.4%で最も高く、次いで「越ヶ谷小学校」が 5.8%、「川柳小学校」が 5.6%、「花田小学校」が 5.6%、「出羽小学校」が 5.1%、「明正小学校」が 5.0%となっています。

中学生は、「富士中学校」が 13.8%で最も高く、次いで「大相模中学校」が 11.8%、「南中学校」が 10.6%、「栄進中学校」が 9.7%、「北中学校」が 8.7%、「西中学校」が 8.6%となっています。

■小学校



■中学校



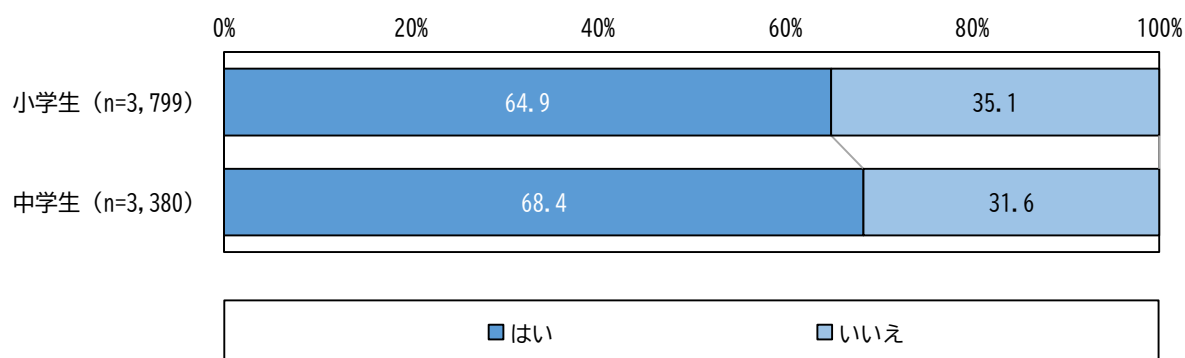
2. 家・学校以外の居場所の確認

※家（普段寝起きをしている場所）、学校（授業や部活・クラブ活動）と考えてください。

問1 あなたは、家や学校以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がほしいですか。（1つにチェック）

家や学校以外の居場所がほしいかについて、小学生は「はい」が64.9%と「いいえ」の35.1%を大きく上回ります。

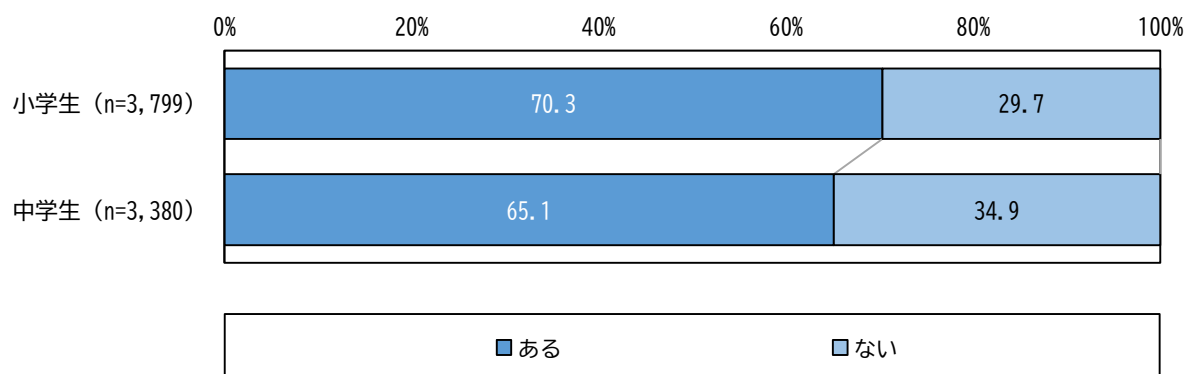
中学生についても「はい」が68.4%と、「いいえ」の31.6%を大きく上回っています。



問2 あなたは、家や学校以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がありますか。（1つにチェック）

家や学校以外の居場所があるかについて、小学生は「ある」が70.3%と「ない」の29.7%を大きく上回ります。

中学生についても「はい」が65.1%と、「いいえ」の34.9%を大きく上回っています。

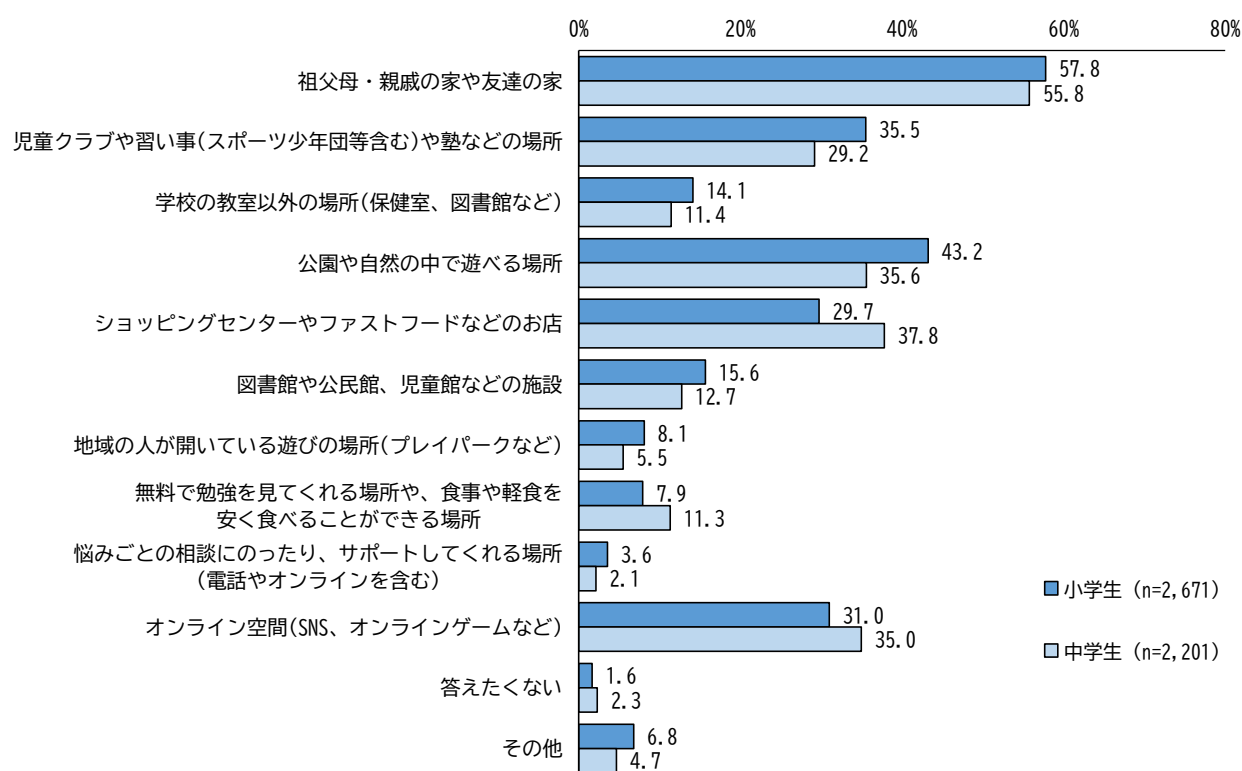


【問2で「1. ある」を選択した方】

問3 問2が「ある」の場合、どのような場所ですか。（該当する選択肢の全てにチェック）

居場所がある場合に、それがどのような場所かについて、小学生は「祖父母・親戚の家や友達の家」が57.8%で最も高く、次いで「公園や自然の中で遊べる場所」が43.2%、「児童クラブや習い事(スポーツ少年団等含む)や塾などの場所」が35.5%、「オンライン空間(SNS、オンラインゲームなど)」が31.0%、「ショッピングセンターやファストフードなどのお店」が29.7%、「図書館や公民館、児童館などの施設」が15.6%となっています。

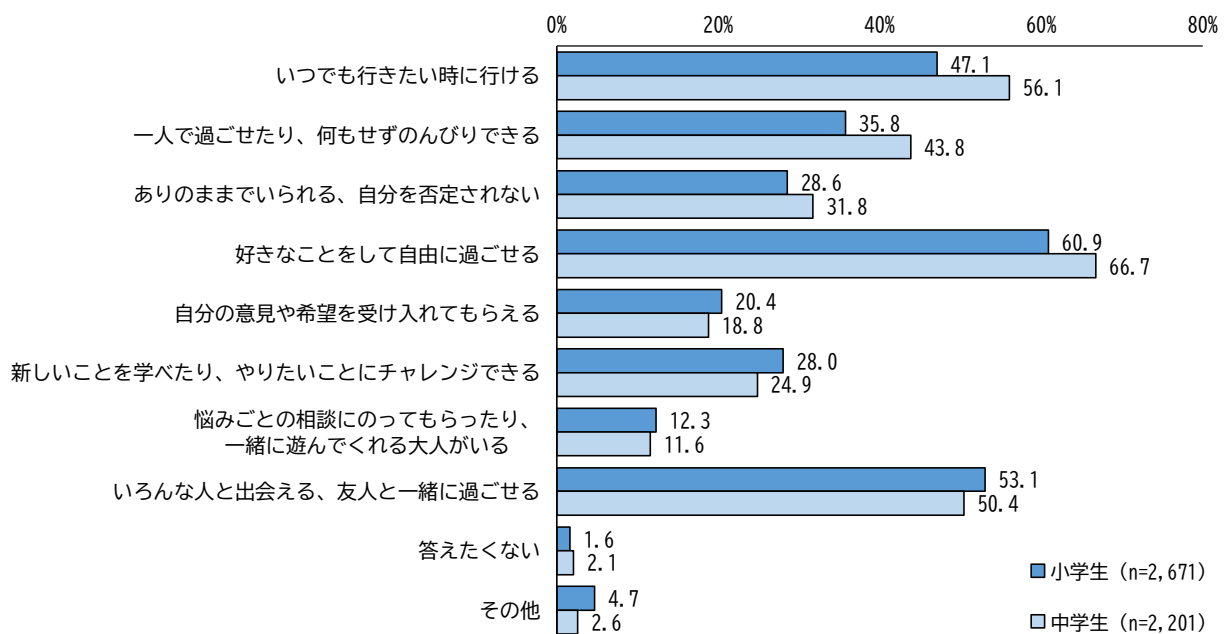
中学生は、「祖父母・親戚の家や友達の家」が55.8%で最も高く、次いで「ショッピングセンターやファストフードなどのお店」が37.8%、「公園や自然の中で遊べる場所」が35.6%、「オンライン空間(SNS、オンラインゲームなど)」が35.0%、「児童クラブや習い事(スポーツ少年団等含む)や塾などの場所」が29.2%、「図書館や公民館、児童館などの施設」が12.7%となっています。



問4 その場所は、どのような場所ですか。（該当する選択肢の全てにチェック）

どのような居場所かについて、小学生は「好きなことをして自由に過ごせる」が 60.9%で最も高く、次いで「いろんな人と出会える、友人と一緒に過ごせる」が 53.1%、「いつでも行きたい時に行ける」が 47.1%、「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる」が 35.8%、「ありのままでいられる、自分を否定されない」が 28.6%、「新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる」が 28.0%となっています。

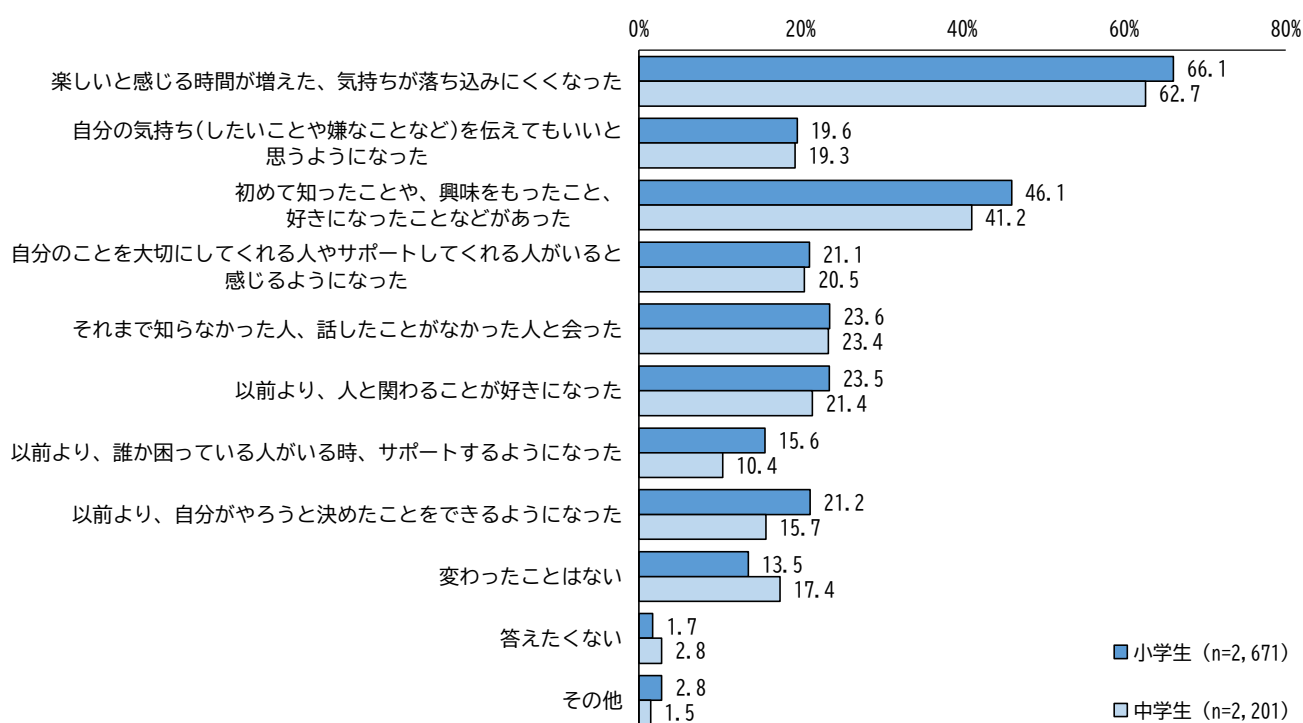
中学生は、「好きなことをして自由に過ごせる」が 66.7%で最も高く、次いで「いつでも行きたい時に行ける」が 56.1%、「いろんな人と出会える、友人と一緒に過ごせる」が 50.4%、「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる」が 43.8%、「ありのままでいられる、自分を否定されない」が 31.8%、「新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる」が 24.9%となっています。



問5 その場所に行くようになって、変わったことがありますか。(該当する選択肢の全てにチェック)

その場所に行くようになって変わったことについて、小学生は「楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった」が 66.1%で最も高く、次いで「初めて知ったことや、興味をもったこと、好きになったことなどがあった」が 46.1%、「それまで知らなかった人。話したことがなかった人と会った」が 23.6%、「以前より、人と関わるのが好きになった」が 23.5%、「以前より、自分がやろうと決めたことをできるようになった」が 21.2%、「自分のことを大切にしてくれる人やサポートしてくれる人がいると感じるようになった」が 21.1%となっています。

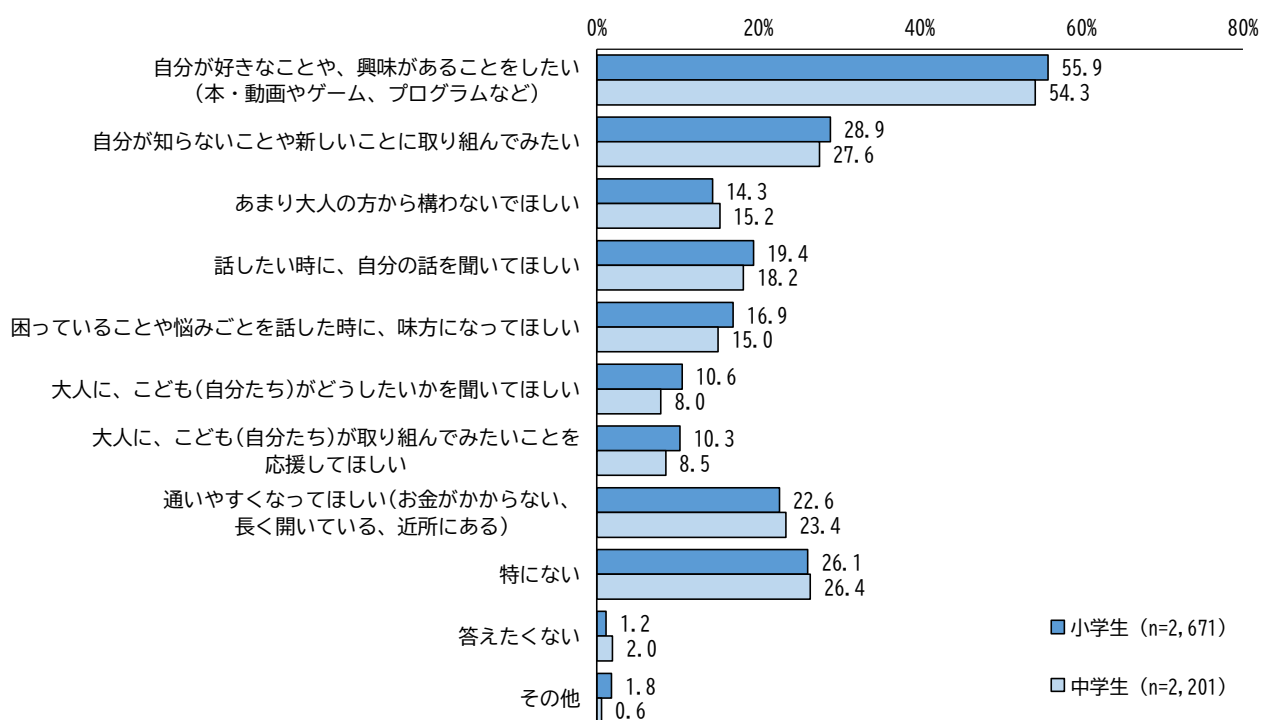
中学生は、「楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった」が 62.7%で最も高く、次いで「初めて知ったことや、興味をもったこと、好きになったことなどがあった」が 41.2%、「それまで知らなかった人。話したことがなかった人と会った」が 23.4%、「以前より、人と関わるのが好きになった」が 21.4%、「自分のことを大切にしてくれる人やサポートしてくれる人がいると感じるようになった」が 20.5%、「自分の気持ち(したいことや嫌なことなど)を伝えてもいいと思うようになった」が 19.3%となっています。



問6 あなたが、居場所でやってみたいことや、もっとこうだったらいいのと思うことはありますか。（該当する選択肢の全てにチェック）

居場所でやってみたい、もっとこうだったらいいのと思うことについて、小学生は「自分が好きなことや、興味があることをしたい(本・動画やゲーム、プログラムなど)」が55.9%で最も高く、次いで「自分が知らないことや新しいことに取り組んでみたい」が28.9%、「通いやすくなってほしい(お金がかからない、長く働いている、近所にある)」が22.6%、「話したい時に、自分の話を聞いてほしい」が19.4%、「困っていることや悩みごとを話した時に、味方になってほしい」が16.9%、「あまり大人の方から構わないでほしい」が14.3%となっています。

中学生は、「自分が好きなことや、興味があることをしたい(本・動画やゲーム、プログラムなど)」が54.3%で最も高く、次いで「自分が知らないことや新しいことに取り組んでみたい」が27.6%、「特にない」が26.4%、「通いやすくなってほしい(お金がかからない、長く働いている、近所にある)」が23.4%、「話したい時に、自分の話を聞いてほしい」が18.2%、「あまり大人の方から構わないでほしい」が15.2%となっています。

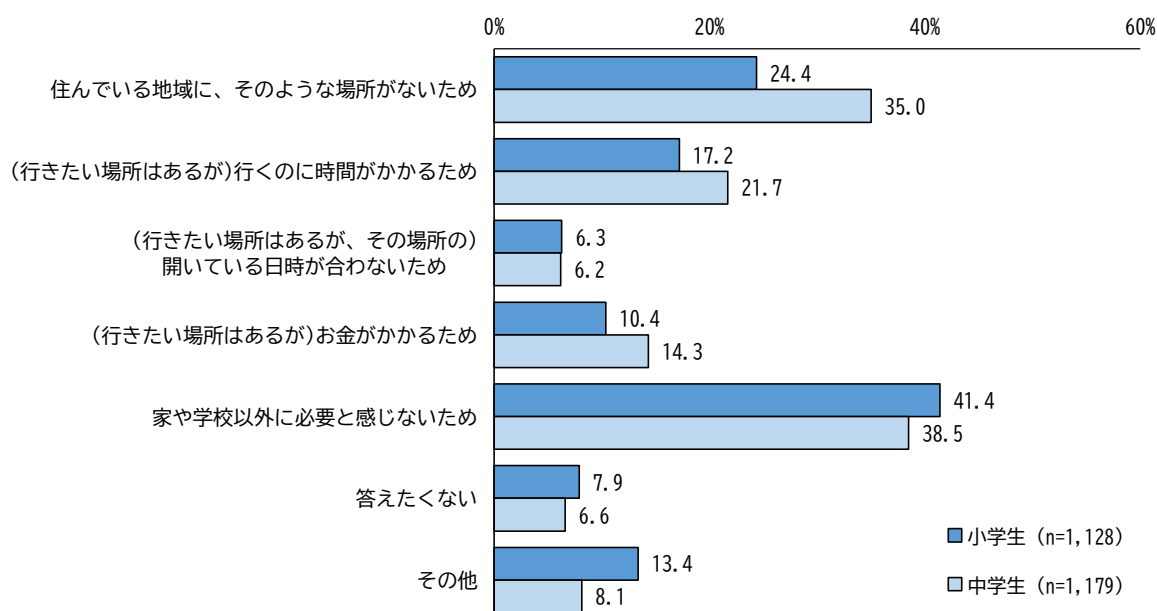


【問2で「2. ない」を選択した方】

問7 問2が「ない」の場合、家や学校以外に、「ここに居たい」と感じる場所がない理由は何ですか。（該当する選択肢の全てにチェック）

居場所がない理由について、小学生は「家や学校以外に必要と感じないため」が41.4%で最も高く、次いで「住んでいる地域に、そのような場所がないため」が24.4%、「(行きたい場所はあるが)行くのに時間がかかるため」が17.2%、「(行きたい場所はあるが)お金がかかるため」が10.4%、「(行きたい場所はあるが、その場所の)開いている日時が合わないため」が6.3%となっています。

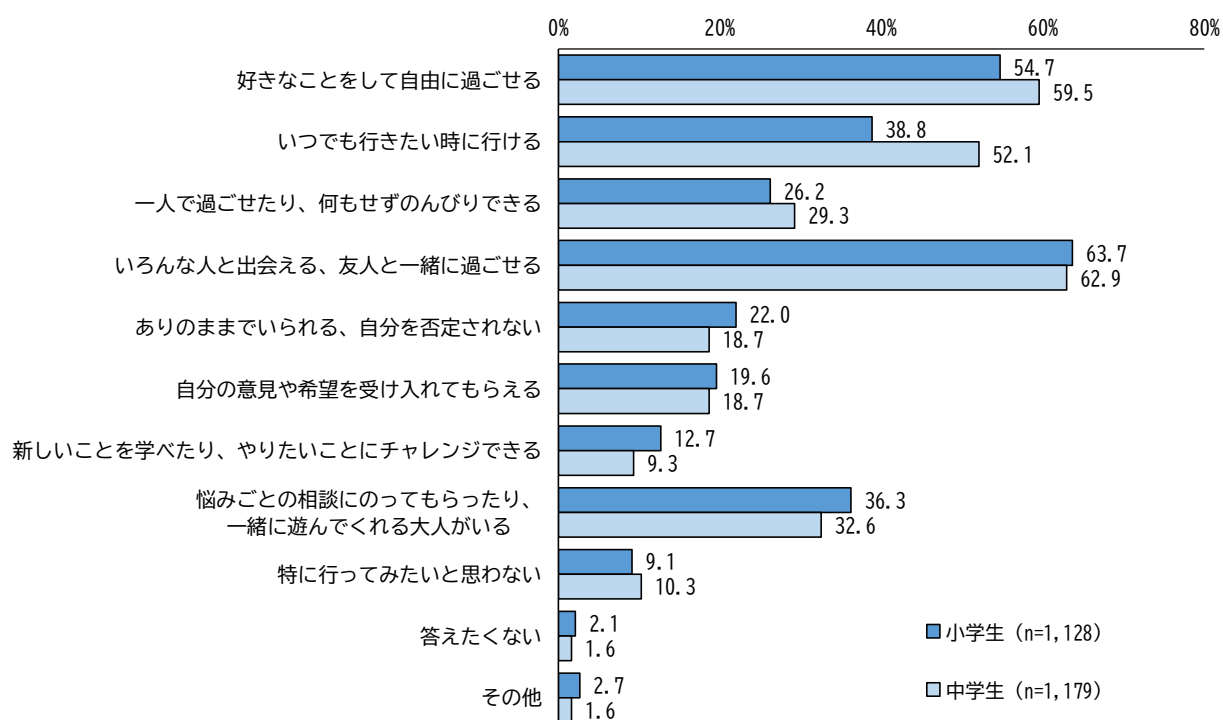
中学生は「家や学校以外に必要と感じないため」が38.5%で最も高く、次いで「住んでいる地域に、そのような場所がないため」が35.0%、「(行きたい場所はあるが)行くのに時間がかかるため」が21.7%、「(行きたい場所はあるが)お金がかかるため」が14.3%、「(行きたい場所はあるが、その場所の)開いている日時が合わないため」が6.2%となっています。



問8 あなたは、どのような場所があれば行ってみたいと思いますか。（該当する選択肢の全てにチェック）

居場所がない場合に、どのような場所があれば行ってみたいと思うかについて、小学生は「好きなことをして自由に過ごせる」が 63.7%で最も高く、次いで「いつでも行きたい時に行ける」が 54.7%、「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる」が 38.8%、「いろんな人と出会える、友人と一緒に過ごせる」が 36.3%、「ありのままでいられる、自分を否定されない」が 26.2%、「自分の意見や希望を受け入れてもらえる」が 22.0%となっています。

中学生は「好きなことをして自由に過ごせる」が 62.9%で最も高く、次いで「いつでも行きたい時に行ける」が 59.5%、「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる」が 52.1%、「いろんな人と出会える、友人と一緒に過ごせる」が 32.6%、「ありのままでいられる、自分を否定されない」が 29.3%、「自分の意見や希望を受け入れてもらえる」が 18.7%となっています。



VII こども・若者の意識と生活に関する調査

●本章の本文やグラフに掲載されている属性について

「生活水準」:F7 あなたの暮らし向き(生活水準)において

「上(n=42)」+「中の上(n=287)」と回答した人を『上(n=329)』

「中の中(n=707)」と回答した人を『中(n=707)』

「中の下(n=289)」+「下(n=68)」と回答した人を『下(n=357)』とし、

クロス集計の属性として使用しています。

「自己肯定感」:問1の「ケ.今の自分が好きだ」において

「あてはまる(n=282)」+「どちらかといえばあてはまる(n=629)」と

回答した人を 自己肯定感が『高い(n=911)』

「どちらかといえば、あてはまらない(n=329)」+「あてはまらない(n=159)」と

回答した人を 自己肯定感が『低い(n=488)』とし、

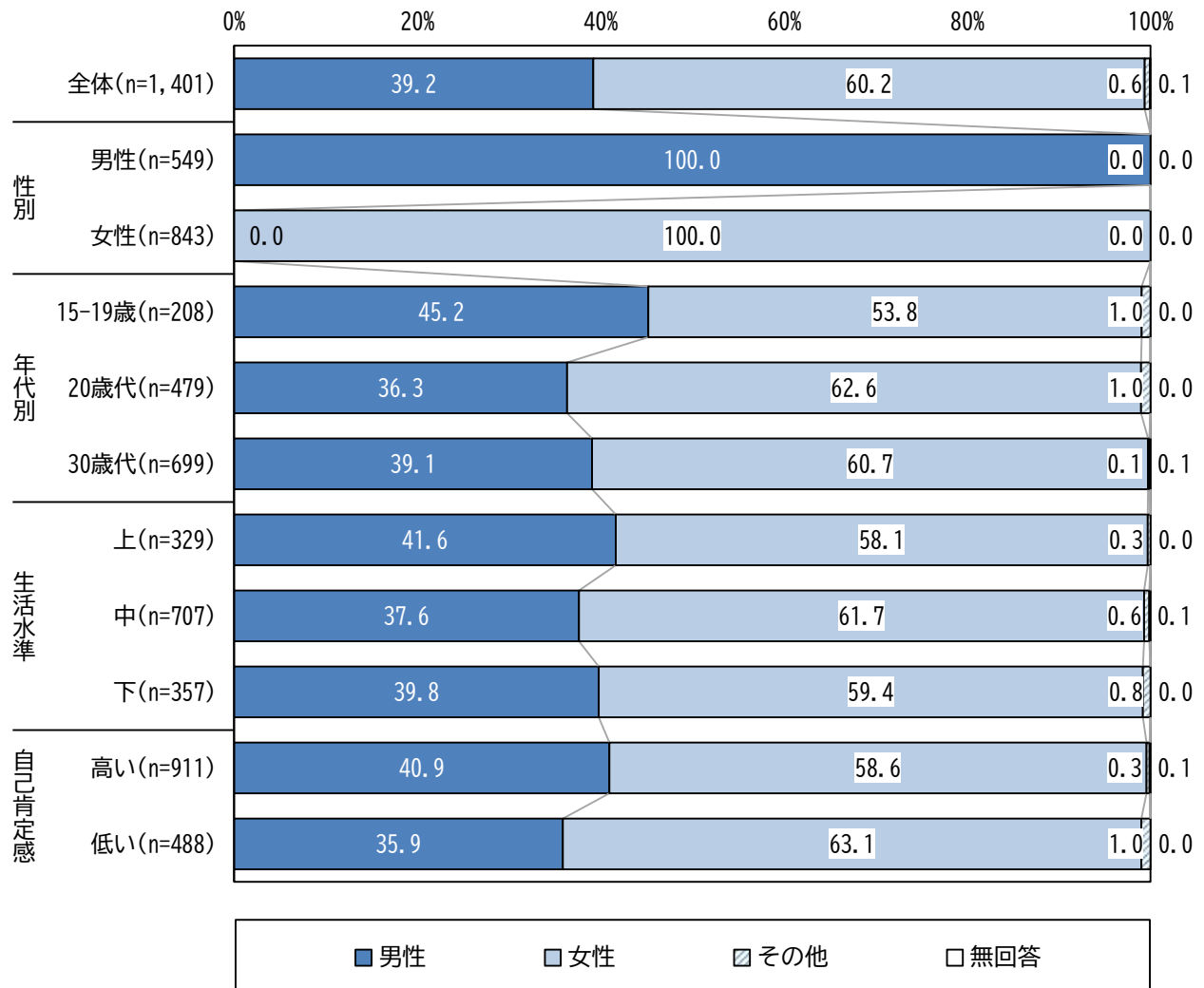
クロス集計の属性として使用しています。

両設問ともに、国の「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)」における設問を参照しています。

1. あなた自身のことについて

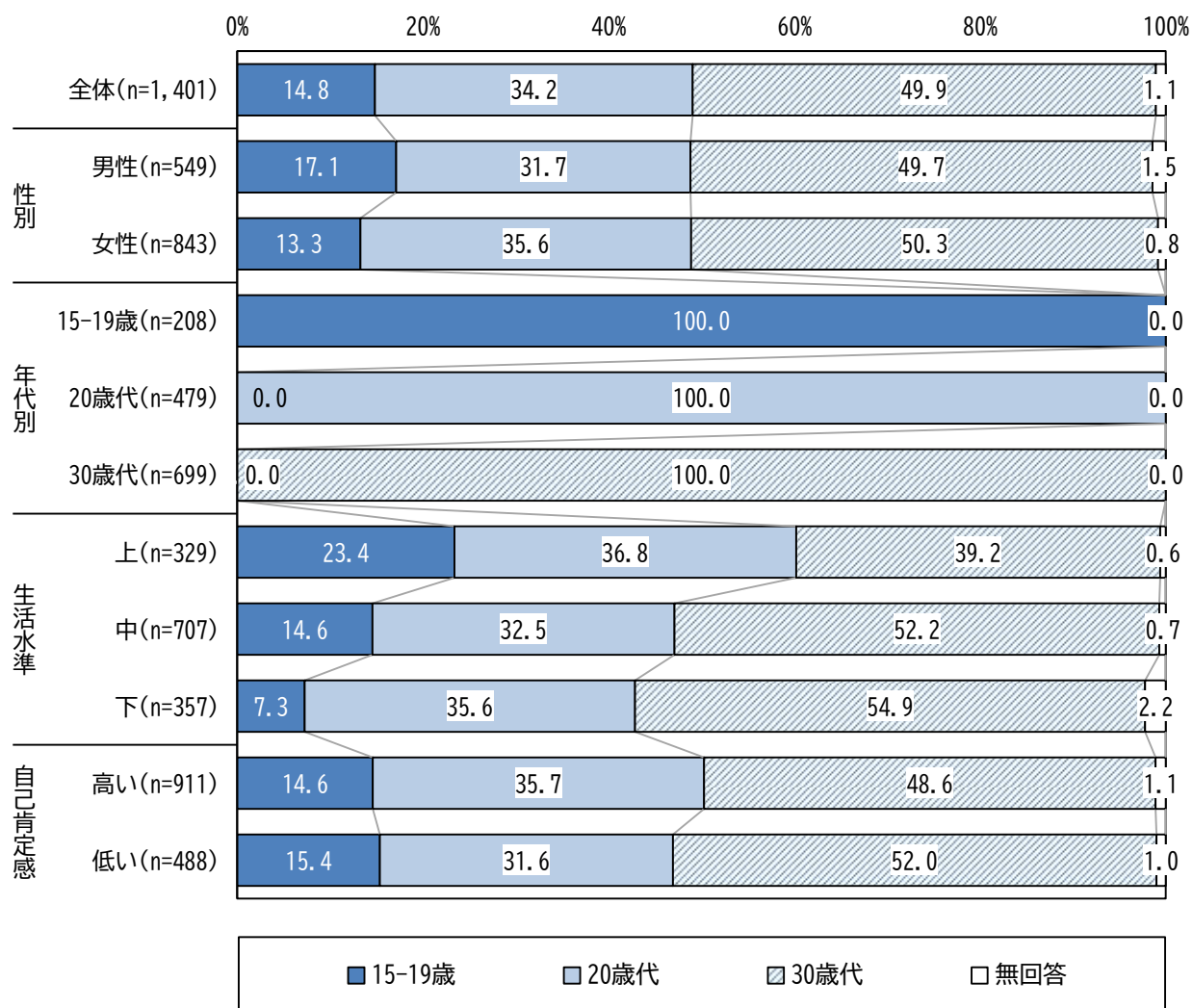
F 1 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

回答者の性別については、「女性」が 60.2%、「男性」が 39.2%、「その他」が 0.6%となっています。



F 2 あなたの年齢をお答えください。（数字で回答）※令和5年 12 月 1 日現在の年齢をお答えください。

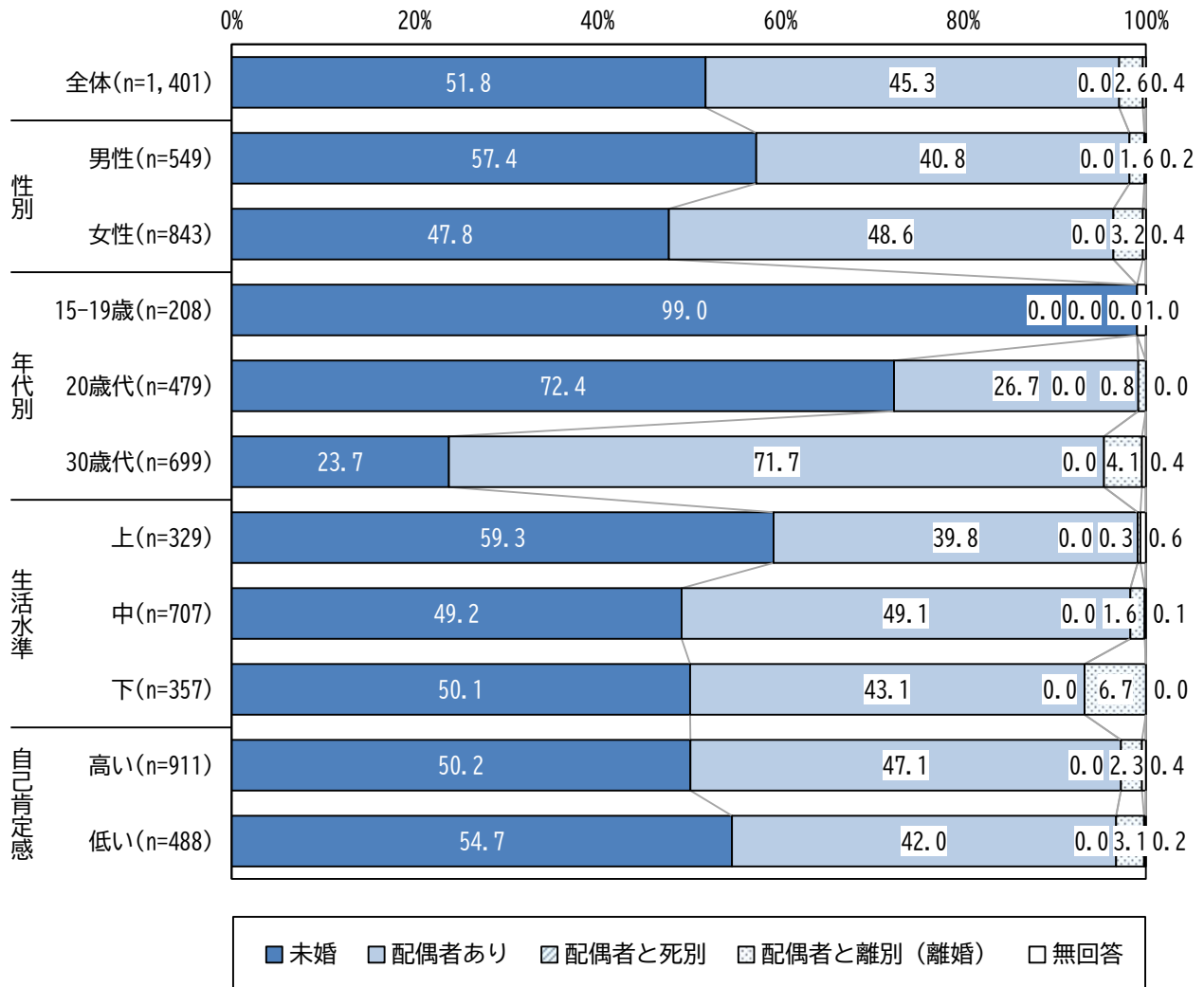
回答者の年齢については、「30 歳代」が 49.9%で最も高く、以下「20 歳代」が 34.2%、「15～19 歳」が 14.8%となっています。



F 3 あなたの現在の婚姻状況をお答えください。なお、「配偶者」には、婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にある方を含めます。（○は1つだけ）

回答者の婚姻状況については、「未婚」が51.8%で最も高く、以下「配偶者あり」が45.3%、「配偶者と離別（離婚）」が2.6%となっています。

年代別では、20歳代の59.3%が「未婚」、30歳代の71.7%が「配偶者あり」となっています。



F 4 現在、あなたと同居している方をお答えください。なお、「配偶者」には、婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にある方を含めます。（あてはまるものすべてに○）※里親や児童養護施設などで暮らしている方は、「8 その他」をお選びください。

現在同居している人については、「あなたの配偶者」が 44.7%で最も高く、以下「母」が 39.6%、「あなたの子」が 34.8%、「父」が 33.4%、「きょうだい」が 26.1%、「祖父母」が 5.5%などとなっています。一方、「同居している人はいない（単身世帯）」は 9.5%となっています。

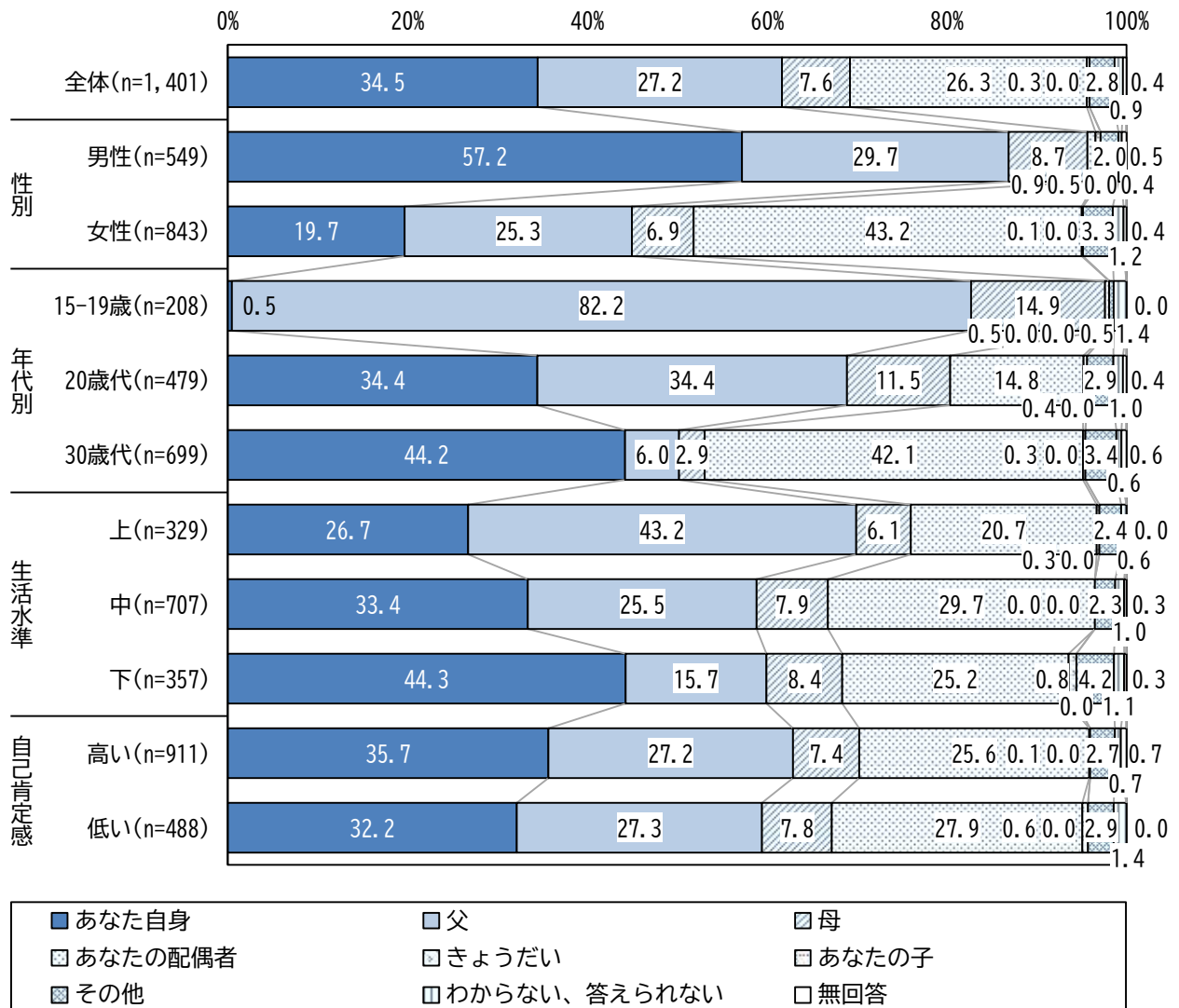
単位：％

上位項目		あなたの配偶者	母	あなたの子	父	きょうだい
全体(n=1,401)		44.7	39.6	34.8	33.4	26.1
性別	男性(n=549)	40.4	43.9	29.7	37.7	26.4
	女性(n=843)	47.9	36.4	38.6	30.2	25.7
年代別	15-19歳(n=208)	0.0	95.2	0.0	85.6	80.8
	20歳代(n=479)	26.3	50.3	13.8	42.0	29.4
	30歳代(n=699)	70.8	15.9	59.2	12.3	7.7
生活水準	上(n=329)	39.8	52.3	27.4	47.1	37.4
	中(n=707)	48.1	37.8	37.2	32.4	24.2
	下(n=357)	42.9	31.4	37.5	22.4	19.3
自己肯定感	高い(n=911)	46.4	38.5	36.0	32.3	25.2
	低い(n=488)	41.6	41.6	32.8	35.7	27.5

下位項目 その他等		祖父母	その他親族	その他	同居している人 はいない（単身世帯）	無回答
全体(n=1,401)		5.5	1.4	2.4	9.5	0.4
性別	男性(n=549)	6.7	1.6	1.5	10.4	0.5
	女性(n=843)	4.6	1.3	3.0	8.8	0.2
年代別	15-19歳(n=208)	13.9	0.0	0.0	1.0	0.0
	20歳代(n=479)	7.5	1.9	5.4	14.8	0.4
	30歳代(n=699)	1.7	1.4	0.9	8.3	0.4
生活水準	上(n=329)	6.4	0.3	1.8	5.2	0.0
	中(n=707)	5.4	1.4	2.0	8.6	0.4
	下(n=357)	5.0	2.5	3.6	15.4	0.0
自己肯定感	高い(n=911)	4.4	0.7	2.2	9.4	0.5
	低い(n=488)	7.6	2.9	2.7	9.4	0.0

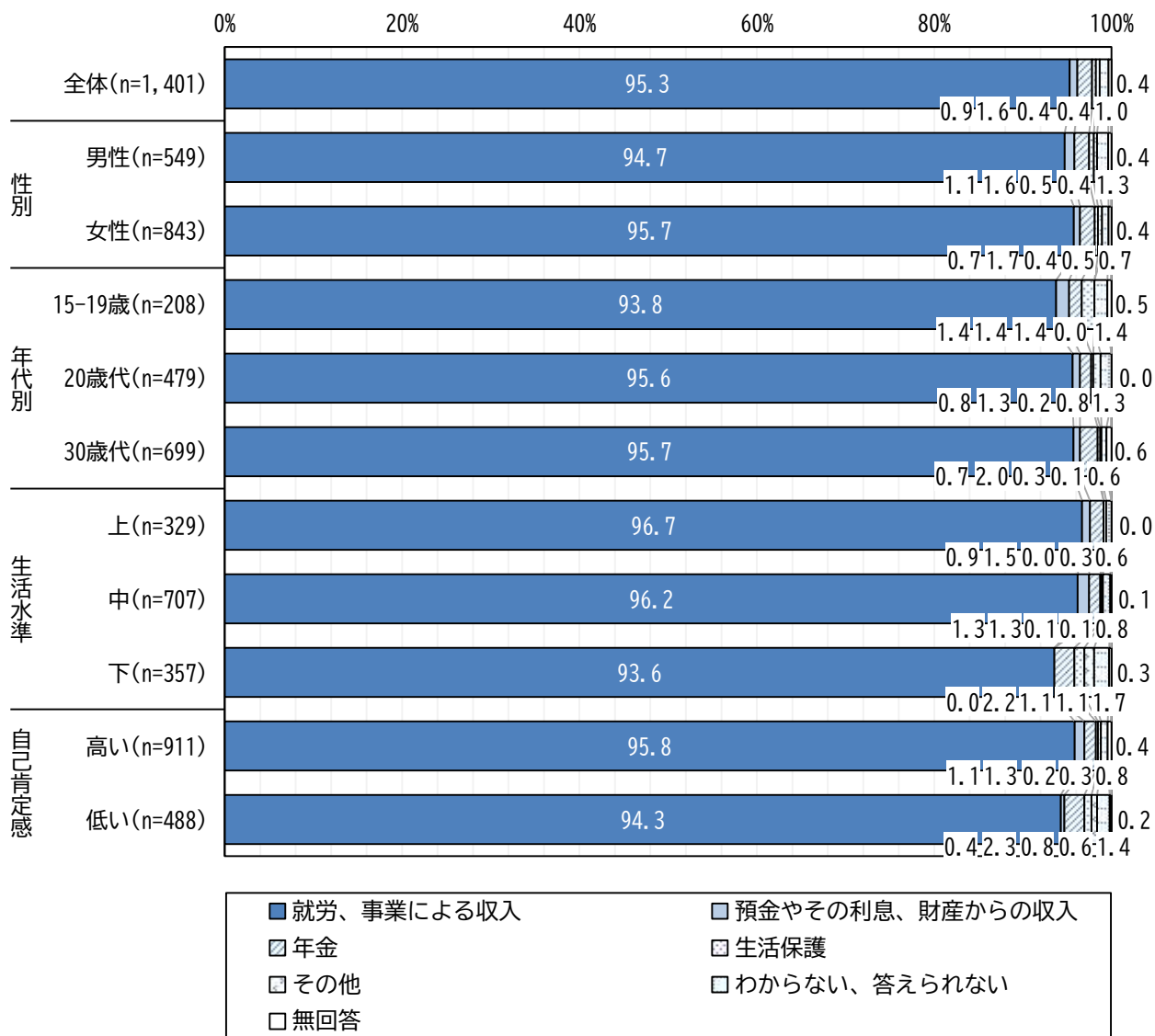
F 5 生計を支えている方は主にどなたですか。また、仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(○は1つだけ)

生計を支えている人については、「あなた自身」が34.5%で最も高く、以下「父」が27.2%、「あなたの配偶者」が26.3%、「母」が7.6%、「きょうだい」が0.3%などとなっています。



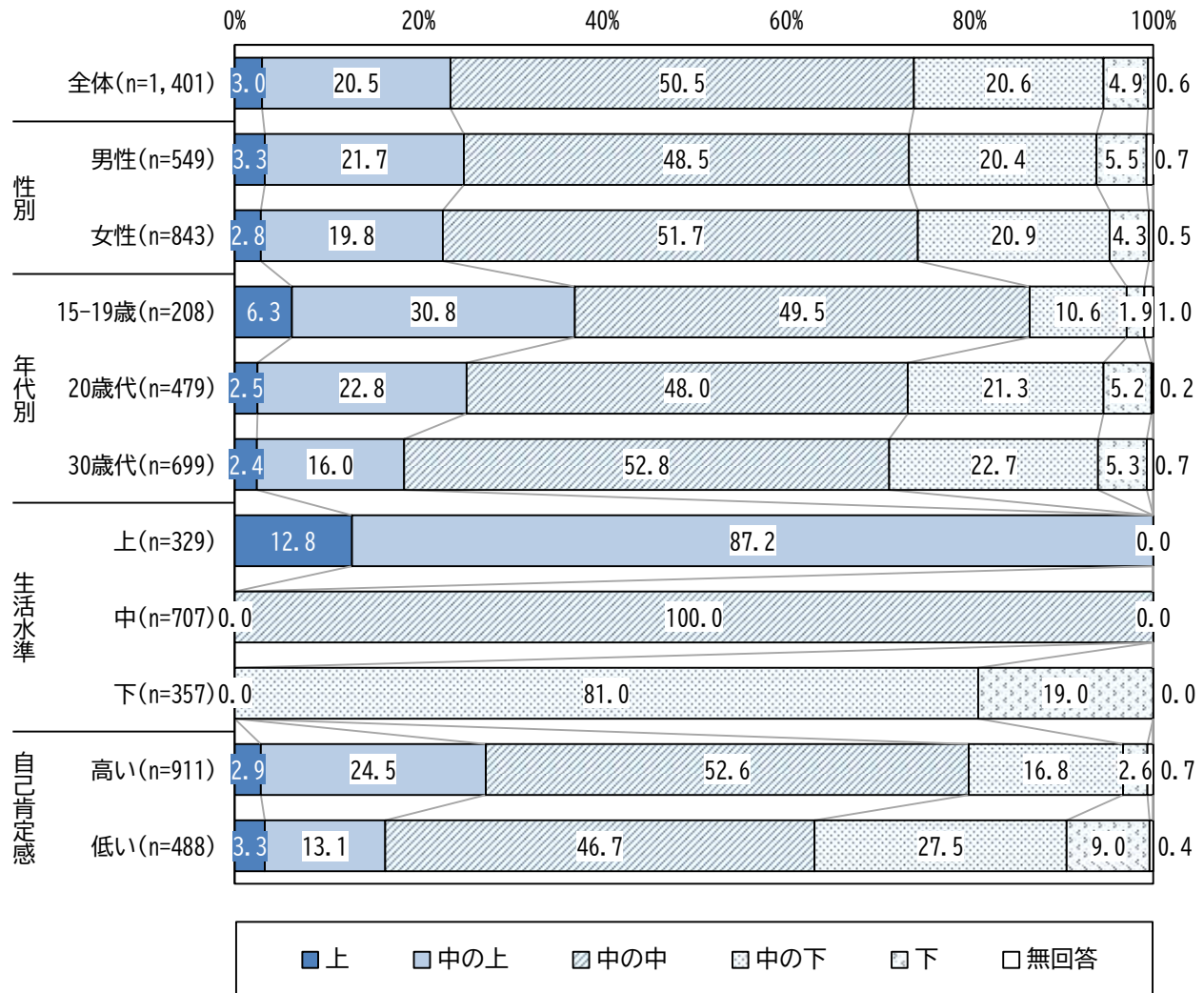
F 6 主に生計を支えている方の主な収入源は何ですか。(〇は1つだけ)

主に生計を支えている人の主な収入源については、「就労、事業による収入」が 95.3%で最も高く、以下「年金」が 1.6%、「預金やその利息、財産からの収入」が 0.9%、「生活保護」が 0.4%などとなっています。



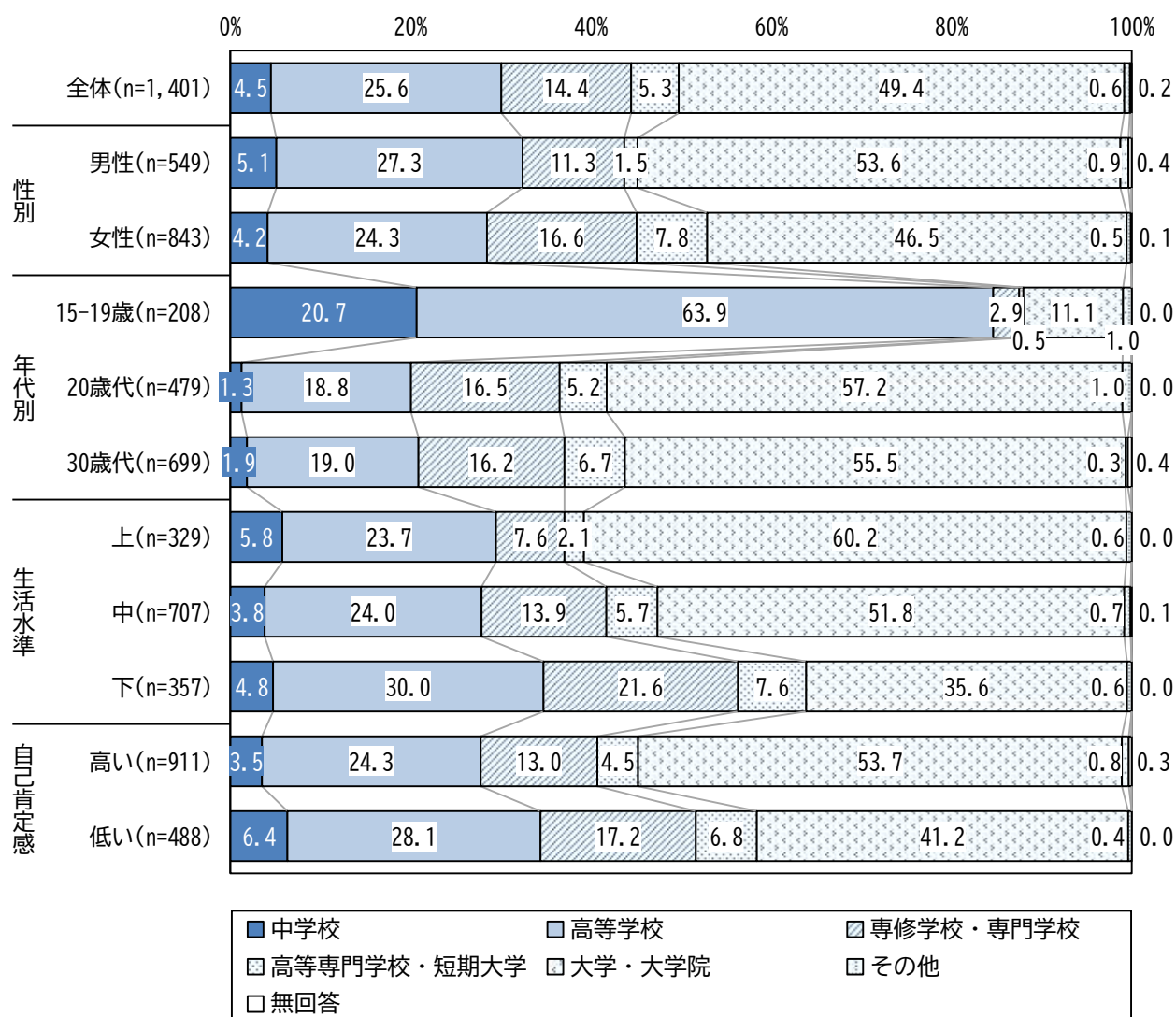
Ｆ７ あなたの暮らし向き（衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準）は、世間一般と比べてみて、上から下までのどれにあたるとお考えですか。あなたの実感でお答えください。（○は１つだけ）

生活水準については、「中の中」が 50.5%で最も高く、以下「中の下」が 20.6%、「中の上」が 20.5%、「下」が 4.9%、「上」が 3.0%となっています。



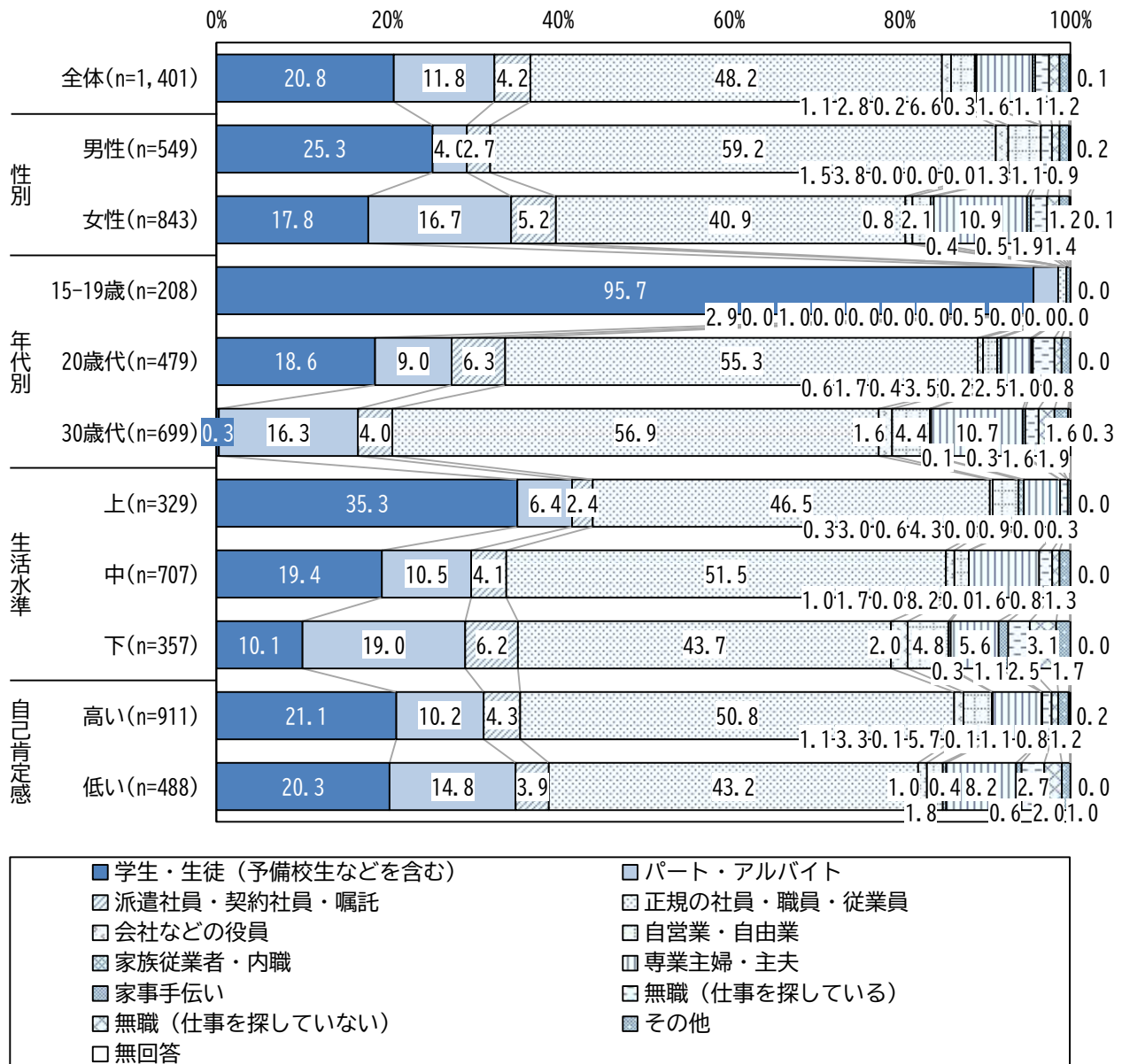
F 8 あなたが最後に卒業（中退を含む）した学校はどこですか。在学中の方は、現在在学している学校をお答えください。（○は1つだけ）

最後に卒業した学校については、「大学・大学院」が49.4%で最も高く、以下「高等学校」が25.6%、「専修学校・専門学校」が14.4%、「高等専門学校・短期大学」が5.3%、「中学校」が4.5%となっています。



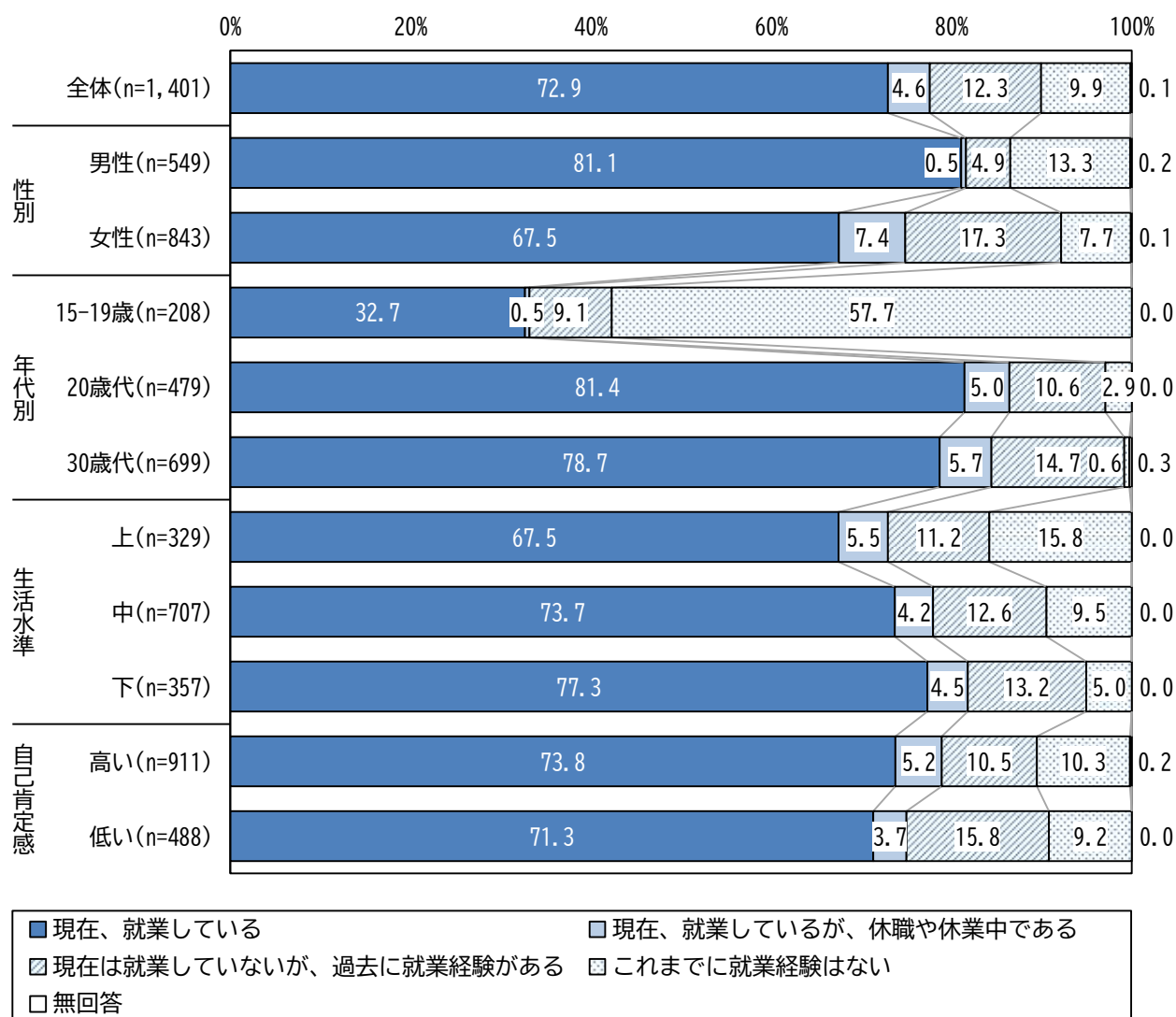
F 9 あなたの現在の仕事をお答えください。(○は1つだけ)

現在の仕事については、「正規の社員・職員・従業員」が 48.2%で最も高く、以下「学生・生徒（予備校生などを含む）」が 20.8%、「パート・アルバイト」が 11.8%、「専業主婦・主夫」が 6.6%、「派遣社員・契約社員・嘱託」が 4.2%、「自営業・自由業」が 2.8%などとなっています。



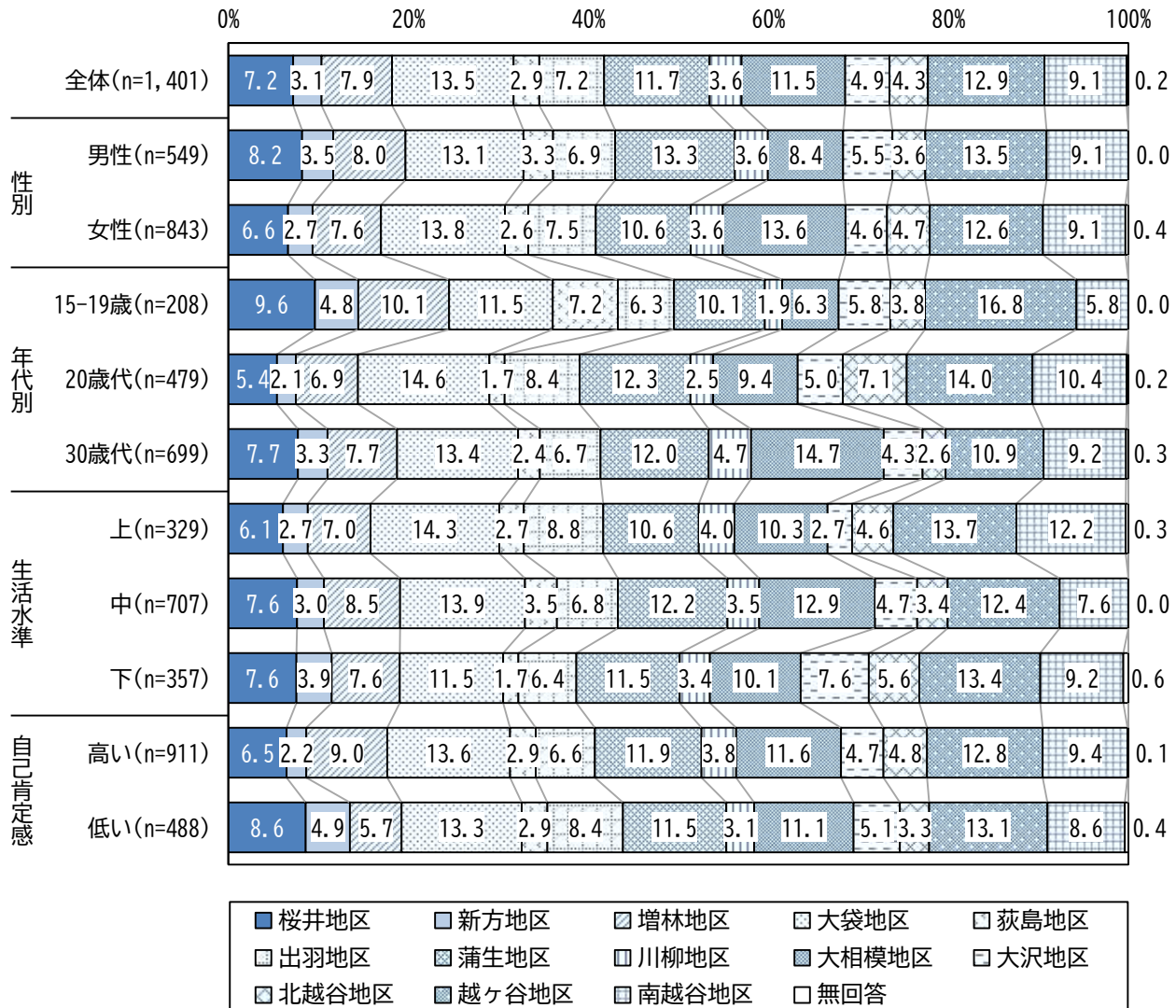
F 10 あなたの就業経験についてお答えください。(パート・アルバイトを含む)(○はひとつだけ)

就業経験については、「現在、就業している」が72.9%で最も高く、以下「現在は就業していないが、過去に就業経験がある」が12.3%、「これまでに就業経験はない」が9.9%、「現在、就業しているが、休職や休業中である」が4.6%となっています。



F 11 あなたは、どの地区に住んでいますか。(○はひとつだけ)

居住地区について、「大袋地区」が 13.5%で最も高く、以下「越ヶ谷地区」が 12.9%、「蒲生地区」が 11.7%、「大相模地区」が 11.5%、「南越谷地区」が 9.1%、「増林地区」が 7.9% などとなっています。



2. あなたの日頃の意識や人とのかかわりについてお聞きします

問1 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。(ア～ソのそれぞれについて、○は1つ)

ア. 自分には自分らしさというものがあると思う

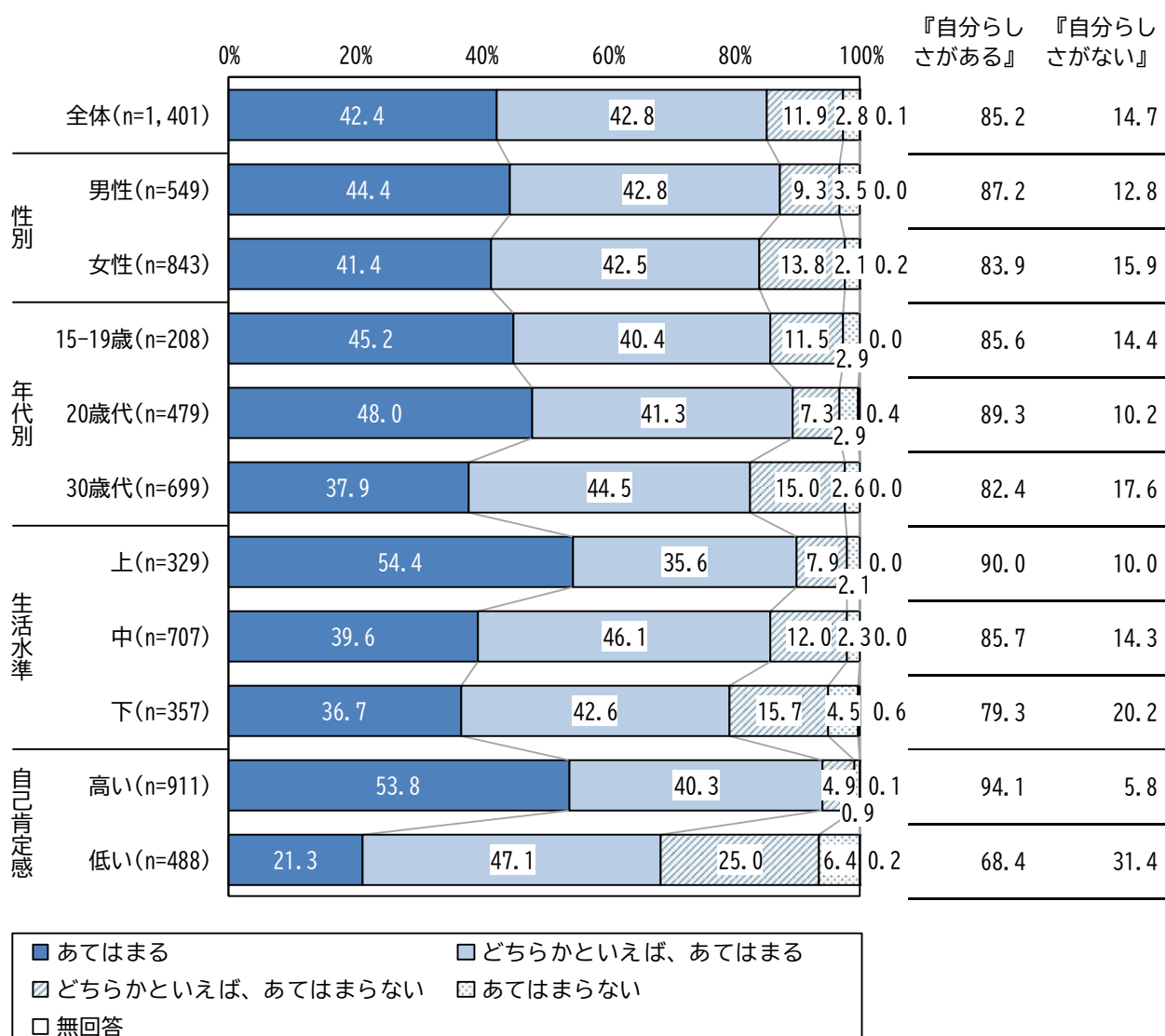
自分には自分らしさというものがあると思うかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が42.8%で最も高く、以下「あてはまる」が42.4%、「どちらかといえば、あてはまらない」が11.9%、「あてはまらない」が2.8%となっています。

「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『自分らしさがある』は85.2%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『自分らしさがない』は14.7%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて、『自分らしさがある』の割合が低くなり、『自分らしさがない』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では94.1%が『自分らしさがある』と回答しているのに対し、自己肯定感が低い人では68.4%にとどまっています。



イ. 自分の欲しいものをがまんすることが苦手だ

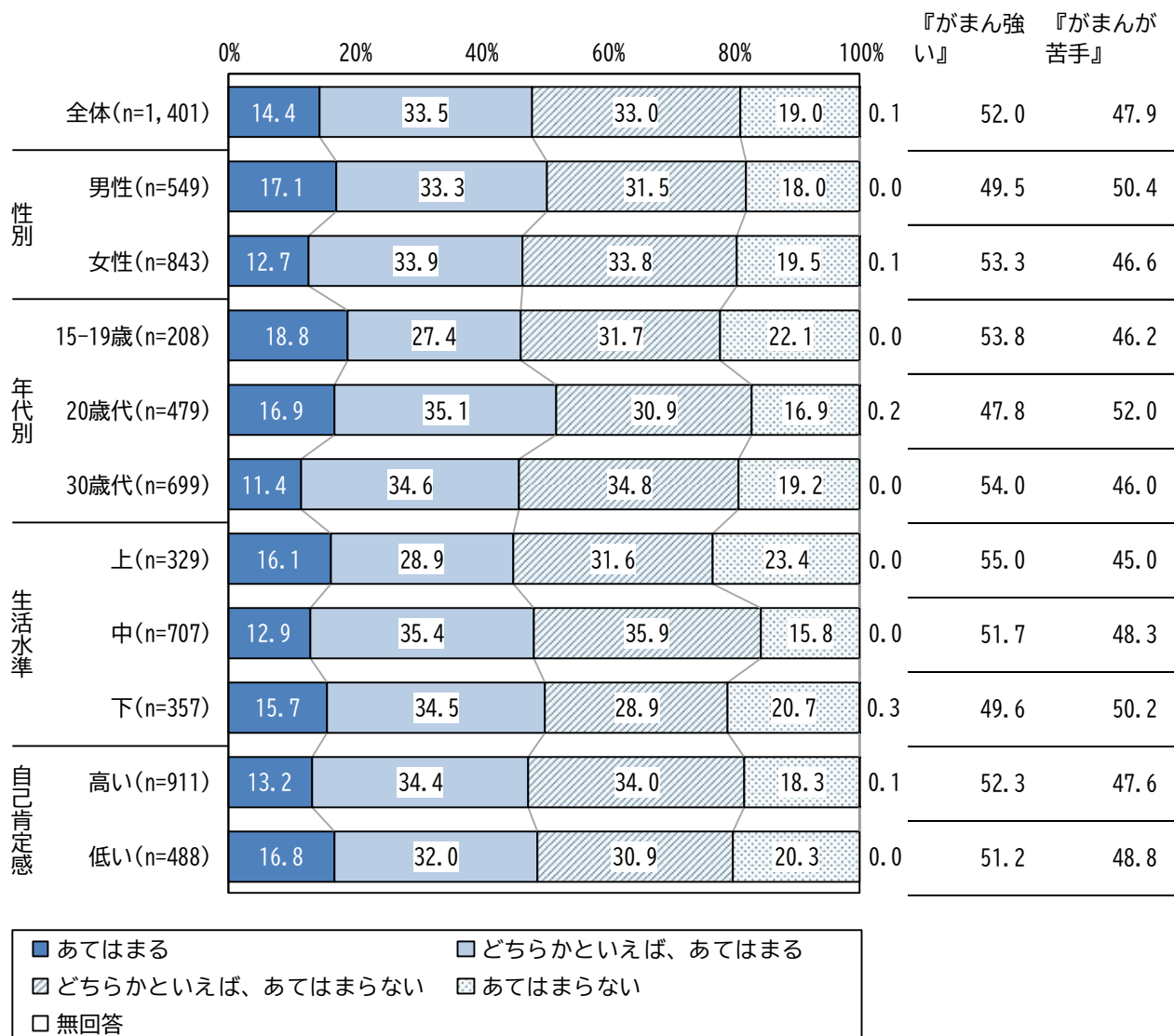
自分の欲しいものをがまんすることが苦手かについては、「どちらかといえば、あてはまる」が33.5%で最も高く、以下「どちらかといえば、あてはまらない」が33.0%、「あてはまらない」が19.0%、「あてはまる」が14.4%となっています。

「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『がまん強い』は52.0%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『がまんが苦手』は47.9%となっています。

【属性別】

性別では、男性では『がまんが苦手』の方が割合が高くなっていますが、女性では『がまん強い』の方が割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて、『がまん強い』の割合が低くなり、『がまんが苦手』の割合が高くなっています。



ウ. 今の自分を変えたいと思う

今の自分を変えたいと思うかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が 33.6%で最も高く、以下「あてはまる」が 31.4%、「どちらかといえば、あてはまらない」が 24.8%、「あてはまらない」が 10.1%となっています。

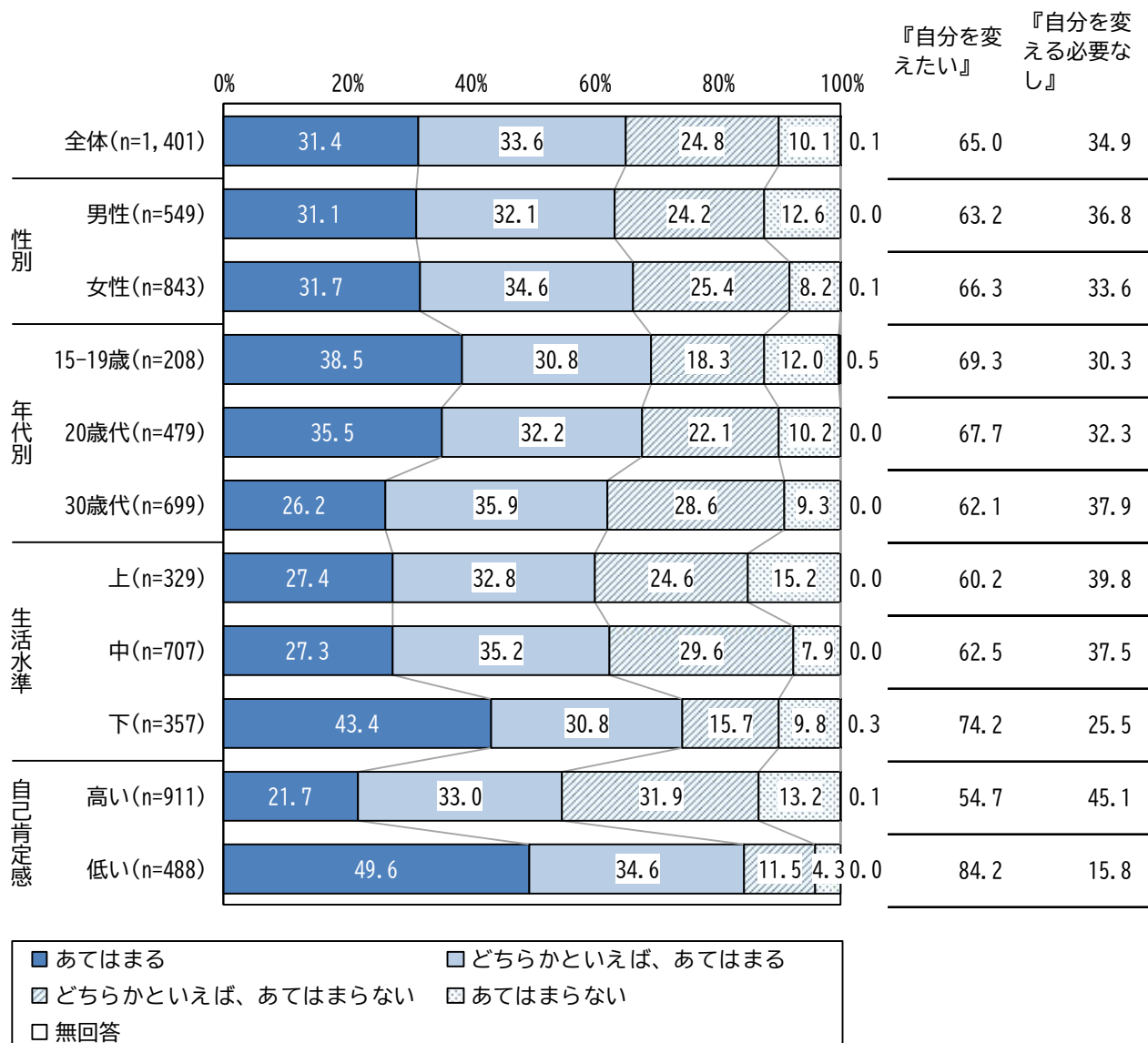
「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『自分を変えたい』は 65.0%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『自分を変える必要なし』は 34.9%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が低いほど『自分を変えたい』の割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて、『自分を変えたい』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では『自分を変えたい』が 84.2%を占めています。



エ. 将来よりも今の生活を楽しみたい

将来よりも今の生活を楽しみたいかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が45.5%で最も高く、以下「どちらかといえば、あてはまらない」が29.8%、「あてはまる」が17.3%、「あてはまらない」が7.3%となっています。

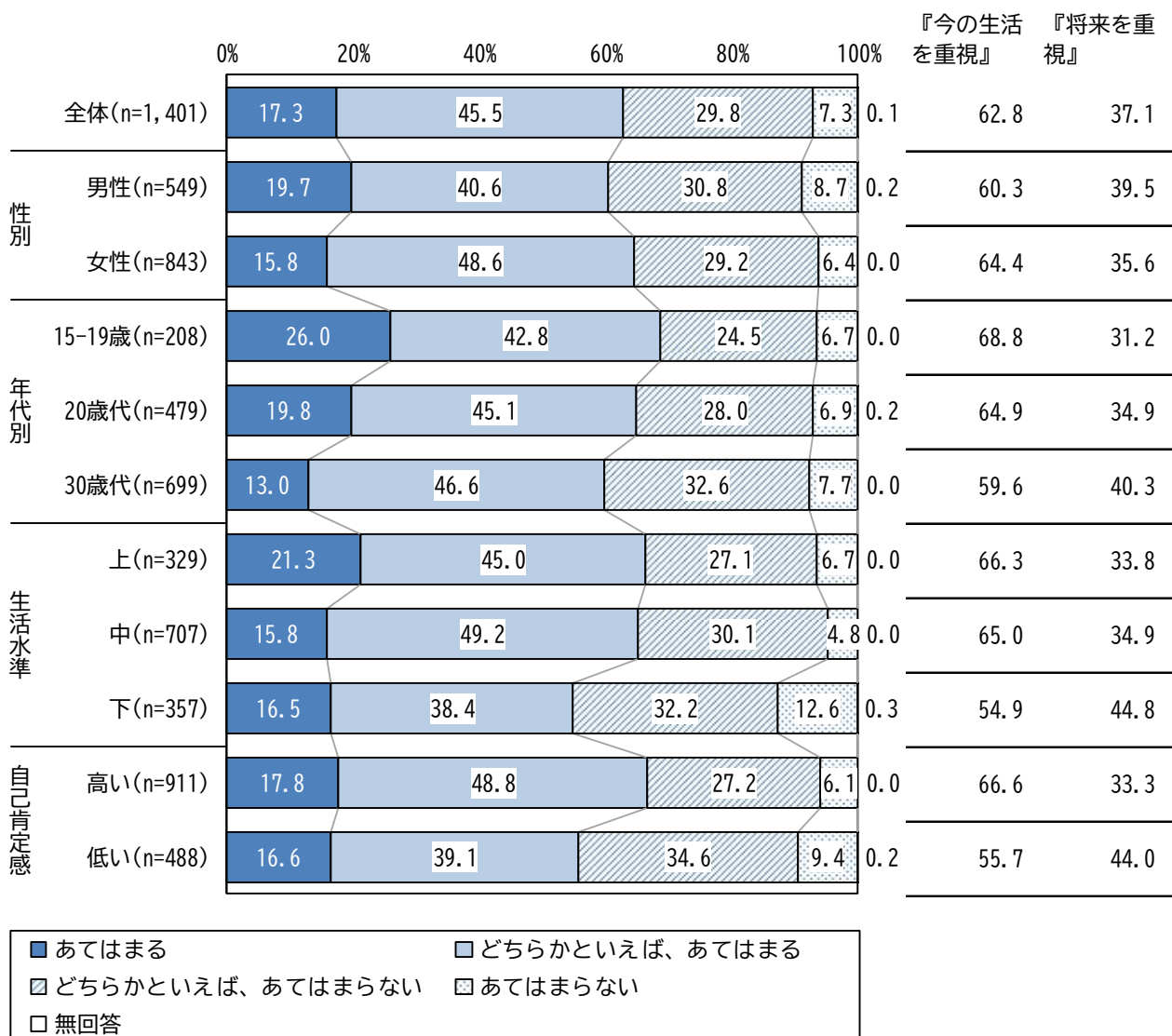
「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『今の生活を重視』は62.8%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『将来を重視』は37.1%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『今の生活を重視』の割合が低くなり、『将来を重視』の割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて、『今の生活を重視』の割合が低くなり、『将来を重視』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人の方が『今の生活を重視』の割合が高くなっています。



オ. 努力すれば希望する職業につくことができる

努力すれば希望する職業につくことができるかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が40.7%で最も高く、以下「あてはまる」が26.4%、「どちらかといえば、あてはまらない」が22.1%、「あてはまらない」が10.8%となっています。

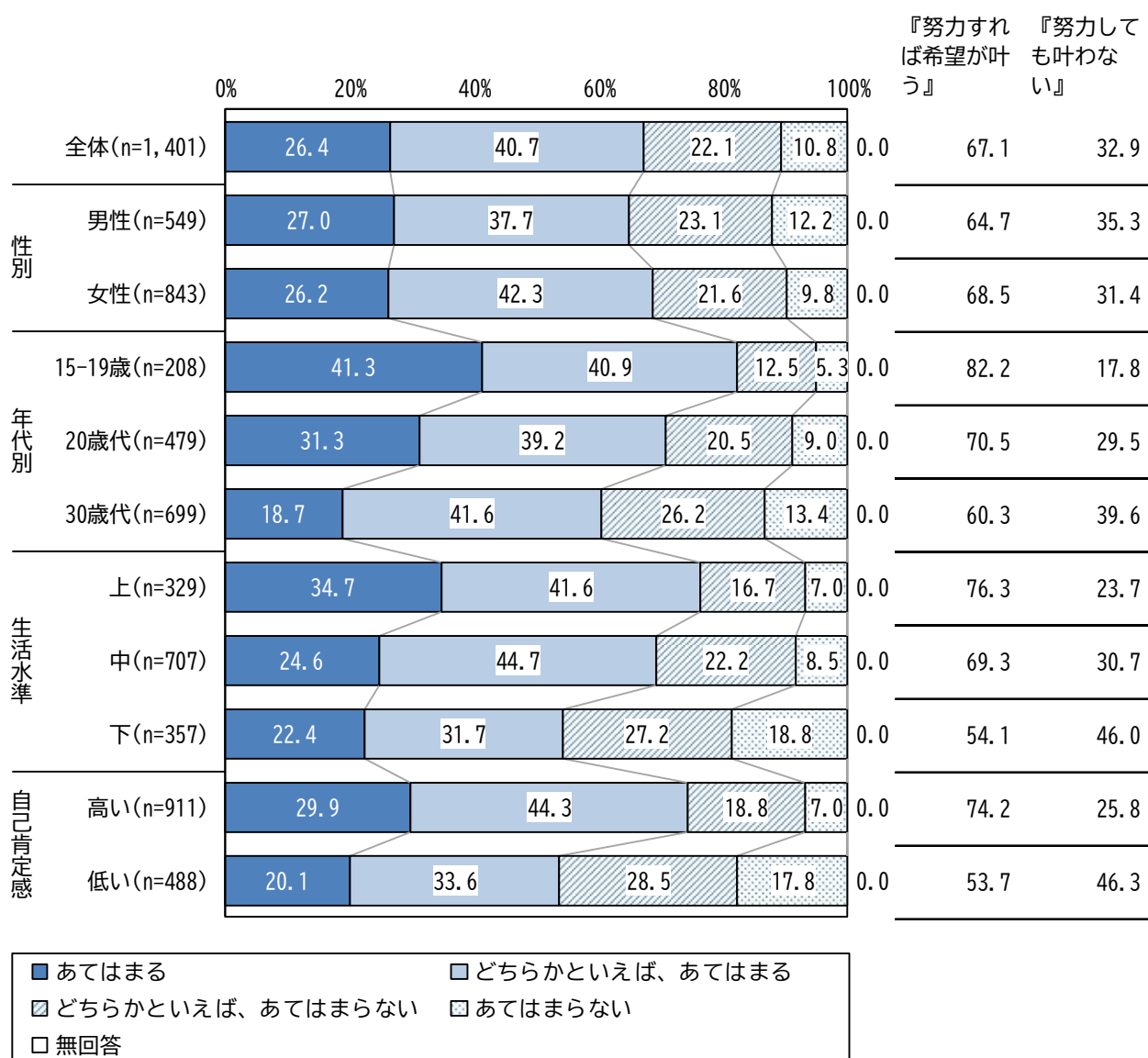
「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『努力すれば希望が叶う』は67.1%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『努力しても叶わない』は32.9%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『努力すれば希望が叶う』の割合が低くなり、『努力しても叶わない』の割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『努力すれば希望が叶う』の割合が低くなり、『努力しても叶わない』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では72.4%が『努力すれば希望が叶う』と回答しているのに対し、自己肯定感が低い人では53.7%にとどまっています。



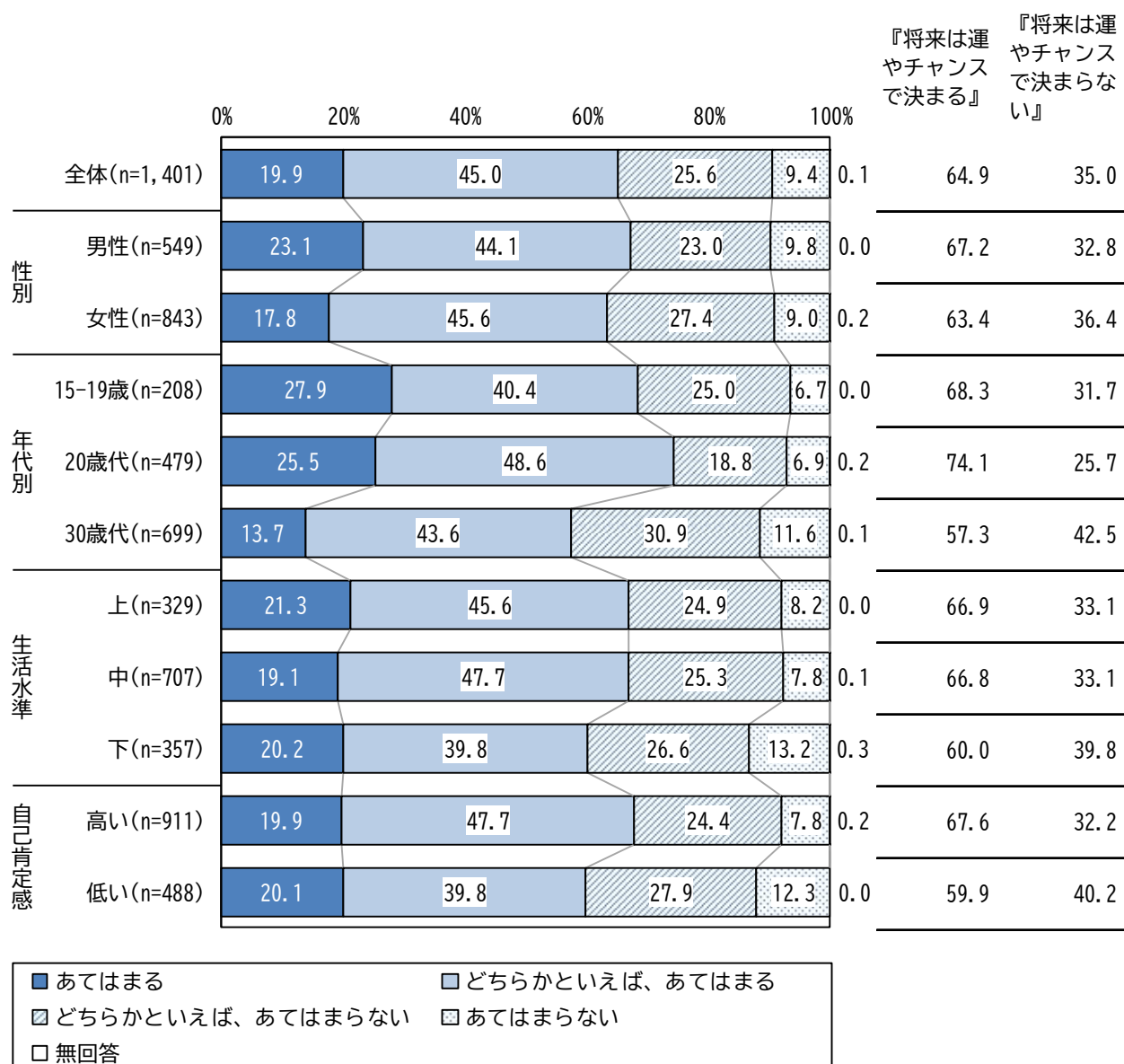
カ. 自分の将来は運やチャンスによって決まると思う

自分の将来は運やチャンスによって決まると思うかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が45.0%で最も高く、以下「どちらかといえば、あてはまらない」が25.6%、「あてはまる」が19.9%、「あてはまらない」が9.4%となっています。

「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『将来は運やチャンスで決まる』は64.9%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『将来は運やチャンスで決まらない』は35.0%となっています。

【属性別】

年代別では、30歳代では『将来は運やチャンスで決まらない』が42.5%で他の年代より割合が高くなっています。



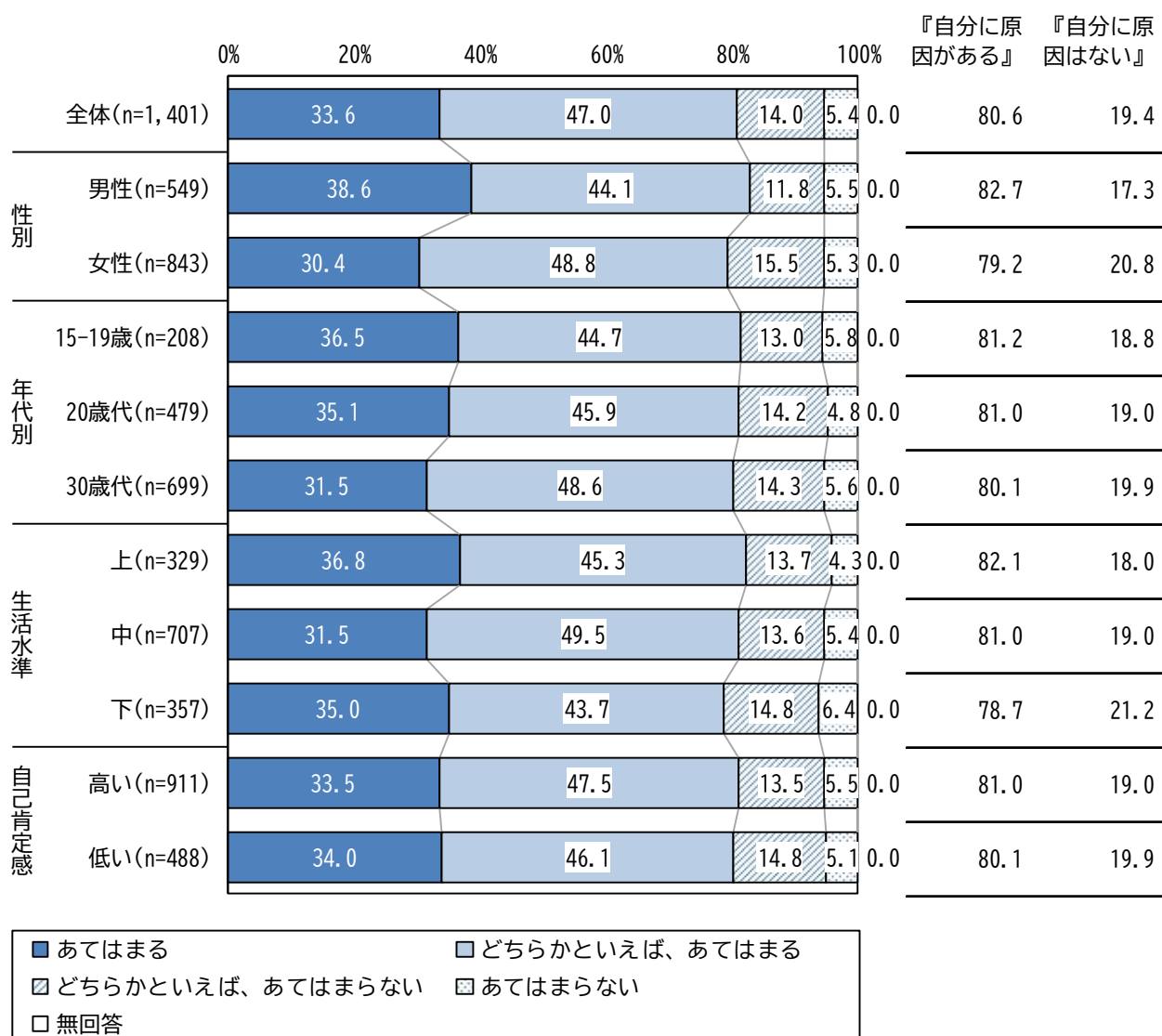
キ. 人生で起こることは、結局は自分に原因があると思う

人生で起こることは、結局は自分に原因があると思うかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が47.0%で最も高く、以下「あてはまる」が33.6%、「どちらかといえば、あてはまらない」が14.0%、「あてはまらない」が5.4%となっています。

「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『自分に原因がある』は80.6%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『自分に原因はない』は19.4%となっています。

【属性別】

いずれの属性においても『自分に原因がある』が約80%となっています。



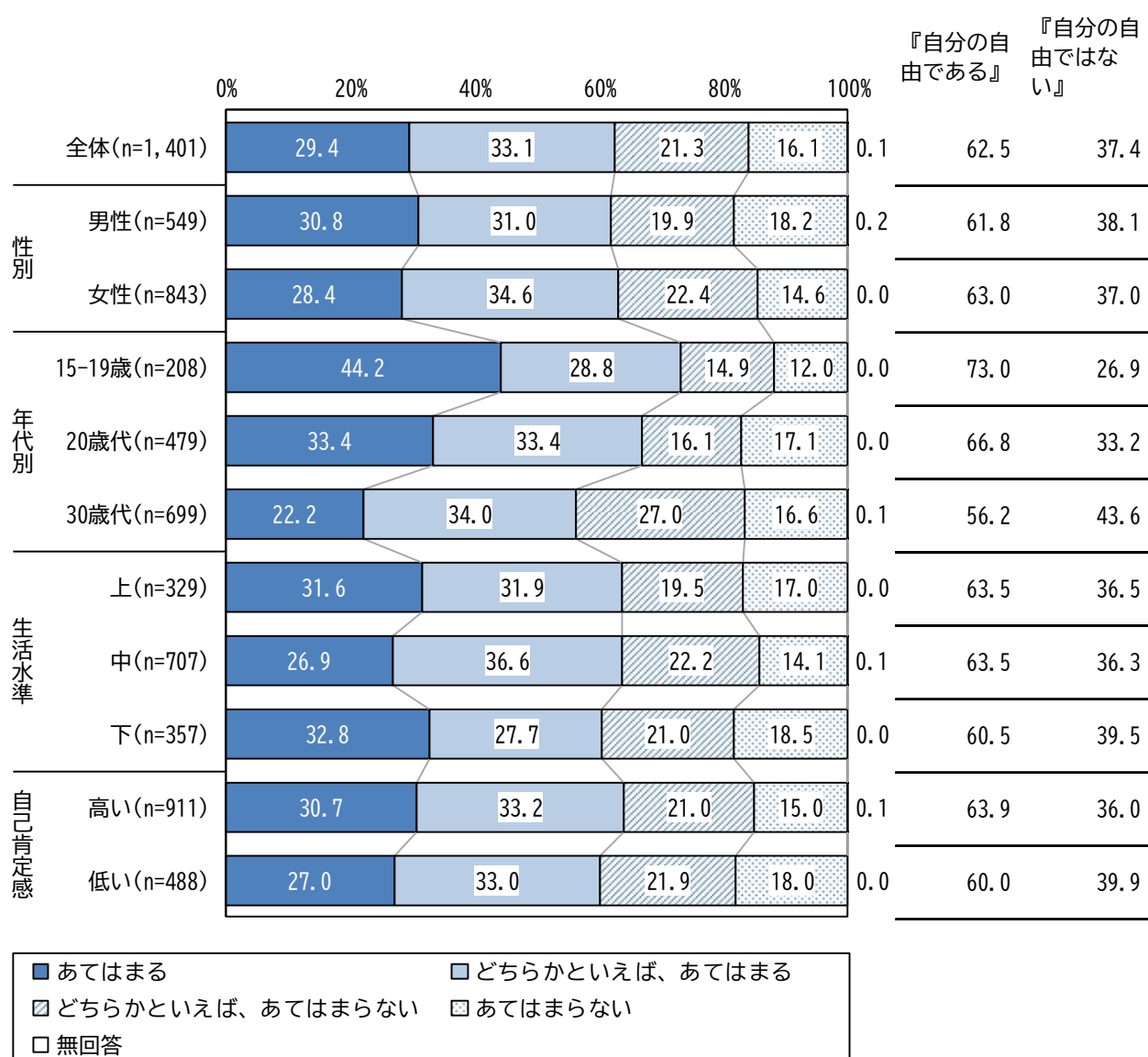
ク. 他人に迷惑がかからない限り、どんな考えや行動をとろうが、自分の自由だと思う

他人に迷惑がかからない限り、どんな考えや行動をとろうが、自分の自由だと思うかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が 33.1%で最も高く、以下「あてはまる」が 29.4%、「どちらかといえば、あてはまらない」が 21.3%、「あてはまらない」が 16.1%となっています。

「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『自分の自由である』は 62.5%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『自分の自由ではない』は 37.4%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『自分の自由である』の割合が低くなり、『自分の自由ではない』の割合が高くなっています。



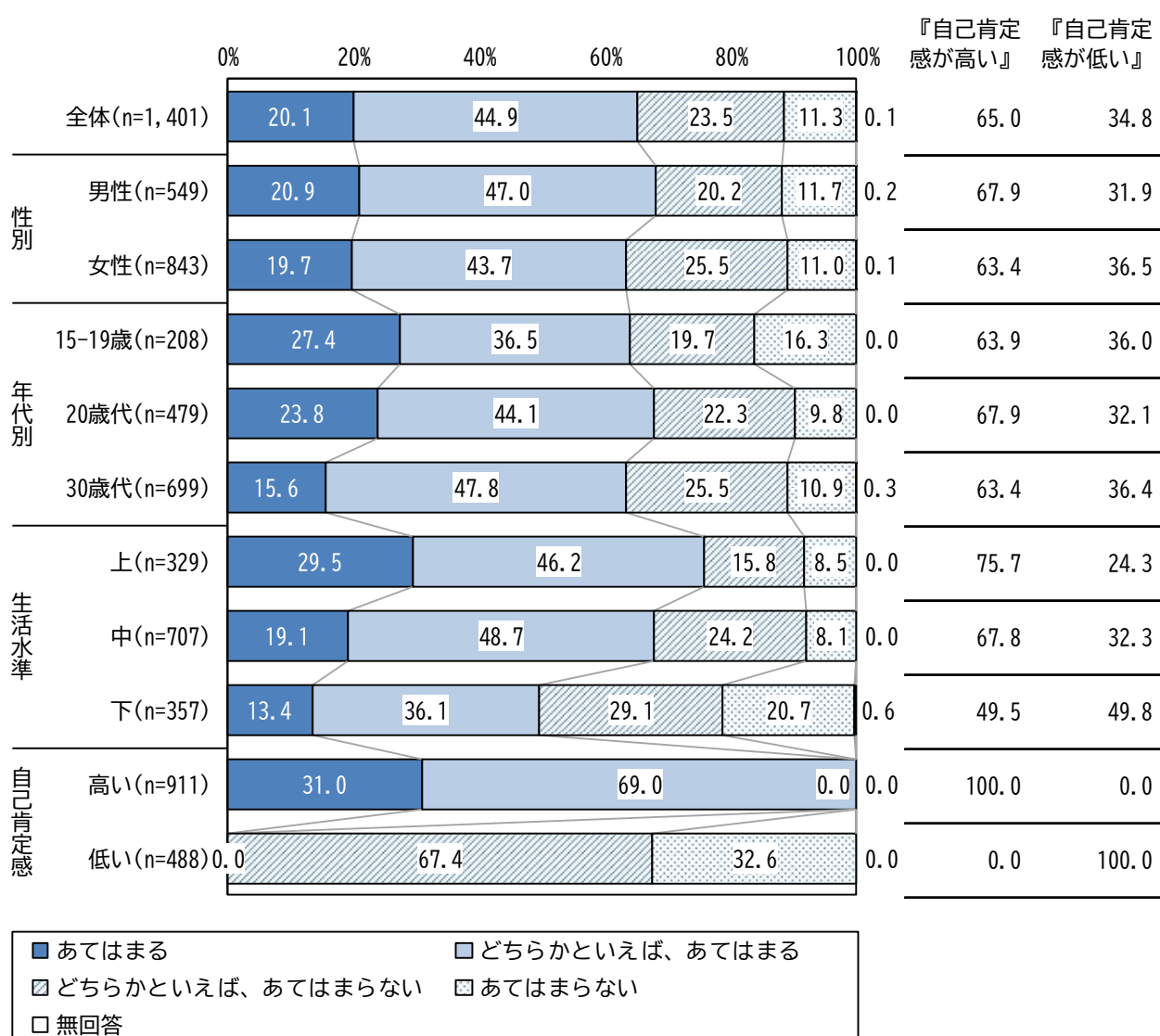
ケ. 今の自分が好きだ

今の自分が好きかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が 44.9%で最も高く、以下「どちらかといえば、あてはまらない」が 23.5%、「あてはまる」が 20.1%、「あてはまらない」が 11.3%となっています。

「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『自己肯定感が高い』は 65.0%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『自己肯定感が低い』は 34.8%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて『自己肯定感が高い』の割合が低くなり、『自己肯定感が低い』の割合が高くなっています。



コ. 自分らしさを強調するより、他人と同じことをしていると安心だ

自分らしさを強調するより、他人と同じことをしていると安心かについては、「どちらかといえば、あてはまる」が 41.0%で最も高く、以下「どちらかといえば、あてはまらない」が 33.8%、「あてはまらない」が 13.9%、「あてはまる」が 11.2%となっています。

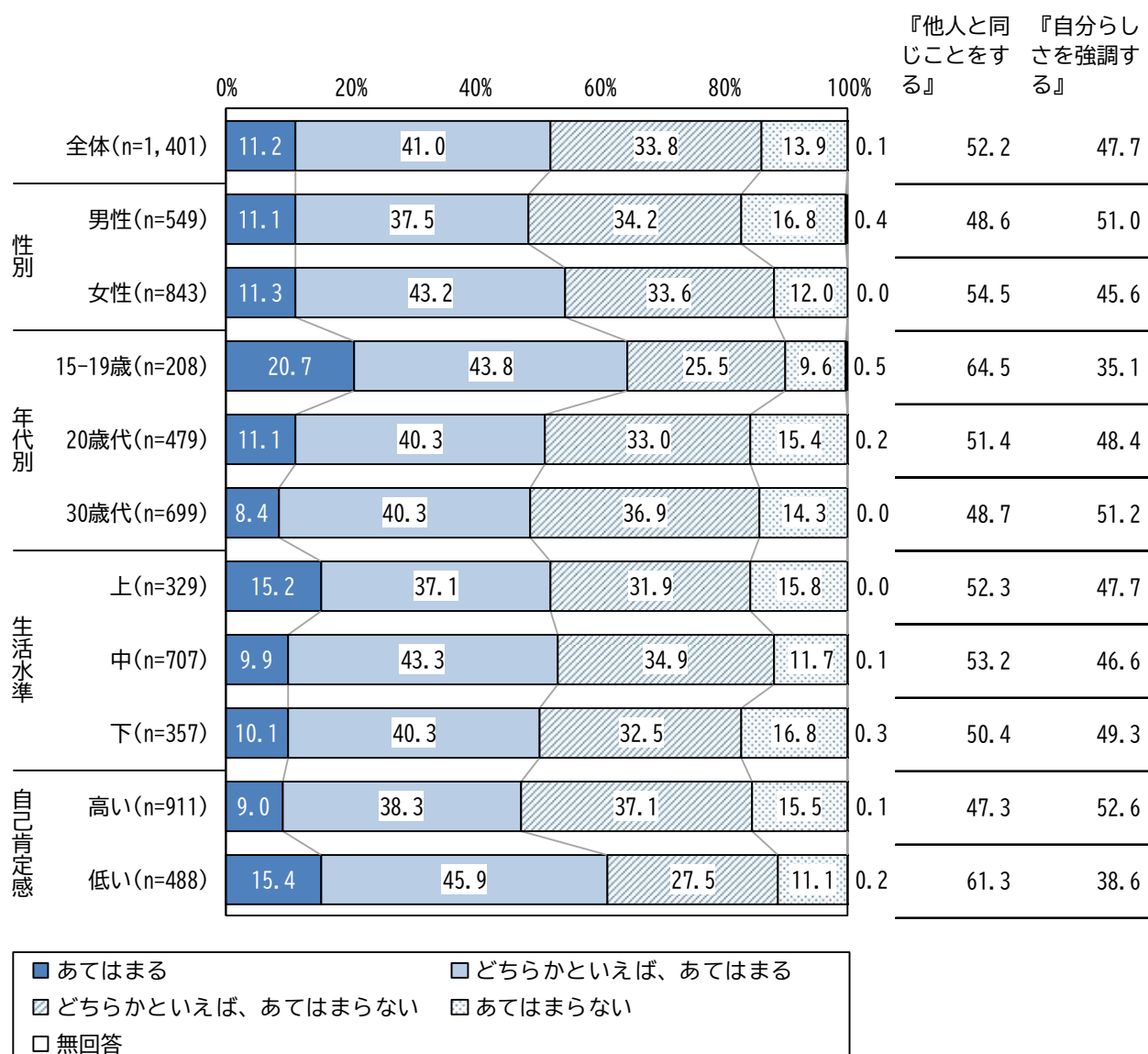
「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『他人と同じことをする』は 52.2%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『自分らしさを強調する』は 47.7%となっています。

【属性別】

性別では、男性では『自分らしさを強調する』の方が割合が高くなっていますが、女性では『他人と同じことをする』の方が割合が高くなっています。

年代別では、年代が高いほど『他人と同じことをする』の割合が低くなり、『自分らしさを強調する』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『自分らしさを強調する』の方が割合が高くなっていますが、自己肯定感が低い人では『他人と同じことをする』の方が割合が高くなっています。



サ. 自分の親（保護者）から愛されていると思う

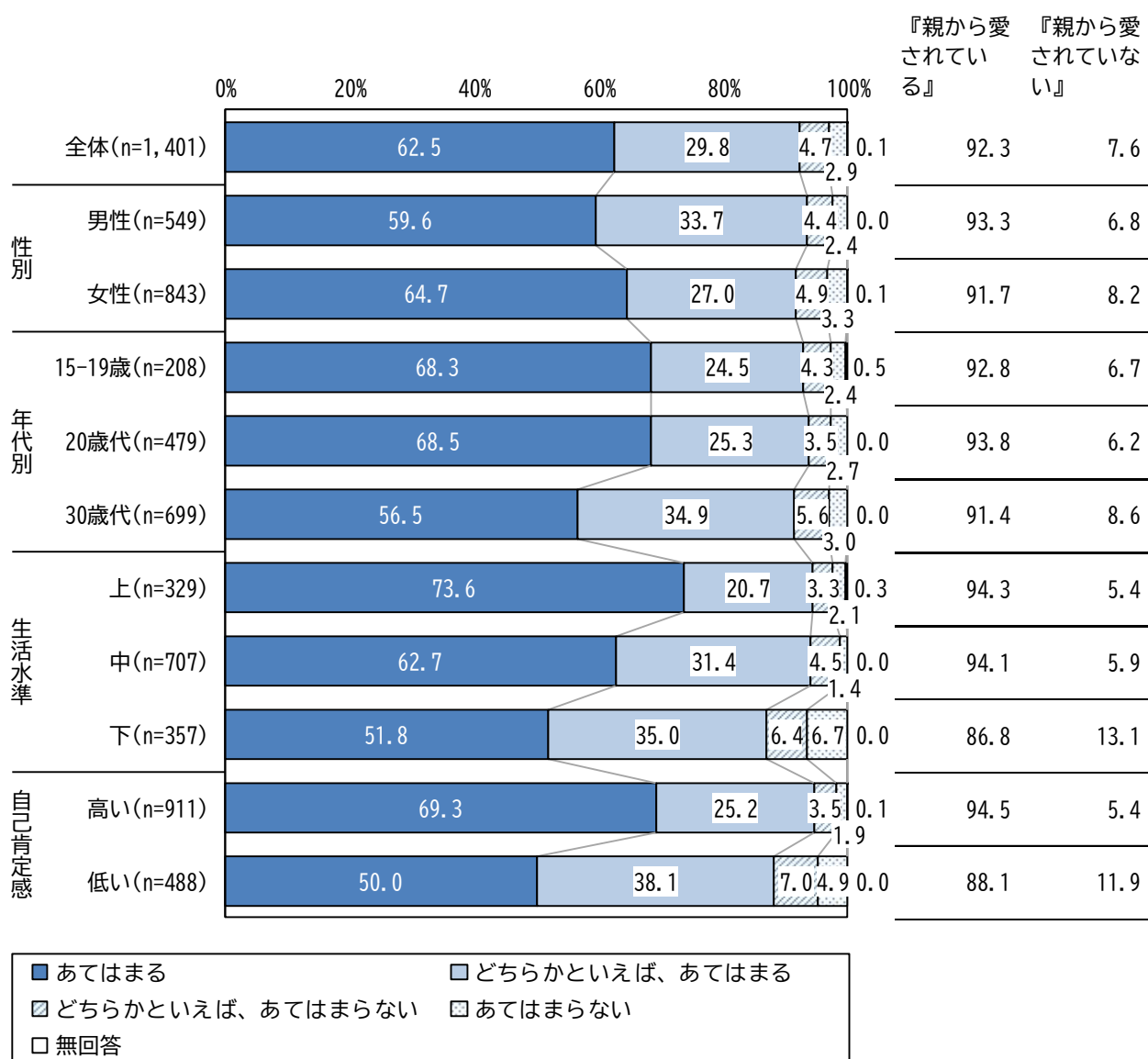
自分の親（保護者）から愛されていると思うかについては、「あてはまる」が 62.5%で最も高く、以下「どちらかといえば、あてはまる」が 29.8%、「どちらかといえば、あてはまらない」が 4.7%、「あてはまらない」が 2.9%となっています。

「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『親から愛されている』は 92.3%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『親から愛されていない』は 7.6%となっています。

【属性別】

生活水準では、生活水準が下の区分では『親から愛されていない』の割合が 13.1%で他の区分より高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では『親から愛されていない』の割合が 11.9%で他の区分より高くなっています



シ. うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む

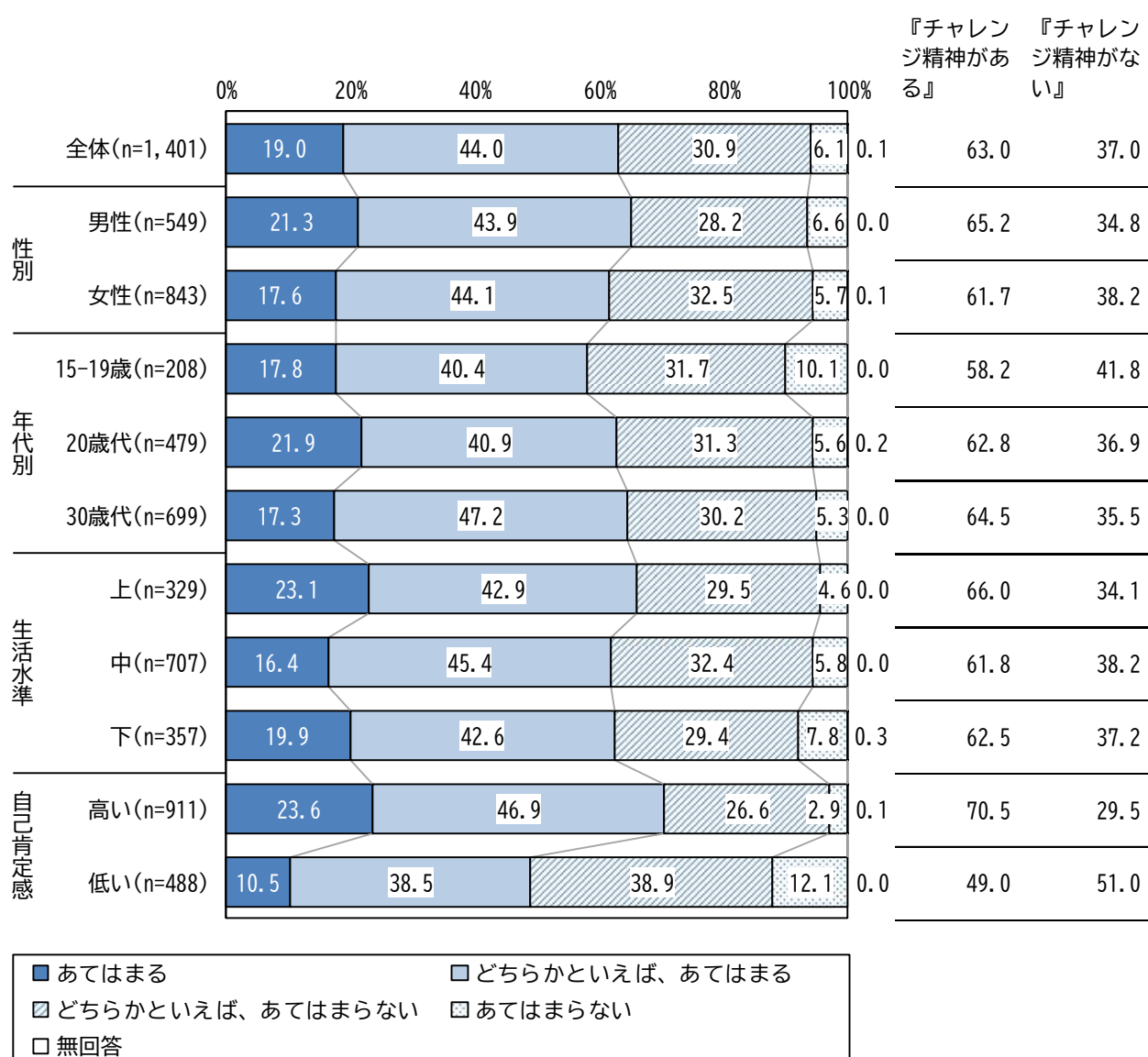
うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組むかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が44.0%で最も高く、以下「どちらかといえば、あてはまらない」が30.9%、「あてはまる」が19.0%、「あてはまらない」が6.1%となっています。

「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『チャレンジ精神がある』は63.0%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『チャレンジ精神がない』は37.0%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『チャレンジ精神がある』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『チャレンジ精神がある』の割合が70.5%を占めていますが、自己肯定感が低い人では『チャレンジ精神がない』の割合が51.0%を占めています。



ス. 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

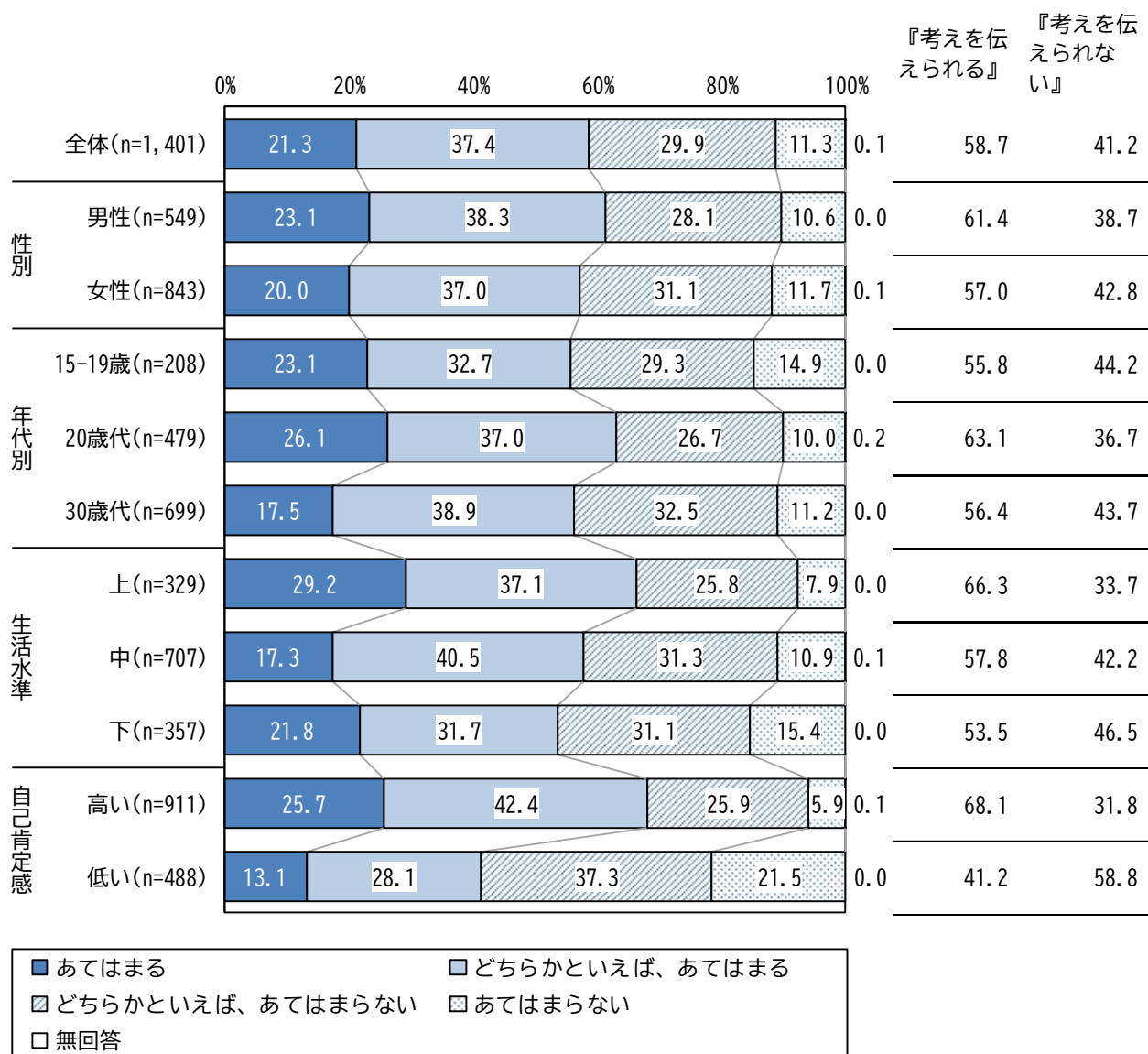
自分の考えをはっきり相手に伝えることができるかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が37.4%で最も高く、以下「どちらかといえば、あてはまらない」が29.9%、「あてはまる」が21.3%、「あてはまらない」が11.3%となっています。

「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『考えを伝えられる』は58.7%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『考えを伝えられない』は41.2%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて『考えを伝えられる』の割合が低くなり、『考えを伝えられない』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『考えを伝えられる』の割合が68.1%を占めていますが、自己肯定感が低い人では『考えを伝えられない』の割合が58.8%を占めています。



セ. 自分自身に満足している

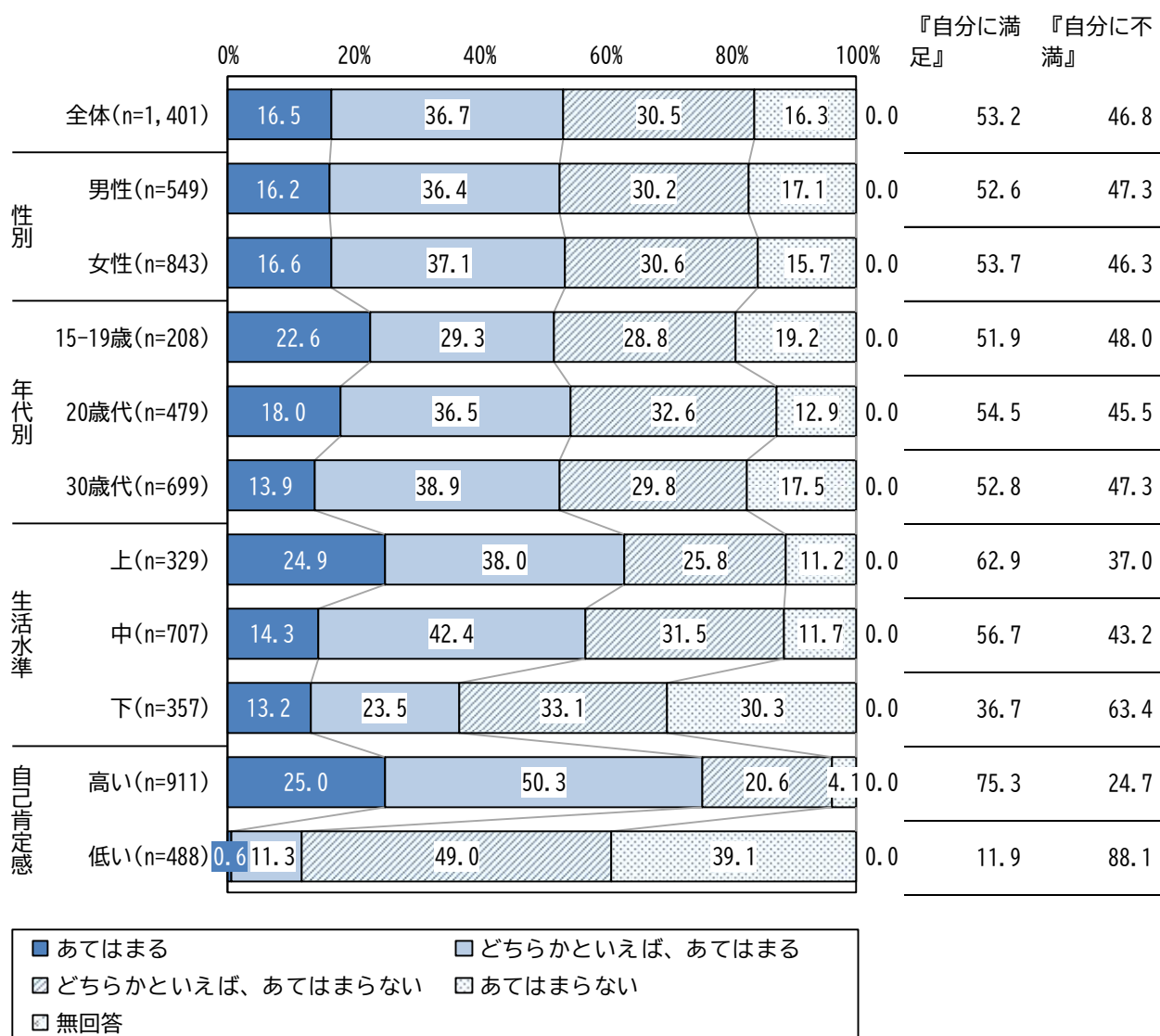
自分自身に満足しているかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が 36.7%で最も高く、以下「どちらかといえば、あてはまらない」が 30.5%、「あてはまる」が 16.5%、「あてはまらない」が 16.3%となっています。

「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『自分に満足』は 53.2%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『自分に不満』は 46.8%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて『自分に満足』の割合が低くなり、『自分に不満』の割合が高くなっています。生活水準が下の区分では、『自分に不満』の割合が 63.4%を占めています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『自分に満足』の割合が 75.3%を占めています。自己肯定感が低い人では『自分に不満』の割合が 88.1%を占めています。



ソ. 自分は役に立たないと強く感じる

自分は役に立たないと強く感じるかについては、「どちらかといえば、あてはまらない」が43.8%で最も高く、以下「あてはまらない」が27.1%、「どちらかといえば、あてはまる」が20.5%、「あてはまる」が8.4%となっています。

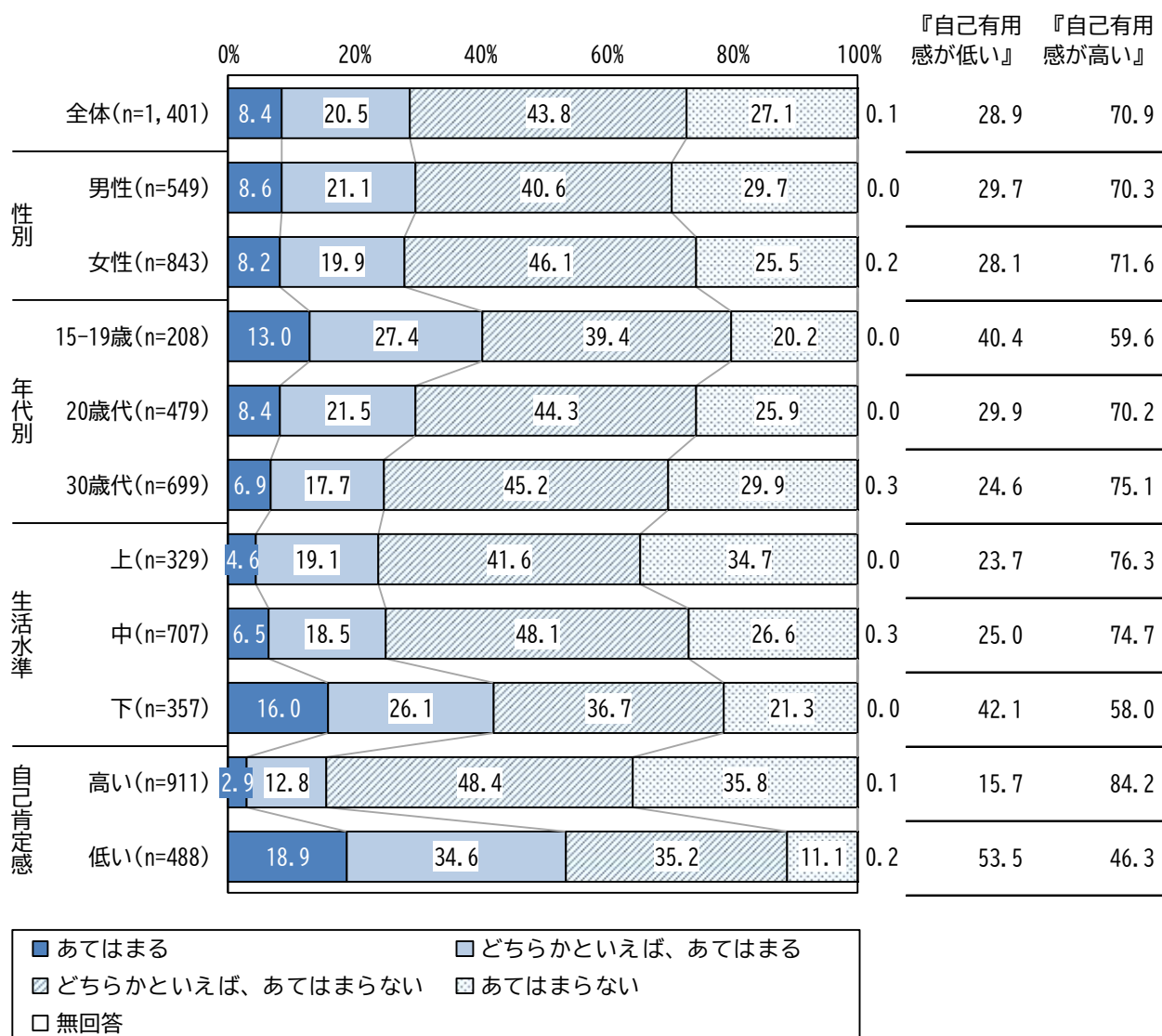
「あてはある」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『自己有用感が低い』は28.9%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『自己有用感が高い』は70.9%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『自己有用感が高い』の割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『自己有用感が高い』の割合が低くなり、『自己有用感が低い』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『自己有用感が高い』の割合が84.2%を占めていますが、自己肯定感が低い人では『自己有用感が低い』の割合が53.5%を占めています。



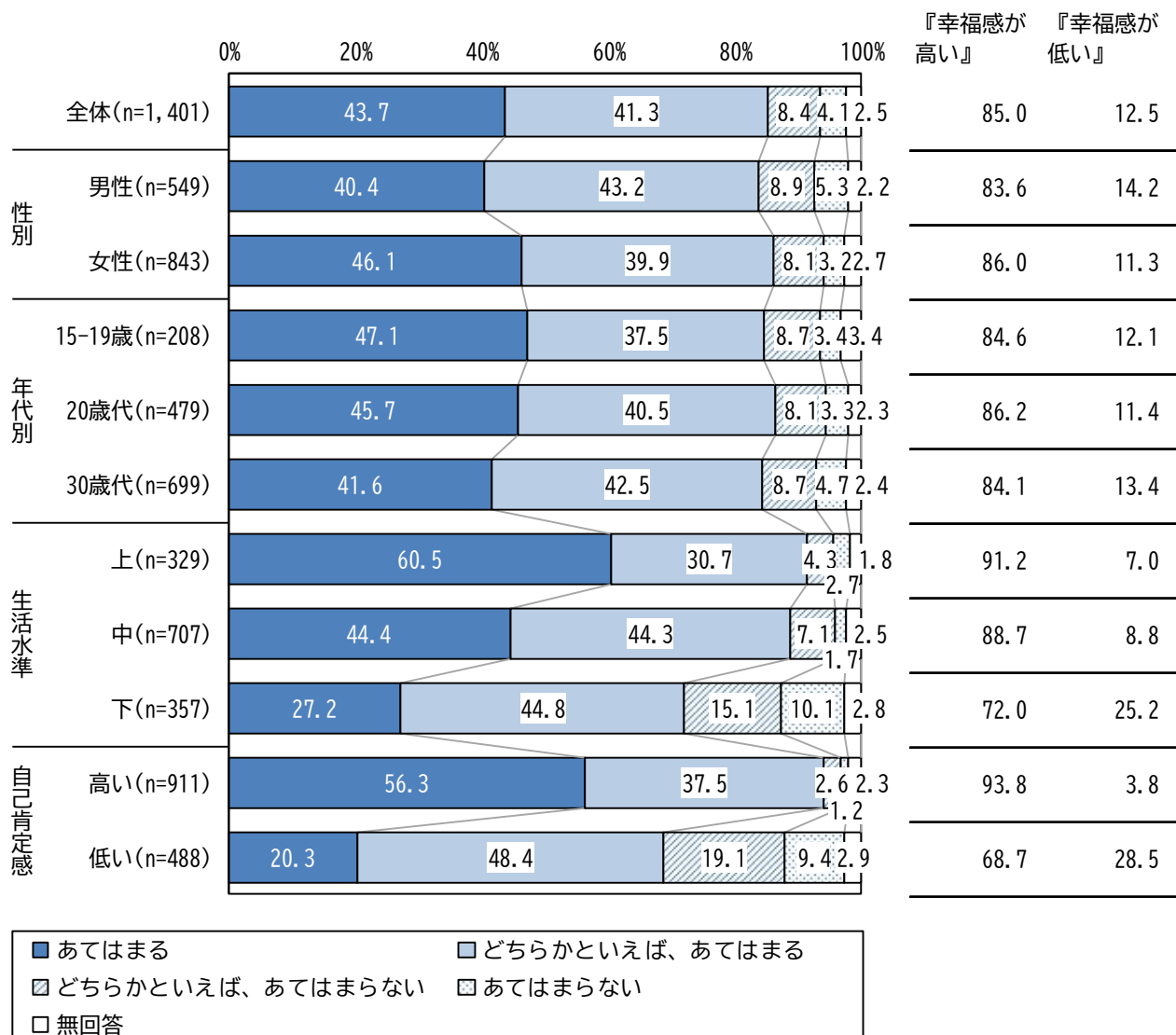
問2 あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。(○は1つだけ)

今、自分は幸せだと思うかについては、「そう思う」が43.7%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が41.3%、「どちらかといえば、そう思わない」が8.4%、「そう思わない」が4.1%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて『幸福感が高い』の割合が低くなり、『幸福感が低い』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『幸福感が高い』の割合が93.8%を占めていますが、自己肯定感が低い人では68.7%にとどまっています。



問3 次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）
 になっていますか。（ア～カのそれぞれについて、○は1つ）

ア. 自分の部屋

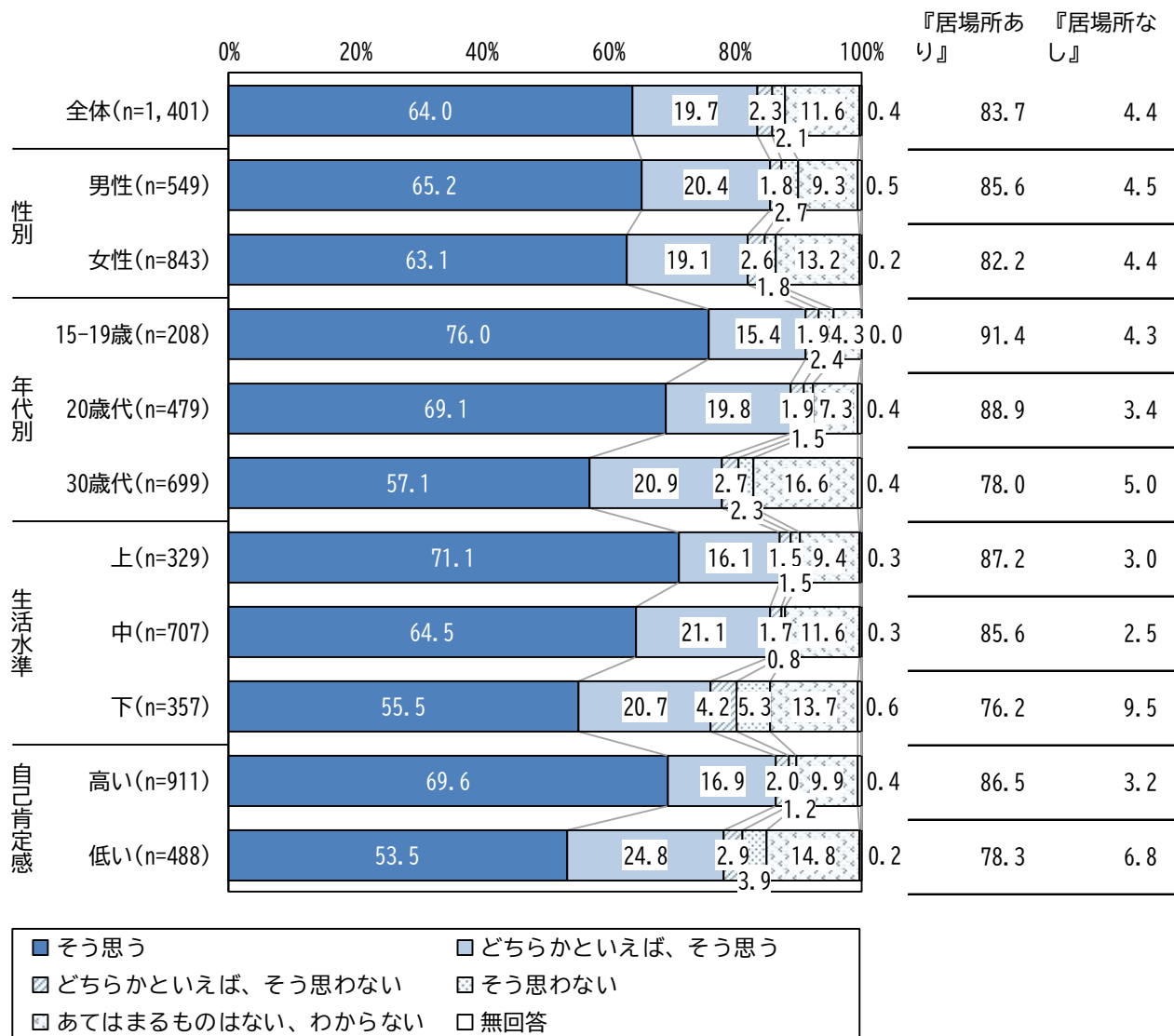
自分の部屋が自分の居場所になっているかについては、「そう思う」が64.0%で最も高く、
 以下「どちらかといえば、そう思う」が19.7%、「あてはまるものはない、わからない」が
 11.6%、「どちらかといえば、そう思わない」が2.3%、「そう思わない」が2.1%となってい
 ます。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『居場所あり』は83.7%、「あ
 てはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『居場所なし』は4.4%
 となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『居場所あり』の割合が低くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『居場所あり』の割合が低くなっています。



イ. 家庭（実家や親族の家を含む）

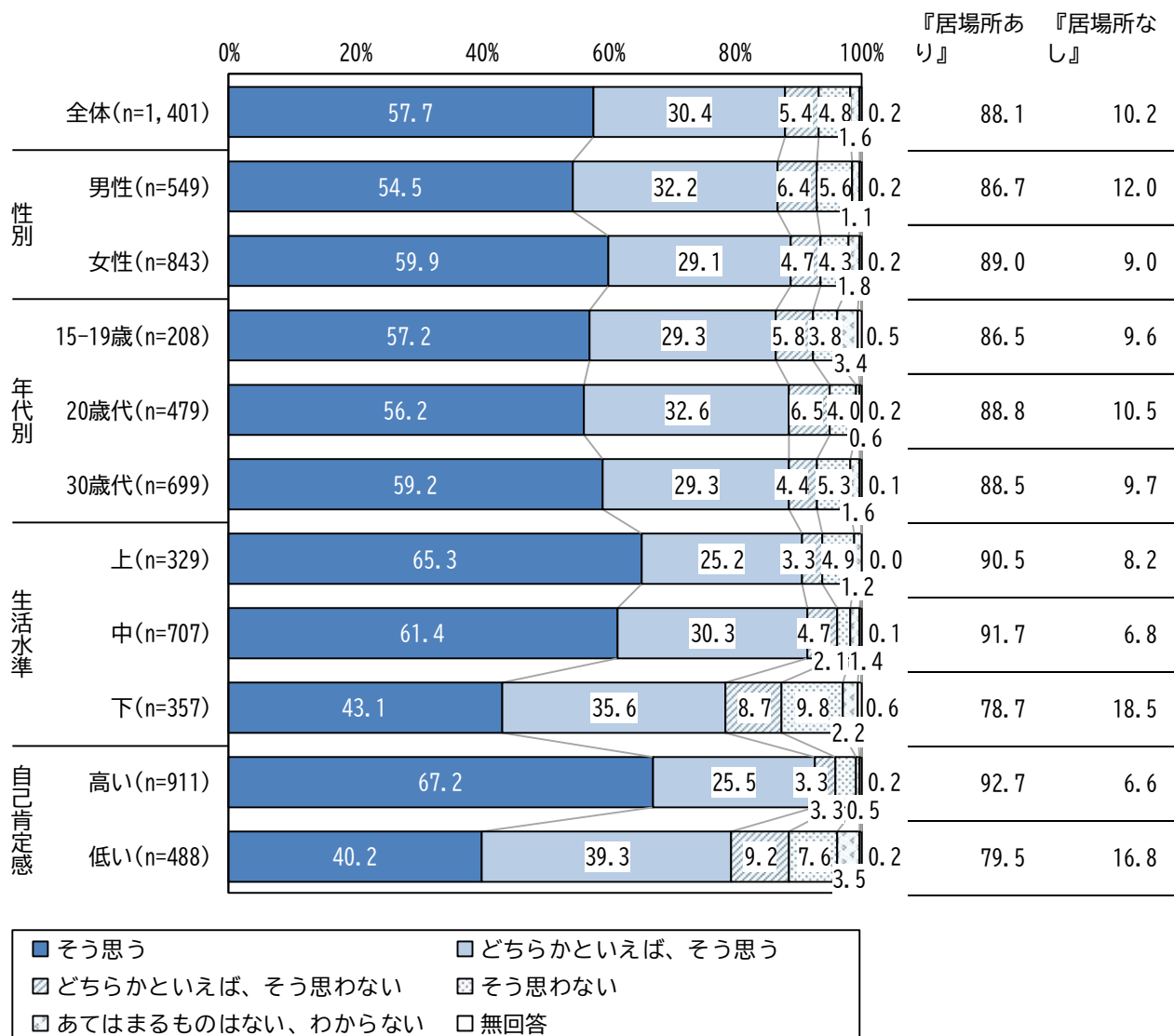
家庭が自分の居場所になっているかについては、「そう思う」が 57.7%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が 30.4%、「どちらかといえば、そう思わない」が 5.4%、「そう思わない」が 4.8%、「あてはまるものはない、わからない」が 1.6%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『居場所あり』は 88.1%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『居場所なし』は 10.2%となっています。

【属性別】

生活水準では、生活水準が下の区分では、『居場所なし』の割合が他の区分より高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では『居場所なし』の割合が自己肯定感が高い人より高くなっています。



ウ. 学校（卒業した学校を含む）

学校が自分の居場所になっているかについては、「どちらかといえば、そう思う」が 33.0% で最も高く、以下「そう思わない」が 20.6%、「そう思う」が 18.5%、「どちらかといえば、そう思わない」が 17.3%、「あてはまるものはない、わからない」が 9.9%となっています。

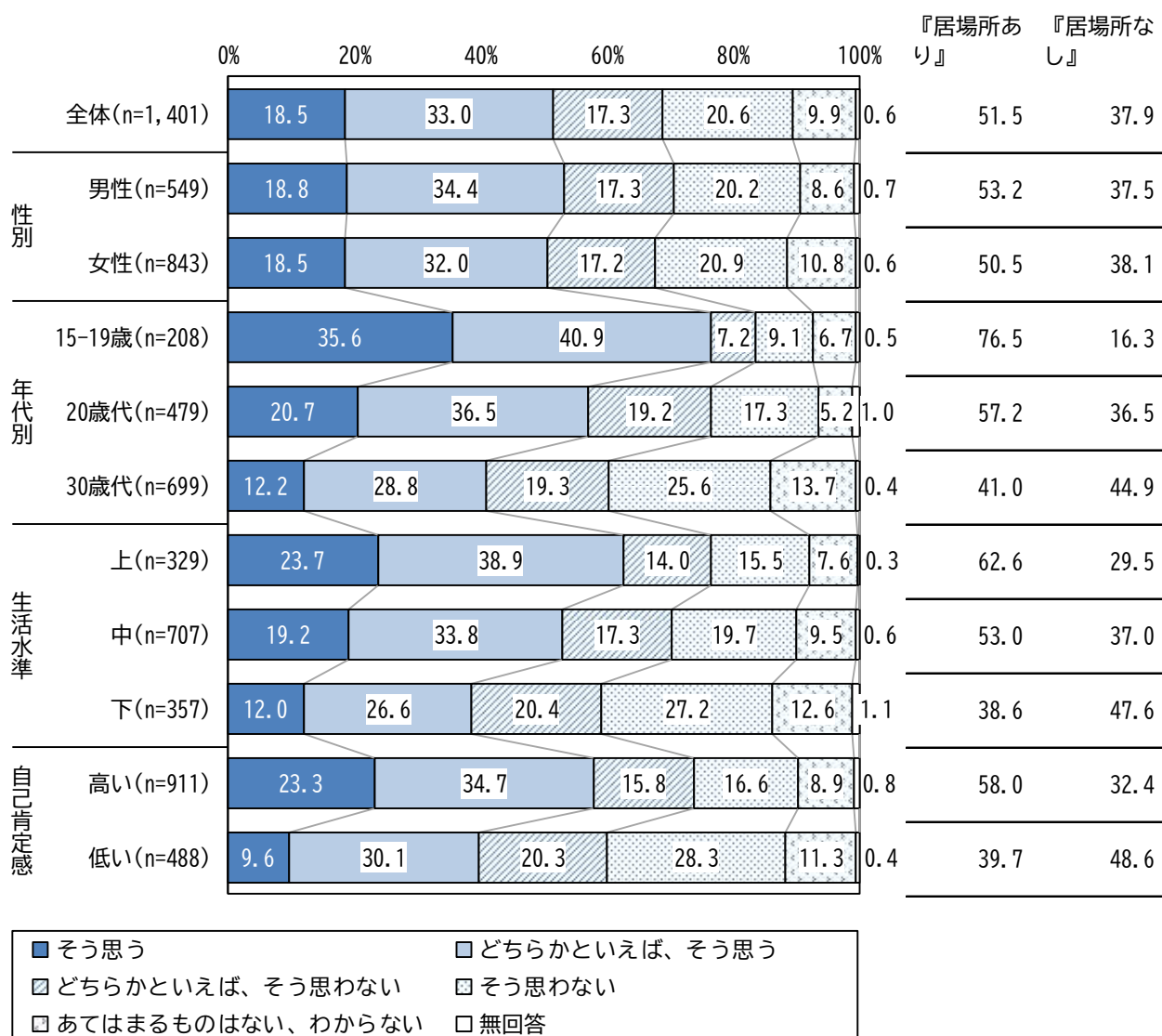
「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『居場所あり』は 51.5%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『居場所なし』は 37.9%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『居場所あり』の割合が低くなり、『居場所なし』の割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『居場所あり』の割合が低くなり、『居場所なし』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『居場所あり』の方が割合が高くなっていますが、自己肯定感が低い人では『居場所なし』の方が割合が高くなっています。



エ. 職場（過去の職場を含む）

職場が自分の居場所になっているかについては、「どちらかといえば、そう思う」が 36.9%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思わない」が 17.8%、「そう思わない」が 17.0%、「そう思う」が 14.6%、「あてはまるものはない、わからない」が 12.6%となっています。

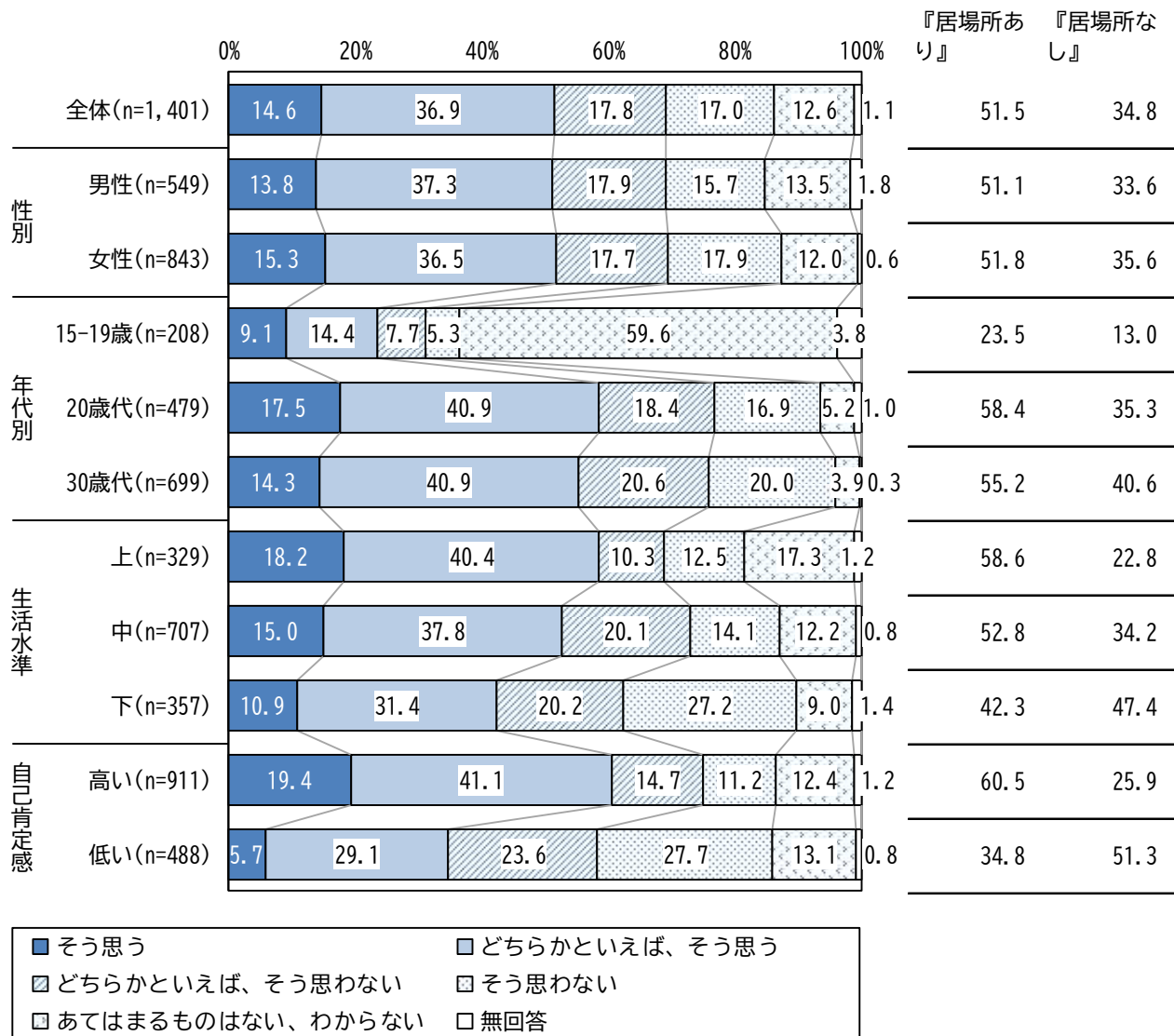
「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『居場所あり』は 51.5%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『居場所なし』は 34.8%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『居場所なし』の割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『居場所あり』の割合が低くなり、『居場所なし』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『居場所あり』の割合が 60.5%を占めていますが、自己肯定感が低い人では『居場所なし』の割合が 51.3%を占めています。



オ. 地域

地域が自分の居場所になっているかについては、「どちらかといえば、そう思う」が 41.1%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思わない」が 16.2%、「そう思う」が 15.1%、「あてはまるものはない、わからない」が 13.6%、「そう思わない」が 13.3%となっています。

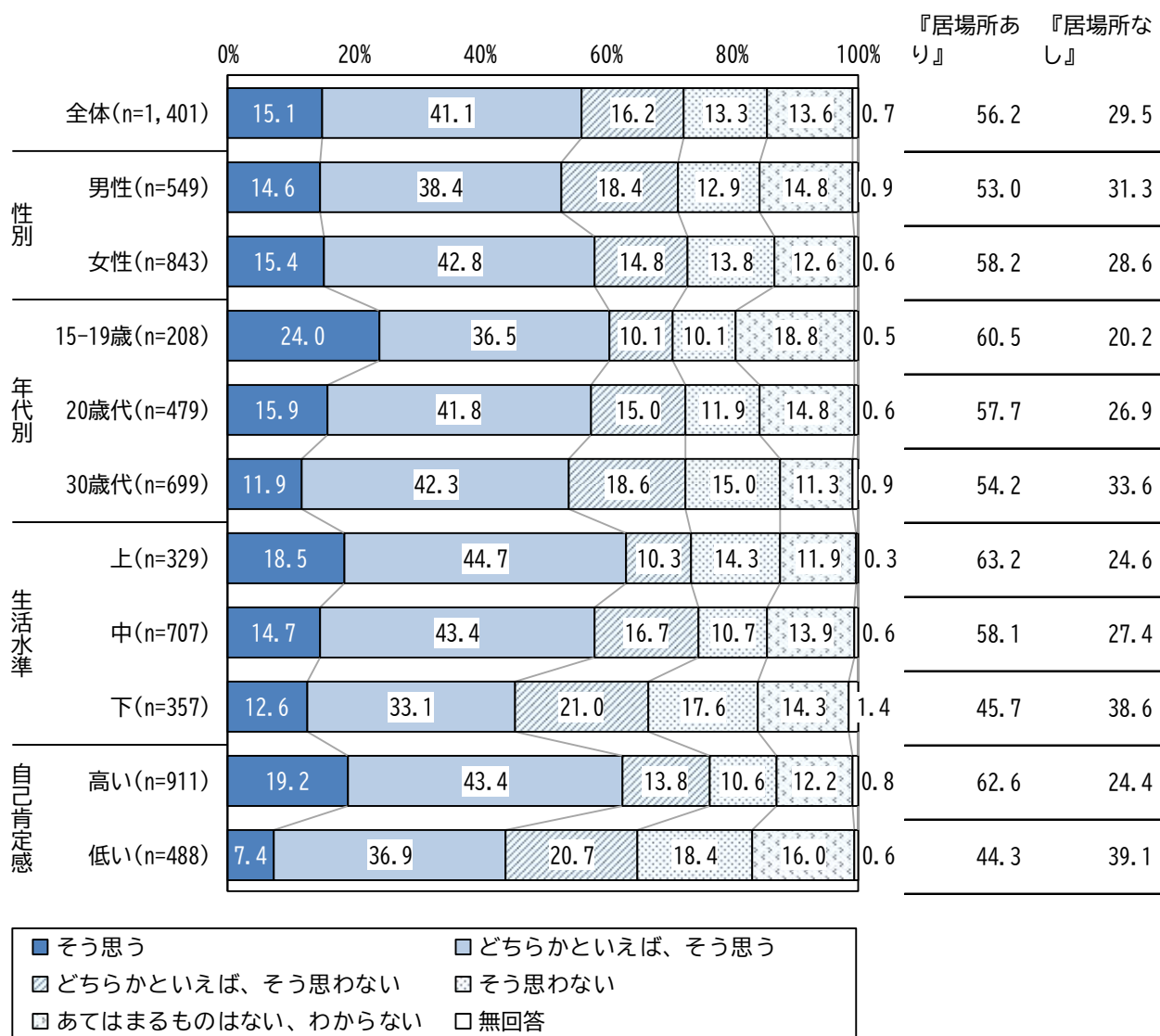
「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『居場所あり』は 56.2%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『居場所なし』は 29.5%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『居場所あり』の割合が低くなり、『居場所なし』の割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『居場所あり』の割合が低くなり、『居場所なし』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『居場所あり』の割合が 62.6%を占めています。



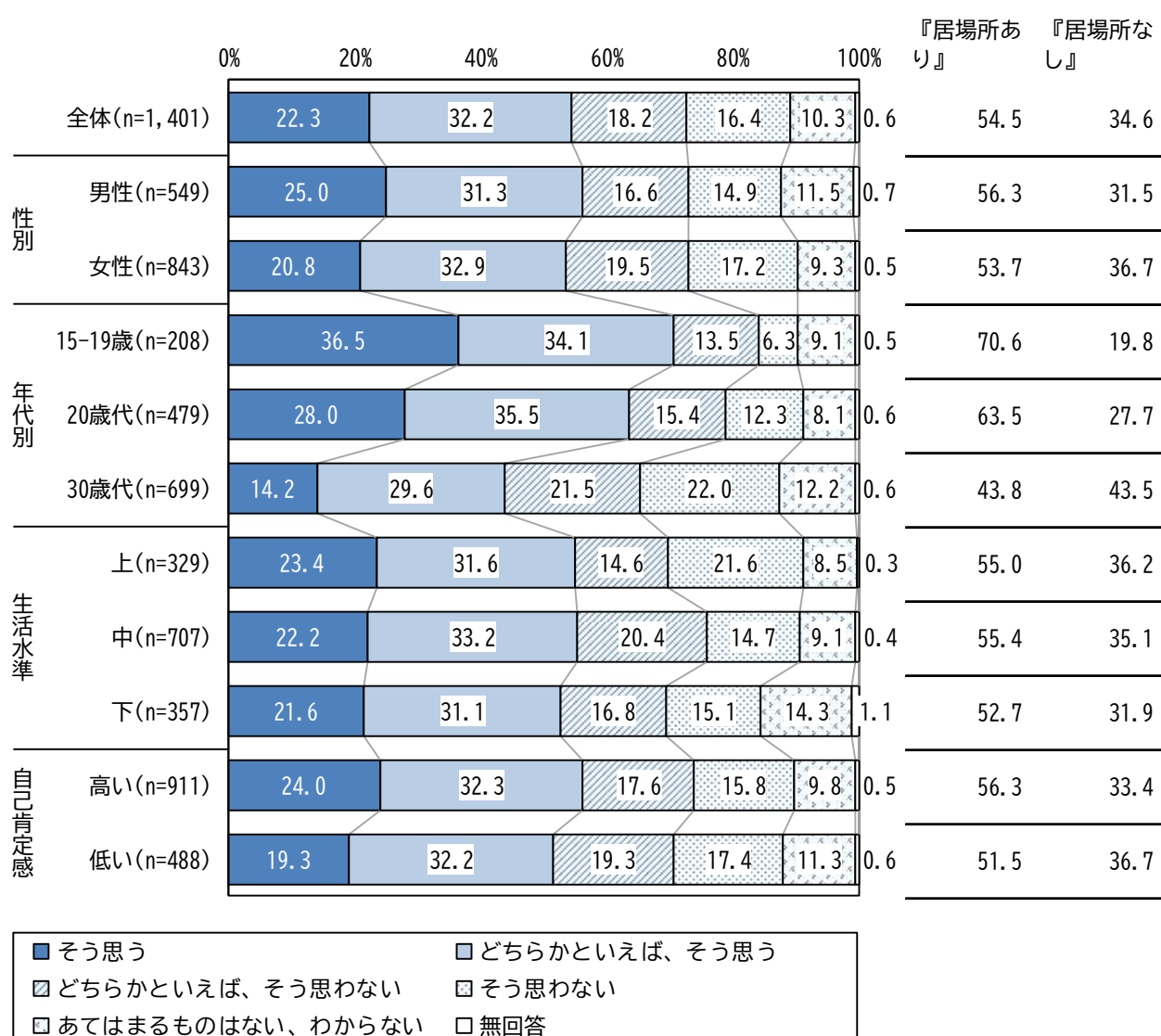
カ. インターネット空間

インターネット空間が自分の居場所になっているかについては、「どちらかといえば、そう思う」が32.2%で最も高く、以下「そう思う」が22.3%、「どちらかといえば、そう思わない」が18.2%、「そう思わない」が16.4%、「あてはまるものはない、わからない」が10.3%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『居場所あり』は54.5%、「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」を合わせた『居場所なし』は34.6%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『居場所あり』の割合が低くなり、『居場所なし』の割合が高くなっています。



問4 次の項目について、あなたはどれくらいの頻度で感じていますか。（ア～ウのそれぞれについて、○は1つ）

ア. 自分には人とのつきあいがないと感じることもある

自分には人とのつきあいがないと感じることもあるかについては、「時々ある」が40.8%で最も高く、以下「ほとんどない」が27.6%、「決してない」が20.5%、「常にある」が11.1%となっています。

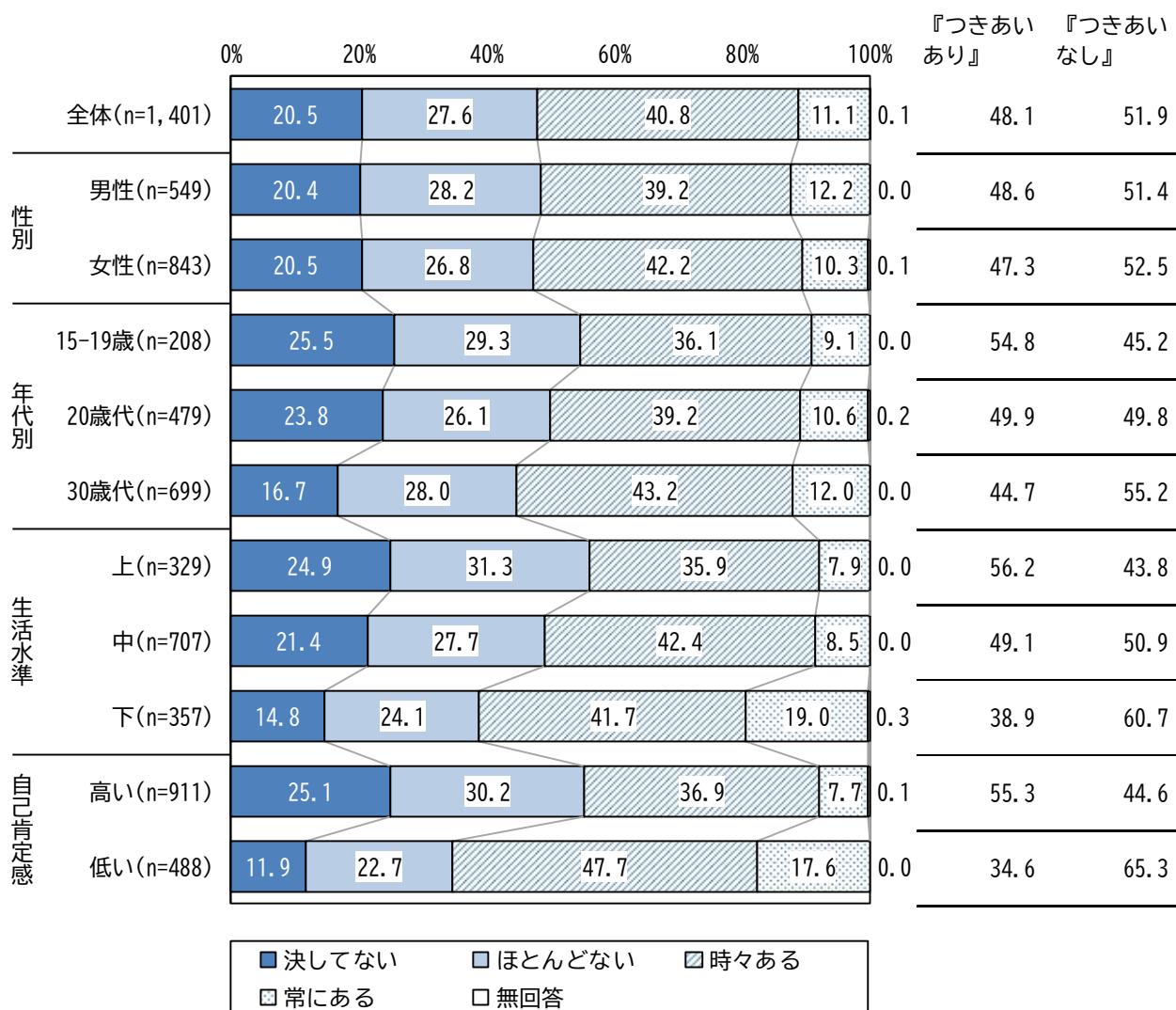
「決してない」と「ほとんどない」を合わせた『つきあいあり』は48.1%、「常にある」と「時々ある」を合わせた『つきあいなし』は51.9%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『つきあいあり』の割合が低くなり、『つきあいなし』の割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『つきあいあり』の割合が低くなり、『つきあいなし』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『つきあいあり』の割合が55.3%を占めていますが、自己肯定感が低い人では『つきあいなし』の割合が65.3%を占めています。



イ. 自分は取り残されていると感じることがある

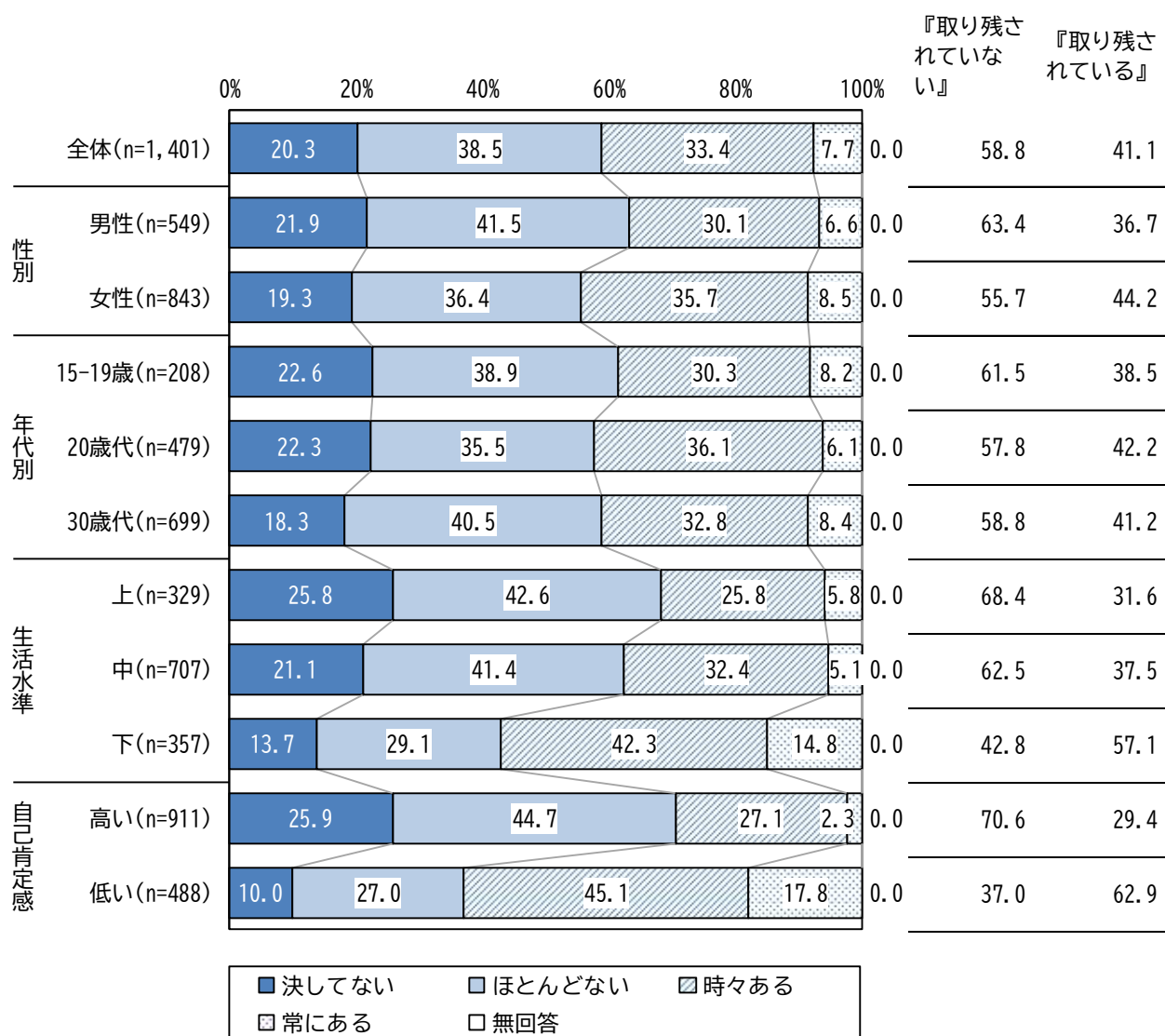
自分は取り残されていると感じることがあるかについては、「ほとんどない」が 38.5%で最も高く、以下「時々ある」が 33.4%、「決してない」が 20.3%、「常にある」が 7.7%となっています。

「決してない」と「ほとんどない」を合わせた『取り残されていない』は 58.8%、「常にある」と「時々ある」を合わせた『取り残されている』は 41.1%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて『取り残されている』の割合が高くなり、下の区分では 57.1%を占めています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『取り残されていない』の割合が 70.6%を占めていますが、自己肯定感が低い人では『取り残されている』の割合が 62.9%を占めています。



ウ. 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある

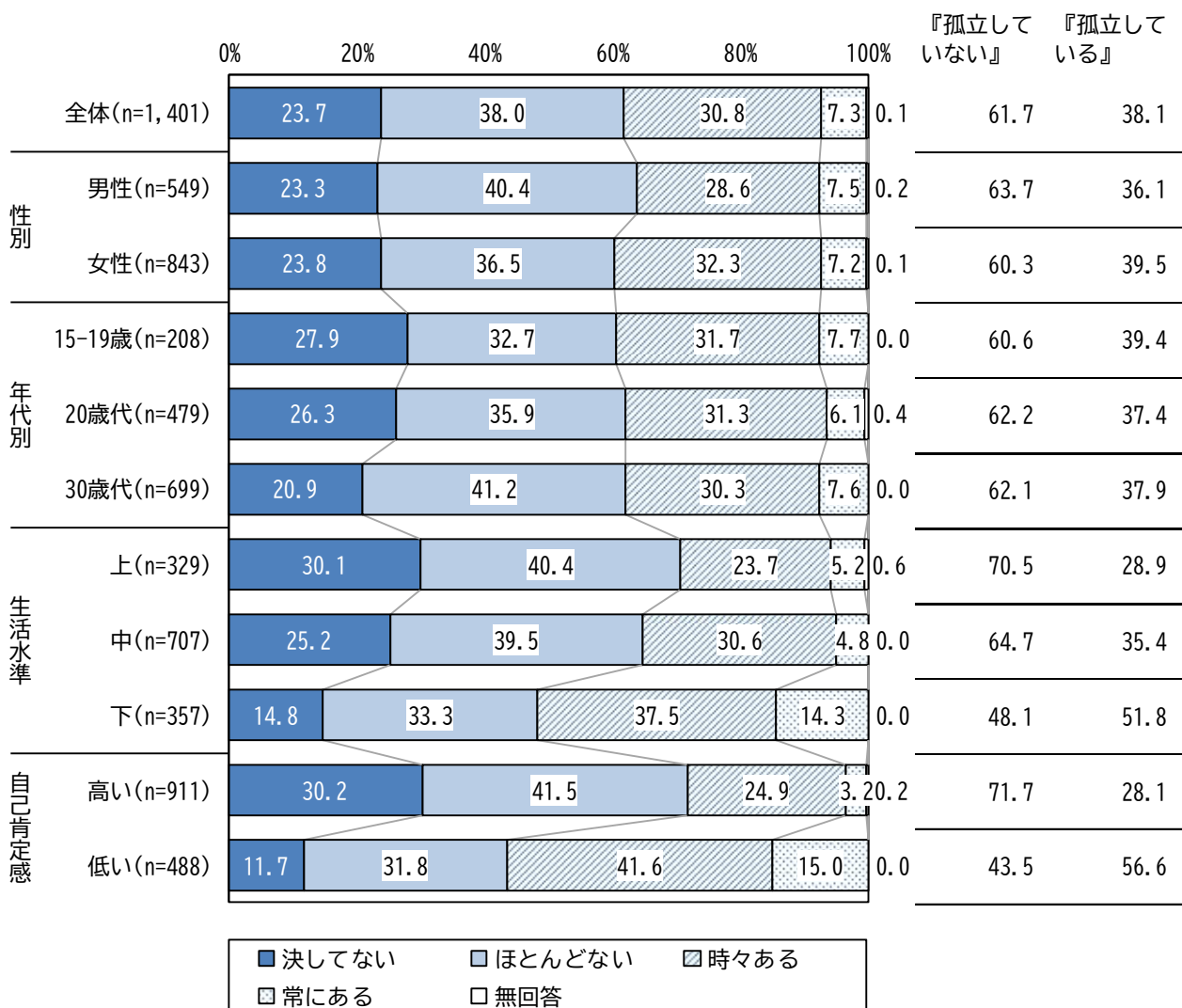
自分は他の人たちから孤立していると感じることがあるかについては、「ほとんどない」が38.0%で最も高く、以下「時々ある」が30.8%、「決してない」が23.7%、「常にある」が7.3%となっています。

「決してない」と「ほとんどない」を合わせた『孤立していない』は61.7%、「常にある」と「時々ある」を合わせた『孤立している』は38.1%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて『孤立している』の割合が高くなり、下の区分では51.8%を占めています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『孤立していない』の割合が71.7%を占めていますが、自己肯定感が低い人では『孤立している』の割合が56.6%を占めています。



問5 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(○は1つだけ)

どの程度、孤独を感じることはあるかについては、「ほとんどない」が32.9%で最も高く、以下「たまにある」が27.6%、「決してない」が18.1%、「時々ある」が12.8%、「しばしばある・常にある」が6.6%となっています。

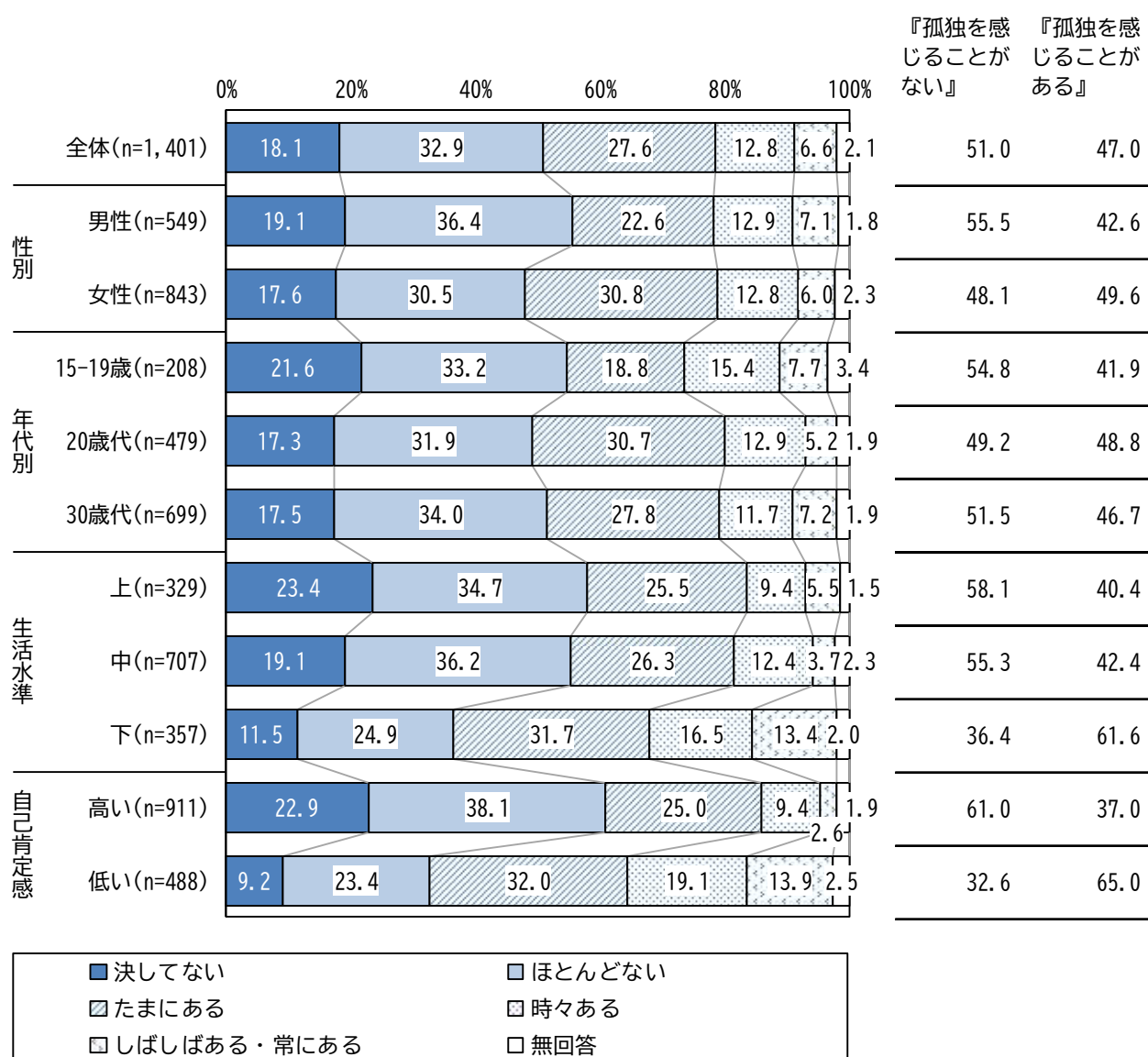
「決してない」と「ほとんどない」を合わせた『孤独を感じることはない』は51.0%、「常にある」と「時々ある」を合わせた『孤独を感じることはある』は47.0%となっています。

【属性別】

性別では、女性では『孤独を感じることはある』が49.6%で『孤独を感じることはない』より割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『孤独を感じることはある』の割合が高くなり、下の区分では61.6%を占めています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『孤独を感じることはない』の割合が61.0%を占めていますが、自己肯定感が低い人では『孤独を感じることはある』の割合が65.0%を占めています。



問6 家族・親族とあなたのかかわりは、どのようなものですか。(ア～カのそれぞれについて、○は1つ)

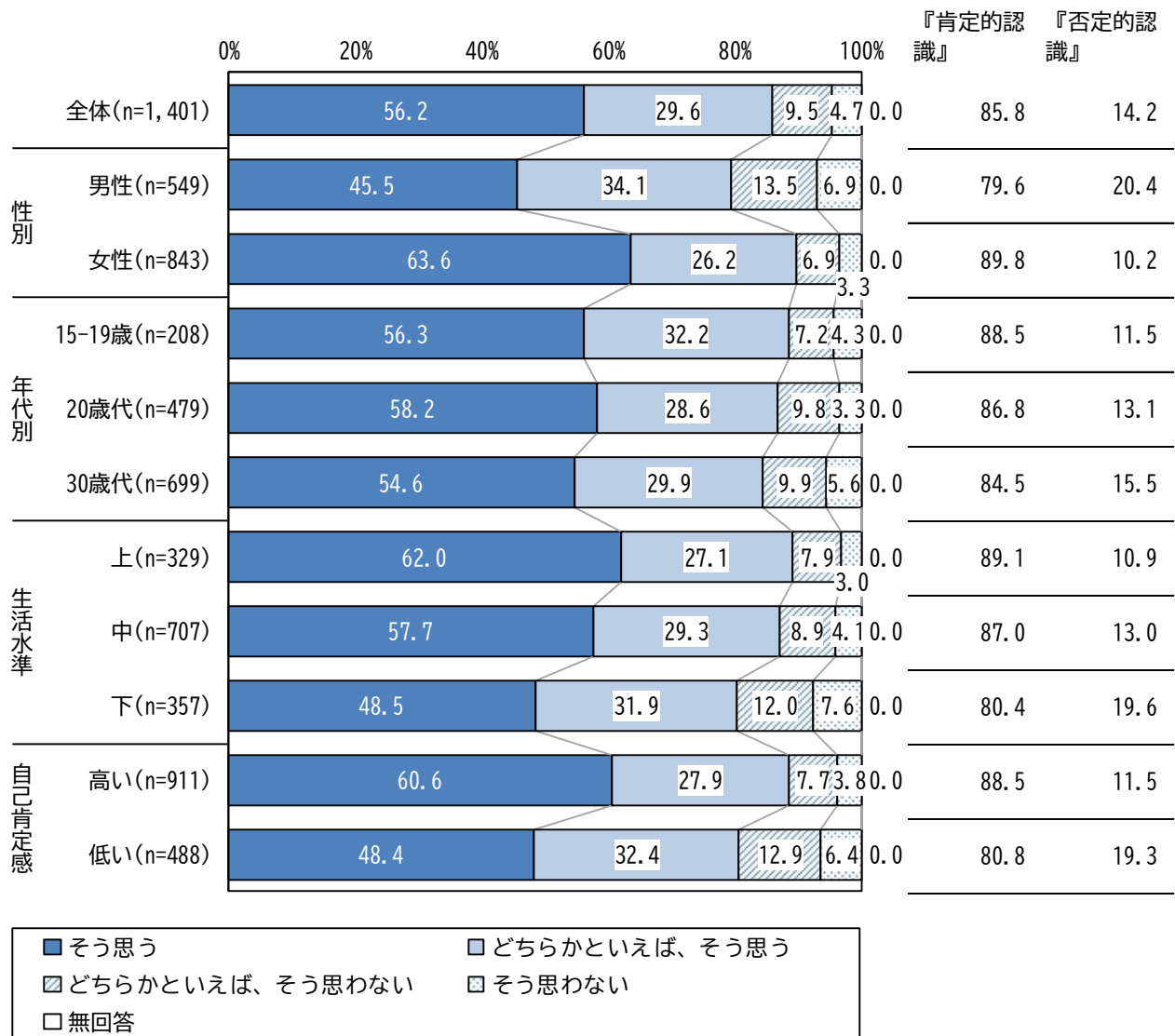
《家族・親族》ア. 会話やメール等をよくしている

家族・親族と、会話やメール等をよくしているかについては、「そう思う」が56.2%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が29.6%、「どちらかといえば、そう思わない」が9.5%、「そう思わない」が4.7%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は85.8%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は14.2%となっています。

【属性別】

性別では、男性では『否定的認識』の割合が20.4%で女性より高くなっています。



≪家族・親族≫イ. 何でも悩みを相談できる人がいる

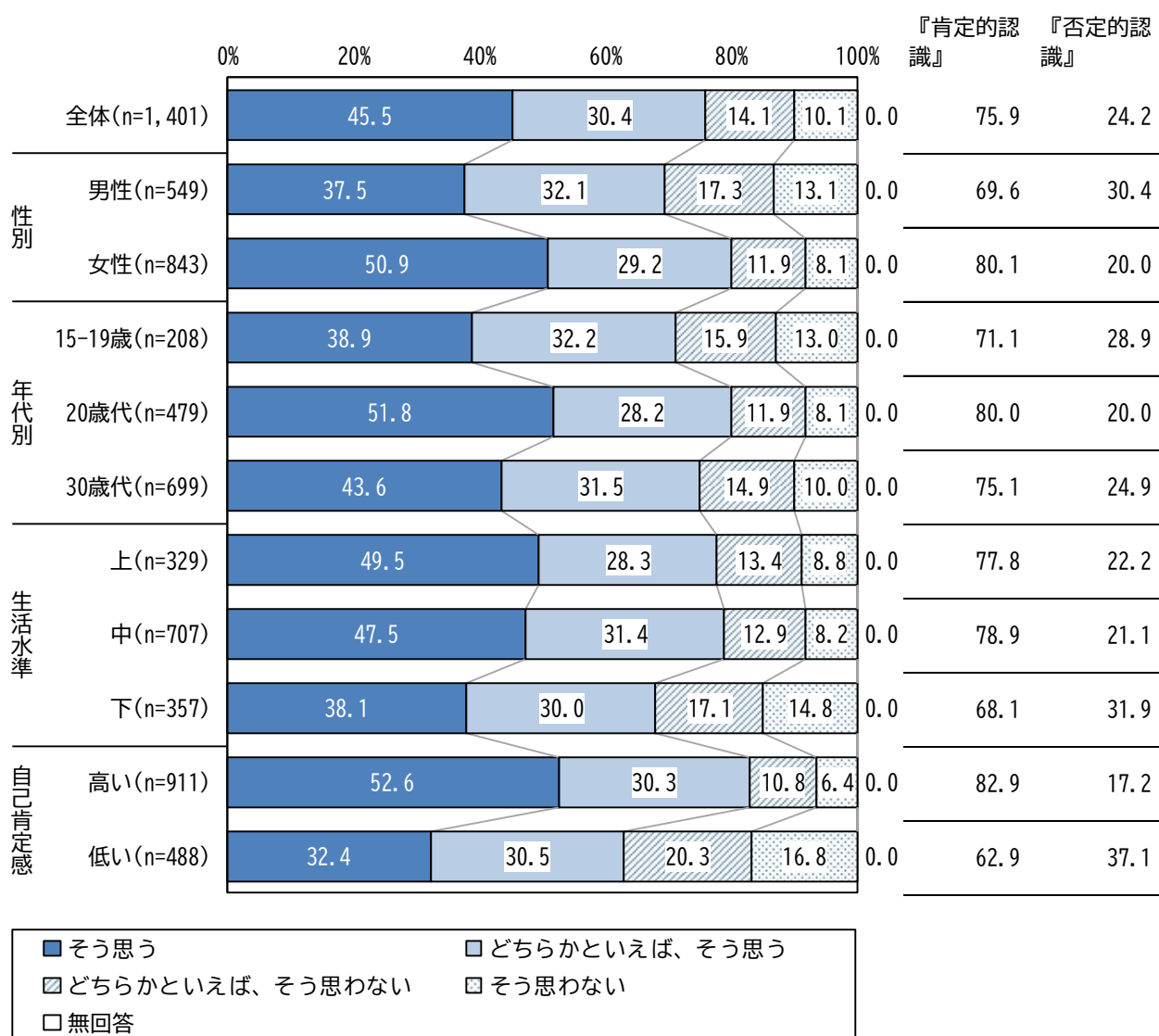
家族・親族に、何でも悩みを相談できる人がいるかについては、「そう思う」が45.5%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が30.4%、「どちらかといえば、そう思わない」が14.1%、「そう思わない」が10.1%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は75.9%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は24.2%となっています。

【属性別】

性別では、男性では『否定的認識』の割合が30.4%で女性より高くなっています。

生活水準では、下の区分では『否定的認識』の割合が31.9%で他の区分より高くなっています。



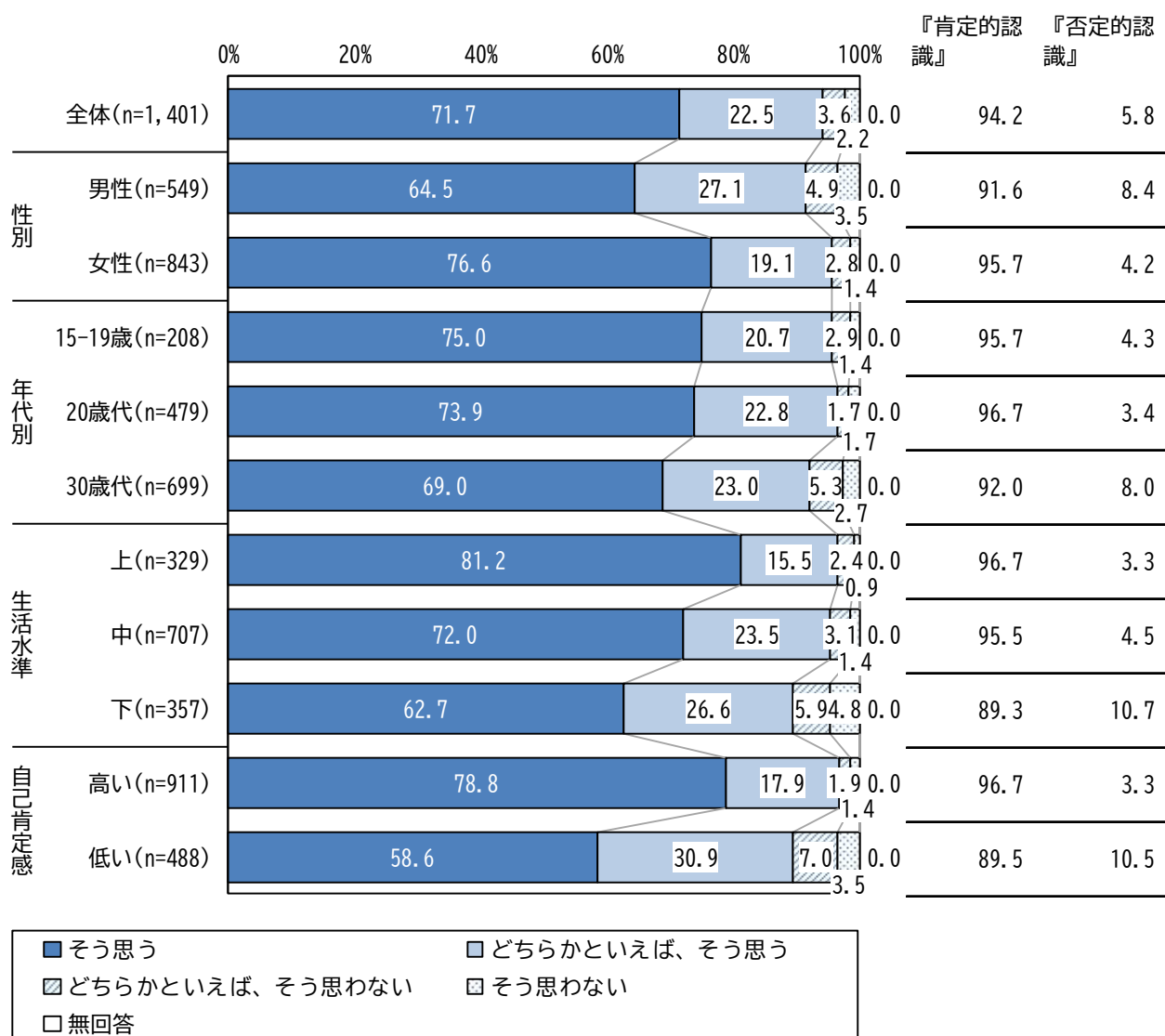
《家族・親族》ウ. 楽しく話せる時がある

家族・親族と、楽しく話せる時があるかについては、「そう思う」が 71.7%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が 22.5%、「どちらかといえば、そう思わない」が 3.6%、「そう思わない」が 2.2%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 94.2%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 5.8%となっています。

【属性別】

いずれの属性においても『肯定的認識』が大半を占めています。



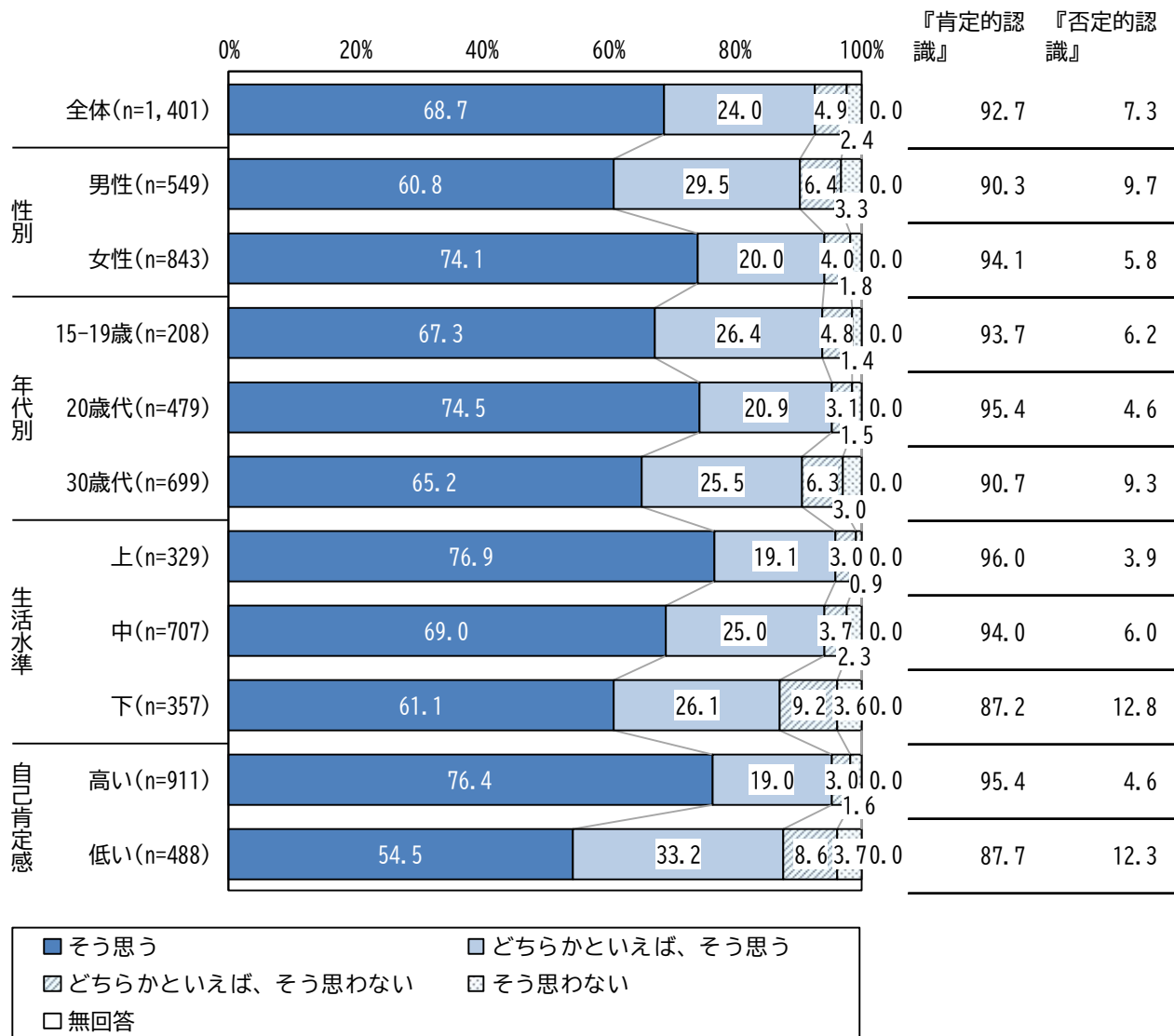
《家族・親族》エ. 困ったときは助けてくれる

家族・親族は、困ったときは助けてくれるかについては、「そう思う」が 68.7%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が 24.0%、「どちらかといえば、そう思わない」が 4.9%、「そう思わない」が 2.4%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 92.7%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 7.3%となっています。

【属性別】

いずれの属性においても『肯定的認識』が大半を占めています。



《家族・親族》オ. 他の人には言えない本音を話せることがある

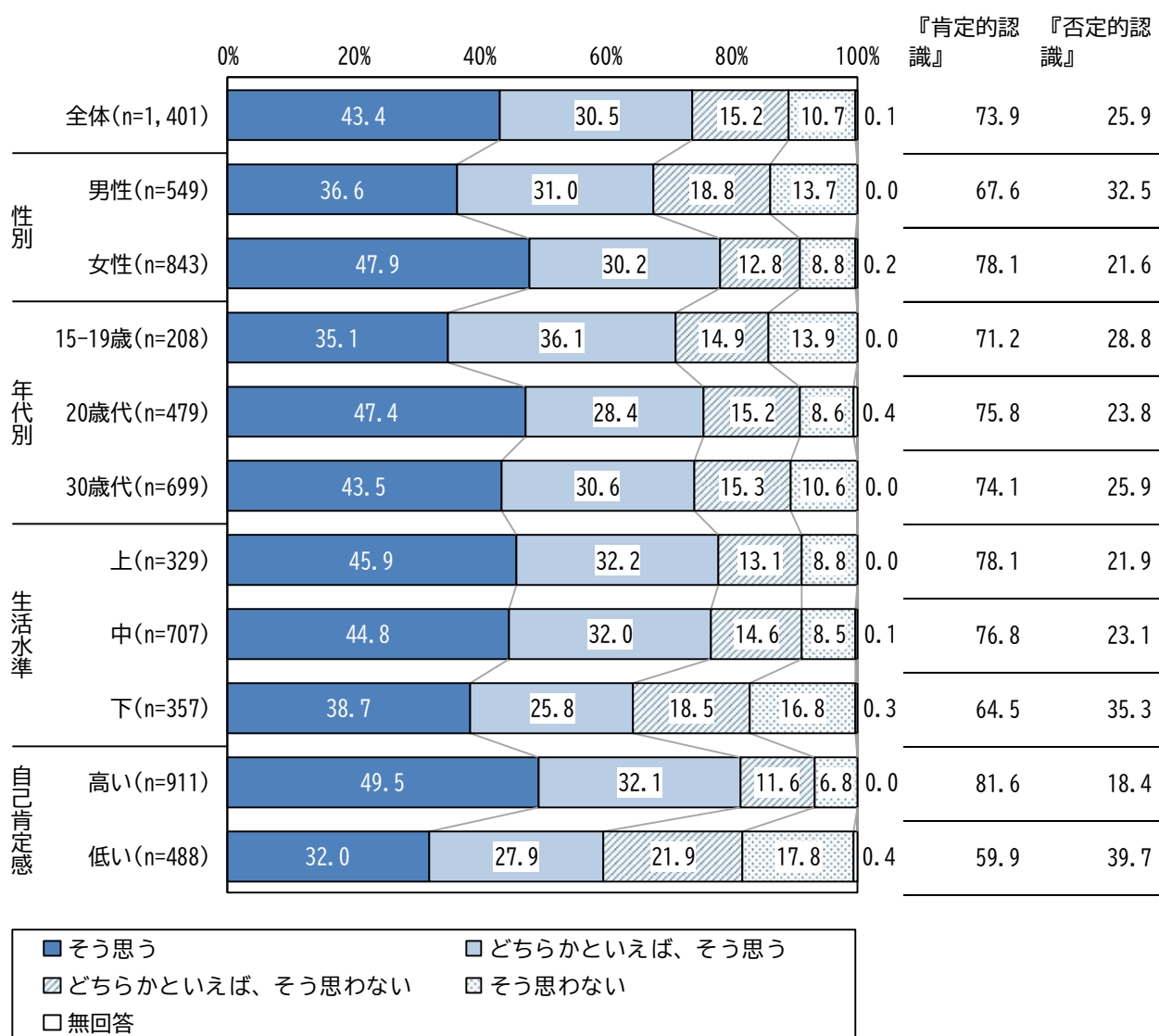
家族・親族に、他の人には言えない本音を話せることがあるかについては、「そう思う」が43.4%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が30.5%、「どちらかといえば、そう思わない」が15.2%、「そう思わない」が10.7%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は73.9%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は25.9%となっています。

【属性別】

性別では、男性では『否定的認識』の割合が32.5%で女性より高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『肯定的認識』の割合が81.6%を占めています。自己肯定感が低い人では59.9%にとどまっています。



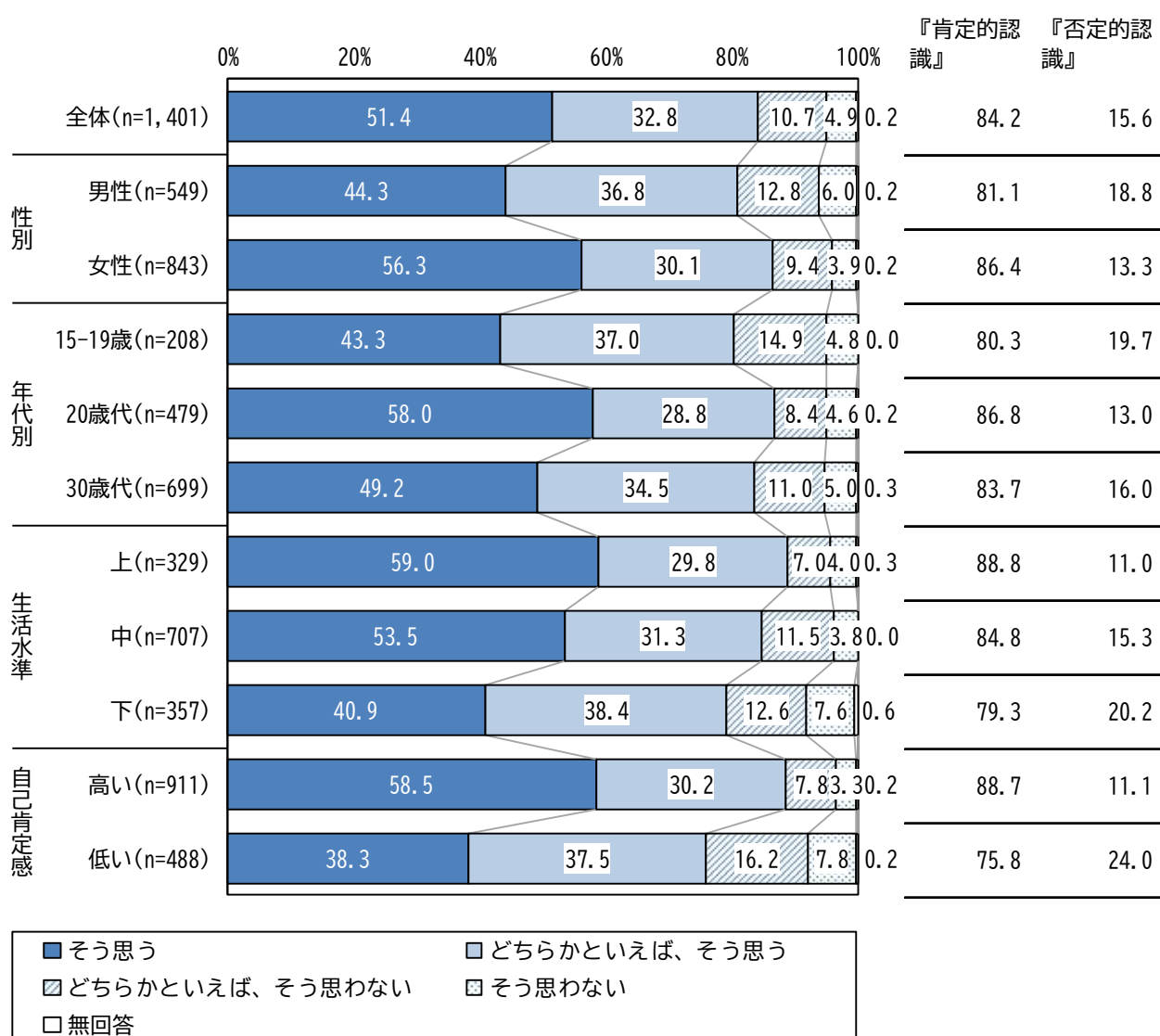
《家族・親族》カ. いつもつながりを感じている

家族・親族に、いつもつながりを感じているかについては、「そう思う」が 51.4%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が 32.8%、「どちらかといえば、そう思わない」が 10.7%、「そう思わない」が 4.9%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 84.2%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 15.6%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が低くなり、『否定的認識』の割合が高くなっています。



問7 学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生など）と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。（ア～カのそれぞれについて、○は1つ）

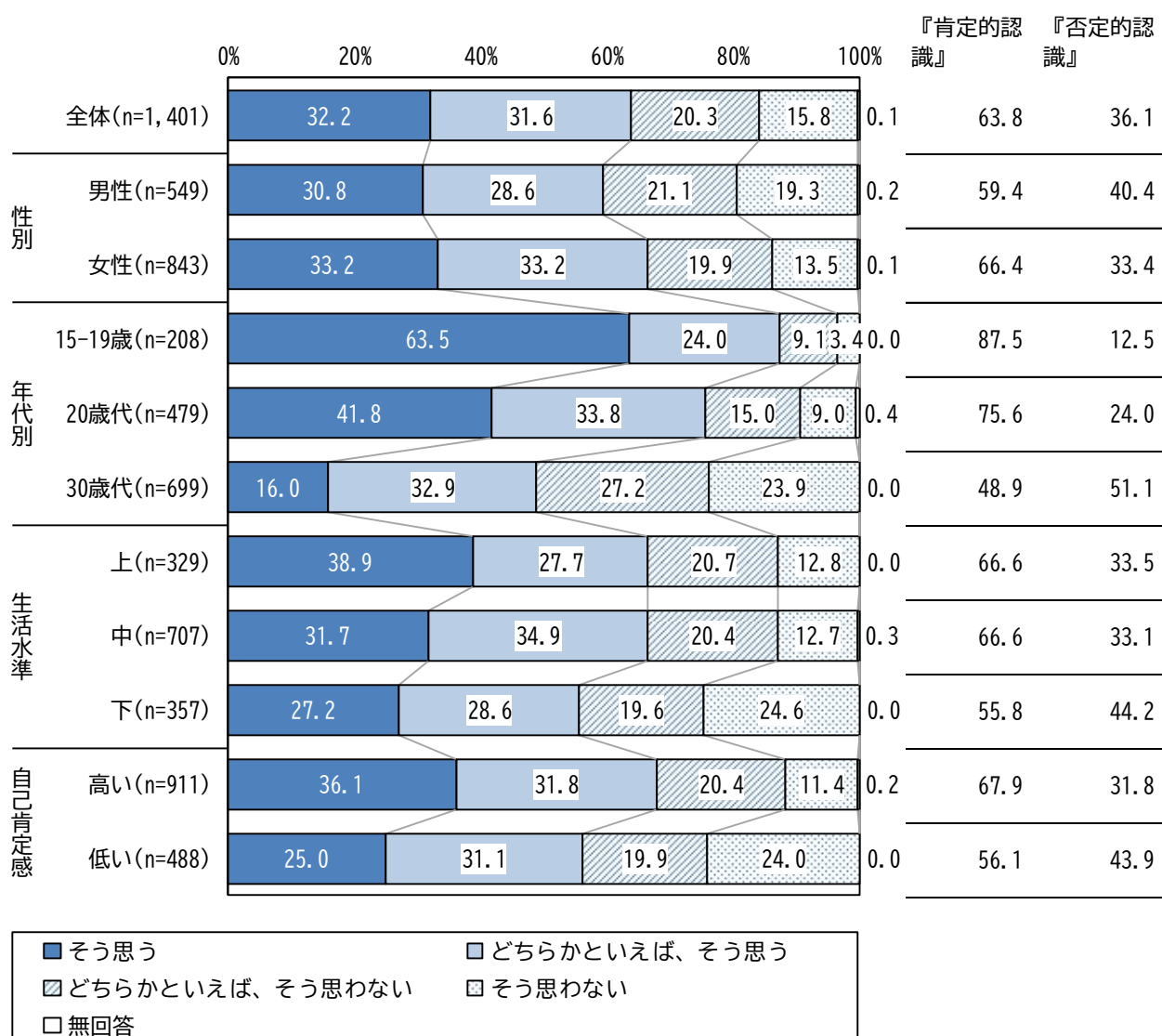
《友人》ア. 会話やメール等をよくしている

友人と、会話やメール等をよくしているかについては、「そう思う」が32.2%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が31.6%、「どちらかといえば、そう思わない」が20.3%、「そう思わない」が15.8%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は63.8%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は36.1%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『否定的認識』の割合が高くなり、30歳代では51.1%を占めています。



《友人》イ. 何でも悩みを相談できる人がいる

友人に、何でも悩みを相談できる人がいるかについては、「そう思う」が 33.0%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が 31.2%、「どちらかといえば、そう思わない」が 18.6%、「そう思わない」が 17.0%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 64.2%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 35.6%となっています。

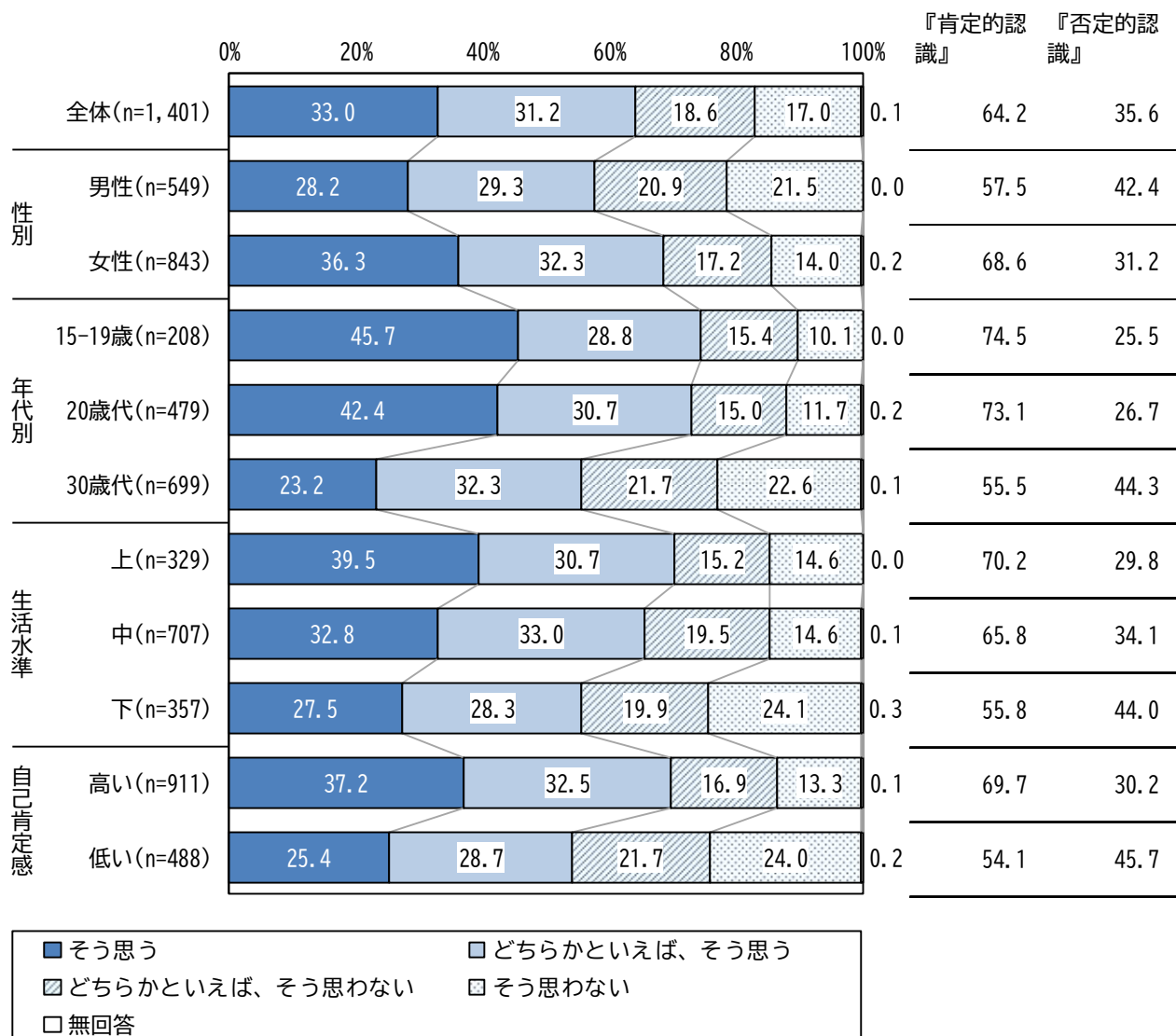
【属性別】

性別では、男性では『否定的認識』の割合が 42.4%で女性より高くなっています。

年代別では、30 歳代では『否定的認識』の割合が 44.3%で他の年代より高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が低くなり、『否定的認識』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では『否定的認識』の割合が 45.7%で、自己肯定感が高い人より高くなっています。



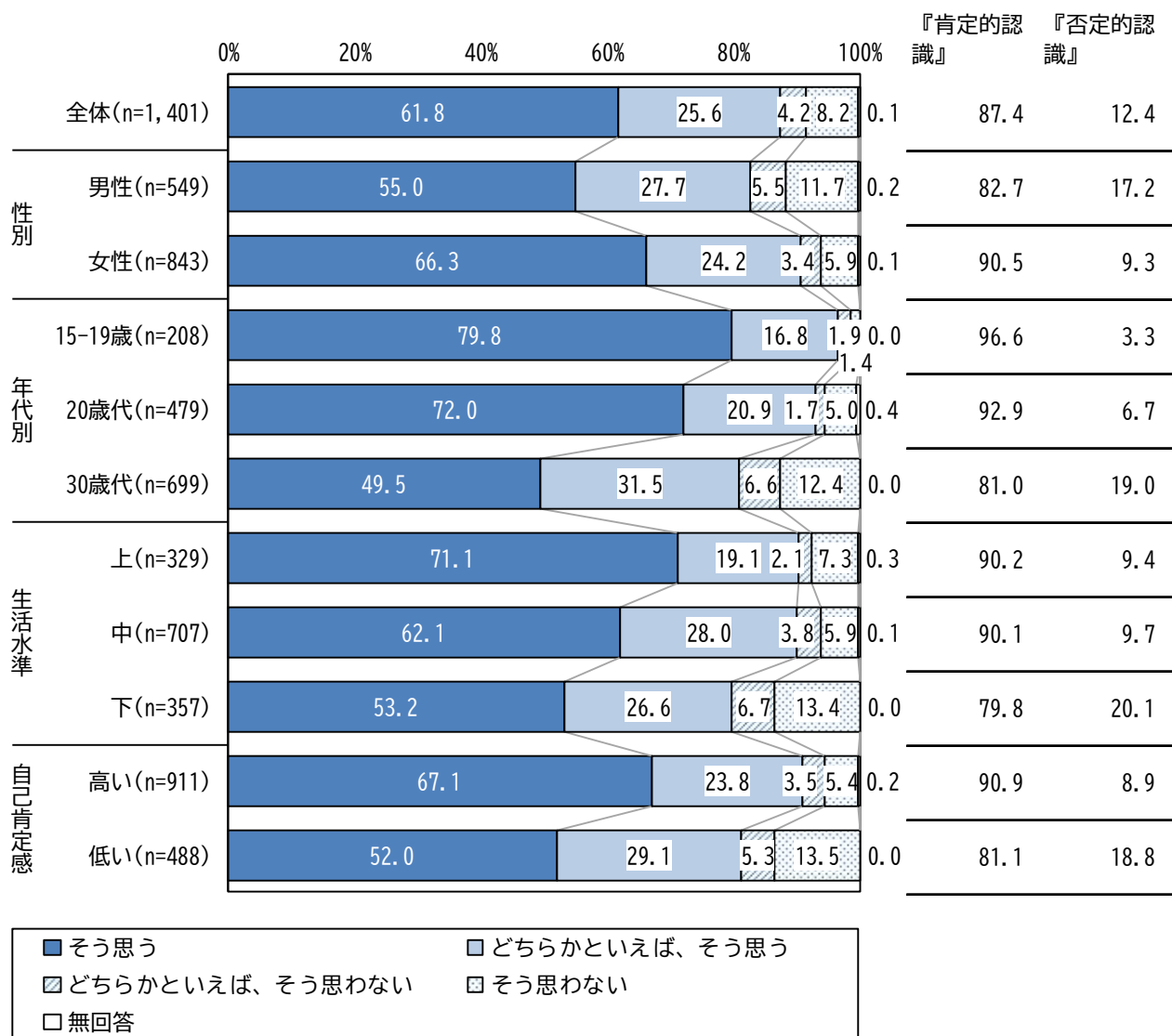
《友人》ウ. 楽しく話せる時がある

友人と、楽しく話せる時があるかについては、「そう思う」が 61.8%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が 25.6%、「そう思わない」が 8.2%、「どちらかといえば、そう思わない」が 4.2%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 87.4%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 12.4%となっています。

【属性別】

生活水準では、生活水準が下の区分では『否定的認識』の割合が 20.1%で他の区分より高くなっています。



《友人》エ. 困ったときは助けてくれる

友人は、困ったときは助けてくれるかについては、「そう思う」が 42.8%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が 33.7%、「そう思わない」が 11.7%、「どちらかといえば、そう思わない」が 11.6%となっています。

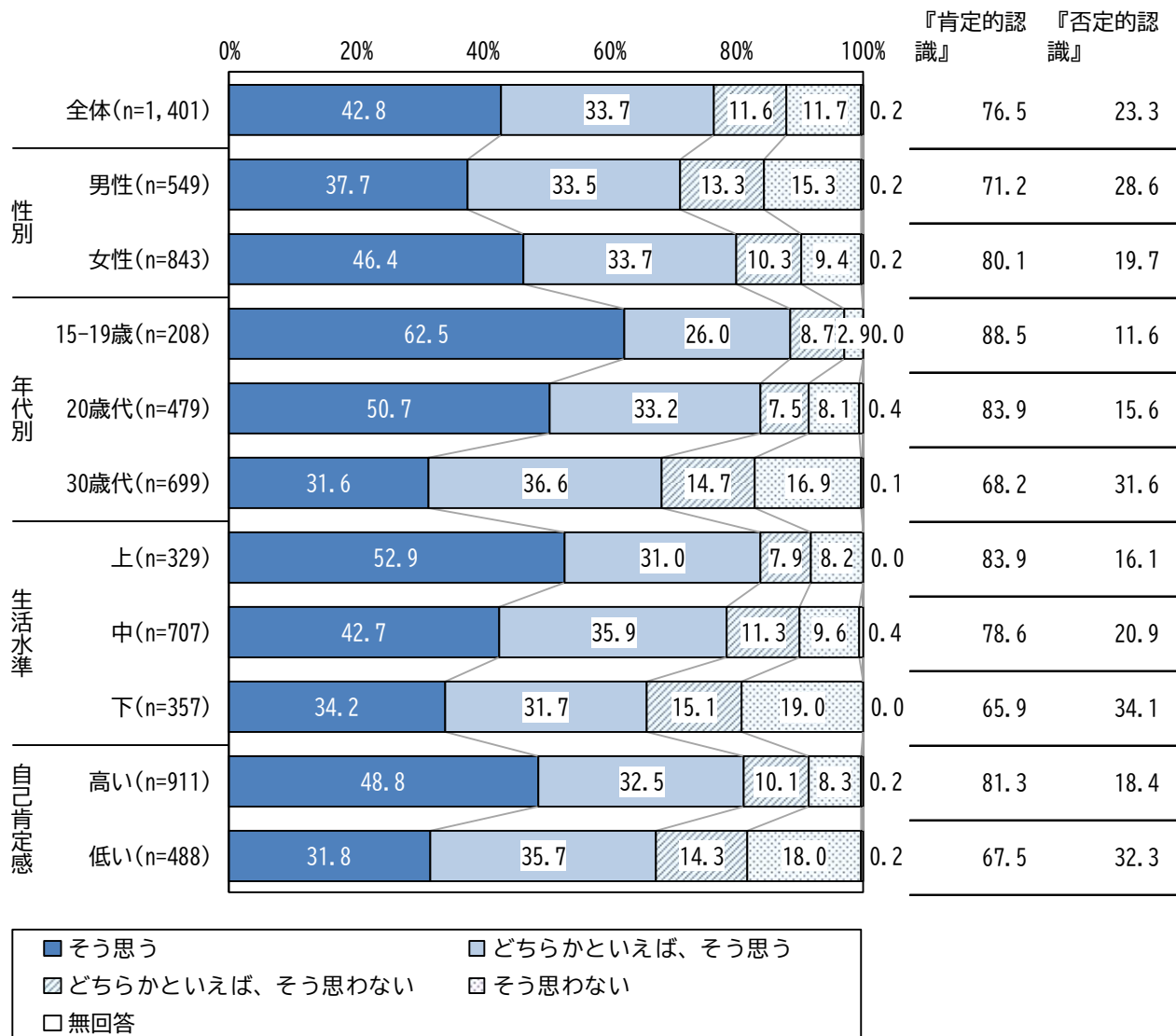
「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 76.5%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 23.3%となっています。

【属性別】

年代別では、30 歳代では『否定的認識』の割合が 31.6%で他の年代より高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が低くなり、『否定的認識』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では『否定的認識』の割合が 32.3%で、自己肯定感が高い人より高くなっています。



友人に、他の人には言えない本音を話せることがあるかについては、「そう思う」が 35.0%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が 32.1%、「どちらかといえば、そう思わない」が 16.8%、「そう思わない」が 15.9%となっています。

【属性別】

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では『否定的認識』の割合が 44.0%で、自己肯定感が高い人より高くなっています。



《友人》カ. いつもつながりを感じている

友人に、いつもつながりを感じているかについては、「どちらかといえば、そう思う」が34.0%で最も高く、以下「そう思う」が29.1%、「どちらかといえば、そう思わない」が21.3%、「そう思わない」が15.6%となっています。

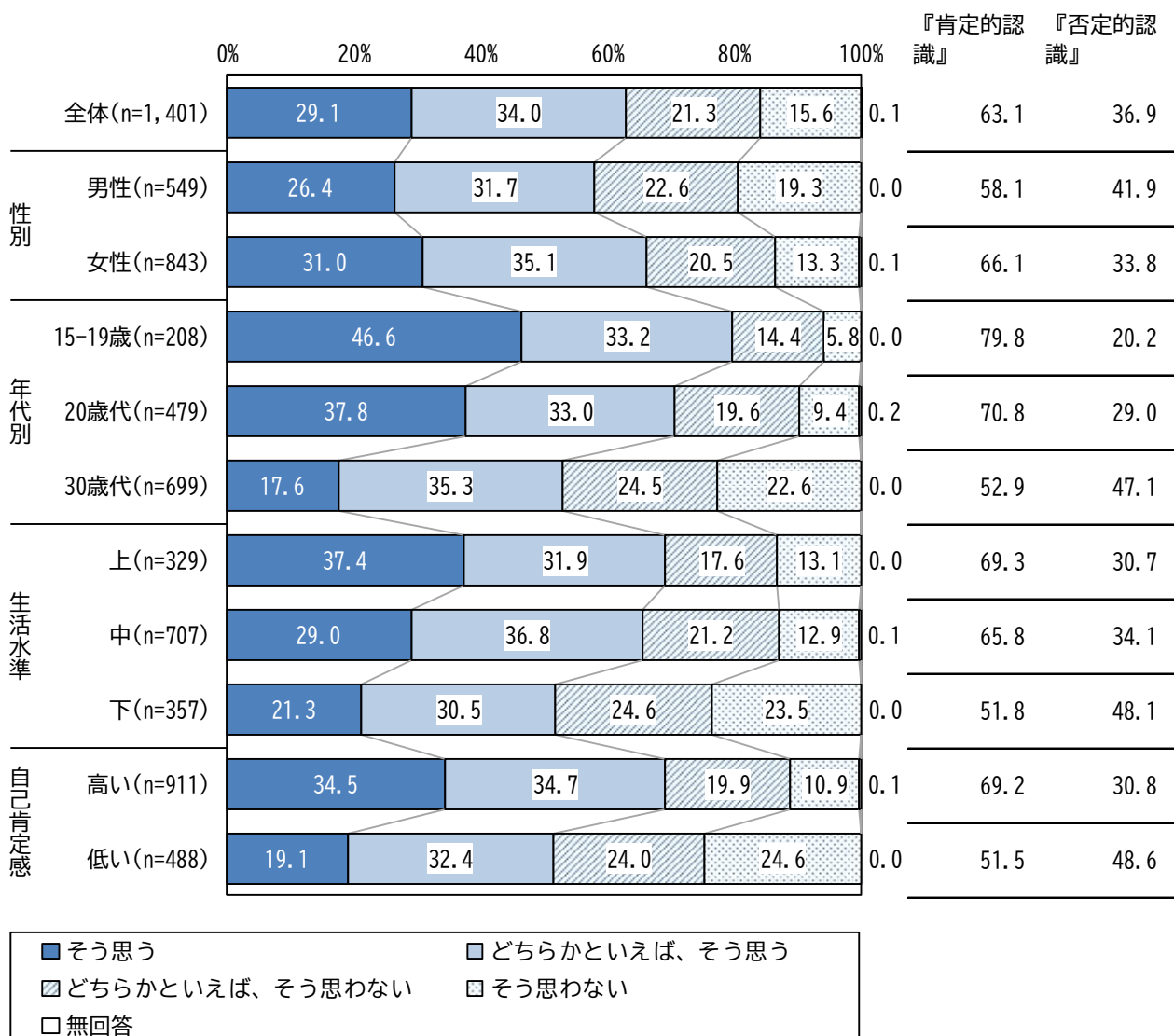
「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は63.1%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は36.9%となっています。

【属性別】

年代別では、30歳代では『否定的認識』の割合が47.1%で、他の年代より高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が低くなり、『否定的認識』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では『否定的認識』の割合が48.6%で、自己肯定感が高い人より高くなっています。



【F10で「1. 現在、就業している」、「2. 現在、就業しているが、休職や休業中である」、「3. 現在は就業していないが、過去に就業経験がある」を選んだ方のみ、お答えください。】

問8 職場・アルバイト関係の人（現在及び過去の職場の同僚・上司・部下、その他仕事の関係で知り合った人など）と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。（ア～カのそれぞれについて、○は1つ）

《職場・アルバイト関係の人》ア. 会話やメール等をよくしている

職場・アルバイト関係の人と、会話やメール等をよくしているかについては、「どちらかといえば、そう思う」が34.8%で最も高く、以下「そう思わない」が22.8%、「そう思う」が22.4%、「どちらかといえば、そう思わない」が19.2%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は57.2%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は42.0%となっています。

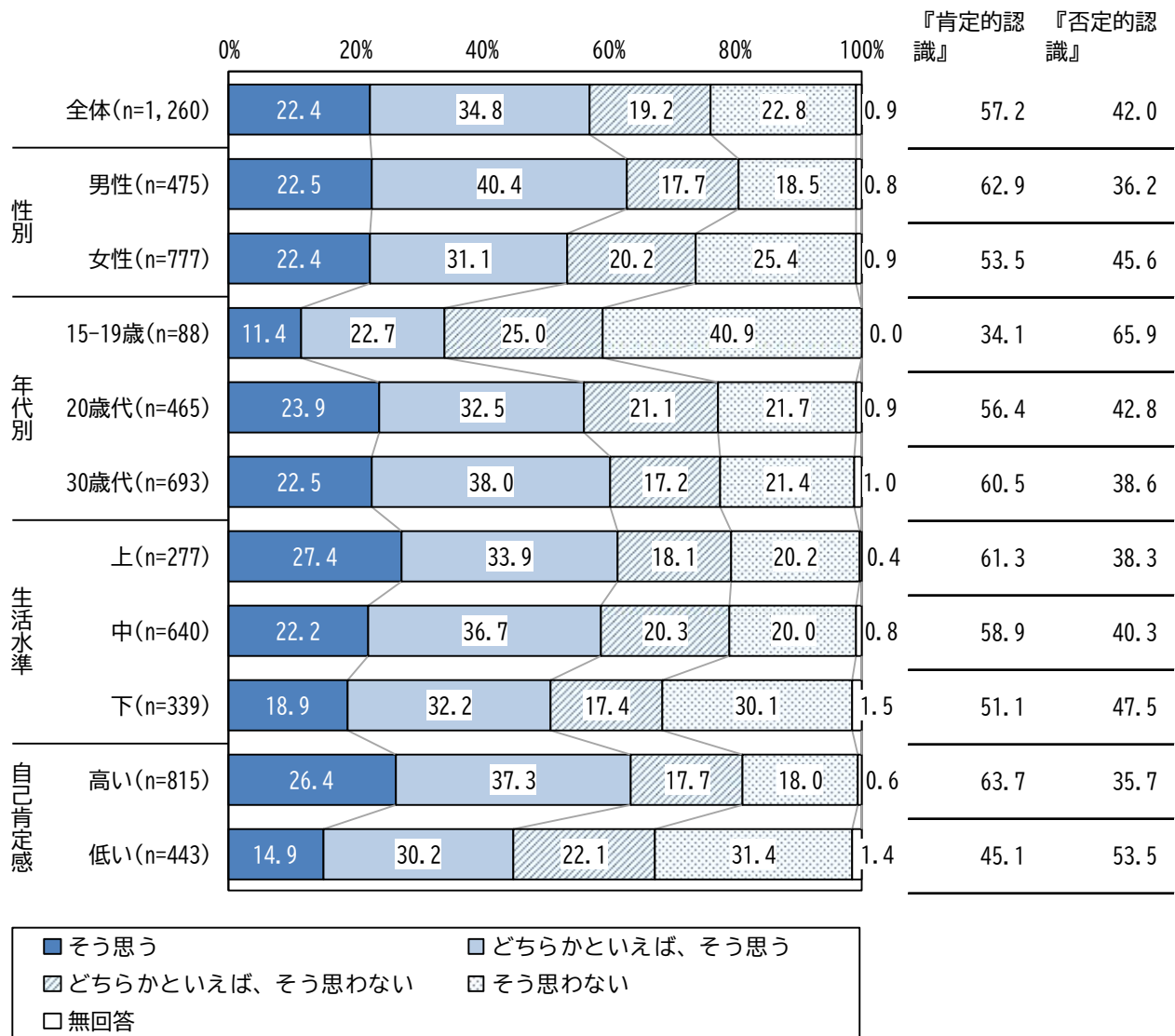
【属性別】

年代別では、年代が高いほど『肯定的認識』の割合が高く、30歳代では60.5%を占めています。

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が低くなり、『否定的認識』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『肯定的認識』の割合が63.7%を占めています。自己肯定感が低い人では『否定的認識』の割合が53.5%を占めています。

Ⅶ こども・若者の意識と生活に関する調査



《職場・アルバイト関係の人》イ. 何でも悩みを相談できる人がある

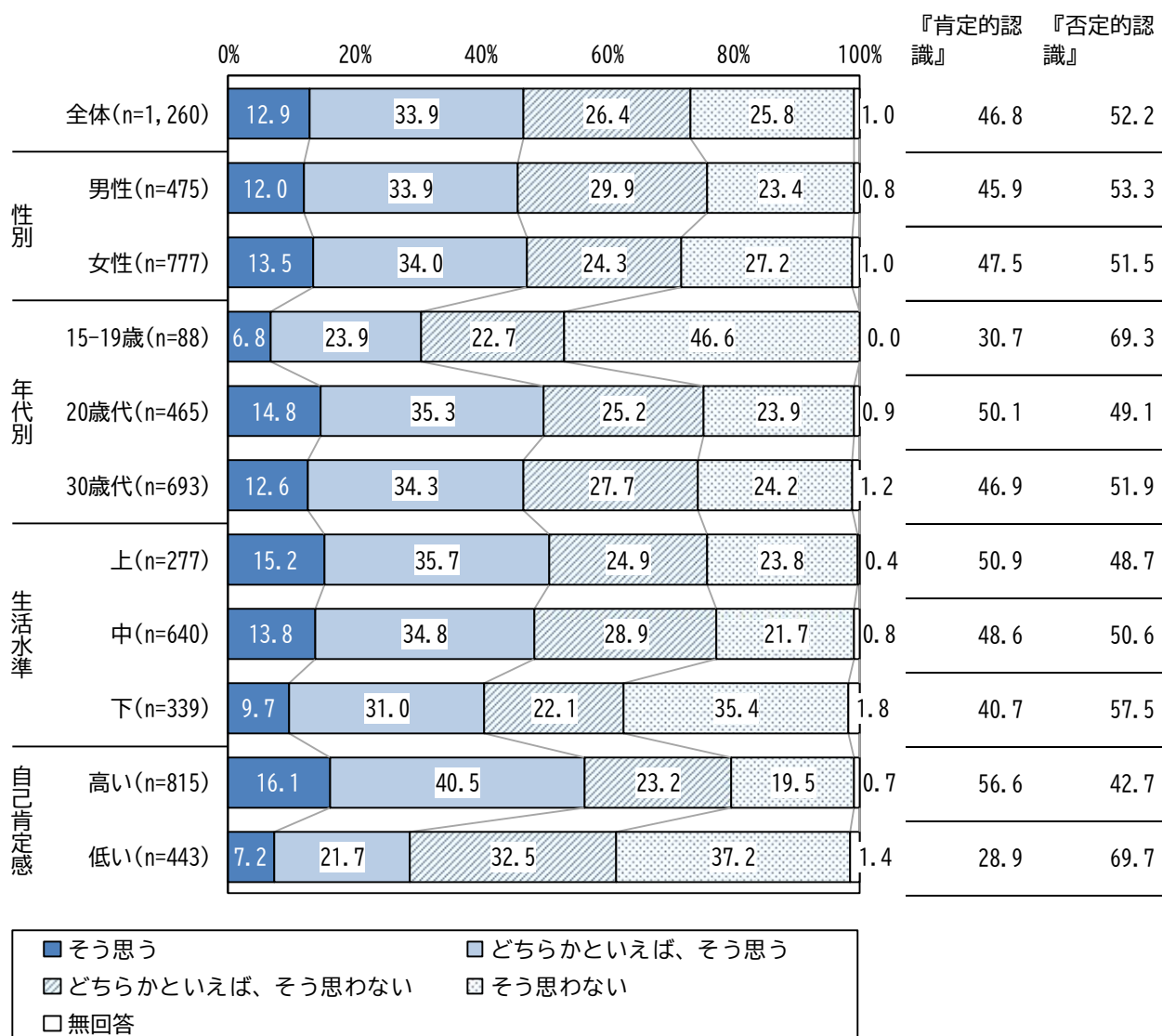
職場・アルバイト関係の人に、何でも悩みを相談できる人があるかについては、「どちらかといえば、そう思う」が 33.9%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思わない」が 26.4%、「そう思わない」が 25.8%、「そう思う」が 12.9%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 46.8%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 52.2%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が低くなり、『否定的認識』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『肯定的認識』の割合が 56.6%を占めていますが、自己肯定感が低い人では『否定的認識』の割合が 69.7%を占めています。



《職場・アルバイト関係の人》ウ. 楽しく話せる時がある

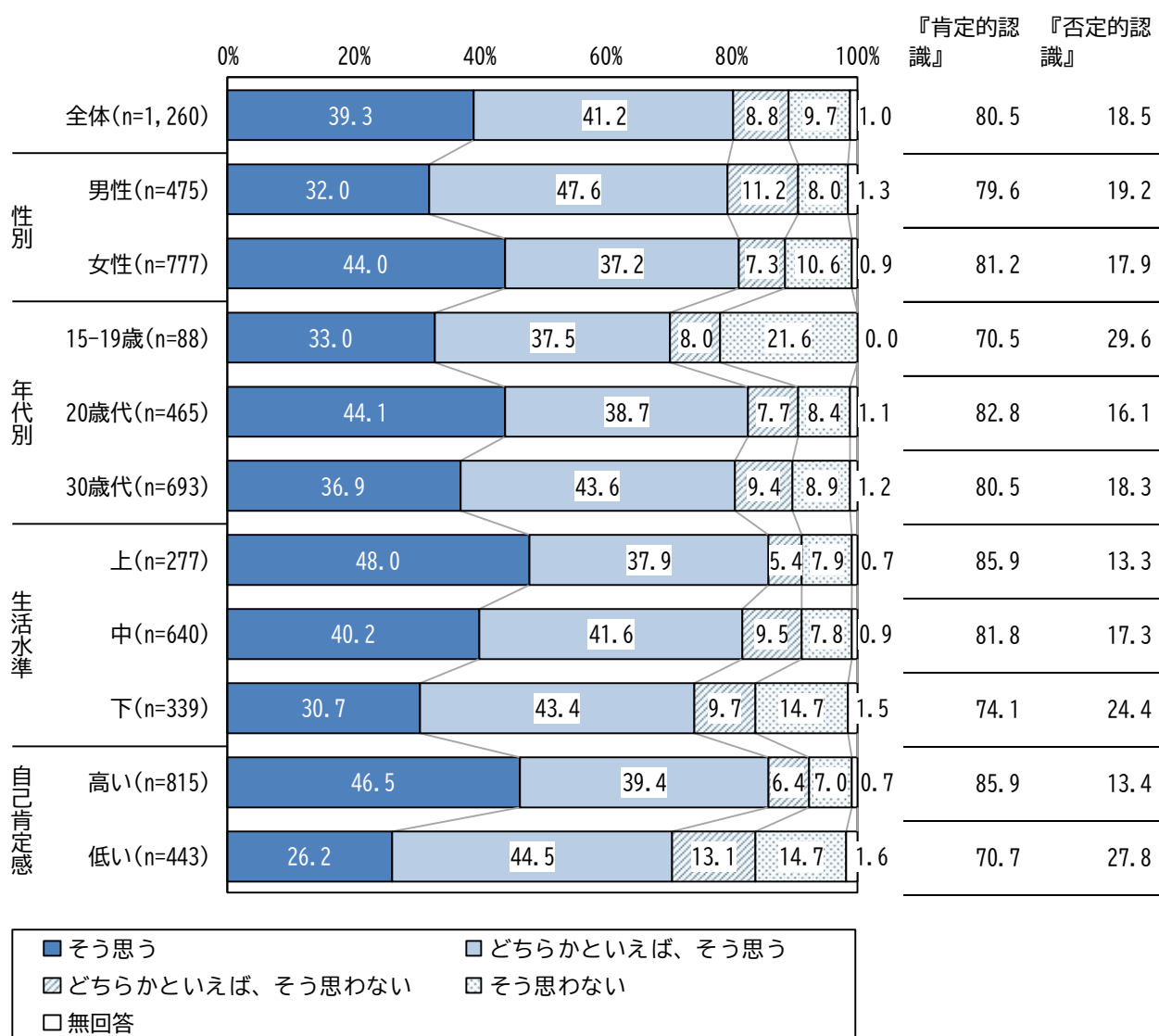
職場・アルバイト関係の人と、楽しく話せる時があるかについては、「どちらかといえば、そう思う」が 41.2%で最も高く、以下「そう思う」が 39.3%、「そう思わない」が 9.7%、「どちらかといえば、そう思わない」が 8.8%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 80.5%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 18.5%となっています。

【属性別】

年代別では、15～19 歳では『否定的認識』が 29.6%で他の年代より高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が低くなり、『否定的認識』の割合が高くなっています。



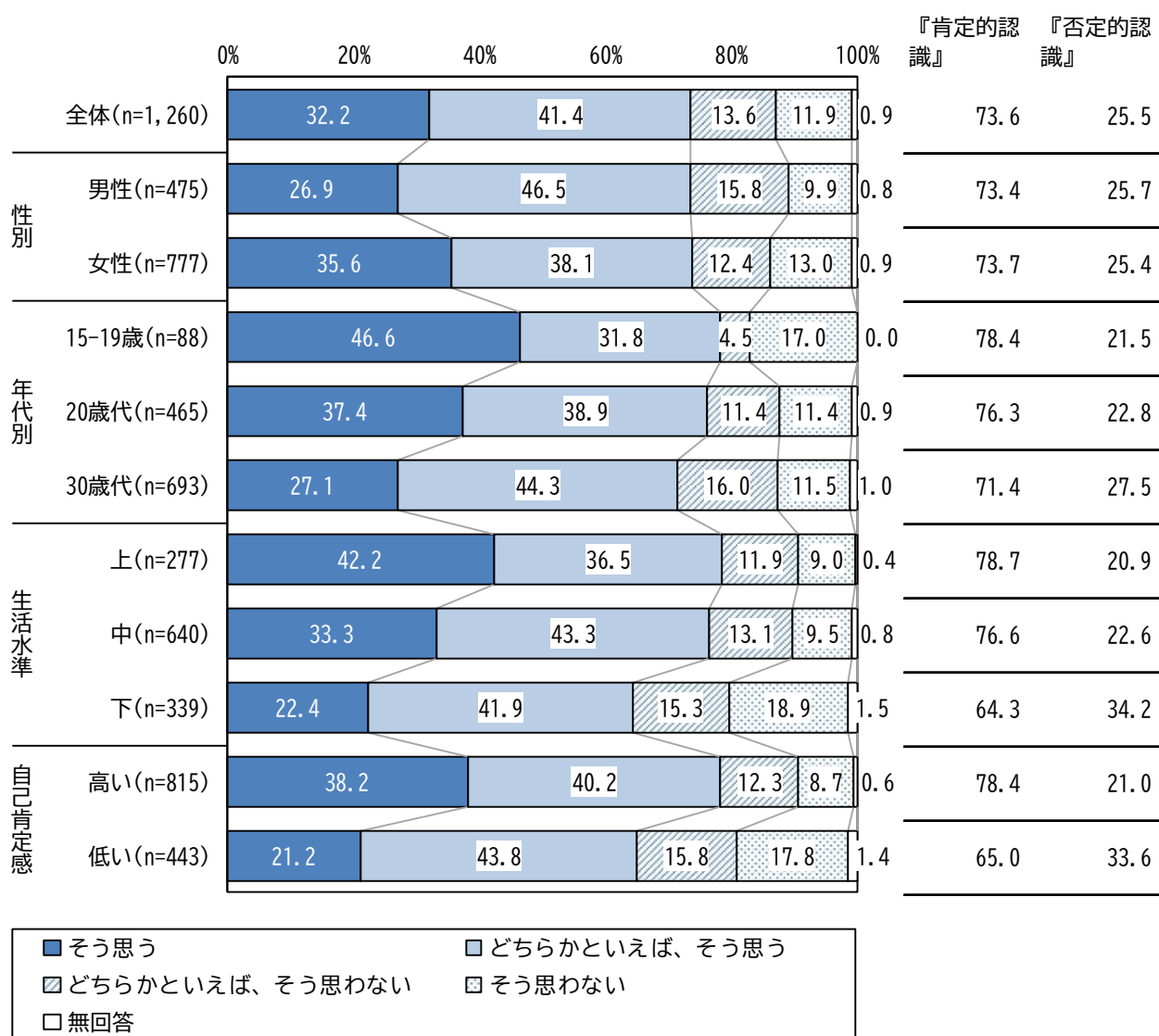
《職場・アルバイト関係の人》エ. 困ったときは助けてくれる

職場・アルバイト関係の人は、困ったときは助けてくれるかについては、「どちらかといえば、そう思う」が41.4%で最も高く、以下「そう思う」が32.2%、「どちらかといえば、そう思わない」が13.6%、「そう思わない」が11.9%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は73.6%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は25.5%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が低くなり、『否定的認識』の割合が高くなっています。



《職場・アルバイト関係の人》オ. 他の人には言えない本音を話せることがある

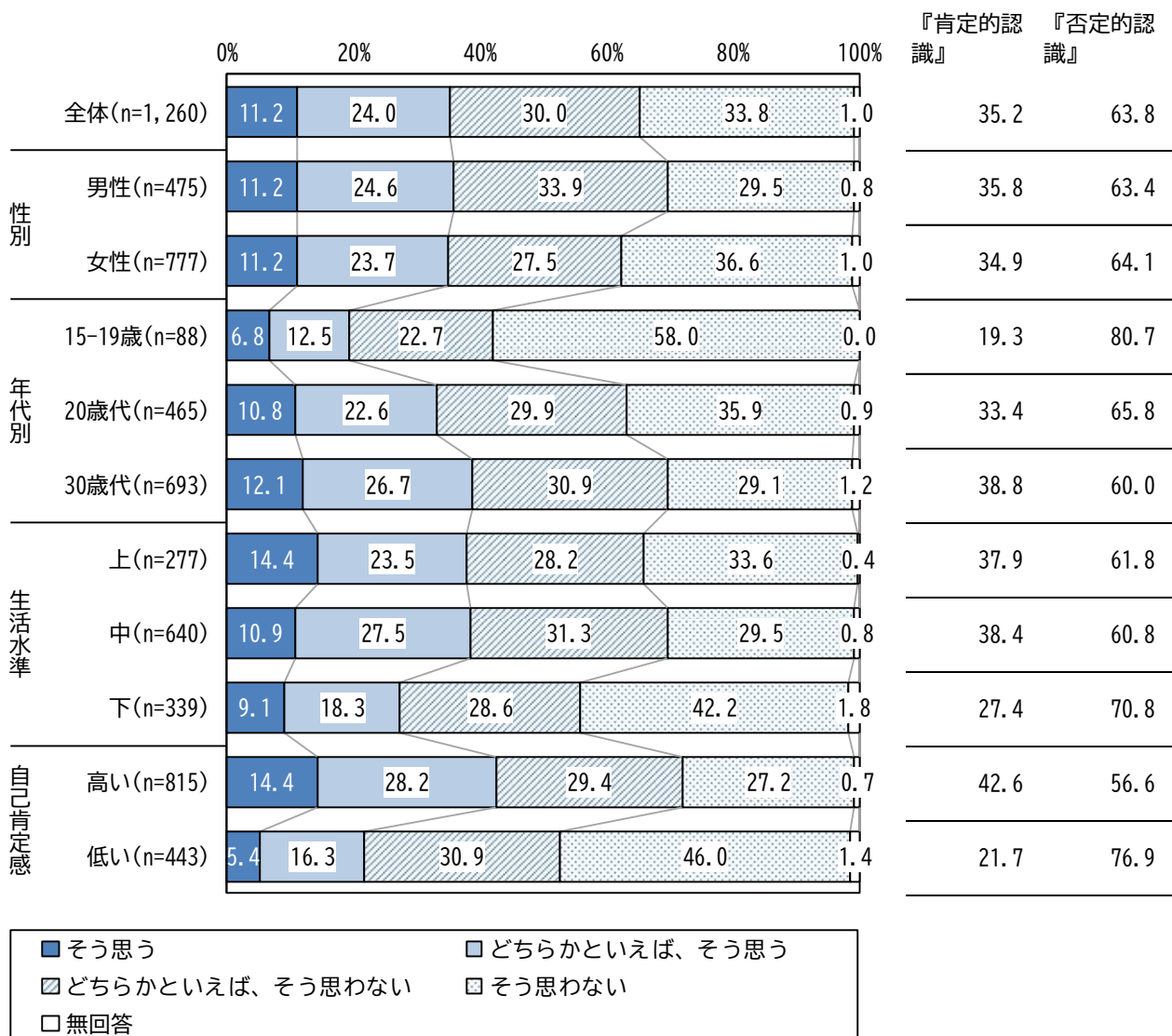
職場・アルバイト関係の人に、他の人には言えない本音を話せることがあるかについては、「そう思わない」が33.8%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思わない」が30.0%、「どちらかといえば、そう思う」が24.0%、「そう思う」が11.2%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 35.2%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 63.8%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が低いほど『否定的認識』の割合が高く、15～19 歳では 80.7%を占めています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では『否定的認識』の割合が 76.9%を占めています。また、自己肯定感が高い人でも『否定的認識』の割合の方が高く、56.6%となっています。



《職場・アルバイト関係の人》カ. いつもつながりを感じている

職場・アルバイト関係の人に、いつもつながりを感じているかについては、「どちらかといえば、そう思う」が30.2%で最も高く、以下「そう思わない」が29.0%、「どちらかといえば、そう思わない」が27.0%、「そう思う」が12.9%となっています。

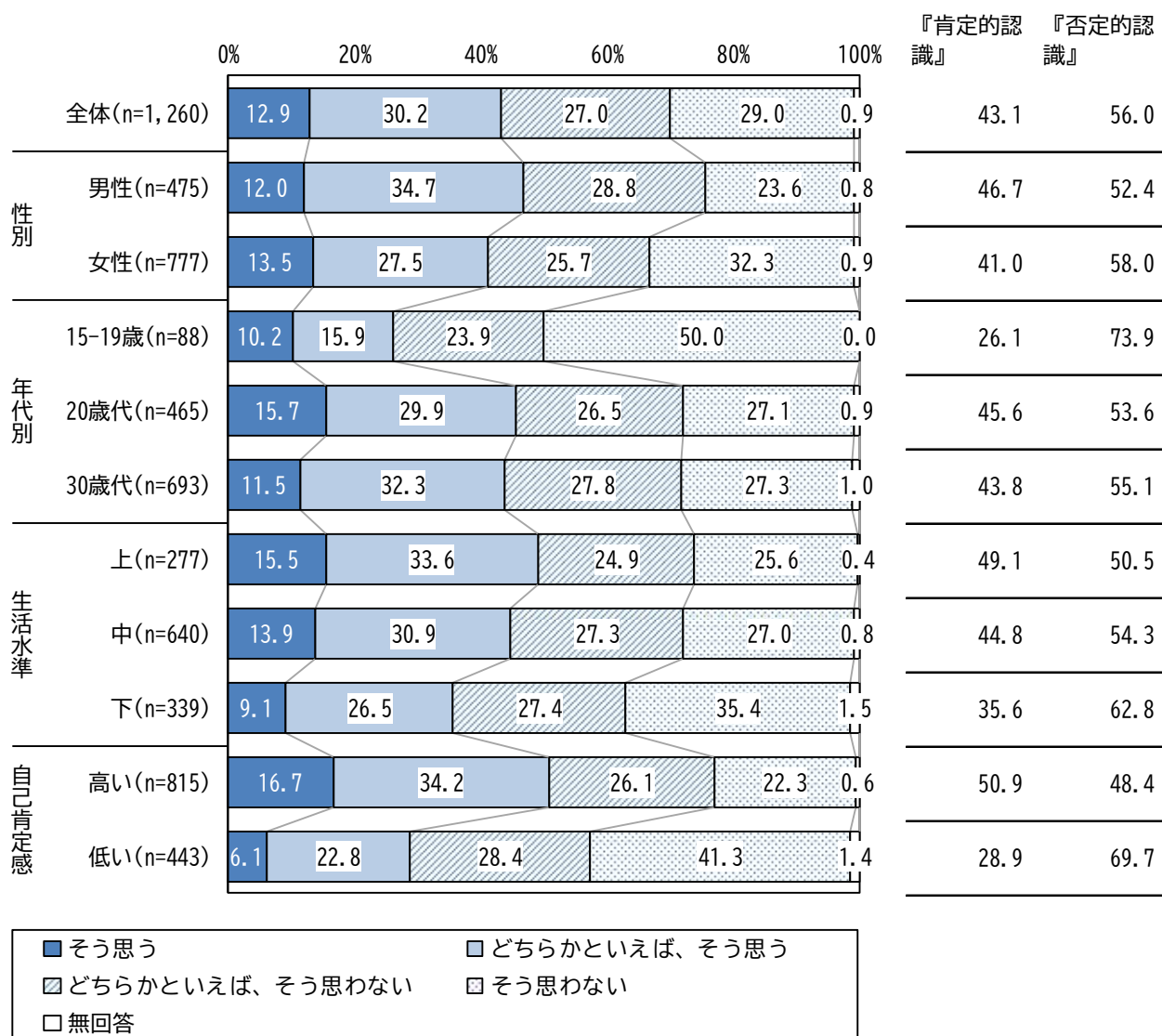
「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は43.1%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は56.0%となっています。

【属性別】

年代別では、15～19歳では『否定的認識』の割合が73.9%を占めており、他の年代より高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が低く、『否定的認識』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では『否定的認識』が69.7%を占めています。



【全員にお聞きします。】

問9 地域の人（近所の人、町内会などの知人、消防団などの地域活動での知人、塾や習い事での知人、参加している NPO 法人など）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（ア～カのそれぞれについて、○は1つ）

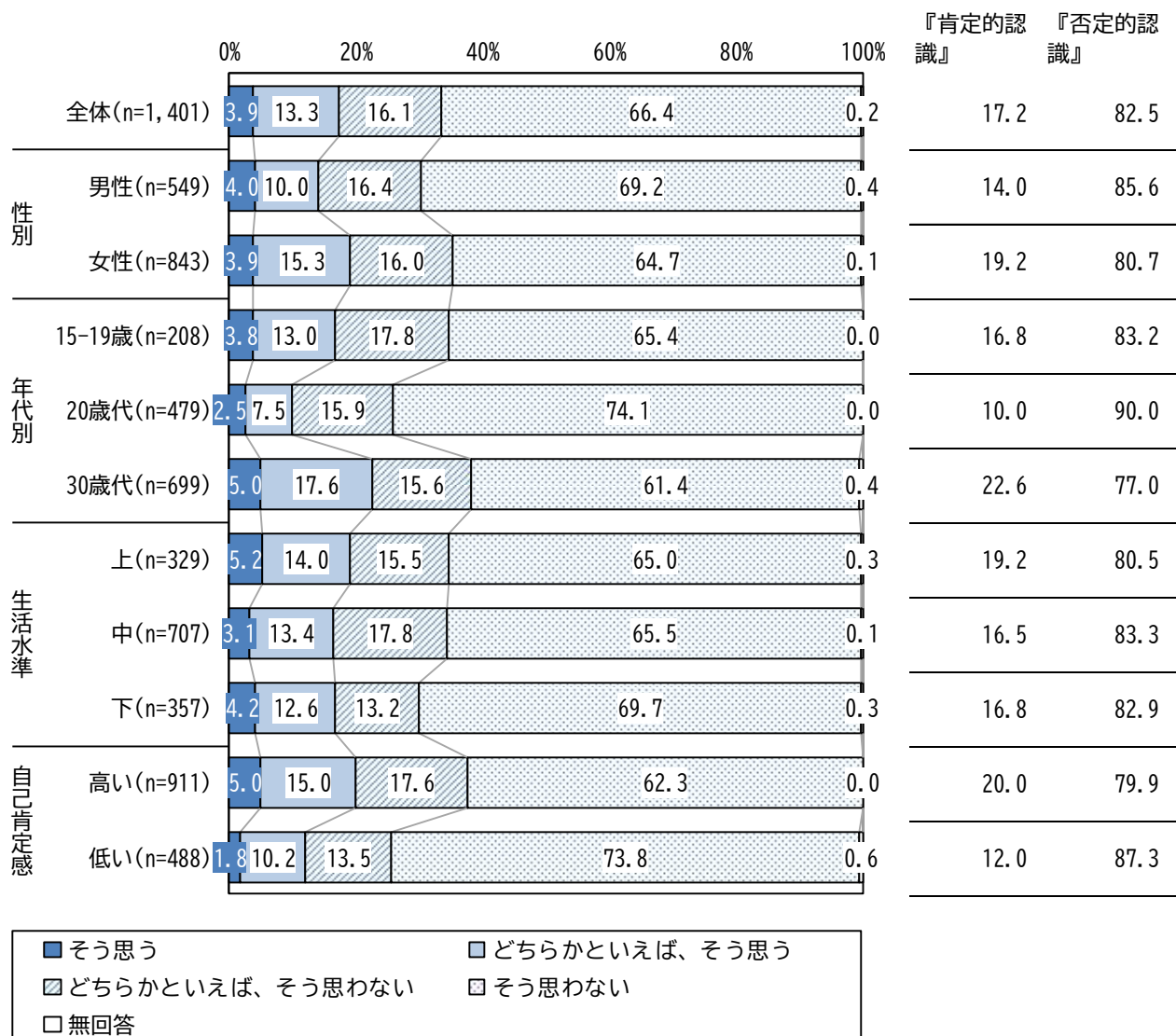
《地域の人》ア. 会話やメール等をよくしている

地域の人と、会話やメール等をよくしているかについては、「そう思わない」が 66.4%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思わない」が 16.1%、「どちらかといえば、そう思う」が 13.3%、「そう思う」が 3.9%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 17.2%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 82.5%となっています。

【属性別】

いずれの属性においても『否定的認識』の割合が高く、『肯定的認識』の割合は 20%前後となっています。



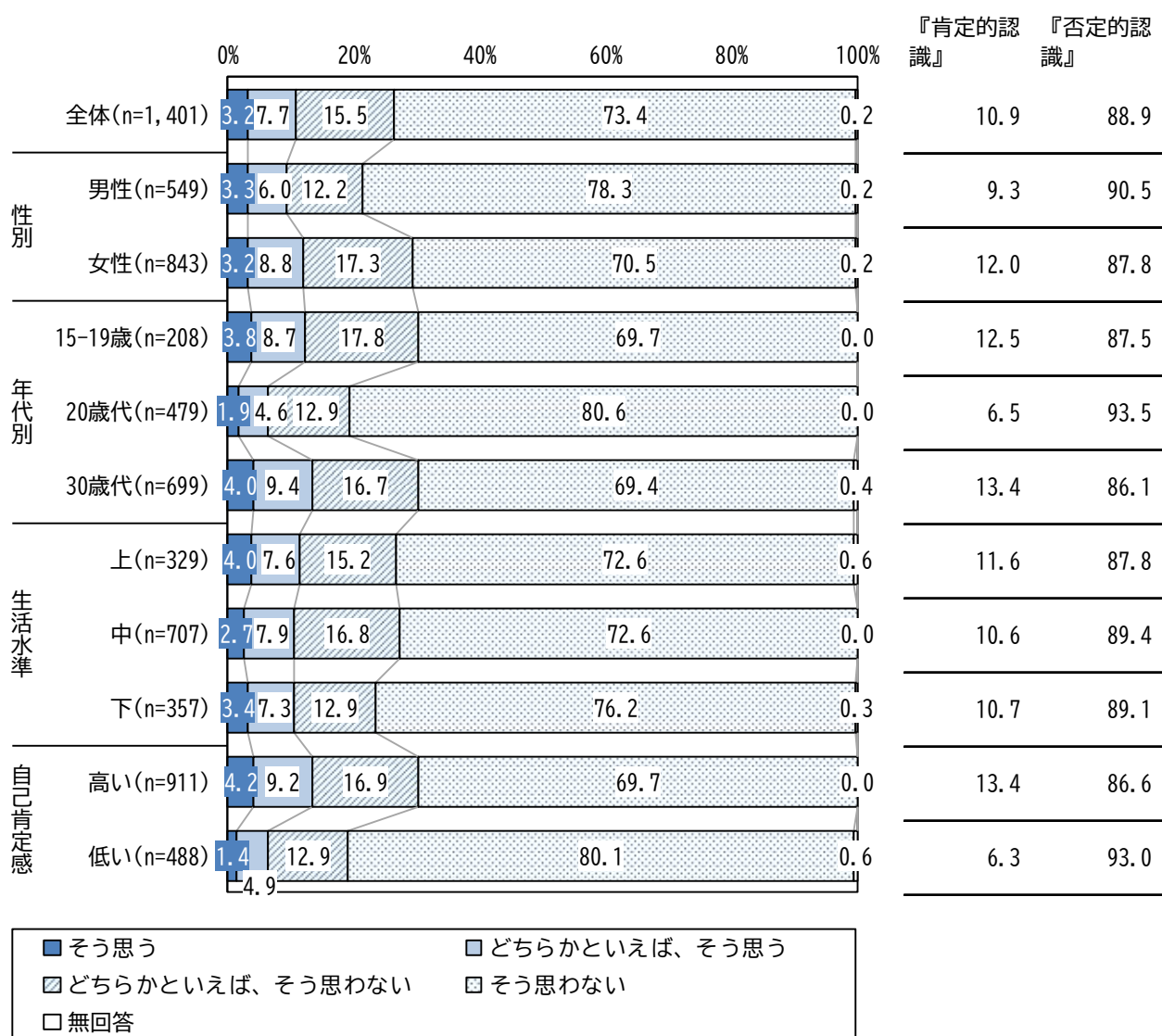
《地域の人》イ. 何でも悩みを相談できる人がある

地域の人に、何でも悩みを相談できる人があるかについては、「そう思わない」が 73.4%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思わない」が 15.5%、「どちらかといえば、そう思う」が 7.7%、「そう思う」が 3.2%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 10.9%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 88.9%となっています。

【属性別】

いずれの属性においても『否定的認識』の割合が高く、『肯定的認識』の割合は 10%前後となっています。



《地域の人》ウ. 楽しく話せる時がある

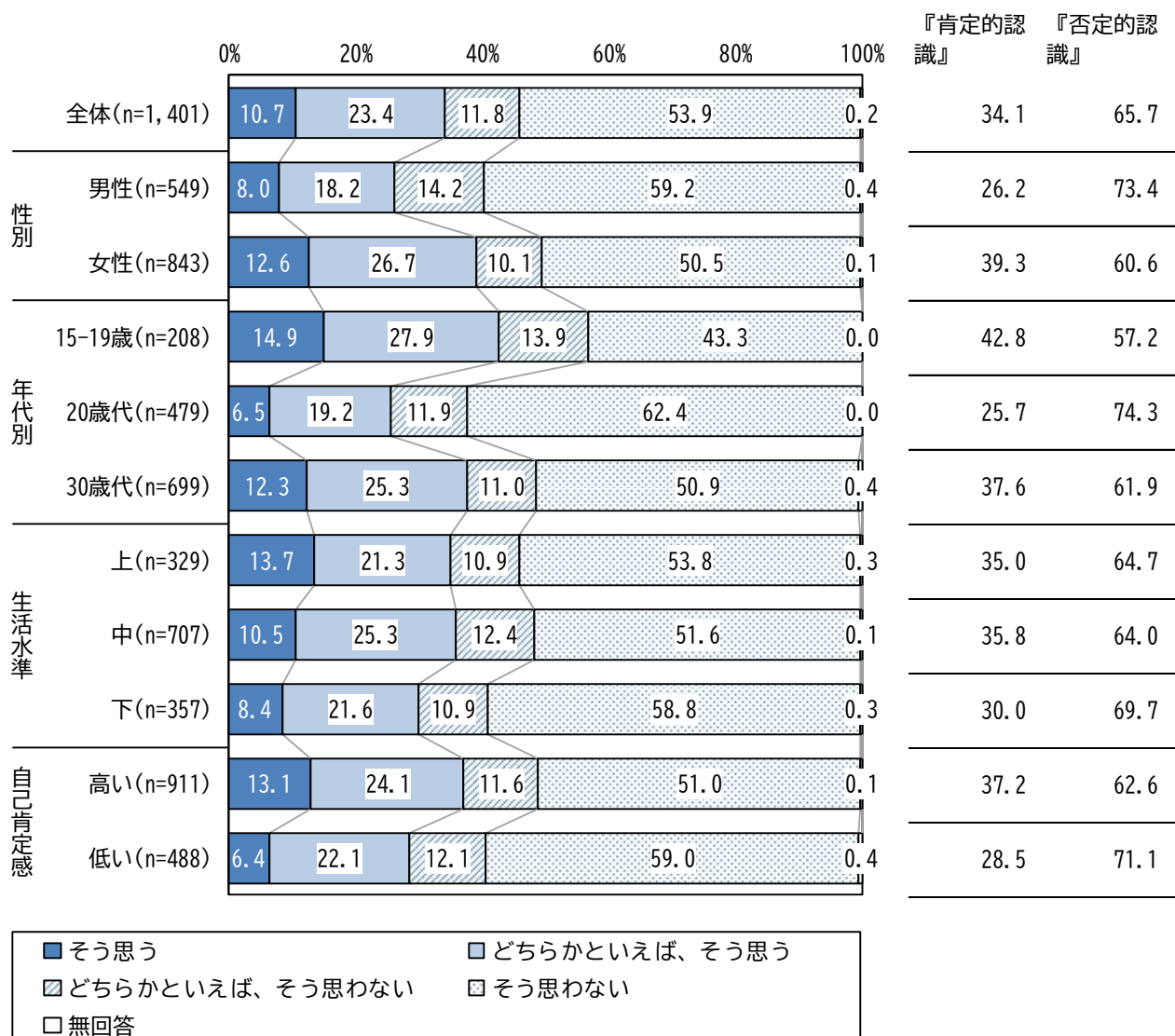
地域の人と、楽しく話せる時があるかについては、「そう思わない」が 53.9%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が 23.4%、「どちらかといえば、そう思わない」が 11.8%、「そう思う」が 10.7%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 34.1%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 65.7%となっています。

【属性別】

性別では、女性では『肯定的認識』の割合が 39.3%で男性より高くなっています。

年代別では、20 歳代では『否定的認識』の割合が 74.3%で他の年代より高くなっています。



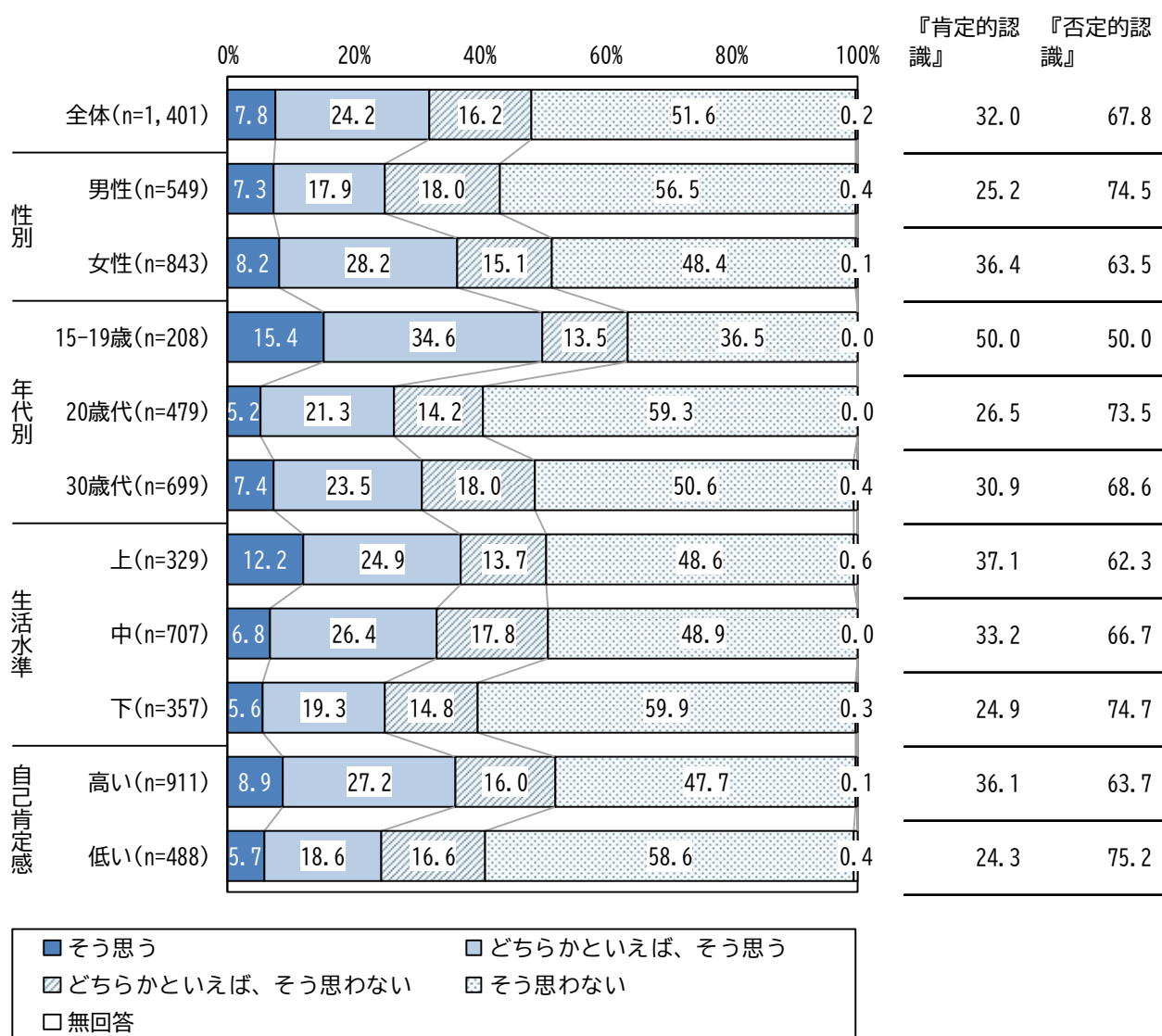
《地域の人》エ. 困ったときは助けてくれる

地域の方は、困ったときは助けてくれるかについては、「そう思わない」が 51.6%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が 24.2%、「どちらかといえば、そう思わない」が 16.2%、「そう思う」が 7.8%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 32.0%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 67.8%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が低く、『否定的認識』の割合が高くなっています。



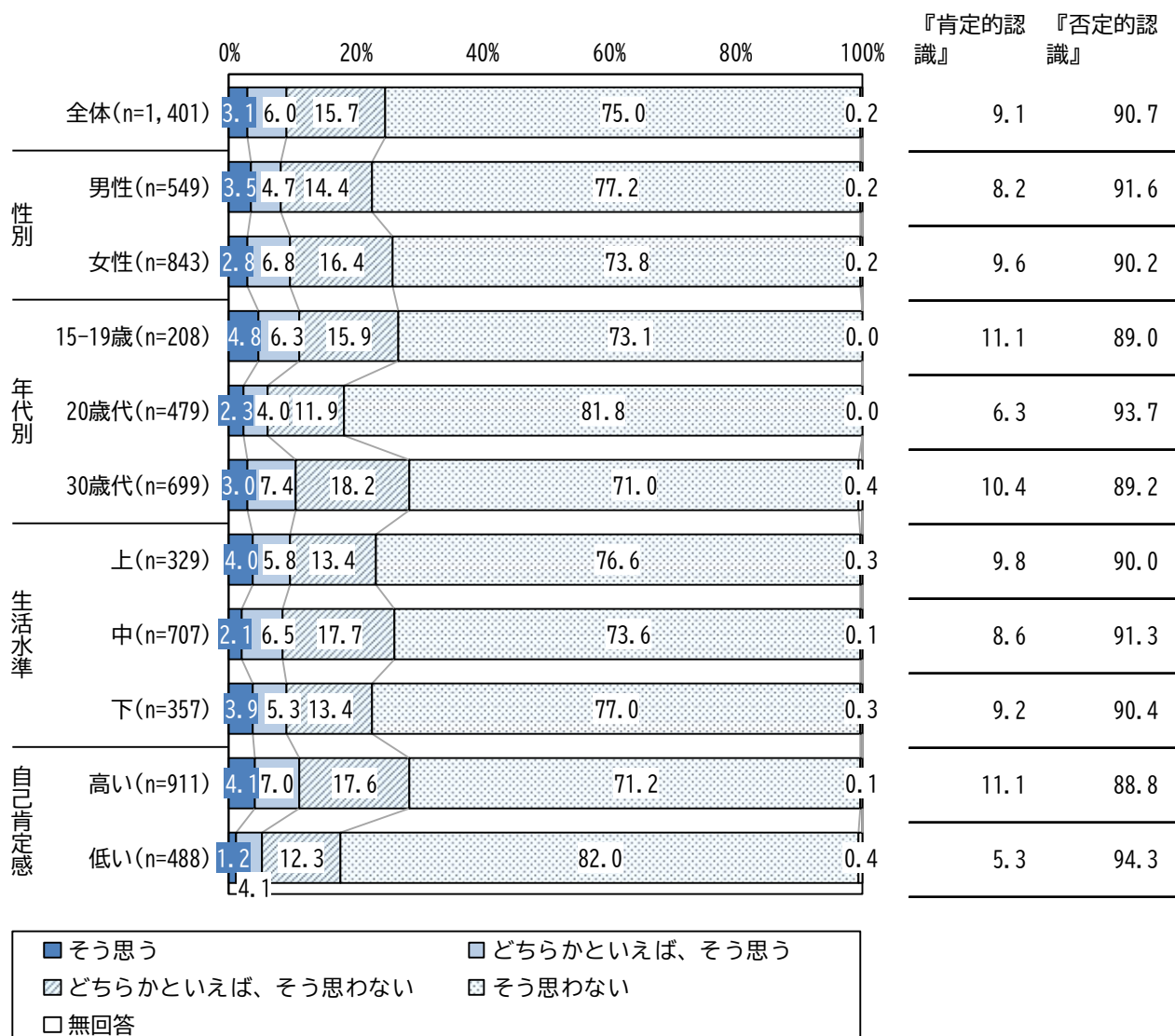
《地域の人》オ. 他の人には言えない本音を話せることがある

地域の人に、他の人には言えない本音を話せることがあるかについては、「そう思わない」が75.0%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思わない」が15.7%、「どちらかといえば、そう思う」が6.0%、「そう思う」が3.1%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は9.1%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は90.7%となっています。

【属性別】

いずれの属性においても『否定的認識』の割合が高く、『肯定的認識』の割合は10%前後となっています。



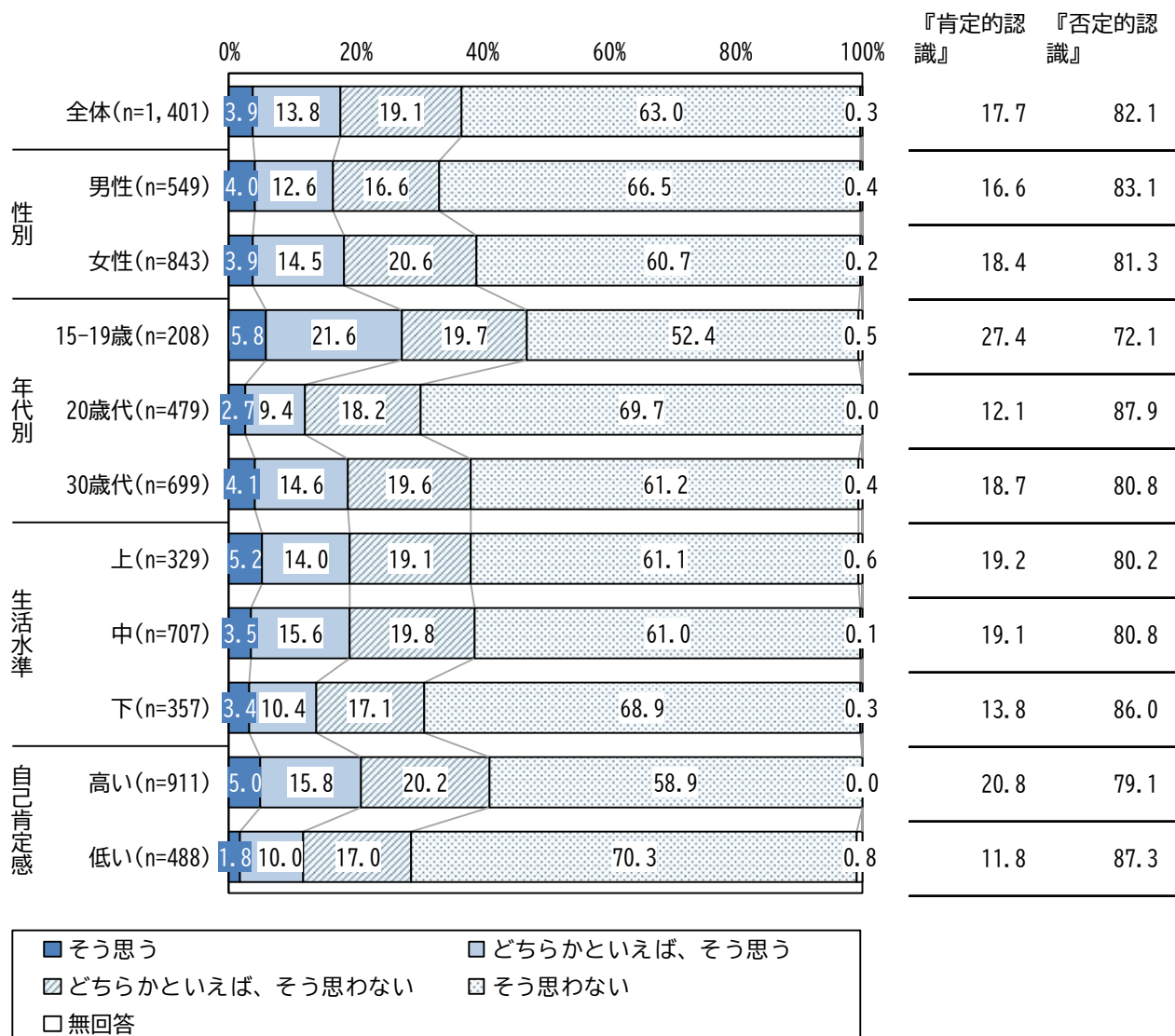
《地域の人》カ、いつもつながりを感じている

地域の人に、いつもつながりを感じているかについては、「そう思わない」が 63.0%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思わない」が 19.1%、「どちらかといえば、そう思う」が 13.8%、「そう思う」が 3.9%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 17.7%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 82.1%となっています。

【属性別】

年代別では、15～19 歳では『肯定的認識』が 27.4%で、他の年代より高くなっています。



問 10 インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（ア～カのそれぞれについて、○は1つ）

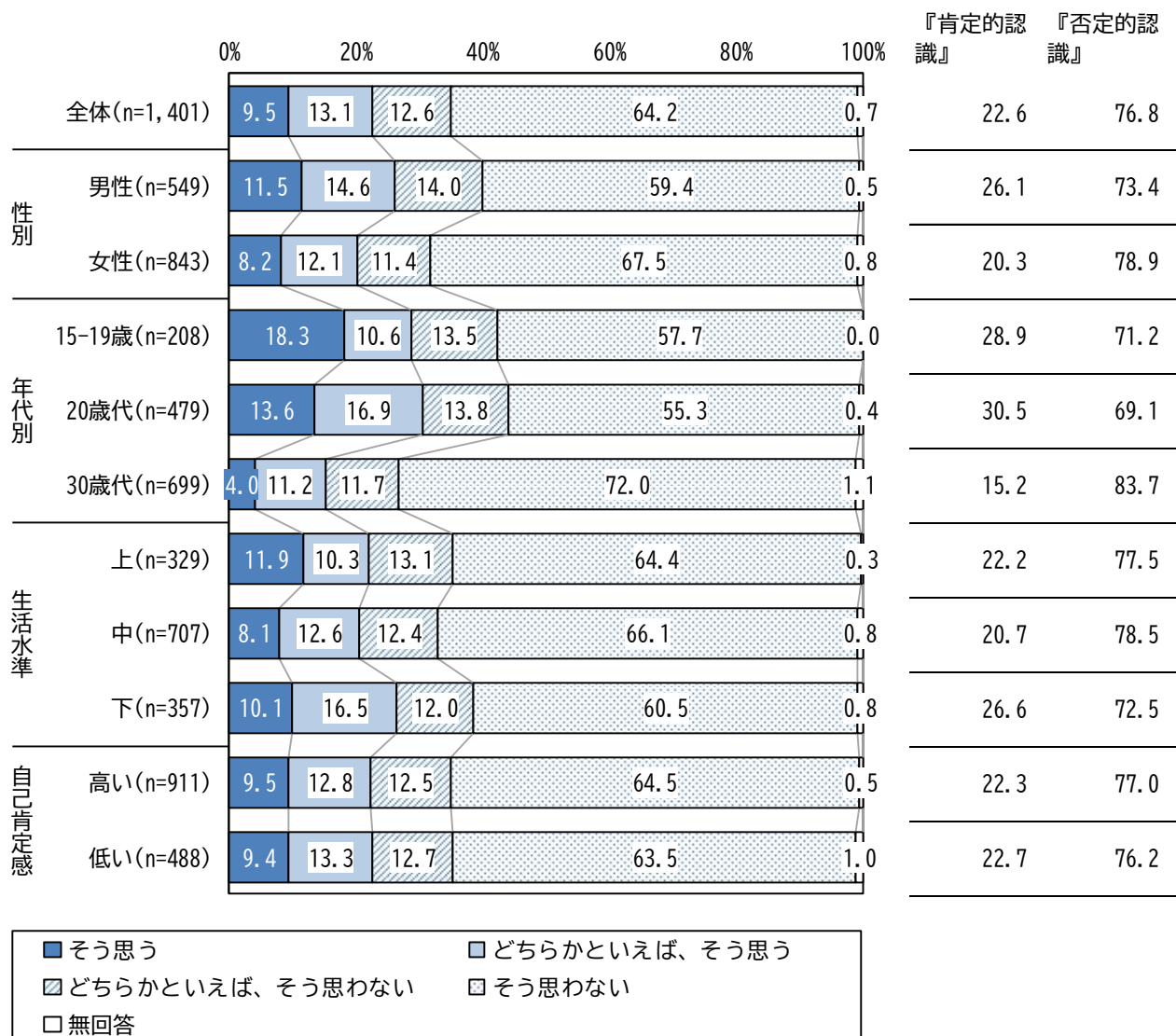
《インターネット上》ア. 会話やメール等をよくしている

インターネット上で、会話やメール等をよくしているかについては、「そう思わない」が64.2%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が13.1%、「どちらかといえば、そう思わない」が12.6%、「そう思う」が9.5%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は22.6%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は76.8%となっています。

【属性別】

年代別では、30歳代では『否定的認識』の割合が83.7%で、他の年代より高くなっています。



インターネット上に、何でも悩みを相談できる人がいるかについては、「そう思わない」が71.4%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思わない」が13.4%、「どちらかといえば、そう思う」が9.3%、「そう思う」が5.2%となっています。

【属性別】

		0% 20% 40% 60% 80% 100%					『肯定的認識』	『否定的認識』
性別	全体(n=1,401)	5.2	9.3	13.4	71.4	0.6	14.5	84.8
	男性(n=549)	5.3	10.2	15.1	69.0	0.4	15.5	84.1
	女性(n=843)	5.2	8.4	12.2	73.3	0.8	13.6	85.5
年代別	15-19歳(n=208)	9.1	11.5	13.5	65.9	0.0	20.6	79.4
	20歳代(n=479)	6.7	12.1	15.7	65.1	0.4	18.8	80.8
	30歳代(n=699)	3.1	6.7	11.9	77.3	1.0	9.8	89.2
生活水準	上(n=329)	5.5	7.6	12.8	73.9	0.3	13.1	86.7
	中(n=707)	4.5	9.1	12.2	73.4	0.8	13.6	85.6
	下(n=357)	6.2	11.5	16.0	65.8	0.6	17.7	81.8
自己肯定感	高い(n=911)	5.8	8.3	13.6	71.8	0.4	14.1	85.4
	低い(n=488)	4.1	11.1	12.9	70.9	1.0	15.2	83.8



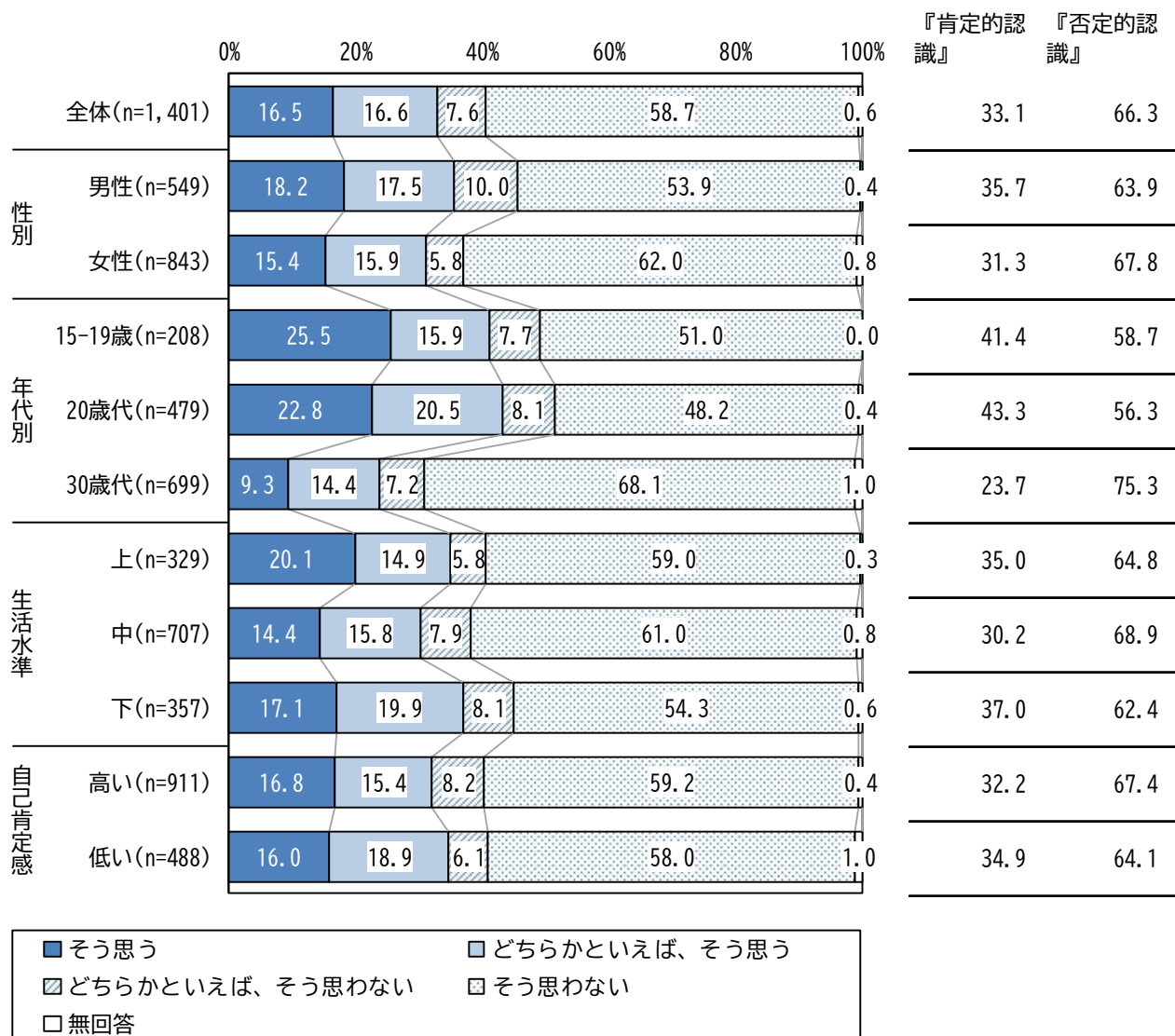
《インターネット上》ウ. 楽しく話せる時がある

インターネット上で、楽しく話せる時があるかについては、「そう思わない」が 58.7%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思う」が 16.6%、「そう思う」が 16.5%、「どちらかといえば、そう思わない」が 7.6%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 33.1%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 66.3%となっています。

【属性別】

年代別では、30 歳代では『否定的認識』が 75.3%で、他の年代より高くなっています。



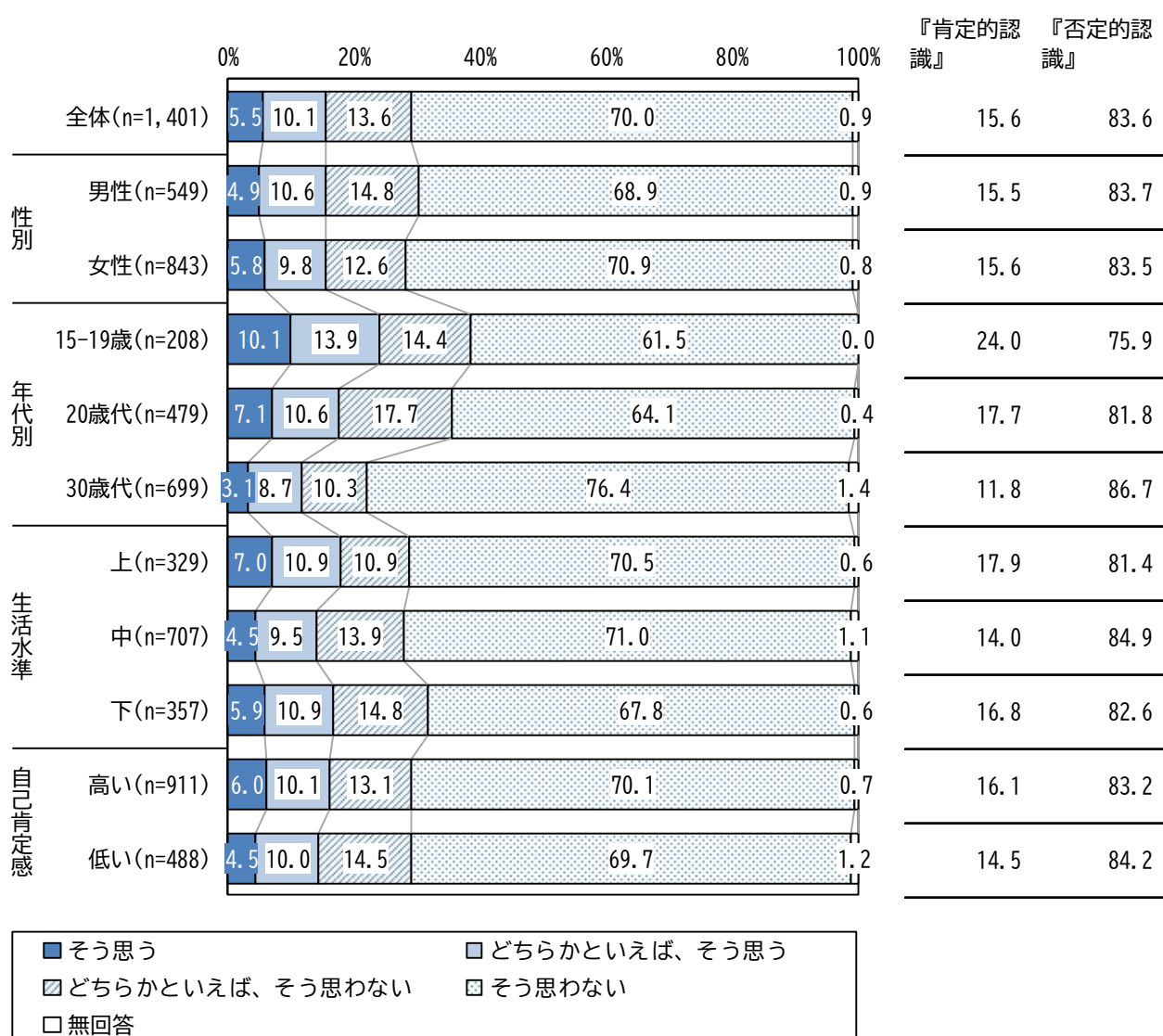
《インターネット上》エ. 困ったときは助けてくれる

インターネット上で、困ったときは助けてくれるかについては、「そう思わない」が 70.0%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思わない」が 13.6%、「どちらかといえば、そう思う」が 10.1%、「そう思う」が 5.5%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 15.6%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 83.6%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『肯定的認識』の割合が低くなり、『否定的認識』の割合が高くなっています。



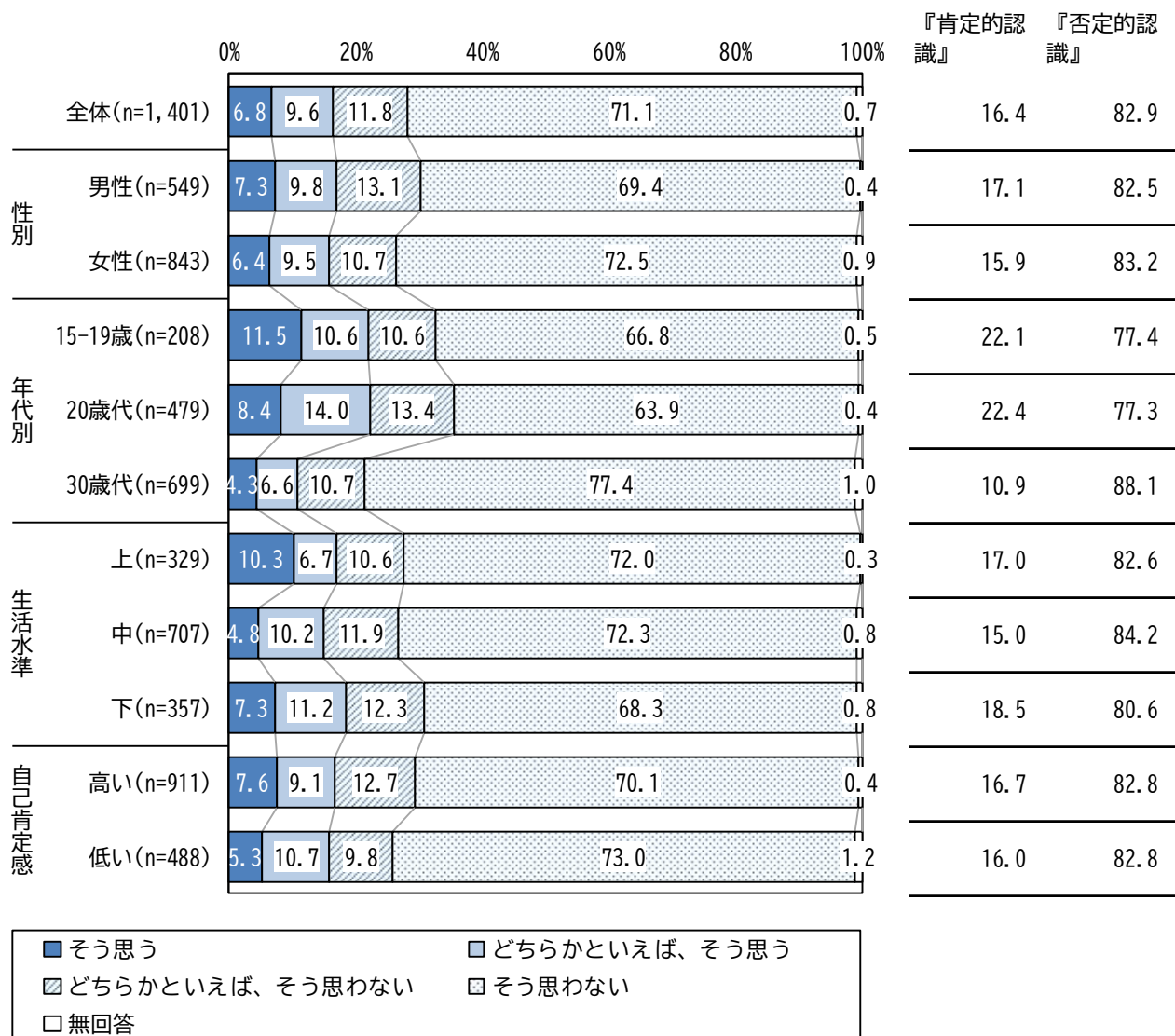
《インターネット上》オ. 他の人には言えない本音を話せることがある

インターネット上で、他の人には言えない本音を話せることがあるかについては、「そう思わない」が71.1%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思わない」が11.8%、「どちらかといえば、そう思う」が9.6%、「そう思う」が6.8%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は16.4%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は82.9%となっています。

【属性別】

年代別では、30歳代では『否定的認識』が88.1%で、他の年代より高くなっています。



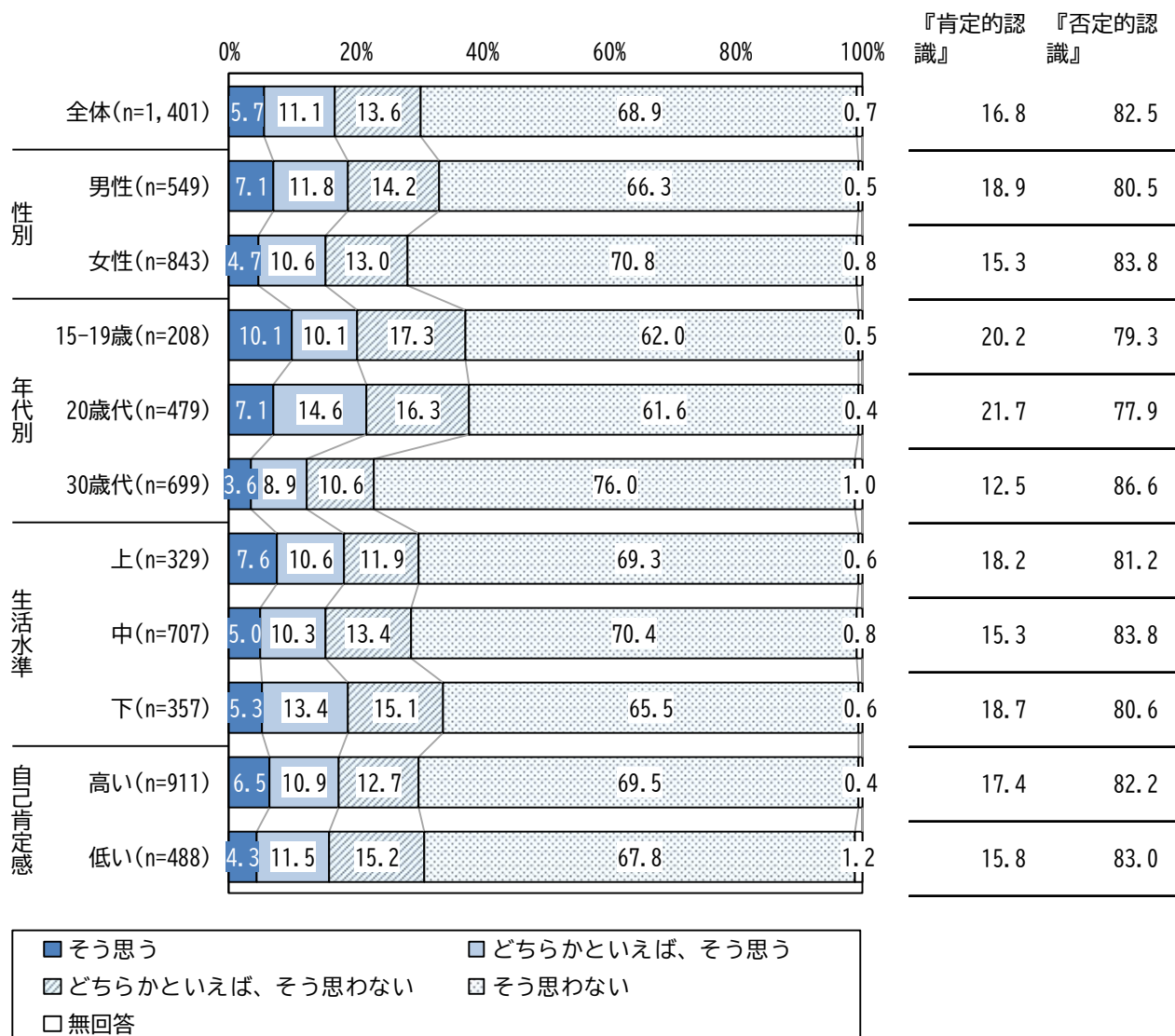
《インターネット上》カ、いつもつながりを感じている

インターネット上で、いつもつながりを感じているかについては、「そう思わない」が68.9%で最も高く、以下「どちらかといえば、そう思わない」が13.6%、「どちらかといえば、そう思う」が11.1%、「そう思う」が5.7%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は16.8%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は82.5%となっています。

【属性別】

年代別では、30歳代では『否定的認識』が86.6%で、他の年代より高くなっています。



問 11 あなたは、他の人と付き合う時、次のようなことがどのくらいあてはまりますか。(ア～キのそれぞれについて、○は1つ)

《他の人と付き合う時》ア. 誰とでもすぐ仲良くなれる

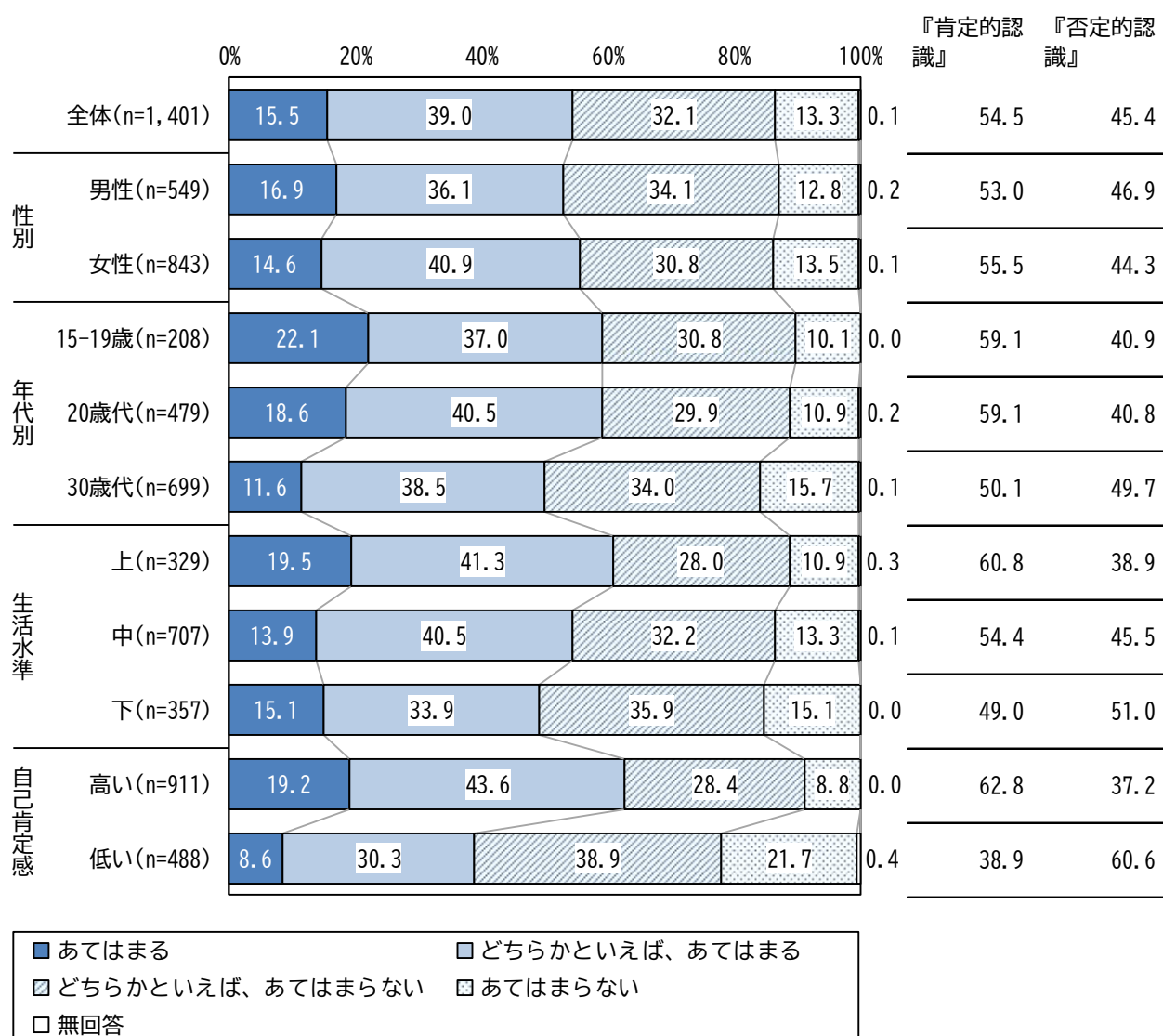
他の人と付き合う時、誰とでもすぐ仲良くなれるかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が39.0%で最も高く、以下「どちらかといえば、あてはまらない」が32.1%、「あてはまる」が15.5%、「あてはまらない」が13.3%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は54.5%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は45.4%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が低くなり、『否定的認識』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『肯定的認識』の割合が62.8%を占めています、自己肯定感が低い人では『否定的認識』の割合が60.6%を占めています。



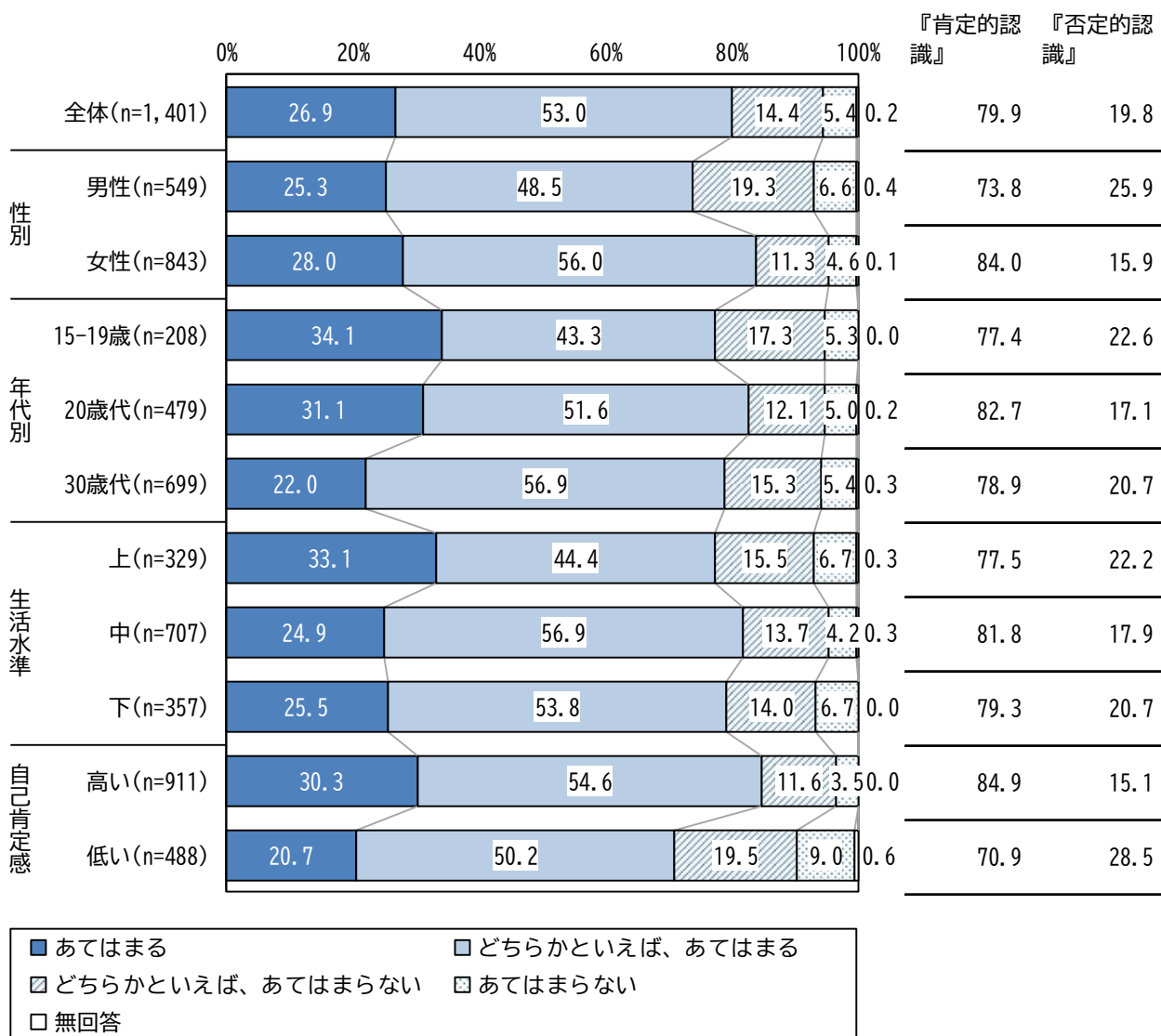
《他の人と付き合う時》イ. 表情やしぐさで相手の思っていることがわかる

他の人と付き合う時、表情やしぐさで相手の思っていることがわかるかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が53.0%で最も高く、以下「あてはまる」が26.9%、「どちらかといえば、あてはまらない」が14.4%、「あてはまらない」が5.4%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は79.9%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は19.8%となっています。

【属性別】

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では『否定的認識』の割合が28.5%で、自己肯定感が高い人より高くなっています。



《他の人と付き合う時》ウ. 親しい人に頼まれてもやりたくないことは断る

他の人と付き合う時、親しい人に頼まれてもやりたくないことは断るかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が 36.6%で最も高く、以下「どちらかといえば、あてはまらない」が 34.8%、「あてはまる」が 19.3%、「あてはまらない」が 8.9%となっています。

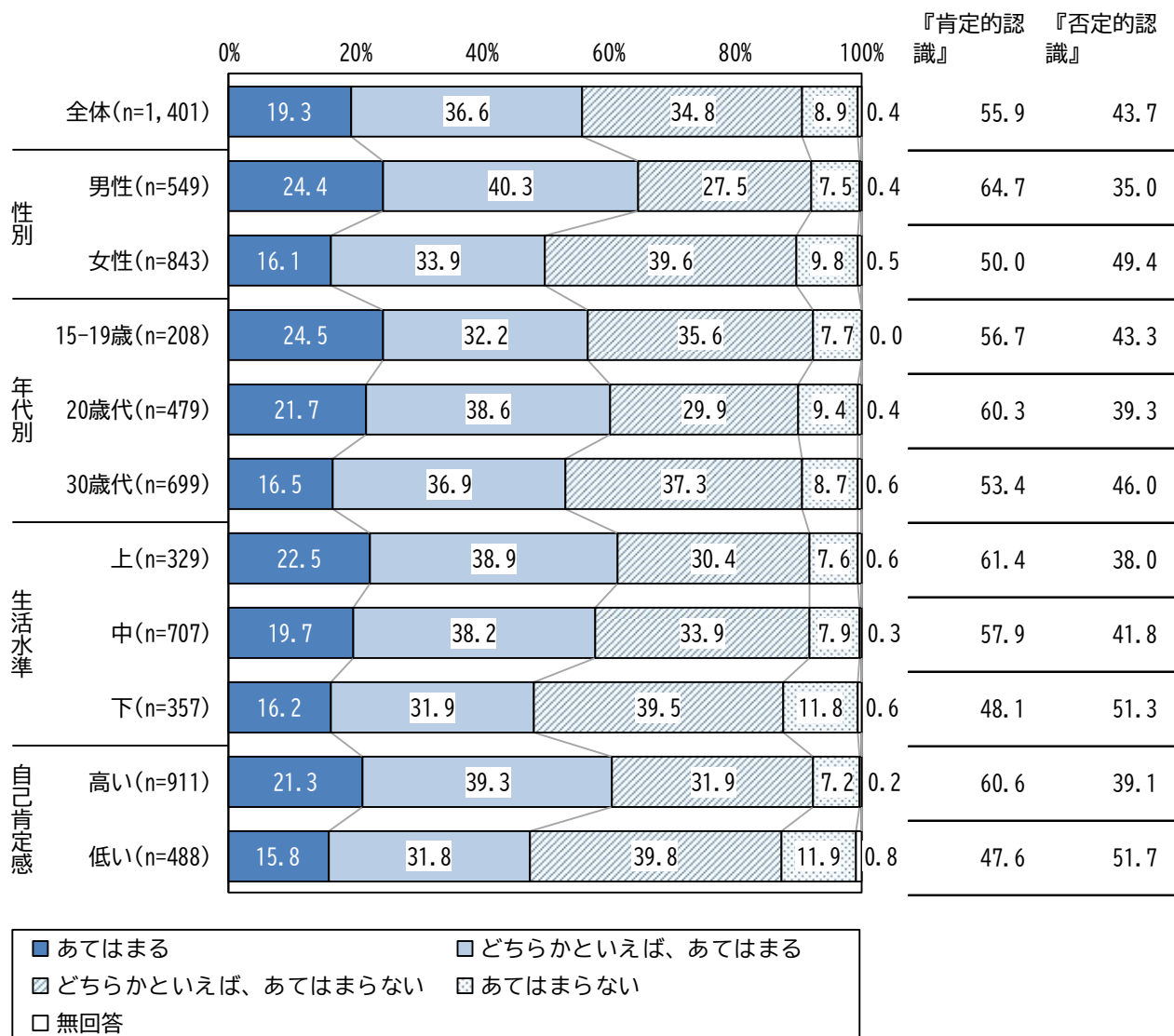
「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 55.9%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 43.7%となっています。

【属性別】

性別では、女性では『否定的認識』の割合が 49.4%で、男性より高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が低くなり、『否定的認識』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が高い人では『肯定的認識』が 60.6%を占めていますが、自己肯定感が低い人では『否定的認識』が 51.7%を占めています。



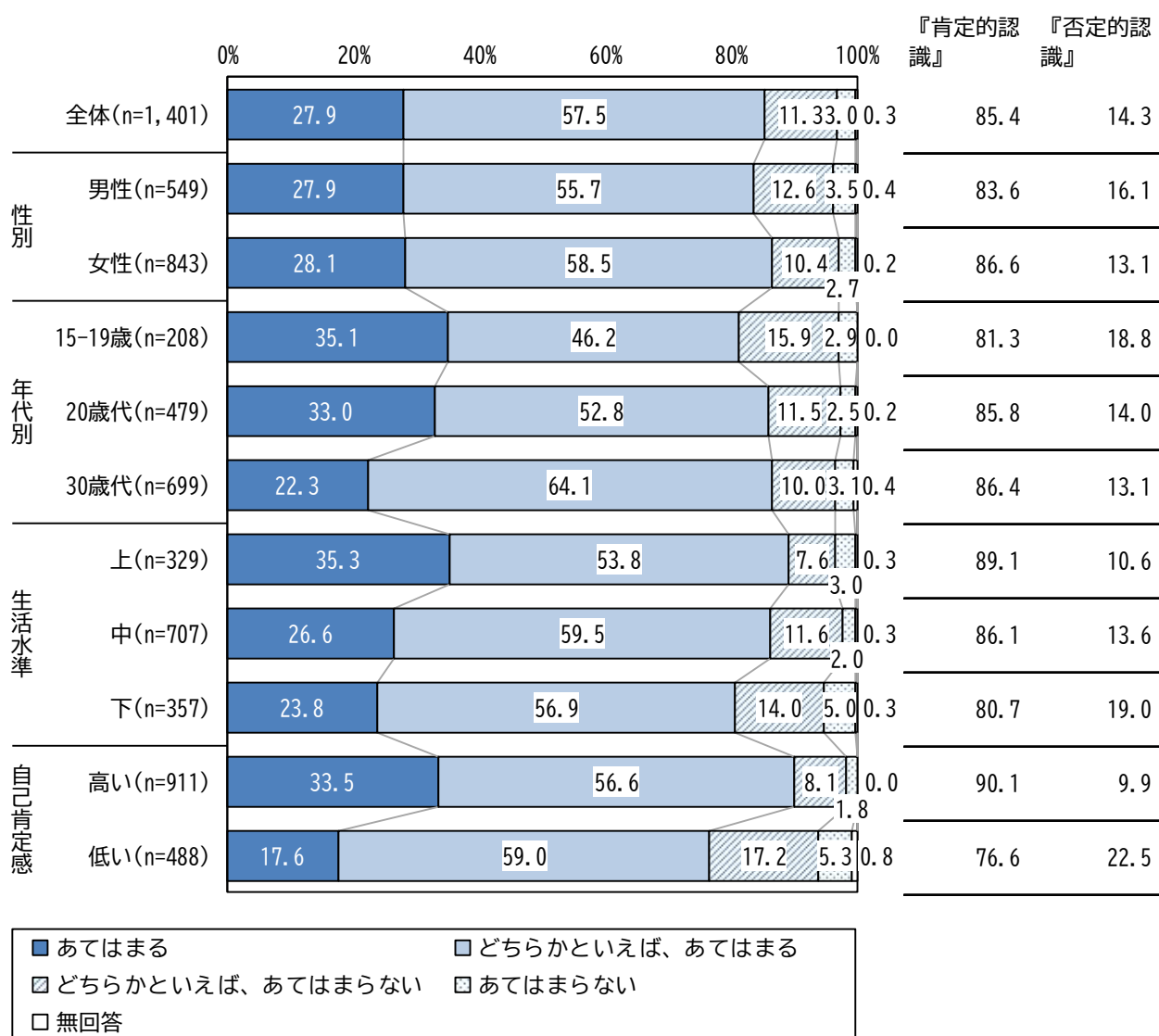
《他の人と付き合う時》エ. その場に合った行動がとれる

他の人と付き合う時、その場に合った行動がとれるかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が57.5%で最も高く、以下「あてはまる」が27.9%、「どちらかといえば、あてはまらない」が11.3%、「あてはまらない」が3.0%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は85.4%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は14.3%となっています。

【属性別】

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では『否定的認識』の割合が22.5%で、自己肯定感が高い人より高くなっています。



《他の人と付き合う時》オ. 表情が豊かである

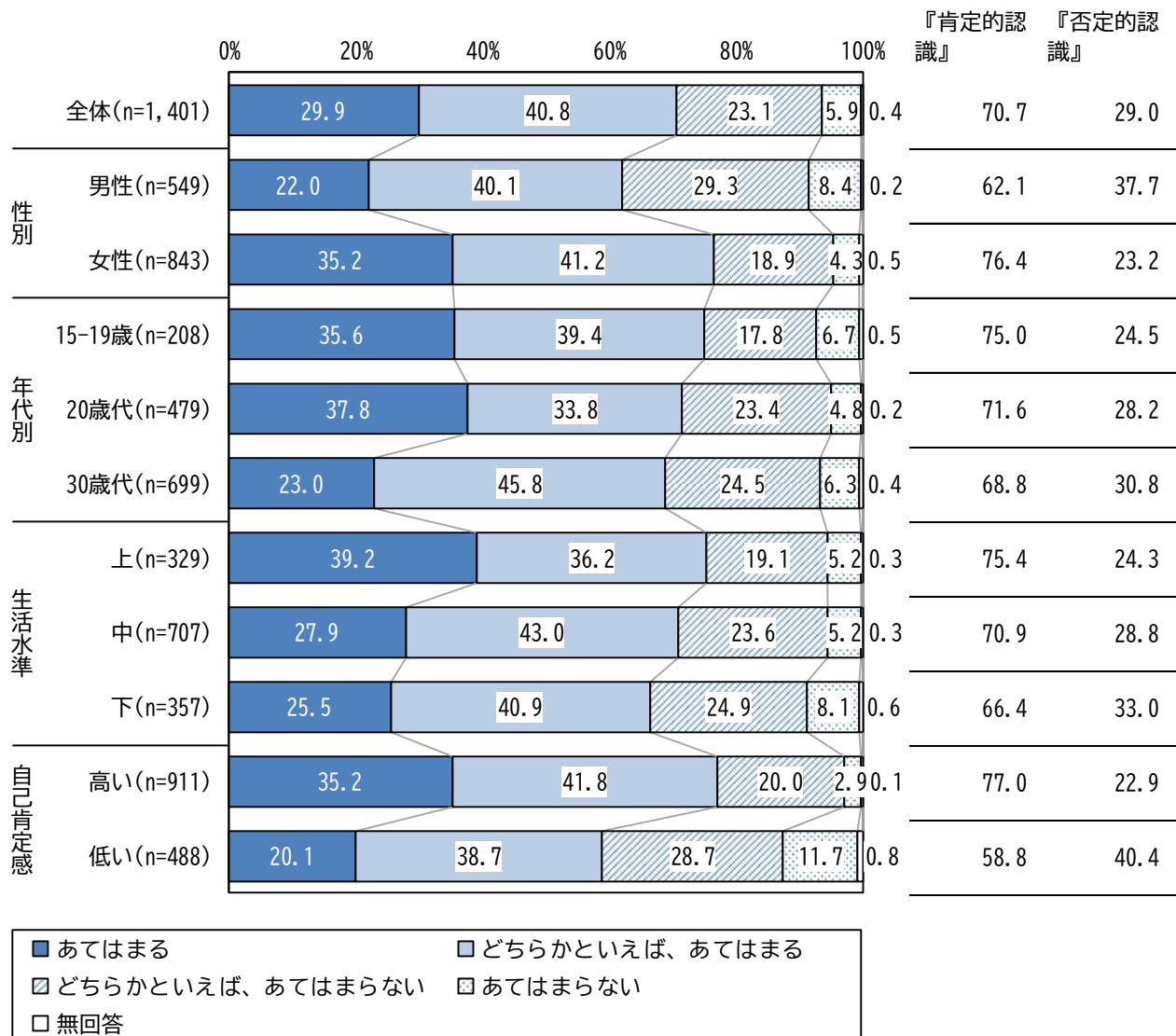
他の人と付き合う時、表情が豊かであるかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が40.8%で最も高く、以下「あてはまる」が29.9%、「どちらかといえば、あてはまらない」が23.1%、「あてはまらない」が5.9%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は70.7%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は29.0%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が低くなり、『否定的認識』の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では『否定的認識』の割合が40.4%で、自己肯定感が高い人より高くなっています。



《他の人と付き合う時》カ. 気持ちを抑えようとしても、顔に出てしまう

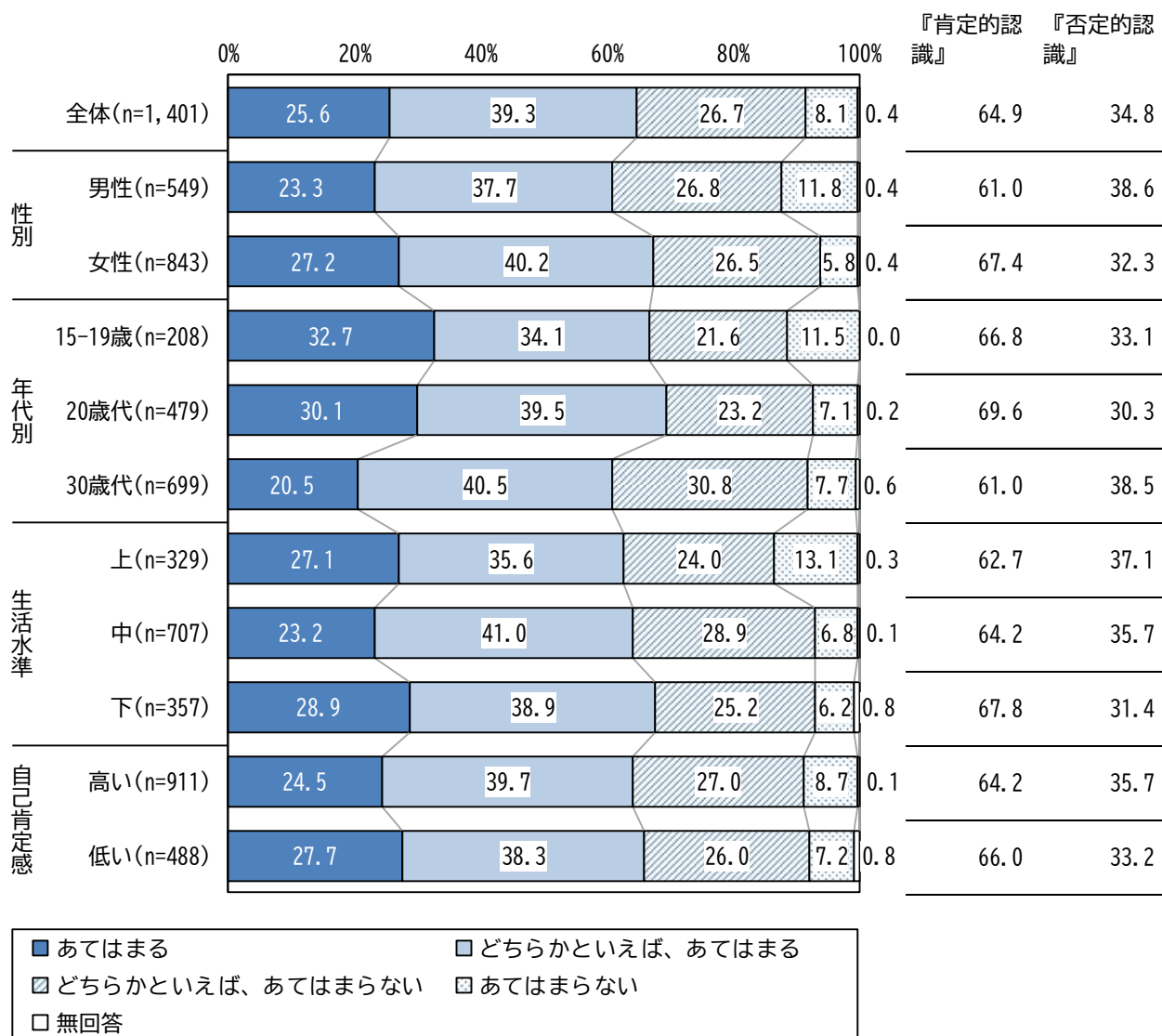
他の人と付き合う時、気持ちを抑えようとしても、顔に出てしまうかについては、「どちらかといえば、あてはまる」が 39.3%で最も高く、以下「どちらかといえば、あてはまらない」が 26.7%、「あてはまる」が 25.6%、「あてはまらない」が 8.1%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は 64.9%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は 34.8%となっています。

【属性別】

いずれの属性においても『肯定的認識』の割合が 60%台を占めています。

生活水準では、上から下にかけて『肯定的認識』の割合が高くなっています。



《他の人と付き合う時》キ. 人にぶつかっても、あやまらないことがある

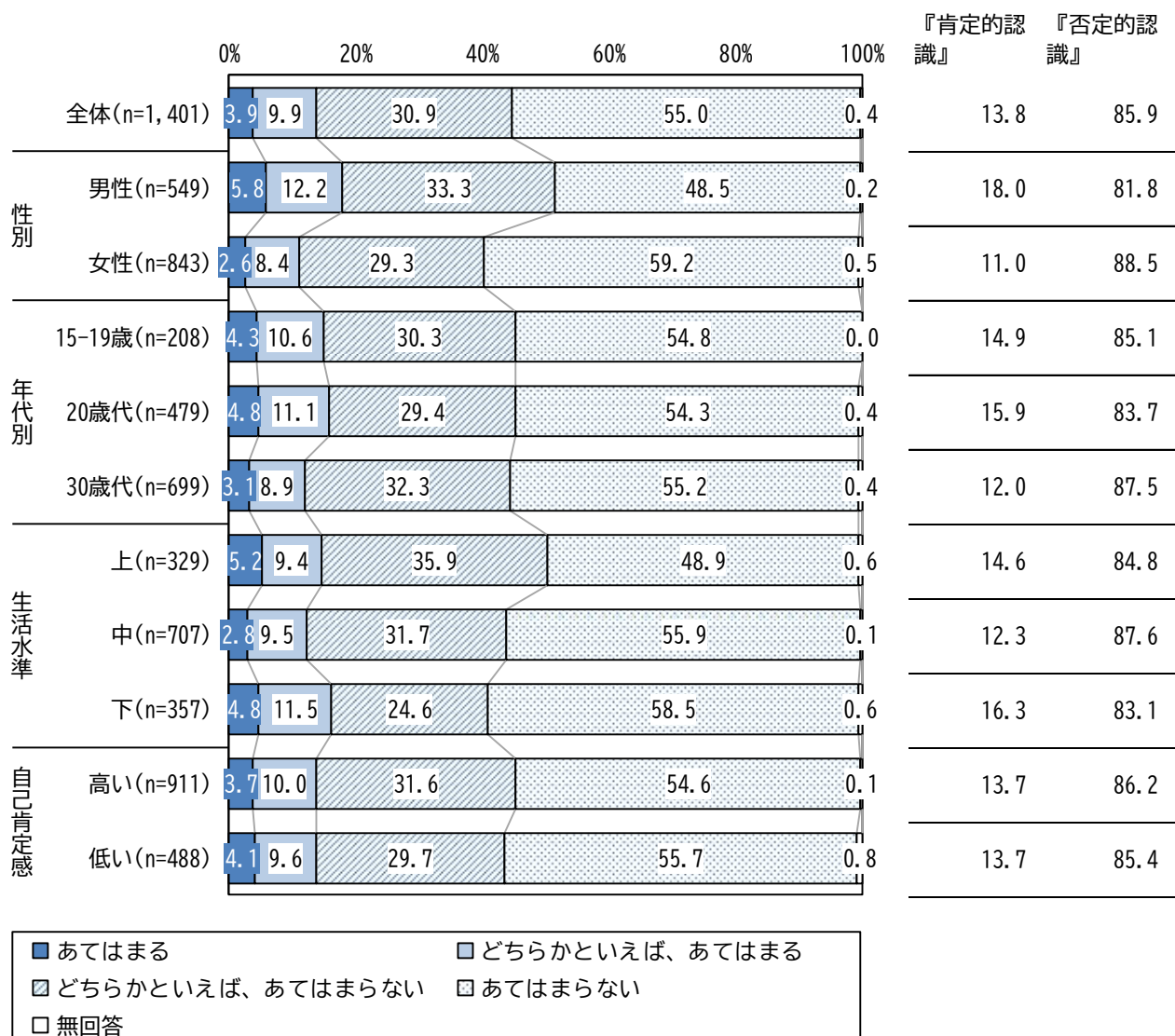
他の人と付き合う時、人にぶつかっても、あやまらないことがあるかについては、「あてはまらない」が55.0%で最も高く、以下「どちらかといえば、あてはまらない」が30.9%、「どちらかといえば、あてはまる」が9.9%、「あてはまる」が3.9%となっています。

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『肯定的認識』は13.8%、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」を合わせた『否定的認識』は85.9%となっています。

【属性別】

いずれの属性においても『否定的認識』の割合が80%台を占めています。

性別では、男性では『肯定的認識』の割合が女性よりやや高くなっています。



3. あなたの日頃の生活や社会とのかかわりについてお聞きます

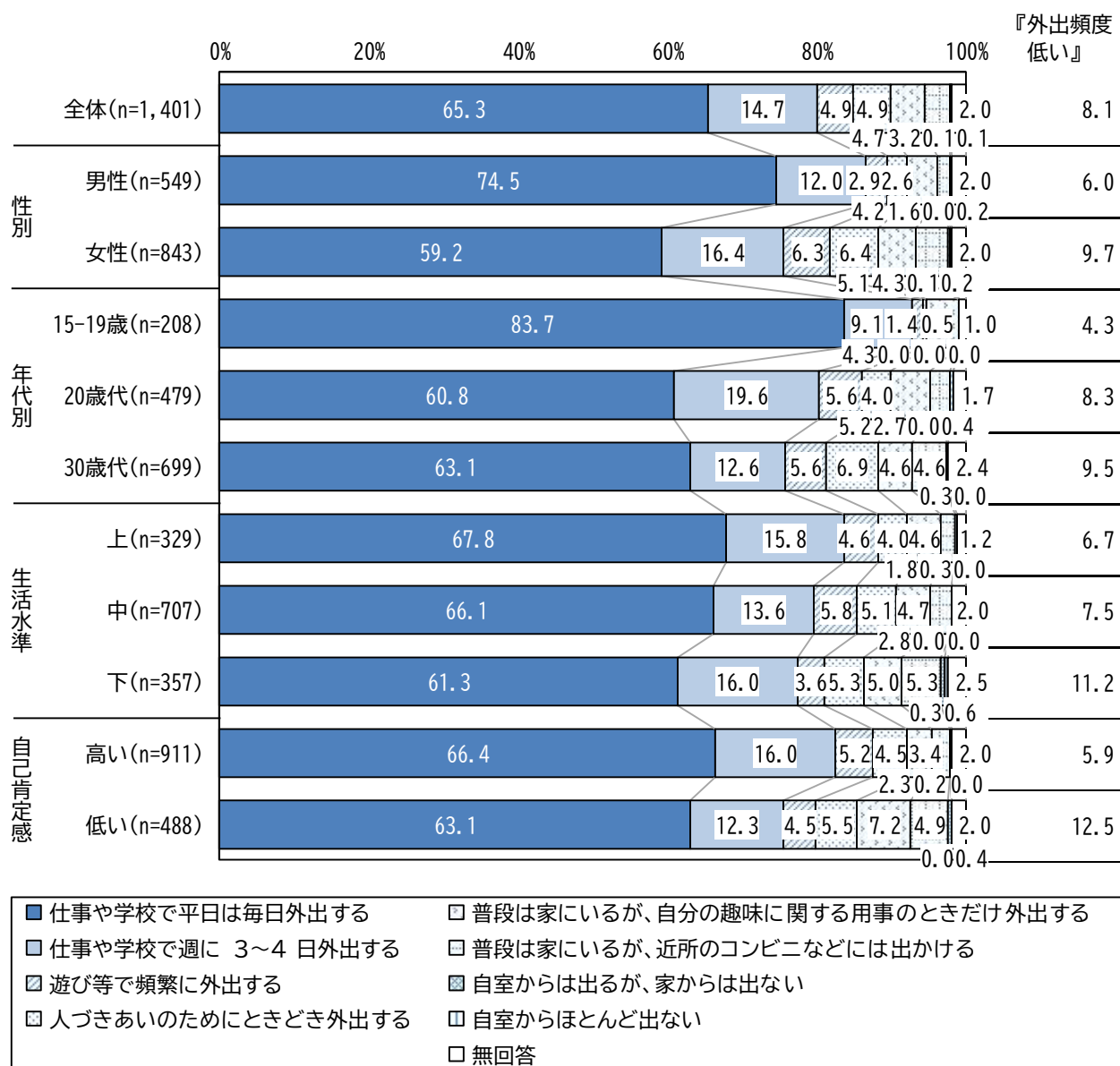
問 12 あなたは普段どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。(○は1つだけ)

普段の外出の頻度については、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が 65.3%で最も高く、以下「仕事や学校で週に3～4日外出する」が 14.7%、「遊び等で頻繁に外出する」と「人づきあいのためにときどき外出する」が 4.9%、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」が 4.7%、「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が 3.2%などとなっています。

「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」から「自室からほとんど出ない」を合わせた『外出頻度低い』との回答は 8.1%となっています。

【属性別】

生活水準では、上から下にかけて『外出頻度低い』の割合が高くなっています。



【問 12-1～3は、問 12 で「5」～「8」を選んだ方のみ、お答えください。】

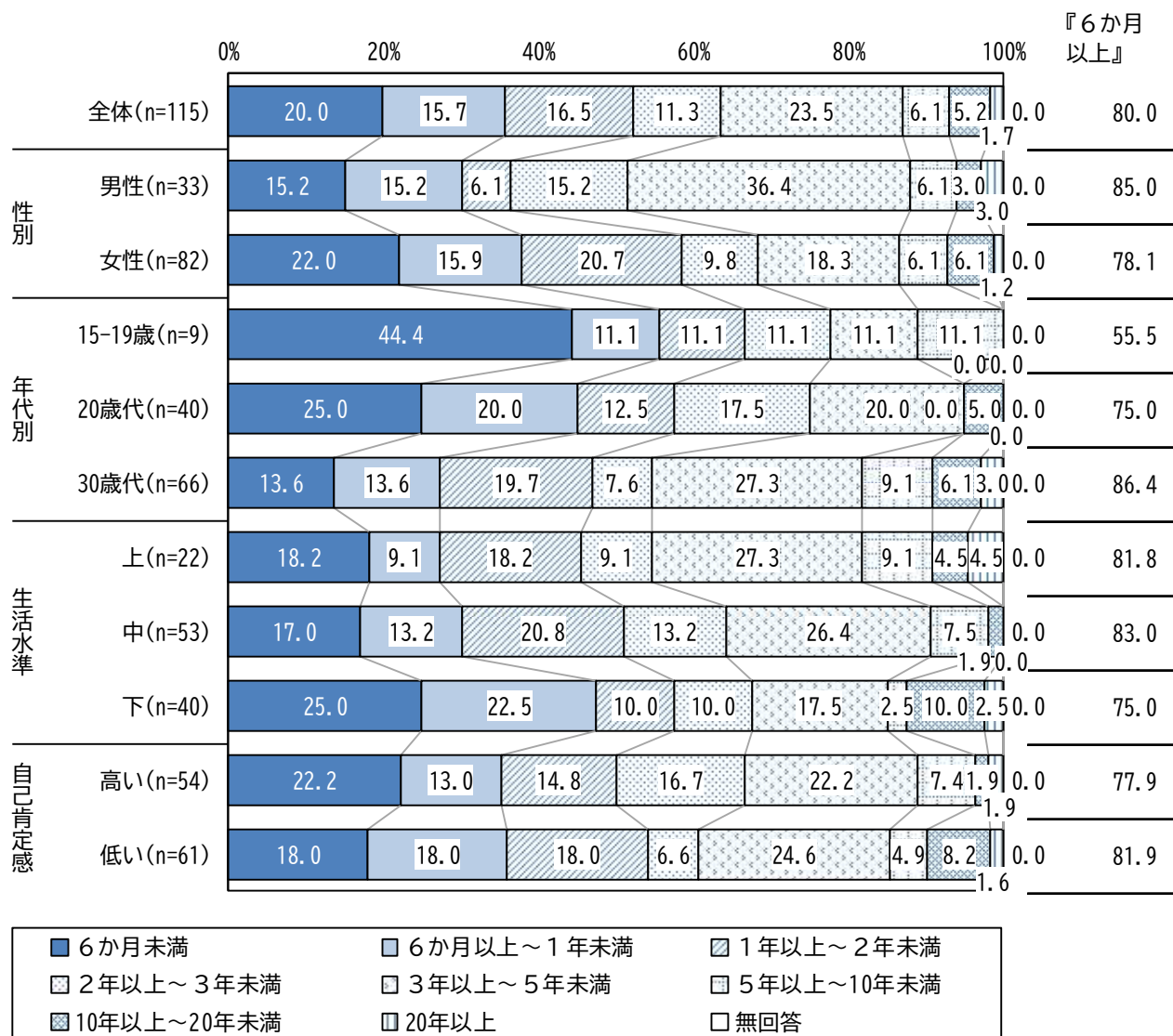
問 12-1 あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。(○は1つだけ)

外出頻度が低い人における、現在の外出状況になってどのくらい経つかについては、「3年以上～5年未満」が23.5%で最も高く、以下「6か月未満」が20.0%、「1年以上～2年未満」が16.5%、「6か月以上～1年未満」が15.7%、「2年以上～3年未満」が11.3%、「5年以上～10年未満」が6.1%となっています。

『6か月以上』の割合が80.0%を占めています。

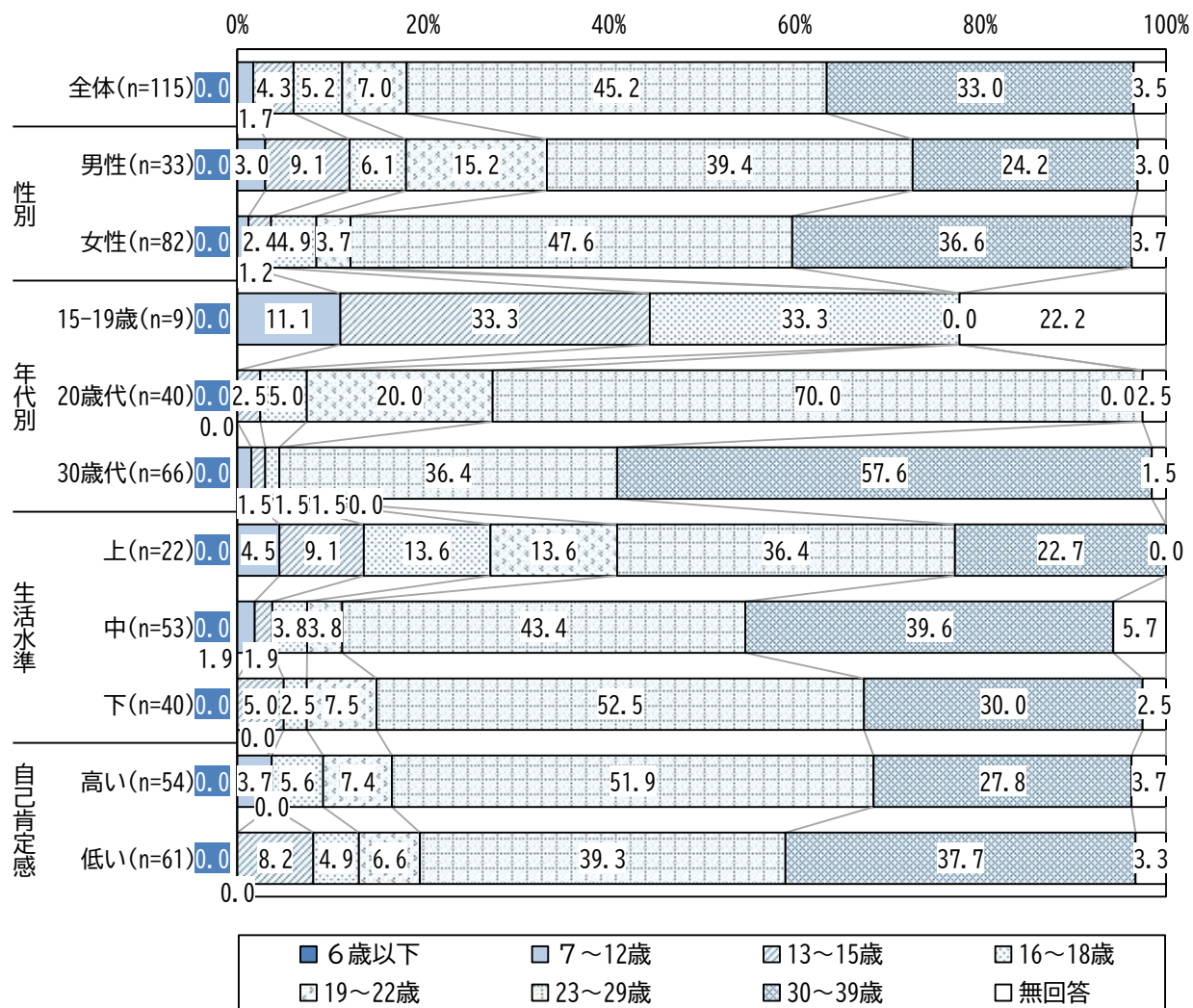
【属性別】

いずれの属性においても『6か月以上』の割合が多くなっています。



問 12-2 あなたの外出状況が現在の状態になったのは、何歳の頃ですか。(数字で回答)

外出頻度が低い人における、現在の外出状況になった年齢については、「23～29 歳」が 45.2%で最も高く、以下「30～39 歳」が 33.0%、「19～22 歳」が 7.0%、「16～18 歳」が 5.2%、「13～15 歳」が 4.3%、「7～12 歳」が 1.7%となっています。



問 12-3 あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

外出頻度が低い人における、現在の外出状況になった主な理由については、「妊娠・出産をしたこと」が 38.3%で最も高く、以下「新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言等」が 20.9%、「人間関係がうまくいかなかったこと」と「退職したこと」が 13.9%、「病気になったこと」が 9.6%、「不登校になったこと」と「就職活動がうまくいかなかったこと」、「職場になじめなかったこと」が 5.2%などとなっています。

【属性別】

性別では、女性では「妊娠・出産をしたこと」が 53.7%で最も多く、男性では「新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言等」が 42.4%で最も多くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では「人間関係がうまくいかなかったこと」や「病気になったこと」、「不登校になったこと」などの割合が比較的高くなっています。

単位：％

上位項目		妊娠・出産をしたこと	新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言等	人間関係がうまくいかなかったこと	退職したこと	病気になったこと	不登校になったこと	就職活動がうまくいかなかったこと
全体(n=115)		38.3	20.9	13.9	13.9	9.6	5.2	5.2
性別	男性(n=33)	0.0	42.4	15.2	6.1	3.0	9.1	3.0
	女性(n=82)	53.7	12.2	13.4	17.1	12.2	3.7	6.1
年代別	15-19歳(n=9)	0.0	11.1	33.3	0.0	11.1	33.3	0.0
	20歳代(n=40)	32.5	15.0	15.0	15.0	10.0	2.5	7.5
	30歳代(n=66)	47.0	25.8	10.6	15.2	9.1	3.0	4.5
生活水準	上(n=22)	31.8	27.3	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0
	中(n=53)	45.3	20.8	15.1	15.1	13.2	1.9	7.5
	下(n=40)	32.5	17.5	15.0	15.0	10.0	7.5	5.0
自己肯定感	高い(n=54)	40.7	24.1	3.7	11.1	3.7	0.0	5.6
	低い(n=61)	36.1	18.0	23.0	16.4	14.8	9.8	4.9

下位項目 その他等		職場になじめなかったこと	介護・看護を担うことになったこと	受験がうまくいかなかったこと	その他	特にない	無回答
全体(n=115)		5.2	1.7	0.9	22.6	7.0	0.9
性別	男性(n=33)	0.0	0.0	3.0	39.4	12.1	0.0
	女性(n=82)	7.3	2.4	0.0	15.9	4.9	1.2
年代別	15-19歳(n=9)	0.0	0.0	0.0	22.2	33.3	0.0
	20歳代(n=40)	10.0	0.0	0.0	20.0	12.5	0.0
	30歳代(n=66)	3.0	3.0	1.5	24.2	0.0	1.5
生活水準	上(n=22)	0.0	4.5	0.0	40.9	9.1	0.0
	中(n=53)	7.5	0.0	1.9	9.4	7.5	0.0
	下(n=40)	5.0	2.5	0.0	30.0	5.0	2.5
自己肯定感	高い(n=54)	1.9	1.9	0.0	24.1	9.3	1.9
	低い(n=61)	8.2	1.6	1.6	21.3	4.9	0.0

【全員にお聞きします。】

問 13 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がありましたか。または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況がありますか。最もあてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

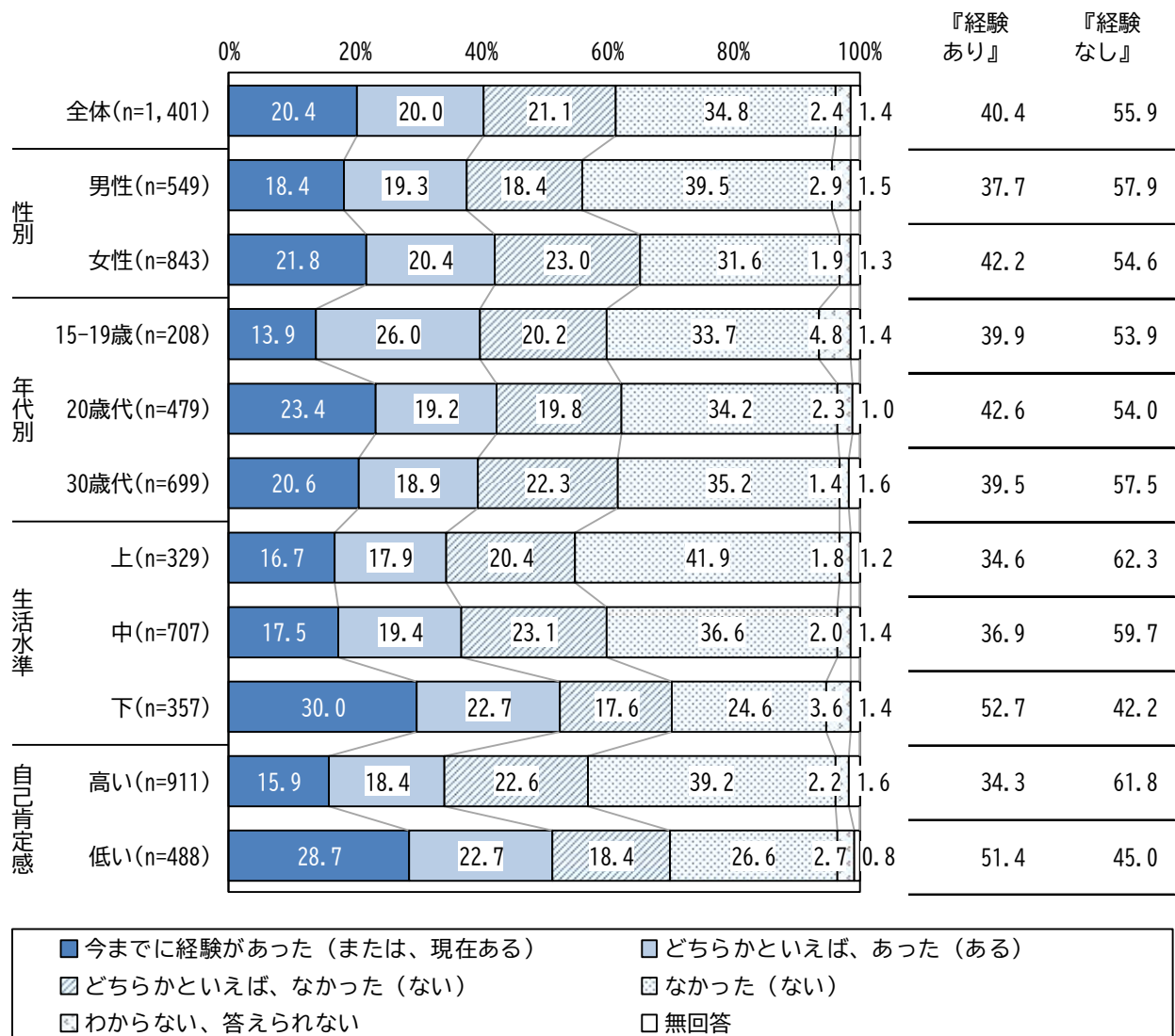
社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験については、「なかった（ない）」が 34.8%で最も高く、以下「どちらかといえば、なかった（ない）」が 21.1%、「今までに経験があった（または、現在ある）」が 20.4%、「どちらかといえば、あった（ある）」が 20.0%、「わからない、答えられない」が 2.4%となっています。

「今までに経験があった（または、現在ある）」と「どちらかといえば、あった（ある）」を合わせた『経験あり』の割合は 40.4%となっています。

【属性別】

生活水準では、下の区分では『経験あり』の割合が 52.7%を占めています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では『経験あり』の割合が 51.4%を占めています。



【問 13-1～4 は、問 13 で「1」または「2」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 13-1 そうした問題を経験した、又は現在経験している主な原因は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

①自分自身について

社会生活や日常生活を円滑に送れていない経験がある人における、自分自身における主な原因については、「人づきあいが苦手」が 43.3%で最も高く、以下「何事も否定的に考えてしまう」が 31.6%、「精神的な病気」が 30.6%、「悩みや不安などが相談できない」が 28.8%、「勉強が苦手」が 14.7%、「身体的な病気・ケガ」が 8.5%などとなっています。

【属性別】

年代別では、15～19 歳では 51.8%が「人づきあいが苦手」と回答しています。また、年代が低いほど「勉強が苦手」の割合が高くなっています。

生活水準では、中及び下の区分では「人づきあいが苦手」と「何事も否定的に考えてしまう」の割合が上の区分より高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人は、自己肯定感が高い人より全体的に割合が高く、複数の原因を有していることがわかります。

単位：％

上位項目		人づきあいが 苦手	何事も否定的 に考えてしま う	精神的な病気	悩みや不安な どが相談でき ない	勉強が苦手	身体的な病 気・ケガ
全体(n=566)		43.3	31.6	30.6	28.8	14.7	8.5
性別	男性(n=207)	45.9	28.5	27.5	26.6	17.4	11.1
	女性(n=356)	41.6	33.1	32.6	29.8	13.2	7.0
年代別	15-19歳(n=83)	51.8	33.7	26.5	32.5	27.7	8.4
	20歳代(n=204)	40.7	32.4	30.4	31.4	15.2	7.8
	30歳代(n=276)	43.1	30.4	31.5	25.7	10.5	9.1
生活水準	上(n=114)	33.3	22.8	30.7	29.8	8.8	7.9
	中(n=261)	46.0	34.1	27.2	25.7	14.6	7.7
	下(n=188)	46.3	33.5	35.6	33.0	18.1	10.1
自己肯定感	高い(n=313)	34.8	24.0	25.2	23.3	9.6	6.4
	低い(n=251)	53.8	41.4	37.5	35.9	21.1	10.8

下位項目 その他等		妊娠	特にな い	その他	わから ない	無回答
全体(n=566)		8.0	7.1	9.9	2.3	2.5
性別	男性(n=207)	0.0	7.2	6.3	3.4	2.4
	女性(n=356)	12.6	7.0	12.1	1.7	2.5
年代別	15-19歳(n=83)	0.0	6.0	9.6	2.4	1.2
	20歳代(n=204)	3.9	5.9	11.3	2.5	2.5
	30歳代(n=276)	13.0	8.3	9.1	2.2	2.9
生活水準	上(n=114)	6.1	7.9	7.9	4.4	2.6
	中(n=261)	9.6	7.7	10.7	1.5	2.7
	下(n=188)	6.9	5.9	9.6	1.6	2.1
自己肯定感	高い(n=313)	7.3	9.9	12.5	1.9	3.2
	低い(n=251)	8.8	3.6	6.8	2.8	1.2

②家族・家庭について

社会生活や日常生活を円滑に送れていない経験がある人における、家族・家庭における主な原因については、「特にない」が49.1%で最も高く、以下「家族内の不和や離別（離婚）」が13.1%、「親（保護者）の過干渉」が11.3%、「家庭内での孤立（家族間のコミュニケーションが希薄）」が11.0%、「親（保護者）の過度な期待」が9.4%、「親（保護者）への反発」と「家庭が貧しい」が8.7%などとなっています。

【属性別】

いずれの属性においても、家族・家庭における主な原因は「特にない」の割合が最も高くなっています。

生活水準では、下の区分では「家庭が貧しい」の割合が19.7%で、他の区分より高くなっています。

単位：％

上位項目		家族内の不和や離別（離婚）	親（保護者）の過干渉	家庭内での孤立（家族間のコミュニケーションが希薄）	親（保護者）の過度な期待	親（保護者）への反発	家庭が貧しい	親（保護者）の厳しいしつけ
全体(n=566)		13.1	11.3	11.0	9.4	8.7	8.7	6.4
性別	男性(n=207)	6.8	8.2	13.5	5.3	11.1	6.8	3.9
	女性(n=356)	16.9	13.2	9.3	11.5	7.3	9.8	7.9
年代別	15-19歳(n=83)	13.3	9.6	15.7	15.7	12.0	0.0	3.6
	20歳代(n=204)	11.3	12.3	8.3	9.3	5.9	9.3	7.4
	30歳代(n=276)	14.1	11.2	11.6	7.6	9.8	10.9	6.5
生活水準	上(n=114)	9.6	8.8	7.9	9.6	10.5	1.8	6.1
	中(n=261)	12.6	11.5	9.2	9.6	6.1	3.8	5.0
	下(n=188)	16.0	12.8	15.4	9.0	11.2	19.7	8.5
自己肯定感	高い(n=313)	10.9	11.5	9.6	9.3	8.0	8.0	6.4
	低い(n=251)	15.9	11.2	12.7	9.6	9.6	9.6	6.4

下位項目 その他等		親（保護者）の放任	親（保護者）の虐待	看護・介護・家族のお世話（自分が担い手）	特にない	その他	わからない	無回答
全体(n=566)		4.8	3.4	3.4	49.1	4.1	5.3	5.3
性別	男性(n=207)	3.9	1.4	2.9	56.0	1.0	4.8	5.8
	女性(n=356)	5.1	4.5	3.7	44.9	5.9	5.6	5.1
年代別	15-19歳(n=83)	4.8	4.8	0.0	54.2	3.6	6.0	3.6
	20歳代(n=204)	3.4	3.4	3.9	47.5	4.9	5.9	6.9
	30歳代(n=276)	5.8	2.9	4.0	48.6	3.6	4.7	4.7
生活水準	上(n=114)	3.5	4.4	3.5	56.1	3.5	2.6	7.0
	中(n=261)	3.8	3.1	1.9	53.6	3.4	5.4	6.1
	下(n=188)	6.9	3.2	5.3	38.3	5.3	6.4	3.2
自己肯定感	高い(n=313)	3.8	3.2	3.8	52.1	2.2	3.8	6.7
	低い(n=251)	6.0	3.6	2.8	45.4	6.4	6.8	3.6

③学校について

社会生活や日常生活を円滑に送れていない経験がある人における、学校における主な原因については、「特にない」が 29.5%で最も高く、以下「いじめを受けた」が 22.6%、「集団行動が苦手」が 20.1%、「友達との関係が悪い」が 19.1%、「成績が悪い、授業についていけない」が 15.0%、「不登校になった」が 12.2%などとなっています。

【属性別】

性別では、「特にない」を除くと、男女ともに「いじめを受けた」の割合が最も高くなっています。

年代別では、15～19 歳では「集団行動が苦手」が 27.7%、「成績が悪い、授業についていけない」が 26.5%で、他の年代より高くなっています。

単位：％

上位項目		いじめを受けた	集団行動が苦手	友達との関係が悪い	成績が悪い、授業についていけない	不登校になった	先生との関係が悪い	校則に合わせるのが嫌	大学、短大、高専、専門学校、高校の中退
全体(n=566)		22.6	20.1	19.1	15.0	12.2	9.4	9.0	5.5
性別	男性(n=207)	17.4	15.0	14.5	13.5	9.2	6.8	7.7	4.8
	女性(n=356)	25.6	23.0	21.9	16.0	14.0	11.0	9.8	5.6
年代別	15-19歳(n=83)	9.6	27.7	18.1	26.5	14.5	7.2	15.7	0.0
	20歳代(n=204)	24.0	17.6	21.1	14.7	13.7	9.8	7.4	6.9
	30歳代(n=276)	25.4	19.9	18.1	12.0	10.5	9.8	8.3	6.2
生活水準	上(n=114)	18.4	19.3	23.7	14.0	7.9	6.1	10.5	2.6
	中(n=261)	23.8	20.3	18.0	14.9	13.8	11.5	6.9	3.4
	下(n=188)	23.9	20.7	18.1	16.0	12.8	8.5	11.2	10.1
自己肯定感	高い(n=313)	22.7	16.3	18.5	10.9	10.2	8.0	7.7	5.4
	低い(n=251)	22.7	25.1	19.9	20.3	14.7	11.2	10.8	5.6

下位項目 その他等		受験の失敗	体罰やハラスメントを受けた	不本意な入学	特にない	その他	わからない	無回答
全体(n=566)		3.5	3.0	2.5	29.5	2.5	2.8	7.8
性別	男性(n=207)	5.3	1.9	3.9	31.9	3.4	2.4	9.2
	女性(n=356)	2.2	3.7	1.7	28.4	2.0	3.1	7.0
年代別	15-19歳(n=83)	1.2	2.4	2.4	25.3	3.6	3.6	2.4
	20歳代(n=204)	3.4	3.4	2.0	28.9	1.5	1.5	7.8
	30歳代(n=276)	4.3	2.5	2.9	31.2	2.9	3.6	9.1
生活水準	上(n=114)	4.4	3.5	4.4	33.3	0.9	3.5	4.4
	中(n=261)	1.5	2.7	1.9	31.0	2.3	1.5	8.0
	下(n=188)	5.9	3.2	2.1	25.0	3.2	3.7	9.6
自己肯定感	高い(n=313)	3.5	2.6	2.9	33.2	2.2	2.6	8.0
	低い(n=251)	3.6	3.6	2.0	24.7	2.8	2.8	7.6

④仕事・職場について

社会生活や日常生活を円滑に送れていない経験がある人における、仕事・職場における主な原因については、「特にない」が26.1%で最も高く、以下「上司や同僚との関係が悪い」が22.6%、「仕事の量や内容が自分の能力を超えている」が19.3%、「ハラスメントを受けた」が17.0%、「働きたくない」が16.6%、「仕事が自分に向いていない」が16.1%などとなっています。

【属性別】

性別では、「特にない」を除くと、男女ともに「上司や同僚との関係が悪い」の割合が最も高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて「仕事の量や内容が自分の能力を超えている」、「働きたくない」、「仕事が自分に向いていない」、「職場になじめない」、「本当に自分がやりたい仕事ではない」などの割合が高くなっています。

自己肯定感では、「特にない」を除くと、自己肯定感が低い人では「働きたくない」の割合が最も高くなっています。

単位：％

上位項目		上司や同僚との関係が悪い	仕事の量や内容が自分の能力を超えている	ハラスメントを受けた	働きたくない	仕事が自分に向いていない	職場になじめない	本当に自分がやりたい仕事ではない	仕事上のミス	職場を退職
全体(n=566)		22.6	19.3	17.0	16.6	16.1	14.1	14.0	13.3	11.1
性別	男性(n=207)	20.3	16.4	13.0	14.5	15.9	13.0	15.9	10.6	8.7
	女性(n=356)	24.2	20.8	19.4	18.0	16.0	14.9	12.6	14.9	12.6
年代別	15-19歳(n=83)	2.4	3.6	2.4	7.2	6.0	4.8	1.2	4.8	2.4
	20歳代(n=204)	28.4	23.0	20.1	19.1	17.2	14.7	19.6	13.7	15.7
	30歳代(n=276)	24.6	21.4	18.8	17.8	18.5	16.7	13.8	15.6	10.5
生活水準	上(n=114)	18.4	13.2	19.3	7.0	10.5	7.0	7.9	5.3	6.1
	中(n=261)	24.5	18.4	14.2	16.1	14.2	11.9	13.4	12.6	11.5
	下(n=188)	22.9	24.5	19.7	23.4	22.3	21.8	18.6	18.6	13.8
自己肯定感	高い(n=313)	26.5	18.5	18.2	12.1	14.7	11.5	13.4	13.4	11.8
	低い(n=251)	17.9	20.3	15.1	21.9	17.5	17.5	14.3	13.1	10.4

下位項目 その他等		いわゆる「充電」の期間が必要	自分の才能や特技を生かせる仕事でない	就職に失敗	いじめを受けた	職場を解雇	特にない	その他	わからない	無回答
全体(n=566)		11.0	7.4	4.9	4.2	1.8	26.1	4.9	4.1	8.1
性別	男性(n=207)	4.8	7.7	4.3	2.4	1.4	30.9	3.4	4.8	7.7
	女性(n=356)	14.6	7.0	5.3	5.3	2.0	23.6	5.9	3.7	8.1
年代別	15-19歳(n=83)	2.4	2.4	0.0	1.2	0.0	56.6	1.2	9.6	18.1
	20歳代(n=204)	12.7	9.3	5.9	3.9	1.5	22.5	4.9	2.0	4.4
	30歳代(n=276)	12.3	7.6	5.8	5.4	2.5	19.6	6.2	4.0	7.6
生活水準	上(n=114)	9.6	4.4	1.8	0.9	0.0	40.4	3.5	2.6	7.9
	中(n=261)	10.7	7.3	5.4	4.6	0.4	24.1	3.1	3.4	10.0
	下(n=188)	12.2	9.6	6.4	5.9	4.8	20.2	8.5	5.9	5.3
自己肯定感	高い(n=313)	11.5	8.0	4.5	4.8	1.0	26.8	3.8	3.2	9.3
	低い(n=251)	10.4	6.8	5.2	3.6	2.8	25.5	6.4	5.2	6.8

【全員にお聞きします。】

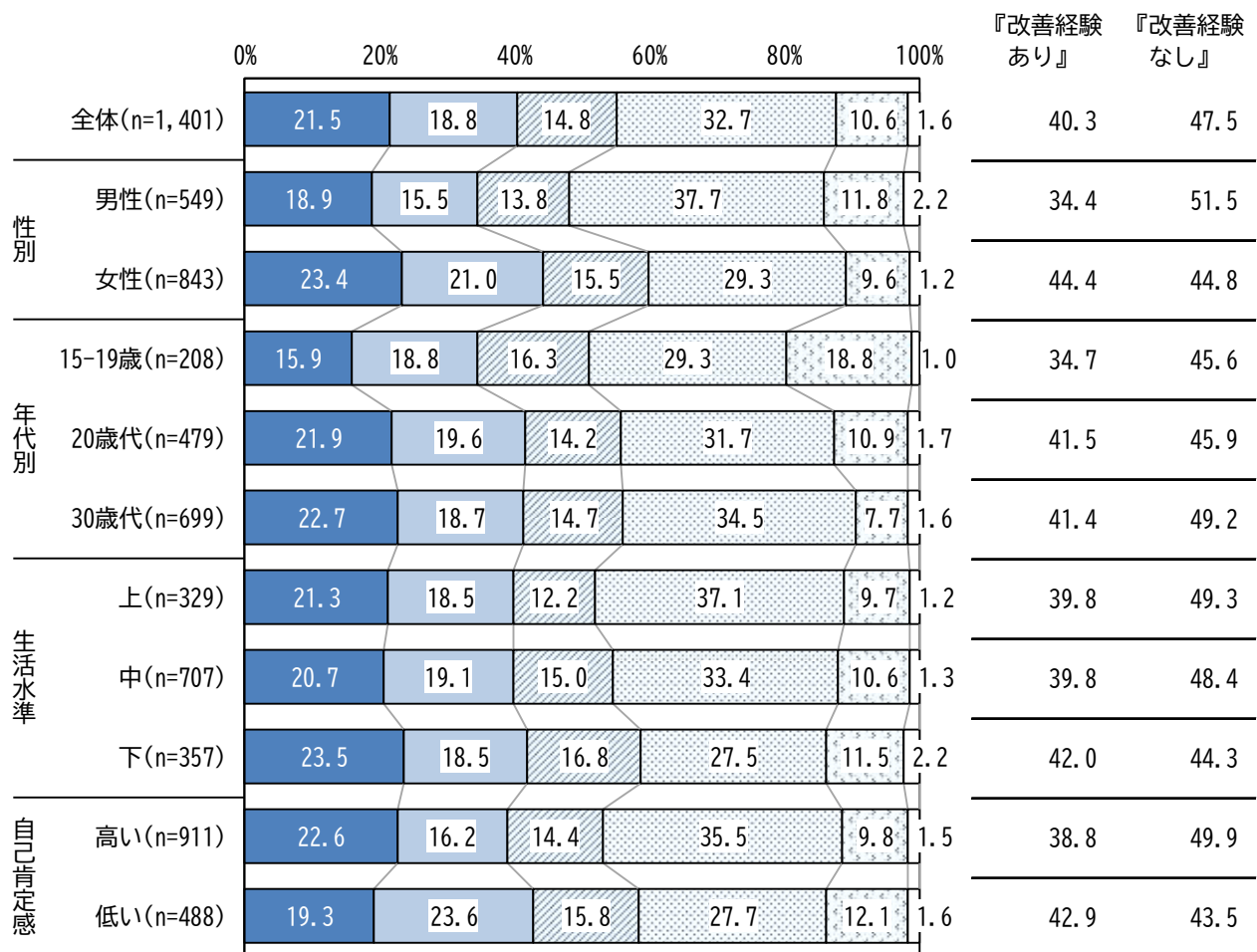
問 14 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験がありましたか。最もあてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験については、「なかった」が 32.7%で最も高く、以下「あった」が 21.5%、「どちらかといえば、あった」が 18.8%、「どちらかといえば、なかった」が 14.8%、「わからない」が 10.6%となっています。

「あった」と「どちらかといえば、あった」を合わせた『改善経験あり』の割合は 40.3%となっています。

【属性別】

性別では、男性では『改善経験なし』の割合が51.5%を占めています。



【問 14-1 は、問 14 で「1」または「2」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 14-1 状態が改善したきっかけや改善に役立ったことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

状態が改善した経験がある人における、改善したきっかけや役に立ったことについては、「家族や親戚の助け」が 47.6%で最も高く、以下「時間がたって状況が変化したこと」が 42.1%、「友人の助け」が 40.5%、「自分の努力で乗りこえたこと」が 34.0%、「就職・転職したこと」が 25.7%、「病院に行って相談したこと」が 17.7%などとなっています。

【属性別】

年代別では、15～19 歳では「時間がたって状況が変化したこと」の割合が最も高くなっています。また、「学校の先生に相談したこと」の割合が 19.4%で他の年代より高くなっています。20 歳代と 30 歳代では「就職・転職したこと」と「病院に行って相談したこと」の割合が 15～19 歳より高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて「就職・転職したこと」と「同じようにうまくいかなかった経験をした人に話してみたこと」の割合が高くなっています。

単位：%

上位項目		家族や親戚の助け	時間がたって状況が変化したこと	友人の助け	自分の努力で乗りこえたこと	就職・転職したこと	病院に行って相談したこと	趣味の活動に参加したこと	学校の先生に相談したこと	同じようにうまくいかなかった経験をした人に話してみたこと
全体(n=565)		47.6	42.1	40.5	34.0	25.7	17.7	11.5	8.1	6.4
性別	男性(n=189)	43.4	41.8	33.3	34.9	24.9	17.5	10.1	9.5	6.3
	女性(n=374)	50.0	42.5	44.4	33.7	26.2	17.9	12.3	7.2	6.4
年代別	15-19歳(n=72)	40.3	43.1	38.9	29.2	1.4	8.3	12.5	19.4	2.8
	20歳代(n=199)	48.7	41.2	42.2	33.2	28.1	19.6	13.6	8.0	8.0
	30歳代(n=290)	48.6	43.1	39.3	35.5	30.3	18.3	10.0	5.5	6.2
生活水準	上(n=131)	50.4	43.5	45.8	34.4	19.8	16.0	10.7	11.5	3.1
	中(n=281)	44.5	43.8	38.1	33.5	23.8	17.8	9.6	7.8	6.4
	下(n=150)	50.7	38.0	40.0	35.3	34.0	19.3	14.7	4.7	9.3
自己肯定感	高い(n=354)	46.6	42.9	44.6	36.7	25.4	16.4	13.0	8.8	5.9
	低い(n=209)	49.3	40.7	33.0	29.2	26.3	19.6	8.6	7.2	7.2

下位項目 その他等		相談できる場所に行き相談したこと	スクールカウンセラーなど学校にいる専門家に相談したこと	SNSやメール相談などを利用したこと	地域の人の助け	電話相談を利用したこと	その他	わからない、答えられない	無回答
全体(n=565)		6.0	3.9	2.7	0.5	0.4	4.4	1.2	0.9
性別	男性(n=189)	4.2	4.2	2.1	1.1	0.0	3.7	1.1	0.0
	女性(n=374)	7.0	3.7	2.7	0.3	0.5	4.8	1.1	1.3
年代別	15-19歳(n=72)	1.4	5.6	5.6	0.0	0.0	9.7	4.2	0.0
	20歳代(n=199)	8.0	7.0	3.5	0.0	1.0	3.5	1.0	1.0
	30歳代(n=290)	5.9	1.4	1.4	1.0	0.0	3.8	0.7	1.0
生活水準	上(n=131)	5.3	4.6	1.5	0.0	0.0	3.1	0.0	0.8
	中(n=281)	6.8	3.9	2.8	0.4	0.4	4.6	1.8	0.7
	下(n=150)	5.3	3.3	2.7	1.3	0.7	5.3	1.3	1.3
自己肯定感	高い(n=354)	7.3	4.0	2.5	0.6	0.6	4.2	0.8	0.6
	低い(n=209)	3.3	3.8	2.9	0.5	0.0	4.8	1.9	1.4

【全員にお聞きします。】

問 15 あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら、相談したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに、どのような人、場所に相談したいかについては、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」が51.2%で最も高く、以下「無料で相談できる」が34.8%、「相手が同世代である」が33.1%、「匿名で（自分が誰かを知られずに）相談できる」が31.5%、「相手がカウンセラーなど心理学の専門家である」が28.6%、「SNSやメールなどで相談できる」が26.1%などとなっています。一方、「誰にも相談したくない」は8.9%となっています。

【属性別】

いずれの属性においても「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」の割合が最も高くなっています。また、15～19歳では「相手が同世代である」の割合も同率で最も高くなっています。

年代別では、年代が低いほど「相手が同世代である」と「相手が同性である」の割合が高くなっています。

単位：％

		相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある	無料で相談できる	相手が同世代である	匿名で（自分が誰かを知られずに）相談できる	相手がカウンセラーなど心理学の専門家である	SNSやメールなどで相談できる	曜日・時間帯を気にせずに相談できる	相手が同性である	相手先が公的な支援機関である
全体(n=1,401)		51.2	34.8	33.1	31.5	28.6	26.1	25.2	17.5	16.0
性別	男性(n=549)	46.1	27.7	35.5	26.6	24.2	23.1	21.9	11.7	16.0
	女性(n=843)	55.0	39.4	31.7	34.8	31.6	28.0	27.4	21.4	16.1
年代別	15-19歳(n=208)	47.6	33.2	47.6	31.7	18.3	25.5	14.4	25.5	6.3
	20歳代(n=479)	51.4	34.7	37.6	31.9	28.8	30.3	28.4	19.6	16.1
	30歳代(n=699)	52.2	35.1	25.8	31.5	31.5	23.7	25.9	13.9	18.9
生活水準	上(n=329)	51.7	30.7	34.7	32.5	28.6	26.7	23.1	21.0	15.2
	中(n=707)	51.6	33.7	33.9	30.7	29.0	25.5	23.8	15.4	14.7
	下(n=357)	50.7	41.2	30.3	33.1	27.7	26.6	30.0	18.5	19.3
自己肯定感	高い(n=911)	53.2	34.5	36.8	32.6	29.5	26.6	26.5	18.9	17.8
	低い(n=488)	47.7	35.0	26.4	29.7	26.6	25.2	22.7	15.0	12.3

		相談できる場所が自宅から近い	相手が医師である	電話で相談できる	相手先が民間の支援団体（NPOなど）である	相手が自宅に来られる	その他	誰にも相談したくない	無回答
全体(n=1,401)		13.7	12.8	8.7	5.1	2.7	2.5	8.9	2.1
性別	男性(n=549)	12.0	13.5	8.9	4.2	2.0	2.7	10.4	2.2
	女性(n=843)	14.6	12.5	8.7	5.8	3.1	2.3	7.8	2.0
年代別	15-19歳(n=208)	6.3	7.7	5.3	1.4	2.4	1.9	10.6	1.9
	20歳代(n=479)	13.8	10.4	10.4	4.6	2.9	2.5	6.9	2.1
	30歳代(n=699)	15.7	15.7	8.4	6.6	2.6	2.7	9.7	1.9
生活水準	上(n=329)	11.6	14.6	8.2	5.2	1.8	2.1	8.2	1.5
	中(n=707)	13.4	11.9	8.3	4.1	2.0	2.0	8.1	2.4
	下(n=357)	16.5	13.4	10.1	7.3	4.8	3.9	10.6	2.0
自己肯定感	高い(n=911)	13.2	12.6	9.2	5.3	2.3	2.1	6.8	2.0
	低い(n=488)	14.5	12.9	7.8	4.5	3.5	3.3	12.7	2.3

【問 15－1 は、問 15 で「16. 誰にも相談したくない」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 15－1 相談したくないと思う理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

誰にも相談したくないと回答した人における、相談したくない理由については、「相談しても解決できないと思うから」が 64.5%で最も高く、以下「相手がどんな人かわからないから」が 26.6%、「自分ひとりで解決するべきだと思うから」が 22.6%、「相手にうまく伝えられないから」が 21.8%、「誰にも知られたくないことだから」が 16.1%、「裏切られたり、失望するのが嫌だから」が 14.5%などとなっています。

【属性別】

性別では、男女ともに「相談しても解決できないと思うから」の割合が最も高く、特に男性では 73.7%を占めています。

年代別では、年代が高いほど「相談しても解決できないと思うから」の割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人は、自己肯定感が高い人より全体的に割合が高く、複数の理由を有していることがわかります。

単位：％

上位項目		相談しても解決できないと思うから	相手がどんな人かわからないから	自分ひとりで解決するべきだと思うから	相手にうまく伝えられないから	誰にも知られたくないことだから	裏切られたり、失望するのが嫌だから	自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから
全体(n=124)		64.5	26.6	22.6	21.8	16.1	14.5	10.5
性別	男性(n=57)	73.7	15.8	29.8	14.0	7.0	10.5	8.8
	女性(n=66)	57.6	36.4	16.7	28.8	24.2	18.2	12.1
年代別	15-19歳(n=22)	22.7	31.8	18.2	27.3	31.8	9.1	22.7
	20歳代(n=33)	54.5	33.3	12.1	12.1	18.2	9.1	3.0
	30歳代(n=68)	82.4	22.1	29.4	23.5	10.3	19.1	10.3
生活水準	上(n=27)	66.7	25.9	22.2	14.8	25.9	11.1	14.8
	中(n=57)	56.1	29.8	19.3	19.3	14.0	12.3	14.0
	下(n=38)	76.3	21.1	28.9	28.9	13.2	18.4	2.6
自己肯定感	高い(n=62)	62.9	21.0	17.7	14.5	8.1	8.1	4.8
	低い(n=62)	66.1	32.3	27.4	29.0	24.2	21.0	16.1

下位項目 その他等		嫌なこと、できないことをするように言われそうだから	何を聞かれるか不安に思うから	お金がかかると思うから	自分が変な人に思われるのではないかと不安だから	その他	特に理由はない、わからない	無回答
全体(n=124)		9.7	8.1	8.1	6.5	8.9	8.9	0.0
性別	男性(n=57)	5.3	3.5	10.5	3.5	3.5	7.0	0.0
	女性(n=66)	13.6	12.1	6.1	9.1	12.1	10.6	0.0
年代別	15-19歳(n=22)	9.1	13.6	4.5	18.2	13.6	13.6	0.0
	20歳代(n=33)	6.1	0.0	0.0	0.0	15.2	3.0	0.0
	30歳代(n=68)	11.8	10.3	11.8	5.9	4.4	10.3	0.0
生活水準	上(n=27)	7.4	11.1	3.7	11.1	11.1	7.4	0.0
	中(n=57)	10.5	8.8	3.5	5.3	8.8	12.3	0.0
	下(n=38)	10.5	5.3	18.4	5.3	7.9	5.3	0.0
自己肯定感	高い(n=62)	4.8	3.2	6.5	3.2	11.3	9.7	0.0
	低い(n=62)	14.5	12.9	9.7	9.7	6.5	8.1	0.0

問16 あなたは、子供・若者を対象とした育成支援機関等を知っていますか。知っている育成支援機関等をすべて選んでください。（あてはまるものすべてに○）

子供・若者を対象とした育成支援機関等で知っている機関等については、「児童館」が46.3%で最も高く、以下「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」が31.3%、「就労支援機関※1」が31.0%、「越谷市保健所こころの健康支援室」が25.1%、「教育センターによる教育相談」が14.3%、「フリースクール（フリースペース）」が12.7%などとなっています。一方、「どれも知らない」は29.1%となっています。

【属性別】

いずれの属性においても「児童館」の割合が最も高くなっています。

性別では、男性では「どれも知らない」の割合が38.1%で、女性より高く、全体的に認知度が低くなっています。

単位：％

上位項目		児童館	児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関	就労支援機関※1	越谷市保健所こころの健康支援室	教育センターによる教育相談	越谷市青少年相談室	フリースクール（フリースペース）	通信制高校のサポート校
全体(n=1,401)		46.3	31.3	31.0	25.1	14.3	13.4	12.7	12.1
性別	男性(n=549)	37.2	22.4	28.1	19.9	8.2	12.8	8.2	8.7
	女性(n=843)	52.6	37.4	33.0	28.7	18.5	13.9	15.5	14.4
年齢別	15-19歳(n=208)	52.4	27.9	13.5	34.6	22.1	20.2	20.7	26.9
	20歳代(n=479)	43.0	28.8	29.6	23.2	8.1	12.9	8.6	11.5
	30歳代(n=699)	47.1	33.9	37.2	23.5	16.3	11.9	13.2	8.3
生活水準	上(n=329)	45.0	31.3	21.9	28.9	13.1	15.5	11.6	13.4
	中(n=707)	49.4	31.7	33.0	25.9	14.9	14.7	14.9	13.6
	下(n=357)	41.5	29.7	35.3	19.9	14.3	9.0	9.5	8.1
自己肯定感	高い(n=911)	46.2	31.8	31.2	26.0	13.9	13.9	13.4	12.5
	低い(n=488)	46.7	30.3	30.3	23.6	15.2	12.5	11.5	11.5

※1 職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・埼玉とうが若者サポートステーションなど

下位項目 その他等		発達障害総合支援センター	埼玉県立精神保健福祉センター	教育センターによる適応指導教室「おあしす」	埼玉県ひきこもり相談サポートセンター	若者の自主的な活動を支援する施設※2	その他民間の機関※3	どれも知らない	無回答
全体(n=1,401)		11.1	6.9	6.9	6.1	3.1	5.6	29.1	1.7
性別	男性(n=549)	9.1	6.7	4.6	6.4	2.6	3.8	38.1	2.4
	女性(n=843)	12.5	6.9	8.4	5.8	3.4	6.6	23.0	1.3
年齢別	15-19歳(n=208)	11.1	13.0	11.5	9.6	3.4	4.8	24.5	1.0
	20歳代(n=479)	9.2	5.8	4.8	3.8	2.7	5.2	34.2	1.7
	30歳代(n=699)	12.4	5.9	6.9	6.4	3.3	6.2	26.6	1.9
生活水準	上(n=329)	10.3	7.3	6.1	6.1	2.4	4.9	33.7	0.3
	中(n=707)	11.7	7.6	7.6	7.4	3.3	5.8	25.6	2.0
	下(n=357)	10.4	5.0	5.6	3.1	3.1	5.6	31.9	2.2
自己肯定感	高い(n=911)	11.2	6.1	6.9	5.9	3.2	4.9	28.9	2.0
	低い(n=488)	10.9	8.4	6.8	6.4	2.9	6.8	29.5	1.2

※2 青少年センターや青少年プラザなど

※3 自然体験活動、学習支援、就労支援、ひきこもりの支援など若者育成支援を行うNPOなど

【問 16－1 は、問 16 で「1」～「14」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 16－1 これらの機関を利用したことはありますか。(○は1つだけ)

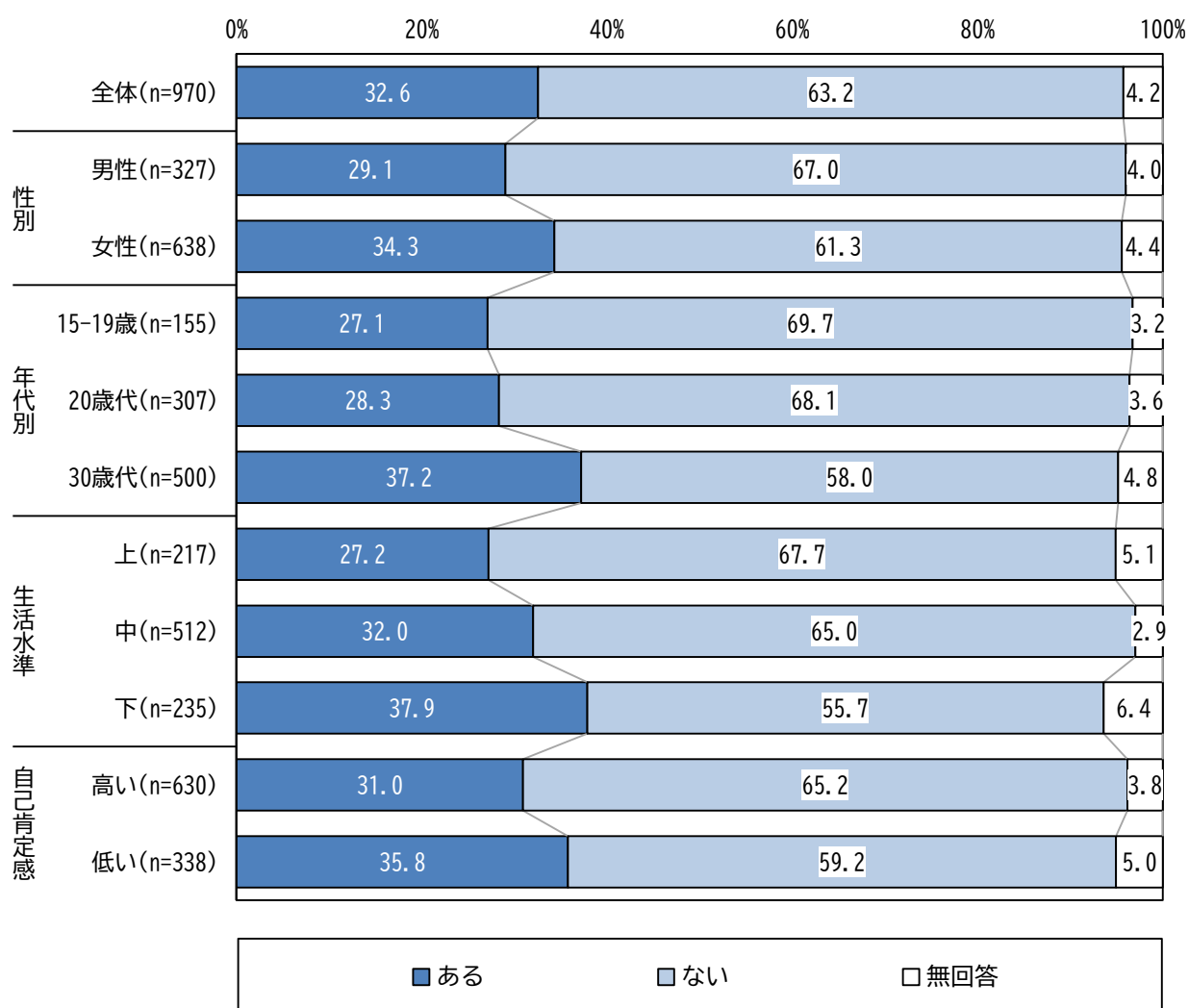
何らかの育成支援機関等を知っていると回答した人において、機関を利用したことがあるかについては、「ない」が63.2%、「ある」が32.6%となっています。

【属性別】

いずれの属性においても「ない」の割合の方が高くなっています。

年代別では、年代が高いほど「ある」の割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて「ある」の割合が高くなっています。



【全員にお聞きします。】

問 17 これらの機関について利用したいと思いますか。(○は1つだけ)

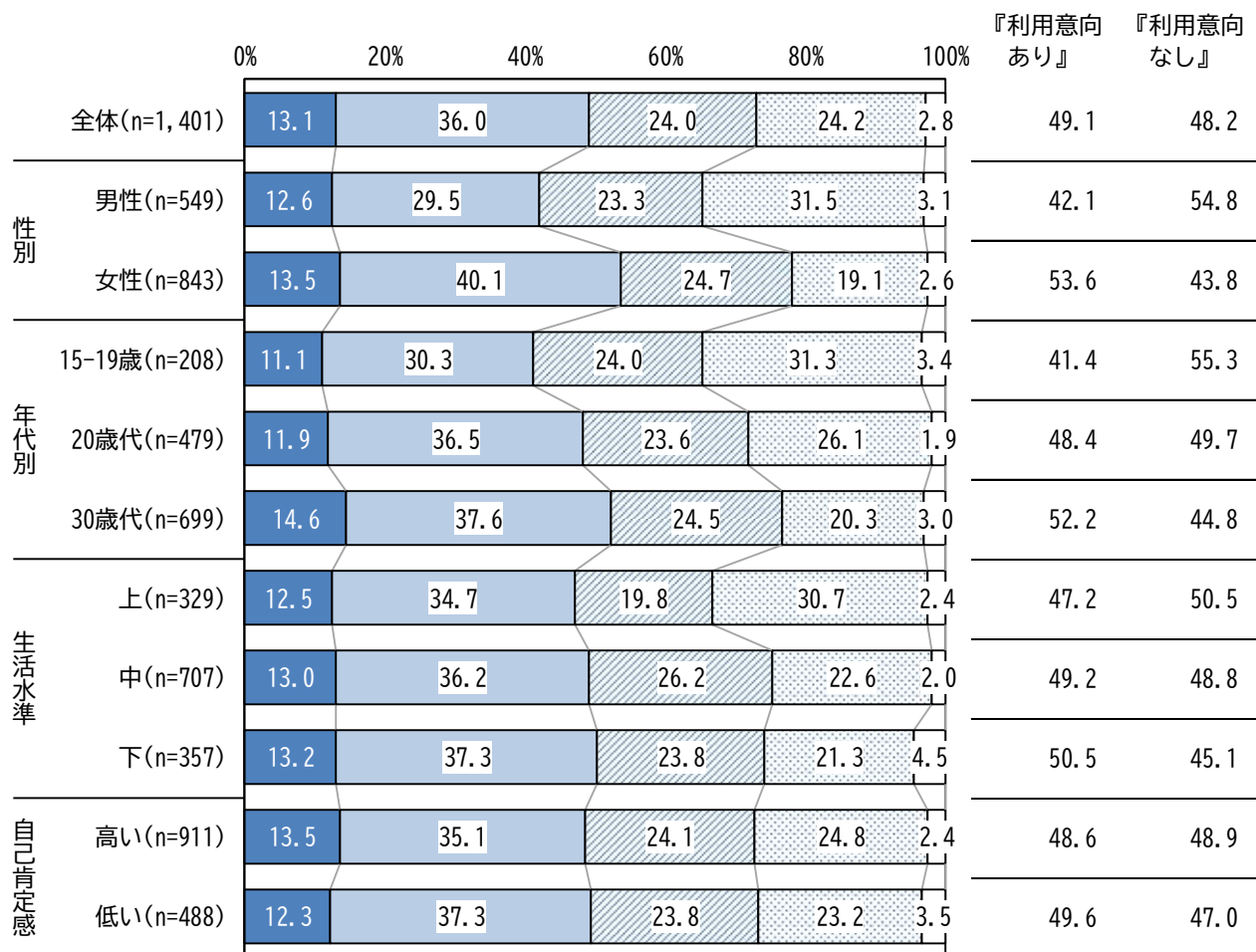
育成支援機関等を利用したいと思うかについては、「どちらかといえば利用したいと思う」が36.0%で最も高く、以下「利用したいと思わない」が24.2%、「どちらかといえば利用したいと思わない」が24.0%、「利用したいと思う」が13.1%となっています。

「利用したいと思う」と「どちらかといえば利用したいと思う」を合わせた『利用意向あり』の割合は49.1%となっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど『利用意向あり』の割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『利用意向あり』の割合が高くなっています。



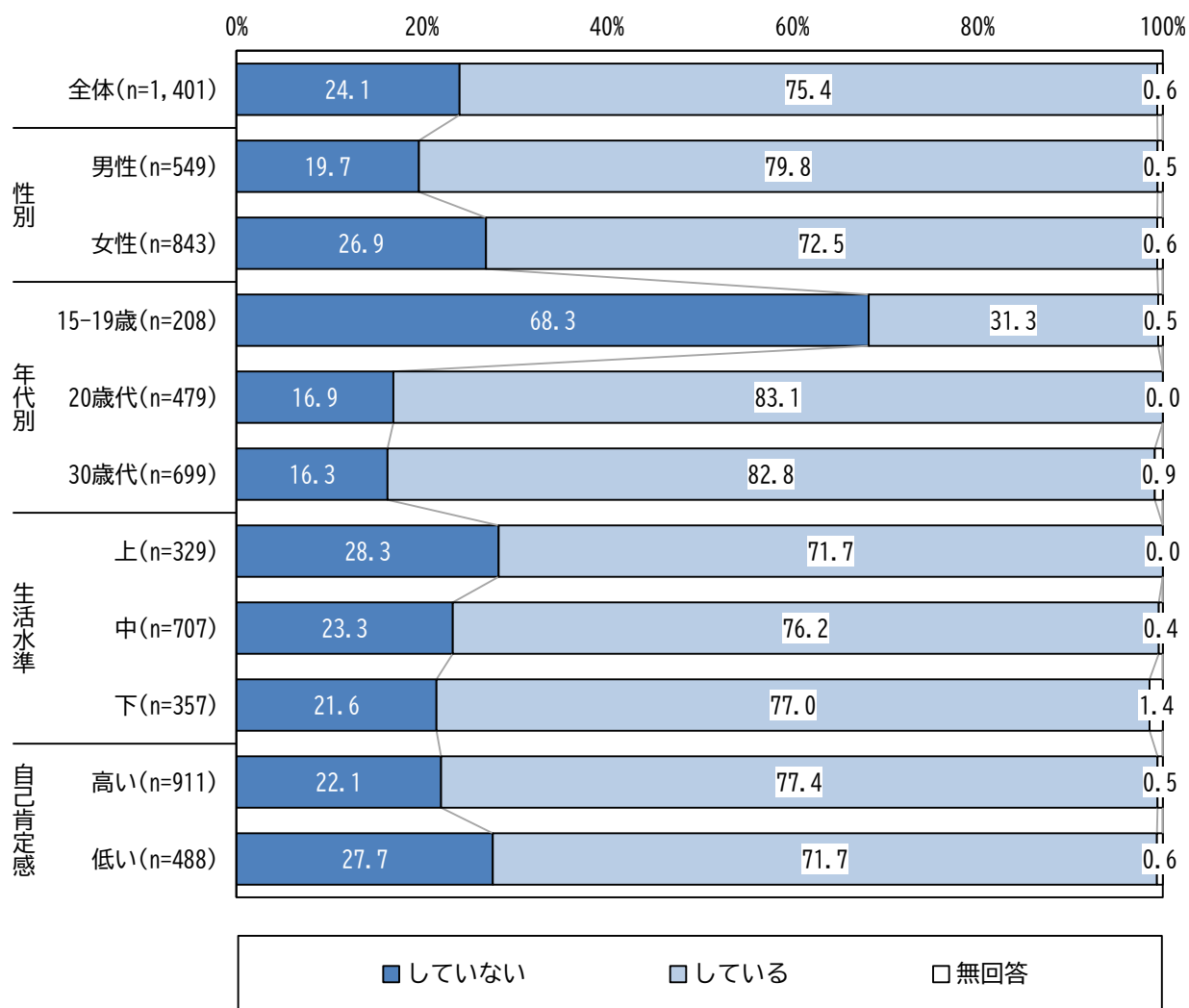
利用したいと思う
 どちらかといえば利用したいと思う
 どちらかといえば利用したいと思わない
 利用したいと思わない
 無回答

4. 働くことや結婚についてお聞きします

【全員にお聞きします。】

問 18 あなたは、現在収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つだけ)

現在収入を伴う仕事をしているかについては、「している」が 75.4%、「していない」が 24.1%となっています。



【問 18－1 は、問 18 で「1. していない」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 18－1 収入を伴う仕事をしていない理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

現在収入を伴う仕事をしていないと回答した人における、収入を伴う仕事をしていない理由については、「今は学生であるため」が 47.8%で最も高く、以下「子どもの預け先が見つからない」が 11.6%、「収入や時間等条件の合う仕事が見つからない」が 11.3%、「自分の心身の調子が不安定で、継続的な就労が難しい」が 11.0%、「働きたい気持ちはあるが、これまでうまくいかず自信がない」が 9.2%、「進学したり、資格・技能・技術を身に付けるなどもっと自分を磨きたい」が 7.1%などとなっています。

【属性別】

年代別では、30 歳代では「子どもの預け先が見つからない」が 25.4%で最も多くなっています。

生活水準では、上から下にかけて「収入や時間等条件の合う仕事が見つからない」、「働きたい気持ちはあるが、これまでうまくいかず自信がない」、「介護や家事があり働く時間が確保できない」などの割合が高くなっています。

自己肯定感では、自己肯定感が低い人では「収入や時間等条件の合う仕事が見つからない」、「自分の心身の調子が不安定で、継続的な就労が難しい」、「働きたい気持ちはあるが、これまでうまくいかず自信がない」の割合が比較的高くなっています。

単位：％

上位項目		今は学生であるため	子どもの預け先が見つからない	収入や時間等条件の合う仕事が見つからない	自分の心身の調子不安定で、継続的な就労が難しい	働きたい気持ちはあるが、これまでうまくいかず自信がない	進学したり、資格・技能・技術を身に付けるなどもっと自分を磨きたい	介護や家事があり働く時間が確保できない
全体(n=337)		47.8	11.6	11.3	11.0	9.2	7.1	6.2
性別	男性(n=108)	81.5	0.0	7.4	7.4	5.6	7.4	0.9
	女性(n=227)	31.7	17.2	13.2	12.8	11.0	6.6	8.8
年代別	15-19歳(n=142)	91.5	0.0	3.5	4.2	3.5	9.9	0.0
	20歳代(n=81)	37.0	12.3	9.9	14.8	13.6	6.2	4.9
	30歳代(n=114)	0.9	25.4	21.9	16.7	13.2	4.4	14.9
生活水準	上(n=93)	68.8	7.5	6.5	8.6	5.4	10.8	0.0
	中(n=165)	43.6	14.5	11.5	8.5	7.9	5.5	7.9
	下(n=77)	29.9	10.4	16.9	19.5	15.6	5.2	10.4
自己肯定感	高い(n=201)	53.7	11.9	8.5	4.0	4.0	6.0	4.5
	低い(n=135)	39.3	11.1	14.8	20.7	17.0	8.9	8.9

下位項目 その他等		仕事に必要な専門知識や資格がない	仕事の探し方がわからない	面接や書類選考がうまくいかず採用されない	年齢制限のため仕事がない	その他	特にない	無回答
全体(n=337)		4.7	3.9	3.6	2.1	15.7	8.0	1.8
性別	男性(n=108)	6.5	5.6	3.7	2.8	5.6	3.7	2.8
	女性(n=227)	4.0	3.1	3.5	1.8	20.7	9.7	1.3
年代別	15-19歳(n=142)	2.1	3.5	0.7	3.5	3.5	1.4	1.4
	20歳代(n=81)	3.7	1.2	4.9	0.0	17.3	11.1	1.2
	30歳代(n=114)	8.8	6.1	6.1	1.8	29.8	14.0	2.6
生活水準	上(n=93)	1.1	1.1	2.2	0.0	10.8	8.6	1.1
	中(n=165)	4.8	3.0	2.4	2.4	17.0	7.3	1.8
	下(n=77)	9.1	9.1	7.8	3.9	19.5	9.1	2.6
自己肯定感	高い(n=201)	1.5	1.5	1.0	0.5	16.4	6.5	2.0
	低い(n=135)	9.6	7.4	7.4	4.4	14.8	10.4	1.5

【問 19 は、F3 で「1. 未婚」、「3. 配偶者と死別」、「4. 配偶者と離別（離婚）」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 19 あなたは今後、結婚したいと思いますか。婚姻届を出していない事実婚等も含めてお答えください。（○は1つだけ）

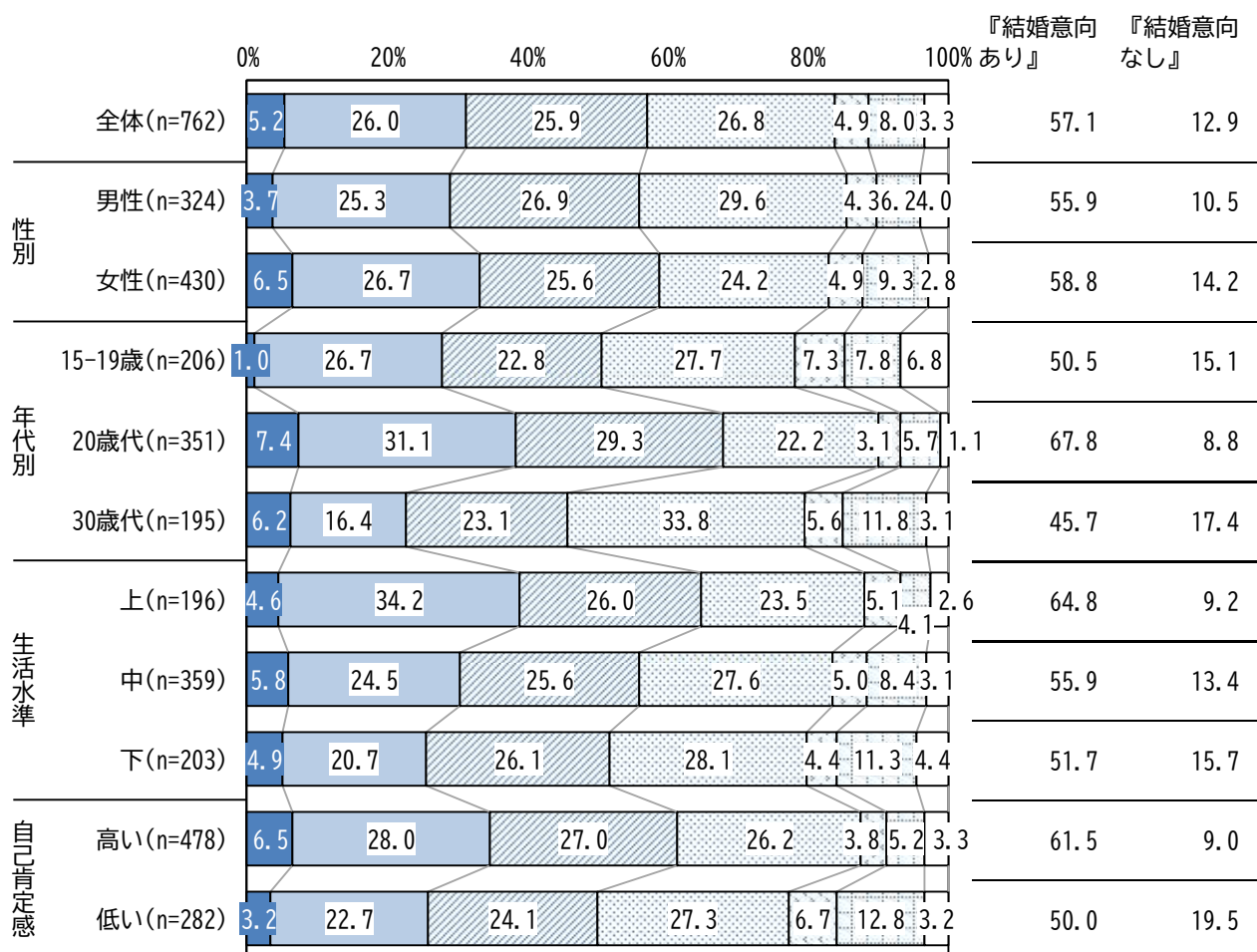
現在の状況で、「未婚」、「配偶者と死別」、「配偶者と離別（離婚）」と回答した人における、今後の結婚意向については、「どちらでもいいと思う」が 26.8%で最も高く、以下「現在、予定はないが是非したい」が 26.0%、「現在、予定はないができればしたい」が 25.9%、「したくない」が 8.0%、「現在、既に予定がある・決まっている」が 5.2%、「できればしたくない」が 4.9%となっています。

「現在、既に予定がある・決まっている」、「現在、予定はないが是非したい」、「現在、予定はないができればしたい」を合わせた『結婚意向あり』の割合は 57.1%となっています。

【属性別】

いずれの属性においても『結婚意向あり』の方が割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて『結婚意向あり』の割合が低くなっています。



現在、既に予定がある・決まっている
 現在、予定はないが是非したい
 現在、予定はないができればしたい
 どちらでもいいと思う
 出来ればしたくない
 したくない
 無回答

【問 19－1 は、問 19 で「1」～「3」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 19－1 結婚や結婚後の新生活を送る上で、自治体に支援してほしいことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

今後の結婚意向がある人における、結婚や結婚後に自治体にしてほしい支援については、「結婚式の準備など必要な費用の助成（結婚祝い金の支給）」が 57.2%で最も高く、以下「結婚後の生活の場となる住まいに関する支援（新居となる住宅や引越費用の補助）」が 55.2%、「結婚した方が有利となるような税制や社会保障制度の創設」が 45.1%、「若者を対象とした、結婚や出産・子育て、お金等のライフデザインセミナーの開催」が 26.0%、「結婚を希望する人同士をつなぐ出会いの場やマッチングサービスの提供」が 20.9%、「婚活イベント等の出会いの場の創出」が 20.2%などとなっています。

【属性別】

年代別では、年代が高いほど「結婚を希望する人同士をつなぐ出会いの場やマッチングサービスの提供」、「婚活イベント等の出会いの場の創出」、「「恋たま」入会費用の助成」の割合が高くなっています。

生活水準では、上から下にかけて、年代別と同様に「結婚を希望する人同士をつなぐ出会いの場やマッチングサービスの提供」、「婚活イベント等の出会いの場の創出」、「「恋たま」入会費用の助成」の割合が高くなっています。

Ⅶ こども・若者の意識と生活に関する調査

単位：％

上位項目		結婚式の準備 など必要な費用の助成（結婚祝い金の支給）	結婚後の生活 の場となる住まいに関する 支援（新居となる住宅や引越費用の補助）	結婚した方が 有利となるような税制や社会 保障制度の創設	若者を対象とした、結婚や 出産・子育て、お金等のラ イフデザインセミナーの開 催	結婚を希望する人同士をつ ながり出会いの場やマッチ ングサービスの提供	婚活イベント等の出会いの 場の創出
全体(n=435)		57.2	55.2	45.1	26.0	20.9	20.2
性別	男性(n=181)	54.1	50.8	50.3	19.9	28.2	22.7
	女性(n=253)	59.3	58.5	41.1	30.4	15.4	18.2
年代別	15-19歳(n=104)	57.7	50.0	40.4	24.0	4.8	8.7
	20歳代(n=238)	60.9	59.7	47.5	31.5	20.6	18.9
	30歳代(n=89)	48.3	50.6	44.9	14.6	41.6	38.2
生活水準	上(n=127)	59.1	52.8	47.2	22.8	13.4	13.4
	中(n=201)	57.2	54.2	43.3	26.9	21.4	20.9
	下(n=105)	56.2	61.0	46.7	27.6	28.6	27.6
自己肯定感	高い(n=294)	60.5	56.8	47.3	26.5	18.7	18.4
	低い(n=141)	50.4	51.8	40.4	24.8	25.5	24.1

下位項目 その他等		結婚に関する 相談にのってくれるコン シェルジュ等による相談支 援	選択的夫婦別氏制度（いわ ゆる選択的夫婦別姓制度） の導入	「恋たま」入 会費用の助成	その他	特にない	無回答
全体(n=435)		17.0	16.8	8.5	2.3	17.0	0.5
性別	男性(n=181)	15.5	12.2	11.0	2.2	18.2	1.1
	女性(n=253)	18.2	20.2	6.7	2.4	16.2	0.0
年代別	15-19歳(n=104)	19.2	12.5	1.0	2.9	21.2	1.0
	20歳代(n=238)	16.0	18.1	7.6	2.1	16.0	0.4
	30歳代(n=89)	18.0	18.0	20.2	2.2	12.4	0.0
生活水準	上(n=127)	14.2	15.7	6.3	2.4	18.9	0.8
	中(n=201)	18.9	14.9	7.5	2.0	16.4	0.5
	下(n=105)	16.2	21.9	12.4	2.9	15.2	0.0
自己肯定感	高い(n=294)	17.3	18.0	7.8	2.0	16.0	0.7
	低い(n=141)	16.3	14.2	9.9	2.8	19.1	0.0

【全員にお聞きします。】

問 20 若い世代が結婚後も仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備や支援が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

結婚後も仕事と家庭を両立するために必要なことについては、「性別に関係なく、育児休業・介護休業制度を取得しやすい職場環境」が 77.6%で最も高く、以下「保育園や学童保育など、こどもの預け先の整備」が 75.1%、「女性が働くことや男性が家事・育児等に参加することについて、上司や同僚に理解と協力がある職場環境」が 69.5%、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を活用できる職場環境」が 68.7%、「女性が働くことや男性が家事・育児等に参加することについて、家族・身近な人の理解と協力」が 50.2%、「性別に関係なく、仕事に取り組み、家事・育児を行うことに責任をもつ個人の意識改革」が 47.1%などとなっています。

【属性別】

性別では、男女ともに「性別に関係なく、育児休業・介護休業制度を取得しやすい職場環境」の割合が最も高くなっています。また、女性の方が全体的に割合が高く、様々な環境整備や支援を必要としていることがわかります。

年代別では、30 歳代では「保育園や学童保育など、こどもの預け先の整備」の割合が最も高くなっています。

Ⅶ こども・若者の意識と生活に関する調査

単位：％

上位項目		性別に関係なく、育児休業・介護休業制度を取得しやすい職場環境	保育園や学童保育など、こどもの預け先の整備	女性が働くことや男性が家事・育児等に参加することについて、上司や同僚に理解と協力がある職場環境	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を活用できる職場環境	女性が働くことや男性が家事・育児等に参加することについて、家族・身近な人の理解と協力	性別に関係なく、仕事に取り組み、家事・育児を行うことに責任をもつ個人の意識改革	家事・育児支援サービスや福祉サービスの提供
全体(n=1,401)		77.6	75.1	69.5	68.7	50.2	47.1	46.7
性別	男性(n=549)	73.4	70.1	58.1	66.1	40.6	41.9	44.6
	女性(n=843)	80.4	78.6	77.0	70.6	56.7	50.5	47.9
年代別	15-19歳(n=208)	80.8	64.9	64.4	51.0	51.0	49.0	39.4
	20歳代(n=479)	78.1	74.7	69.3	70.8	49.5	45.3	45.5
	30歳代(n=699)	76.8	78.5	71.7	72.8	51.1	47.9	49.8
生活水準	上(n=329)	80.2	80.9	72.6	73.9	52.0	50.2	53.2
	中(n=707)	77.1	75.5	71.0	68.3	50.9	46.1	45.8
	下(n=357)	75.9	69.2	63.3	66.1	47.1	46.8	42.3
自己肯定感	高い(n=911)	77.9	76.3	70.8	69.3	50.6	47.6	48.6
	低い(n=488)	76.8	73.0	67.2	67.6	49.6	46.1	42.8

下位項目 その他等		子育てと両立しやすい仕事の紹介や一人ひとりに寄り添った就労支援	「育児や介護などのケア労働は女性がやるべき」という社会の意識改革	キャリアアップやスキルアップに向けた支援	わからない	その他	特にない・必要ない	無回答
全体(n=1,401)		45.0	44.5	25.0	2.9	6.3	1.0	0.4
性別	男性(n=549)	39.3	34.1	27.5	4.7	7.3	2.0	0.2
	女性(n=843)	48.8	51.5	23.4	1.8	5.6	0.4	0.5
年代別	15-19歳(n=208)	39.9	40.9	24.5	6.7	2.4	1.0	0.0
	20歳代(n=479)	47.4	45.5	27.1	2.7	6.7	1.3	0.0
	30歳代(n=699)	44.9	45.1	23.3	2.0	7.3	0.7	0.6
生活水準	上(n=329)	45.3	46.2	27.4	1.8	4.9	1.5	0.0
	中(n=707)	42.7	43.7	22.6	2.8	5.8	0.8	0.0
	下(n=357)	49.9	44.8	27.7	3.9	8.7	0.8	1.4
自己肯定感	高い(n=911)	44.1	44.5	25.9	2.9	6.1	1.2	0.2
	低い(n=488)	46.9	44.5	23.4	3.1	6.6	0.6	0.6

【全員にお聞きします。】

問 21 あなたは、子どもや若者に対してどのような支援があるとよいと思いますか。（あてはまるもの3つまでに○）

子どもや若者に対してどのような支援があるとよいかについては、「生活や就学のための経済的援助」が 58.6%で最も高く、以下「子どもを見守る地域のつながりや支え合い」が 33.9%、「低い家賃で住める住宅（寮や下宿のようなところ）」が 26.2%、「仲間と出会う、一緒に活動できる場所」が 22.5%、「困ったときに寄り添って支援してくれるサポート体制」が 18.0%、「心の悩みや気持ちについて話を聞いてくれるところ」が 16.7%などとなっています。

【属性別】

いずれの属性においても「生活や就学のための経済的援助」の割合が最も高くなっています。

単位：％

上位項目		生活や就学のための経済的援助	子どもを見守る地域のつながりや支え合い	低い家賃で住める住宅（寮や下宿のようなところ）	仲間と出会う、一緒に活動できる場所	困ったときに寄り添って支援してくれるサポート体制	心の悩みや気持ちについて話を聞いてくれるところ	自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供	仕事に就けるようするための就労に関する支援	進路や生活についてなんでも相談できる場所
全体(n=1,401)		58.6	33.9	26.2	22.5	18.0	16.7	14.4	13.2	11.8
性別	男性(n=549)	57.9	30.6	31.1	26.2	15.8	14.6	13.5	13.5	11.5
	女性(n=843)	59.1	36.2	22.8	20.0	19.5	18.1	15.2	12.9	12.0
年代別	15-19歳(n=208)	58.2	33.2	22.6	25.5	13.5	14.9	10.1	10.6	15.9
	20歳代(n=479)	62.6	31.9	28.6	20.5	22.1	17.7	12.1	11.7	10.6
	30歳代(n=699)	56.2	36.1	25.3	22.9	16.6	16.6	17.0	15.2	11.4
生活水準	上(n=329)	57.8	31.9	25.8	25.2	16.1	16.1	14.6	11.2	10.0
	中(n=707)	58.3	36.2	22.2	23.3	17.7	17.1	15.0	12.7	13.6
	下(n=357)	60.5	30.8	34.5	18.2	20.4	16.8	13.2	15.7	9.8
自己肯定感	高い(n=911)	56.5	36.3	24.8	23.4	16.7	17.0	16.6	11.6	11.7
	低い(n=488)	62.3	29.5	28.7	20.7	20.3	16.2	10.5	16.2	11.7

下位項目 その他等		地域における居場所の提供	企業などでの職場体験等の機会	読み書き計算などの基礎的な学習への支援	本格的な就労をする前の中間的な就労場所の設置	わからない	その他	特にない	無回答
全体(n=1,401)		9.3	8.6	8.2	5.2	3.1	1.9	1.2	0.4
性別	男性(n=549)	8.9	7.5	7.7	3.5	3.8	2.4	1.5	0.7
	女性(n=843)	9.5	9.3	8.7	6.4	2.7	1.4	1.1	0.2
年代別	15-19歳(n=208)	5.8	10.1	7.7	4.8	5.8	0.0	1.9	0.5
	20歳代(n=479)	10.0	5.6	7.9	4.4	3.3	1.9	1.9	0.4
	30歳代(n=699)	9.9	10.3	8.0	5.7	2.3	2.4	0.6	0.3
生活水準	上(n=329)	10.0	10.0	10.6	3.6	4.0	1.8	0.6	0.3
	中(n=707)	9.6	7.6	7.4	5.0	2.7	1.8	1.4	0.4
	下(n=357)	8.1	8.7	7.8	7.3	3.4	2.0	1.4	0.6
自己肯定感	高い(n=911)	10.3	8.5	7.6	4.7	3.3	2.1	1.0	0.3
	低い(n=488)	7.4	9.0	9.4	6.1	2.9	1.4	1.6	0.6

VIII 自由回答

1. 自由回答の分類結果

今回の調査の中で、子育てに関してあるいはご自身が日ごろ感じていることや悩みごと、お子さんを育てている上で気をつけていること、越谷市への要望事項等について、自由記述形式でご意見をいただきました。それらを調査別に項目ごとで分類すると以下のようになります。

(1) 就学前児童調査

分野	件数
回答数	619 人
子育て世帯への経済的支援について（児童手当含む）	145 件
遊び場について	82 件
こども医療費、小児科、小児健診について	77 件
安心・安全について（道路環境、防犯、防災等）	73 件
保育所・保育園について	68 件
学童保育室・放課後子ども教室について	60 件
一時預かりについて	33 件
病児・病後児保育について	31 件
障害・発達の遅れがある児童への支援について	30 件
子育て世帯への理解・こどもにやさしいまちづくり	30 件
情報提供について	29 件
施設整備・バリアフリーについて	28 件
ワーク・ライフ・バランスについて	27 件
子育て支援サービス全般について	25 件
小学校について	24 件
子育て支援センターについて	23 件
家庭での子育てについて	21 件
児童館について	21 件
幼稚園について	20 件
相談について	15 件
教育について	11 件
サロン活動について	8 件
イベントについて	7 件
認定こども園について	5 件
子育て講座について	4 件
ファミリー・サポート・センターについて	3 件
その他	86 件
合計	986 件

(2) 小学生調査

分野	件数
回答数	551 人
遊び場について	94 件
安心・安全について	84 件
小学校について	79 件
学童保育室・放課後子ども教室について（放課後の居場所）	79 件
家庭での子育て、こどもへの接し方について	67 件
子育て世帯への経済的支援について（児童手当含む）	53 件
子育て支援サービス全般について	42 件
こども医療費、小児科、小児健診について	36 件
子育てに掛かる費用について	36 件
障害児支援について	24 件
施設整備・バリアフリーについて	24 件
不登校児童・生徒への支援や居場所について	21 件
ワーク・ライフ・バランスについて	20 件
相談について	16 件
一時預かりについて	16 件
児童館について	13 件
ファミリー・サポートについて	13 件
イベント活動について	10 件
就学前の保育・教育について	6 件
情報提供について	6 件
その他教育施設について	4 件
その他	54 件
合計	797 件

(3) こどもの生活実態調査

分野	件数
回答数	466 人
経済的支援について	88 件
学校生活やPTA について	86 件
現在の教育負担について	66 件
医療・医療費について	43 件
地域の居場所について	38 件
交通安全・防犯・防災について	26 件
不登校について	25 件
学習支援について	24 件
相談について	20 件
市政全般について	15 件
進学・将来のことについて	15 件
放課後の居場所について	14 件
保育について	13 件
養育費・生活費について	12 件
ひとり親家庭支援について	11 件
情報提供について	10 件
障がい児について	9 件
アンケート全体について	9 件
多子世帯について	3 件
就労について	3 件
その他	70 件
合計	600 件

(4) 小学生・中学生調査

分野	件数
回答数	1618 人
こどもの遊び場について	296 件
学校について	265 件
商業施設について	160 件
こどもの居場所について	159 件
公共施設や公共交通手段について	156 件
イベントやお祭り、地域との交流について	122 件
市政全般について	122 件
スポーツ施設について	122 件
ごみや環境について	120 件
安全・安心について	108 件
勉強の出来る環境について	68 件
経済的支援	49 件
いじめや不登校について	21 件
相談について	16 件
自由な時間や遊ぶ時間について	15 件
市の子育て施策全般について	13 件
障害・差別について	12 件
市のPRについて	11 件
その他	127 件
合計	1962 件

(5) こども・若者の意識と生活に関する調査

分野	件数
回答数	371 人
子育て支援全般について	65 件
経済的支援について	63 件
安全・安心、生活環境について	44 件
こどもの居場所やこども向けイベントについて	32 件
若い世代への支援について	31 件
市政について	27 件
公共施設について	24 件
将来への不安・悩み	19 件
学校生活について	18 件
自身の生きづらさについて	16 件
地域活動やボランティアについて	14 件
商業施設の充実について	13 件
妊娠や出産について	11 件
就労について	10 件
こども医療費、小児科、小児健診について	8 件
仕事と家庭の両立について	6 件
こども・若者の意見の反映について	4 件
家庭に関する悩み	3 件
その他	63 件
合計	471 件

2. 自由回答における意見の一覧（抜粋）

（１）就学前児童調査

①子育て世帯への経済的支援について（児童手当含む）

- 世帯収入としては多い方になるかもしれないが、子育てにはかなりのお金がかかってしまい保育料が高いことがすごく困る。税金もたくさん払っているのに保育料も高く負担が大きい。経済的な支援をしっかりとしてほしい。
- 幼児教育の無償化ではありますが、市外の友人たちの保育料（実費分）が今利用している所との差が1万にある無償化なのに住む所によって差がありすぎると思いました。もう少し負担が減るとありがたいです。
- 生活費の値上げが苦しいので子育て世帯への給付や手当を充実させてほしい。
- 幼児同乗用自転車等の購入支援・助成
- 子どもが多い家庭なので保育費や学校費などにお金がかかり大変です。給食費などが無料になったりしてくれたら助かります。高校までの医療費は本当にありがたい事です。高校に入ったらいろいろとお金もかかります。特にタブレット代などに補助金が全くないので本当に大変です。もっと多子世帯に手厚く支援があると嬉しいですね。子は宝なら、すべての国民で支える事が大事だと思います。
- 児童手当の所得制限を切実になくしてほしい。同じこどもなのだから差別しないでほしい。
- 幼稚園など無償化の上限が上がる事を願っています。（送迎バスなどもカバーできたら）
- 年収制限により、補助金が全く受けられない。税金を多く納めているのに、何の恩恵も受けられない。何のために税金を納めているのか疑問です。納める税金が少ない方が恩恵が大きい。
- 母子家庭なので働ける時間も限られてしまうので収入も少ない。手当などは満額出ないとか、学童保育でもお金がかかるとかもっと助けて欲しい。
- 他県では高校も無償化の動きがあります。越谷も高校まで無償化になってほしい。他の市より早く動いてほしい。また、医療費も高校卒業まで無償化になってほしい。“子育てに手厚い越谷市”となり、少子化対策を強化していく。
- 保育園から大学までの期間において経済的なご支援をより充実させていただくのが有難いです。
- 都は出産した際に10万円分のクーポンを配信しており、大変助かっていると聞き越谷はない事に少し不満があります。また児童手当も追加でとても子育てしやすいと思います。越谷は利便性も良く自然も豊かで子育てにも向いているからこそ子育て支援に援助して欲しいです。

②遊び場について

- 公園で思う存分遊んでほしいが、小学生～高校生がボール遊びや、ラケット等を使って遊んでいるため遊ばせることができない。東越谷第五公園を利用したいが、すべり台が高すぎて、螺旋なので、安全に遊ぶことができなく、子どもたちがあそびたくても遊ばせられない。安全に遊ぶことのできるよう、環境整備をしてほしい。
- 転勤で越谷に転入してきましたが、非常に暮らしやすく住人も良い方ばかりで大変嬉しく思っています。夫ともここより住みやすい場所はないかも…？とよく話しています。ただ、子育て支援については残念ながら不満に思うことも多く、中でも一番は乳幼児の室内遊び場がほとんどないことです。これは今まで住んできた自治体の中で初めてで、とても驚きました。草加の「ろけっと」（閉まってしまいましたが）、さいたま市の子育て支援センターのような、親子が日常的に利用できる施設をぜひ作って頂きたいです。現在は予約などしてサロンを利用し保護者同士の交流をすることがメインのようですが、日常的に使える遊び場があれば自然と交流は生まれるものです。現在オープンしているのびるば広場のような場を、市の主体でぜひ広げてほしいと思います。ぜひ検討のほどよろしくお願いします。
- 家の近くの公園はどれも遊具の少ない公園ばかりで遊ばせられない。また、ボールが使える場所もなく…もっと充実させて欲しいです。
- 小さい子があそべる場所が少ないと感じる。（特に屋内）児童館に小さい子があそべるようになるとありがたいです。今は、市外の児童館へ行くことが多いが、車がないので大変。
- 市内の公園で遊具が古く、ささくれているものがそのままになっていて危険だと思います。
- ボール禁止の公園が多く、なかなかボール遊びができない。市の体育館を借りて子どもとバスケ等したくても、予約があいていないことが多く、家族でかりるには高額。半コートでいいので、気軽に借りることができて、運動ができるスペースがあると嬉しいです。

- 2歳の長男と1歳の次男を連れて私ひとりで出かけるとなるとハードルが高く、そして家の近くに公園がないので車か自転車で行きます。駐車場のある公園を探していきます。近くの施設や駐車場を探すのも手間だし、無い事の方が多いので、公園が増えるか、車が停められるようになればな～と思います。
- レイクタウンに住んでいるのですが、児童館が近くに無いので、高学年の子も放課後遊べる室内を作ってほしいです。

③こども医療費、小児科、小児健診について

- 一部の小児科に受診希望者が殺到していて予約が取りづらい、また当日の予約が取れても待ち時間が3時間以上になる場合があります。もっと分散できるよう、小児科院の誘致等お願いしたいです。
- 蒲生、出羽地区の、小児科、耳鼻科等町医者 of 充実
- よく風邪をひいたりするので、こども医療費支給制度があり助かっています。
- 子どもが多く、小児科は予約をとるのが大変で、かかりつけ医を作りづらい。継続的に診てほしくても難しい現状があり悩みである。
- 夫の転勤で、地元（広島）から引っ越した後、子育てや、上の子の発達に悩んでいました。タイミング良く、宛て名の子の3歳児健診があり、上の子についての相談を受けることができました。断られることもなく、優しく話を聞いて下さったので、今まで色々と思い詰めていたものが少しやわらぎました。行政や、相談できる機関がいつでもあるというだけで、気が楽になるので、このまま続けていって下さると嬉しいです。
- 夜間診察時間以降、救急が困る。越谷市立病院で2回も断られ、草加市立に回された。当番医の日も。喘息を持っているので、とても困る。具合が悪いのに、春日部や都内までは行けない。
- 小児科が近隣になく、車で通院が大変。

④安心・安全について(道路環境、防犯、防災等)

- 街灯を増やしてほしいです。
- 歩道がせまく、段差や傾斜でベビーカーが押せません。ガードレールが少なくいつも不安です。（学校の登下校なども）
- 近所の公園に散歩に向かっている時やスーパーの駐車場では車が急に飛び出してくる恐れがあるので手を握り左右の確認を日頃から教えている。「ロピア越谷大里店」から「ローソン越谷弥十郎店」までの歩道が、ベビーカーで通行しにくい為改善して欲しい。
- 道路の整備
- ベビーカーで通りにくい歩道がたくさんあるので整備してほしいです。
- 路上タバコが多いこと、公園や道路に吸いながら落ちているのが嫌。見通しの悪い道路や細い道路が多くて怖い。自転車で安心して通れると嬉しい。小、中学校が古そうに見えるので、わが子が入学するまでに新しくなったら嬉しい。
- 県道161号、VARIEの駐車場がある道、Times南越谷第3前の信号機の押しボタンが道路側に向いているので押す時に車とぶつかりそうで怖いです。歩道側に向けて頂けると、安全だと思うのでありがたいです。歩道が木の根っこで盛り上がりすぎて歩きづらいです。
- 防犯面、安全面、子どもが健康で元気に安全・安心して生活できる環境を整えて頂きたいです。

⑤保育所・保育園について

- 子育てとして、親ではなく、保育士としての要望ですが、保育士の働く環境（配置、給料etc）を良くしていただきたい。保育士がうるおっておだやかに仕事できれば、園の雰囲気もよくなり、親も安心して預けられる。
- 保育園の待機児童が0になってほしいです。仕事と育児を安心して両立したい
- 現在子どもは生後3か月です。1才を迎える月から保育園への入園を考えています。できるだけ予定通りに入園させて、職場復帰したいのですが、年度途中での0歳児の受け入れがほとんどないようで…。予約事業など入園に見通しがつく制度があるといいと思います。
- 育休取得の際、兄弟の保育園の時間が短くなってしまったり、預かり保育を利用できなく（しくく）になってしまうのは、改善してほしい。
- 保育園に預けたいが、空きがあるか不安です。
- 現在妊娠中で、上の子（2歳）を妊娠中に切迫早産で出産までの3ヶ月間入院をしていました。また切迫早産になるのを防ぐ為、なるべくでしたら安静にしておきたいのですが、わんぱくざかりなのでそうもいきません。できる事なら日中、保育園に預け入れたいのですが、就労していな

い人間でも保育園で見てもらえる制度はないでしょうか？ ○公立保育所の特別支援保育を利用させて頂いております。いつも手厚く保育してくださり、先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。保育士の先生方が、今以上に働きやすい状況になります様、願っております。
⑥学童保育室・放課後子ども教室について ○学童に入れるかどうか不安です。又、学校でいじめにあった時、対応が誠実で、クリアなものか大きく関心が有ります。 ○来年小学校にあがった後、仕事を続けられるか心配です。パート勤務なので、学童に入れられるか、もしくは仕事はやめないといけないかと今から考えています。幼稚園の延長保育のように1時間単位で預ける事が可能な場所があればいいのと思います。 ○越谷市は住みやすくとても大好きですが、同居している祖父母がいるからといって保育園や学童に対して入れなくなるマイナス点があるのは不満です。かわいい孫とは言っても仕事をしている私達の間、夏休みも毎日学童に入れずお世話をしていただくのは大変。もう少し考えて頂きたいです。祖父母だって好きな事をしてもらいたいと思っています。 ○幼稚園に通園している間は、長期休暇（夏休み、冬休み）も預かり保育があり、普段と変わらずに勤務ができました。パート勤務（週3～4日、1日4～5時間勤務）の為、小学校入学時には学童保育には入れず、長期休暇の時のみの外部学童は高額な為就労が難しいです。長期休暇に週3～4日、1日5～7時間で小学生が預けられる場所があると、とても良いです。 ○小学校に勤務しているが、東京の荒川区では、各学校に1～6年生まで民間に企業が入り、学校で15：00～17：00まで子どもたちを預かってきている。学童に入れない4～6年を預かってくれる所があると良い。 ○学童保育室利用を、就労している人は受け入れてほしい。（週3日以上、月○時間以上働いている人、ではなく） ○悩みですが、今、0才、7才の子育て中です。来年、復職を機に下の子の保育園を検討し、下の子は入れそうだったのですが、上の子の学童が入るのがきびしく（定員の）3年生～1人で留守番、又夏休みなど1日中1人で過ごさせないといけなくなります。弥栄小の周りにNPOや個人の学童もないため、とても困ってしまっています。どこか近くで大人の目があるところで過ごせれば安心して仕事にも行けるのになと思います。同学年の子の親でも来年から学童厳しいと言われているようで悩んでいる方がいます。
⑦一時預かりについて ○親の通院などの際の一時あずかりについて、利用したい時に利用できなかった事が多くあります。人数枠をもっと増やしてほしいです。 ○働きたい気持ちはありますが、保育園に預けることができないため、一時保育を利用しています。電話で予約をとろうとしても、1週間先まで満員ということもあるため、急用や私用で預けられる場所が近くになくて困っています。 ○一時保育を利用したが、生後4ヶ月～しか預けることができない。やっと4ヶ月だと安心した。産後の疲れで本当は2、3ヶ月でも預けられると助かる。 ○日ごろ感じていることですが、“一時的に預かってほしい”と思うことが多々あります。特に0歳児の場合、民間でも少なく、市での助けがほしいと感じます。
⑧病児・病後児保育について ○病児保育の充実を希望します。発熱時でも元気な時は預けられる場所があると共働き家庭にとってはありがたいです。 ○病児保育施設、定員を増やしてほしい。上の子ども（5才）の体調不良時に、預けにくく、父母のどちらかが仕事を休まなければならないので。 ○病児保育の拡充をご検討お願いします。子どもが週明けに体調を崩すことが多く、事前の医師の診断書の取得は大変難しいです。「つむぎのおうち」のような施設は大変求められているのではと思います。市としての支援はないのでしょうか。 ○子どもが体調不良の際、急に仕事を休むことが困難なことがありました。受診して診断書書いてもらって病児保育の施設へ預けるのもあまり現実的でなく、やはり順々に両親で休んでいく形となりました。両親も少し離れているので、気軽に利用できる預け先があれば有り難い。

⑨障害・発達の遅れがある児童への支援について

- 現在長男が自閉症スペクトラムと診断をうけ、障害と向きあいながら子育てを行っています。また、私も仕事で児童発達支援センターで働いており、様々な保護者とお話する機会もあり、子育てで悩んでいる話を聞く機会もあります。私も含め、障害や特性を持っているお子様の悩みを受け入れ、就学した際にもサポートしていけるシステムを作ってほしいです。就学前は医療と切り離されてしまったり、相談する場所が少なく困っている方がたくさんいます。
- 障がいがあっても笑顔でくらせる環境、情報。就学についての不安があります。
- 発達障害、グレーゾーンの子どもたちへの支援をもっと充実させてほしい。各学校すべてに通級をつくってほしいです。川柳小にないのはおかしいです。1,000 人もいれば必要な子どもたくさんいます。すぐにでも設置していただきたいです。学校でも生活し辛い子どもはたくさんいます。補助の先生をもっと気軽に、手厚くクラスに入れるようにしてもらえると子ども達も楽しく学校に通えると思います。何卒よろしくお願いします。
- 経済的なことを考えると仕事復帰したいが、自閉症の子どもの事を考えると仕事を辞めて時間をとらないと療育に通わせられない。公園に行っても他の子に何かしてしまったらどうしようと気にしてしまい（もちろん目も手も離さずつきっきり）夕方の他の子がいなくなってから遊ばせている。発達障害をもった子たちが遊べる場所がほしい。

⑩子育て世帯への理解・子どもにやさしいまちづくり

- 年子が3人いて、2人乗りベビーカーで移動することが多く、でもショッピングモールなど、とても嫌な顔をされたり、わざとぶつかったり、道をあけてくれなかったり、お出かけがおっくうです。もちろん理解してくれる人ばかりだけど、そういう一部の人がとても怖い。悩みを誰に相談すべきなのかわからず、結局抱えこんで終わります。
- 子育ては十人十色で各々のお母さんごとに悩みがあると思います。そんなお母さんやお父さんの声をしっかり拾いあげて子育てが楽しいと思える行政をおねがいします。大変だとは思いますが長期的に考えると越谷の子どもが増えると越谷がもっと栄えます。子は宝です。
- アパートに住んでいて、子どもがうるさいと苦情を受けていて、不安である。子どもの泣き声に対して、うるさいと言われたこともあり、子どもに対する理解が少ないと感じている。うるさいと叫ばれたこともあり、そのうち危害を加えられるのではないかと心配している。
- 子どもは今後の日本を支える為、保育や学費などを補助し多くの人が育てやすい街にしてほしいと思います。

⑪情報提供について

- 毎月、子育てネットに市内の支援センターのオープン日やイベントを一覧にまとめたカレンダーをあげていただくとよりわかりやすく利用しやすかったと思います。（今日はどこ行こうと毎日各センターのイベントをネットや紙のお手紙で個別に確認していた為）
- 地域情報紙があつたらもっといいなと思います。以前草加市に住んでいた時に月一回の広報誌で情報を得ていました。
- 子育ての情報について、自分から得ようとしてしっかり調べないといけいないので、月齢が低く余裕のない時期には利用することができませんでした。1つのHPで全てを網羅できると良いかなと思います。市の窓口で職員の方に支援センターのことを尋ねた際に、“分からないので新生児訪問の人に聞いて”と言われたのも残念でした。これから幼稚園のことを調べていきたいけれど、どのように情報を得ればよいのか分からず不安です。
- 保育園探し等大変だったので、オンラインの説明会などがあると里帰り先でも見られるので今後検討いただけたら嬉しいです。保育料についても複雑で難しかったのでそういった説明もあるとありがたいです。

⑫施設整備・バリアフリーについて

- レイクタウン＝イオンだけという感じです。小学校も読める本が少なく、遊べる場所も少なく、子どもたちも悲しんでいます。その状況を理解しようとして頂けているのか疑問です。
- 公園や支援センターに行きたくても駐車場が少ないかないのでなかなか行けないのが残念。
- 宿泊型の産後ケア施設がもっと増えて欲しいと思いました。
- 越谷駅みたいな授乳スペースを駅に設立してほしい。
- 市内の小中学校、保育所の老朽化が著しく、これから通わせるのに強い不安を感じています。老朽化対策はされているようですが、先日も石川県で倒壊している建物をテレビで見るとやはり建て替えを急ピッチで進めていただくことは難しいのでしょうか。

⑬ワーク・ライフ・バランスについて

- 3人目の子どもが小学生に上がるので、フルタイムで働こうと思うが、今まで子どもの行事など重視してきたため、参加できなくなるのはイヤだなと思う。自分に合った職場が見つかるのか不安がある。
- 現在は母父共に育休中であるが、父は24年3月から職場復帰します。子どもが18トリソミーの障がいがあるため、ワーク・ライフ・バランスについて考える事が増えました。東京に勤務しており、地元への転職も考えましたが、中々収入面で条件に合う求人がありません。障がいのある子どもの親に対し、転職や就労についてサポートがあると助かると感じます。
- 子どもの体調不良で仕事を休むことが多く、有休がすぐに無くなってしまい、負担になっています。経済的にも働かないと生活ができないためとても苦しいです。
- アルバイトをしたいが子どもが急に熱を出したり、周りに迷惑がかかると思い働きにくい。託児所付きの職場がもっとほしい。

⑭子育て支援サービス全般について

- 3人目の妊娠を希望しているが現在未就園児2人の育児で手がいっぱいなので、不安が大きい。妊娠中や産後のサポートで上の子を気軽に預けられる制度がもっと整ってくれれば嬉しい。
- 自分が生まれ育った場所＝越谷が好きで自分も越谷で子育てをしているが、様々なことで子育てしにくいと感じる。多子世帯・多胎世帯へのサポートが皆無なので、ここで子どもを産んだことを後悔している。多子・多胎ゆえに本来必要ない支出があるので経済的なサポートもしてほしい。子ども手当では全然足りない。5才、3才学年年子+2才双子（3番目、4番目）という4人を抱えて毎日心身共にギリギリで生活しています。お金は赤字続きです。双子をなんとか保育園に入れてパートをはじめましたが、子どもの体調不良で月3万5千円稼げたらマシな方です。双子を保育園に入れる際にも「2人同時に同じ保育所に入れたいなんてほぼ無理ですよ」と笑われました。他にも1人で4人を連れて歩くと周りに迷惑がられ、越谷がこんなに子育てしにくい町だとは思いませんでした。老人よりも子育て世帯へのサポートをもっと手厚くしてください。インフル予防接種とか。4人で26,000円かかりました。
- 子育て世代ファーストな政策をお願いしたいです。明石市のような5つの無料化をはじめ、越谷市だからこそ子育てがしたいと思える政策を希望します。また、母だけではなく父親も平等に育休取得できるようにしてほしいです。増税や政治不信で産み控えが増える中、越谷市で子どもたちの未来に繋がる明るい政策ができれば嬉しく思います。ご検討の程、よろしくお願いいたします。子どもの人数にかかわらず、受けられるサービスを望みます。1人産んだら、2人…3人…と産みたくなくなる制度が欲しいです。
- はじめての育児で不安が大きい中、助産師訪問が1回では不安が解消されません。また誰でも安く産後ケア事業を利用できるようにしてほしいです。

⑮小学校について

- 1年程前から小学校の登校時刻が15～20分ほど遅くなり、親の仕事への出勤時刻に間に合わない。大人の仕事のリズムは変わっていないのに、子どもだけが変化し、「鍵を持たせて自分で閉めて行きなさい」というのもまだできる年齢ではないため困っています。
- 4月から川柳小学校へ入学予定ですが、通学に40分かかるのでスクールバスを導入してほしいです。また小学校に入るとPTAや親が卒業までに課されるポイントなどの負担が大きいと聞いて不安です。子育てと仕事の両立支援は小学校に入ってからでも必要ですので、支援を充実させてほしいです。
- レイクタウン地域に小学校の建設

⑯子育て支援センターについて

- 越谷駅付近で支援センターがない。室内で遊べる場所が欲しい。宮本町に出張所はあるが月1回のみ。イベントはなくてもいいが大人も休める場所がほしい。
- 越谷市は、支援センター等の施設も多く、子育てしやすい環境にあると思います。
- 子育て支援センターがほとんど保育園にあるので、週に何度（1回等）時間も1時間程度となっている所が多く、もう少しのんびりできたら良いと思います。以前吉川市に住んでいたのですが、平日と土曜日（たまに日曜日）、朝10:00～15:00まで、自由に遊びに行けて、スタッフの方もいつも話をきいてくれて、とても良い環境でした。越谷市には、吉川市のような支援センターが1つもないのが残念です。

⑰家庭での子育てについて

- 仕事が忙しくなってくる繁忙期になると子どもをあまりかまっていられず、疲れていると自分の余裕も無く対応がきつくなってしまうのがかわいそうだなと思います。もう少し、時間にゆとりがあればなと思います。
- 日中働いているため、帰宅後～子の就寝まで十分な睡眠時間を確保できるようにすると、子どもとゆっくり過ごせず、どうしてもバタバタ時間がすぎてしまうため、もう少しゆったりとした気持ちで接することができれば良いと感じる。今後子どもが小学校へ入学するようになるともっと時間の確保も難しくなりそうだなと今から不安を感じることもある。
- 子どもと過ごすうえで大切にしていることは楽しむことです（親も一緒に）。また、夫婦間の会話や大人が話す内容、言葉遣いは子どもにとってはお手本となるので注意しています。

⑱児童館について

- 越谷市は児童館が少なすぎると思います。市に2ヶ所しかなく、最寄りの越谷駅、北越谷駅には無く、車もないので電車と徒歩で30分以上行くまでにかかります。これでは気軽に行けません。食事もさせてもらえないので1日ばかりで行くこともできません。唯一子育てサロンはぐはぐの出張サロンが歩いてすぐの所でやってくれていますが、週1回しかないので利用が難しいです。児童館は気軽に行き帰って来られる距離感の場所にあるべきだと思います。せめて東武線の各駅から歩いて行ける数の児童館を設置してほしいです。暑い夏、寒い冬は屋外の公園で小さな子は遊べません。ぜひご検討お願い致します。
- 家で休みの日過ごしていると動画を見過ぎたり不安があるので外で過ごすようにしています。公園もたくさんあるし助かることもありますが、児童館、市民プールは施設が古く、料金が安く遊べるのに利用しづらいです。結果、遠方や有料施設を利用し、休みの日もお金を使ってしまうことが多いので、リニューアルを希望します。
- 幼児が雨の日には遊べる施設として児童館があるが、施設が古く、おもしろくない。もっと工夫してほしい。

⑲幼稚園について

- プラス保育の制度を利用したくても毎回落選してしまう。共働きでも優遇されない状況がある。
- 幼稚園に通わせたいですが延長保育を19:00までに延ばしてほしいです。
- 夫婦共働きの家庭が多くなっていく世の中なのに、延長保育（幼稚園）が18時まででは短い。せめて18時半までにしてくれないと、3歳からの選択が狭まる。

⑳相談について

- 息子に対して、強い言葉を言ってしまったり、手が出てしまった時期がありました。その時すぐ反省して、主人や親にすぐ相談し、育児への焦りが減り、楽しく前向きに切り替えることができました。公共機関でも相談できて心の整理ができました。今は言葉の遅れを改善するため保健師さんと相談しながら進んでいるところです。
- 発達面で気になることがある。そういう事を相談できたり、簡単な検査ができるようなことがあればうれしいです。
- 常に悩んだりしたらすぐ相談できる所があれば良い（あったとしても、分かりやすく！）。悩んだらココ。って場所があると良いです。

㉑教育について

- 子育てに行きづまっている人が多いと感じる。一人一人に向き合うことが求められる現代の子育てに対して教員の数が少なく、現場は教員のモラル（時間外労働など）でなんとか回っている。ADHDなどの困りごとを多くもつ子どもも増加しているのに、教員の数はそのままなのは大問題だと思う。松伏町は小学校の教員の数が多いそうなので、ぜひさんこうにしてほしい。
- 越谷市（特にレイクタウン）の児童の数が増えているのに、小学校など教育施設の数が増えたりしていないように思います。人数が多いせいで当然受けられるべき教育の機会が奪われているような気がします。自分の子どもの時と比べてしまい、かわいそうになります。人口を増やす前に、学校等の施設を増やすべきだと思います。
- ワンコインで好きな時に行ける習いごとや、安く行ける習いごとがあるといい。色々な経験をさせたいが、気軽に行ける場所があるといい。

⑫サロン活動について

- 4歳と1歳の娘がいます。育児は日々学びがあり、子どもと一緒に親も成長しているように感じます。子育てサロンを通して知り合ったママさんと色々な育児の情報交換をすることもでき、話をすることでリフレッシュにつながっています。同じ悩みをもつママカフェタイムなど…♪
- 近くに子育てサロンや広場がなく、開催頻度が少ないのでもう少し回数をふやしてほしい（大袋ふらっと）送迎があればありがたい。孤独に感じることもあり、社会からも取り残された感覚になる。

⑬イベントについて

- 去年の越谷市民祭りでは、テレビで活躍中のヒーローショーやワークショップ、空気で膨らむ遊具など、5歳も2歳も思いきり楽しむことができました。普段の遊びでは経験できない事を体感できる機会があると、とっても助かります。また大きなイベントがあった際は参加させていただきます。
- 子どもが参加できるイベントをどんどん増やしてほしいです。

⑭認定こども園について

- 子ども園の自費保育料が高い。（現在は第3子のため、今は免除されているが、上2名のときは負担が大きかった）
- 現在、認定こども園に1号認定（新2号）で入所し、延長保育を利用しているが、預かり保育料が負担となっている。入所申込前の説明会時には、市の補助にてまかなえる案内であったが、直前の説明会にて、費用の値上げの案内があった。2号認定での受け入れ人数を拡充させて欲しい。

⑮子育て講座について

- 父親教室について、父親の育児参加の支援を市では色々と開催してありますが、肝心の本人（父親）が開催していても行く気がなく、そもそも調べることもしない。自ら育児をしようとする人は自分で何をすべきか調べると思う。だから、企業（会社員なら）等で開催してもらって、そこに勤めている社員は強制参加にするように国から働きかけて欲しい。まずは、埼玉の企業だけでも義務付けることはできないでしょうか。何で母親は毎日試行錯誤して育児してきて今があるのに、それが母親なら当たり前でできることだと思われるのでしょうか。
- コロナ禍の出産だった為、出産の立ち会いもできず、面会も制限があった為、主人が今現在も父親としての責任感をきちんと持てていないことに悩んでいます。父親学級や、男性向けの子育て教室等、男性がもっと育児に向きあう時間や、育児への理解を深められる場があると良いなあと思っています。

⑯ファミリー・サポート・センターについて

- ファミサポの利用の流れがややこしく、手続きも多く結局希望にそぐわず利用できませんでした。もっと簡素化して、利用しやすくなるといいなと思います。面接等もZOOMなどでできるといいなと思いました。

⑰その他

- アンケートが長いこともあり、オンラインでのアンケート実施ができた方が回答する方も回答しやすかったのではないかと思います。
- 一時期話題になった埼玉県の子育てに対する政策（留守番やゴミ出し時の対応等）子どもを1人にしてはいけないのは理解していますが、考えられた方はとても想像力に乏しい方だと思うので、周りの方々が教えてあげられた方がよろしいのではないかと思います。この政策が無意味且つ不必要である事をお伝えしていただきたいです。
- 不妊治療により2人の子どもに恵まれましたが、子どもはたくさん欲しいです。欲しいと思い人が妊活できるように支援してほしいです。保険適応になっても治療費は高いです。適応されないものもあります。他の地域では手当てが出る所もあるようです。ぜひ頑張ってください。
- 喫煙をなんとかして欲しい。店出てすぐの場所や駐車場でたばこを吸う人がとても多く、子どもへの負担が気になる。コンビニ等の喫煙所なども。
- 産後うつや育児ノイローゼに関する講座はよく耳にしますが、“産後クライシス”の講座もぜひやっていただきたいです。なかなか表に出てこない“産後クライシス”ですが、どの家庭も少なからず産後クライシスを経験していると思います。父になる男性に産後の母がどれだけ大変か知ってほしい。

(2) 小学生調査

①遊び場について

- バスケができる公園が少ないので、公園などにバスケットゴールを設置して欲しい。
- 昔は小学校で放課後遊ぶことができました。現在は学童があるからなのか、学校の校庭で遊ぶことができないのが残念です。子ども達だけで公園で遊ぶのが心配な家庭は、なかなか子ども達だけで遊ぶことができません。放課後の校庭開放を希望します。
- 雨天時に屋内で遊べる場所を増やしてほしいです。
- 自宅付近に公園がありません。なので車で公園に連れて行きたいのですが駐車場がありません。湖畔の森公園の様な公園があると助かります。
- 公園に古くなって遊ぶことができなくなった遊具がずっと置いてあり、ようやく撤去されても新しい遊具ができない。時計のない公園で、いつも子ども達が時間を尋ねてきます。放課後、家でゲームやインターネットを観るより、公園で誘因と体を動かして遊んでほしいので、公園等の環境整備を充実させてもらいたいです。
- 地域によって公園が近くにない場合があったり、かたよりがある気がします。子どもたちが遊べる広場やスペースがあってもボールあそび禁止の看板があったり、昔に比べると外でのびのび遊べる環境が少ない気がします。下校時間に地域の方がパトロールしてくれている地区もあるようなので、そのような点は安心だしとても助かると思います。
- 場所によっては公園が少ないかせまいところがあるので、少し広めの公園が宮本町から神明町にかけてあるといいとずっと思っていました。東越谷や花田の方は多いのになとずっと思っています。
- 大袋幼稚園前に新しく作っている公園、子どもたちが安心して楽しく遊べる場になることを期待しています。
- 下間久里付近、学区内に子どもが遊べる公園がなく困っています。あすばる等を子どもに開放してもらえたりできると嬉しいです。
- 大成2丁目に住んでいますが、徒歩で気軽に行ける場所に公園がほとんどなく、ほぼ家ですぐすことが多く感じています。安全で、子ども、お年寄りも一緒に活用できる公園が増えてほしいです。いつもは公園に行く際は車で増林まで行っています。
- 外で遊ばせたいが遊べる場所が近くにない。学校へは徒歩 30 分かかり、近所に公園もない。

②小学校について

- PTA のあり方について、小学校では宛名の兄と姉の時に 1 人につき必ず 1 回は PTA 役員をやらなければいけません。中学校でもやりました。役員の集まりがあるたびにパートを休む、夜に集まりがある時は子どもたちだけで留守番。はっきり言っておかしい気がする。さいたま市のように日 P から脱退して外部委託してほしい。
- 小学校で毎日校庭が使えない為、運動量が少ない気がします。
- 思春期に入り、友達関係や学校での様子、勉強の習熟度が本人の話からは分かりにくくなってきているので心配や不安に思うことがあります。小学校での先生との面談をなるべく希望して、様子を聞けて安心できる機会が増えるといいなと思います。
- 仕事をしながら学校の活動を行うことは大変。ただでさえ仕事、家庭、子育てだけで精一杯。PTA 活動や立哨当番など、正直働く親には負担が大きいです。そういうところも市には協力して頂けると助かります。
- ボランティアで小学校によく行くが、授業中の集中力が欠如している子が増えた。以前は各クラスに 1 人いるかどうかだったが、ここ数年の間に急増した。話が聞けない・物事が進められない子が各クラスに 3～8 人いる。フルタイム共働き、コロナなど要因は色々あると思う。「預ける（人任せ?）」だけではなく「育てる」環境を作してほしい。暴力的な言動をする子も多く、自分の子が被害にあいそうで心配。また、このまま中学生になっても、このようなクラス運営ではさらに二極化がすすむと思う。
- 小学校の PTA が苦痛。フルタイムで働いていると、平日に休みをとる事が増え、有休があつという間に消化されてしまう。外部に委託できないものなのだろうか？
- こちらで要望することではないのですが、どこに言ってもむずかしいので、市で決めてくれたらありがたいです。学校の旗振りですが、1 ヶ月に 2 回あります。幼児をおいていかなければいけないし、小学生のこの見送りができないので不安です。又、働く人にとっても時間的には大変だと思います。もう少し減らして欲しいです。大きい道路は業者などお願いしたいです。PTA に間

しても働いている人ができないので働いてない人の仕事量が増えるので、サポートしてもらえるなら、こういう所にも気付いてほしいです。働きやすい環境を考えるならサポートをお願いします。

- 小学校の少人数学級は、とても良い取り組みだと思う。40人クラスと25人クラスでは、見てももらえる時間が大きく異なります。これを、中学校までやって頂きたい。そうすれば、不登校やいじめも少なくなると思う。花田などに比べて、平方地区は、公園もきれいでなく、少ない。子どもにとって不公平だと思う。
- 小学校を増やしてほしい。子どもを大切にしてほしい。皆、不満に思っています。
- 今回のアンケートに関係ないですが、小学校のPTA活動にとっても負担を感じています。そもそも小学校の行事は平日が多く、更にPTA活動の為、仕事を休まなければなりません。そうすると退職もかんがえなければなりません。今、そこに負担を感じています。PTA活動、どうにかならないでしょうか。

③安心・安全について

- 学校の登下校の安全性を考えてほしい。様々な場所に防犯カメラの設置してほしい。
- 不審者情報が多く寄せられ、心配して居ります。防犯カメラの設置、パトロールの強化などご検討いただけると有難いです。
- 街灯が少なく、特に冬は危険を感じます。通学路も冬は夕方真っ暗です。今の家に住んで1年ですが、これほど暗い場所は初めてだからか、不安に思っています。
- 子ども達の安全を最優先してほしいと思っています、登下校に付き添うと、我が子以外で危険な場面を多々目撃します。交通ルールを守らない大人の車や自転車が、見守りがとても不足していると感じています。
- 通学路で危険な場所が多い。個人的にはセブンイレブン越谷川柳3丁目店近くの端、道路を走って子ども達は登校するが、交通量が多く、なかなか渡れない。行き帰り共に危険なので何とかして欲しい。道路の白線が消えかかっている場所が多い。
- 大袋駅東口側の道路の整備をして欲しいです。(ロータリーを含め)車・歩行者・自転車が、子どもだけで自転車であの道を利用するのはいつも心配です。
- 放課後、習い事へ行く際、親は仕事をしていて送れないので1人で行っていますが、冬場は暗いので道中心配ではあります。自転車につけるライトを増やしたり、車のライトに反射して光るような物を衣服につける事で対策しようと思っています。こういった子どもの安全を守る物を、市から提供しても良いのではないのでしょうか。
- 花田5丁目の花田第5公園から業務スーパーに出る道路の街灯が少なく、夕方と夜がとても暗いです。冬の時期は暗くなるのも早く、さらに街灯が少ないので子どもが帰る時(放課後)不安。あと、信号に間に合わせるためか車が速いので、何か対策して欲しい。朝、車がすごいスピードで走っていくので登校の時にヒヤとする。子育てというより、道路に関してばかりですみません。ですが、一考して頂けると幸いです。
- 登校が片道3kmあります。夏場の暑さの中、日かげもなく歩かせることがとても心配でした。夏の暑い時期だけでもバス(通学バス)で登下校させたいです。料金を支払ってでもバス登校をさせたい家庭は多いと思います。
- 外で遊んでいる子どもに防犯速報が伝わる方法はないかと悩む。自分は仕事なのに、近所の不審者情報が届いた時不安。学校やボランティアで公演にいる子に帰宅するよう声をかけてもらえたら少し安心します。
- 放課後に遊びに行くことや習い事が増え、1人でも安心して行ける様GPSキーホルダー等の貸し出しなどがあるといいなと思います。
- 子どもだけで放課後外で遊ばせる事や、1人で習い事へ行かせるのが不安。放課後友達と遊ばせる時間を作ってあげたいが、習い事があるので時間がないのが悩み。

④学童保育室・放課後子ども教室について(放課後の居場所)

- 低学年の現在、週1で仕事をしています。主人が(通常家から仕事)外勤の際だけ、学童の利用ができるとありがたいです。(主人の外勤と私の勤務日が重なってしまう日)
- 幼稚園の時はプラス保育を利用し、私自身(母親)ももう少し仕事できていた。小学校に入ってから長期休暇は、弁当持参の負担が大きく、学校の学童ではなく、民間学童を利用している。小学校の学童でも、長期休暇でも給食(のかわりになるような弁当でも)を利用できると、もっと労働時間を増やせるのと思っています。
- 母親を働かせたい割には、子どもを預ける仕組みが不十分だと思いました。幼稚園では1日のあ

ずかりもしてくれるのに、なぜ小学校ではできないのだろう。なぜ幼稚園では先生がそのまま放課後もみてくれるのに小学校は別の施設になるのだろうと不思議です。学校の学童の広さによってキャパが違うのも変に感じます。小1～長くても3年くらいしか入れないのに、小4からはどうするつもりなのか、安全だと考えているのか、小学生の居場所をもっとしっかり決めてほしいです。

- 小学3年、1年の子どもがいます。今1番心配しているのは、放課後の過ごし方です。学童に受からなかった場合、どのように過ごさせたら良いかが分かりません。埼玉県で以前挙げた条例改正案のこともあり、仕事をしながら子育てする難しさを感じています。小学生の間だけでも、安心して過ごせるように居場所の充実を求めています。
- 8歳と4歳の子どもを育てています。下の子が幼稚園に入ったタイミングで、プラス保育という制度があったこともあり、パートタイム程度ですが仕事復帰しました。プラス保育についてはとても助かっています。小学生でもそのような制度で学童が使えると助かります。小学校低学年は帰りも早く、長期休み期間の問題や、長期休み前後の学校の短縮授業が多く、仕事に行けない日が多く困っています。
- 学童に入れない子どもが多いと聞いているので、4月から小2になる子どもが学童には入れるのか、結果が分かるまで不安です。入れなかった場合の受け入れ先や私立の学童保育の設立など、子どもが多い地域の対応を早急にしてほしいと思っています。
- 大沢北小の学童を利用。施設も古いし、冷暖房の効率も良くない。(プレハブの為)生徒数の関係もあると思うが、ある小学校では、4年5年まで学童に通えるが、大沢北小はほぼ3年生いっぱいまで追い出される。(1クラスの為)トイレも和式だし、クラスの差もあるし、親は学童を選べないし、同じお金払っているのと思う。ただ先生方はとても良くして下さっている。長期の休みの際は事前申請で7:30～受け入れてもらえるが、振替等の休みは8:00～なので困る。7:30～受け入れをデフォルトにして欲しい。
- 学童保育を申請して入れない期間があり不安でした。高学年になるとますます入りにくくなる為、放課後の居場所を作ってほしい。特に、学童に入れない場合、長期休暇中がとても困ります。夏の保育はあっても、冬・発の一時保育がないのが今後不安です。毎日ではなくても一時預かりなど、気軽に利用できる預かり施設を作ってほしいです。
- 学童でのおやつについては利用開始当初より不満に思っています。意見を伝える場がなく、仕方がなく受け入れているが、おやつのことだけみても、他の学童に変更しようかと本気で悩んでしまう程です。おやつも含め、地域全体で食育できる仕組みがあると良いと思います。

⑤家庭での子育て、子どもへの接し方について

- 自分のキャリアと子育てとの両立には悩みます。ですがやはり子どもの安全や教育面を考えると人にまかせきれない部分がありフルタイムでの仕事は考えられずにいます。パートだとしても小学校低学年のうちはやはり「おかえり」と学校から帰ってくるのを迎えられたらよかったと思います。(上の子が小学生までは家にいたので)今の子育てとしては、ネット・スマホの使い方、学校でもデジタル化が進んでいるが、小学校までは紙ベースでよいのではと感じています。使い方はすぐに覚えるから大丈夫だと思います。情報の取捨選択やメディアリテラシーが理解できるようになってからでも遅くないと思います。与えて傷つくのが子どもでは悲しすぎます。あとは親世代も若くなってきているので親の教育も必要だと思います。
- 母子家庭で現在両親と同居(実家に住まわせてもらっている)だが、マンションなので部屋数が足りない。子どもの部屋がないので友達が呼べない。もう中学生になるのに、1人部屋がなく、子どもに申し訳なく思う。転校したくないという希望があるので千間台西で探すけれど、それだとあまりの家賃の高さに引越できない。自分が頑張って子どもと過ごす時間を減らして、長期休みなども働いて、それで給料が上がっているのに、母子手当が毎年減給されて、それならパートで良かったのではと思う。子ども二人いるので満額に戻してほしい。時々大変すぎて苦しすぎて、どうしたらいいのかわからなくなります。
- 多子世帯で夫婦共働き、母親である私もほぼフルタイムで働いております。小学生2人と中学生1人で、中学生は塾に通わせていますが、小学生は習い事をさせたことがありません。費用や送迎のこと等を考慮するとハードルが高く、教育格差を感じ悩んでいます。
- 自分の意見を言ってくれない。何がしたいのか、考えが分からない。「親」としてよりは近い距離で会話してくれるように、常に同じ目線でいられる友達のような母でいるつもりです。様子も分かりますし、会話を大切にしています。
- 学校での緊張状態から解かれるとすぐに携帯やパソコンでゲームをしたり、動画を見ようとしま

す。何とか別の活動で満足感を得てくれるといいなと思いますが、習い事の他に家にいる時間、ケータイ、パソコン以外に熱中できる事がみつかるきっかけができればと思っていますが、なかなかみつからず、みつかったとしてもすぐにあきてしまい、ゲームやパソコンに流れがちです。時間ばかりが過ぎてゆき、子どもはどんどん大きくなり、焦っています。

- 父親がほぼ不在で、平日は母親と子どもだけで過ごすのが家のこと（洗濯、食事作り、買いものなど）が重労働で大変。越谷市の問題ではないが、父親がもう少し早く帰宅してくれたら…と思う。「お母さんはいつも穏やかに」とか「いつも笑顔で」とか本などで見る度に、自分の感情を表に出してはいけないのかと何ともいえない悲しい気持ちになる…そんな毎日です。
- レイクタウンに子どもが集中しているため、近所に友だちが少ない。レイクタウン地域まで距離もあり、交通量も多く、中々1人自転車で行く事がまだできず、放課後家で過ごす事が多いです。
- 子どもが家にいる時はほとんどユーチューブかゲームになってしまい制限させる事が難しく。ユーチューブならどういふのを見せたら楽しんでみてくれるのか分からない。自分で変なものを出して、悪い言葉を覚えてケンカ口調になってしまう。急に見せない事もできず、どう付き合っていけばいいのか。そういう指導してくれる講座などあったら（日曜日）参加したいくらいです。
- 子どもの自立してほしい親の気持ちと、かわいがりたいが、過保護に育てたくない気持ちの中で、家族内での関わり方のバランスを悩みます。
- 反抗的な態度をとられた時の親としての対応に思い悩むことが度々あります。私の年齢的に更年期に入っており、お互いイライラして関係が悪い状態が続くこともあります。その時は関わらずに、少し様子をみています。

⑥子育て世帯への経済的支援について(児童手当含む)

- 年収による子育て支援の差異はなくしてほしい。頑張って働くと支援されないのはおかしい
- 2年後に下の子が小学校入学を控えており幼稚園では預かりが月 64 時間以上勤務で助成が出るのに小学校では月 8500 円かかり助成がないのは何故か。以前住んでいた板橋区は 16 時 30 分（冬）、17 時 30 分（夏）まで無料の登録制で学童に行けたので、越谷市でもぜひそういうシステムを作って欲しい。
- 市への要望で、給付金がいつも非課税世帯ばかりなのはなぜですか？ 給付金が入ったとしても、全て主人に入ってしまう、我が家では子ども達に活用されず主人の娯楽費になってしまいます。もし給付を行うならば、スーパーなどで使用できる商品券や品物と交換できる券でお願いしたいです。他の家庭でも同じような方がいるかもしれません。検討をお願いします。現金配りはどういいです。
- 10,000 円など臨時のお金を頂くことはありがたいですが、それより子どもを育てやすい街作りなどにお金をかけてほしいです。
- ひとり親に対する支援が十分でない。経済対策をお願いしたいです。
- 子ども2人いますが、一番援助が少なく経済的に厳しいです。少子化対策で3人目以降を優遇するのは分かりますが、子どもはみな平等にしてほしいと思います。経済的に余裕があれば、仕事も減らせるので、子どもとの時間を優先する事ができるし、子どもが学校から帰ってきた時に家にいる事ができるのではないかと思います。
- 手当で等金銭的なサポートの充実を希望。（年に1回臨時に1万円支給（所得制限なし）、年に1回子育て世帯に商品券を配布、等）
- 私立高校の無償化を望む。
- ひとり親でも収入面で支援が得られないことが多く、不公平感を感じる。子どもが多い家庭や生活保護への支援だけではなく、ひとり親への金銭的な支援をしてほしい。収入に関係なく。
- 小・中学校の給食費を無償化にしてほしいです

⑦子育て支援サービス全般について

- 私も主人も地元なので、越谷のことをよく分かっており、住んでおりますが、他の行政に比べると残念な制度だなと思うことは多くあります。また、東京から近く、ベッドタウンでありながら、共働きにはまだまだ魅力を感じないと思います。さいたま市や流山市の方が住みたいと思うので、もっと力を入れて欲しいと思います。専業主婦の世帯が得するような制度には、もううんざりです。
- 東京都のように子育て政策をどんどん行って欲しい。すぐ隣同士の東京と差がすごいと思っています。
- 申請書類のオンライン申請を充実させてほしいです。フルタイムで働いていると申請書類をとり

にいて再度出しに行くのは有休を使うことになり、インフルエンザ等で有休がないとき、とても大変でした。今後ますます働き手の減少する時代になるので、システム充実を望みます。私の仕事関係が（商談も含め）ほぼオンラインで完結しているので、市役所でもすぐに可能なことに思えます。

- 他の市と比べて、子育て、教育に関して越谷市は遅れている気がします。
- 講座や窓口や、クワイエのような取り組みがあるのは知っています。ただ、それらはマニュアル通り、表面的で、子育てのリアルに届いている感じが全くしません。役所の言葉は大体そうですが、それらしい言葉だけど現場の息づかいとか、人間の感情や機微をゆさぶるような深みがない。“やっている感”しかない。ハードを作って欲しいのではありません。生の人間関係が築けるような仕組みを考えて頂きたいです。
- 男性の育休取得を推進するより、子どもの急病時に快く休ませてくれる職場環境を作ってほしいです。看護休暇も、2人以上（年間）10日は少ないです。子育て経験者を管理職にして欲しいです。子どもがいない人、いてもパートナーに任せきりの人が上司だと、子どもの急病で休むことに理解がないから。学童は現実小学3年生で入れたらラッキー、というレベルですが、小3で家での留守番は無理。時短勤務できる年齢を引き上げるか、もう少し学童の受け入れ幅を広げてください。
- 子どもが3人いて、フルタイムで働くことで毎日精一杯で余裕がないです。（パートで働くと経済、金銭的に足りない）家事手伝いサービス等、充実させていただけるとありがたいです。
- 当該児童が幼い頃、就労したいと思ったものの仕事をしていない状態では保育園にも預けられず（定員オーバー）負担がとても大きかった。「無職＝余裕がある」人ばかりではないので、公的サービスを充実させて欲しいと思う。

⑧こども医療費、小児科、小児健診について

- こども医療費の補助を18歳に延長してほしいです。
- こども医療費支給制度の拡大ありがとうございます。子どもが増えれば市の環境もよくなると思います。働き世代が増え、税収も増えます。学校などの施設のリニューアル、教育レベルの向上にぜひとも力を入れていただけるといいと思います。
- 朝、生活サポートを頼みたいが、6:30～7:30（登校）の時間帯に支援が受けられない。
- 休日診療がもっと増えるといいなと思います。やはり診療時間内などに行けなかったり、急に歯が痛いなど始まった時に、行けるところが多いと、たくさんの方がたすかると思います。うちは、下の子が年末に歯が痛みだし、歯肉がはれていましたが、病院など正月休みに入っていて行く事ができませんでした。休みの日に限ってという事があると思うので、そこが充実してくれると助かりますし、うれしいです。
- インフルエンザのワクチンの助成がほしいです（1回でもいいので）
- 地域の子どもの数に対して小児科が少なく、受診させたくても予定数の上限で受け入れてもらえず、家で寝ているしかできない事がある。引っ越してきて5年たつがかかりつけ医が決められない。小児科を増やしてほしい。（レイクタウン地区）
- 子どもの予防接種の時期等が分かりにくい。忘れやすい。誕生日等登録するとお知らせが来るようなサイト（アプリ）があるとうれしい。どこからも指摘されないのが不便。忘れてしまう。気づいた時には期限切れ。（予防接種がどこでも受けられないのが不便。最初から受けている子しか受けられない。転入した際に数ヶ所にことわれました）

⑨子育てに掛かる費用について

- 物価高による子育て費用の負担。経済面での不安。
- 0～2才への保育料が高いです。
- 明正小に通わせていますが、指定の物がとても多く、（上履き 2,500 円、冬のみ着るジャージ上下 6,000 円など）経済的負担がものすごいです。なぜ指定の物でなければならないのか、という理由も明確ではなく。公立でここまで高価な物を強制的に買わせるのはどうかと思います。学校や委員会に改善を求めても、全く状況は変わりません。また、給食も未だに全員前向きな黙食を強いられているようです。公立小の改善を切実に願っています。
- 妊娠、出産でお金がかかりますが、子どもが成長すると更にかかります。給食費等の無償化を検討してもらえると助かる世帯は多いと思います。
- 子どもが小さい時は働きたくてもなかなか時間が短かったり、病気の時にあずけられる場所等難しかったり、収入に対してあずけた場合の費用が見合わなかったりする。子どもに関する費用（小さい時はオムツ代、ミルク代等、幼稚園保育園料、給食費、高校、大学の学費等）が軽減さ

れれば共働きせずに子どもが小さい間一緒に過ごせる家庭は多くあると思うので、今回医療費が高校生までになったように、色々と金銭面での支援があると助かります。また子どもが多い家庭に手厚くして欲しい。わが家は子どもの年齢が高校、小学 5、幼稚園とはなれていることで、3人いてもはじかれてしまう制度がいくつかあるので、年齢差は関係なく、子どもの人数で支援してもらいたい。この前も幼稚園の副食費が補助対象からはずれていた。

- 母子家庭だけではなく専業主婦で子ども 3 人育てているわが家のような家庭も経済的に厳しいです。私は働いていませんが、父の介護があり、月に何度も病院に付き添うため仕事ができせん。このような家庭にも給付金があると助かります。
- 保育料や学童費用等、兄弟の年の差があると半額になる割引サービスがうけられない。年の差に関係なく子育てにはお金がかかるので、公平にして頂きたい。0～2才の保育料も安くなることをのぞみます。

⑩障害児支援について

- 息子は最重度の知的障害、自閉症の為、自分自身が体調不良になったときに病院を受診することが難しい（子どもが病院で待てないので）。また子どもの健康診断や定期健診をおこなってくれるところがほとんど無いところが大変。
- 私は東広島市から転居してきました。上の子が小さい頃、発達障害の疑いで3才児健診の少し前にかかりつけの医師から専門の施設での療育をすすめられました。東広島市では、市役所に相談をするとまず市の担当の方による面談があり、その後市から療育園を紹介され、療育に通う…という流れになっていました。越谷市ではそういった支援がなく、自分で療育施設を探さねばならず、あまり施設も充実していない印象を受けました。上の子はその後しばらく獨協大学病院でお世話になっていましたが、必要無しということで通わなくなりました。発達障害と診断されるお子さんは年々増えていると聞きますが、親としては中々受け容れがたく、精神的、経済的な負担も大きいです。我が子はそれほど支援を必要としていませんでしたが、相談先が分からず、悩んでいる親御さんを何人も見てきました。もっと積極的な働きかけがあっても良いのでは…と思います。
- 今、うちの子は IQ としては「知的障がい」というレベルではないと言われている、いわゆる発達グレーな子どもです。診断がおりないので、この子にとって何が苦手で何が得意で、勉強はどのように教えれば、この子にとって苦ではないのか等、相談できる専門機関があれば相談したいんですが、わかりません。現在支援学級に就学していますが、それぞれの学校に専門の方を派遣してもらい、相談できるような仕組みを作って頂きたいです。
- 広報をいつも読んでいますが障害児が参加できるイベント（プール教室、ケーキ作り、そば打ち等）は皆無です。障害者（18 才以上）や健常者やシルバーが対象のものはあるが障害児（18 才以下）がこぼれ落ちています。インクルーシブの講演はどこにあるのか（越谷市内）分かりません。
- 障害児ということもあり、越谷市には沢山の支援を受けさせて頂いております。大変ありがたく、感謝申し上げます。我が家には障害児と健常児がおります。例えば、児童館では（主にコスモスに行くのですが）3F まで行くのに苦労したり、どうしても障害のある子のペースに合わせる形になってしまい、楽しい場所でも我慢をさせてしまうことも多いです。みんなが楽しくすごせる、結構難しいことかと思いますが、そんな集いの場所があったらいいですね。
- 上の子の時に、放課後デイサービスを利用したかったが、月々の費用が高いためにあきらめた。（補助金の対象外だったため）収入の上限枠を無くして欲しい。

⑪施設整備・バリアフリーについて

- 市内の公園の設備や使用の仕方等を改善していただきたいです。
- 南体育館のテニスコートをきれいにしてほしい。コートがすべる時があったり、ひび割れでイレギュラーする。平日の受け付け、それも午前中だけだから、仕事をしていると予約が取れない。電話でとれるようにしてほしい。
- レイクタウン内に図書館建設希望です。図書館の利用ができなくて不便と感じます。
- 大きな公園や施設を利用したいのに、駐車場が足りないので利用しにくい。遊びに行きたくても行けない。
- 大間野小の校舎の耐震性は大丈夫なのか心配です。災害のときにあのボロい校舎は大丈夫か不安です。
- レイクタウン地区は急に子どもが増えたことで施設の増築が間に合っていないように感じます。

⑫不登校児童・生徒への支援や居場所について

- 身近に不登校の子がいるので、もっとサポートやオンラインや色々対策が増えたら良いと思う。
- 息子が不登校で、適応指導教室に通っていますが、現在3教室全て定員のようです。娘もいつ不登校になるか分かりません。その時、定員で適応に通うことができないのは残念です。不登校児の受け皿がもっとほしいです。
- 1年生の2学期から1年以上、不登校となったが、経済的な事情により両親ともに仕事を辞めるわけにもいかず、親族は遠方で頼れる人もいなかった。市のフリースクールは車で15分と遠く、民間のフリースクールは開室時間が短く利用は現実的ではなかった。せめて近隣2～3校合わせて通えるくらいの範囲に市のフリースクール（のようなもの）があると利用しやすいのではと感じた。
- 今現在、小学校で不登校になっています。とにかく日中の居場所がありません。面談や体験トータル数ヶ月かかって、やっとおあしすへ通うことができましたが、とにかく不登校の子どもへの支援が全くなく困っています。学校では教員不足で別室登校も対応できませんし、仕事に行っている間、1人留守番となり、自習も学校のようにはいきません。不登校の子が日中から集まれる場所、とにかく同年代との交流ができる場所、安心できる場所、お願いしたいです。中学校もフリースクールを検討していますが、越谷市は少ないです。金銭面でもかなりの負担となり、過去一番不登校が多いと言われているのに、もっと越谷市と学校と地域が真剣に対応してくれる事を願います。
- 現在不登校であり、両親ともに仕事を持つため、付き添っての登校が難しい。私が寄り添っているが、毎日とはいかない。勉強にひとりで取り組むことは困難。オンラインで授業中の様子だけでも参加させてほしいと願う。これ以上、不安になりたくない。グレーゾーンの子どもたちに支援を。親にも安心を。

⑬ワーク・ライフ・バランスについて

- 保育現場が大変な状況になっている。（保育士不足、多様化、業務の繁忙等）により、保育を担う人の家庭のワーク・ライフ・バランスが大きく崩れている。とにかく仕事に子育てに必死な毎日を送っています。
- 学校は日が近くなると時間など予定がわからず、仕事との両立が難しい。帰宅後、夕食、入浴など子どもも親もやる事が多く時間がないのに、学童で宿題をやる時間は遅く、ほぼやらずに帰ってくる為、日々がアップアップ。複数子どもをもつことを求められているが、実際に育てやすい環境は整っておらず、経済的にも厳しい。もっと市のサポートが欲しい。子どもには不安なく日々を送れるように話を聞くようにしている。
- 子どもが小学生になると、保育園の頃よりも仕事がしにくいと感じています。平日の休みも多く、帰宅も早く、親の出番も多いため。学童は2年生までしか入れない事が多いようで、3年生以降どうすればいいのか悩んでいます。周りの母親たちは、学童に入れず、仕事を辞めた人ばかりです。私はこのままでは育休からの復帰もできないかもしれないと悩んでいます。
- 小学生になり少し手が離れたが、行動範囲が広がった事で心配ごとが増えていきます。私は自営で在宅の仕事をしているため時間に融通がきくので公園など、大人の目がない所には一緒に行き見守っています。仕事と子育ての両立でいうと自営業が保育所、学童にあずけるハードルが高いと感じるので、考慮してもらえるとありがたいと思っています。
- 子どもが体調を崩した時の預け先がないので、夫婦どちらかが仕事を休んで対応している。職場の理解があり、何とかやっていけるが、どうしても抜けられない時や仕事を調整する時は大変だと感じてしまう。

⑭相談について

- 子育ての悩みを教育関連施設（児童相談所）で相談しても、想定される回答しかもらえない。もしくは相談相手としてでてきた職員の方が、我々より年齢の下の方にアドバイスをもらうなど、なんの意味があるのかと思うことが多い。もっと専門的な相談所となって意味のある施設となしてほしい。
- 令和5年9月に子どもがコロナウイルスに感染してしまったのですが、それ以降、コロナの後遺症なのか、しょっちゅう体調不良で学校を休みがちになってしまいました。そのような時の気軽に相談できる窓口があると助かります。
- 市の窓口相談（TEL）しても受付に時間を要してなかなか先に進みません。色々な担当にまわされるが、毎回同じような説明をしなければならず、それも負担です。可能であれば最初に担当になった人が次の担当に引継ぎを行うまでは対応をして頂きたいと思います。

○発達障害のグレーゾーン扱いと言われたとき教育センターの相談の予約がいっぱいです。結局、もういいやってなってしまう。

⑮一時預かりについて

- 他の地域のように、小学校に学童とは別に、いつでも気軽に子ども（小学生）を預かってくれる所が欲しい。幼稚園では有料だがいつでも預かってくれる子どもの預かりがあったのでパートができたが、小学生になったら働くことができなくなりました。今子どもが3年生になったので、やっとパートで働けるようになりましたが、習い事などで経済的な負担が大きいので、1～2年生の頃は毎月赤字でした。
- 体調不良の時に預けられる所がない。両親のどちらかが休まないといけない。放課後の1人の留守番や長期休暇中の留守番が心配。1人では宿題等の勉強をやっても解らないところでつまずいて最後までできない。
- 子育てに集中したいが、生活の為に共働きをしなければならない。働く為に預け先を探してもどこも空きがない。もっと気軽に放課後の子どもを見てくれるような所がほしい。
- 「子育てと仕事の両立を」というのなら、低学年（1～3年くらい）までは、長期休み中や、短縮授業の際の子どもの居場所を提供してほしいです。（保育園や幼稚園のときの一時預かりサービスみたいなもの）小学生になったからすぐに留守番ができるわけではありません。

⑯児童館について

- レイクタウン周辺は子どもたちだけで行けるような場所が何もない。児童館のような集まれる場所があるといいなと思う。
- 児童館について、北、南、蒲生以外にもぜひ児童館を作してほしい。越小、花田小、城ノ上小、東小、西方小、あたり子どもたちは自力で日常的に利用することができずにいます。子どもたちは、真夏に安全に遊べる場所が家くらいしかありません。
- 児童館ヒマワリは、乳児～小学生まで幅広く楽しめる点字や催しがあり、とても助かっています。
- 子ども達が遊べる公園や児童館が少なく、放課後等に伸び伸びと遊べる事ができず親としては子ども達が不慣れに思います。また駅からアクセスの良い場所に児童館があると、雨天時でも未就学児を遊びに連れていけるので、越谷駅周辺に公園と児童館を増やしてもらえると嬉しいです。

⑰ファミリー・サポートについて

- ファミリー・サポートのような子育て支援を充実させてほしい。低価格で利用できる子育てサービスがもっとあればいいなと思う。
- ファミリー・サポートの活動報告を手書きから電子化を希望します。月に1回ハンコを押しに提供会員さんの家に行くのが面倒。
- ファミリー・サポートを申し込んだが、大人がいての子ども受け渡しのため、仕事で送り迎えができないお習い事の利用はできないため不便を感じた。
- ファミサポセンターを利用しましたが、ファミサポさんの少ない地域だったようで、対応していただける方を探すのが大変でした。

⑱イベント活動について

- コロナ禍もあり人との交流が減ってしまい、同学年の子を持つ方々と知りあう機会がないのでそういう場を設けてほしい。
- 小学校に上がるまで、近所の同年代の子ども達がどこにいるかが全く分からなかったです。就学前に地域で集まれる機会があればいいです。
- 夏休みや冬休み、春休み等の長期休みの過ごし方がいつも困ります。小学生の子どもだけで参加できるバスツアーに何度か参加して、とても楽しかったと喜んでいました。このようなイベントを今後も推進して欲しいと思います。
- 赤ちゃん、幼児期のイベントなどは以前より増えていると感じますが、小学生になるとあまりないので友達ができる場がありません。仕事があるので学校の活動にもほぼ参加できず、気の合う人がいればいいのに、とさみしくなります。

⑲就学前の保育・教育について

- 保育園に入れるか、これが一番の悩みである。保育園に入れなかった場合、仕事はどうすればいいの、と常に悩んでいた。気軽に2人目、3人目を考えられず、子育てしにくい環境だと感じている。保育士さんの給料を上げて人材を確保してほしい。学童も同様である。仕事をしている人

が多くなっている今、保育園と学童は必須である。早急に対応してほしい。また、学校に警察を導入して安心できる環境をつくってほしい。警察官がいるだけで悪いことをする人もへるし、安心できる。他市や他県の様子を見るのではなく、中核都市なのだから色々なことを取り組んでほしい。

- 保育園は沢山あって嬉しいが、保育士、学童スタッフの充実を図って欲しい。流山や松戸市を参考に、保育士手当てなどを考えて増やし、保育の質の向上を目指して下さい。
- 保育園が少ない。育休明け復帰できなかった。
- 先生の指導や質に疑問があります。先生の方針に合わないが発達支援や巡回指導を強く勧められます。子どもも親もいつも否定されているようで自己肯定感など高められません。先生の教育もされてはどうでしょうか。また、行政でお金がないのか、運動会や発表会が貧相で残念でした。

②⑩情報提供について

- 越谷市として、子育て家族に対する支援がどのようなものがあるか。どうしたら必要な情報が手に入れられるか、そもそも知らない。出産の際は、母親教室、健診などで、冊子をいただいたりしたが、小学生くらいになると情報が入って来ない。
- 今回初めて“こしがや子育てネット”のサイトを見ましたが、施設情報→地域から探す→北越谷→一番先頭に表示される石川医院。とうに閉院していると思います。事情はおありでしょうが、閉院した時はすぐ HP 上にその旨記載いただきたいです。特に小児科を標榜していたら尚更です。
- 放課後デイサービスに通所するまでの情報共有を分かりやすくしてほしい。
- 習い事をさせたいが、近所に何があるのか分からないので、市の HP などに一覧などがあると探しやすいと思います。

②⑪その他教育施設について

- 子どもが小学校に入るタイミングでフルタイムの仕事をやめました。学童に通わせたくなかったからです。自分が仕事をしている間、もっと子どもが充実してすごせる施設があればとおもいます。習い事の送迎サービスがあればいいなと思います。ファミサポでもやっていますが、マッチする人をみつけるまでの手続や手間がかかり利用しにくいです。
- 近くに図書館が無く不便なので、草加市のように地区センターなどで予約本受け取りや返却ができるとうれしいです。

②⑫その他

- 中学校の制服を市内で統一してほしい。校章などでわかるようにすればいいのではないかな。
- 中学校へ通う際の学区統一をして欲しいです。昔のなごりをいつまでも残す必要はないと思います。
- このような形式でアンケートを実施することはコスト的に非効率である。QR コード等を使って Forms に回答させるべきで、なぜこのような形式をとったのか理解に苦しむ。
- 紙で回答するのは手間だし封筒のサイズがおかしいと思う。またこの回答を手で転記するのは税金のムダ使いと感じずにはいられないです。

(3) こどもの生活実態調査

①経済的支援について

- 以前は児童扶養手当を受給していましたが、今は受けとれなくなりました。所得制限に該当するようになったため、いたしかたないのは承知していますが、一気に児童扶養手当、ひとり親医療費の支給対象外となった上、税金や物価は上昇しているので、正直、給料が上がらない方が良かった…と後悔してしまいます。所得制限の基準も物価上昇など社会情勢に合わせて更新しているのか、少し疑問に思っております。私よりもっと生活に苦しい方は特に、一時的な手当での支給ではなく、継続的支援を求めていると思います。
- 就学援助制度等、申請しなくても該当する人には使えるようにしてほしい。周りには分からないようにして。
- 子ども関係の費用は全て無料にしてほしい（おむつ、ミルクなど）
- 越谷市の医療保険制度が中学生までとなっているが高校生までに拡充してほしい。所得が高いと高校、大学の補助制度もなく子ども手当も該当しない。納税率も高いので手元に入るお金が少ない。子どもに関しては平等にしてほしい。（所得関係なく）そのため子どもは1人にしました。産み損なので…。
- 今回の対象児童ではないが、未就園児（0～2才児）の保育料が高く、仕事をする事ができない。0～2才児の保育料も無償にしてほしい。
- たまにバラまいてくれる一万円などのお金を、給食費無料にしてくれる方が余計なハガキ代、人件費などかからなくてすむのでそうしてほしい。
- ひとり親への支援は充実してきているように感じるが、とはいえ両親がいる家庭の方が多いの、支援が無い。不足分は借入れをしてでも無理をしたり、経済的だけではなく子どもの心身のためひとり親にならない努力をしているのに、相談や支援が無いと感じる。収入ではなく手取りで調査した場合、一体どのくらいの収入があればマイナスなく生活できるのか現状を開示してほしい。年収 800 万でも 600 万でも手取りに変化ないばあいもあるが、所得制限が厳しいと思う。
- 収入が基準で支援がもらえない。生活は厳しく生活が苦しいのに母子でも何も市からしてもらえない。もっと支援してもらいたい。もっと市民にやさしくしてもらいたい。
- 高校の学費支援金の年収制限を外してほしい。学費のため共働きまで頑張っている家庭に出ないのはおかしいと思う。
- 異次元の子育て政策を実現し、出生率を上げた実績を出してほしい。私立中高一貫校在学者へ授業料免除を導入してほしい。医療費免除を高校生まで延長してほしい。
- 回答の中でも記しましたが、親の介護と子育てが、一緒になって苦労している家庭が私の他にもあると思います。負担と落ち込みが半端ではないので（金銭的にも、精神体的にも）少しでも救える対策を打ち出して欲しいです。

②学校生活や PTA について

- 越谷市立の小中学校は制服と体育着を統一してほしいです。子どもの人数が多く、性別の違う子がいるとかなり費用がかかり負担が大きいです。小～中まで同じデザインならし他の子まで使えていいと思います。
- 中学校（栄進）では「命の授業」という外部より専門の方を招いての年に1度の講演があります。小学校でもぜひおこなってほしいです。我が家では第2次性徴や思春期、人権、多様性の話は偏見をもってほしくないで小さな頃から少しずつ教えてきました。しかし小学校では思春期の話でさえ個々の先生の裁量に任せられ、触れることなく終わってしまう学年もあります。学校または市として授業に盛り込んでいただければと思います。
- 小中一貫の対象の学年となるが具体的なことが見えてこずとても不安である。越境入学は当該学年ではできないと聞いたが認めてほしい。中3での学校の変更は内申やテスト対策で絶対不利に働くと思うので。子どもの人生がかかっています。よろしくお願いします。
- 林間学校や修学旅行の日程を1泊2日ではなく、2泊3日にしてほしいです。子どもが楽しすぎて1泊で終わりなんて嫌だったとかえってからずっと話していました。
- 学校の教師の質が悪い。年配の教師の方が、子どもに対しての扱いや暴言が酷い。授業の内容等も古い。現代に合う内容や対応をして欲しい。
- レイクタウン地区の子どもが増えたことにより、小学校行事が全て流れ作業で簡素化されてしま

い、大変残念です。運動会、音楽かいなど、時間で入れかえし、学年相応とは思えないレベルの内容でとりあえずこの行事をやりましたという感じがとてもいやです。子どもが多く学校に入りきれないのなら、別のグラウンドやホールなどをかりてやる方法もあるのではと思います。5年間小学校に通わせ、行事を見てきましたが、何1つも感動のある発表は見られませんでした。越谷市に家を建てたことを後悔しています。

- 個人情報保護の観点からだと思うが、各学級でクラスや学年の連絡網を廃止したことで、子どもの友達の住所や連絡先を親が把握できなくしてしまっている。議論も、代替手段も作らず画一的で事なかれ主義的な学校側の対応は、子どもの安全を脅かしているのではないだろうか…
- 東越谷小学校のトイレが古くて、そうじをしてもにおいや汚れが取れず、トイレをがまんしている児童が多数います。改善してほしい。
- 部活動が減ったりなくなるのは悲しい。先生の勤務時間をずらすなどしてうまくつづけられると良いと思います。
- 子どもの通う学校で国語教員が産育休の為欠員中らしいのですが代替職員がみつからないと、12月の保護者会で校長先生がおっしゃっていました。「学びを止めない為」今いる教員でまかなっているそうですが、2クラス合同で多目的室で授業をしているそうです。目が行き届かなくなるのでは？と心配しております。教員不足の問題は耳にしますが、70人を1人（もしくは2人）でみなくてはいけない教師の負担も心配です。どうにか人員確保が早急にできますよう、お願い致します。

③現在の教育負担について

- 高校の無償化を希望しています。（私立を含めて）よろしくお願いします。
- 経済的に裕福ではありませんが、私立中学に通わせています。東京都の授業料軽減助成金の制度をうらめしく思っています。越谷にもそういった制度があれば良いと思います。我々は生活費等を削って税金を払い、残りを教育費にあてています。子どもにもぜいたくはさせていません。近頃の物価上昇で生活は本当に苦しいです。お金を何に使うかはその家庭によって自由ですが、支援制度を利用して子どもにぜいたくをさせている家庭もいることに納得ができません。一般家庭にも教育を自由に選んでも少しでも喜びのある生活ができる支援策ができることを望んでいます。
- 高校まで義務教育になってほしいし、医療支援も成人になるまで、大学生まではほしいです。
- 両親共働きでないと子ども2人を育てるのは厳しい（進学を選択肢がなくなってしまう）。そのため気持ちに余裕が持てず、子どもと向き合う時間もとれていないように感じる。誰もが安心して子育てできるよう学費の負担がなくなったり、支援があるといいと思う。都内の様に私立高校の無償化、埼玉県もなるとありがたい。
- 東京都のように、私立中・高の授業料を所得制限なしで助成していただきたい。もうすぐにでもお願いします。
- 大学無償化など都は良いなと思うことばかり。義務教育というなら学校にかかる費用は全て（給食や修学旅行など）市が持つべき。
- 市ではないかもしれないが（県）高校と県立大学の無償化を実施してほしい。とにかく、子どもはお金がかかる。成長期には食べ物や衣類の買い換え。一人しか出産しなくて良かったと思うくらい。越谷市から先日 Citymail で高校生まで医療費が無料になるのはすごくありがたかった。越谷は、色々充実している市だと思うが、これからも他の市をよく見ながら、同じように制度を整えていって欲しいと思う。

④医療・医療費について

- こども医療費助成の拡大（高校まで）
- コロナ禍以降、発熱時の病院受診が不便になって困る。親も具合が悪いのに、親子ともに外などで長々待たされることもある。スマホ（mail 等）で呼びだし、など、車中や家に一旦戻らせてもらえると助かると思う。
- 高校生か、学生でいるうちは、医療費を今の中学生までと同じ様にしてほしい。学費に医療費に負担が増えると困る。コロナが終わっても、コロナ前の収入には戻りません。
- 子どもの医療費の手当を中学生までではなく、高校生卒業までにしてほしい。高校生になったときに、自転車通学になったり、部活でも体格も大きくなり、ケガが多くなっていく。
- 子どもの精神が不安定な時が多く、学校にもあまり行けないんですが、子どもが通える精神科が越谷には全然なくて困っています。もっと子ども専用の精神科を増やしてほしいです。
- 近年の物価高や就労環境が変わったこともあり、生活が苦しいと思うことが多いのですが、子ど

もの医療費がかからないのは、本当に助かるなと感じています。高校3年まで期間が延長してくれとうれしいです。明石市のような子育てしやすい街になることを期待しています。 ○地域の子どもの数に対して小児科が少ない。病院は近くにあるのに予約数に達したため受診できず家で寝ているしかできない。小児科を増やしてほしい。(レイクタウン地区) ○休日、夜間の医療機関が多くなってほしいです。
⑤地域の居場所について ○児童館以外にも、子どもたちが遊べる場所（気軽にに行ける）があると助かります。 ○市内に遊べる場所がない（広い公園、テニスコート、ラウンドワンなど、つたや書店のようなのんびりできる本屋、カフェなど） ○ボール遊び禁止の公園が多く、ボールを使って体を動かすには遠くの大きい公園に行くしかなく、でも中学生は学校、部活、塾と忙しく、放課後少し時間あるときに、気軽に近所の公園や広場でもボール遊びができる場所があったら良いのになと思う事があります。 ○同じ世代の子育てしている家庭の方との出会う機会がない（特に学校で）学校合字の減少もあるが、近所の方とふれあう行事がない為、地域を離れた習い事の友人と交流するしかない。市の行事の中で、参加者どうしが交流できるイベントがあったらいいなと思います。 ○コロナ以降外遊びの機会が減ってしまった。ゲームなど家での遊びが増えていて、時代の変化とはいえ不健康に感じている。越谷市は魅力的な公園が少なく残念に思う。遊具やアスレチックなど、子ども達が外で楽しめる場を増やし、心身共に健やかに成長できるとよいと思う。 ○公園でボール遊びができないのは非常にかわいそう。子どもが子どもらしく、思いっきり遊べる環境を整えてもらいたい。 ○近所の公園はボール遊びが禁止になっており、子どもたちが自宅のまわりでボール遊びをしている。子どもが安全に楽しくボール等自由に遊べるようにしてほしい。(公園や学校の校庭等で)
⑥交通安全・防犯・防災について ○子どもの自転車には注意深く意識しています。もう少し道路整備を求めます。 ○父・母とも都内で働いているため、大規模災害の時に、子をどのように避難させるのが安全か、親か、離れた祖父母がむかえに来るまでどうしたら良いか考えています。市で残された子（学童）の災害時の対策があれば教えて欲しい。または検討してもらえると有り難い。 ○不審者情報がよくメールでくるので、子ども達だけで外で遊ばせるのに不安がある。家の中にいることが多くなり、自然と友達を遊ぶ機会が減ってしまう。 ○部活動後の通学路が暗く心配なので、迎えに行くようにしています。仕事後に夕飯準備をする時間帯なので、親が安心して家で待つ事ができるような仕組みがあったら助かります。 ○水害への対策をとってほしい。台風や大雨の被害が多いので、その対策として今現在どのような事を進めているのか、将来的にどのようにしたいのか、見解を示してほしい。 ○市民まつりやイベントで子度たちも楽しく参加できる防災の体験や学校の行事などでも防災に対する時間を増やして、自分で身を守る大切さを教えてもらいたいです。 ○自転車が走りやすいように道路の整備をしてほしい。車で走っている時、白い線が消えており、歩行者や自転車にぶつかりそうになることがある。 ○小学校の登下校の見守りボランティアさんの姿をよく見かけるが、駅前や周辺（駅）では見たことがありません。繁華街ではなおさら必要なのではと思っています。 ○登下校中の変質者の事件が増えているので、その時間帯のパトロールなどを強化してもらえると安心です。
⑦不登校について ○不登校の対策をしてもらいたい。学校の相談室登校になると成績が1になるらしく、現実的ではない。オンライン授業等を取り入れて欲しい。 ○不登校児へのオンライン授業の充実をお願いします。教育センターもだいぶ業務過多のようなので、子どもへの援助を今後もっと充実して欲しい。 ○小学校4年生から不登校です。適応指導教室に通いたく、教育センターに行きましたが、小5、中1の2回、断られました。中2の現在、ようやく通うOKがでて現在通っています。不登校で民間にお世話になる場合、費用がかかるので余裕がない我が家ではどこにも行けませんでした。適応がダメであるのなら別の場所が欲しいです。不登校児の受け入れが足りていないと感じます。学校の相談室も不登校の人数が多く、予約制となっているようです。適応に通えるまで親子で孤立しました。適応指導教室も現在3教室定員のようです。知り合いは、定員を理由に入ること

- とできていません。不登校が増えているので、不登校児の居場所が増えるとよいと思います。
- 子どもの不登校、ひきこもりが今の一番の悩みです。相談員の方が直接、家庭訪問をしてくれて直に子どもと話をしてくれると前進するかも、と思うことがあります。
 - 不登校、ひきこもり、HSC の子どもたちへの先生や世間の理解、支援のさらなる充実を希望します。
 - 子どもは学校に行きづらさを感じているため、行っていません。苦手なことをやりたくないそうです。“強制的にみんな一緒にの事をやらなくてはならない”教育にはもう限界を感じます。家庭での考え方と学校の方針もズレが大きすぎてつらい。

⑧学習支援について

- 子どもが大学受験の時、無料で使用できる自習室があったらいいなと思っていました。栃木県はそういう施設があったそうです。ぜひ駅の近くに作って欲しいです。
- 少子化で子どもの重要性が認知されている中で、越谷市は教育投資が少ないと感じます。(英語教師のお給料が低いと聞きました)
- 帰国子女の進学に対して、詳しい先生がいないので、市内に帰国子女受入れ校があったり、進学相談ができる窓口があるといいなと思っていました。プラス、レベル別の英語の授業があるとなお良し。
- ペーパーレス化が進み、読み書き能力の低下、読解力の低下が気になっている。
- 皆塾に行くのが当たり前の前提で、学校の授業もそれに近い。苦手やできない子への補講など行ってほしい。小学校でもそういった事をして欲しい。また、北辰テストや英検、漢検などの受講も(受験)も各家庭の負担なので、年1回等補助があると助かる。
- タブレット学習をすすめてもいいが、紙のドリルはなくさないでほしい。
- 子どもの病気で学校休みがちで勉強遅れがちだから無料インターネットサイトから家でも勉強できるように助けて欲しい。社会の最低学歴が高校なので子どもが自立生活できるように十分な教育を受けさせて欲しい。未来国の人材育成は国の積極的なサポートが必要。日本の教育レベルはまだまだ先進国に言われるほど高くない。韓国のように教育に力を入れて日本に希望を与えて欲しい。
- タブレット学習ではなく、ノートパソコンを配布し、本格的なプログラミングなり、社会に出た時に役に立つ様なパソコンの知識を学べる様にしてほしい。(Excel の関数なども含む)

⑨相談について

- 非行でも、不登校でも、ひきこもりでも、暴力暴言もないけれど、家族と距離を取りたいようで、小学生のときには様々、何でも話したり、出掛けたり、旅行も楽しんでた人とは別人のようになっている。気楽に相談できる場所、機会が欲しい。根気強く話しかけたりするようにしています。兄と弟は不思議そうに見ているようで、兄弟仲良く楽しく過ごせる時間が増えるといいなと思っています。
- 子ども自身が気軽に相談できるようなところを学校内につくってほしい。
- 通級教室を利用していますが、外と内(家)では違う様で、家での接し方について困ることが多々あります。反抗期もあり、家での態度や言葉遣いで衝突があります。それが原因か、学校での事なのかはわかりませんが、休みが続く事もあり、いろいろな面から原因を見つける為に受診、検査入院を予定しています。こういった事を相談しづらいことがあるので、解決・相談できる所があったら良いと思います。
- 子どもは、生まれた時から体がやわらかく、筋肉がつきづらいです。保育園に通っている時に、発達支援センターで相談にのっていただきました。とても丁寧に、アドバイスや運動のし方を教えていただきましたが、程度が軽い為、定期的に支援を受けることはできませんでした。しかし、普段の生活でも、小さい頃は特に困り事や悩みも多く、相談できるところが欲しかったです。
- 以前グレーゾーンで教育センターに相談をしました。支援級への進学をすすめられましたが、進学中学の支援級の先生と面談し、普通級へ進学しました。学校生活は苦しい状況ですが、部活は頑張っています。グレーゾーンの子はクラスに数人いると聞きます。サポートを希望する人も多いと思いますが、どこに相談するべきかわかりません。また中学校でのサポートは難しい状況なのでしょうか？春から中三です。進学についての不安はつきません。
- 教育センターなど相談窓口があり、情報も入ってくるので、必要な時は利用させて頂いています。悩みはつきないですが、できるだけ心身共に健康で過ごせるように、親も努力しなくてはならないと思っています。

- 中学生になっても反抗期などがあり、接するのに難しい年頃でもあり、学校でスクールカウンセラーへの相談などがありますが、電話で気軽に相談できると思います。
- 市役所に相談に行っても全く頼りにならないことが多いです。

⑩市政全般について

- 税金を安くして下さい。
- レイクタウン駅前（住友不動産の建物）に市役所出張所などがあると助かる。
- 子育て支援に関する市の予算の増額を希望します。が、周辺の自治体と比較してもひとりあたりの金額は多いほうですかね。現在の子どもたちが大人になっても将来も魅力ある生活しやすい越谷市をお願いします。
- 時代の流れで仕方がないことなのでしょうが、自分が子どもの頃に比べると子どもの自由度が減り、ルール等で制限されることが多くて子どももきゅうくつだろうなと少しかわいそうに思います。高齢者が人口の多くを占めてきているので、高齢者に配慮した政策になりがちなのも原因かなと思っています。
- 土曜日の開庁日に子育てに関する申請や相談をできるようにしてほしい。平日だけでは仕事を休まざるを得ない。
- 手続きに関することが、ほぼ平日にしかできないことに、とても不便を感じている。仕事を休んで行く、ということが、大変な時が多い。
- 住民税が高いです。

⑪進学・将来のことについて

- 高校受験、入学後の支援を詳しく知りたい。インターネットではなく、紙面があったら教えてほしい。
- 埼玉出身ではないため、高校受験の制度がよくわからない。北辰も、見学も、何もかも独特のシステムがあるので、そういった事を県外から来た親にもわかりやすく説明してくれる機会が欲しい。働かないと（母も父も）、暮らしていけない中で、自分だけで収集するには限りがあるし、理解も追いつかない中で、試行錯誤するのはストレスでしかないの。自分の知識不足で、子どもの選択肢を減らしてしまうような事にはしたくないです。
- 子ども（子育て中）の成長で、グレー層の子たちが多いと思います。その中でも行ける高校が、かなり（学力で）減っています。普通に高校に行きたくても分校で、高卒の資格がえられるシステムもあって良いと思います。
- 子どもに十分な教育を受けさせ、社会人になってからの苦労を少しでも軽減させたいと思うが、これからかかる費用を想像すると不安になります。親が学習支援をする時間がないため塾に行かせていますが高額です。上の子は高校入学を機に塾を辞め、下の子のみ通っています。親力の差が子どもの将来の差になるのではと心配です。学校でも学習面で心配のある子に放課後の補習など実施していただけないでしょうか。
- 大学卒業までの学費を工面できるかが日頃心配になります。
- 中2になり、高校の進学先選びを考え始めています。県立になるべく学費的にも進学して欲しいと思いますが、子どもの学びたい道の学校が都立にもあり、東京都のように無償化のない県立は、比べた時に差を感じ、実家の東京から通わせようかとも考えています。越谷市や県でも大阪や東京のような、道すじができた学校も選びやすくなると思います。

⑫放課後の居場所について

- 学童に入れなかった子が、17 時ごろまで過ごせる場が欲しいです。都内では児童館の役割が学校の中に入っているため、学童に入っていない子も登録すれば、そこで職員見守りのもと、過ごすことができます。夏休みや土曜日でも利用できるのも、とても便利です。おやつ等もないため、利用料金も無料となっています。ぜひ、そういったサービスを越谷市でも行って欲しいです（例：江東区、北区わくわく広場等）
- 学童保育を希望する家庭全員が利用できるようにしてほしいです。6年生まで利用可といいますが、現状4年以上はほとんど利用させてもらえず、とても困りました。
- 小学生になって働きたいと思っても、学童はすでに働いている人しか入れない。正社員の人の方が、収入も上がるし不公平に感じました。学童を増やして、受入れ人数が増えたら、もっと働ける人は沢山いると思います。
- 小学生～中学生、SNS の使い方を、気をつけて欲しいこと具体的にあげて注意喚起して欲しい。（友人が LINE やりとり、怒らせる内容を送ったことできっかけで、友達づきあいが減ってしま

った。)

- 学童保育に低学年が入れない状況を改善してほしいです。
- 学童を増やしてほしい。長期休暇（夏休みなど）だけでも預かってくれる場所がほしい。パートだと、1年生でも学童を落とされている人もおりとても働きづらい。祖父、祖母を頼らなくても共働きができる仕組みをとってほしい。

⑬保育について

- 我が家は、夫も私も実家が遠方にあるため、10年程前に越谷市に転入してきた際、当時1歳だった下の子を、上の子の行事等の際や、自分自身が精神的に辛くなった際、1時間500円で、支援センターや保育園で預かってもらえる制度があり、とても救われました。子どもたちはある程度大きくなり、だいぶ楽にはなりましたが、今でも大変感謝しています。これからも、実親に頼ることのできない家庭を応援して下さる制度を、続けていって下さればと思います。
- もう我が家では必要としていませんが、共働き世帯でどちらも仕事が休めない時、病児保育が利用しやすいと良いと感じていました。登録や準備する物等があり、すぐには利用できない印象を受けます。
- 小学校入学前（特に未就園児時代）の支援がもっと充実していると良かったと思います。（今となっては過ぎたことですが…）保育所、幼稚園の学費などなど、今の小5（2012年生まれ）は人数の多さの割には手うすでしたよ。他の市町村の話をきいてがくぜんとした記憶があります。
- 核家族、共働きのため、子ども達が小さい時は必要経費と割り切り、病児保育やシッターを利用していました。今は少しずつ病児保育施設が増えてきましたが、訪問型の方が子ども達への負担が少なく済みました。民間の病児シッターを利用した時に補助が出たらありがたかったです。我が家はもう利用しませんが、「あの時、こんな補助制度があれば」と思ったので。
- 子どもを作りたい。安心して子育てができる環境になれるよう、産前／産後の子育て支援に力を入れてほしい。
- 保育所は駅から近い方がよいと思います。

⑭養育費・生活費について

- 値上げの流れが止まらない中での出費増に対する家計の圧迫が一番苦しいところです。多子で食べ盛りがあると軽減、節約も難しい。
- 物価上昇、特に食料品が家計を圧迫することが増えてきた。
- 子育てに関することでの出費が非常に多いです。食べ盛りなので、食費もかかるし、習い事や衣類代等、親が出費を削ってお金を捻出している状態です。また、子どもがのびのび遊べる場所がありません。近所の児童館はコロナの時と変わらずおもちゃは少ないままで、屋外には何故か高齢者のたまり場になっています。
- 子ども手当の振込口座を配偶者でも可能にして欲しい。主人に振り込まれるため、勝手に引き出され使われてしまう。子どもの高校、大学に進学のため残しておきたかったが、全てなくなっていた。そのため、子どもが行きたい高校にも行けず、私が管理できていれば、悔やまれてならない。
- 小さい子どもより中学生からかなりお金がかかってきて大変と聞いているので先が心配。
- 別居で婚費だけでは苦しいが、離婚してからでないとお金の支援が受けられないのが心苦しい。今の住居に住み続ける為に別居だけの形になっているが、お金が足りないと、心の余裕がなく、子どもに優しくできない。
- 物価がまだまだ上がる中、生活保護だけではとても厳しいです。今後給付を続けて欲しいです。

⑮ひとり親家庭支援について

- 父子家庭でも正社員の親だと、ギリギリで支援してもらえないです。年収の総支給額で決めないでほしい。手元にくる金額は少ないから、母子だと支援できて節だと無理とか差別ですね。学校行事もほぼ行けないし、他の親とも交流もないです。片親の家庭には半分、学費等出してほしいです。
- 私は数年前に妻を亡くし、1人で子育てしていますが、いつも助けてくれるのは、近所のママ友や、先輩方です。以前から自治会活動に参加していたこともあり、自治会の方々には本当に助けてもらっています。子育ては、家族や身内だけでなく、地域でするものだと実感しています。子育てで悩んでいたり、孤独を感じている方がたくさんいると思いますので、地域ぐるみで子育てを推進する施策も考えていただけたらうれしいです。皆様大変なこともあると思いますが、がんばってください。（具体的なアイデアがなくて申し訳ございません）

- 私は1人親ですが、医療費や扶養手当等、支援していただき感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。教育面で子どもに不自由がないよう、ご支援いただけると助かります。
- 未婚のひとり親家庭で経済的に困難なく暮らせているのは、正社員の仕事を出産後も続けたこと、また続けるために実家の両親が育児のサポートをしてくれたことにつきます。どちらかでも欠けていたら困窮していたと思います。それでも仕事と家事育児の両立には時間は常に足りず、将来両親の介護が重なったら仕事を続けられるか不安になります。自助・共助が難しい多くの母子家庭に今後も公助とその充実をお願い申し上げます。
- 自営業を始めたばかりで日々子どもとすごす時間がとれないと自分も子どもも自身も感じた為、休日はふたりですごくようにしています。成人した兄が家を出たばかりなので、非課税世帯のほじょきに以前はがいとうしなかったの、生活はきびしかったです。中学生の子と私だけの住まいになったので、ほじょきん等うけられるようになる事で、生活の助けとさせていただきたいです。
- 正社員として働いています。勤務年数が増えれば、それなりに給与も上がっていくのはみなさん当然だと思うのですが、働けば働く程、ひとり親の助成がカットされ、その分、プラスでバイトをしたりしていかないと生活ができないのが現状です。児童扶養手当もカットされ、上の娘は高校生で部活もしていて、本当にお金が足りず困っています。せめて、児童扶養手当は、所得に制限をかけず支給して欲しいです。ひとり親医療もなくなり、私自身と上の娘の通院が思うようにできず、困っています。ひとり親で、正社員として働いている方の支援をもっとして欲しいです。働けば働く程、子どもとの時間もなくなり、助成金はカットされ、でもお金が足りないからまた働き、それで収入が増えれば他の助成金もカットされる。悪循環です。本当に日々、苦しいです。どうか普通に部活をし、塾に行かせてあげたり、友達と遊ばせてあげたりしたいです。

⑯情報提供について

- コロナで学校が休校になった時に、地元の学校に通っていないので、友だちが近くに住んでいないので、子どもだけで留守番させることに不安を感じた。親としても学校の相談員さんと相談はできるが、ママ友など近くにいないことや、仕事で相談する時間がとれないで孤立化していると感じる。働いている人も増えているので、フルタイムで働いているママ向けに情報提供、交流の場づくりをしてほしいと思う。
- 東京都は高校無償化が始まります。越谷市も、埼玉県に対して無償化について、どんな対応をしているか知りたい。
- 集団生活（保育園、小学校など）に入ってから、いろいろな方からの情報があり、シティメールもあるが、夫の地元の為、広報誌などの存在が不明で、情報がなく、出産後の支援が分からなかった。親子講座など、情報があつたら、気分転換できた。
- 給付金や支援金等の情報がオープンになっていない。自分でHPで調べないと情報がない。また対応が遅い。非課税、低所得者への手当が多く課税世帯への手当がない。自身が会社経営をしているが、給付金等で年収が増える（もらう金額と所得を合算する）と、従来より多くなるため、不平等感が多い。もう少し課税世帯への手当や給付があつて欲しい。
- 姪っ子が網膜芽細胞腫という目の癌が見つかり（県外ですが）手術しました。越谷市では情報は少なく、助成や情報を広めるなど、取り組みがあればして欲しいと思いました。

⑰障がい児について

- 障害児の育児について、幅広い知識を持っている職員が少ない。米国のように「チームで」「継続して」サポートする体制があるのが望ましい。
- 発達障害があり、手がかかる為、今まで仕事をしようとしたが、体調をくずしてしまい無理でした。特別扶養手当を申請できた事と、夫が転職して年収が上がり、何とかやってこられました。普通の職業の中でも選択肢が限られるので学力だけはつけさせてやりたいと思っていますが、就学の資金についての心配があります。
- 小学校、肢体不自由の支援級の教室はなぜ2階にあるのでしょうか？
- 障がいのある18才以上の人について、生活介護等から帰宅後、放課後デイサービスのように夕方の時間預かってくれる施設やサービスがほしい。また、入浴サービスについて、週の回数を増やしたり（訪問入浴）、身体障害者の生活介護や作業所などもっと増やしてほしい（知的は多くあるのだ）。

⑱アンケート全体について

- アンケートの電子化を望みます。アナログすぎる。
- 本アンケート含め、デジタル化を推進してほしいです。学校の授業オンライン化、学校の連絡、集金（クレジットカード、QRコード決済など）、アンケートの回答など。
- 市民に寄り添う気持ちがこのアンケートで伝わりました。ありがとうございます。
- このアンケート冊子に対して返信用封筒が小さいです。

⑲多子世帯について

- 多子世帯への経済的支援。所得制限を無くして欲しいです。
- 共働きで正社員だと収入が多い気がするが、4人の子どもの大学進学させようと思うと、余裕がない。多子世帯への支援を増やしてほしい。時間、お金が足りない。これから出産する人もそうだが、今、小～高校生がいる家庭も大変であることを分かってほしい。子ども4人以上の家庭への支援も検討してほしい。

⑳就労について

- 賃金を増やせ。
- 年収アップのために正社員に転職したいが、通勤時間で帰宅が遅くなったりすることを考えると子どもに寂しい思いをさせてしまうだろうと近場で探すのがやはり難しい。

㉑その他

- 子どもは未来を担う宝です。保護することも大切、危険なことを知るためにも多岐にわたる経験も大切。経済的、時間的、体力的、すべての余裕がないと子どもと向き合うことは困難。みんなが希望を持つための余裕を生み出して欲しいです。
- 子育ての最終目標は子どもの自立であり、心身ともに健康に過ごすことが一番大切と思っています。大人になっても健康的な生活を送れるように、バランス食の摂り方、メニューの選び方など教えられると良いと思います。
- すでがんばっていると思うので、がんばって下さいとは言いません。が、とても応援しています。
- 小学校の学校対抗のスポーツ大会（サッカー、陸上）がコロナの影響でなくなりましたが、復活してほしい。
- 自分が好きだと感じることを見つけられるようにすること、好きと思っている領域（テーマ）には、なるべく多めの情報を伝えるようにすること。
- 不安や怖い思いをしている子どもがいなくなるという。

(4) 小学生・中学生調査

①子どもの遊び場について

- ☐ ボール遊びができる公園を増やしてほしい。
- ☐ Round1、その様なみんなで遊べる施設が欲しいです。
- ☐ 高校生くらいの人が公園で危ない遊びをしています。なぜなのか？高校生の遊び場が足りていないのではないのでしょうか市にはこれから高校生の遊び場を増やして小学生の遊び場を安全にしてほしいです。
- ☐ もっと子どもが遊べる施設を作って欲しい
- ☐ 広い公園をたくさん作って欲しい
- ☐ 子ども達が安全に遊べる場
- ☐ もっと建物の中で遊べるようなところを増やして欲しいです。
- ☐ アスレチック施設を増やして欲しい
- ☐ 子どもが楽しめる施設、ハイテクな施設
- ☐ 室内で自由に遊べる場所

②学校について

- ☐ 6時間から、7時間授業にしてほしい
- ☐ 川柳小学校は、図工室、多目的室、遊具、シンボルの木がなくなった。校庭も少ししかない。川柳小学校の教室や校庭をこれ以上なくさないでほしい。
- ☐ 体育座りをなくす
- ☐ 冬にお湯と水の水道を作ってほしい。理由は冷たくて手を洗いにくいから
- ☐ ずるいお友達をなんとかしてほしい。ちゃんとしてる子やがんばってる子よりも悪いことしてる子に合わせる事が多くて、平等じゃないなと感じることがたくさんある。先生によっても楽しそうなクラスとそうではないクラスがあって、他のクラスがうらやましく感じる。
- ☐ 小学校を全体が優先ではなく個人個人を優先するようにしてほしい
- ☐ 学校行事を減らさないで、増やしてほしいです。
- ☐ 授業の時間を短くしてもらいたい。
- ☐ 校則を変えてほしい。オンライン授業や選択授業も増やしてほしい。自由に行くか行かないか決めたい。
- ☐ 校則をゆるくしてほしい
- ☐ iPad じゃなく自分のスマホにしてほしい。
- ☐ 給食をもっと豪華にしてほしいです。
- ☐ 体育館にエアコンをつけてほしい。
- ☐ 剣道部の部室にエアコンをつける。

③商業施設について

- ☐ レイクタウンに、カラオケや図書館を建設してほしいです。
- ☐ 越谷市大袋に飲食店を作ってください。
- ☐ 千間台に文房具屋を増やしてください
- ☐ 新しいショッピングモールなどを作ってよりよい市にほしい
- ☐ おいしい飲食店やゲームセンターなどを増やして欲しいです！
- ☐ ディズニーランドのようなとは言わないけどそれぐらい大きいテーマパークをできれば作ってほしい
- ☐ レイクタウン以外の大きなショッピングモールを建ててほしいです。
- ☐ コンビニを増やして欲しい。スーパー作って欲しい。
- ☐ もっと、本屋さんを建てたり、文房具専門店が欲しいです。
- ☐ 越谷通りみたいな感じで、流行りのお店やカフェを並べてほしい。
- ☐ トレカショップを増やして欲しい。
- ☐ 商業施設や公園などが増えてほしい。

④子どもの居場所について

- ☐ 広い自由スペースがほしい
- ☐ 誰にも邪魔されずに自分の好きなことに取り組める場所
- ☐ 児童館みたいなところが欲しい
- ☐ もう少し子どもが簡単に家以外で楽しめる施設を建設してほしい

- 無料で子どもたちが暮らしやすい施設を作ってほしい
- カフェなどの友達と話せて家ではない室内が欲しいです。飲食を簡単にできるのも魅力的ですね。
- 子ども達だけでも入れる場所が欲しい
- 過ごしやすい。誰でも行ける。
- いつでもそこに行けて、そこにいる他の子と一緒に遊んだり、宿題をしたりすることができる場所をつくってほしい
- みんな仲良くいれる
- 自分の考えや思いを否定しない居場所を作って欲しいです。
- 全ての学校に放課後子ども教室みたいな(学童とは別)を作ってほしい。うちの小学校にはないです！
- みんなで集まれる場所が欲しい
- 誰でも簡単に楽しく過ごせるようなところを作って欲しい
- 居場所が欲しい

⑤公共施設や公共交通手段について

- 地域の人があつまるところがほしい。→老人ホームに子どもが気軽に行けるようにする。公園でスポーツ(年齢関係なく)で会話ができるようにする、などです。そんな場所ができるのを期待しています。あればぜひ行きたいです！
- 図書館を増やしてほしい。(遠くて、行きたいけど行けない)
- 図書館や、公園を増やしてほしい
- レイクタウンのあたりに小さくてもいいので図書館があると助かります。
- 大きい公園や動物園を作ってほしい
- 団体ではなく、個人で使えるように体育館の開放をしてほしい
- 図書館に子どもが来やすいようなノベル本や絵本や、大人が読む、小説などを置いてほしい
- 駅の中にあるトイレを綺麗にしてほしい。理由は、いつも駅のトイレに行く時に汚くてあまり使いたくないから、できれば綺麗なトイレにしてほしい。(高齢者にも使いやすいように)
- 綺麗な街、公衆トイレの改善 無法地帯のない場所にしてほしい
- 近くの公園にトイレを作って欲しい
- もっと公共の場を増やして欲しい。
- みんなが楽しく過ごせるアクセスの良い複合施設を作って欲しい。
- 借りないで使えるグラウンドを作る
- 児童館にフリーWi-Fiが欲しい。無料でできる手作りなどの体験をもっと増やして欲しい。

⑥イベントやお祭り、地域との交流について

- もっと沢山のイベントを楽しめたりする、楽しくて過ごしやすい所をつくって欲しい。
- いろんな人と関われる機会をもっと増やしてほしい
- 子どもだけが遊べる、イベント等をたまに開催してほしいです。
- 勉強以外にも他の地域や外国と交流していろいろなことを学べるようにしてもらいたいです。
- 越谷市民の皆さんと一緒に活動できるイベントなどの事をしてほしいなと前から思っていました。
- 小学生でも同じ学校の人達だけではなく、他の学校の人達ともおともだちになりたいなと思います！
- 色々な発表の場を作ってもらいたい。友達と協力して目指すことのできる行事みたいなのが欲しいです。
- 越谷市の魅力が伝わるように、イベントを開いてほしい
- 通っている学校以外の友達と交流できる場所をつくってほしい
- もっとイベントを増やして交流を盛んにしたらいいと思います！
- 子ども達だけでいろんなところに行きたい
- 周りとの交流を増やしたい
- もっと地域での関わりを増やしてほしい
- 地域の行事をまた新しく変更して欲しい
- 越谷市の学校で大会みたいなのをしてみたい
- いろんなイベントを開催してほしい
- お祭りをふやしてほしい。

⑦市政全般について

- 平和な街づくりを、これからも、進めて欲しい。
- 人に優しく支いあって、地域全体をよくしていく
- 楽しく嫌々がない地域になってほしい。
- みんなが優しい市民になるように努力してほしい
- 都会化
- 富士中とファミリータウンの間に橋をかけてほしいです
- 最近はSDGsなどの取り組みが日本は少ないと思うので、他の県の企業や市町村の取り組みを越谷市全体に認知させて、SDGsの心を浸透させて少しでも地球沸騰化を改善して行けたらいいなと思いました。
- 市で何かを決定する際に、意見を聞いてほしい
- 税金をもうちょっと役立ててほしい
- 特にこうして欲しいことはないです。けど、みんなが安心安全で楽しく過ごせる場所にして欲しいです。
- 越谷市の問題を少しでも解決して、小さな「平和」を作ってください。
- 楽しく安全に。
- みんなが過ごしやすく、安心できるような市にして欲しいです。

⑧スポーツ施設について

- スケートボードパーク作ってください
- スポーツをできる場所をふやしてほしい（特にバスケットボール）
- 野球をもっとしやすい環境にしてほしい
- もう少し卓球ができる施設があって、1時間のお金が安ければ嬉しい
- スケートリンクつくってほしい遠いから
- 環境を大事にしてほしい
- しらこぼと水上公園の駐車場にあるバスケットゴールまで自転車で20分かけ練習に行っています。街灯もなく危ないです。近くの公園にバスケットゴールがあればいいなと思います。
- バレーボールなどを無料でできるコートなどを作って欲しい
- 市民プールをもっと増やしてほしい。
- もう少し球技ができる公園を増やしてほしい。球技ができる場所があっても学校の後だと高校生や社会人が使っている時がある。そのようなことがあっても(他のところ行こうぜー)みたいな感じで球技ができる場所があってもいいと思います。
- サッカーコートを作って欲しい
- バレーボールの施設を建ててほしい

⑨ごみや環境について

- ゴミを無くし、元々の綺麗な越谷市に戻してほしい
- もっともっと自然を増やしてほしい。
- ボランティア活動(ゴミ集め)
- ドブ川の整備を市が責任をもってしっかりやってほしいです。
- ゴミ拾い活動
- 越谷市全体を綺麗にする。
- 自然をもう少し増やしてほしいですね。
- 自然が感じられる場所をもっと増やしてほしいです
- 人がポイ捨てしないために、ゴミ箱を増やしてほしい。こどもが自由に遊べる場所がほしい（禁止されている遊びが多い）。
- 綾瀬川をきれいな川にしてほしい。
- 自然を増やしてほしい。
- ゴミ拾いをして欲しいです
- 自然豊かな場所があればいいと思います。

⑩安全・安心について

- まず小学生の通学路が、狭いところがあったり混雑して中々進まなかったりするので広くしてほしい。あとイベントを開く時には人がいすぎて少し困ります。
- 振り込み詐欺の防止

- 道路のひび割れや騒音をどうにかしてほしいです。
- 道路を広くしてほしい
- 学校の近くの暗い道を整備したり、明るくしてくれたりしてくれると嬉しいです。あと、横断歩道で止まってくれない車、危ない車、スピードを出しすぎる車が多いので、そこが無くなると、交通事故、その他に人が嫌な思いをする人がいなくなると思います。
- 雪が降ったら帰らせるようにしてほしいです。
- 住んでいる人に住んでいる人数の防犯、災害グッズを配って欲しい。
- 地震に強い町作り
- 帰り道、暗いところがあるので照明をちゃんとつけてほしい
- 大沢北小近くのトヨタ周辺の歩道が凸凹していて怪我人も出ているし、障害をお持ちの人も困ると思うので平に整備してほしい
- 安全性 騒音公害対策
- グラグラしていて不安定な標識を直して欲しい。倒れたりしたら危ないので。
- もっと安心して住める街にしてほしい
- 自転車の通りやすい道が欲しい。歩道と車道の間が狭かったり、間がない場所だと自転車が通り辛いし危ない。
- 信号無視を厳しく取り締まって欲しい

⑪勉強のできる環境について

- どの図書館でも勉強できるようにしてほしい
- 市がやることかは、わからないけど、学習スペースがある図書館が欲しい(できれば学区内に)。放課後に、学習スペースがある図書館が欲しい。
- 宿題手伝って欲しい。(寺子屋)
- 将来につながる学びがしたい。
- 図書館などで自習できるスペースを増やしてほしい。
- 学校のトイレや廊下や教室が古いので新しくしてほしい。小学校のトイレは特に少ないのでこまっていたことがあります。
- いつでも行ける勉強できる施設が近くに欲しい
- 大きな自習室を設けてほしい。
- 静かに勉強できる施設(図書館以外に)がほしい。
- 無料で勉強を見てくれたり、教えてくれる場所。

⑫経済的支援

- 税金を少なくして簡単にお買い物ができるようにして欲しい。
- 給食費を無償化して欲しい
- 高校生の子どもの持つ保護者の支援
- 無料でなにか食べられるところが欲しい。
- もう少しお金が安くなって欲しいです。ほとんど無理な事だけど働いて得たお金は、安いのに習い事などの費用などは高くなってきているからです。
- 高校の授業料、入学金などの免除
- 学費を補助、無償にして欲しい。
- うちの家はお金がなく貧しくギリギリな生活をしています。僕の両親も税金の紙が家に来る度にお金ないのにもう無理)と言って毎回税金の支払いが遅れてしまっているの、もう少し税金を下げるか子どもがいる家にお金を少しでもいいのでお金を配ってくれるとありがたいです。お願いします。

⑬いじめや不登校について

- いろんな子ども達が学校に行きたくないと感じていることが多い、または不登校の人がいると聞きました。私のクラスにも、3人いるのですが、そういう子どもたちでも楽しく、そして勉強ができる場所があればいいなと思いました。
- クラスに1人以上必ず不登校の人がいる状況だと思うのでもっと行きやすいような学校作りをして欲しい
- いじめを見ないようにして欲しい
- いじめの対策をもっとしっかりしてほしい。子どもに寄り添ってほしい。学校に行くのが楽しくなってほしい。

- 悪口を消して欲しい
- 先生の質の改善。いじめに気づいてもそのままにする先生を配置しないで欲しいです。
- いじめにあって教室へ行けない。人が怖い。どうしていじめられた側が行き場をなくさないといけないのか。教室以外で過ごさないといけないのか。辛い。

⑭相談について

- いじめやこんなことをされて嫌だったと思う人などに安心できる所相談を聞いてくれる人をもっと増やしてほしいです。
- フリーな相談所や施設、無料で勉強などの必要なことを教えてくれる人がいる場所
- もしなんかあった時に、毎日いろんなことを相談してくれる場所。
- 学校や家以外に気軽に相談できる場所を作って欲しい。
- 大人に相談しやすい場所をつくる
- 悩んでいる人がいたら助けて欲しい
- 気軽に声をかけられる窓口
- 悩み事を相談できるところを増やしてほしい。習い事のお金をもう少しだけやすくしてほしい。よろしくお願いします。
- あんまり言えないような悩みなどにしっかりと解決できるまで相談に乗ってくれて、辛い時は寄り添ってくれるような場所。

⑮自由な時間や遊ぶ時間について

- 無理だと思うけどもっと自分の時間を増やせるように、学校の時間をちょっと早くして、帰りの時間を早くする
- もっと自分をありのまま出すことができたり、自分を認めてもらえるような環境になってほしい
- 帰りのチャイムをずっと5時30分にしたい（できなくても5時30分からせめて5時00分がいい）
- 自由にさせて欲しい、休みたいって思ったら休ませて欲しい
- 遊べる時間を延ばして欲しい
- もう少し放課後に鳴る、帰るチャイムを長くしてほしい
- できるだけ自分の時間を多くして放課後など友達や家族と遊ぶ時間がほしい。

⑯市の子育て施策全般について

- もっと学校の児童にお金をかけて欲しいです。
- 保育士の賃金を上げる
- こどもの意見をきちんと聞いてほしい。時間がない。とか言わないでほしい。
- こどもがのびのびと生きられる。子育てがしやすい市。
- もうちょっと中学校にお金を回して欲しい
- 子どもにとっていい市にしたい。
- 子どもの気持ちを最優先にしたい。子どもの気持ちを考えて優しくしてほしい。
- 子どもの意見や考えも受け入れられるようになってほしいです。
- こういったアンケートは毎年やっていますが、変わっているようには思えません。あまり学校に来れない友達でも学校に来やすくなったり、過ごしやすい越谷市になることを願っています。

⑰障害・差別について

- 障がい者施設への援助を積極的にしていただきたいです
- 手話や点字などの障害者が会話をするために使う手段をもっと学ぶ時間をつくったほうがいいと思う
- 義務教育中だけでも、障がい者との関わりを増やすため、手話や点字の学習をした方がいいと思う。
- 性的マイノリティの人がもっと暮らしやすい場所にしてほしいです。性的マイノリティの人は身の回りにいないように見えて、意外といるんだとわかってほしいです。学校などで理解のある人が増えてほしいです。
- 障害者の方、高齢者の方のためのことや、物を作ったり、やって欲しい。（生活に苦しい方のためをいっぱい増やして欲しい）
- どんな人でも差別なく過ごせるようになって、事故や事件をなくしてほしい

⑱市のPRについて

- 観光地をもっと増やしてほしい
- 越谷市といえばこれと言える有名で楽しい建物、施設ができて欲しい
- 越谷市に観光名所を作って活気を持たせて欲しい
- 地域のPRをもっとして欲しい。市民ですら知らない良いところがいっぱいあるので内外にそれらをもっと知って欲しい
- 他の県からの観光客を増やせるようにしてほしい

⑲その他

- 募金箱を用意して貧しい人に渡す。
- もっと国民が積極的に意見を述べられる機会を増やしてほしい
- 楽しく過ごしたい
- このような取り組みを行ってアンケートを取ってくださるのがすごく嬉しいです。
- 虐待をなくしてほしい
- 海を作って欲しい。
- 皆がそれぞれの意見を言えるギスギスしない社会

(5) こども・若者の意識と生活に関する調査

①子育て支援全般について

- 核家族、共働き家庭への子育て支援を拡充して欲しい。(学童保育は希望者全員利用できる等)
- 他の地域と比べると、子育てをするのに良いことより悪いことの方が多気がします。東京のように給食費の無償化や、高校への進学サポートなど、すぐに行ってほしいです。
- 妊娠を機に、応援金や産婦人科で使える助成券など、大変ありがたいと感じました(自分の親の時代よりも支援が多い為)しかし、物価高もあり、産後や育児、これからの生活への不安も多いので、子育てがしやすい安心できる制度、支援金などがもっと増えたらいいなと思いました。
- 児童手当として各家庭にお金を配ることも、もちろん大事だと思いますが、児童養護施設や児童相談所の人員を増やすためにも税金を使っていきたいと思います。私自身、自分の幼少期の家庭環境がもっと良いものであったなら、子どもを持つことにためらいを持つ事も無かったと思うので、少子化の一番の対策は暖かな家庭のイメージを若い人に持ってもらうことだと思います。
- 幼児への支援が不足している。保育園に入ることができても、幼児の保育料が高く、その分残業等に頼ることになり、家族の時間が減る。
- 1～3歳の子どもたちも無償化。保育士さん(介護士さん)たちのお給料を上げる為の支援。
- 子育て世帯として感じるのは、共働きが多くなってきている中で、放置されている子どもが増えてきた気がします。地域の人との交流もうすいので、親自身も意識を変えていく(子との接し方)のはもちろんですが、安心できる近所の人との交流も大切なのではと思いました。
- 誰でも使えるサッカー、野球コート。定期的な子ども食堂、またそれを通した食育活動。
- 越谷市に転入してきたばかりなので、詳しくはわかりません。保育料が高いと思う事、育児のサポートが充実すると良いと思います。
- こどもに不寛容な世の中で、妊婦時代も席をゆずって頂ける経験をほとんどせず、妊娠～出産までの費用も手出しが多い、いざ出産しても16歳になるまではわずかな児童手当のみ(今は所得の関係でもらえていない)と、子育てをするための環境がとても劣悪であると感じます。多く稼いでいるということは税金も多く納めているということであり、子どもを育てることは日本の未来をつくることです。共働き世帯も多いので、より手厚いサポートを期待します。

②経済的支援について

- 子育てをしていくこと、出産をすることへの不安は圧倒的に金銭面です。2人3人と欲しくても現実的なことを考えると難しいです。3人目から大学補償と言っていますが、正直もし今子どもを3人産んで3人目が大学生になるまで補償があるかも分からない。3人を大学生まで育てるまでにもたくさんのお金が必要です。もっと支援金などが増えるといいなと思います。
- 現在子どもが2人おり、できればあと1人と考えております。国の少子化対策で3人目を産んだら全員大学無償化と聞いた時、いけるかもと思いましたが、扶養を抜けたら対象外という条件を見て、心底がっかりしました。国ができないことを市、県がするのは容易なことではないことは分かりますが、子どもに対する資格を、もう少し手厚くしてもらえないでしょうか?児童手当も、正直もっと増額してほしい。2人目の保育料も都のように無償にしてほしい。人口を増やす気持ちがあるのなら、中核都市の越谷市には、もっと頑張してほしいです。
- 学費無料(私立含む)。毎月給付。学生無料施設。大学までの学費無料(年収制限なし)住宅取得支援金。出産費用の無料化。将来も住みたいのでお願いします。
- 子ども3人を育てていますが、所得制限という名のハードルで何1つ支援を受けられておりません。たいてい所得制限にかかるギリギリより少し多くもらっている家庭は、世帯主は大手企業であつても全国転勤がつきものであったりと単身赴任をしていて二重生活をしていたり、妻も転勤についていく為に仕事をやめていたり、決して裕福な生活を送っている人ばかりでないと思います。そのような細やかな配慮なくして、子どもを増やせと言われても現実はずかしいと思います。越谷市からの子ども福祉手当が0円にされて、大変憤りを感じております。
- 子育て世帯への支援をもっとしていただきたい。“第3子が”というのではなく、今いる子どものための支援をしていただきたいです。子ども2人でも生活していくのにギリギリな状態です。「お金がかかるから」「支援が少なすぎる」と私の友人や知人で子どもをあきらめる人も増えてきています。(20代)よろしくお願ひいたします。
- 子育てに対してとてもお金がかかることを子育てしていてとても感じる。支援金を頂いているが、消もう品やら必要なものを買おうと全然足りません。ベビーカー、抱っこひもなど、市からのプレゼントなどがあるととても助かります。少子化と言われていると思いますが、経済的負担

が全体的に大きな要因だと思います。

○低所得だけにかぎらず、全子どもがいる世帯にも給付金が必要だと思う。子どもは何歳になってもお金がかかる。

○金銭的な支援や、未就園児に対するおむつ、ミルク等の支援がほしい。

③安全・安心、生活環境について

○越谷の裏路地が暗いので防犯のためにも外灯を多く設置し、その運用にかかる費用（電気代等）は市で負担してほしい。（地域の組合費で運用していると聞いたため）

○自転車専用道路の整備

○最近、夜になると若者によるバイクの騒音が気になる。レイクタウンでは、ゴミが散乱し、不衛生になっている。使い方、後片付けの徹底をしてほしい。そのことからか、ネズミが多く発生しているのが気になり、治安自体も悪くなってきているなど感じる。

○外国人が増えていると恐怖を感じている。以前に危ない目にあったことがあるから。

○妊娠中、駅のホームや階段で背中を押されたり、わざとぶつかられたり、子どもをのせたベビーカーをけられ怒鳴られたりと、女性1人、または母子のみで歩いているときに男性から暴力まがいないやがらせを受けた知人が何人もいます。私自身も1人で歩いているとちかんや、突然怒声をあびせてくる男性に何度も遭遇しています。越谷は女性、子どもにとっては治安がわるい地域だというのが知り合いとの共通の認識になっています。軽犯罪をとりしめし、治安の良い地域になってくれればと思います。

○自転車専用道路がないと不便。交通ルールが不明。ブラック校則や先生の横暴な取り締まり。

○災害時、プライバシーが守れる避難場所が設置できるようにしてほしい。駅前が汚い。整備してほしい。行きたいと思える場所ではなく残念。

○夜になると暗く、人通りが少ないところも多い。警察の方などのパトロールがあると安心する。街灯の設置や、カメラの設置等もあると良い。物価が上がり、生活が苦しい人も増え、国全体で治安が悪くなっているように思う。安心できる街づくりを目指してほしい。

○子どもが安全に過ごせるようなインフラ整備をしてほしい。

○（南部にくらべ）市から見捨てられた感がある。選挙時期の選挙カーのマイクが非常にうるさい。選挙カー禁止にして、市議員も半分にしたい。

④こどもの居場所やこども向けイベントについて

○公園でボール遊びができるところが少ない。思い切り身体を動かしてあげたいと思うが、車で足をのばさないといけない距離にある。

○子どもが集まって大人数で参加できるイベントがあると良いと思います。

○家の周りで子どもが遊んでいるのですが、道路で遊んでいる時があります。広い空き地がないのだと思います。私の子どもは3歳になりいろんな人の真似をしてしまうので、危ない事は真似してほしくありません。なので、大きい子でも遊べる広い場所をつくっていただけるとありがたいです。

○子ども達を遊ばせる公園が少ないと思います。子ども達が1つの公園に集中している為、ゆったりのんびり遊ばせるのが難しい時があります。遊具も増やしてほしいです。

○住宅を増やすよりも、子どもたちが遊べる公園を増やしてほしい。わざわざ公園で遊ばせるために車で移動しなくてはならないため、時間が有効活用できない。

○公園（幼児向け）が近所がない。（すべり台、ブランコがある）外灯が少なく、夜になると真暗くなる為。

○小学3年生の娘がいます。学校に行っている間働きたいとは思いますが、長期休み時の預け先、留守番の不安があり前向きになれません。短時間、短期、子どもの長期休み中は休職できるような柔軟に働ける求人が増えたらなと思っています。また、土日の子どもの過ごし方にいつも悩みます。物価高等々毎度遠出する訳にもいかず、近くの公園など誘うのですが飽きたようで。子どもが出かけたくなるような遊具、イベントを増やしていただけたらと思います。（ボーイスカウトの様な事とか）清水公園のアスレチック、福祉村のスケートコース等。

⑤若い世代への支援について

○子どもや、精神的、経済的に難のある人向けの支援はあるように思うが、子どもをまだ持たない20～30代へのサポート（よりよい生活やこの地域に住むメリットを感じられる環境）や、市民全体で今後の持続可能な地域環境を作るための仕組みが足りていない。取り組まれていないと感じている。

- 働いている若者は皆自立しようと頑張っています。本当にやる気のない人は働かないので…。これから先、生きていく子ども達には、今の様な働きにくい社会は経験させたくありません。頑張ったらちゃんと認めてもらえる社会、休みもしっかりくれる環境を整えていけたらと思います。
- 特にありません。私も教職についておりますので、子どもたちや若者への支援にぜひ力を入れていってほしいと思います。
- 「恋たま」初めて知りました！仕事に忙殺される日々で婚活する元気や時間もなく、今年も新年が明けました…。私はいつか1人になる未来はさすがに嫌なので、パートナーが欲しいと思っていますがふみだせません。身体が動く限りはニートになる予定はありませんが、独身ひとり身なので、こどもへの支援は具体的に考える事は難しかったです。若者…でもないと思っているのでこちらも同様でした。どういう支援があるかもよく分かっておりません。参考になると良いのですが…。
- こどもや若者が孤立した時に他の人に知られず、相談しやすい環境づくりをしてほしい。同世代で話せる機会が欲しい。結婚しなくても生活が安定させられる補助制度が欲しい。
- 子どもや若者が損をする or 将来に希望が見えない政策ばかりです。明石市が行ったような国の政策に逆らっても若者や子ども、子育てに対する支援が必要だと感じました。今の若い子たちは結婚や出産の考えがほとんどありません。理由は将来への不安や希望がもてない政策のせいで自分が生活していくので精一杯だそうです。SNSなどの若い世代や子育て世代の声をもう少し見ていただけると嬉しいです。

⑥市政について

- 税金が高い。住民税安くしてほしい。
- 非課税世帯などの低所得の方への支援も大切だとは思いますが、一般世帯も、日々つつつです。“全体”を見て支援や福祉の活用をお願いします。
- 公的サポートの充実 結婚サポートのような生活にプラスするようなものは公でやる必要はない認識なので、生活に困っているレベルの人(大人子ども関係なく)に手を差し伸べられるような取り組みを進めて欲しい。
- 個人(1世帯)で生活を成り立たせるのはとても厳しい時代となってきたと感じます。市や地域から協力し合える態勢や効率化を図り、需要と供給(子育て世代の子守りや高齢者の就労など)が満たされる環境作りをしていただければと思います。
- 市役所が平日しかやっていないことがストレス、サラリーマンに優しくないと感じる、休日や夜間の受付が少なすぎる。この理由から、市役所へ相談したくてもしにくいし、仕事にも影響が出る。保育園へいつでも入れるようにして欲しい。4月以外は実質入れない。保育料が高すぎる。真面目に働いている人が損する仕組みはやめて欲しい。子育て支援関係で、所得制限はやめて欲しい。働いていない方が手当が多かったり、臨時の支援金を与えずぎだと思ふ。共働きで懸命に働いている人に還元して欲しい。

⑦公共施設について

- 越谷駅や市内の主要なところには図書館や児童館、サロンなど活発に行われていて羨ましいと感じていた。レイクタウンは子どもが多いわりに、子どものための施設が不足していると感じる。支援センターと図書館、カフェなどセットにして、もっと気軽に子育てしている方、これからされる方が立ち寄れる、レイクタウンらしい公共施設をつくってもらえると嬉しいです。
- 〈小中学校の校舎耐震対策及び建替検討の促進化、その情報提供〉最寄りの小学校は、校舎が築年数 55 年以上経過しており、外壁にひび割れが多数見られます。先日の震災を受け、建物が大地震に耐えられるレベルではないのでは、と正直不安です。そういった情報を市報等で掲載いただくと助かります。
- レイクタウンの学校増設、市役所機能がある場の設置をお願いしたい
- 児童館がすべて古い。わざわざ野田市に行くこともある。レイクタウン方面にばかりお金を掛けている。せんげん台方面はひどい。若者はせんげん台には住みたくない。

⑧将来への不安・悩み

- 本人は軽度の発達障害です。代筆したところもありました。すべてに悲観的ですが、希望も持っています。保護者がいなくなった後も安心して暮らせるように、支援をお願いしたいと思っています。
- 18 才からの年金の支払い(←学生なのに・アルバイトをしている人ばかりではないので親の負担になっている)又は仕事につけていない人の年金の支払い理由により払えなくて免除制度はあ

るが、年金支給に支障が出ることになる。

- 今自分が払っている年金で高齢者たちは生活できているが、自分が高齢者になった時には生活していけるのか甚だ疑問である。苦しい思いをする前に、50代くらいで死んでおく方が良さそうとは思っている。
- 結婚後に「仕事と家庭を両立したい」と考えている人（主に女性）は多くない。自身の周りでも、「本当は子育てに向き合いたいが、これからの国や社会への不安から、収入が無くなることを恐れて働いている」という母親は多い。それによって、忙しすぎる毎日を送っている子育て世帯がかなりあると感じます。そして、それを見て「子どもを産み育てるのは大変だから産まない」という話も、友人間（同世代アラサー）ではよく出ます。子育てをする同世代が少なくて悩みを共有する場もなくなっていき、本来は子育てを楽しんでいた夫婦でも、もうこれ以上は子どもを持つのはやめようと。今、感じるのは、このようなアラサー間のギャップと負の連鎖。大変な親の顔を見て、不安になる次世代の子どもたちに、しわよせがいくことを心配しています。

⑨学校生活について

- レイクタウン地域は高収入世帯が多いのもありますが、皆小学生から塾へ行き私立受験ばかり考えていて誰も公立中学（光陽・南中）へ「希望」している話をきかず、公立中の良さが全く伝わってこないのが我が家もなやんでいます。小中一貫の話ではなく、光陽・南中の「良さ」をもっとわかるようにして欲しいです。このままでは公立中学への進学が「負け組」のような位置付けになってしまい地域のイメージダウンだと思います。
- ①教職員の性犯罪がニュースになっているので、教育委員会、学校を挙げての制度、取り組みの強化。②教員の働き方改革（残業を減らす）などでワーク・ライフ・バランスの充実③子どもが遊べる公園、児童館の整備、備品の充実。
- 公立小中の教育内容を改善してほしい。①新人を1年目から担任にしないで、副担にして、ベテラン教員とペアを組むようにしてほしい。浦和地区に比べプログラミング教育が遅れている。住む場所による教育格差を感じる。税金は同じなのに不平等を感じる。②災害時の避難場所である小中高の校舎やトイレをきれいにしてほしい。和式トイレは時代遅れであるし、老人は使用が難しい。まわりに汚れがひろがり、不衛生である。③防犯やいじめ防止のためにも小・中・高の入口、各教室、トイレ入り口に防犯カメラの設置を希望。いじめのレベルを超えた犯罪に近いものもあるので、犯人を捜す場所ではないと言っている場合ではない。④防犯のためにガードマンを学校に常駐させてほしい。

⑩自身の生きづらさについて

- 私は小学生の時から高校生の時までいじめを受けていました。いじめを受けた事がない人はいじめは過去の事かもしれないけどいじめはぜんぜん過去の事ではありません。そして、人を信じられなくなってしまったり、人と話す事が怖くて仕事ができません。いじめられたせいで人生がめっちゃくちゃになってしまいました。いじめを受けてしまった人に子ども手当みたいなものがあると良いと思います。なのでいじめについて考えて欲しいです。あと、内職の給料を上げてくれるとうれしいです。
- 就職ができず病んでいた時期は起きることができなかったのですが、今仕事がある日は動けます。今は障害クローズドで派遣のピッキングをしています。障害者雇用で勤務時間が短くても一人暮らし程度の生活ができるちんぎんか、働いてもキソ年金2級が止まらなければ他の人も社会復帰しやすいのにと感じます。また、夫が正社員で私が扶養内で働いて月の収支がプラマイ少しマイナスなので税や社会保険料が高くて大変だと感じています。奨学金返済もあります。
- 薬等でコントロールし働いてはいますが、職場面接で1度、難病（クローン等）と伝えたと、難しいのでは、という顔をされました。そして落ちました（他では受かりました。病名言わず）。障がい枠が、障がい者にはあって、難病の人はなぜないのでしょうか？難病者枠で採用してもらえたらいいのと思います。働きたくない40代のひきこもりの人、健康なのに働かない人、逆にかわってほしいです。元気に自分の思った様に働ける、理解のある社会があればと思います。

⑪地域活動やボランティアについて

- 越谷市に住んでいますがこれまで学校も職場も市外だったため、地域の同世代と関わる機会が少なかったもので、年代毎のイベントがあれば参加してみたいです。
- 堤根自治会などの駅から遠い地域は、高齢の方々が出かける際大変なので、コミュニティーバスを走らせて買い物などに出やすいようにすると思います。
- コロナ禍も開けたからもっと地域交流をするようなイベントを増やしていったら、外に出る機

会が少なく、気持ちが沈んじゃう人も少しは明るくなれると思った。越谷の治安もより守れるのかなとも思った。

- 高齢化が進み身体が不自由な為、近所の活動ゴミ当番や、火の用心、見回りなど若い世代が負担しなければ行けないことが増えた。仕事や学業がある中参加する事が負担になると思う。また、介護施設などの高齢設立に伴い自然が少なくなってしまった部分も残念と感じる。
- 自治会に加入しなくても生活に困らないサポート(特にゴミ捨て場の管理)を市でやるべき。現状はゴミ捨てのために自治会の活動に付き合わされる側面があり共働きの若年カップル/夫婦には大きな負担となる。市がゴミ捨て場へのカゴ置きだけでもやってくれれば自治体加入のプレッシャーが大幅に減る。

⑫商業施設の充実について

- 越谷市は東京から近く若者にも魅力的な街だと思っているので、どんどん古い建物を壊して大きなタワマンやマンションを建てるべきだと思います。越谷は流山のような街になれると思っています。
- 若者向けのスポーツ・アミューズメント施設が増えるとうれしい
- 若者がたまりやすい場所が欲しい。学割がもっと安く、たくさんの場所で使えるようにしてほしい。飲食店、カラオケ、増えてほしい。もっと安くしてほしい。洋服店も増えてほしい。
- 南越谷駅周辺が他の駅より古いので改善してほしい。ファストフード店、カフェなど圧倒的に少ないです。2路線あり需要があるにも関わらず改善できないのは行政の介入が足りないのでは。

⑬妊娠や出産について

- 平日、あまり休めない仕事をしている為、不妊治療等での病院に通うことが大変でした。こどもを育てていくことを考える前段階ではありますが、働いている人にとって、子どもを産み、育てていく環境づくりが必要だなと思います。働きたいけど保育園に預けられるかが目下の悩みです。
- 不妊外来を受診したくても、予約がいっぱいで診てもらえない。子どもが欲しくてもできない人向けの支援を充実させて欲しい。
- 越谷市内の不妊治療を行っている病院は混んでおり、子どもを望んでいる人は多くいます。子どもに対する支援は大切だが、不妊に対する通院の助成金などの支援を要望します。保険適応になった治療はありますが、まだまだ保険適応外の治療もあり、経済的負担により治療をあきらめてしまう人もいます。よろしくお願いします。
- 子どもを望んでもなかなか恵まれない家庭もある。そういう家庭への支援を手厚くしてほしい。産んでからの“子育て”への経済的／物理的な支援も充実させてほしい。中核市なので、近隣よりも先をゆく体制、モデル市を目指してほしいし、“越谷モデル”として県がおすすめするくらいのことをしてほしい。

⑭就労について

- ママさんを対象にした就労紹介（幼稚園や小学校に子どもが行っている間だけ就労）が、目に入りにくい。そういったチラシやHPがどこにあるのかも分かりにくい。相談所など、就労の目的を持って行く場所は、移動や相談に時間が多く取られて、育児中に行きにくい。
- 仕事に役立つ資格取得支援を今後の為に講習会を開始して欲しい。現在働いている会社でも資格が取得できるように変えてもらいたい。
- 発達障がい者の越谷市内の求人を出してほしい。

⑮こども医療費、小児科、小児健診について

- 子どもの一時預かり事業の対象施設を増やして欲しい。家族の急な入院時などに対応してもらえる、子どもの夜間預かりが可能な施設があると助かる。24時間いつでも子どもの一時預かりができる場所があると良いと思う。産婦人科の病院がとても混んでおり、仕事と両立して妊婦健診に通うのが大変だった。市内の産科の病院数を増やして、出産しやすくして欲しい。
- 子どもがかかる病院、小児科だけでなく、皮膚科、耳鼻科、整形外科などをもっと増やしてほしい。かかりたくても予約がとれない、待ち時間が長いなどとても大変でいつも困っています。あわせて、病児保育も充実してもらえるととてもありがたいです。
- 人口の割に小児科が少ないと思います。地区ごとに、もう少し増やして頂きたいです。休日の診察できる病院も増やして頂けるとありがたいです。

⑯仕事と家庭の両立について

- 子育て世代としては子を出産したらほとんどの女性がキャリアを失いますのでそこからどうしたらいいのかとても悩みました。私はキャリアをあきらめてパートをしています。どれだけ改革をしても今現在は、日本では家庭と育児の両立はとても厳しいです。日々「しかたないよね」とあきらめながら、やりたい仕事でもない仕事をやり、大好きな子どもに寂しい思いをさせないようにお金に困らないように働いていますが、両立する事に疲れる時もあります。保育園は働いてない日は預ける事ができませんが、仕事が休みの日でも預ける事ができれば、親の精神的負担が減り育児ノイローゼ等予防できるのではないのでしょうか？同世代で結婚しない友人は「キャリアを失うのがいやだから」と言っていました。どんどん子育てしやすい環境になり、キャリアを失う事なく働ければもっと結婚し子どもを産む人が増えると思います。
- 職場では子どもが2才になるまで休業ができるが、金銭面的に不安があり、少し早めに復帰することにした。今の時代は、子育てに専念したくても、物価高等で専念できない人が多いと感じる。中には自身のキャリア形成のために復帰する人もいるだろうが、今しかできない、かわいい我が子と少しでも長い時間を過ごして、子育てを楽しみたいと思っている人もいることを知っていてほしい。本来であれば、子どもは3人ほしいが、こちらもあり金銭面で断念すると思われる。越谷は子どもが増えているのかもしれないが、公園に行っても全く同い年の子に会わない。1組いればいいほう。もっと子育てを楽しめるような市になってほしいと願うばかりです。

⑰こども・若者の意見の反映について

- 若者やこどもからの意見が中々、制度等に反映されていないと感じる事が多いので、この調査を機に、若者の意見を更に反映して欲しいです。
- 先日の越谷北高校で行われた懇談会に参加してみてとても良かったので、これからも続けて欲しいなと思います。市長自ら若者から意見を聞こうとしてくれていることを知れるだけでも自分的にはすごく大きいのに、質問にも丁寧に回答してくださり改めて感謝申し上げます。

⑱家庭に関する悩み

- 現在、夫と子ども1人の3人で暮らしているが、すべてにおいて夫が協力的でなく家事、育児、預け先での行事の出席、地域の行事や地区班長など全部私がやっている状態で辛く感じる。それなのに、大きな声で怒なりつけてきたり、暴言を吐かれたりと精神的にきつくなる時がある。頼れるのは私の実家の両親だけ。夫や義実家はあてになりません。正直「離婚」も考えていますが、専業主婦で働いていないので収入はないし、家を出ることもできないので絶望です。働いていなくても預金はあるし、そういうので家を借りられる所があると嬉しく思う。
- 妻と結婚して3年、A型事業所にて妻と共に長い時間働いて収入を得ています。しかし一日働いてもパートは低所得で生活はできていますが子どもを作る余裕がない。また育てる養育費がない。妻との生活でギリギリです。妻との関係は良好、妻の父母は金銭面、精神的にサポートしてくれる。ただし子どもを作れない。周囲の夫婦は子どもを産んで幸せそうだがうらやましい部分もある。しかし妻と二人の生活も幸せです。

⑲その他

- なぜ同性だと結婚できないのか理解できず。
- 高校や大学への進学サポート（市内の高校や大学をあまり知らず進学したから）。
- 市政に貢献していけたらと思っています。
- こういったアンケートが来たのは初めてだったので、面白いなと思いました。自分の市が子育て世代への取り組みについてどのようなことを行っているかがよくわからなかったの知悉きっかけになって良かったです。結婚についてあまりポジティブなイメージがないため、そういったイメージを変えるような対策があっても良いなと思いました。

IX 大学生調査

1. ワークショップ開催の概要

(1) 開催の目的

「こども基本法」では、こども・若者から意見を聴いて計画を定めるよう規定されていることから、「第1期越谷市こども計画」の策定にあたり、若者の居場所に関する当事者の意見を聴取し、今後の施策展開に活かすため、市内の大学に通う学生の皆様に対し、ワークショップ形式での意見聴取を実施しました。

(2) 開催の概要

区 分	調査対象
調査対象者	児童福祉分野や教育分野等を専攻する市内大学生 ①文教大学 ②埼玉県立大学 各 50 名程度
調査方法	ワークショップ
日 時	①文教大学 令和6年1月17日(水) 9:10~10:40 ②埼玉県立大学 1月31日(水) 14:40~16:10
調査項目	学校内・市内の若者の居場所について

(3) プログラム内容

1. 開会
2. 事前説明
3. ワークショップ
 - 1) グループワーク
 - 2) グループ発表
4. その他
5. 閉会

(4) ワークショップの流れ

工 程	作業内容
1) グループワーク	
①居場所の意見出し (大学内)	ワークショップ開始前のアイスブレイクとして、まず学校内の居心地がよい場所についての意見出しと意見の分類を行いました。 ①カード（付箋）記入 ②分類・貼付作業
②居場所の意見出し (越谷市内)	越谷市内の居心地がよい場所について、その理由も含めて意見出しと意見の分類を行いました。 ①カード（付箋）記入 ②分類・貼付作業
③居場所のみがき 方・つなぎ方	②で出された居場所がどうしたらよりよくなるか（居心地よく・使いやすく）、またどうしたらより多くの人をその居場所につなげられるか（情報発信・周知）話し合いました。 ①カード（付箋）の整理・移動 ②キーワードや方策の記入
④発表内容のまとめ	最後に、居場所について「居たい」「行きたい」「やってみたい」の3つの視点からグループの意見としてのとりまとめを行いました。
2) グループ発表	
○各グループ意見の 発表	各グループの代表者から、とりまとめ結果を発表し、全体共有を行いました。

2. 結果の概要

(1) 文教大学

	市内の居場所	要素	ほしい	居たい	行きたい	やってみたい
グループ①	北越谷駅近くの公園 書店3件 レイクタウン4件 飲食店12件 カラオケ2件	わくわくする 店主・店員の人柄 おいしい 知り合いがいる 楽しい・にぎやか	カードショップ 古着屋 カフェ	静かで集中 できる	人とつながれる	趣味を活かせる
グループ②	大学 レイクタウン パルテきたこし トレジャーファクトリー 市役所 梅林公園 水辺のアトリエ (集会所)	旅行	高い場所、見晴らし 有料の自習スペース レンタル自転車 みどりの窓口 バスターミナル レンタルスペース ポップアップ スペース 静かなカフェ ラウンドワン 友達と遊ぶ場所 ネットカフェ 銭湯 町中華	静かで集中で きる 友達と周りを気 にせず話せる空 間	アーティストの イベント 旅行 暇な時に過ごせ る リフレッシュ	
グループ③	レイクタウン内の店舗 飲食店 川のそばの道 出律橋 自然 友人・先輩の家	おしゃれ 友人と飲食できる 居て楽	JR 急行が止まってほしい ポケモンセンター 銭湯		フェス	
グループ④	飲食店4件 レイクタウン4件 レイクタウン内の店舗 温泉 公園4件 カラオケ	おいしい 雰囲気がい 満足感がある アクセスがよい 何時間でもいられる 気持ちがいい 自然 運動できる 楽しい ストレス発散 個室	トイレがきれい お金がかからない 駅前（アクセスが 良い） 座り心地がよい 本屋 スタバ			
グループ⑤	友人の家 カラオケ4件 公園2件 電車 本屋 出律橋 飲食店8件 免許教習所 レイクタウン3件 商業施設2件 屋上	気を遣わない 24時間いられる 自然 富士山が見える 静か 桜がきれい・夕陽 友人と話をしながらゆっ くりご飯 教官がフレンドリー・交 流できる 何も考えずにいられる 見晴らし・景色が良い	屋上の開放			
グループ⑥	ネットカフェ カラオケ3件 水辺のアトリエ 元荒川の土手 飲食店8件 レイクタウンのBBQ レイクタウン	運動できる 静か 焼き芋できる にぎわい	温水プール お風呂 マンガ 寝るスペース こたつ マッサージチェア 卓球台 バスターミナル 急行 市場・フリマ	リラックスでき る場所	交通の利便性 向上	越谷市の名所をつくる 山を作る

(2) 埼玉県立大学

	市内の居場所	要素	ほしい	居たい	行きたい	やってみたい
グループ①	子どもと遊べる場所 ライブハウス カフェ カラオケ 映画館 遊園地 ドンキ ボウリング 温泉 Wifiある個室 フリースペース 仮眠室 運動施設	娯楽		リフレッシュ フリースペース		子どもとの交流 バンド活動
グループ②	レイクタウン2件 飲食店4件 スーパー パン屋 遊園地 防音室（楽器できる）	にぎやか 静か・落ち着く	飲食可の話せる場所 静かな自習室3件 仮眠できる場所2件 個室パーティールーム 無料の駐輪場 せんげん台→大学の無料バス	ゆっくり話せる フリースペース 運動・スポーツ ができる場所	防音室（楽器できる） 公園3件 みんなでスポーツで きる場所 ジム ゆっくり映画を見ら れる	当日参加OKのサークルのような場所（スポーツやゲーム） いろいろな年代の人と話せる
グループ③	飲食店2件 カフェ ファミレス3件 ショッピングモール スポッチャ ピクニックできる草むら 広場の大きい公園 自然がある公園	遊ぶ・話す 友人との楽しい時間 体を動かせる 自然			自習室 体育館 集中して勉強する場所 体を動かせる場所 病院 自然に触れのんびり できる場所	
グループ④	個室 カフェ3件		自分の気持ちを受け止めてくれる人 受容してくれる人 優しい人		集中して勉強ができる場所 落ち着いた場所 1人で運動できる場所	大声で歌える場所 ボランティア・交流
グループ⑤	公園3件・植物園 飲食店2件 マッソージ テーマパーク スポッチャ 美容院 スタバ カフェ2件 本屋 友達との空間 コストコ 占い	身体的満足 精神的満足	体を動かせる場所 時間を気にせず話せる場所 お金を使わずに時間がつぶせる作業場			子どもと交流できる

(3) 結果のまとめ

国が令和5年3月に公表した「こどもの居場所づくりに関する調査研究報告書」では、居場所の位置付けとして、「家庭、学校を含め、こども・若者が過ごす場所、時間、人との関係性全てが『居場所』となりえる」と整理されています。また居場所づくりにあたっては、

- ・居場所づくりにおいて重要なことは、こども・若者の主体性の尊重
- ・その場を居場所と感ずるかどうか等は、本人が決める 等の視点が示されています。

ワークショップにおいては、両大学の各グループともに、レイクタウンをはじめ、よく訪れる商業施設や飲食店、公園やテーマパーク等が市内の居場所としてあげられました。

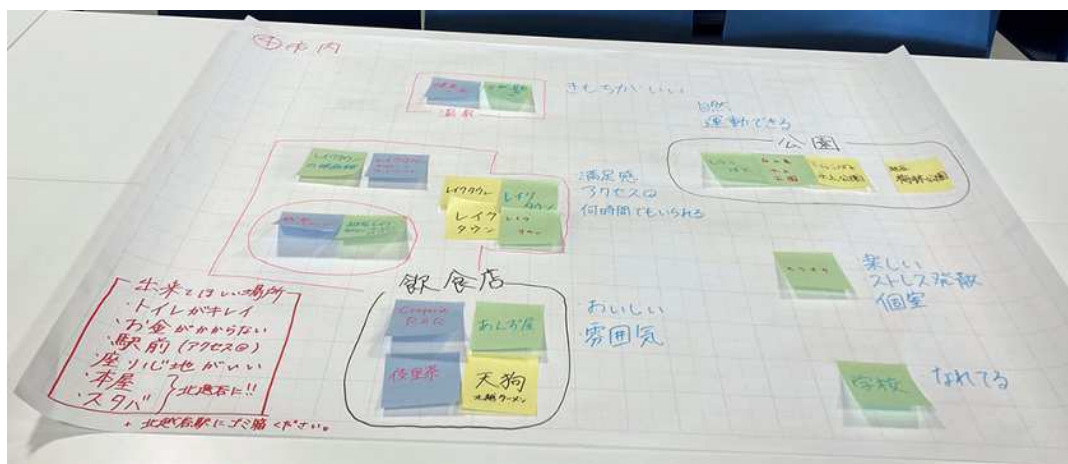
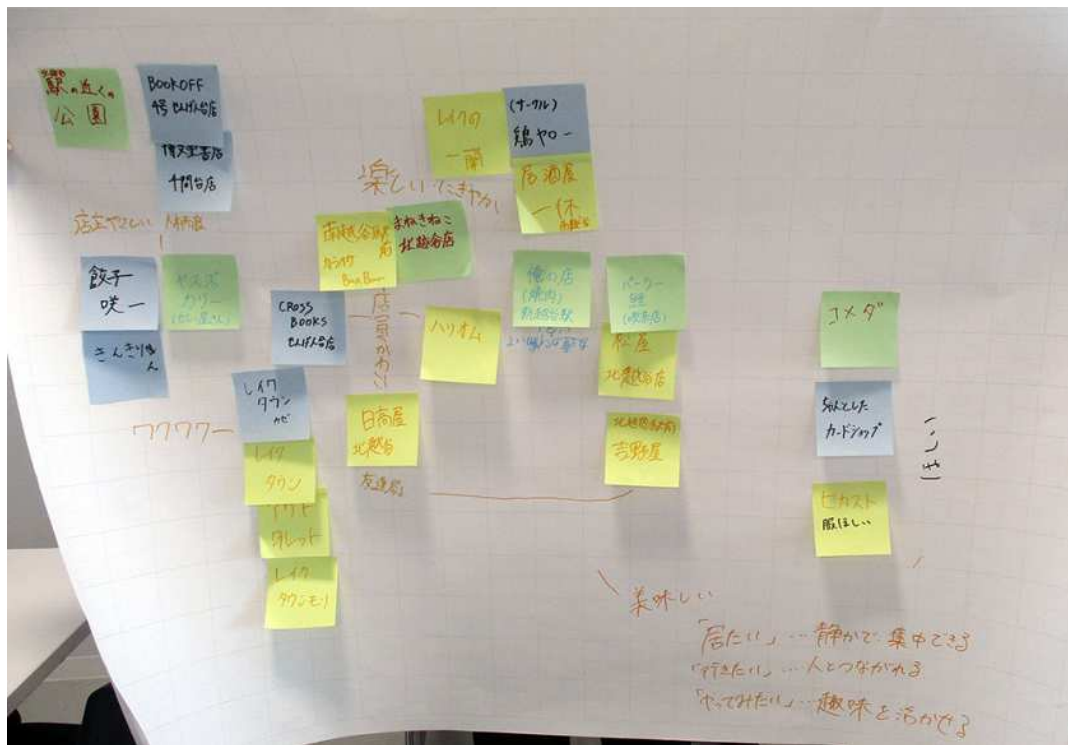
そうした場所の要素としては、「にぎやか・楽しい・わくわく」など、友人と過ごす時間を大切にしたい一方で、「自然・静か・落ち着く」など、一人で静かに過ごす・集中する時間も大事にしている様子が見えます。

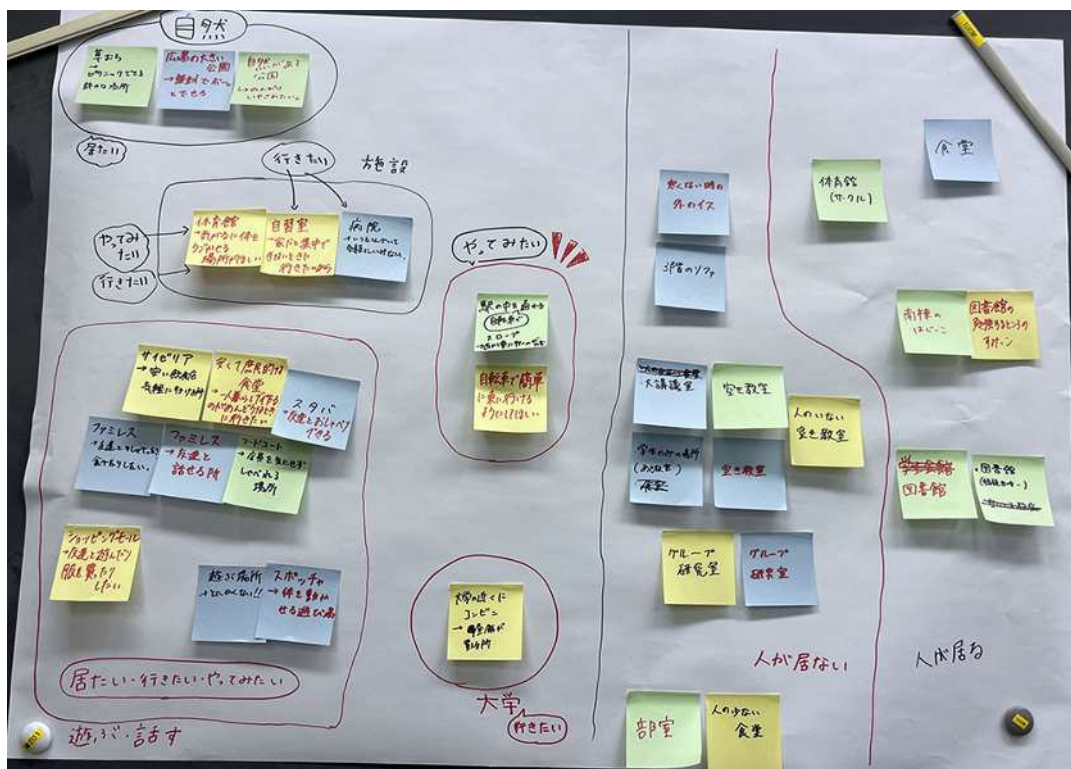
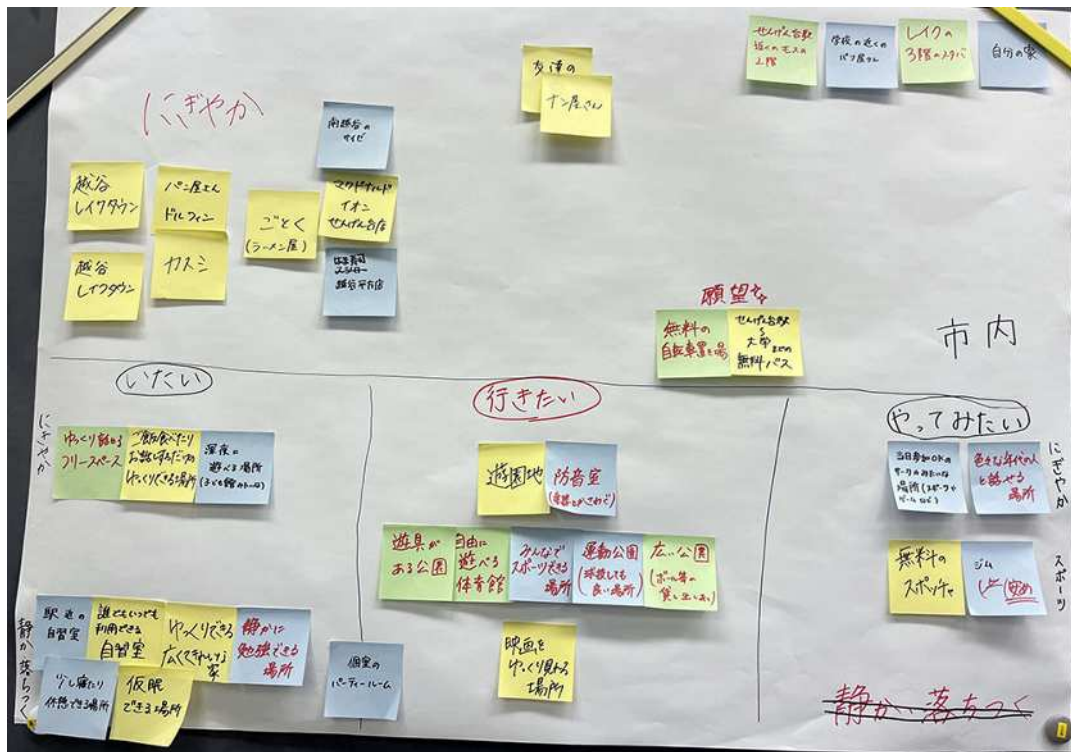
そのほか、銭湯やプールなどリフレッシュの機会、運動・スポーツの場など体を動かすことができる場所が求められています。

出された居場所の意見について、上記の報告書で示されたこども・若者の居場所づくりにおいて大切にしたい3つの視点「居たい・行きたい・やってみたい」に基づき整理を行いました。今後、市内のこども・若者の居場所の整備を行う際の参考にしていきます。

居たい	行きたい	やってみたい
■集中して勉強ができる場所 ■一人で静かに過ごせる場所 ■休むことができる場所 ■いつでも行くことのできる場所 ■いつまでも居てよい場所 ■食べたり・飲んだりができる場所 ■友達と自由に過ごせるフリースペース	■リフレッシュができる ■自然に触れられる ■景色・見晴らしがよい ■ひとりで運動・スポーツができる(ジム等) ■みんなで運動・スポーツができる(運動公園・体育館等) ■自分の気持ちを受け止めてくれる人がいること ■お金がかからずに行けること	■こどもや多様な世代の人との交流ができる ■ボランティアができる ■やりたいことができる ■自由に参加できるサークル(イベント・ゲームなど) ■趣味を活かせる ■市の名所を作りたい

■各グループによる検討結果の一例





X 資料編（使用した調査票）

（１）就学前児童調査

就学前児童保護者対象調査

越谷市

子育て支援ニーズ調査ご協力をお願い

～ みなさまから頂いた回答は、地域の子育て支援の充実に生かされます ～

このたび、越谷市では、令和2年3月に策定した「第2期越谷市子ども・子育て支援事業計画」の計画期間の満了を迎えることから、令和6年度に計画の見直しを行うこととなりました。

つきましては、市民のみなさまの子ども・子育てに関する生活実態やご要望・ご意見などを把握するため、ニーズ調査を実施することといたしました。

このニーズ調査は、住民基本台帳の中から小学校就学前（0～5歳）のお子さん 2,500 名を無作為に選び、その保護者の方を対象にお願いするものです。ご回答いただいた内容は、今後の子育て支援施策を進めていくための基礎資料にのみ利用させていただくもので、回答者個人が特定されたり、個々の回答内容が他にもれたり、他の目的に利用されたりすることは一切ありません。

つきましては、ご多忙のこととは存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいまよう、お願い申し上げます。

令和6年1月

越谷市長 福田 晃

ご記入にあたってのお願い

1. 封筒の宛て名のお子さんについて、お答えください。
2. アンケートは、お子さんの保護者の方がお答えください。「あなた」とはアンケートに回答する方を表します。
3. 回答は、あてはまる回答の数字に○印をつけていただく場合と、数字を記入する場合があります。また、設問によって○をつける数が異なりますので、注意書きに沿ってご記入ください。
4. ご記入いただいたアンケートは、**令和 6年 2月 5日(月)**までに、同封の返信用封筒に入れ、お近くの郵便ポストにご投函ください。切手は必要ありません。

調査に関するご質問、ご意見は…

越谷市 子ども家庭部 子ども施策推進課

電 話：048-963-9165（直通）

FAX：048-963-3987

までお問い合わせください。

1 お子さんとご家族の状況についてうかがいます

問1 宛て名のお子さんの生まれた年月をご記入ください。(の中に数字でご記入ください。数字は一律に一字)

平成(令和) 年 月生まれ

問2 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛て名のお子さんからみた関係でお答えください。(○は1つ)

1. 母親 2. 父親 3. その他 ()

問3 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。(問2で「3. その他」と回答した方は回答不要です)(○は1つ)

1. 配偶者がいる 2. 配偶者はいない

問4 宛て名のお子さんの子育て(教育を含む)を主に行っているのは誰ですか。宛て名のお子さんからみた関係でお答えください。(○は1つ)

1. 父母ともに 2. 主に母親 3. 主に父親
4. 主に祖父母 5. その他 ()

問5 あなたのお住まいはどちらですか。記入例を参考に、お住まいの町名を記入してください。(丁目がある場合は丁目まで。番地の記入は不要です。)

町名 () () 丁目
【記入例】町名 (越ヶ谷) (4) 丁目

問6 宛て名のお子さんの子育て(教育を含む)に日常的に関わっている方は誰(どこ)ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 父母ともに	2. 母親
3. 父親	4. 祖父母
5. 幼稚園	6. 保育所
7. 認定こども園	8. その他 ()

問7 日ごろ、宛て名のお子さんをみてもらえる親族や知人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる
2. 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる
3. 日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる
4. 緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる
5. いずれもない

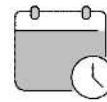
2 お子さんの保護者の就労状況についてうかがいます

この項目に出てくる「フルタイム」「パート・アルバイト等」とは…

■「フルタイム」 → 週5日・1日8時間程度の就労

※正規雇用・非正規雇用であるかの就業形態は問いません。

■「パート・アルバイト等」 → フルタイム以外の就労



問8 宛て名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

① 母親（○は1つ） ※父子家庭の場合、記入は不要です

1. フルタイムで就労している
2. フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
3. パート・アルバイト等で就労している
4. パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
5. 以前は就労していたが、現在は就労していない
6. これまで就労したことがない

【問8の①で「1」～「4」（就労している）を選択した方】

問8 ①-1 週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。
就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。
産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。（数字は
一枠に一字）

週当たり 日

1日当たり 時間

【問8の①で「1」～「4」（就労している）を選択した方】

問8 ①-2 家を出る時間と帰宅時間をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパ
ターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況につ
いてお答えください。必ず、時間は 24 時間表記（例：帰宅時間 時）でご記入くださ
い。（数字は一枠に一字）

家を出る時間 時

帰宅時間 時

② 父親（○は1つ） ※母子家庭の場合、記入は不要です

1. フルタイムで就労している
2. フルタイムで就労しているが、育休・介護休業中である
3. パート・アルバイト等で就労している
4. パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中である
5. 以前は就労していたが、現在は就労していない
6. これまで就労したことがない

【問8の②で「1」～「4」(就労している)を選択した方】

問8 ②-1 週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。
就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。
育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。(数字は一律
に一字)

週当たり 日	1日当たり 時間
-----------------------------	--

【問8の②で「1」～「4」(就労している)を選択した方】

問8 ②-2 家を出る時間と帰宅時間をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパ
ターンについてお答えください。育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお
答えください。必ず、時間は 24 時間表記(例:帰宅時間 時)でご記入ください。
(数字は一律に一字)

家を出る時間 時	帰宅時間 時
--	--

【問8の①または②で「3」または「4」(パート・アルバイト等で就労)を選択した方】

問8 ③ フルタイムへの転換希望はありますか。

③-1 母親(○は1つ)

1. フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある 2. フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない 3. パート・アルバイト等で就労を続けることを希望 4. パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい

③-2 父親(○は1つ)

1. フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある 2. フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない 3. パート・アルバイト等で就労を続けることを希望 4. パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい

【問8の①または②で「5」または「6」(就労していない・就労したことがない)を選択した方】

問8 ④ 就労したいという希望はありますか。

④-1 母親(○は1つ。また数字は一律に一字)

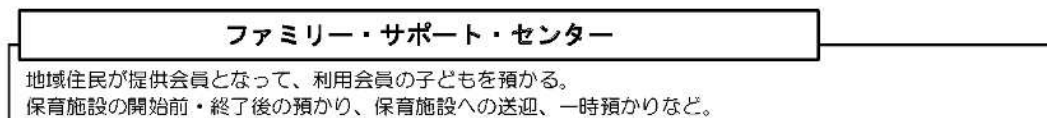
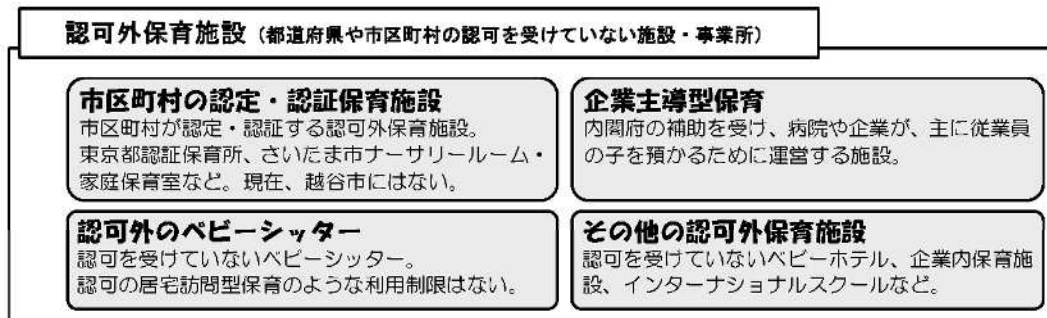
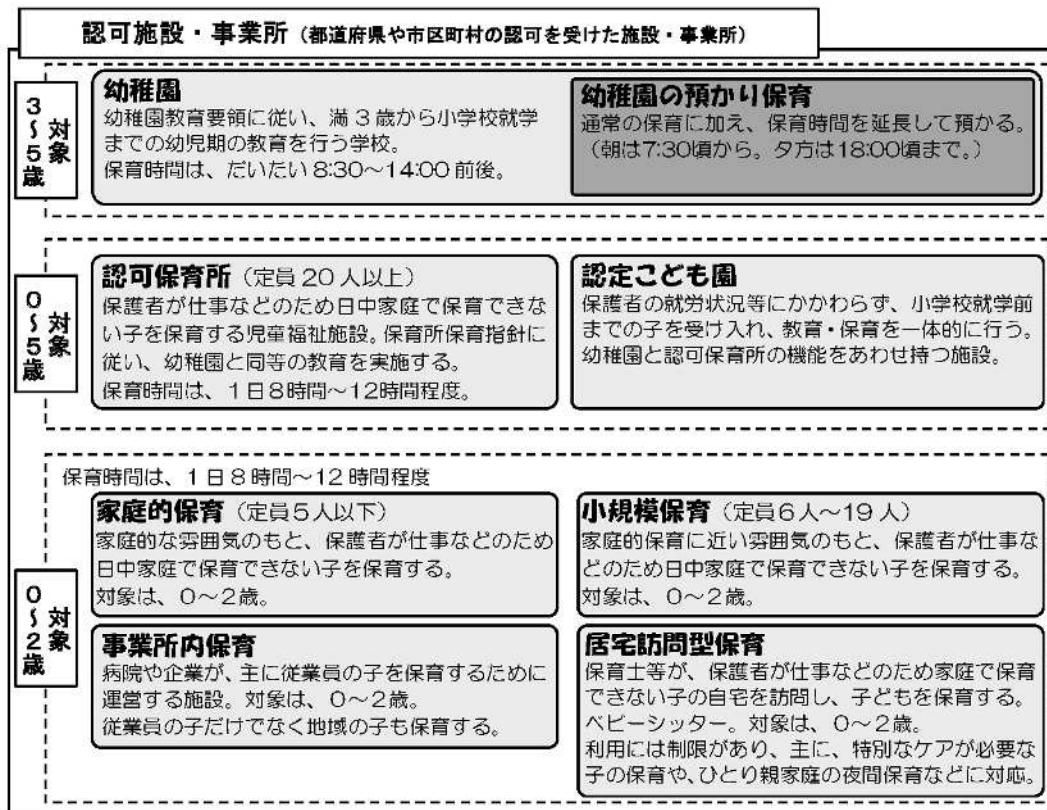
1. 子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない) 2. 1年より先、一番下の子どもが 歳になったころに就労したい 3. すぐにも、もしくは1年以内に就労したい ⇒2または3の場合	ア. フルタイム イ. パートタイム、アルバイト等(「フルタイム」以外) ⇒週当たり 日 1日当たり 時間
---	--

④－2 父親（○は1つ。また数字は一枠に一字）

1. 子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
 2. 1年より先、一番下の子どもが 歳になったところに就労したい
 3. すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい
- ⇒2または3の場合 ア. フルタイム
 イ. パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）
 ⇒週当たり 日 1日当たり 時間

3 幼稚園や保育所などの利用状況についてうかがいます

問9-1、問9-2は、下図や8ページの主要な施設一覧を参考に、お答えください。



○ 越谷市内の施設やサービスを利用している場合

・市内の主要な施設一覧

幼稚園

施設名
愛隣幼稚園
アスナロ幼稚園
あやの幼稚園
あゆみ幼稚園
大沢幼稚園
大袋幼稚園
大袋わかば幼稚園
越谷教会附属越谷幼稚園
越谷くるみ幼稚園
越谷わかば幼稚園
さなえ幼稚園
清浄院幼稚園
照蓮院さくら幼稚園
精華幼稚園
萩原第一幼稚園
萩原第二幼稚園
松沢幼稚園
南越谷幼稚園
レイクあすなろ幼稚園

保育園・保育所

施設名	施設名
越ヶ谷保育園	蒲生保育所
おおたけ保育園	大袋保育所
の〜びる保育園	大相模保育所
の〜びるこどもの家保育園(の〜びる保育園分園)	桜井保育所
袋山保育園	増林保育所
第二越谷保育園	大沢第一保育所
わかばの森保育園	中央保育所
南越谷保育園	深田保育所
越谷レイクタウンさくら保育園	七左保育所
越谷レイクタウンさくら保育園分園	荻島保育所
松沢保育園	赤山保育所
越谷どろんこ保育園	蒲生南保育所
あぜがみりんご保育園	新方保育所
埼玉東萌保育園	大袋北保育所
越谷レイクタウンどろんこ保育園	宮本保育所
第二おおたけ保育園	登戸保育所
西大袋保育園	赤山第二保育所
東大沢保育園	蒲生第三保育所
つぐみ保育園分園	
みずべこどもの家保育園	
にじの駅保育園	
つぐみ保育園	
エンジェルハウス保育園	
にこるの花(旧いんれいタウン駅)	

認定こども園・幼稚園

施設名
第二愛隣こども園
認定こども園小牧
幼稚園型認定こども園熱谷さくらの森
こばとの里こども園
認定こども園わかばの森ナーサリー
認定こども園しらこばと幼稚園
認定こども園北越谷幼稚園
しらとりこども園
認定こども園まどか幼稚園

家庭的保育室

施設名
よつば保育室
三和乳児園
鈴木家庭保育室

事業所内保育

施設名
Kidsあいあい
あいりんのおうち
あおぞらたち保育園
イオンゆめみらい保育園
すくすくキッズけいわ

小規模保育

施設名	施設名	施設名	施設名
みらいほいくえん越谷園	南越谷保育室 ポコ・ア・ポコ	みらいほいくえん北越谷西口園	ファニー保育園
きらら・キッズ おおぶくろ	エンジェルハウス越谷西口園	アルタベビー東越谷園	ふえありい保育園南越谷園
ひだまり保育園	レイクタウンひなた保育園	はなだどんぐり保育園	ふえありい保育園東越谷園
エンゼルキッズ	モンケール保育園 越谷東口園	西方保育室 ポコ・ア・ポコ	ふえありい保育園蒲生園
赤ちゃん保育アカデミー	キッズハウスクレヨンいちご組	モンケール 保育園レイクタウン南口園	エンジェルハウス蒲生第一園
みらいほいくえん大袋駅前園	めくもりのおうち保育 新越谷園	モンケール 保育園南越谷園	apple tree
Kidsぶれいずバンビーノ	キッズハウスクレヨンいるか組	レイクタウン フルール園	蒲生保育室 ポコ・ア・ポコ
キッズハウスクレヨンあんず組	レイクタウンひまわり園	大袋保育室 ポコ・ア・ポコ	エンジェルハウス蒲生第二園
北越谷ひまわり園	蒲生ちやいど園	アルタベビー越谷西口園	ふえありい保育園レイクタウン・トマト園
こうさぎ園ひがしの森	しらこばと附属保育園大袋駅前	エンジェルハウス越谷東口園	ふえありい保育園レイクタウン・レモン園
モンケール 保育園北越谷園	モンケール 保育園 蒲生園	モンケール 保育園レイクタウン北口園	レイクタウン保育園ポコ・ア・ポコ
キッズハウスクレヨンひよこ組	しおどめ保育園越谷	コマーヌナーサリー北越谷	ぽかぽか保育園
こうさぎ園弥十郎の森	アルタベビー越谷園	しらこばと附属保育園北越谷駅前	ふえありい保育園レイクタウン・みかん園
イオンせんげん台スマートスマイル保育園	しらこばと附属保育園せんげん台駅前	みらいほいくえん北越谷東口園	
こうさぎ園 となりの森	うららか保育園	エンジェルハウスレイクタウン園	

企業主導型保育

施設名	施設名	施設名	施設名
菅原病院保育所	ぞうさん保育園	マミー保育室	埼玉医療センター きの子保育室
イングリッシュガーデン 保育園	とびばこ舎保育園	ちやいど園	新越谷病院 すぎのこ保育室
めぐりKids' House	みつばち保育園	あかねキッズランド	越谷誠和病院 あおぞら保育室
こはるのもり保育園	憩いの里託児所	グリーンズインターナショナルプリスクール越谷校	埼玉県野火丸(株) 越谷第一センター 保育園
		越谷市立病院 さくら保育室	十全病院 十全病院保育室
		医療法人秀峰会保育室 有教館	

問9 宛て名のお子さんは、現在、平日に幼稚園や保育所などの施設やサービスを「定期的に」利用していますか。(○は1つ)

1. 利用している

2. 利用していない

【問9で「1. 利用している」を選択した方】

問9-1 宛て名のお子さんは、現在、平日にどのような施設やサービスを、どのくらい利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用しているものについてお答えください。

現在利用している施設やサービスについて、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

時間は24時間表記。数字は、一枠に一字。

市区町村には、市外のサービスを利用している場合に、市区町村名を記入。

1. 幼稚園（通常の保育時間だけ利用している。）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時） 市区町村（ ）
2. 幼稚園 + 幼稚園の預かり保育（通常の保育時間に加え、時間を延長して定期的に預かってもらっている。）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時） 市区町村（ ）
3. 保育所・保育園（都道府県等の認可を受けた施設）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時） 市区町村（ ）
4. 認定こども園（幼稚園と認可保育所の機能をあわせ持つ施設）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時） 市区町村（ ）
5. 家庭的保育（市区町村が認可した定員5人以下の保育施設。「保育ママ」）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時） 市区町村（ ）
6. 小規模保育（市区町村が認可した定員6～19人の保育施設）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時） 市区町村（ ）
7. 事業所内保育（市区町村の認可を受け、病院や企業が主に従業員のために子どもを預かる施設）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時） 市区町村（ ）
8. 居宅訪問型保育 （市区町村が認可したベビーシッター。主に特別なケアが必要な子やひとり親家庭の子の夜間保育に対応）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時）
9. 市区町村の認定・認証保育施設（市区町村が認定・認証した認可外保育施設。東京都認証保育所等）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時） 市区町村（ ）
10. 企業主導型保育（内閣府の補助を受け、病院や企業が主に従業員のために子どもを預かる施設）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時） 市区町村（ ）
11. 認可外のベビーシッター（市区町村が認可していないベビーシッター）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時）
12. その他の認可外保育施設 （都道府県等の認可を受けていないベビーホテル、企業内保育施設、インターナショナルスクールなど）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時） 市区町村（ ）
13. ファミリー・サポート・センター（保育施設への送迎など一時的に子どもを預かるサービス）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時）
14. その他（ ）	週に 日 1日当たり 時間（ 時～ 時） 市区町村（ ）

【問9で「1. 利用している」を選択した方 今後の利用希望についてうかがいます。】

問9-2 今後、平日にどのような施設やサービスを、どのくらい利用したいですか。年間を通して「定期的に」利用したいと希望するものをお答えください。

今後利用を希望する施設やサービスについて、あてはまる番号すべてに○をつけてください。（1を選んだ場合は、○は一つ）

時間は24時間表記。数字は、一枠に一字。

市区町村には、市外のサービスを利用したい場合に、市区町村名を記入。

1. 現在のままでよい。 ⇒ 問9-3 に進んでください。
2. 幼稚園（通常の保育時間だけ利用を希望する。） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時） 市区町村（ ）
3. 幼稚園 + 幼稚園の預かり保育（通常の保育時間に加え、時間を延長した定期的預かりを希望する。） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時） 市区町村（ ）
4. 保育所・保育園（都道府県等の認可を受けた施設） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時） 市区町村（ ）
5. 認定こども園（幼稚園と認可保育所の機能をあわせ持つ施設） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時） 市区町村（ ）
6. 家庭的保育（市区町村が認可した定員5人以下の保育施設。「保育ママ」） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時） 市区町村（ ）
7. 小規模保育（市区町村が認可した定員6～19人の保育施設） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時） 市区町村（ ）
8. 事業所内保育（市区町村の認可を受け、病院や企業が主に従業員のために子どもを預かる施設） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時） 市区町村（ ）
9. 居宅訪問型保育 （市区町村が認可したベビーシッター。主に特別なケアが必要な子やひとり親家庭の子の夜間保育に対応） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時）
10. 市区町村の認定・認証保育施設（市区町村が認定・認証した認可外保育施設。東京都認証保育所等） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時） 市区町村（ ）
11. 企業主導型保育（内閣府の補助を受け、病院や企業が主に従業員のために子どもを預かる施設） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時） 市区町村（ ）
12. 認可外のベビーシッター（市区町村が認可していないベビーシッター） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時）
13. その他の認可外保育施設 （都道府県等の認可を受けていないベビーホテル、企業内保育施設、インターナショナルスクールなど） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時） 市区町村（ ）
14. ファミリー・サポート・センター（保育施設への送迎など一時的に子どもを預かるサービス） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時）
15. その他（ ） 週に 日 1日当たり 時間 （ 時～ 時） 市区町村（ ）

【問9で「1. 利用している」を選択した方】

問9-3 平日に定期的に施設やサービスを利用している理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもの教育や発達のため
2. 子育てをしている人が現在就労している
3. 子育てをしている人に就労予定がある／求職中である
4. 子育てをしている人が家族・親族などを介護している
5. 子育てをしている人に病気や障がいがある
6. 子育てをしている人が学生である
7. その他

）

【問9で「2. 利用していない」を選択した方】

問9-4 平日に定期的に施設やサービスを利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 利用する必要がない（子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないため等）
2. 子どもの祖父母や親戚の人がみている
3. 近所の人や知人などがみている
4. 不定期での預かりサービス（一時預かりなど）を利用している
5. 利用したいが、空きがない
6. 利用したいが、経済的な理由で利用できない
7. 利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない
8. 利用したいが、納得できる質のサービスがない
9. 利用したいが、場所が遠いなど、地理的な条件が合わない
10. 子どもがまだ小さいため（歳くらいになったら利用しようと考えている）
11. その他

）

【すべての方にうかがいます。】

問 10 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛て名のお子さんを平日に預ける場として「定期的に」利用したいと考える施設やサービスはありますか。下図を参考に、12 ページの回答欄にお答えください。（あてはまるものすべてに○）

2019 年 10 月から幼児教育の無償化が開始されています。

ただし、通園バス代、給食費、行事代などの実費については、無償化の対象外となります。

認可施設・事業所（都道府県や市区町村の認可を受けた施設・事業所）	
3 5 歳 対象	幼稚園 幼稚園教育要領に従い、満 3 歳から小学校就学までの幼児期の教育を行う学校。 保育時間は、だいたい 8:30～14:00 前後。 ＊利用料：月額 2.57 万円まで無料 幼稚園の預かり保育 通常の保育に加え、保育時間を延長して預かる。（朝は 7:30 頃から。夕方は 18:00 頃まで。） ＊利用料：保護者の仕事等で保育が必要と認定された場合は、月額 1.13 万円まで無料
0 5 歳 対象	認可保育所（定員 20 人以上） 保護者が仕事などのため日中家庭で保育できない子を保育する児童福祉施設。保育所保育指針に従い、幼稚園と同等の教育を実施する。 保育時間は、1 日 8 時間～12 時間程度。 ＊利用料：3～5 歳は無料 0～2 歳の住民税非課税世帯は無料 認定こども園 保護者の就労状況等にかかわらず、小学校就学前までの子を受け入れ、教育・保育を一体的に行う。幼稚園と認可保育所の機能をあわせ持つ施設。 ＊利用料：3～5 歳は無料 0～2 歳の住民税非課税世帯は無料
0 2 歳 対象	保育時間は、1 日 8 時間～12 時間程度 ＊利用料：0～2 歳の住民税非課税世帯は無料 家庭的保育（定員 5 人以下） 家庭的な雰囲気のもと、保護者が仕事などのため日中家庭で保育できない子を保育する。 対象は、0～2 歳。 小規模保育（定員 6 人～19 人） 家庭的保育に近い雰囲気のもと、保護者が仕事などのため日中家庭で保育できない子を保育する。 対象は、0～2 歳。
	事業所内保育 病院や企業が、主に従業員の子を保育するために運営する施設。対象は、0～2 歳。 従業員の子だけでなく地域の子も保育する。 居宅訪問型保育 保育士等が、保護者が仕事などのため家庭で保育できない子の自宅を訪問し、子どもを保育する。ベビーシッター。対象は、0～2 歳。 利用には制限があり、主に、特別なケアが必要な子の保育や、ひとり親家庭の夜間保育などに対応。
認可外保育施設（都道府県や市区町村の認可を受けていない施設・事業所）	
＊利用料：保護者の仕事などで保育が必要と認定された場合は、3～5 歳は月額 3.7 万円まで無料、0～2 歳の住民税非課税世帯は月額 4.2 万円まで無料	
	市区町村の認定・認証保育施設 市区町村が指定する認可外保育施設 東京都認証保育所、さいたま市ナースリールーム・家庭保育室など。現在、越谷市にはない。 企業主導型保育 内閣府の補助を受け、病院や企業が、主に従業員の子を預かるために運営する施設。
	認可外のベビーシッター 認可を受けていないベビーシッター 認可の居宅訪問型保育のような利用制限はない。 その他の認可外保育施設 認可を受けていないベビーホテル、企業内保育施設、インターナショナルスクールなど
ファミリー・サポート・センター	
地域住民が提供会員となって、利用会員の子どもを預かる。 保育施設の開始前・終了後の預かり、保育施設への送迎、一時預かりなど。 1 時間 700 円～1,100 円	

← あてはまる番号に○をつける。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 幼稚園 | 2. 幼稚園 + 幼稚園の預かり保育 |
| 3. 認可保育所 | 4. 認定こども園 |
| 5. 家庭的保育 | 6. 小規模保育 |
| 7. 事業所内保育 | 8. 居宅訪問型保育 |
| 9. 市区町村の認定・認証保育施設 | 10. 企業主導型保育 |
| 11. 認可外のベビーシッター | 12. その他の認可外保育施設 |
| 13. ファミリー・サポート・センター | 14. その他（ ） |
| 15. 利用したい施設やサービスはない | |

【問 10 で「1」～「2」、かつ「3」～「13」を選択した方におうかがいします】

問 10-1 特に幼稚園（幼稚園の預かり保育を合わせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。（○は1つ）

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問 11 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛て名のお子さんを平日に預ける施設やサービスを選ぶ際に、重視する点はどのようなことですか。（○は5つまで。記号ア～クは1つに○）

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1. 職場の近く | ア. 職場が市内 イ. 職場が市外 |
| 2. 駅の近く | ア. せんげん台駅 イ. 大袋駅 ウ. 北越谷駅 エ. 越谷駅 オ. 南越谷駅・新越谷駅
カ. 蒲生駅 キ. 越谷レイクタウン駅 ク. その他（ ） |
| 3. 自宅の近く | 4. 子どもが将来通う小学校の通学区域内にある |
| 5. 兄弟姉妹が通っている | 6. 夜間や休日、延長保育に対応している |
| 7. 0歳～2歳児の保育を実施している | 8. 病児や病後児の対応を行っている |
| 9. 施設・設備が清潔で整っている | 10. 送迎サービスを行っている |
| 11. 給食を提供している | 12. 駐車場がある |
| 13. 地域の評判がよい | 14. 保育料が安い |
| 15. 園長・保育士・職員スタッフ等の対応や園の印象がよい | 16. 保育だけでなく、さまざまな教育・保育プログラムを提供している |
| 17. 行事が充実している | 18. その他（ ） |

問 12 あなたは、市内と市外のどちらで定期的に施設やサービスを利用したいですか。（○は1つ）

- | | |
|---------|-----------------|
| 1. 越谷市内 | 2. 越谷市外（市区町村名 ） |
|---------|-----------------|

4 地域の子育て支援事業の利用状況についてうかがいます

問 13 越谷市の地域子育て支援拠点を知っていますか。（○は1つ）

■ 地域子育て支援拠点とは…

子育て親子の交流等を推進するため、親子が気軽に立ち寄り、子育て相談、子育て講座などを行ったりする場所で、地域子育て支援センター、保育ステーション、子育てサロンと呼ばれており、市内には 25（出張ひろば3）か所あります。

地域子育て支援センター	保育ステーション	子育てサロン
おひさまの子（増林保育所内）	森のひろば（認定こども園わかばの森ナーサリー内）	ヴァリエ（新越谷駅1階）
にこにこ（新方保育所内）	おへその広場（の〜びるこどもの家保育園内）	水辺のまちづくり館（レイクタウン4-1-4）
ぽかぽか（荻島保育所内）	たんぽぽ（袋山保育園内）	児童館コスモス
すくすく（南越谷保育園内）	のびるば広場（南越谷保育ステーション隣）	児童館ヒマワリ
たけのこ（おおたけ保育園内）	ちきんえっぐ（越谷どろんこ保育園内）	はぐはぐ（花田5-17-7）
げんき越谷（レイクタウンさくら保育園内）	こあら教室（認定こども園小牧内）	はぐはぐ出張ひろば（宮本町2丁目第1自治会館）
きらきら（松沢保育園内）	あおいとり（埼玉東萌保育園内）	みんなのひろばフェリーチェ（大泉地区センター・公民館内）
		フェリーチェ出張ひろば（ほっと越谷）

1. 知っている

2. 知らない

問 14 宛て名のお子さんは、現在、越谷市の地域子育て支援拠点を利用していますか。おおよその利用回数（頻度）もご記入ください。（あてはまるものすべてに○。また数字は一律に一字）

1. 地域子育て支援拠点（地域子育て支援センター、保育ステーション、子育てサロン）を利用している

⇒週に 回 もしくは 月に 回程度

2. 越谷市で実施している類似の事業を利用している（具体名： ）

⇒週に 回 もしくは 月に 回程度

3. 利用していない

⇒3の場合その理由（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|--------------------------------|------------------------|--------------|
| ア. 知らなかった | イ. 利用する必要がない | ウ. 日中働いているから |
| エ. 子ども連れで外出するのが大変 | オ. 利用したいが気持ちに余裕がない | |
| カ. 利用したいが一人では行きづらい | キ. 利用したいが場所が遠い/交通手段がない | |
| ク. その他（ <input type="text"/> ） | | |

【問 14 で「1. 地域子育て支援拠点を利用している」を選択した方】

問 14-1 越谷市の地域子育て支援拠点を利用した満足度はいかがですか。（○は1つ）

1. 満足

2. まあまあ満足

3. やや不満

4. 不満

⇒3または4の場合その理由（ ）

問 15 問 14 のような地域子育て支援拠点について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。当てはまる番号に○をつけて、おおよその利用回数(頻度)をご記入ください。(○は1つ。また数字は一枠に一字)

1. 利用していないが、今後利用したい ⇒週に 回 もしくは 月に 回程度
2. すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい ⇒週に 回 もしくは 月に 回程度
3. 新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない

問 16 あなたは、地域子育て支援拠点が徒歩や自転車で、自宅からどれくらいの距離にあれば、利用したいと思いますか。

【交通手段】(○は1つ)	【所要時間】(数字は一枠に一字)
1. 徒歩 2. 自転車 3. 車	分

5 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な幼稚園や保育所などの利用希望についてうかがいます

問 17 宛て名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、幼稚園や保育所などの施設やサービスの利用を希望しますか(一時的な利用は除きます)。希望がある場合は、利用したい時間帯を 24 時間表記でご記入ください。一定の利用料(1時間 500 円～)がかかることをふまえてお答えください。

① 土曜日(○は1つ。また数字は一枠に一字)

1. 利用する必要はない	} 利用したい時間帯 時 から 時まで
2. ほぼ毎週利用したい	
3. 月に1～2回は利用したい	

② 日曜・祝日(○は1つ。また数字は一枠に一字)

1. 利用する必要はない	} 利用したい時間帯 時 から 時まで
2. ほぼ毎週利用したい	
3. 月に1～2回は利用したい	

【幼稚園を利用している方】

問 18 宛て名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中に、施設やサービスの利用を希望しますか。希望がある場合は、利用したい時間帯を 24 時間表記でご記入ください。一定の利用料がかかることをふまえてお答えください。(○は1つ。また数字は一枠に一字)

1. 利用する必要はない	} 利用したい時間帯 時 から 時まで
2. 休みの期間中ほぼ毎日利用したい	
3. 休みの期間中週に数日利用したい	

6 お子さんが病気のときなどの対応についてうかがいます

【平日定期的に幼稚園や保育所などを利用していると答えた方（P9の問9で「1」を選択した方）】

問 19 この1年間に、宛て名のお子さんが病気やケガで普段利用している施設やサービスが利用できなかったことはありますか。（○は1つ）

1. あった

2. なかった

【問 19 で「1. あった」を選択した方】

問 19-1 宛て名のお子さんが病気やケガで普段利用している施設やサービスが利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法はどれですか。それぞれの日数も□の中にご記入ください。（あてはまるものすべてに○。また数字は一枠に一字）

ア. 父親が休んだ	年に□□日
イ. 母親が休んだ	年に□□日
ウ.（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった	年に□□日
エ. 父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた	年に□□日
オ. 病児・病後児の保育を利用した	年に□□日
カ. ベビーシッターを利用した	年に□□日
キ. ファミリー・サポート・センター、緊急サポート・センターを利用した	年に□□日
ク. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	年に□□日
ケ. その他（ ）	年に□□日

【問 19-1 で「ア. 父親が休んだ」または「イ. 母親が休んだ」を選択した方】

問 19-2 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思いましたか。日数についても□の中にご記入ください。一定の利用料（1日当たり2,000円～）がかかること、また利用前にかかりつけ医の受診が必要なことをふまえてお答えください。（○は1つ。また数字は一枠に一字）

1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい ⇒ 年に□□日

2. 利用したいとは思わない

7 一時預かり等の利用についてうかがいます

問 20 宛て名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労などの理由で、「不定期」に利用しているサービスはありますか。（幼稚園や保育所などの定期的な利用や、子どもが病気の時の保育施設の利用は除きます。）1年間の利用日数（おおよそ）も□□の中にご記入ください。（あてはまるものすべてに○。また数字は一律に一字）

1. 一時預かり （私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを預かるサービス）	年に □ □ 日
2. 幼稚園の預かり保育 （通常の保育時間を延長して預かるサービスを不定期に利用している場合）	年に □ □ 日
3. ファミリー・サポート・センター、緊急サポート・センター （地域住民が子どもを預かるサービス）	年に □ □ 日
4. ベビーシッター	年に □ □ 日
5. その他（ ）	年に □ □ 日
6. 利用していない	

問 21 宛て名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労などの理由で、年間何日くらいサービスを利用する必要があると思いますか。利用希望の有無について選択し、必要な日数をご記入ください。一定の利用料（一時預かり1時間 500 円～、ファミサポ 700 円～）がかかることをふまえてお答えください。（番号と記号あてはまるものすべてに○。また数字は一律に一字）

1. 利用したい	年に計 □ □ 日
ア. 私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や自身の習い事等）、リフレッシュ目的	年に □ □ 日
イ. 冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院 等	年に □ □ 日
ウ. 不定期の就労	年に □ □ 日
エ. その他（ ）	年に □ □ 日
2. 利用する必要はない	

問 22 越谷市の子どもの一時預かり事業を知っていますか。（○は1つ）

■一時預かり事業とは…

小学校就学前の子どもを対象に、さまざまな理由で、一時的に家庭で保育ができなくなったときに、昼間、保育園などで預かる事業です。現在、市内では、保育園や保育ステーションなど12か所の施設で実施しています。また、利用には一定の利用料がかかります。

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 23 越谷市内の子どもの一時預かり事業を利用したことがありますか。（○は1つ）

1. 利用したことがある	2. 利用したことはない
--------------	--------------

【問 23 で「1. 利用したことがある」を選択した方】

問 23-1 越谷市内の子どもの一時預かり事業を利用した満足度はいかがですか。（○は1つ）

1. 満足	2. まあまあ満足	3. やや不満	4. 不満
⇒3または4の場合その理由（ ）			

問 24 宛て名のお子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。

子育て短期支援事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）の利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な泊数をご記入ください（利用したい泊数の合計と、目的別の内訳の泊数を口内に数字でご記入ください。数字は一枠に一字。）。なお事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

1. 利用したい	年に計			泊
ア. 冠婚葬祭	年に			泊
イ. 保護者や家族の育児疲れ・不安	年に			泊
ウ. 保護者や家族の病気	年に			泊
エ. その他（	）年に			泊
2. 利用する必要はない				

【平日定期的に幼稚園や保育所などを利用していないと答えた方（P9の問9で「2」を選択した方）】

問 25 国では、新たに「こども誰でも通園制度（仮称）」（保育所などの利用要件を緩和し親が就労していても時間単位などで子どもを預けられるようにする制度。）の創設を目指しています。

宛て名のお子さんについて、「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用希望の有無について当てはまる番号に○をつけ、必要な時間数をご記入ください（利用したい時間数の合計数を口内に数字でご記入ください。数字は一枠に一字。）。なお事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかることとされています。

1. 利用したい	月に計			時間
2. 利用する必要はない				

8 宛て名のお子さんが5歳以上である方に、小学校入学後の放課後の過ごし方についてうかがいます

■学童保育室とは…

小学校に就学している児童であって、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものに対し、適切な遊び及び生活の場を提供するものです。

■放課後子ども教室とは…

地域の方々の参画を得ながら、放課後や週末に小学校や公民館等で異年齢交流やスポーツ・文化活動などを体験することができます。保護者の就労の有無に関わらず、利用できます。

問 26 宛て名のお子さんが小学校に入ったら、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。あてはまるものを選択し、それぞれ希望する1週間当たりの日数を数字でご記入ください。また、「学童保育室」「放課後子ども教室」の場合には、利用を希望する時間も□の中にご記入ください。必ず、時間は24時間表記でご記入ください。(数字は一枠に一字)

	低学年(1～3年生)のとき	高学年(4～6年生)になったら
1. 自宅	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
2. 祖父母宅や友人・知人宅	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
3. 習い事	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
4. 学習塾	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
5. 児童館	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
6. 学童保育室 月額 8,500 円	週に □ 日くらい →下校時から(□ □)時まで	週に □ 日くらい →下校時から(□ □)時まで
7. 放課後子ども教室	週に □ 日くらい →下校時から(□ □)時まで	週に □ 日くらい →下校時から(□ □)時まで
8. ファミリー・サポート・センター 1 時間 700 円～1,100 円	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
9. 放課後等デイサービス	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
10. その他(公民館、公園など)	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい

9 育児休業などについてうかがいます

問 27 宛て名のお子さんが生まれたとき、育児休業を取得しましたか。母親、父親それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。また、取得していない場合はその理由を番号でご記入ください。

①母親(○は1つ)	②父親(○は1つ)
1. 働いていなかった 2. 取得した(取得中である) 3. 取得していない 取得していない理由 (下から番号を選んであてはまるものすべて記入) ⇒	1. 働いていなかった 2. 取得した(取得中である) 3. 取得していない 取得していない理由 (下から番号を選んであてはまるものすべて記入) ⇒

1. 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった
2. 仕事が忙しかった
3. （産休後に）仕事に早く復帰したかった
4. 仕事に戻るのが難しそうだった
5. 昇給・昇格などが遅れそうだった
6. 収入減となり、経済的に苦しくなる
7. 保育所（園）などに預けることができた
8. 配偶者が育児休業制度を利用した
9. 配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった
10. 子育てや家事に専念するため退職した
11. 職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）
12. 有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった
13. 育児休業を取得できることを知らなかった
14. 産前産後の休暇（産前6週間、産後8週間）を取得できることを知らず、退職した
15. その他（ ）

問 27-1 育児休業給付、健康保険等の保険料免除の制度を知っていましたか。（○は1つ）

■育児休業給付とは…

子どもが原則1歳（一定の要件を満たす場合は1歳6か月または2歳）になるまで休業前の給与の67%（育児休業の開始から6か月経過後は50%）が支給されるものです。

■健康保険等の保険料免除とは…

子どもが満3歳になるまでの育児休業などの期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みです。

1. 育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた
2. 育児休業給付のみ知っていた
3. 保険料免除のみ知っていた
4. 育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった

【問 27 で「2. 取得した(取得中である)」を選択した方】

問 27-2 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

①母親(○は1つ)	②父親(○は1つ)
1. 育児休業取得後、職場に復帰した	1. 育児休業取得後、職場に復帰した
2. 現在も育児休業中である	2. 現在も育児休業中である
3. 育児休業中に離職した	3. 育児休業中に離職した

【問 27-2 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した方】

問 27-3 育児休業から職場に復帰したのは、4月からの保育施設の入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。どちらか1つに○をつけてください。

※ 4月からの保育施設の入所の申込みをしたうえで、1月～2月ごろに職場に復帰して一時的に認可外保育施設に入所した場合は、「1」を選択してください。また、4月からの入所を希望して復帰したが、実際には希望の保育施設に入所できなかったという場合も「1」を選択してください。

①母親(○は1つ)	②父親(○は1つ)
1. 4月からの入所に合わせたタイミングだった	1. 4月からの入所に合わせたタイミングだった
2. それ以外だった	2. それ以外だった

【問 27-2 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した方】

問 27-4 育児休業から「実際」に職場復帰したのは、お子さんがいくつのときですか。また、「職場の育児休業の制度の期間内」で、「希望」としてはお子さんがいくつのときまで取りたかったですか。□の中に数字でご記入ください。(数字は一桁に一字)

	①母親(数字は一桁に一字)	②父親(数字は一桁に一字)
実際の取得期間	□ 歳 □ □ か月	□ 歳 □ □ か月
希望の取得期間	□ 歳 □ □ か月	□ 歳 □ □ か月

【問 27-2 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した方】

問 27-5 職場に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんがいくつのときまで取りたかったですか。□の中に数字でご記入ください。(数字は一桁に一字)

①母親(数字は一桁に一字)	②父親(数字は一桁に一字)
□ 歳 □ □ か月	□ 歳 □ □ か月

【問 27-4 で実際の復帰が「希望」より早かった方】

問 27-6 希望より早く復帰した理由は何か。

①母親(あてはまるものすべてに○)	②父親(あてはまるものすべてに○)
1. 希望する保育施設に入るため	1. 希望する保育施設に入るため
2. 配偶者や家族の希望があったため	2. 配偶者や家族の希望があったため
3. 経済的な理由で早く復帰する必要があった	3. 経済的な理由で早く復帰する必要があった
4. 人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	4. 人事異動や業務の節目の時期に合わせるため
5. その他()	5. その他()

【問 27-4で実際の復帰が「希望」より遅かった方】

問 27-7 希望より遅く復帰した理由は何ですか。

①母親（あてはまるものすべてに○）	②父親（あてはまるものすべてに○）
1. 希望する保育施設に入れなかったため	1. 希望する保育施設に入れなかったため
2. 自分や子どもなどの体調が悪くなかったため	2. 自分や子どもなどの体調が悪くなかったため
3. 配偶者や家族の希望があったため	3. 配偶者や家族の希望があったため
4. 職場の受け入れ態勢が整っていなかったため	4. 職場の受け入れ態勢が整っていなかったため
5. 子どもをみてくれる人がいなかったため	5. 子どもをみてくれる人がいなかったため
6. その他（ ）	6. その他（ ）

【問 27-2で「2. 現在も育児休業中である」を選択した方】

問 27-8 宛て名のお子さんが1歳になったときに必ず預けられる保育施設があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる施設があっても1歳になる前に復帰、または1歳を過ぎた後も育児休業の取得を継続しますか。

①母親（○は1つ）	②父親（○は1つ）
1. 1歳になるまで育児休業を取得したい	1. 1歳になるまで育児休業を取得したい
2. 1歳になる前に復帰したい	2. 1歳になる前に復帰したい
3. 1歳を過ぎても育児休業の取得を継続したい	3. 1歳を過ぎても育児休業の取得を継続したい

10 子育て全般についてうかがいます

問 28 あなたは、子育てに対してどのように感じていますか。（○は1つ）

1. いつでも楽しいと感じている	2. 楽しいけれど大変だと感じることもある
3. 大変だけれど楽しいと感じることがある	4. いつでも大変だと感じている
5. どちらともいえない	

問 29 子どもと一緒に外出する際に困ることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 生活道路に車が入り危険	2. トイレが親子で利用するよう整備されていない
3. 段差が多くベビーカーで通行しにくい	4. 暗い通りや見通しのきかない通りが多く心配
5. 道路に歩道や信号がなく危険	6. 授乳する場所や設備がない
7. 親子で一緒に過ごせる場所や参加できるイベントが少ない	
8. 子ども連れに対して理解のない人がいる	
9. その他（ ）	
10. 特に困ることはない	

問 30 宛て名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。（○は1つ）

1. いる／ある	2. いない／ない
----------	-----------

【問 30 で「1. いる／ある」を選択した方】

問 30-1 お子さんの子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる先は、誰(どこ)ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 親族(親・兄弟・姉妹など) |
| 3. 地域の友人・知人 | 4. 職場の友人・知人 |
| 5. 子育てサロン、地域子育て支援センター、児童館等 | 6. NPO |
| 7. 保健所・保健センター、子育て世代包括支援センター | 8. 幼稚園・保育所・認定こども園などの施設 |
| 9. 民生委員・児童委員 | 10. かかりつけの医師 |
| 11. 市の子育て関連窓口 | 12. SNSで知り合った友人 |
| 13. その他() | |

問 31 お子さんの子育てに関して、悩んでいるのはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 遊ばせ方やしつけに関する事 | 2. 子どもの養育費など経済的な事 |
| 3. 食事や栄養に関する事 | 4. 病気や発達に関する事 |
| 5. 子どもの将来への不安 | 6. 仕事と子育ての両立の事 |
| 7. 子ども部屋の確保など住宅に関する事 | 8. 子どもの教育・学校に関する事 |
| 9. 子どもの友だち関係の事 | 10. 子どもの保護者どうしの関わり方の事 |
| 11. 子育ての情報が入手しにくい事 | 12. 子育てが精神的に負担な事 |
| 13. 祖父母との子育てに関する考え方の相違 | 14. その他() |
| 15. 特に悩んでいることはない | |

問 32 今後、市役所などの公的な機関にどのような形で相談したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------|
| 1. 市役所の窓口等での対面での相談 |
| 2. 保育所や幼稚園などでの対面での相談 |
| 3. 地域子育て支援拠点などでの対面での相談 |
| 4. 電話での相談 |
| 5. メールでの相談 |
| 6. SNS(LINE・ツイッターなど)での相談 |
| 7. 自宅への訪問での相談 |
| 8. その他() |
| 9. いずれの方法でも相談しない |

問 33 子育てに関する情報はどちらから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 親族（親・兄弟・姉妹など） |
| 3. 地域の友人・知人 | 4. 職場の友人・知人 |
| 5. 市の子育て関連窓口 | 6. こしがや子育てガイドブック |
| 7. こしがや子育てネット・こしがや子育てクワイエ | 8. 広報こしがや、越谷市公式ホームページ |
| 9. 越谷市 City メール配信、ツイッター | 10. その他インターネットや携帯サイト |
| 11. テレビ、ラジオ、新聞、子育て雑誌など | 12. その他（ ） |

問 34 今後、どのような方法で情報を受け取りたいですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 親族（親・兄弟・姉妹など） |
| 3. 地域の友人・知人 | 4. 職場の友人・知人 |
| 5. 市の子育て関連窓口 | 6. こしがや子育てガイドブック |
| 7. こしがや子育てネット・こしがや子育てクワイエ | 8. 広報こしがや、越谷市公式ホームページ |
| 9. 越谷市 City メール配信、ツイッター | 10. その他インターネットや携帯サイト |
| 11. テレビ、ラジオ、新聞、子育て雑誌など | 12. その他（ ） |

問 35 あなたは、越谷市の子育て情報サイト「こしがや子育てネット」・市民サイト「こしがや子育てクワイエ」を知っていますか。（○はそれぞれ1つ）

①「こしがや子育てネット」 https://www.city.koshigaya.saitama.jp/kosodate-net/ 越谷の子育てを応援するサイト こしがや子育てネット Koshigaya kosodate Net.  スマートフォン サイト	②「こしがや子育てクワイエ」 https://www.city.koshigaya.saitama.jp/kosodate-net/q-waie/ こしがや子育てクワイエ* Koshigaya kosodate Q-waie  スマートフォン サイト
1. 知っている 2. 知らない	1. 知っている 2. 知らない

【問 35 で、いずれかまたは両方「1. 知っている」を選択した方】

問 35-1 「こしがや子育てネット」・「こしがや子育てクワイエ」で子育てに必要な情報は手に入りますか。
（○は1つ）また今後、どのような情報を載せてほしいと思いますか。

1. 十分手に入る 2. まあまあ手に入る 3. あまり手に入らない 4. 全く手に入らない
どんな情報を希望しますか（ ）

問 36 市に対して、今後特に、どのような子育て支援の充実を図ってほしいと思いますか。(あてはまるものをすべてに○)

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1. 妊娠・出産など母子保健対策の充実 | 2. 小児医療や緊急医療体制の充実 |
| 3. 保育料等の軽減など経済的な支援 | 4. 保育サービスなど子育てと仕事の両立支援 |
| 5. 子育てに関する不安や悩みの相談体制の充実 | 6. 子育てに関する情報提供や講座などの充実 |
| 7. 児童虐待などに対応する体制の整備 | 8. 子育て中の保護者が気軽に交流できる場所や機会の提供 |
| 9. 父親教室の開催など父親の育児参加への支援 | 10. 子ども同士が安全に遊べる居場所の環境整備 |
| 11. 子どもの安全を守る防犯対策の強化 | 12. ワーク・ライフ・バランス（仕事と子育ての調和）の推進 |
| 13. 障がいのある子どもへの支援の充実 | 14. その他（ ） |

その他、子育てに関して日ごろ感じていることや悩みごと、あるいはお子さんを育てる上で気をつけていること、越谷市への要望等がありましたら、ご自由にお書きください。



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。



(2) 小学生調査

小学生の保護者対象調査

越谷市

子育て支援ニーズ調査ご協力をお願い

～ みなさまから頂いた回答は、地域の子育て支援の充実に生かされます ～

このたび、越谷市では、令和2年3月に策定した「第2期越谷市子ども・子育て支援事業計画」の計画期間の満了を迎えることから、令和6年度に計画の見直しを行うこととなりました。

つきましては、市民のみなさまの子ども・子育てに関する生活実態やご要望・ご意見などを把握するため、ニーズ調査を実施することといたしました。

このニーズ調査は、住民基本台帳の中から小学生（6～12歳）のお子さん 2,500 名を無作為に選び、その保護者の方を対象にお願いするものです。ご回答いただいた内容は、今後の子育て支援施策を進めていくための基礎資料にのみ利用させていただくもので、回答者個人が特定されたり、個々の回答内容が他にもれたり、他の目的に利用されたりすることは一切ありません。

つきましては、ご多忙のこととは存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年1月

越谷市長 福田 晃

ご記入にあたってのお願い

1. **封筒の宛て名のお子さん**について、お答えください。
2. アンケートは、**お子さんの保護者の方**がお答えください。**「あなた」とはアンケートに回答する方**を表します。
3. 回答は、あてはまる回答の数字に○印をつけていただく場合と、数字を記入する場合があります。また、設問によって○をつける数が異なりますので、注意書きに沿ってご記入ください。
4. ご記入いただいたアンケートは、**令和 6年 2月 5日(月)**までに、同封の返信用封筒に入れ、お近くの郵便ポストにご投函ください。切手は必要ありません。

調査に関するご質問、ご意見は…

越谷市 子ども家庭部 子ども施策推進課

電話：048-963-9165（直通）

FAX：048-963-3987

までお問い合わせください。

1 お子さんご家族の状況についてうかがいます

問1 宛て名のおさんが生まれた年月をご記入ください。(の中に数字でご記入ください。数字は一枠に一字。)

平成 年 月生まれ

問2 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛て名のお子さんからみた関係でお答えください。
(○は1つ)

1. 母親 2. 父親 3. その他（ ）

問3 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。(問2で「3. その他」と回答した方は回答不要です)(○は1つ)

1. 配偶者がいる 2. 配偶者はいない

問4 宛て名のお子さんの子育て(教育を含む)を主に行っているのは誰ですか。宛て名のお子さんから見た関係でお答えください。(○は1つ)

1. 父母ともに 2. 主に母親 3. 主に父親
4. 主に祖父母 5. その他 ()

問5 あなたのお住まいはどちらですか。記入例を参考に、お住まいの町名を記入してください。（丁目がある場合は丁目まで。番地の記入は不要です。）

町名 () () 丁目

【記入例】町名（ 越ヶ谷 ）（ 4 ）丁目

問6 日ごろ、宛て名のお子さんをみてもらえる親族や知人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる
2. 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる
3. 日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる
4. 緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる
5. いずれもない

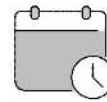
2 お子さんの保護者の就労状況についてうかがいます

この項目に出てくる「フルタイム」「パート・アルバイト等」とは…

■「フルタイム」 → 週5日・1日8時間程度の就労

※正規雇用・非正規雇用であるかの就業形態は問いません。

■「パート・アルバイト等」 → フルタイム以外の就労



問7 宛て名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

① 母親（○は1つ） ※父子家庭の場合、記入は不要です

1. フルタイムで就労している
2. フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
3. パート・アルバイト等で就労している
4. パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
5. 以前は就労していたが、現在は就労していない
6. これまで就労したことがない

【問7の①で「1」～「4」（就労している）を選択した方】

問7 ①-1 週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。
就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。
産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。（数字は
一枠に一字）

週当たり 日

1日当たり 時間

【問7の①で「1」～「4」（就労している）を選択した方】

問7 ①-2 家を出る時間と帰宅時間をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパ
ターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況につ
いてお答えください。必ず、時間は 24 時間表記（例：帰宅時間 時）でご記入くださ
い（数字は一枠に一字）。

家を出る時間 時

帰宅時間 時

② 父親（○は1つ） ※母子家庭の場合、記入は不要です

1. フルタイムで就労している
2. フルタイムで就労しているが、育休・介護休業中である
3. パート・アルバイト等で就労している
4. パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中である
5. 以前は就労していたが、現在は就労していない
6. これまで就労したことがない

【問7の②で「1」～「4」(就労している)を選択した方】

問7 ②-1 週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。
就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。
育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。(数字は一律に一字)

週当たり 日	1日当たり 時間
-----------------------------	--

【問7の②で「1」～「4」(就労している)を選択した方】

問7 ②-2 家を出る時間と帰宅時間をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。必ず、時間は 24 時間表記(例:帰宅時間 時)でご記入ください。(数字は一律に一字)

家を出る時間 時	帰宅時間 時
--	--

【問7の①または②で「3」または「4」(パート・アルバイト等で就労)を選択した方】

問7 ③ フルタイムへの転換希望はありますか。

③-1 母親(○は1つ)

1. フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある 2. フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない 3. パート・アルバイト等で就労を続けることを希望 4. パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい

③-2 父親(○は1つ)

1. フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある 2. フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない 3. パート・アルバイト等で就労を続けることを希望 4. パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい

【問7の①または②で「5」または「6」(就労していない・就労したことがない)を選択した方】

問7 ④ 就労したいという希望はありますか。

④-1 母親(○は1つ。また数字は一律に一字。)

1. 子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない) 2. 1年より先、一番下の子どもが 歳になったころに就労したい 3. すぐにも、もしくは1年以内に就労したい ⇒2または3の場合	ア. フルタイム イ. パートタイム、アルバイト等(「フルタイム」以外) ⇒週当たり 日 1日当たり 時間
---	---

④-2 父親(〇は1つ。また数字は一枠に一字。)

1. 子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
 2. 1年より先、一番下の子どもが 歳になったところに就労したい
 3. すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい

⇒ 2 または 3 の場合

ア. フルタイム

イ、パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）

⇒週当たり 日 1日当たり 時間

問8～問11は、下の説明を参考に、お答えください。

■ 学童保育室

小学校に就学している児童であって、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものに対し、適切な遊び及び生活の場を提供するものです。

すべての小学校区に設置されています。また、民間の学童保育室が2か所あります。

■放課後子ども教室

地域の方々の夢画を得ながら、放課後や週末に小学校や公民館等で異年齢交流やスポーツ・文化活動などを体験することができます。保護者の就労の有無に関わらず、利用できます。

現在、17か所で実施されています。

■兒童館

児童館は天文と物理をテーマにした「コスモス」と生物と環境をテーマにした「ヒマワリ」の2施設設置され、子どもたちをはじめ、子育て世代の方などに幅広く利用されており、科学支援事業と子育て支援事業を実施しています。

■放課後等デイサービス

就学している障がい児に、授業の終了後や学校の休業日に、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進等に必要の支援を行うものです。

市内には、令和5年4月1日現在73事業所があります。

3 学童保育室の利用についてうかがいます

■学童保育室とは…

小学校に就学している児童であって、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものに対し、適切な遊び及び生活の場を提供するものです。

問8 宛て名のお子さんについて、現在、学童保育室を利用していますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 利用している ⇒問8-1へ | 2. 利用していない ⇒問8-4へ |
|------------------|-------------------|

【問8で「1. 利用している」を選択した方】

問8-1 宛て名のお子さんについて、学童保育室の利用日数はどれくらいですか。(数字は一枠に一字。また○は1つ)

- | | |
|--|-------|
| 週 <input type="text"/> 日くらい ⇒ うち土曜日の利用 | 1. ある |
| | 2. ない |

問8-2 利用した満足度はいかがですか。(○は1つ)

- | | |
|---------|-----------|
| 1. 満足 | 2. まあまあ満足 |
| 3. やや不満 | 4. 不満 |

⇒3または4の場合その理由()

問8-3 学童保育室に今後望むのはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. 児童の安全確保 | 2. 施設の充実 |
| 3. 実施時間の延長 | 4. 指導員の体制の充実 |
| 5. 過ごし方の充実 | 6. 保護者との連携強化 |
| 7. 学校との連携強化 | 8. 地域との連携強化 |
| 9. ボランティアの協力拡大 | 10. その他() |
| 11. 特になし | |

【問8で「2. 利用していない」を選択した方】

問8-4 学童保育室を利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 家に家族が在宅しているため | 2. 子どもが行きたがらないから |
| 3. 他に放課後の居場所があるから | 4. 塾や習い事で利用する時間がないから |
| 5. 過ごし方が充実していないから | 6. 魅力を感じないから |
| 7. 不定期的の利用ができないから | 8. 学校の延長のようだから |
| 9. その他() | |

4 放課後子ども教室の利用についてうかがいます

■放課後子ども教室とは…

地域の方々の参画を得ながら、放課後や週末に小学校や公民館等で異年齢交流やスポーツ・文化活動などを体験することができます。保護者の就労の有無に関わらず、利用できます。

問9 宛て名のお子さんについて、現在、放課後子ども教室を利用していますか。（○は1つ）

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 利用している ⇒問9-1へ | 2. 利用していない ⇒問9-4へ |
|------------------|-------------------|

【問9で「1. 利用している」を選択した方】

問9-1 宛て名のお子さんについて、放課後子ども教室の利用日数はどれくらいですか。（数字は一律に一字。また○は1つ）

- | | |
|--|-------|
| 月 <input type="text"/> 日くらい ⇒ うち土曜日の利用 | 1. ある |
| | 2. ない |

問9-2 利用した満足度はいかがですか。（○は1つ）

- | | |
|---------|-----------|
| 1. 満足 | 2. まあまあ満足 |
| 3. やや不満 | 4. 不満 |

⇒3または4の場合その理由（ ）

問9-3 放課後子ども教室に今後望むのはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 児童の安全確保 | 2. 実施時間の延長 |
| 3. 指導員の体制の充実 | 4. 活動内容の充実 |
| 5. 保護者との連携強化 | 6. 学校との連携強化 |
| 7. 地域との連携強化 | 8. ボランティアの協力拡大 |
| 9. 実施回数の増加 | 10. 多様な体験活動 |
| 11. 放課後子ども教室の全小学校区での実施 | 12. その他（ ） |
| 13. 特にない | |

【問9で「2. 利用していない」を選択した方】

問9-4 放課後子ども教室を利用していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 家に家族が在宅しているため | 2. 子どもが行きたがらないから |
| 3. 他に放課後の居場所があるから | 4. 塾や習い事で利用する時間がないから |
| 5. 活動内容が充実していないから | 6. 魅力を感じないから |
| 7. 気軽に参加できないから | 8. 学校の延長のようだから |
| 9. 帰りのお迎えが負担だから | 10. 自分の学校に開設されていないから |
| 11. 放課後子ども教室を知らなかったから | 12. その他（ ） |

5 児童館の利用についてうかがいます

■児童館とは…

児童館は天文と物理をテーマにした「コスモス」と生物と環境をテーマにした「ヒマワリ」の2施設設置され、子どもたちをはじめ、子育て世代の方などに幅広く利用されており、科学支援事業と子育て支援事業を実施しています。

問 10 越谷市に児童館があるのを知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 10-1 宛て名のお子さんは、ふだん児童館を利用していますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 利用している ⇒問 10-2へ | 2. 利用していない ⇒問 10-4へ |
|--------------------|---------------------|

【問 10-1で「1. 利用している」を選択した方】

問 10-2 満足度はいかがですか。(○は1つ)

- | | |
|---------|-----------|
| 1. 満足 | 2. まあまあ満足 |
| 3. やや不満 | 4. 不満 |

⇒3または4の場合その理由（ご記入ください）

問 10-3 児童館への要望を次の中からお選びください。(○は3つまで)

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| 1. 施設の拡大や魅力的な遊具の充実 | 2. 子育て相談や講座の充実 |
| 3. 親同士の情報交換や交流の場を設ける | 4. 職員の専門性を高める |
| 5. 子どもの意見を反映させた遊びと行事を行う | 6. 地域の高齢者や障がい者と交流できる行事を行う |
| 7. 利用時間を延長する
(□□時 □□分頃まで) | 8. その他 () |
| 9. 特になし | |

【問 10-1で「2. 利用していない」を選択した方】

問 10-4 児童館を利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 児童館が遠いから | 2. 遊具が少ない・つまらないから |
| 3. 遊びの種類が少ない・つまらない | 4. 外で遊びたいから |
| 5. 友達が児童館にいないから | 6. 上級生が児童館にいるから |
| 7. 親同士の関係がわずらわしいから | 8. 施設が狭い・古い |
| 9. 利用できる曜日や時間が合わない | 10. その他 () |

問 11 宛て名のお子さんについて、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせるのがよいと思いますか。あてはまるものを選択し、それぞれ希望する週当たり日数を数字でご記入ください。また、「学童保育室」「放課後子ども教室」の場合には、利用を希望する時間も□の中にご記入ください。必ず、時間は 24 時間表記でご記入ください（数字は一枠に一字）。

現在の学年にかかわらず、両方ご記入ください

	低学年（1～3年生）のとき	高学年（4～6年生）になったら
1. 自宅	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
2. 祖父母宅や友人・知人宅	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
3. 習い事	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
4. 学習塾	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
5. 児童館	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
6. 学童保育室 月額 8,500 円	週に □ 日くらい →下校時から(□ □)時まで	週に □ 日くらい →下校時から(□ □)時まで
7. 放課後子ども教室	週に □ 日くらい →下校時から(□ □)時まで	週に □ 日くらい →下校時から(□ □)時まで
8. ファミリー・サポート・センター 1 時間 700 円～1,100 円	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
9. 放課後等デイサービス	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい
10. その他（公民館、公園など）	週に □ 日くらい	週に □ 日くらい

6 お子さんが病気の時などの対応についてうかがいます

問 12 この 1 年間に、宛て名のお子さんが病気やケガで学校を休み、「学童保育室」や「放課後子ども教室」が利用できなかったことはありますか。（○は 1 つ）

1. あった

2. なかった

【問 12 で「1. あった」を選択した方】

問 12-1 その場合に、どのように対応しましたか。それぞれの日数も□の中に数字でご記入ください。（あてはまるものすべてに○。また数字は一枠に一字。）

ア. 父親が休んだ	年に □ □ 日
イ. 母親が休んだ	年に □ □ 日
ウ.（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった	年に □ □ 日
エ. 父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた	年に □ □ 日
オ. 病児・病後児の保育を利用した	年に □ □ 日
カ. ファミリー・サポート・センター、緊急サポート・センターを利用した	年に □ □ 日
キ. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	年に □ □ 日
ク. その他（ ）	年に □ □ 日

【問 12-1で「ア. 父親が休んだ」または「イ. 母親が休んだ」を選択した方】

問 12-2 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思いましたか。日数についても□□の中にご記入ください。一定の利用料(1日当たり2,000円～)がかかること、また利用前にかかりつけ医の受診が必要なことをふまえてお答えください。(○は1つ。また数字は一枠に一字)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい ⇒ 年に□□ 日 |
| 2. 利用したいとは思わない |

7 お子さんの生活についてうかがいます

問 13 宛て名のお子さんは、朝ごはんを食べますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 毎日食べている | 2. 週4～6日は食べている |
| 3. 食べる日は週3日以下 | 4. ほとんど食べていない |

問 14 宛て名のお子さんは、夜ごはんを誰と食べる人が多いですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 家族みんなで食べる | 2. 家族の誰かと食べる |
| 3. ひとりで食べる | 4. そのほかの人と食べる |
| 5. ほとんど食べていない | |

問 15 宛て名のお子さんが寝る時間は、だいたい何時ごろですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|----------|
| 1. 9時前・9時ごろ | 2. 10時ごろ |
| 3. 11時ごろ | 4. 12時過ぎ |

問 16 宛て名のお子さんが起きているときに、お子さんと一緒に過ごす時間は、1日何時間くらいですか。それぞれの□□の中に数字でご記入ください。(数字は一枠に一字)

【父親】	およそ □□ 時間	【母親】	およそ □□ 時間
------	-----------	------	-----------

問 17 お子さんとのふれあいや会話は足りていると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 足りていると思う | 2. ほぼ足りていると思う |
| 3. あまり足りていないと思う | 4. まったく足りていないと思う |
| 5. よくわからない | |

問 18 放課後、お子さんはどこで過ごしていることが多いですか。(○は2つまで)

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1. 自分の家 | 2. 友達の家 |
| 3. 祖父母・親せきの家 | 4. 公園・広場 |
| 5. 児童館や図書館 | 6. 塾や習い事 |
| 7. 学校(学童保育室、放課後子ども教室等) | 8. 放課後等デイサービス |
| 9. その他() | |

問 19 放課後、お子さんは何をして過ごしていることが多いですか。（○は2つまで）

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1. テレビを見る | 2. テレビゲーム（携帯型を含む）をする |
| 3. インターネットを見る | 4. 読書（漫画を含む）をする |
| 5. 宿題や勉強をする | 6. 体を動かす遊びをする |
| 7. スポーツをする | 8. その他（ ） |

問 20 宛て名のお子さんの身近な生活環境について、それぞれどのように思いますか。（それぞれ○は1つ）

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そうは 思わない
① 子どもが安心して遊ぶ場所が少ない	1	2	3	4
② 1人で外出させるのは心配だ	1	2	3	4
③ 地域が安全でなくなっている	1	2	3	4
④ 子どもの将来を考えると、習い事や塾に通わせないと不安だ	1	2	3	4
⑤ 子どもだけで公園など屋外で遊ばせるのは不安である	1	2	3	4
⑥ 学校が安全でなくなっている	1	2	3	4
⑦ 遊び友達が見つからない	1	2	3	4
⑧ 放課後、どのように過ごしたらよいかわからない	1	2	3	4

問 21 お子さんは、地域活動やグループ活動などへ参加したことがありますか。（○は1つ）

- | |
|----------------------------|
| 1. 参加したことがある・参加している |
| 2. 参加したことはないが、今後は参加させたい |
| 3. 参加したことも参加する予定もない |
| 4. 身近な地域の活動やグループ活動について知らない |

【問 21 で「1. 参加したことがある・参加している」を選択した方】

問 21-1 参加したことがある・参加している地域活動やグループ活動はどちらですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1. 自治会活動（清掃活動等） | 2. 地域の子ども会活動 |
| 3. 地区公民館等で行っている講座・教室 | 4. 地区スポーツ・レクリエーション推進委員会（地区スポ・レク）主催の地区スポーツ事業 |
| 5. 地区コミュニティ推進協議会（地区コミ協）主催事業（地区まつり等） | 6. 地域のスポーツ団体 |
| 7. その他（ ） | |

問 22 放課後や休日にお子さんがよく利用する市の公共施設は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 児童館 | 2. 図書館 |
| 3. 公園 | 4. 体育施設 |
| 5. 小学校の校庭・体育館 | 6. 公民館 |
| 7. その他（ ） | 8. 利用していない |

8 子育て全般についてうかがいます

問 23 あなたは、子育てに対してどのように感じていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. いつでも楽しいと感じている | 2. 楽しいけれど大変だと感じることもある |
| 3. 大変だけれど楽しいと感じることがある | 4. いつでも大変だと感じている |
| 5. どちらともいえない | |

問 24 仕事や家事・育児などの家庭生活について、あなたの現在の状況に近いものはどれですか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. 仕事に専念している | 2. どちらかといえば仕事を優先させている |
| 3. 仕事と家事・育児に同時に取り組んでいる | 4. どちらかといえば家事・育児を優先させている |
| 5. 家事・育児に専念している | 6. その他() |

問 25 子育てや子どもの教育に関して、あなたが気軽に相談できる人や場所はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 親族(親・兄弟・姉妹など) |
| 3. 地域の友人・知人 | 4. 職場の友人・知人 |
| 5. 子育てサロン、地域子育て支援センター、児童館等 | 6. NPO |
| 7. 保健所・保健センター、子育て世代包括支援センター | 8. 学校 |
| 9. 民生委員・児童委員 | 10. かかりつけの医師 |
| 11. 市の子育て関連窓口 | 12. SNSで知り合った友人 |
| 13. その他() | 14. 相談できる人や場所はない |

問 26 今後、市役所などの公的な機関にどのような形で相談したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------|
| 1. 市役所の窓口等での対面での相談 |
| 2. 学校などでの対面での相談 |
| 3. 地域子育て支援拠点などでの対面での相談 |
| 4. 電話での相談 |
| 5. メールでの相談 |
| 6. SNS(LINE・ツイッターなど)での相談 |
| 7. 自宅への訪問での相談 |
| 8. その他() |
| 9. いずれの方法でも相談しない |

問 27 あなたが子育てをしてよかったこと、嬉しかったことはなんですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 子どもを持つ喜びが実感できたこと | 2. 子どもの成長 |
| 3. 子育てを通して自分も成長できたこと | 4. 配偶者との関係がよかったこと |
| 5. 家族間の会話が増えたこと | 6. 家庭が明るくなったこと |
| 7. 子育てを通じ友人が増えたこと | 8. 自分の親への感謝の念が生まれたこと |
| 9. その他（ ） | 10. 特にない |

問 28 子育てに関する情報はどこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 親族（親・兄弟・姉妹など） |
| 3. 地域の友人・知人 | 4. 職場の友人・知人 |
| 5. 市の子育て関連窓口 | 6. こしがや子育てガイドブック |
| 7. こしがや子育てネット・こしがや子育てクワイエ | 8. 広報こしがや、越谷市公式ホームページ |
| 9. 越谷市 City メール配信、ツイッター | 10. その他インターネットや携帯サイト |
| 11. テレビ、ラジオ、新聞、子育て雑誌など | 12. その他（ ） |

問 29 今後、どのような方法で情報を受け取りたいですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 親族（親・兄弟・姉妹など） |
| 3. 地域の友人・知人 | 4. 職場の友人・知人 |
| 5. 市の子育て関連窓口 | 6. こしがや子育てガイドブック |
| 7. こしがや子育てネット・こしがや子育てクワイエ | 8. 広報こしがや、越谷市公式ホームページ |
| 9. 越谷市 City メール配信、ツイッター | 10. その他インターネットや携帯サイト |
| 11. テレビ、ラジオ、新聞、子育て雑誌など | 12. その他（ ） |

問 30 あなたは、越谷市の子育て情報サイト「こしがや子育てネット」・市民サイト「こしがや子育てクワイエ」を知っていますか。（○はそれぞれ1つ）

①「こしがや子育てネット」 https://www.city.koshigaya.saitama.jp/kosodate-net/ 越谷の子育てを応援するサイト こしがや子育てネット Koshigaya kosodate Net.  スマートフォン サイト	市民サイト「こしがや子育てクワイエ」 https://www.city.koshigaya.saitama.jp/kosodate-net/q-waie/ こしがや子育てクワイエ* Koshigaya kosodate Q-waie  スマートフォン サイト
1. 知っている 2. 知らない	1. 知っている 2. 知らない

【問 30 で、いずれかまたは両方「1. 知っている」を選択した方】

問 30-1 「こしがや子育てネット」・「こしがや子育てクワイエ」で子育てに必要な情報は手に入りますか。
(○は1つ)また今後、どのような情報を載せてほしいと思いますか。

1. 十分手に入る	2. まあまあ手に入る
3. あまり手に入らない	4. 全く手に入らない
どんな情報を希望しますか ()	

問 31 市に対して、今後特に、どのような子育て支援の充実を図ってほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 妊娠・出産など母子保健対策の充実
2. 小児医療や緊急医療体制の充実
3. 保育料等の軽減など経済的な支援
4. 保育サービスなど子育てと仕事の両立支援
5. 子育てに関する不安や悩みの相談体制の充実
6. 子育てに関する情報提供や講座などの充実
7. 児童虐待などに対応する体制の整備
8. 子育て中の保護者が気軽に交流できる場所や機会の提供
9. 父親教室の開催など父親の育児参加への支援
10. 子ども同士が安全に遊べる居場所の環境整備
11. 子どもの安全を守る防犯対策の強化
12. ワーク・ライフ・バランス(仕事と子育ての調和)の推進
13. 障がいのある子どもへの支援の充実
14. 不登校やひきこもりの子どもたちへの支援の充実
15. その他 ()

問 32 お子さんが小学校に入学した時に心配だったことについて、その程度をお答えください。（①～⑪のそれぞれ1つに○）

	とても 心配 だった	まあまあ 心配 だった	あまり 心配では なかった	全く 心配では なかった	どちら でもない
① 通学の安全	1	2	3	4	5
② 新しい生活にスムーズに移行できるか	1	2	3	4	5
③ 小学校で友だちができるか	1	2	3	4	5
④ 授業についていけるかどうか	1	2	3	4	5
⑤ 小学校で身の回りのことが自分でできるか	1	2	3	4	5
⑥ 家庭内でどのような学習をさせたらよいか	1	2	3	4	5
⑦ どのような習いごとをさせたらよいか	1	2	3	4	5
⑧ 子どもが留守番できるか、留守中の安全・防犯	1	2	3	4	5
⑨ 子どもの放課後の居場所	1	2	3	4	5
⑩ 子どもの夏休みなど長期休暇中の居場所	1	2	3	4	5
⑪ ファミリー・サポートなど放課後、子どもを世話してくれる人がみつかるか	1	2	3	4	5

その他、子育てに関して日ごろ感じていることや悩みごと、あるいはお子さんを育てる上で気をつけていること、越谷市への要望等がありましたら、ご自由にお書きください。



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。



(3) こどもの生活実態調査

越谷市 こどもの生活実態調査ご協力のお願い

～ みなさまから頂いた回答は、地域の子育て支援の充実に生かされます ～

このたび、越谷市では、令和2年3月に策定した「第2期越谷市子ども・子育て支援事業計画」の計画期間の満了を迎えることから、令和6年度に計画の見直しを行うこととなりました。

つきましては、市民のみなさまの子育ての実態やお子さんの生活状況、ご要望・ご意見などを把握するため、こどもの生活実態調査を実施することといたしました。

この実態調査は、住民基本台帳の中から小学5年生、中学2年生のお子さん 3,000 名を無作為に選び、その保護者の方を対象にお願いするものです。ご回答いただいた内容は、今後の子育て支援を進めていくための基礎資料にのみ利用させていただくもので、回答者個人が特定されたり、個々の回答内容が他にもれたり、他の目的に利用されたりすることは一切ありません。

つきましては、ご多忙のこととは存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

令和6年1月

越谷市長 福田 晃

ご記入にあたってのお願い

1. 封筒の宛て名のお子さんについて、お答えください。
2. アンケートは、お子さんの保護者の方がお答えください。「あなた」とはアンケートに回答する方を表します。
3. 回答は、あてはまる回答の数字に○印をつけていただきます。また、設問によって○をつける数が異なりますので、注意書きに沿ってご記入ください。
4. 答えられない質問やお答えになりたくない質問については、お答えいただく必要はありません。
5. ご記入いただいたアンケートは、**令和 6年 2月 5日(月)**までに、同封の返信用封筒に入れ、お近くの郵便ポストにご投函ください。切手は必要ありません。

調査に関するご質問、ご意見は…

越谷市 子ども家庭部 子ども施策推進課

電 話：048-963-9165（直通）

FAX：048-963-3987

までお問い合わせください。

【回答例】

〔良い例〕

① 父親
4. 祖父

〔悪い例〕

①. 父親
4. 祖父

【このアンケートで使うことばの意味について】

- ・「あなた」＝ このアンケートに回答している方
- ・「お子さん」＝ 封筒の宛て名のお子さん
- ・「お子さん(兄弟姉妹を含む)」＝ 封筒の宛て名のお子さんとその兄弟姉妹など、
ご家庭内で養育するすべてのお子さん
- ・「家 族」＝ 同居か別居かにかかわらず、生計が同じである家族。
たとえば、単身赴任をしている方やひとり暮らしのお子さんも、
生計が同じであれば、「家族」に含みます。
- ・「家 庭」＝ 「家族」に同じ

1. ご家庭やご両親のことについてお聞きます

問1 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。

(○は1つだけ)

1. 母親 2. 父親 3. 祖父母 4. その他 ()

問2 お子さんが通学する小(中)学校をお答え下さい。(○は1つだけ)

※ 公立学校以外に在籍の場合は、お住まいのご住所が該当する通学区域の学校名をお答えください。

越谷市ホームページ
通学区域検索(住所から探す)はこちら→



■小学校 (30 校)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 越ヶ谷小学校 | 2. 大沢小学校 | 3. 新方小学校 |
| 4. 桜井小学校 | 5. 大袋小学校 | 6. 荻島小学校 |
| 7. 出羽小学校 | 8. 大相模小学校 | 9. 増林小学校 |
| 10. 川柳小学校 | 11. 南越谷小学校 | 12. 東越谷小学校 |
| 13. 大沢北小学校 | 14. 大袋北小学校 | 15. 蒲生南小学校 |
| 16. 北越谷小学校 | 17. 大袋東小学校 | 18. 平方小学校 |
| 19. 弥栄小学校 | 20. 大間野小学校 | 21. 宮本小学校 |
| 22. 西方小学校 | 23. 鷺後小学校 | 24. 明正小学校 |
| 25. 千間台小学校 | 26. 桜井南小学校 | 27. 花田小学校 |
| 28. 城ノ上小学校 | 29. 蒲生小学校 | 30. おおぞら学級 |

■中学校 (15 校)

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1. 中央中学校 | 2. 東中学校 | 3. 西中学校 |
| 4. 南中学校 | 5. 北中学校 | 6. 富士中学校 |
| 7. 北陽中学校 | 8. 栄進中学校 | 9. 光陽中学校 |
| 10. 平方中学校 | 11. 武蔵野中学校 | 12. 大袋中学校 |
| 13. 新栄中学校 | 14. 大相模中学校 | 15. 千間台中学校 |

問3 お子さんと同居しているご家族の方はどなたですか。兄弟姉妹については、人数も教えてください。
（あてはまる番号すべてに○。人数はカッコの中に数字で回答してください。）

1. 父親	2. 母親	3. 兄弟姉妹（ 人）
4. 祖父	5. 祖母	6. その他（ ）

問4 あなたとお子さんを含め、問3でお答えになった家族全員の人数は何人ですか。〈単身赴任やひとり暮らしのお子さんなど、別居していても生計を一緒にする方はすべて含みます。〉（○はひとつだけ）

1. 2人	2. 3人	3. 4人	4. 5人
5. 6人	6. 7人	7. 8人	8. 9人 9. 10人以上

問5 お子さんのご両親の現在の年齢についてお答えください。（お母さん・お父さんそれぞれについて数字で回答、いない場合やわからない場合は「－」と記入してください。）

お母さん	歳	お父さん	歳
------	------------------------	------	------------------------

問6 あなたの世帯は、「ひとり親世帯※」に該当しますか。（○はひとつだけ）

1. 該当しない	2. 該当する（離婚）→問7へ	3. 該当する（未婚）
4. 該当する（死別）	5. 該当する（別居）	

※ 単身赴任など一時的な別居の場合は、ひとり親世帯には該当しません。また、法律上の婚姻をしていなくても、事実婚の状況であれば、ひとり親には該当しません。

一方、法的な離婚が成立しなくても離婚を前提として別居している場合は、該当します。

【問6で「2. 該当する（離婚）」を選んだ方にうかがいます。】

問7 離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。
（○はひとつだけ）

1. 取り決めをしており、受け取っている
2. 特に取り決めはしていないが、受け取っている
3. 取り決めをしているが、受け取っていない
4. 取り決めをしておらず、受け取っていない

問8 お子さんのお母さん、お父さんの国籍にあてはまる番号を、それぞれ教えてください。（①②それぞれについて、あてはまる番号ひとつに○）

① お母さん	1. 日本	2. 日本以外
② お父さん	1. 日本	2. 日本以外

問3 お子さんと同居しているご家族の方はどなたですか。兄弟姉妹については、人数も教えてください。

(あてはまる番号すべてに○。人数はカッコの中に数字で回答してください。)

1. 父親	2. 母親	3. 兄弟姉妹 (人)
4. 祖父	5. 祖母	6. その他 ()

問4 あなたとお子さんを含め、問3でお答えになった家族全員の人数は何人ですか。〈単身赴任やひとり暮らしのお子さんなど、別居していても生計を一緒にする方はすべて含みます。〉(○はひとつだけ)

1. 2人	2. 3人	3. 4人	4. 5人
5. 6人	6. 7人	7. 8人	8. 9人 9. 10人以上

問5 お子さんのご両親の現在の年齢についてお答えください。(お母さん・お父さんそれぞれについて数字で回答、いない場合やわからない場合は「-」と記入してください。)

お母さん

歳

お父さん

歳

問6 あなたの世帯は、「ひとり親世帯※」に該当しますか。(○はひとつだけ)

1. 該当しない	2. 該当する(離婚)→問7へ	3. 該当する(未婚)
4. 該当する(死別)	5. 該当する(別居)	

※ 単身赴任など一時的な別居の場合は、ひとり親世帯には該当しません。また、法律上の婚姻をしていなくても、事実婚の状況であれば、ひとり親には該当しません。

一方、法的な離婚が成立しなくても離婚を前提として別居している場合は、該当します。

【問6で「2. 該当する(離婚)」を選んだ方にうかがいます。】

問7 離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。(○はひとつだけ)

1. 取り決めをしており、受け取っている
2. 特に取り決めはしていないが、受け取っている
3. 取り決めをしているが、受け取っていない
4. 取り決めをしておらず、受け取っていない

問8 お子さんのお母さん、お父さんの国籍にあてはまる番号を、それぞれ教えてください。(①②それぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

① お母さん	1. 日本	2. 日本以外
② お父さん	1. 日本	2. 日本以外

問 9 お子さんのお母さん、お父さんが最後に卒業・修了した学校をお答えください。（①②それぞれについて、あてはまる番号ひとつに○）

項目	①お母さん	②お父さん
中学校	1	1
高等学校（全日制）	2	2
高等学校（定時制または通信制）	3	3
高等専修学校・高等専門学校（中学校卒業後に通う）	4	4
短期大学	5	5
専門学校（高校卒業後に通う）	6	6
大学	7	7
大学院	8	8
その他	9	9
わからない	10	10
いない	11	11

問 10 お子さんのお母さん、お父さんの就労状況について、あてはまるものを回答してください。（①②それぞれについて、○はひとつだけ）

項目	①お母さん	②お父さん
正社員・正規職員	1	1
契約社員・派遣社員・非正規職員	2	2
パート・アルバイト	3	3
自営業・家業（自由業・フリーランスを含む）	4	4
働いていない（家事専業を含む）	5	5
わからない	6	6
いない	7	7

5に○をつけた場合のみ

【問 10 で「5 働いていない」を選んだ方にうかがいます。】←

問 10-1 働いていない最も主な理由を教えてください。（①②それぞれについて、○はひとつだけ）

項目	①お母さん	②お父さん
働きたいが、希望する条件の仕事がないため	1	1
子育てを優先したいため	2	2
家族の介護・介助のため	3	3
自分の病気や障害のため	4	4
通学しているため	5	5
その他の理由	6	6

2. 子育てや教育についてお聞きします

問 11 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（○はひとつだけ）

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 認可保育所・認定こども園 | 2. その他の教育・保育等の施設 |
| 3. 親・親族以外の個人 | 4. もっぱら親・親族が面倒を見ていた |
| 5. その他 | |

問 12 お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（○はひとつだけ）

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 認可保育所・認定こども園 | 2. その他の教育・保育等の施設 |
| 3. 親・親族以外の個人 | 4. もっぱら親・親族が面倒を見ていた |
| 5. その他 | |

問 13 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。（A～Dそれぞれについて、○はひとつだけ）

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない
A テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている	1	2	3	4
B お子さんに本や新聞を読むようにすすめている	1	2	3	4
C お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた	1	2	3	4
D お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる	1	2	3	4

問 14 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。（A、Bそれぞれについて、○はひとつだけ）

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない
A 授業参観や運動会などの学校行事への参加	1	2	3	4
B P T A 活動や保護者会、学校応援団等ボランティアなどへの参加	1	2	3	4

問 15 お子さんの、学校での成績はいかがですか。（○はひとつだけ）

- | | | |
|------------|-----------|--------|
| 1. 良好 | 2. まあまあ良好 | 3. ふつう |
| 4. あまりよくない | 5. よくない | |

問 16 宛名のお子さんは将来どの段階まで進学すると思いますか。あなたの希望と、現実的に見た場合、それぞれについてお答えください。（①②それぞれについて、○はひとつだけ）

項目	①希望	②現実
中学校まで	1	1
高校まで	2	2
専門学校、5年生の高等専門学校（高専）、短大等まで	3	3
大学まで	4	4
大学院まで	5	5
その他（ ）	6	6
まだわからない	7	7

【問 16 で「希望」と「現実」が異なる回答をした方にうかがいます。】

問 16-1 希望と現実が異なると思うのはなぜですか。（あてはまるものをすべてに○）

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. お子さんがそう希望しているから | 2. 一般的な進路だと思うから |
| 3. お子さんの学力から考えて | 4. 家庭の経済的な状況から考えて |
| 5. その他 | 6. 特に理由はない |

3. 現在の暮らしについてお聞きます

問 17 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。（○はひとつだけ）

- | | | |
|-------------|-----------|--------|
| 1. 大変ゆとりがある | 2. ゆとりがある | 3. ふつう |
| 4. 苦しい | 5. 大変苦しい | |

問 18 **世帯全体**のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。（○はひとつだけ）

※令和5（2023）年の年間収入についてお答えください。

※収入には、同居し、生計を同一にしている家族全員の以下の収入が含まれます。

- ・勤め先収入（定期収入、賞与等）
- ・事業収入（原材料費、人件費、営業上の諸経費等を除く）、内職収入（材料費等を除く）
- ・公的年金・恩給、その他の社会保障給付金（生活保護、児童手当、児童扶養手当等）
- ・農林漁業収入（農機具等の材料費、営業上の諸経費等を除く）
- ・資産収入（預貯金利子、家賃収入等。家・土地などの資産売却代金や生命保険・損害保険からの受取金等は除く。）
- ・その他の収入（仕送り、養育費、個人年金、各種祝い金等）

- | | | |
|-----------------|-----------------|------------------|
| 1. 50万円未満 | 2. 50～100万円未満 | 3. 100～150万円未満 |
| 4. 150～200万円未満 | 5. 200～250万円未満 | 6. 250～300万円未満 |
| 7. 300～350万円未満 | 8. 350～400万円未満 | 9. 400～450万円未満 |
| 10. 450～500万円未満 | 11. 500～600万円未満 | 12. 600～700万円未満 |
| 13. 700～800万円未満 | 14. 800～900万円未満 | 15. 900～1000万円未満 |
| 16. 1,000万円以上 | | |

問 19 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。（○はひとつだけ）

- | | | | |
|----------|------------|-----------|-------------|
| 1. よくあった | 2. ときどきあった | 3. まれにあった | 4. まったくなかった |
|----------|------------|-----------|-------------|

問 20 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。（○はひとつだけ）

- | | | | |
|----------|------------|-----------|-------------|
| 1. よくあった | 2. ときどきあった | 3. まれにあった | 4. まったくなかった |
|----------|------------|-----------|-------------|

問 21 あなたのご家庭では、過去 1 年の間に、経済的な理由のために以下の A～G の費用を支払えないことがありましたか。（A～G それぞれについて、あてはまる番号ひとつに○）

	あった	なかった	払う必要がない (該当しない)
A 電話料金	1	2	3
B 電気料金	1	2	3
C ガス料金	1	2	3
D 水道料金	1	2	3
E 家賃	1	2	3
F 住宅ローン	1	2	3
G 税金・国民健康保険料	1	2	3

問 22 次の A～F の質問について、この 1 か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。（A～F それぞれについて、あてはまる番号ひとつに○）

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったく ない
A 神経過敏（ナーバス）に感じた	1	2	3	4	5
B 絶望的だと感じた	1	2	3	4	5
C そわそわ、落ち着かなく感じた	1	2	3	4	5
D 気分が沈み込んで、何が起ころとも気が晴れないように感じた	1	2	3	4	5
E 何をするのも面倒だと感じた	1	2	3	4	5
F 自分は価値のない人間だと感じた	1	2	3	4	5

問 23 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。（○はひとつだけ）

- | | | |
|---------------|--------------|--------|
| 1. 十分に満足している | 2. 満足している | 3. ぶつう |
| 4. あまり満足していない | 5. 全く満足していない | |

問 24 あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前（2020 年 2 月以前）から比べて、どのように変わりましたか。（A～F それぞれについて、あてはまる番号ひとつに○）

	増えた	減った	変わらない
A 世帯全体の収入の変化	1	2	3
B 生活に必要な支出の変化	1	2	3
C お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと	1	2	3
D お子さんと話をする事	1	2	3
E 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること	1	2	3
F あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと	1	2	3

4. 支援制度や相談先などについておうかがいします

問 25 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。（A～E それぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○）

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。（ア～オのあてはまるもの1つに○）

	A 就学援助制度	B 生活保護	C 生活困窮者の 生活自立相談 「よりそい」	D 児童扶養手当	E 母子家庭等自立支援 給付金制度
現在利用している	1	1	1	1	1
現在利用していないが、以前利用したことがある	2	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3	3
制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから	ア	ア	ア	ア	ア
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	イ	イ	イ	イ	イ
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	エ	エ	エ	エ	エ
それ以外の理由	オ	オ	オ	オ	オ

（用語の説明）

用語	担当課	内 容
A 就学援助	学務課	経済的理由により子どもの就学が困難な場合に、学用品費等を補助する制度。
B 生活保護	生活福祉課	病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
C 生活困窮者の生活自立相談「よりそい」	生活福祉課	生活に困窮している方が自立した生活に戻れるように、支援員が相談を受け、継続的な支援を行う制度。
D 児童扶養手当	子ども福祉課	所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）
E 母子家庭等自立支援給付金制度	子ども福祉課	母子家庭のお母さん・父子家庭のお父さんの雇用の安定と就業の促進を図るために雇用保険法で定める教育訓練に対する費用の一部を支給する制度。

問 26 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(A～Cそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)

また、「1. 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。(ア～キのあてはまるものすべてに○)

	A 子育てに関する相談	B 重要な事柄の相談	C いざという時のお金の援助
頼れる人がいる	1	1	1
家族・親族	ア	ア	ア
友人・知人	イ	イ	イ
近所の人	ウ	ウ	ウ
職場の人	エ	エ	エ
民生委員・児童委員	オ	オ	オ
相談・支援機関や福祉の人	カ	カ	カ
その他	キ	キ	キ
いない	2	2	2
そのことでは人に頼らない	3	3	3

問 27 あなたは、子育て（兄弟姉妹を含む）や暮らしに関する情報はどこから手に入れますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|----------------------|-------------------------------------|
| 1. 自分の親 | 2. 配偶者 |
| 3. 兄弟姉妹や親せき | 4. 身近な人（友人や同僚、地域の人） |
| 5. 子どもが通う保育所・園や学校の先生 | 6. 市役所等の窓口 |
| 7. 広報こしがや・ホームページ | 8. インターネットの相談サイトや子育て関連 SNS（ツイッターなど） |
| 9. その他 | |

問 28 現在、お子さん（兄弟姉妹を含む）のことで悩んでいることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 子どもと過ごす時間が持てない | 2. 子どもとの関わり方 |
| 3. 子どもの病気や障がい | 4. 子どもの反抗や暴言・暴力 |
| 5. 子どもの不登校やひきこもり | 6. 子どもの友達関係やいじめ |
| 7. 他の保護者との関係 | 8. 学校の先生との関係 |
| 9. 家族間での教育方針の違い | 10. その他 |
| 11. 特に悩みはない | |

問 29 あなたが現在必要としていること、重要だと思う支援等はどのようなものですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 様々な行政サービスの申請や相談ができること
2. 子どもや生活などの悩みごとの相談
3. 同じような悩みを持った人同士が知り合えること
4. 民生委員・児童委員など地域の人からの支援
5. 離婚や養育費についての専門的な相談
6. 病気や障害のことなどについての専門的な相談
7. 必要とする住宅を探すための支援
8. 病気や出産、事故などの事情があったときに一時的に子どもを預けられること
9. 自宅での家事や育児をヘルパー等が一時的に援助する支援
10. 一時的に必要な資金の貸付
11. 子どもの教育・進学に関する相談
12. 子どもの就学にかかる費用の軽減
13. 自身の就職・転職のための支援
14. 自身の就職活動のときに一時的に子どもを預けられること
15. その他（ ）
16. 特になし

5. お子さんの健康状況についておうかがいします

問 30 これまでに、お子さんを医療機関に連れていった方がよいと思ったが、実際には連れていかなかったことがありますか。(○はひとつだけ)

- | | |
|----------------|---------|
| 1. あった →問 30-1 | 2. なかった |
|----------------|---------|

【問 30 で「1. あった」を選んだ方にうかがいます。】

問 30-1 医療機関に連れていかなかった理由のうち、最も近いものに○をつけてください。(○はひとつだけ)

- | |
|--|
| 1. 保険証を持っておらず、医療費の支払いができなかったため |
| 2. 保険証は持っていたが、医療機関の窓口での支払いができないと思ったため |
| 3. 子ども本人が受診しなかったため |
| 4. 医療機関が遠く、通院が困難だったため |
| 5. 忙しくて医療機関に連れて行く時間がなかったため |
| 6. 最初は受診させようと思ったけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため |
| 7. あなた自身の体調が悪くて行けなかったため |
| 8. その他 |

問 31 お子さんは、普段、朝食を食べていますか。この1か月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。(○はひとつだけ)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 毎日食べる | 2. 食べる方が多い(週4～6日) |
| 3. 食べない方が多い(週1～3日) | 4. ほとんど食べない |

問 32 お子さんは、夕食を誰と食べることが多いですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|------------------|---------------------------|---------|
| 1. 親 | 2. 兄弟 →これだけを選択の場合 問 32-1へ | 3. 祖父母 |
| 4. 子ども1人→問 32-1へ | 5. その他() | 6. 食べない |

【問 32 で「2. 兄弟」のみ、または「4. 子ども1人」を選んだ方にうかがいます。】

問 32-1 お子さんが夕食を子どもだけで食べる理由はなんですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 1. 働いている保護者の帰宅が遅いから | 2. 保護者が夜間の仕事で不在となるから |
| 3. 本人が学校、部活動、習い事・塾などで帰宅が遅くなるから | 4. 保護者が育児・介護などで忙しいから |
| 5. その他() | |

問 33 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。
この1か月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（A～Hそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○）

	毎日 食べる	食べる方が 多い (週 4～6 日)	食べない方が 多い (週 1～3 日)	ほとんど 食べない
A 穀類（ごはん、パン、シリアルなど）	1	2	3	4
B 魚・肉・卵・大豆（加工食品も含む）	1	2	3	4
C 野菜	1	2	3	4
D 果物	1	2	3	4
E 牛乳・乳製品（チーズ、ヨーグルトなど）	1	2	3	4
F 甘い飲み物（炭酸飲料、スポーツドリンクなど）	1	2	3	4
G お菓子（食事として）	1	2	3	4
H お菓子（間食として）	1	2	3	4

問 34 お子さんの歯や口のことで、気になることがありますか。（あてはまる番号すべてに○）

- | | | |
|------------|-----------|--------------------|
| 1. 歯の汚れ | 2. むし歯 | 3. 歯ぐきから血が出る・はれている |
| 4. 歯ならび | 5. かみ合わせ | 6. 口のにおい |
| 7. 歯のはえかわり | 8. 気にならない | |

問 35 お子さんにはむし歯がありますか。（○はひとつだけ）

- | | | |
|------------|------------|-------------|
| 1. ある（未治療） | 2. ある（治療中） | 3. あった（治療済） |
| 4. ない | 5. わからない | |

問 36 お子さんは毎食後に歯をみがいていますか。（○はひとつだけ）

- | | | |
|----------------|---------------|----------|
| 1. 必ずみがいている | 2. たいていみがいている | |
| 3. ほとんどみがいていない | 4. 全くみがいていない | 5. わからない |

その他、子育てに関して日ごろ感じていることや悩みごと、あるいはお子さんを育てる上で気をつけていること、越谷市への要望等がありましたら、ご自由にお書きください。



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。



(4) 関係機関・団体調査

関係機関・団体アンケート

調査へのご協力をお願い

関係機関のみなさまには、日頃から市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

現在越谷市では、子育てしやすい環境づくりと一人ひとりのこどもの状況に応じた支援の充実のため、今後どのような取り組みが必要になるのか検討を進めています。

現在、国のこども・子育て政策が大きく変わろうとしているなかで、すべてのこども・若者が幸せな今を生き、健やかに成長していけるよう必要な方策を検討するため、関係する機関・団体の皆様にアンケート調査を実施させていただくこととなりました。

お忙しい中でお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和6年(2024年)2月

越谷市

こども基本法における「こども」とは…

「心身の発達の過程にある者」とされています。これは、18歳や20歳といった年齢で必要なサポートが途切れないよう、こどもや若者がそれぞれの状況に応じて社会で幸せに暮らしていけるように支えていくことを示したものです。そのため、本調査における「こども」とは若者世代を含む、「おとなになるまでの成長の過程にある者」と捉え、お答えください。

団体の名称			
代表者名		調査票記載者名	

問1 貴機関、団体では現在、こどもの貧困対策について意識的に取り組んでいることはありますか。(該当するものすべてに○)

1 支援窓口・サービスへのつなぎ、紹介	5 学習支援
2 課題解決に向けた助言・指導	6 食に関する活動
3 相談・傾聴・声かけ	7 居場所づくり
4 関係機関との連携・情報共有	8 その他（ ）

【自由記述欄】上記の具体例などについてご記入ください

問2 活動に参加している子どもや活動を通じて接する子どもの中で、経済的に困窮していると感じる子どもがいらっしゃいますか。(○は1つ)

- | | |
|-------|---------|
| 1 いる | 3 わからない |
| 2 いない | |

【問3～6は問2で「1 いる」と回答した方にお伺いします。】

●どのような点でそう感じる人が多いですか。ある場合、どのようなケースがよく見られるか、個人を特定できない範囲でお答えください。【特徴、背景、生活状況、抱えている課題など】

問3 経済的に困窮していると感じる子どもにおいて、貧困であること以外にどのような背景や特徴が見られますか。(該当するものすべてに○)

- | | |
|----------|--------------|
| 1 ひとり親世帯 | 6 保護者の虐待経験 |
| 2 未婚 | 7 保護者のDV経験 |
| 3 多子世帯 | 8 保護者の障がい・疾患 |
| 4 外国籍 | 9 その他() |
| 5 本人の障がい | 10 わからない |

(自由記述欄)【上記の具体例などについてご記入ください】

問4 経済的に困窮していると感じる子どもにおいて、生活や学習の様子で特徴的な状況は、どのようなことですか。(該当するものすべてに○)

- | | |
|------------|--------------|
| 1 欠食・生活習慣 | 5 家庭や地域での居場所 |
| 2 身なり・所持品 | 6 友人関係・いじめ |
| 3 学習習慣・意欲 | 7 その他() |
| 4 不登校・中途退学 | 8 わからない |

(自由記述欄)【上記の具体例などについてご記入ください】

問5 経済的に困窮していると感じるこどもにおいて、保護者との関係で特徴的な状況は、どのようなことですか。（該当するものすべてに○）

- | | |
|--------------|----------|
| 1 顔をうかがう | 5 無関心 |
| 2 甘えられない | 6 不従順 |
| 3 会話が少ない | 7 その他（ ） |
| 4 ふれあう機会が少ない | 8 わからない |

（自由記述欄）上記の具体例などについてご記入ください

問6 経済的に困窮していると感じるこどもにおいて、経済的に困窮している状況がどのような影響や課題を与えていると思いますか。（該当するものすべてに○）

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 心身の健康への影響 | 6 自己肯定感・自尊心の低下 |
| 2 基礎的学力への影響 | 7 就職・就労への影響 |
| 3 進学への迷いや断念 | 8 その他（ ） |
| 4 対人関係への影響 | 9 わからない |
| 5 自立能力の形成への影響 | |

（自由記述欄）上記の具体例などについてご記入ください

【すべての方にお伺いします。】

問7 経済的に困窮していると感じる子どもや保護者に対して、どのような支援が必要だと感じていますか。(該当するものすべてに○)

- | | |
|---------------------|-----------|
| 1 支援窓口・サービスへのつなぎ、紹介 | 5 学習支援 |
| 2 課題解決に向けた助言・指導 | 6 食の支援 |
| 3 相談・傾聴・声かけ | 7 居場所づくり |
| 4 関係機関との連携・情報共有 | 8 その他 () |

(自由記述欄)【上記の具体例などについてご記入ください】

問8 今後、経済的に困窮していると感じる子どもや保護者に対する支援として、市としてどのような取り組みが必要だとお考えですか。(該当するものすべてに○)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1 支援窓口・サービスの情報発信 | 5 こどもの居場所づくり |
| 2 支援団体などの連携体制の構築 | 6 保護者への就労支援 |
| 3 支援団体の活動に対する支援 | 7 保護者への経済的支援 |
| 4 子どもに対する総合支援窓口の設置 | 8 その他 () |

(自由記述欄)【上記の具体例などについてご記入ください】

問 9 活動の中で外国籍の子どもと接する機会がありますか。（○は1つ）

- | | |
|------|---------|
| 1 ある | 3 わからない |
| 2 ない | |

【問 10～11 は問9で「1 ある」と回答した方にお伺いします。】

問 10 外国籍のこどもの状況や抱えている課題は、どのようなことですか。（該当するものすべてに○）

- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| 1 日本語の習得が難しい | 6 家庭や地域での居場所がない |
| 2 学習についていけない | 7 経済的に困窮しているケースがある |
| 3 学校等でのサポートの機会が少ない | 8 その他（ ） |
| 4 不登校・中途退学 | 9 わからない |
| 5 友人関係・いじめ | |

（自由記述欄）【上記の具体例などについてご記入ください】

問 11 それらの課題に対して必要だと感じる支援があればお答えください。（該当するものすべてに○）

- | | |
|-------------------|-------------------------------|
| 1 日本語習得に対する支援 | 6 こどもの居場所づくり |
| 2 学習支援 | 7 保護者への就労支援 |
| 3 学校における受け入れ体制づくり | 8 保護者への経済的支援 |
| 4 進学・就職などに対する支援 | 9 その他（ ） |
| 5 支援窓口・サービスの情報発信 | |

（自由記述欄）【上記の具体例などについてご記入ください】

問 12 こどもの貧困対策についてご意見や市への要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

問 13 国はこども・若者当事者の視点を尊重し、その意見を聴くことを重視しています。一方で、自らの意見を表明することが難しいこどもも多いなか、普段接するお子さんの意見を代弁してご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

(5) 小学生・中学生調査

2024/01/05 11:09

【埼玉県市町村電子申請・届出サービス】手続き申込：申込

別紙2

利用者登録

越谷市でんしんせい・とどけでさーびす電子申請・届出サービス

予約手続き

申請団体選択

申請書ダウンロード

手続き申込

申込内容照会

職責署名検証

手続き申込

手続き選択をする

メールアドレスの確認

内容を入力する

申し込みをする

申込

選択中の手続き名：第1期越谷市こども計画アンケート調査

問合せ先 +開く

説明

この調査は、皆さんにとって、「ここに居たい」と感じられる場所（居場所）はどんなところか、どんな居場所があったらいいと思うかなどを尋ねるものです。どんなところに居ると安心するか…、誰と居ると元気になるか…、何をしていると力が湧いてくるか…、あなたにとって居場所と感じるものを教えてください。

皆さんの意見をもとに、「第1期越谷市こども計画」について検討していきます。ぜひ、あなたの声を聞かせてください。

この調査には、皆さんが、自分で答えください。

あなたの答えを、誰かに知られることはありませんので、安心してあなたの気持ちや考えを、思うままに教えてください。

答えたくない質問は、答える必要はありません。

回答に必要な時間は5分ほどです。

【アンケートの募集期間】

2024年1月29日（月）～2024年2月15日（木）

【保護者の方／お子様の代弁者となる方へ】

- ・本調査は、「第1期越谷市こども計画」策定の一環として、子ども・若者がどのような場所を「居場所」としているのか、どのような居場所を求めているのかについて、子ども・若者からの直接の声を聞き取ることを目的としています。
- ・調査の実施および結果の取りまとめにあたり、お子様の個人情報（氏名など個人が特定されうる情報）を収集すること並びに公表することは一切ございません。
- ・調査の結果は、「第1期越谷市こども計画」において、策定のための資料として活用させていただきます。また、本調査の報告書は、公表し、ホームページ等に掲載させていただく予定です。

受付時期

2024年1月5日0時00分～2024年1月5日11時30分

〈調査回答者の基本情報の確認〉

(F1) あなたの性別を教えてください。

必須

該当する選択肢の1つにチェックをつけてください。

☐ 01.男

☐ 02.女

☐ 03.どちらともいえない

☐ 04.答えたくない

<https://app.y.e-tumo.jp/city-koshigaya-saitama-u/offer/userLoginDispNon?tempSeq=65439&accessFrom=>

1/8

495

[選択解除](#)**(F2) あなたの年齢を教えてください。 必須**

該当する選択肢の1つにチェックをつけてください。

- ☐ 01.10歳
- ☐ 02.11歳
- ☐ 03.12歳
- ☐ 04.13歳
- ☐ 05.14歳

[選択解除](#)**(F3) 一緒に住んでいる方を教えてください。 必須**

該当する選択肢の全てにチェックをつけてください。

- ☐ 01.父
- ☐ 02.母
- ☐ 03.きょうだい
- ☐ 04.祖父母
- ☐ 05.その他親族
- ☐ 06.その他（具体的に）

(F4) あなたが通っている学校を教えてください。 必須

小学校もしくは中学校をどちらかを選んでから、通っている学校を1つ選んでください。

- ☐ 小学校
- ☐ 中学校

[選択解除](#)**小学校を選択してください。 必須 選択肢の結果によって入力条件が変わります**

- ☐ 01.越ヶ谷小学校
- ☐ 02.大沢小学校
- ☐ 03.新方小学校
- ☐ 04.桜井小学校
- ☐ 05.大袋小学校

2024/01/05 11:09

【埼玉県市町村電子申請・届出サービス】手続き申込：申込

- ☐ 06.萩島小学校
- ☐ 07.出羽小学校
- ☐ 08.大相模小学校
- ☐ 09.増林小学校
- ☐ 10.川柳小学校
- ☐ 11.南越谷小学校
- ☐ 12.東越谷小学校
- ☐ 13.大沢北小学校
- ☐ 14.大袋北小学校
- ☐ 15.蒲生南小学校
- ☐ 16.北越谷小学校
- ☐ 17.大袋東小学校
- ☐ 18.平方小学校
- ☐ 19.弥栄小学校
- ☐ 20.大間野小学校
- ☐ 21.宮本小学校
- ☐ 22.西方小学校
- ☐ 23.鷺後小学校
- ☐ 24.明正小学校
- ☐ 25.千間台小学校
- ☐ 26.桜井南小学校
- ☐ 27.花田小学校
- ☐ 28.城ノ上小学校
- ☐ 29.蒲生小学校
- ☐ 30.おおそら学級

選択解除

中学校を選択してください。 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

- ☐ 01.中央中学校
- ☐ 02.東中学校
- ☐ 03.西中学校
- ☐ 04.南中学校
- ☐ 05.北中学校
- ☐ 06.富士中学校
- ☐ 07.北陽中学校

<https://apply.e-tumo.jp/city-koshigaya-saitama-u/offer/userLoginDispNon?tempSeq=65439&accessFrom=>

3/8

2024/01/05 11:09

【埼玉県市町村電子申請・届出サービス】手続き申込：申込

- ☐ 08.栄進中学校
- ☐ 09.光陽中学校
- ☐ 10.平方中学校
- ☐ 11.武蔵野中学校
- ☐ 12.大袋中学校
- ☐ 13.新栄中学校
- ☐ 14.大相模中学校
- ☐ 15.千間台中学校

選択解除

〈家・学校以外の居場所の確認〉

※家（普段寝起きをしている場所）、学校（授業や部活・クラブ活動）と考えてください。

(1) あなたは、家や学校以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がほしいですか。 **必須**

【例：友達の家、習い事、公園、図書館、お店、オンライン空間など】

- ☐ 01.はい
- ☐ 02.いいえ

選択解除

(2) あなたは、家や学校以外に、「ここに居たい」と感じる居場所がありますか。 **必須**

(2) が「ある」場合、(3) ～ (6) を回答してください。
(2) が「ない」場合、(7) ～ (8) を回答してください。

- ☐ 01.ある
- ☐ 02.ない

選択解除

(3) (2) が「ある」の場合は、どのような場所ですか。 **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

該当する選択肢の全てにチェックをつけてください。

- ☐ 01.祖父母・親戚の家や友達の家
- ☐ 02.児童クラブや習い事（スポーツ少年団等含む）や塾などの場所
- ☐ 03.学校の教室以外の場所（保健室、図書館など）
- ☐ 04.公園や自然の中で遊べる場所
- ☐ 05.ショッピングセンターやファストフードなどのお店

<https://apply.e-tumo.jp/city-koshigaya-saitama-u/offer/userLoginDispNon?tempSeq=65439&accessFrom=>

4/8

2024/01/05 11:09

【埼玉県市町村電子申請・届出サービス】手続き申込：申込

- ☐ 06.図書館や公民館、児童館などの施設
- ☐ 07.地域の人が開いている遊びの場所（プレイパークなど）
- ☐ 08.無料で勉強を見てくれる場所や、食事や軽食を無料が安く食べることができる場所
- ☐ 09.悩みごとの相談にのったり、サポートしてくれる場所（電話やオンラインを含む）
- ☐ 10.オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）
- ☐ 11.答えたくない
- ☐ 12.その他（自由に書いてください）

(4) その場所は、どのような場所ですか。 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

該当する選択肢の全てにチェックをつけてください。

- ☐ 01.いつでも行きたい時に行ける
- ☐ 02.一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる
- ☐ 03.ありのままでいられる、自分を否定されない
- ☐ 04.好きなことをして自由に過ごせる
- ☐ 05.自分の意見や希望を受け入れてもらえる
- ☐ 06.新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる
- ☐ 07.悩みごとの相談にのってもらったり、一緒に遊んでくれる大人がいる
- ☐ 08.いろんな人と出会える、友人と一緒に過ごせる
- ☐ 09.答えたくない
- ☐ 10.その他（自由に書いてください）

(5) その場所に行くようになって、変わったことがありますか。 **必須**

選択肢の結果によって入力条件が変わります

該当する選択肢の全てにチェックをつけてください。

- ☐ 01.楽しいと感じる時間が増えた、気持ちが落ち込みにくくなった
- ☐ 02.自分の気持ち（したいことや嫌なことなど）を伝えてもいいと思うようになった
- ☐ 03.初めて知ったことや、興味をもったこと、好きになったことなどがあった
- ☐ 04.自分のことを大切にしてくれる人やサポートしてくれる人がいると感じるようになった
- ☐ 05.それまで知らなかった人、話したことがなかった人と会った
- ☐ 06.以前より、人と関わるのが好きになった
- ☐ 07.以前より、誰か困っている人がいる時、サポートするようになった

2024/01/05 11:08

【埼玉県市町村電子申請・届出サービス】手続き申込：申込

- ☐ 08.以前より、自分がやろうと決めたことをできるようになった
- ☐ 09.変わったことはない
- ☐ 10.答えたくない
- ☐ 11.その他（自由に書いてください）

(6) あなたが、居場所でやってみたいことや、もっとこうだったらいいのと思うことはありますか。 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

該当する選択肢の全てにチェックをつけてください。

- ☐ 01.自分が好きなことや、興味があることをしたい（本・漫画やゲーム、プログラムなど）
- ☐ 02.自分が知らないことや新しいことに取り組んでみたい
- ☐ 03.あまり大人の方から構わないでほしい
- ☐ 04.話したい時に、自分の話を聞いてほしい
- ☐ 05.困っていることや悩みごとを話した時に、味方になってほしい
- ☐ 06.大人に、子ども（自分たち）がどうしたいかを聞いてほしい
- ☐ 07.大人に、子ども（自分たち）が取り組んでみたいことを応援してほしい
- ☐ 08.通いやすくなってほしい（お金がかからない、長く開いている、近所にある）
- ☐ 09.特にない
- ☐ 10.答えたくない
- ☐ 11.その他（自由に書いてください）

(7) (2) が「ない」の場合、家や学校以外に、「ここに居たい」と感じる場所がない理由はなぜですか。 **必須** 選択肢の結果によって入力条件が変わります

該当する選択肢の全てにチェックをつけてください。

- ☐ 01.住んでいる地域に、そのような場所がないため
- ☐ 02.（行きたい場所はあるが）行くのに時間がかかるため
- ☐ 03.（行きたい場所はあるが、その場所の）開いている日時が合わないため
- ☐ 04.（行きたい場所はあるが）お金がかかるため
- ☐ 05.家や学校以外に必要と感じないため
- ☐ 06.答えたくない
- ☐ 07.その他（自由に書いてください）

2024/01/05 11:08

【埼玉県市町村電子申請・届出サービス】手続き申込：申込

(8) あなたは、どのような場所であれば行ってみたいと思いますか。 必須**選択肢の結果によって入力条件が変わります**

該当する選択肢の全てにチェックをつけてください。

- ☐ 01.いつでも行きたい時に行ける
- ☐ 02.一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる
- ☐ 03.ありのままでいられる、自分を否定されない
- ☐ 04.好きなことをして自由に過ごせる
- ☐ 05.自分の意見や希望を受け入れてもらえる
- ☐ 06.新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる
- ☐ 07.悩みごとの相談にのってもらったり、一緒に遊んでくれる大人がいる
- ☐ 08.いろんな人と出会える、友人と一緒に過ごせる
- ☐ 09.特に行ってみたいと思わない
- ☐ 10.答えたくない
- ☐ 11.その他（自由に書いてください）

(9) 越谷市にこれからどのようなことをしてもらいたいかの意見があれば自由に書いてください。

(2) の選択肢にかかわらず、回答してください。ただし、必ず書く必要はありません。

入力文字数： 0/2000

確認へ進む



入力中のデータを一時保存・読み込み

【申込データ一時保存、再読み込み時の注意事項】

- ・添付ファイルは一時保存されません。再読み込み後は、必要に応じて、ファイルを添付し直してください。
- ・パソコンに一時保存した申込データはパソコンで閲覧・加筆・修正することはできません。
- ・システムに読み込む場合は一時保存した手続きの画面でしか読み込めませんので、ご注意ください
- ・入力中の申込データをパソコンに一時保存しますので、保存した申込データの取扱いは、申請者の責任において管理をお願いします。

「入力中のデータを保存する」では申込みの手続きが完了しておりませんのでご注意ください。

※入力中の申込データをパソコンに一時保存します。

※一時保存した申込データを再度読み込みます。

 入力中のデータを保存する

 保存データの読み込み

【操作に関するお問合せ先（コールセンター）】

TEL：0120-464-119

0570-041-001

（スマートフォン・携帯電話の方はこちらをご利用ください）

（平日 9：00～17：00 年末年始除く）

FAX：06-6455-3268

E-mail：help-shinsei-saitama@apply.e-tumo.jp

【各手続き等の内容に関するお問い合わせ先】

直接各手続きの越谷市担当課にお問い合わせください。

（６）子ども・若者の意識と生活に関する調査

越谷市

子ども・若者の意識と生活に関する調査ご協力をお願い

このたび、越谷市では、令和5年4月に施行された「子ども基本法」に基づき、「第1期越谷市子ども計画」を策定することとなりました。

つきましては、子ども・若者世代のみなさんのお考えや日ごろの生活に関すること、ご要望・ご意見などを把握するため、子ども・若者の意識と生活に関する調査を実施することといたしました。

この調査は、住民基本台帳の中から15～39歳の方5,000名を無作為に選り調査をお願いするものです。ご回答いただいた内容は、今後の子ども・若者支援を進めていくための基礎資料にのみ利用させていただきますので、回答者個人が特定されたり、個々の回答内容が他にもれたり、他の目的に利用されたりすることは一切ありません。

つきましては、ご多忙のこととは存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

令和6年1月

越谷市長 福田 晃

◆ご回答にあたってのお願い◆

1 封筒の宛て名のご本人がお答えください。

2 回答方法

令和6年2月5日(木)までに、次の①または②のどちらかの方法で回答してください。

①郵送による回答

◆調査票に記入の上、同封の返信用封筒に入れて切手を貼らずに郵便ポストへ投函してください。

◆回答は、あてはまる回答の数字に○印をつけてください。また、設問によって○をつける数が異なりますので、注意書きに沿ってご記入ください。

②インターネットによる回答

<QRコード>

1)右のQRコードまたはURLよりアクセスの上、パソコン又はスマートフォンで回答してください。

<回答フォームURL>

https://enquete.cc/q/R6koshigaya_kodomowa



2)WEBアンケートのページにアクセスすると、最初の画面の下部に入力欄がありますので、下記の「パスワード」を入力し、回答ページにログインしてください。

最初に「ユーザーID※」の入力欄がありますので、入力して設問にお進みください。

※ユーザーIDは、調査票用紙とWEBによる回答の重複を確認するためのもので、ランダムに付与されています。

パスワード

R6koshigaya

ユーザー
ID

■調査に関するご質問は

越谷市 子ども家庭部 子ども施策推進課

電話:048-963-9165(直通) FAX:048-963-3987 までお問い合わせください。

F 7 あなたの暮らし向き（衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準）は、世間一般と比べてみて、上から下までのどれにあたると思いますか。あなたの実感でお答えください。（○は1つだけ）

1. 上 2. 中の上 5. 下
3. 中の中
4. 中の下

F 8 あなたが最後に卒業（中退を含む）した学校はどこですか。在学中の方は、現在在学している学校をお答えください。（○は1つだけ）

1. 中学校 2. 高等学校 3. 専修学校・専門学校
4. 高等専門学校・短期大学 5. 大学・大学院 6. その他
（具体的に： ）

F 9 あなたの現在の仕事をお答えください。(○は1つだけ)

1. 学生・生徒（予備校生などを含む）
2. パート・アルバイト
3. 派遣社員・契約社員・嘱託
4. 正規の社員・職員・従業員
5. 会社などの役員
6. 自営業・自由業
7. 家族従業者・内職
8. 専業主婦・主夫
9. 家事手伝い
10. 無職（仕事を探している）
11. 無職（仕事を探していない）
12. その他
（具体的に：

F10 あなたの就業経験についてお答えください。(パート・アルバイトを含む) (○はひとつだけ)

1. 現在、就業している
2. 現在、就業しているが、休職や休業中である
3. 現在は就業していないが、過去に就業経験がある
4. これまでに就業経験はない

F 11 あなたは、どの地区に住んでいますか。(○はひとつだけ)

※居住地の地区名がわからない場合は、次ページの「居住地区該当町表」をご参照ください。

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1. 桜井地区 | 2. 新方地区 | 3. 増林地区 |
| 4. 大袋地区 | 5. 狹島地区 | 6. 出羽地区 |
| 7. 蒲生地区 | 8. 川柳地区 | 9. 大相模地区 |
| 10. 大沢地区 | 11. 北越谷地区 | 12. 越谷地区 |
| 13. 南越谷地区 | | |

【F 11 居住地区のご回答にあたって】

F11 居住地区名がご不明の場合は、お住まいの住所地の町名が該当する地区区分を下の表でご確認頂き、回答をお願いします。



■居住地区該当町表

地区区分 (選択肢)	該当町名
1. 桜井地区	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
2. 新方地区	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
3. 増林地区	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10 丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
4. 大袋地区	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
5. 荻島地区	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
6. 出羽地区	宮本町1～5丁目、 中野町 1～3丁目、谷戸町1～4丁目、七左町1丁目・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
7. 蒲生地区	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生泉町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生愛宕町、蒲生南町、蒲生1～4丁目、蒲生西町1～2丁目、南町1～3丁目
8. 川柳地区	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
9. 大相模地区	大字西方、西方1～2丁目、相模町1～7丁目、大成町1～2・6～8丁目、京町1～3・5丁目、流通地1～4丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
10. 大沢地区	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
11. 北越谷地区	北越谷1～5丁目
12. 越ヶ谷地区	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
13. 南越谷地区	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生西町、東柳町、元柳町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

2. あなたの日頃の意識や人とのかかわりについてお聞きます

問1 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。（ア～ソのそれぞれについて、○は1つ）

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない
ア. 自分には自分らしさというものがあると思う	1	2	3	4
イ. 自分の欲しいものをがまんすることが苦手だ	1	2	3	4
ウ. 今の自分を変えたいと思う	1	2	3	4
エ. 将来よりも今の生活を楽しみたい	1	2	3	4
オ. 努力すれば希望する職業につくことができる	1	2	3	4
カ. 自分の将来は運やチャンスによって決まると思う	1	2	3	4
キ. 人生で起こることは、結局は自分に原因があると思う	1	2	3	4
ク. 他人に迷惑がかからない限り、どんな考えや行動をとろうが、自分の自由だと思う	1	2	3	4
ケ. 今の自分が好きだ	1	2	3	4
コ. 自分らしさを強調するより、他人と同じことをしていると安心だ	1	2	3	4
サ. 自分の親（保護者）から愛されていると思う	1	2	3	4
シ. うまくいかかわからないことにも意欲的に取り組む	1	2	3	4
ス. 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	1	2	3	4
セ. 自分自身に満足している	1	2	3	4
ソ. 自分は役に立たないと強く感じる	1	2	3	4

問2 あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。（○は1つだけ）

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえば、そう思う |
| 3. どちらかといえば、そう思わない | 4. そう思わない |

問3 次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）になっていますか。（ア～カのそれぞれについて、○は1つ）

	そう思う	そう思う ば、 どちらかといえ	そう思わない ば、 どちらかといえ	そう思わない	あてはまるもの はない、わかって
ア. 自分の部屋	1	2	3	4	5
イ. 家庭（実家や親族の家を含む）	1	2	3	4	5
ウ. 学校（卒業した学校を含む）	1	2	3	4	5
エ. 職場（過去の職場を含む）	1	2	3	4	5
オ. 地域（図書館や公民館や公園など、 現在住んでいる場所やそこにある建物など）	1	2	3	4	5
カ. インターネット空間（SNS、YouTube や オンラインゲームなど）	1	2	3	4	5

問4 次の項目について、あなたはどれくらいの頻度で感じていますか。（ア～ウのそれぞれについて、○は1つ）

	決してない	ほとんどない	時々ある	常にある
ア. 自分には人とのつきあいがないと感ずることがある	1	2	3	4
イ. 自分は取り残されていると感ずることがある	1	2	3	4
ウ. 自分は他の人たちから孤立していると感ずることがある	1	2	3	4

問5 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。（○は1つだけ）

1. 決してない	2. ほとんどない	3. たまにある
4. 時々ある	5. しばしばある・常にある	

問6 家族・親族とあなたのかかわりは、どのようなものですか。（ア～カのそれぞれについて、○は1つ）

	そう 思う	どちらか と いえば、 そう 思う	どちらか と いえば、 そう 思わない	そう 思わない
ア. 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ. 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ. 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ. 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
オ. 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ. いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問7 学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生など）と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。（ア～カのそれぞれについて、○は1つ）

	そう 思う	どちらか と いえば、 そう 思う	どちらか と いえば、 そう 思わない	そう 思わない
ア. 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ. 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ. 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ. 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
オ. 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ. いつもつながりを感じている	1	2	3	4

【F10で「1. 現在、就業している」、「2. 現在、就業しているが、休職や休業中である」、

「3. 現在は就業していないが、過去に就業経験がある」を選んだ方のみ、お答えください。】

問8 職場・アルバイト関係の人（現在及び過去の職場の同僚・上司・部下、その他仕事の関係で知り合った人など）と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。（ア～カのそれぞれについて、○は1つ）

	そう 思う	どちら かとい えば、 そう 思う	どちら かとい えば、 そう 思わ ない	そう 思わ ない
ア. 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ. 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ. 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ. 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
オ. 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ. いつもつながりを感じている	1	2	3	4

【全員にお聞きます。】

問9 地域の人（近所の人、町内会などの知人、消防団などの地域活動での知人、塾や習い事での知人、参加している NPO 法人など）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（ア～カのそれぞれについて、○は1つ）

	そう 思う	どちら かとい えば、 そう 思う	どちら かとい えば、 そう 思わ ない	そう 思わ ない
ア. 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ. 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ. 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ. 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
オ. 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ. いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問 10 インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（ア～カのそれぞれについて、○は1つ）

	そう 思う	どちらかと いえば、 そう思う	どちらかと いえば、 そう思わない	そう 思わない
ア. 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ. 何でも悩みを相談できる人がある	1	2	3	4
ウ. 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ. 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
オ. 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ. いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問 11 あなたは、他の人と付き合う時、次のようなことがどのくらいあてはまりますか。（ア～キのそれぞれについて、○は1つ）

	あては まる	どちらかと いえば、 あてはまる	どちらかと いえば、 あてはまらない	あては まらない
ア. 誰とでもすぐ仲良くなれる	1	2	3	4
イ. 表情やしぐさで相手の思っていることがわかる	1	2	3	4
ウ. 親しい人に頼まれてもやりたくないことは断る	1	2	3	4
エ. その場に合った行動がとれる	1	2	3	4
オ. 表情が豊かである	1	2	3	4
カ. 気持ちを抑えようとしても、顔に出てしまう	1	2	3	4
キ. 人にぶつかっても、あやまらないことがある	1	2	3	4

3. あなたの日頃の生活や社会とのかかわりについてお聞きます

問 12 あなたは普段どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。（○は1つだけ）

1. 仕事や学校で平日は毎日外出する
2. 仕事や学校で週に3～4日外出する
3. 遊び等で頻繁に外出する
4. 人づきあいのためにときどき外出する

→問 13 へお進みください。

5. 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のみときどき外出する
6. 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
7. 自室からは出るが、家からは出ない
8. 自室からほとんど出ない

【問 12-1～3は、問 12で「5」～「8」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 12-1 あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（○は1つだけ）

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 6か月未満 | 2. 6か月以上～1年未満 |
| 3. 1年以上～2年未満 | 4. 2年以上～3年未満 |
| 5. 3年以上～5年未満 | 6. 5年以上～10年未満 |
| 7. 10年以上～20年未満 | 8. 20年以上 |

問 12-2 あなたの外出状況が現在の状態になったのは、何歳の頃ですか。（数字で回答）

歳頃

問 12-3 あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| 1. 不登校になったこと | 2. 受験がうまくいかなかったこと |
| 3. 就職活動がうまくいかなかったこと | 4. 職場になじめなかったこと |
| 5. 人間関係がうまくいかなかったこと | 6. 病気になったこと |
| 7. 妊娠・出産をしたこと | 8. 退職したこと |
| 9. 介護・看護を担うことになったこと | 10. 新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言等 |
| 11. その他（ ） | 12. 特になし |

【全員にお聞きます。】

問 13 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がありましたか。
または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送っていない状況がありますか。最もあてはまるものを選んでください。（○は1つだけ）

1. 今までに経験があった（または、現在ある）

2. どちらかといえば、あった（ある）

3. どちらかといえば、なかった（ない）

4. なかった（ない）

5. わからない、答えられない

→問 14 へお進みください。

【問 13-1～4 は、問 13 で「1」または「2」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 13-1 そうした問題を経験した、又は現在経験している主な原因は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

<自分自身について>

1. 人づきあいが苦手

2. 精神的な病気

3. 身体的な病気・ケガ

4. 妊娠

5. 何事も否定的に考えてしまう

6. 勉強が苦手

7. 悩みや不安などが相談できない

8. 特にない

9. その他（具体的に：

） 10. わからない

問 13-2 <家族・家庭について>（あてはまるものすべてに○）

1. 家族内の不和や離別（離婚）

2. 家庭内での孤立（家族間のコミュニケーションが希薄）

3. 親（保護者）の過度な期待

4. 親（保護者）の放任

5. 親（保護者）の厳しいしつけ

6. 親（保護者）の虐待

7. 親（保護者）の過干渉

8. 親（保護者）への反発

9. 家庭が貧しい

10. 看護・介護・家族のお世話（自分が担い手）

11. 特にない

12. その他（具体的に：

）

13. わからない

問 13-3 **＜学校について＞** (あてはまるものすべてに○)

1. 成績が悪い、授業についていけない
2. 先生との関係が悪い
3. 友達との関係が悪い
4. 校則に合わせるのが嫌
5. 集団行動が苦手
6. いじめを受けた
7. 体罰やハラスメントを受けた
8. 不登校になった
9. 大学、短大、高専、専門学校、高校の中退
10. 受験の失敗
11. 不本意な入学
12. 特にない
13. その他（具体的に）
14. わからない

問 13-4 **＜仕事・職場について＞** (あてはまるものすべてに○)

1. 職場になじめない
 2. 上司や同僚との関係が悪い
 3. 就職に失敗
 4. 職場を退職
 5. 職場を解雇
 6. 仕事上でのミス
 7. 仕事の量や内容が自分の能力を超えている
 8. いじめを受けた
 9. ハラスメントを受けた
 10. 働きたくない
 11. いわゆる「充電」の期間が必要
 12. 仕事が自分に向いていない
 13. 自分の才能や特技を生かせる仕事でない
 14. 本当に自分がやりたい仕事ではない
 15. 特にない
 16. その他
 17. わからない
- (具体的に：)

【全員にお聞きます。】

問 14 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験がありましたか。最もあてはまるものを選んでください。（○は1つだけ）

1. あった
2. どちらかといえば、あった
3. どちらかといえば、なかった
4. なかった
5. わからない

→問 15 へお進みください。

【問 14-1 は、問 14 で「1」または「2」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 14-1 状態が改善したきっかけや改善に役立ったことは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族や親戚の助け
2. 友人の助け
3. 学校の先生に相談したこと
4. スクールカウンセラーなど学校にいる専門家に相談したこと
5. 地域の人の助け
6. 病院に行って相談したこと
7. 相談できる場所に行って相談したこと
8. 電話相談を利用したこと
9. SNS やメール相談などを利用したこと
10. 同じようにうまくいかなかった経験をした人に話してみたこと
11. 就職・転職したこと
12. 趣味の活動に参加したこと
13. 時間がたって状況が変化したこと
14. 自分の努力で乗りこえたこと
15. その他（具体的に：_____）
16. わからない、答えられない

【全員にお聞きます。】

問 15 あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら、相談したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある
2. 相手が同世代である
3. 相手が同性である
4. 匿名で（自分が誰かを知られずに）相談できる
5. 電話で相談できる
6. SNSやメールなどで相談できる
7. 曜日・時間帯を気にせずに相談できる
8. 相談できる場所が自宅から近い
9. 相手が自宅に来てくれる
10. 無料で相談できる
11. 相手先が公的な支援機関である
12. 相手先が民間の支援団体（NPO など）である
13. 相手が医師である
14. 相手がカウンセラーなど心理学の専門家である
15. その他（具体的に： _____）
16. 誰にも相談したくない →問 15-1 へお進みください。

【問 15-1 は、問 15 で「16. 誰にも相談したくない」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 15-1 相談したくないと思う理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 相談しても解決できないと思うから
2. 自分ひとりで解決するべきだと思うから
3. 誰にも知られたくないことから
4. 自分が変な人に思われるのではないかと不安だから
5. 自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから
6. 相手がどんな人かわからないから
7. 何を聞かれるか不安に思うから
8. 嫌なこと、できないことをするように言われそうだから
9. 相手にうまく伝えられないから
10. 裏切られたり、失望するのが嫌だから
11. お金がかかると思うから
12. その他（具体的に： _____）
13. 特に理由はない、わからない

問 16 あなたは、子供・若者を対象とした育成支援機関等を知っていますか。知っている育成支援機関等をすべて選んでください。（あてはまるものすべてに○）

1. 埼玉県立精神保健福祉センター
2. 埼玉県ひきこもり相談サポートセンター
3. 発達障害総合支援センター
4. 児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関
5. 越谷市保健所 こころの健康支援室
6. 教育センターによる教育相談
7. 越谷市青少年相談室
8. 教育センターによる適応指導教室「おあしす」
9. 職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・埼玉とうふ若者サポートステーションなどの就労支援機関
10. 児童館
11. フリースクール（フリースペース）
12. 通信制高校のサポート校
13. 青少年センターや青少年プラザなど、若者の自主的な活動を支援する施設
14. その他民間の機関（自然体験活動、学習支援、就労支援、ひきこもりの支援など若者育成支援を行う NPO など）
15. どれも知らない → 問 17 へお進みください。

【問 16-1 は、問 16 で「1」～「14」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 16-1 これらの機関を利用したことはありますか。（○は 1 つだけ）

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

【全員にお聞します。】

問 17 これらの機関について利用したいと思いますか。（○は 1 つだけ）

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 利用したいと思う | 2. どちらかといえば利用したいと思う |
| 3. どちらかといえば利用したいと思わない | 4. 利用したいと思わない |

【問 19 は、F3 で「1. 未婚」、「3. 配偶者と死別」、「4. 配偶者と離別（離婚）」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 19 あなたは今後、結婚したいと思いますか。婚姻届を出していない事実婚等も含めてお答えください。(○は1つだけ)

1. 現在、既に予定がある・決まっている
2. 現在、予定はないが是非したい
3. 現在、予定はないが出来ればしたい
4. どちらでもいいと思う
5. 出来ればしたくない
6. したくない

【問 19-1 は、問 19 で「1」～「3」を選んだ方のみ、お答えください。】

問 19-1 結婚や結婚後の新生活を送る上で、自治体に支援してほしいことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 婚活イベント等の出会いの場の創出
2. 結婚を希望する人同士をつなぐ出会いの場やマッチングサービスの提供
3. 「恋たま[※]」入会費用の助成
4. 若者を対象とした、結婚や出産・子育て、お金等のライフデザインセミナーの開催
5. 結婚に関する相談につてくれるコンシェルジュ等による相談支援
6. 結婚式の準備など必要な費用の助成（結婚祝い金の支給）
7. 結婚後の生活の場となる住まいに関する支援（新居となる住宅や引越費用の補助）
8. 選択的夫婦別氏制度（いわゆる選択的夫婦別姓制度）の導入
9. 結婚した方が有利となるような税制や社会保障制度の創設
10. その他（具体的に：
11. 特になし

※恋たま（SAITAMA 出会いサポートセンター）は、結婚を誠実に希望する独身男女に出会いの機会を提供する埼玉県公的結婚支援サービス。現在までに 400 組以上が成婚しています。

【全員にお聞きます。】

問 20 若い世代が結婚後も仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備や支援が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 性別に関係なく、育児休業・介護休業制度を取得しやすい職場環境
2. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を活用できる職場環境
3. 女性が働くことや男性が家事・育児等に参加することについて、上司や同僚に理解と協力がある職場環境
4. 保育園や学童保育など、こどもの預け先の整備
5. 家事・育児支援サービスや福祉サービスの提供
6. キャリアアップやスキルアップに向けた支援
7. 子育てと両立しやすい仕事の紹介や一人ひとりに寄り添った就労支援
8. 女性が働くことや男性が家事・育児等に参加することについて、家族・身近な人の理解と協力
9. 性別に関係なく、仕事に取り組み、家事・育児を行うことに責任をもつ個人の意識改革
10. 「育児や介護などのケア労働は女性がやるべき」という社会の意識改革
11. わからない
12. その他（具体的に： _____）
13. 特にない・必要ない



【全員にお聞きます。】

問 21 あなたは、こどもや若者に対してどのような支援があるとよいと思いますか。(あてはまるもの **3つ** までに○)

1. 子どもを見守る地域のつながりや支え合い
2. 低い家賃で住める住宅（寮や下宿のようなところ）
3. 生活や就学のための経済的援助
4. 進路や生活についてなんでも相談できるところ
5. 心の悩みや気持ちについて話を聞いてくれるところ
6. 仲間と出会う、一緒に活動できるところ
7. 自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供
8. 地域における居場所の提供
9. 読み書き計算などの基礎的な学習への支援
10. 企業などでの職場体験等の機会
11. 仕事に就けるようにするための就労に関する支援
12. 本格的な就労をする前の中間的な就労場所の設置
13. 困ったときに寄り添って支援してくれるサポート体制
14. わからない
15. その他（具体的に：
16. 特にない

問 22 その他、日ごろ感じていることや悩みごと、子どもや若者に対する越谷市への要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

[illegible]

以上でアンケートはおわりです。

お忙しいなかご協力ありがとうございました。



第1期越谷市こども計画策定に係る基礎調査 結果報告書

令和6年7月

発行・編集：越谷市 子ども家庭部 子ども施策推進課

〒343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号

電 話 048-963-9165（直通）

F A X 048-963-3987

U R L <https://www.city.koshigaya.saitama.jp>